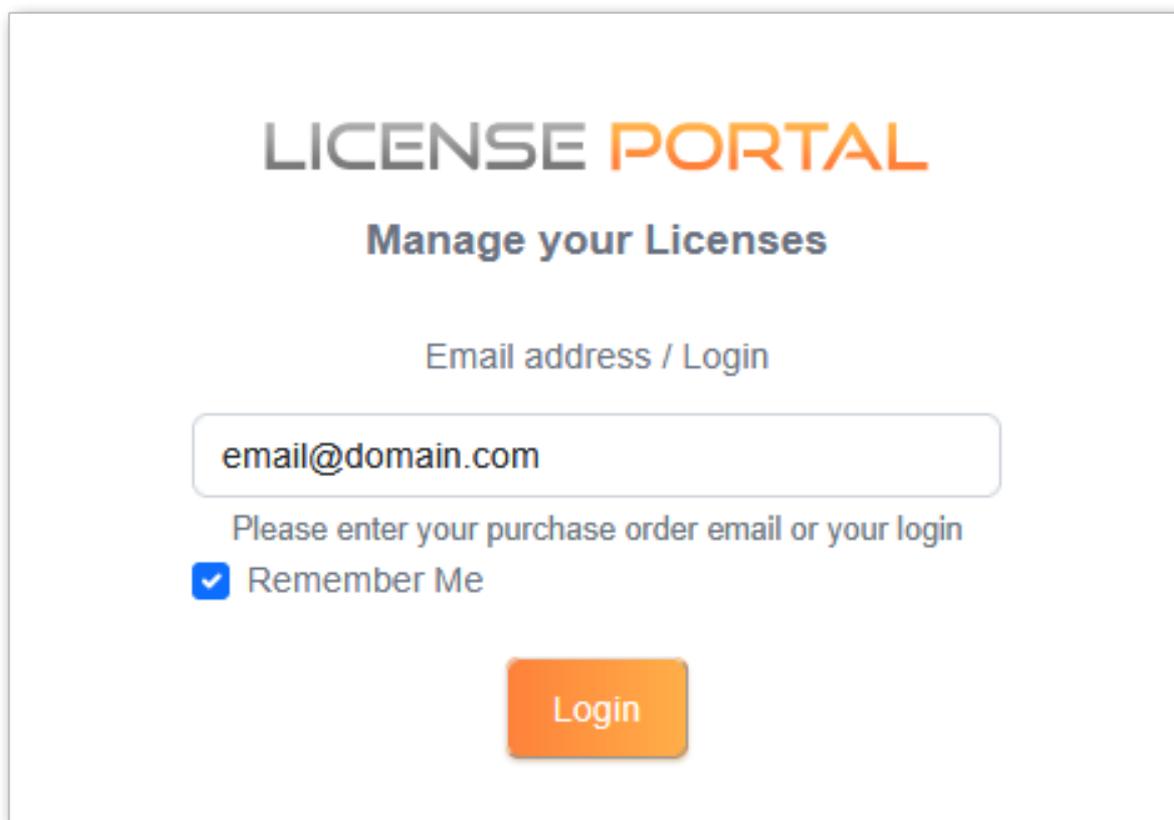


# TSplusの永久ライセンスをアクティブ化する (オフライン)

## アクティベーションキーを取得する

ライセンスを注文すると、私たちの接続します [ライセンスポータル](#) メールアドレスと注文番号を入力してください。



LICENSE PORTAL

Manage your Licenses

Email address / Login

email@domain.com

Please enter your purchase order email or your login

Remember Me

Login

[カスタマーポータルユーザーガイドをダウンロード](#) 使用方法の詳細については。

ダッシュボードの上部にあなたのアクティベーションキーが表示されます:

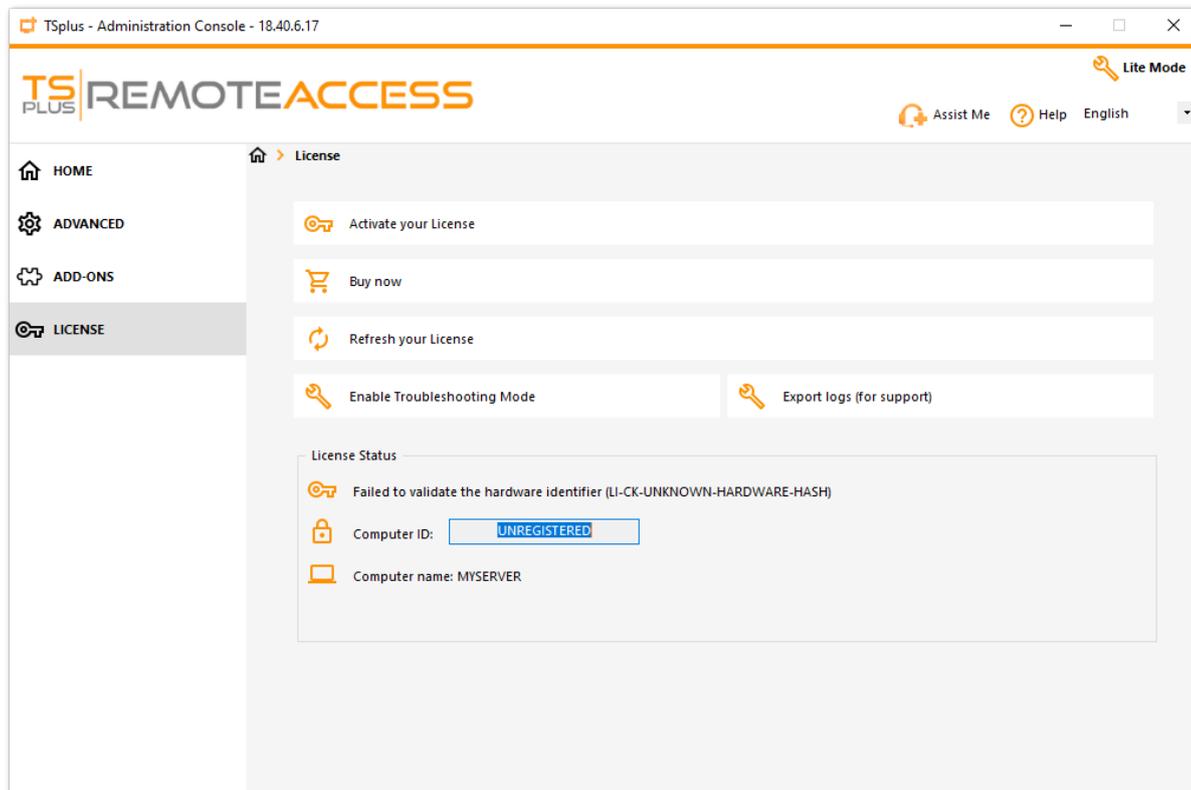
## デスクトップ上の管理者ツールを見つけてください



管理者ツールのショートカットが見つからない場合、それはTSplusをダウンロードするために使用された管理者アカウントのデスクトップフォルダーにあります。また、次のパスにあるTSplusフォルダーも見つけることができます: 'C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files'。

ダブルクリックしてから、ライセンスタブをクリックします。

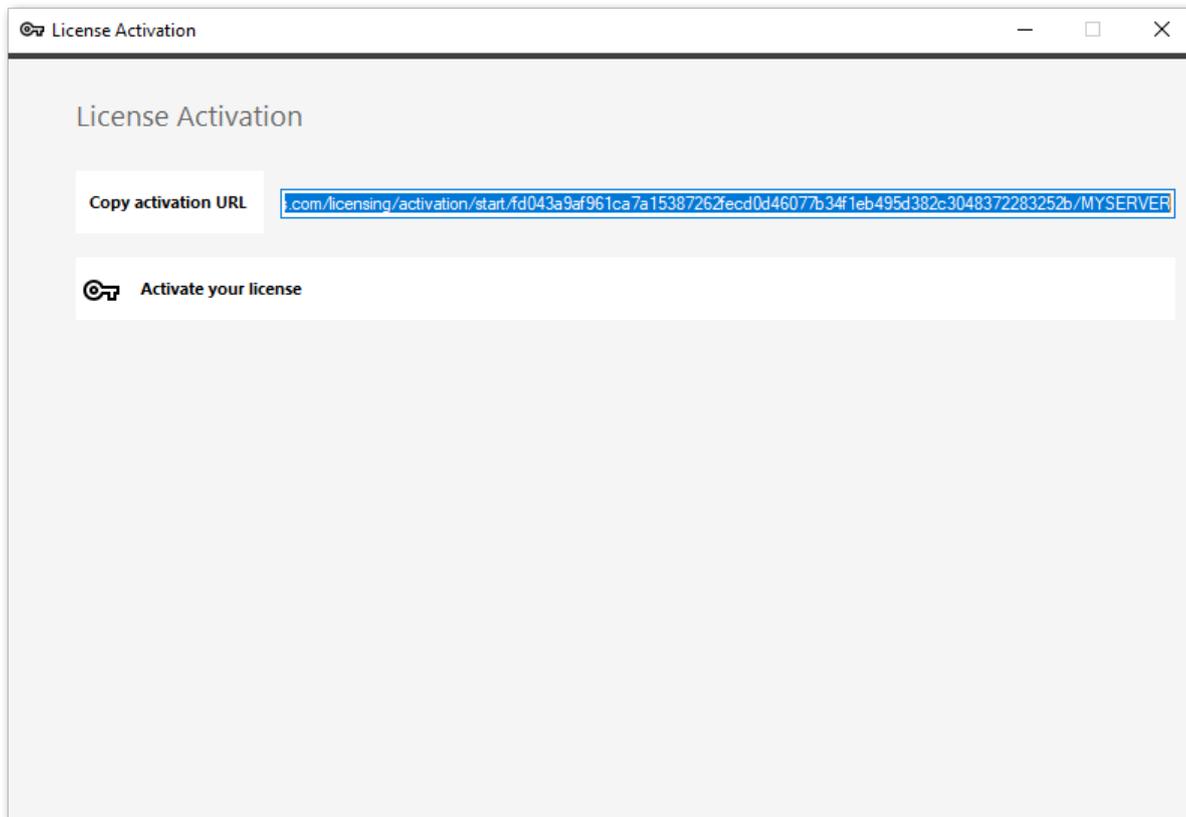
ここで、あなたのTSplusライセンスのステータス、コンピュータID、およびコンピュータ名「未登録」を確認できます。



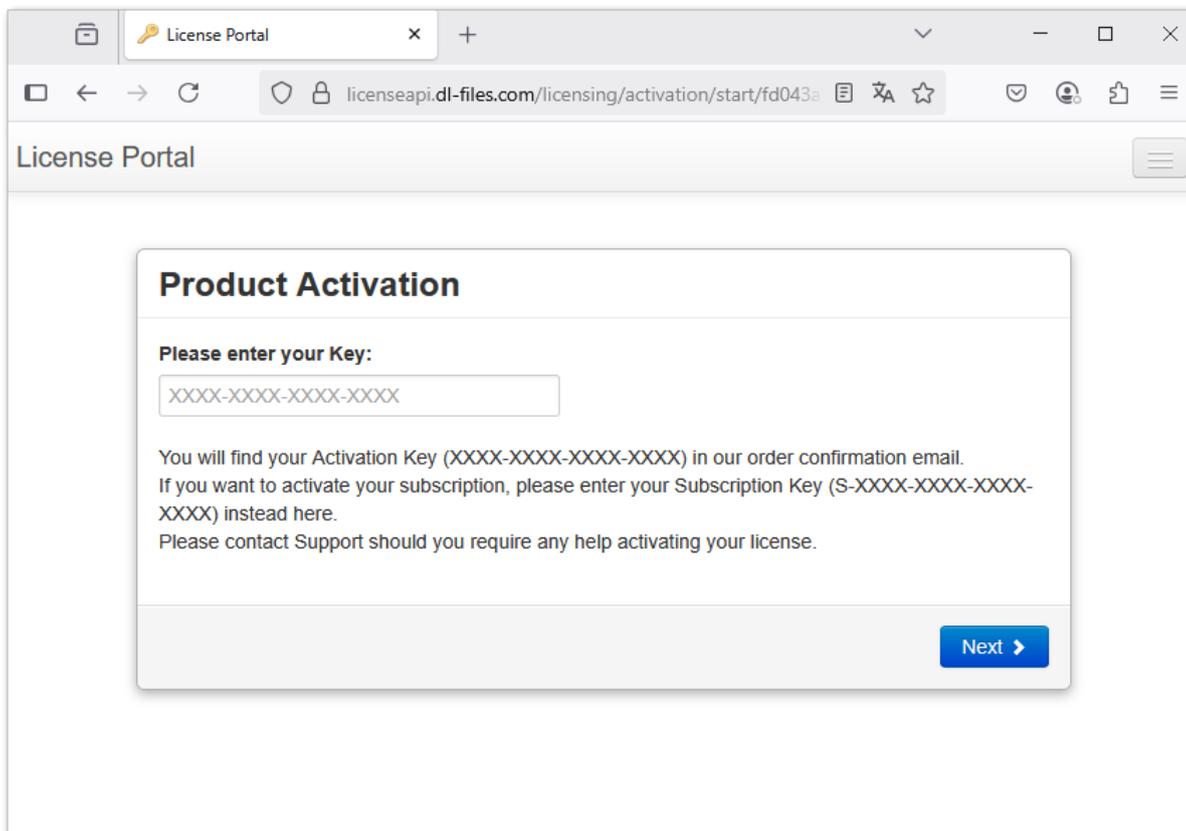
## オフラインのTSplusサーバーでライセンスをアクティブ化してください

「ライセンスを有効化する」ボタンをクリックしてください。ポップアップが表示され、かなり長いURLアドレスが表示されます。

このURLをインターネットに接続されたコンピュータのブラウザにコピーして、ライセンスファイルを取得するためにアクセスしてください。

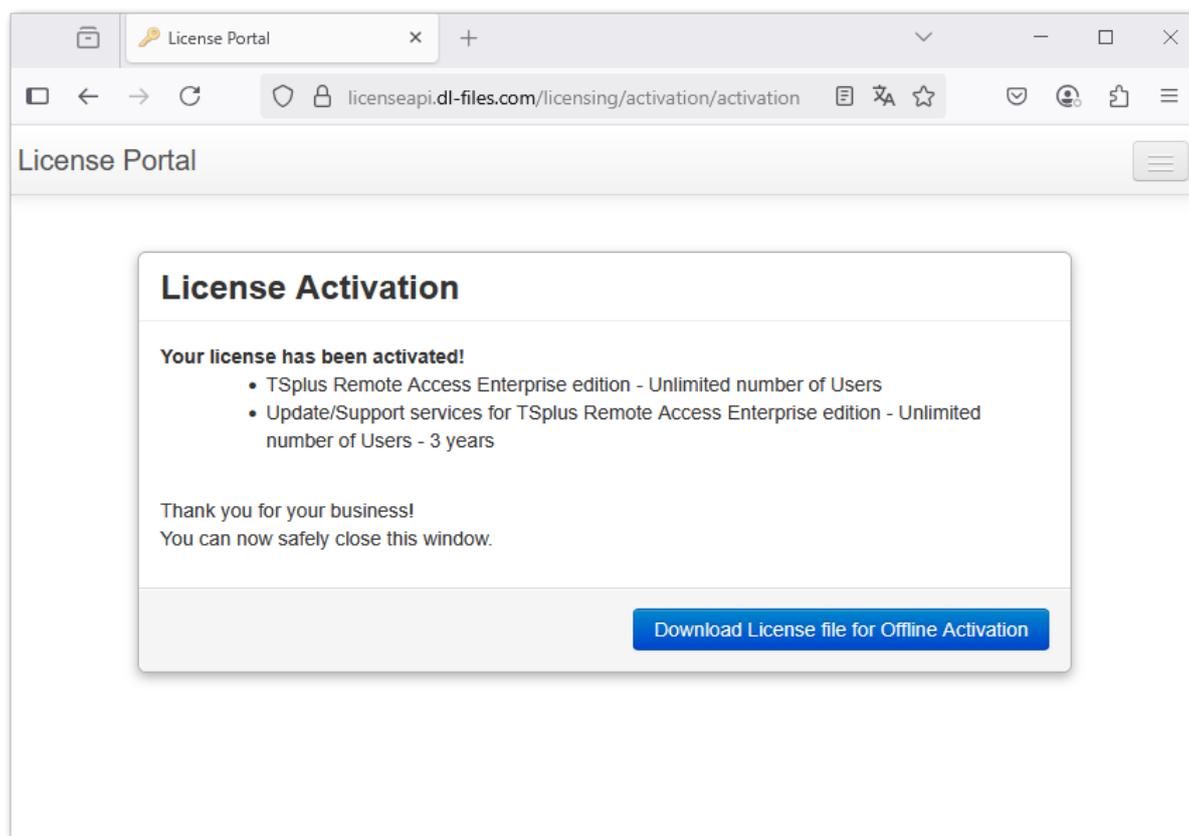


アクティベーションキーを入力してください:

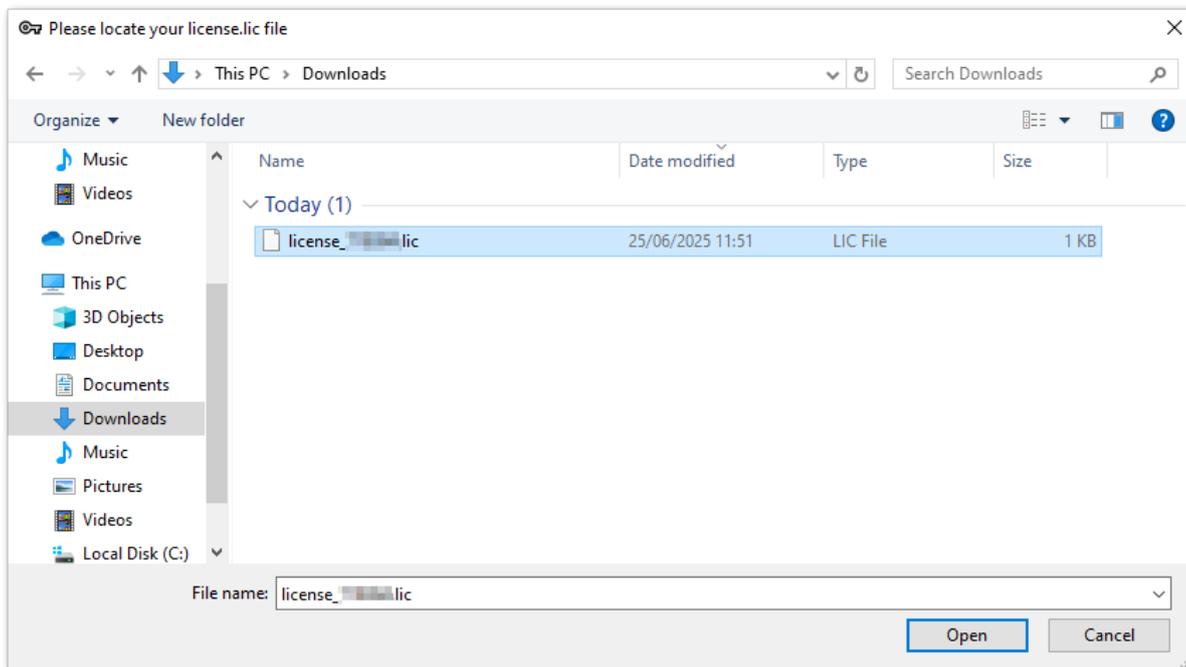
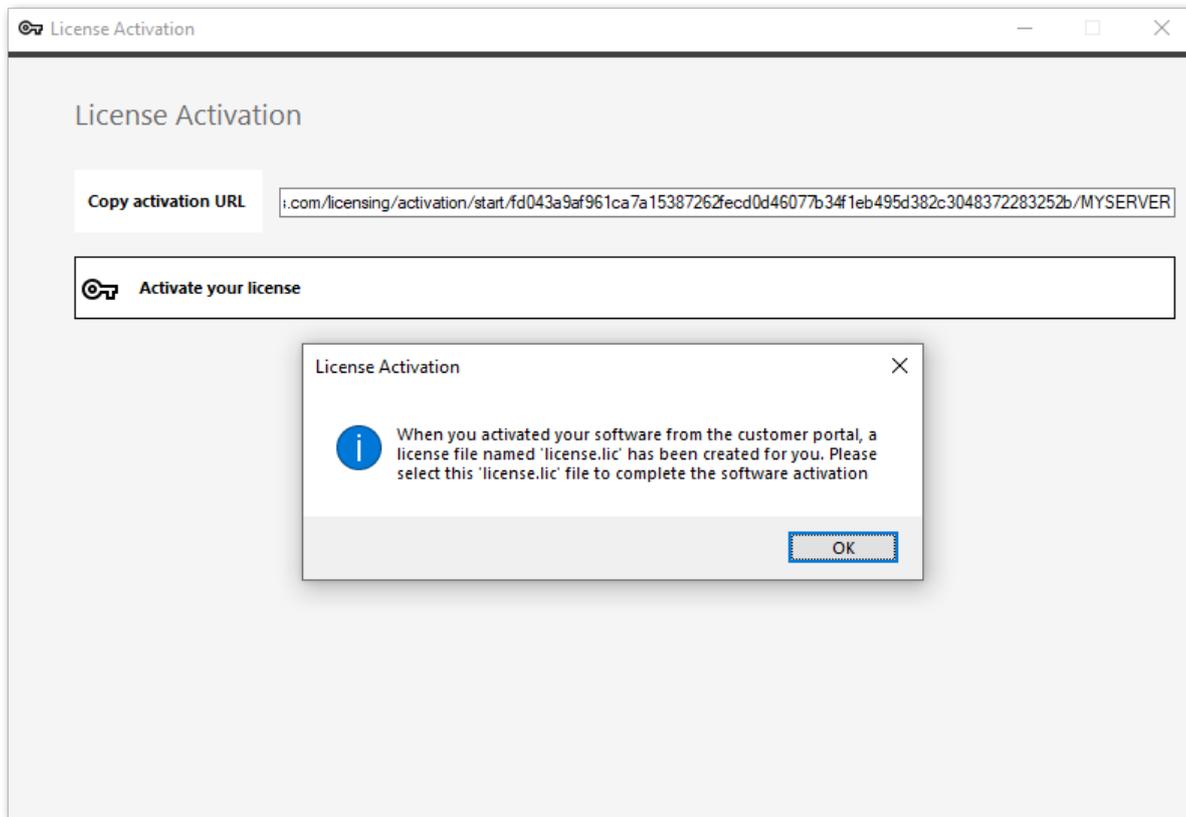


ライセンスが検証されます。対応するボタンをクリックしてライセンスファイルをダウンロード

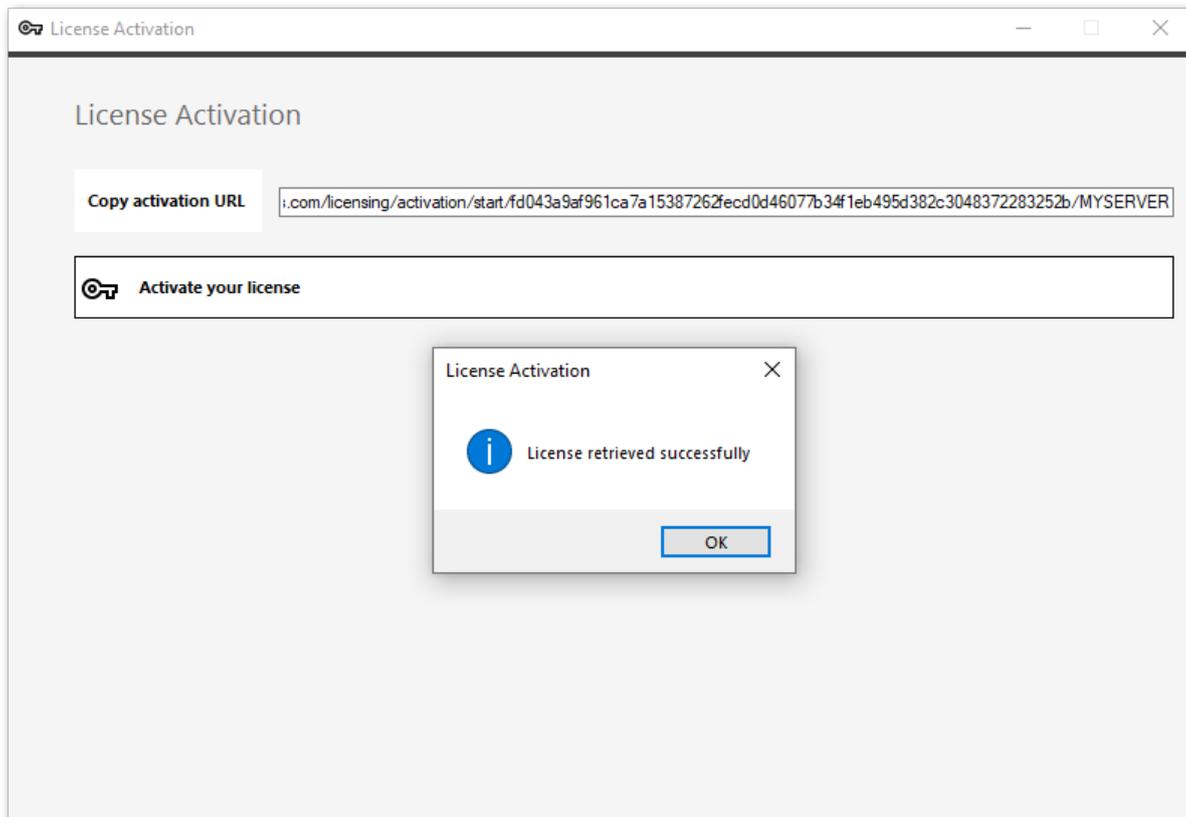
ドしてください。



このライセンスファイルは、オフラインアクティベーションプロセスを完了するためにサーバーに戻す必要があります。



ライセンスが正常に取得されたことを確認するメッセージが表示されます。



対応するライセンス/サポートを選択して、すべての製品/サポートが現在アクティブになったことを確認するメッセージが表示されます。

注意 TSplusのレガシーバージョン用のライセンスポータルからlicense.licファイルをまだダウンロードできます。 [カスタマーポータルユーザーガイドをダウンロード](#)。

# TSplusライセンスのアクティベーション (オンライン) 永久またはサブスクリプション。

デスクトップ上の管理者ツールを見つけてください。

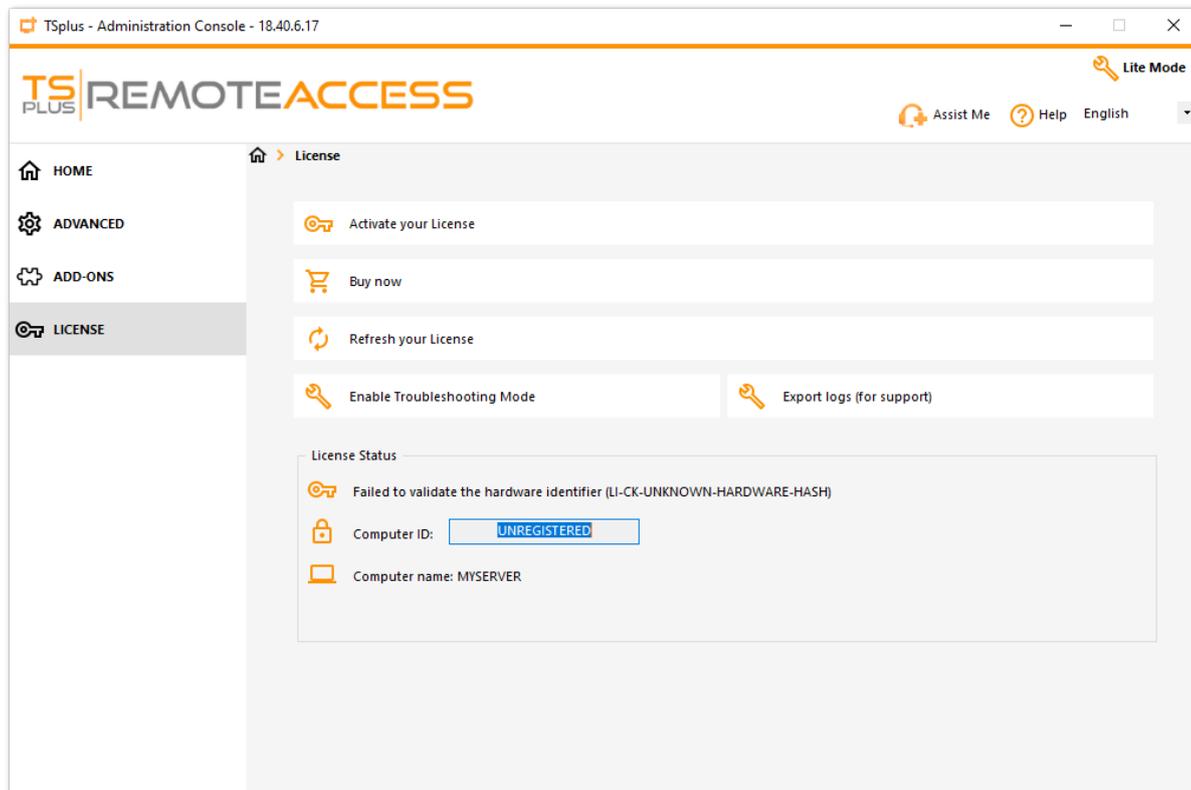


- 管理者ツールのショートカットが見つからない場合、それはTSplusをダウンロードするために使用された管理者アカウントのデスクトップフォルダーにあります。また、次のパスにあるTSplusフォルダーも見つけることができます: 'C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files'。

ダブルクリックしてから、ライセンスタブをクリックします。

ここであなたのTSplusライセンスのステータス、コンピュータID、コンピュータ名を確認できます。

「UNREGISTERED」と表示される場合は、サーバーがインターネットに接続されていないことを意味し、続行する前にサーバーのウェブアクセスを確認する必要があります。



## オンラインTSplusサーバーでライセンスをアクティブ化してください

ライセンスを注文すると、私たちの接続します [ライセンスポータル](#) メールアドレスと注文番号を入力してください。

# LICENSE PORTAL

## Manage your Licenses

Email address / Login

email@domain.com

Please enter your purchase order email or your login

Remember Me

Login

[カスタマーポータルユーザーガイドをダウンロード](#) 使用方法の詳細については。

ダッシュボードの上部にあなたのアクティベーションキーが表示されます：

The screenshot shows the Customer Portal dashboard. At the top, it says "Hello, CUSTOMER PORTAL" and displays an activation key: "Your activation key is : TSPL-XXXXXXXX-XXXX-XXXX". Below this is a search bar for licenses. A red banner indicates an action required: "Action Required: Missing Update and Support Services!". The main content is a table of licenses with columns for Product, Date, Order Number, Computer, Support, and Comment. Each row shows a license for "TSplus Remote Access Enterprise 5 users" with a date of "2025-04-30" and order number "JWT6969". The "Computer" column shows "x Not Activated" and an "Activate your license" button. The "Support" column shows a checkmark and an "Edit" button. At the bottom of the table are "Previous" and "Next" navigation buttons.

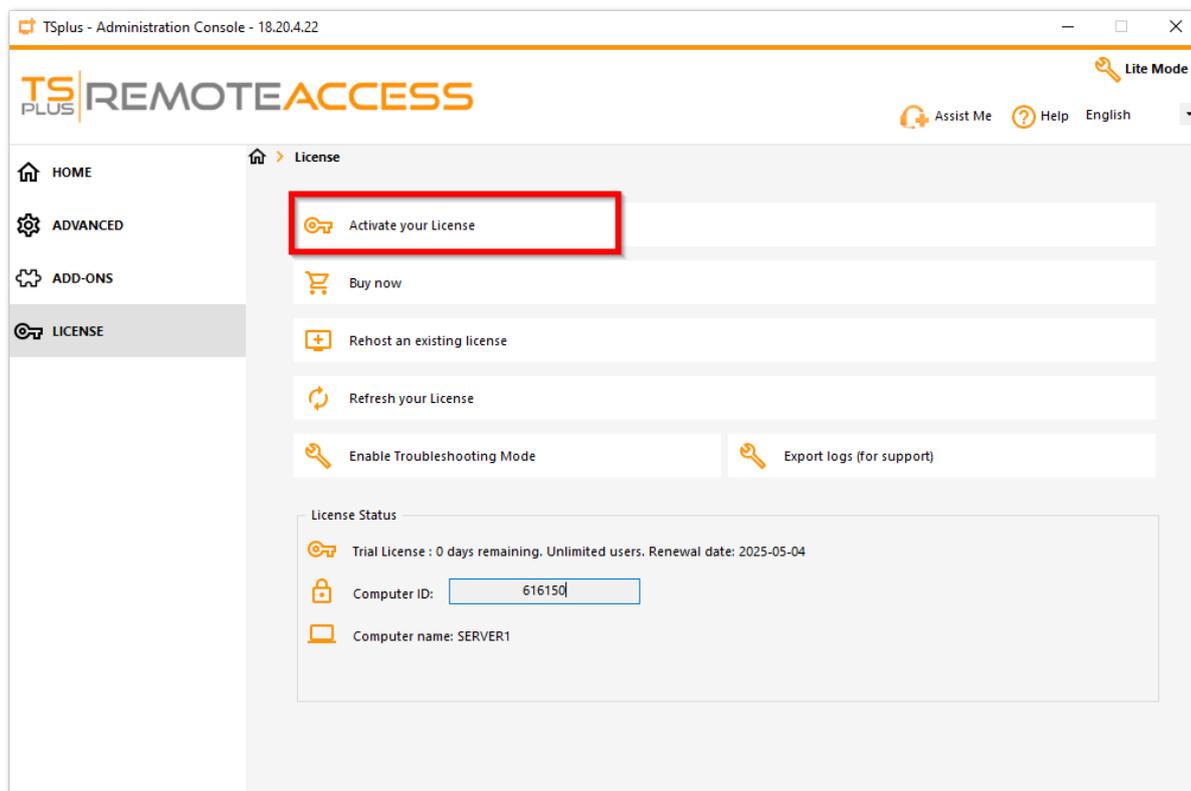
Product	Date	Order Number	Computer	Support	Comment
TSplus Remote Access Enterprise 5 users	2025-04-30	JWT6969	x Not Activated Activate your license	✓	Edit
TSplus Remote Access Enterprise 5 users	2025-04-30	JWT6969	x Not Activated Activate your license	✓	Edit
TSplus Remote Access Enterprise 5 users	2025-04-30	JWT6969	x Not Activated Activate your license	✓	Edit
TSplus Remote Access Enterprise 5 users	2025-04-30	JWT6969	x Not Activated Activate your license	✓	Edit
TSplus Remote Access Enterprise 5 users	2025-04-30	JWT6969	x Not Activated Activate your license	✓	Edit
TSplus Remote Access Enterprise 5 users	2025-04-30	JWT6969	x Not Activated Activate your license	✓	Edit

管理ツールのライセンススタイルに移動し、「ライセンスをアクティブ化」ボタンをクリックし、このアクティベーションキーを入力して「次へ」をクリックします。

あなたの永久アクティベーションキーが見つかります。 (XXXX-XXXX-XXXX-XXXX) ご注文確

認メールにて。

サブスクリプションを有効にしたい場合は、サブスクリプションキーを入力してください。(S-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX)。



## Product Activation

Please enter your Key:

You will find your Activation Key (XXXX-XXXX-XXXX-XXXX) in our order confirmation email.  
If you want to activate your subscription, please enter your Subscription Key (S-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX) instead here.  
Please contact Support should you require any help activating your license.

Next >

このアクティベーションキーに割り当てられたすべての利用可能なライセンス/サポートのリストが表示されます。つまり、まだアクティブ化されていないすべてのライセンス/サポートです。

## License Activation

Please select the license(s) you want to activate on this computer:

**TSplus**

- TSplus Enterprise edition - 5 users
  - No Updates/Support
  - Update/Support services for TSplus Enterprise edition - 5 users - 3 years

**TSplus Advanced Security**

- TSplus Advanced Security Ultimate edition

The licenses listed above are all the licenses currently available for activation on this computer. If you have purchased multiple units, only one will be displayed in this list for this computer, and you will be able to activate the other units on other computers.

[← Back](#) [Next →](#)

1つ以上の項目を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。複数の製品/サポートを同時にアクティブにすることができることに注意してください。

## License Activation

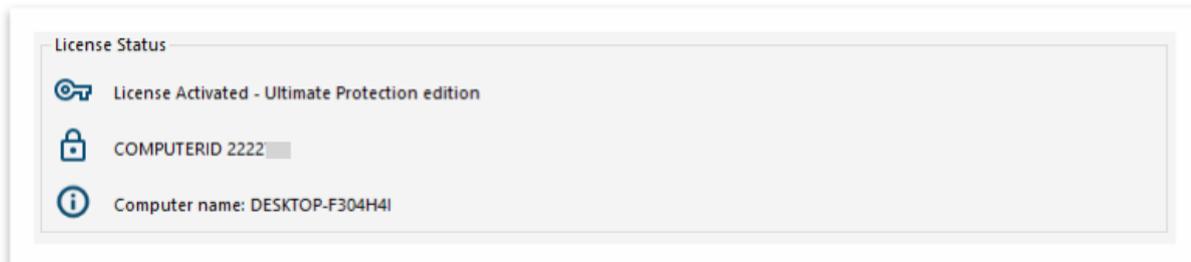
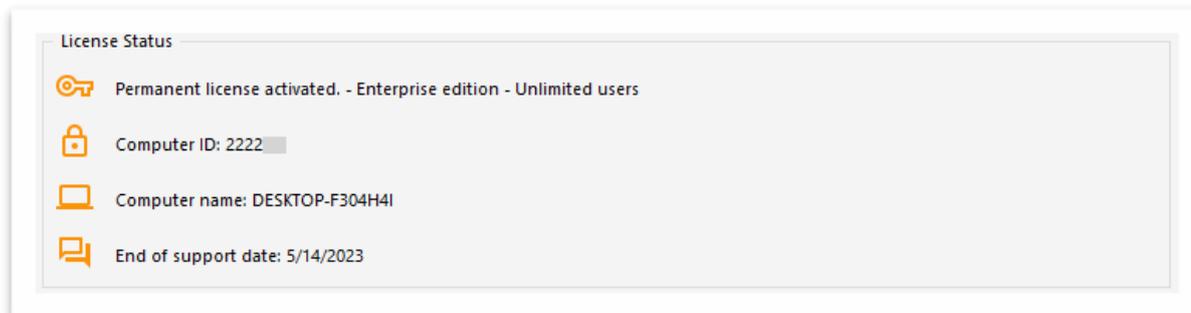
**Your license has been activated!**

- TSplus Enterprise edition - 5 users
- Update/Support services for TSplus Enterprise edition - 5 users - 3 years
- TSplus Advanced Security Ultimate edition

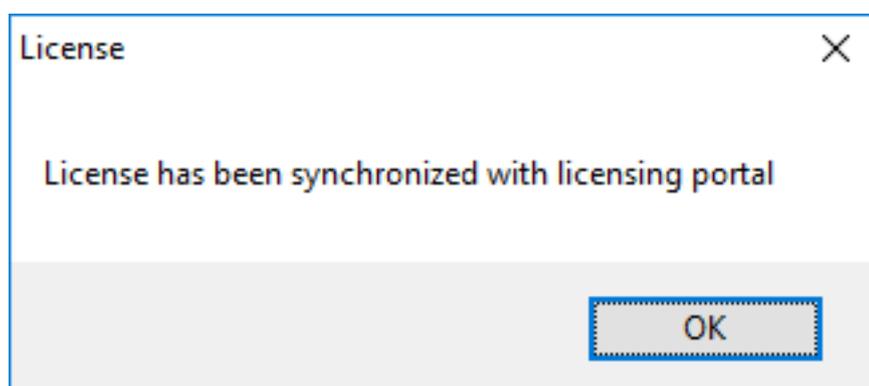
Thank you for your business!  
You can now safely close this window.

[Finish](#)

すべての製品/サポートが現在アクティブになりました（この例では、TSplusとサポート、TSplus Advanced Securityの両方が同時にアクティブになっています）。



ページの下部にある対応するボタンをクリックしてライセンスデータを更新してください。これにより、ライセンスポータルと情報が同期されます。



注意 TSplusのレガシーバージョン用のライセンスポータルからlicense.licファイルをまだダウンロードできます。 [カスタマーポータルユーザーガイドをダウンロード](#)。

## アクティベーションの問題:

ページエラーまたは「次へ」ボタンが機能していません。いくつかの解決策を以下に示します。

ライセンスのアクティベーション中にアンチウイルスを無効にし、ファイアウォールとアンチウイルスの設定を確認してください。

このリンクをクリックして、ブラウザでOKメッセージを確認してください。

<https://licenseapi.dl-files.com/licensing/ping>

アンチウイルスプログラムに問題がある場合、手順は次のディレクトリを除外することです：  
C:\Program Files (x86)\TSplus と C:\wsession

あなたのアンチウイルスとファイアウォールで更新のために許可するURL： setup.dl-files.com  
dl-files.com secure-download-file.com

ライセンス / テレメトリ: 93.88.241.55 更新: 51.254.22.117 TSplus 互換性更新 / 更新の確認 /  
チェンジログの表示: 83.166.153.206

許可するポート： ( WANからのRDP用ポート3389、HTTP用ポート80、HTTPS用ポート443 )

インターネットセキュリティ設定を確認してください

コントロール パネル > インターネット オプション > カスタム レベル スクリプト > アクティブ  
スクリプト > 有効

## 致命的な警告コード 40 70

各同期または更新試行中にイベントビューアで致命的なアラートコード40/70 TLSに遭遇した場合。

一部のTLS暗号スイートが無効になっている可能性があります。フリーウェアのようなものを使用できます。 **IIS Crypto 4.0** それらを確認して有効にする。

# サポートライセンスの有効化

TSplusの15バージョンでは、年間サポート契約を管理するための新しく簡単な方法が導入されました。

サポートサブスクリプションは永続ライセンスのみ利用可能です。サブスクリプションライセンスには更新が含まれます。

サポートサービスには、当社の世界的なチケット/メールサポートサービス、フォーラムアクセス、ライセンスの再ホスティング、FAQおよびチュートリアルサポートが含まれます。

更新サービスには、更新コードの配信、新しいリリース、パッチ、および更新をインストールして使用する権利が含まれます。

私たちは毎日TSplusを強化し、すべての既知の問題を修正するために投資しています。したがって、すべてのお客様にTSplusのインストールを最新の状態に保つことをお勧めします。年会費は高くなく、私たちのストアページで入手できます。

## ステップ1

デスクトップ上の管理ツールを見つけてください：



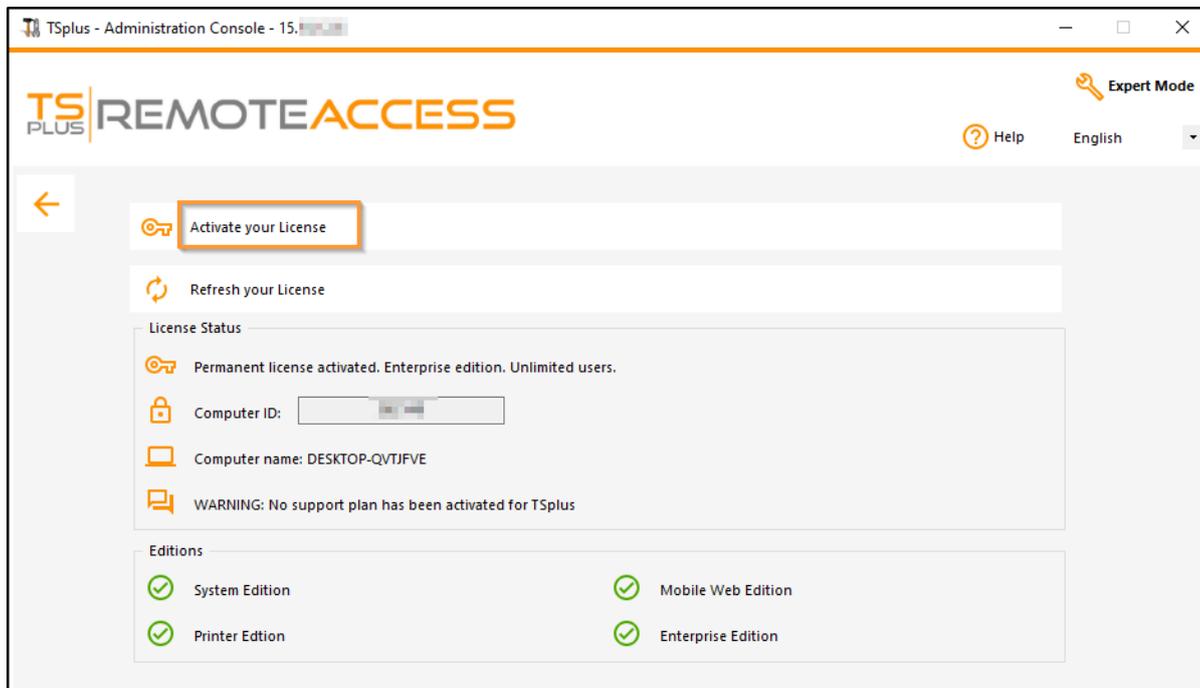
ダブルクリックしてから、ライセンススタイルをクリックしてください。

- 管理者ツールのショートカットが見つからない場合、それはTSplusをダウンロードするために使用された管理者アカウントのデスクトップフォルダーにあります。また、次のパスにあるTSplusフォルダーも見つけることができます：'C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files'。

ライセンスタブをクリックすると、シリアル番号が表示されます。

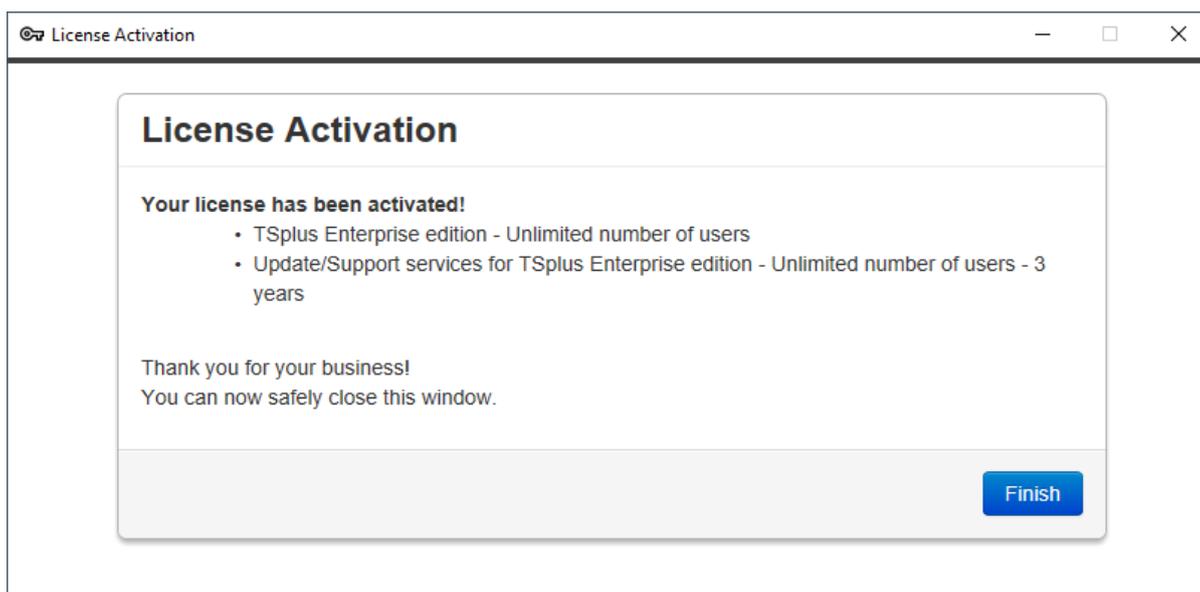
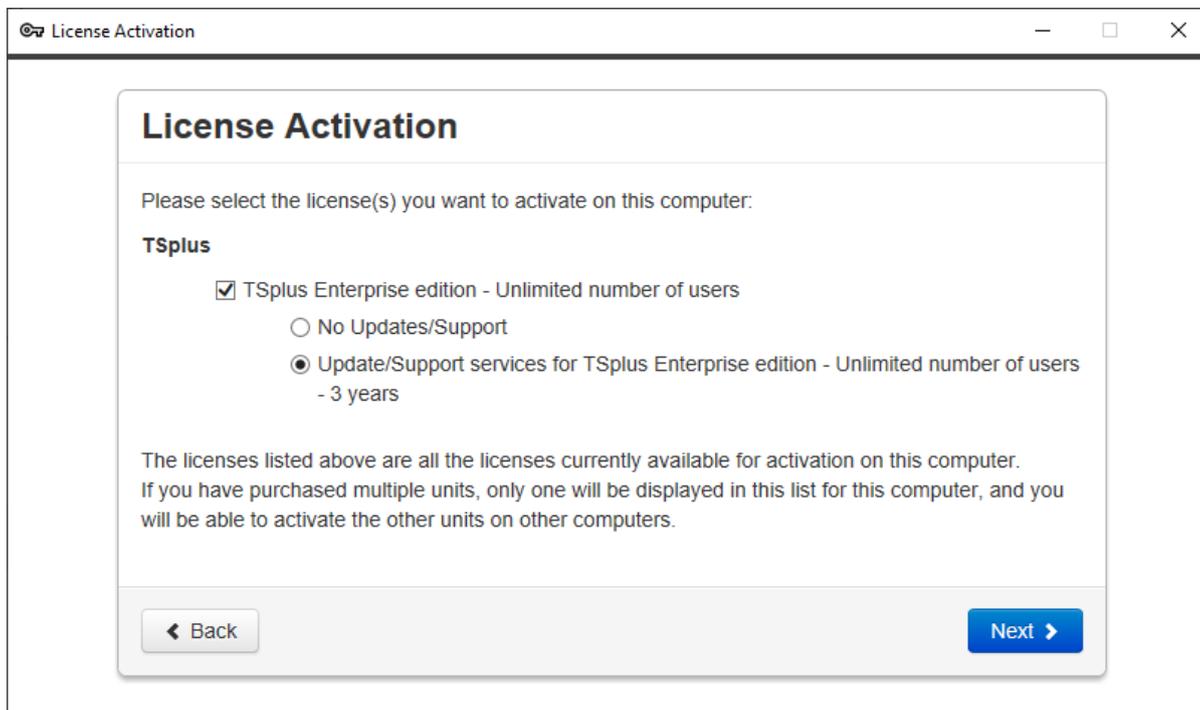
## ステップ2

「ライセンスを有効化する」タイルをクリックし、アクティベーションキーを入力してください。



## ステップ3

次に「サポート期間を延長」を選択します:



## 更新/サポートのサブスクリプションを延長する

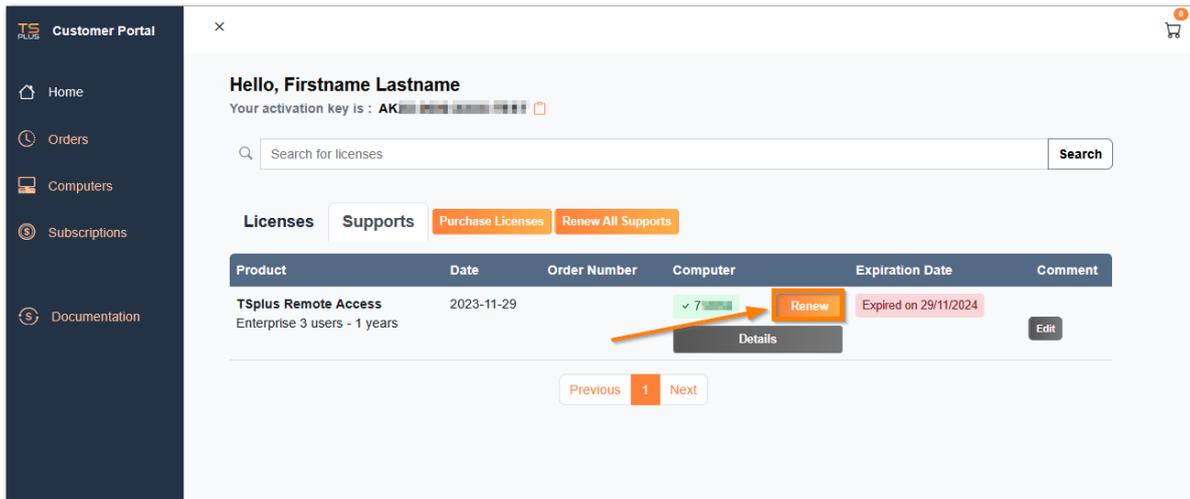
ライセンスポータルにアクセスしてください: <https://license.tsplus.net/login>

購入用メールアドレス

パスワード: "お好きな購入注文番号"

次に、サポートタブに移動し、コンピュータID ( AdminToolのライセンスタブから表示されます ) を入力してください。

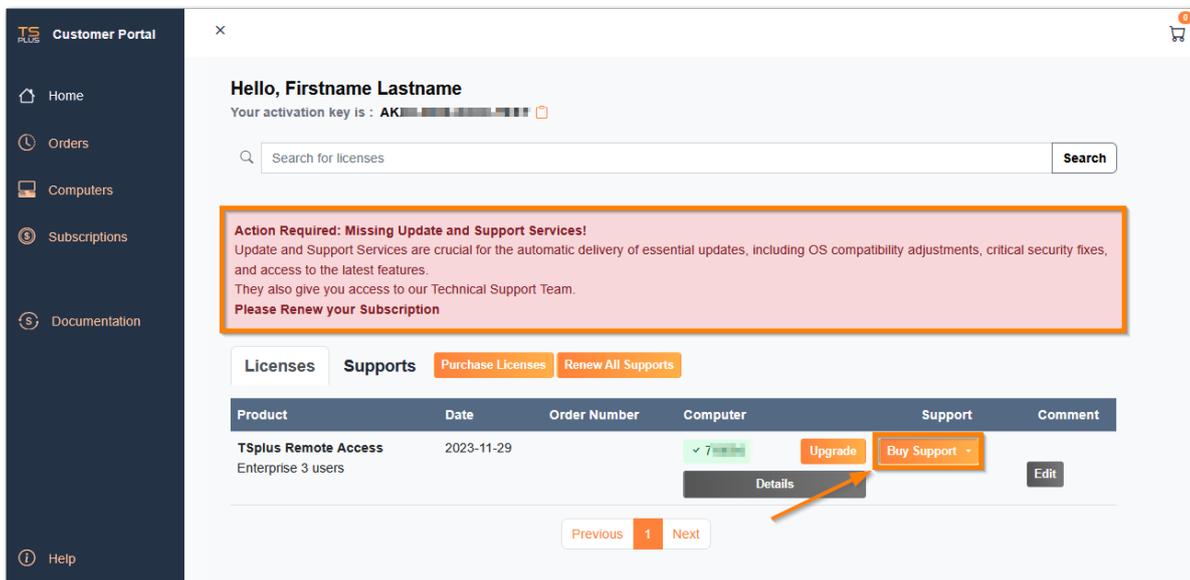
次に「更新」ボタンをクリックして、1年、2年、または3年のサポート期間を選択してください。



ライセンスのサポートサブスクリプションがない場合、ライセンスタブにメッセージが表示されます。

**アクションが必要です: 更新とサポートサービスが不足しています!**

サポートサブスクリプションは、「サポートを購入」ボタンをクリックすることで直接購入できます。



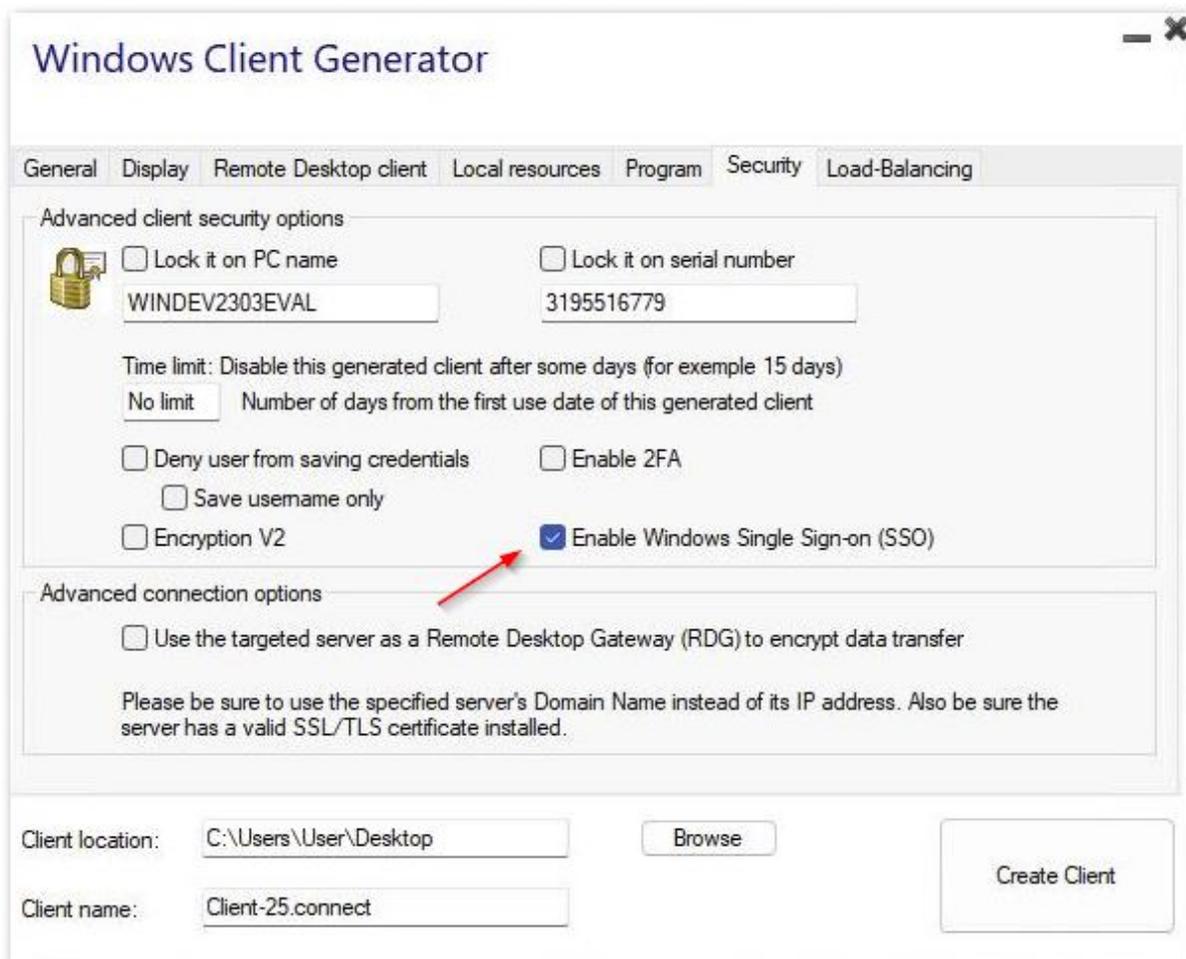
# アクティブディレクトリ シングルサインオン

## 生成されたクライアントのためにWindows SSO認証を有効にするには:

ドメインに参加しているサーバーで最新バージョンのTSplus Remote Accessにアップデートしてください。

クライアントジェネレーターからクライアントを生成し、「セキュリティ」タブで「シングルサインオン (SSO) を有効にする」ボックスをチェックします。

ドメインに参加しているマシンから生成されたクライアントを使用して接続します。



The screenshot shows the 'Windows Client Generator' application window with the 'Security' tab selected. Under 'Advanced client security options', the checkbox for 'Enable Windows Single Sign-on (SSO)' is checked and highlighted with a red arrow. Other options include 'Lock it on PC name', 'Lock it on serial number', 'Time limit', 'Deny user from saving credentials', 'Save username only', 'Encryption V2', and 'Enable 2FA'. Under 'Advanced connection options', the checkbox for 'Use the targeted server as a Remote Desktop Gateway (RDG) to encrypt data transfer' is unchecked. At the bottom, the 'Client location' is set to 'C:\Users\User\Desktop' and the 'Client name' is 'Client-25.connect'. A 'Create Client' button is visible on the right.

# Windowsのグループポリシーをリモートデスクトップクライアント経由でシングルサインオン (SSO) に設定する

ドメインコントローラーから:

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. 組織単位 (OU) を右クリックし、グループポリシーオブジェクト (GPO) を適用する場所を選択して、「このドメインにGPOを作成し、ここにリンクします...」を選択します。
3. GPOに名前を付けて (例: SSO\_RDS\_MY\_SERVER)、 「OK」 をクリックします。
4. 作成したポリシーを右クリックし、「編集」を選択します。
5. 次の場所に移動します: “コンピュータの構成 / ポリシー / 管理用テンプレート / システム / 資格情報の委任。”
6. 「デフォルトの資格情報を委任することを許可する」をダブルクリックして設定を開きます。
7. 設定を有効にして「表示...」をクリックします。
8. 値フィールドに、TERMSRV/server\_fully\_qualified\_domain\_name形式でサーバーを入力し、「OK」をクリックします。
9. 「適用」と「OK」をクリックしてウィンドウを閉じます。クライアントマシンから:
10. グループポリシーを更新するには、管理者として次のコマンドを実行します: `gpupdate /force`.

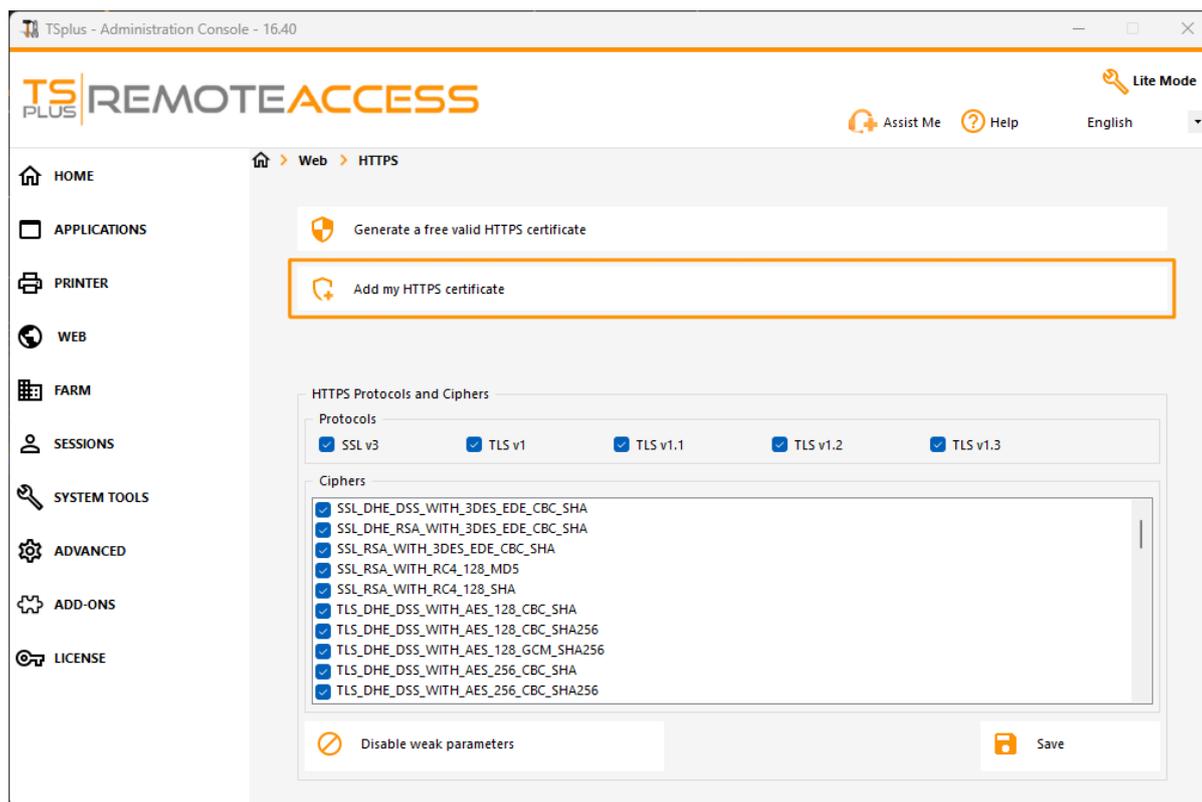


# HTTPSおよびSSLサードパーティ証明書

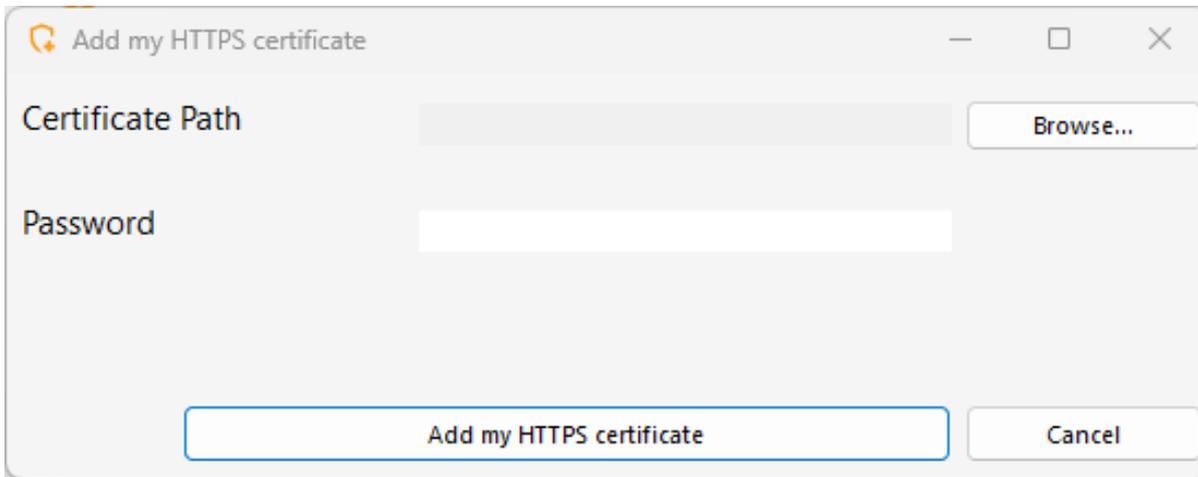
## 独自の証明書を追加する

有効なHTTPS証明書をすでにお持ちの場合は、それをウェブサーバーに追加できます。

TSPlus AdminToolを開き、「Web」タブをクリックし、「HTTPS」メニューに移動してから、「私のHTTPS証明書を追加」をクリックします。以下のスクリーンショットに示されています。



証明書を選択できるウィンドウが開きます:



あなたの証明書ファイルは「.pfx」形式を使用する必要があります。

パスワードで保護された証明書の場合は、対応するフィールドに入力できます。

「証明書を追加する」ボタンをクリックして、証明書を追加してください。

証明書を手動で更新する必要があることに注意してください。

## 追加リンク

信頼できるSSL証明書ベンダー:

- [GoDaddy](#)
- [DigiCert](#)

.pemファイルをpfx形式に変換するには、ツールやオンラインサイトを使用できます。たとえば、このサイトでは: <https://www.sslshopper.com/ssl-converter.html>

これを使用できます [SSLサーバーテストツール](#) HTTPSでのウェブポータルの良い品質を検証するために。

# TSplus管理ツールの概要

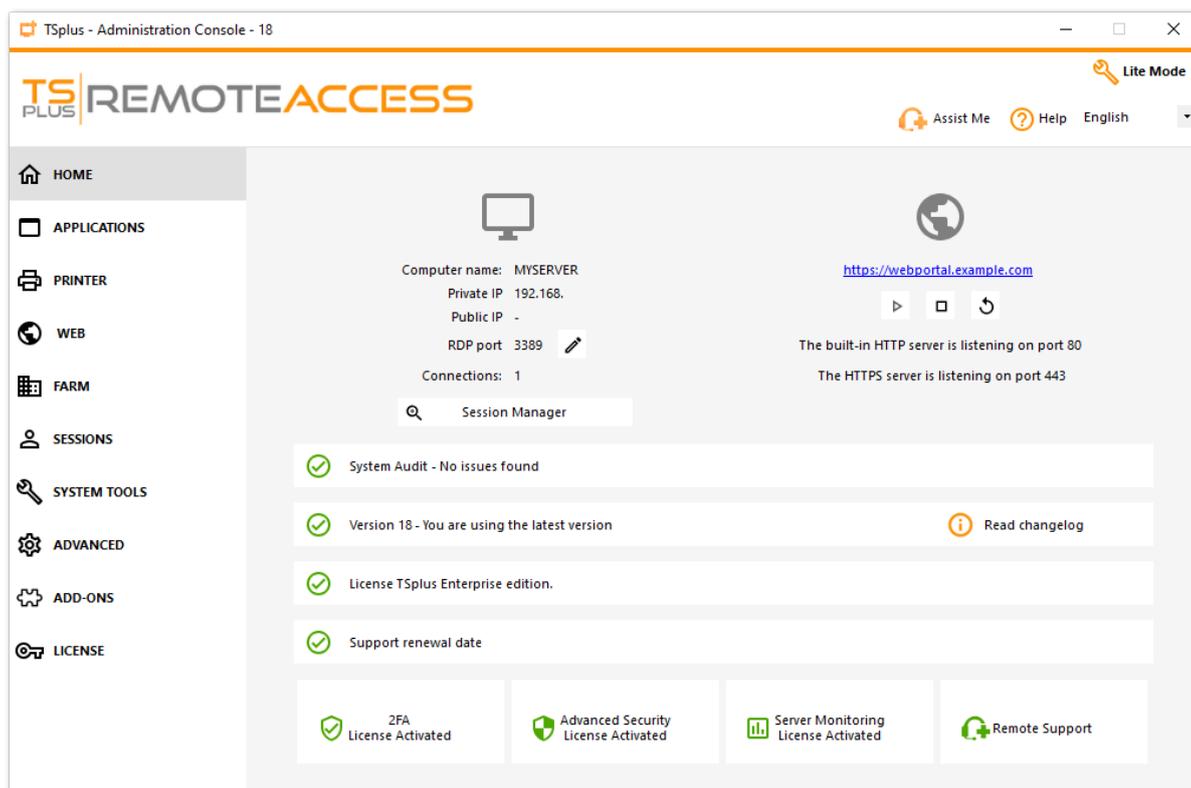
後 [TSplusのインストール](#) サーバーはすぐに使用可能です。

しかし、あなたはできます **すべてのシステムパラメータをカスタマイズする** 強力な管理者ツールを使用して。

デスクトップに作成された次のアイコンをクリックしてください:



管理者ツールが表示されます。

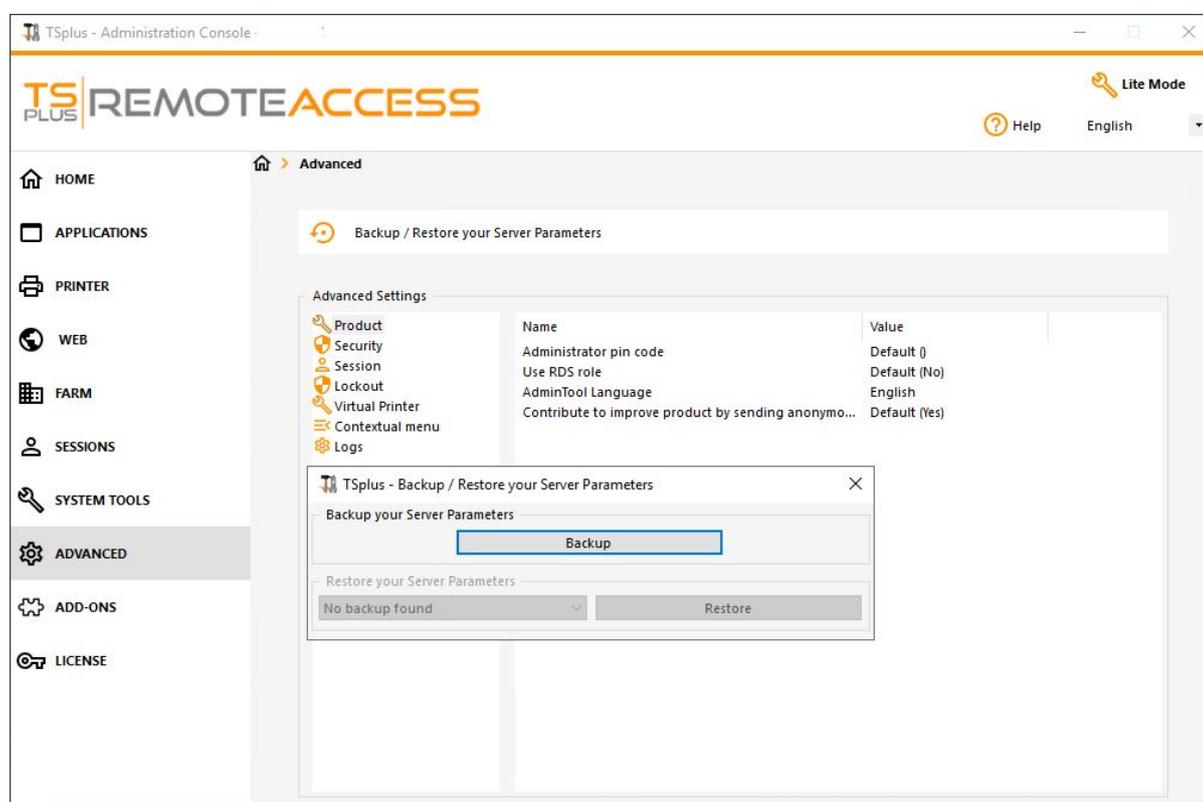


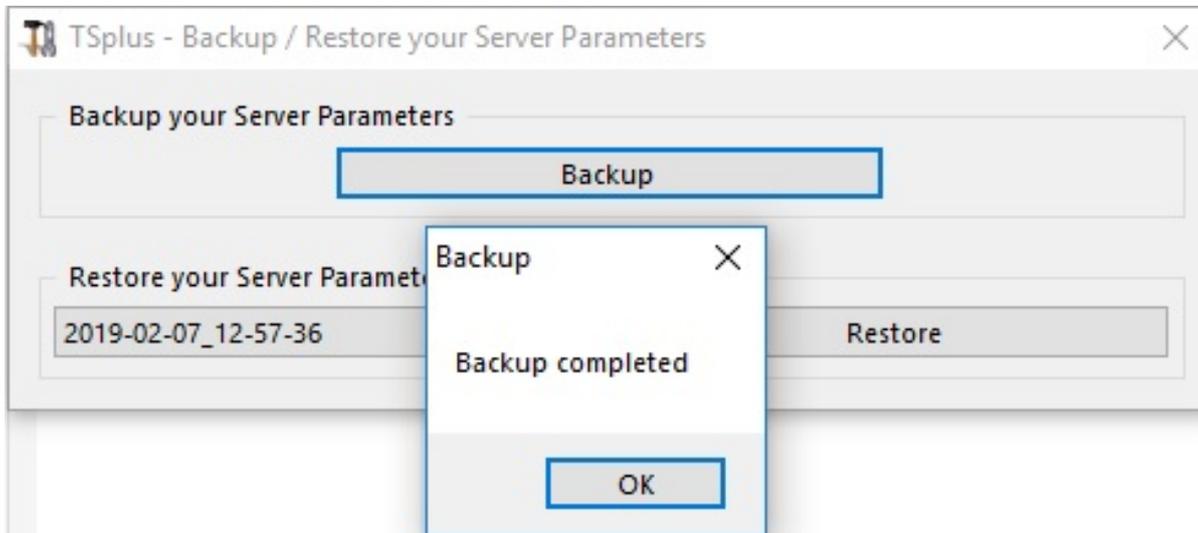
TSplus Admin Toolの機能について迅速にサポートを受けたいですか？ただ [タイル](#)または[タブ](#)をクリックしてください 一致するヘルプに移動する！

# バックアップと復元

バージョン14以降の 高度な タブ、TSplusの設定を構成できます。

TSplusのデータと設定をバックアップまたは復元するには、上部の「バックアップ/復元」ボタンをクリックしてください。





コマンドの使用法は以下に記載されています:

- **バックアップ :**

admintool.exe /backup [オプションのディレクトリへのパス]

デフォルトでは、バックアップはTSplusのセキュリティ設定フォルダーにあるアーカイブディレクトリに作成されます。ただし、バックアップは指定されたフォルダーに保存することもできます。相対パスと絶対パスが許可されています。

- **復元 :**

admintool.exe /restore [バックアップディレクトリへのパス]

指定されたバックアップディレクトリには、/backupコマンドによって作成されたデータフォルダーと設定フォルダーが含まれている必要があります。

コマンドラインを使用するのが好きで、他にどのようなコマンドラインが利用可能か気になる場合は、こちらにアクセスしてください。 [特定の文書](#) )

以下の手順に従って、コンピュータAからコンピュータBにTSplusを移行してください。

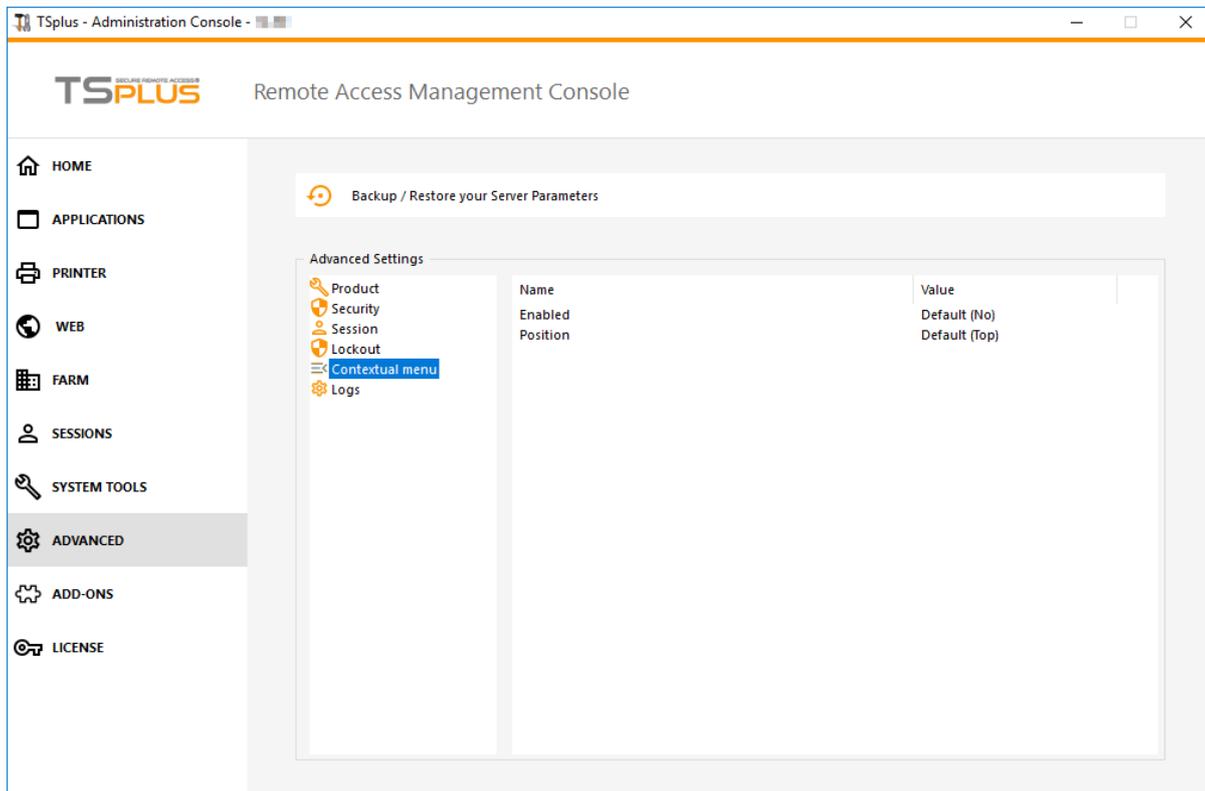
1. コンピュータAで、バックアップボタンをクリックして新しいバックアップを作成してください。設定とデータは、C:\Backupparamフォルダーにあるアーカイブディレクトリに保存されます。
2. 新しく作成されたバックアップフォルダー (例: backup-2021-01-29\_15-01-29という名前) を、コンピュータAのアーカイブディレクトリからコンピュータBのアーカイブディレクトリに、すべてのコンテンツを含めてコピーします。

3.  
コンピュータBのバックアップ/復元ウィンドウで、「復元」セクションから、復元する関連バックアップ名を選択します。
  4.  
次に、設定のみを復元するには「設定の復元のみ」をクリックします。代わりに、「復元」をクリックしてすべてのデータと設定を復元することも可能ですが、これは移行には推奨されず、コンピュータAでTSplusを復元するのに便利です。
  5.  
TSplusの機能によって設定が再読み込みされるまで、最大2分お待ちください。
-

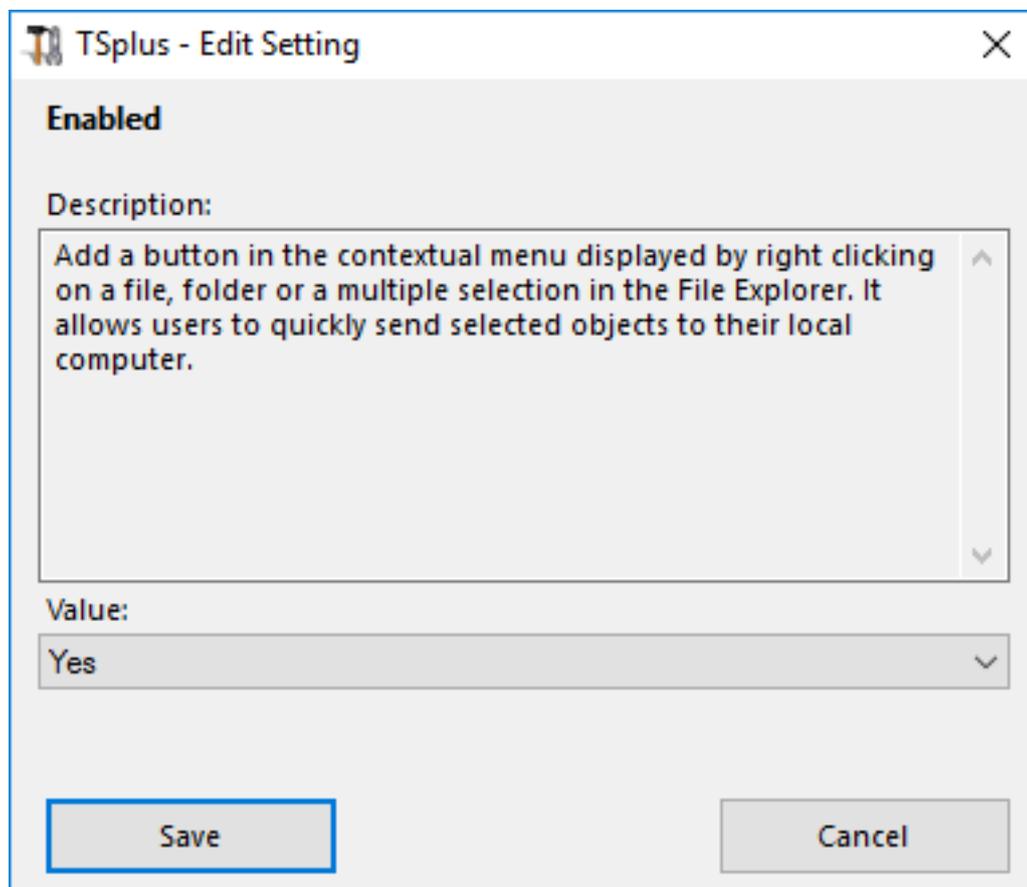
# 高度な機能 - コンテキストメニュー

## 概要

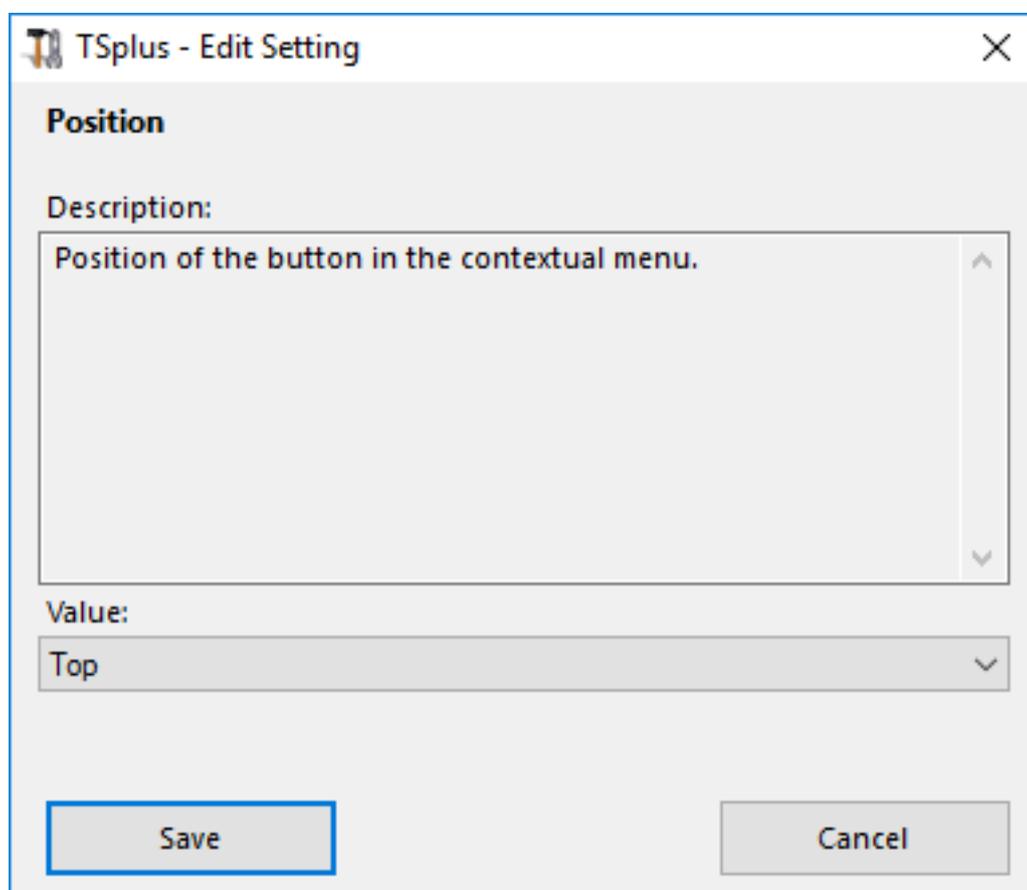
TSplus バージョン 12.50 以降、新しい「クライアントに送信」メニュー Advanced > コンテキストメニュータブで有効にすることができ、クライアントワークステーションにファイルを簡単に送信できます。この機能はすべての接続方法で動作します。



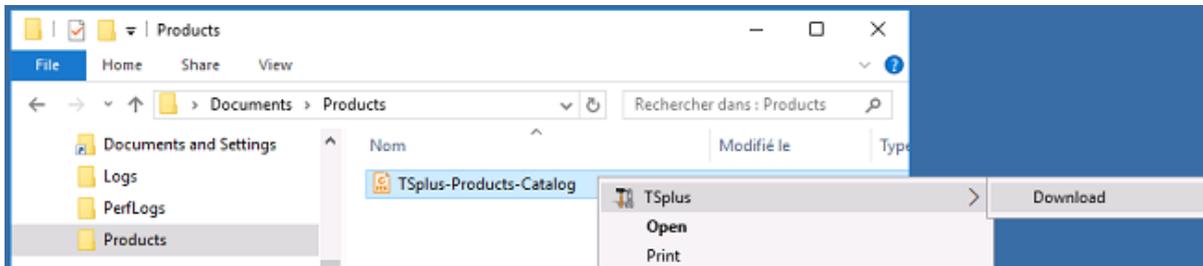
デフォルトでは、この機能は無効になっています。「はい」の値を選択し、「保存」をクリックして有効にしてください。



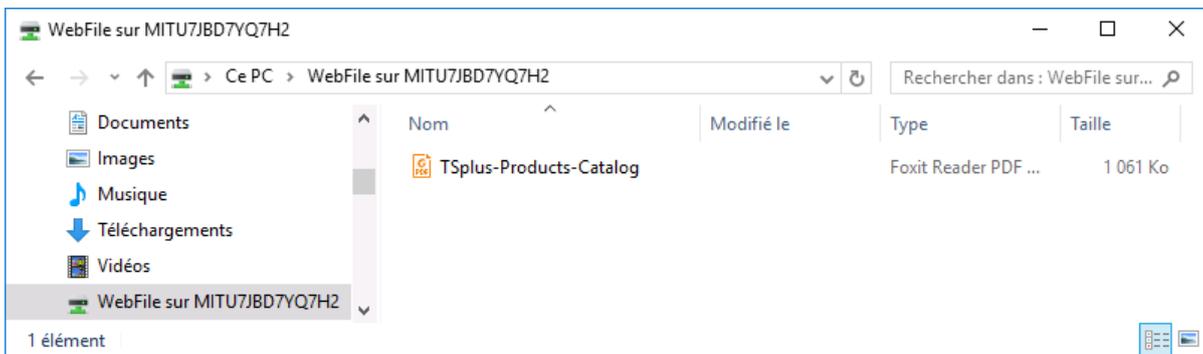
位置を変更することもできます。デフォルトでは、上部に表示されます。



これは右クリックのコンテキストメニューです。目的のフォルダーまたはファイルを選択し、それを右クリックして「TSplus」タブを選択し、「ダウンロード」をクリックするだけです。



ダウンロードはWebfileフォルダーとウェブブラウザの「ダウンロード」フォルダーにあります。

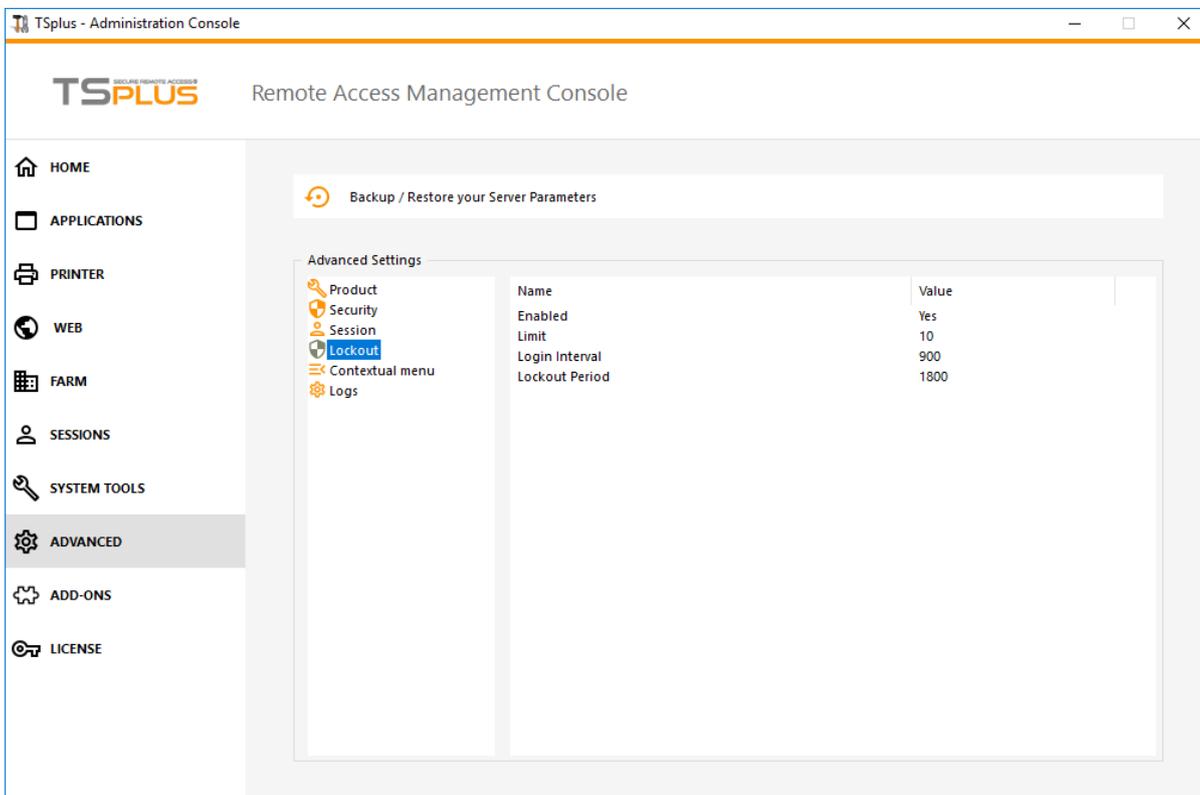


ダウンロードされた各フォルダーは自動的にzipファイルに圧縮されます。

# 高度な機能 - ロックアウト

## 概要

このタブでは、有効/無効にして設定できます [TSplus ロックアウト](#) 設定。

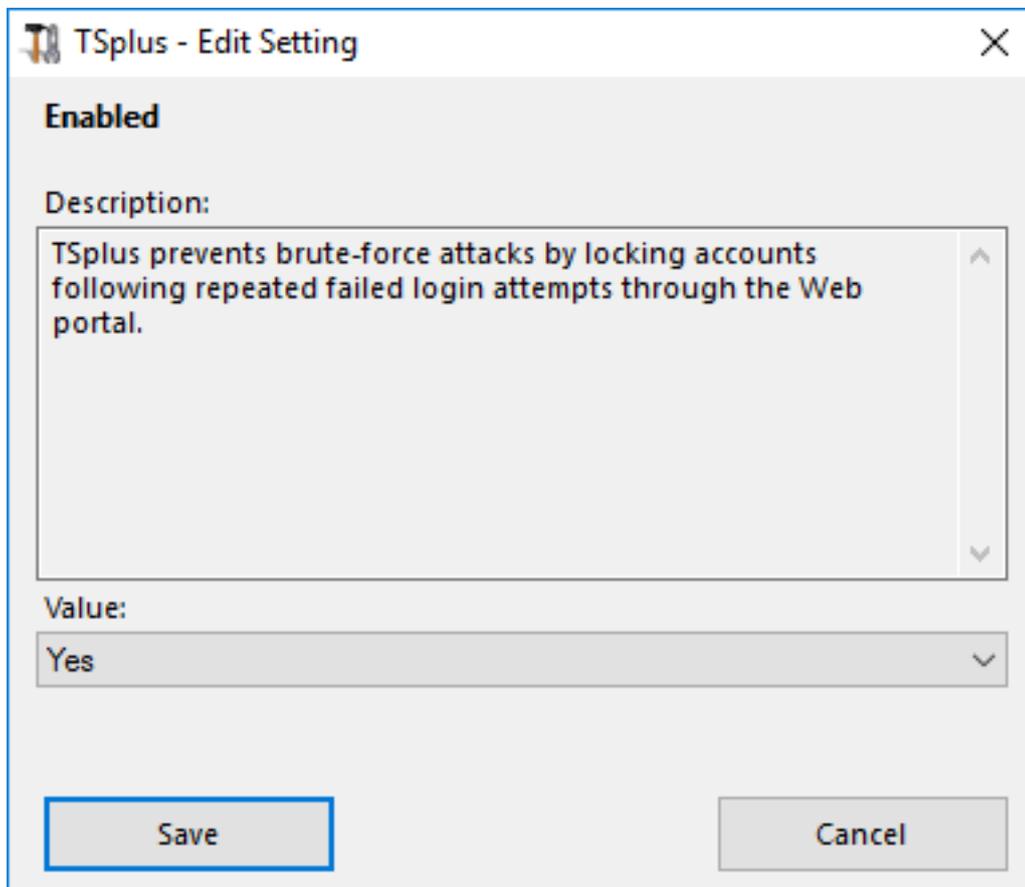


The screenshot shows the TSplus Administration Console interface. The left sidebar contains navigation options: HOME, APPLICATIONS, PRINTER, WEB, FARM, SESSIONS, SYSTEM TOOLS, **ADVANCED** (selected), ADD-ONS, and LICENSE. The main content area displays the 'Advanced Settings' section for the 'Lockout' category. A table lists the following settings:

Name	Value
Enabled	Yes
Limit	10
Login Interval	900
Lockout Period	1800

## ロックアウト機能の有効化/無効化

ロックアウト機能はデフォルトで有効になっています。このウィンドウで「はい」から「いいえ」に値を変更することで無効にできます。その後、保存をクリックしてください。



**Enabled**

Description:

TSplus prevents brute-force attacks by locking accounts following repeated failed login attempts through the Web portal.

Value:

Yes

Save Cancel

## 制限

ロックアウト制限は、アカウントがロックされる前にWebポータルから許可される失敗したログイン試行の数を定義します (デフォルトは10です)。この値は、対応するフィールドに希望の値を入力し、保存をクリックすることで変更できます。

**Limit**

Description:

The Lockout Limit defines the number of allowed failed login attempts from the Web portal before the account is locked out (default is 10).

Value:

10

Save Cancel

## 間隔

ロックアウトインターバルは、失敗したログイン試行の間の時間間隔を指定します。

定義された間隔の後にログイン試行が失敗した場合、該当するユーザーの失敗したログイン試行のカウンターはリセットされます（秒単位、デフォルトは900秒です）。この値は、対応するフィールドに希望の値を入力し、保存をクリックすることで変更できます。

**Interval**

Description:

The Lockout Interval specifies an interval of time between failed login attempts. If a failed login attempt occurs after the Interval defined, then the counter of failed login attempts is reset for the relevant user (in seconds, default is 900 seconds).

Value:

900

Save Cancel

## 期間

ロックアウト期間は、アカウントがロックされてログインできない期間（秒単位、デフォルトは1800秒）を指定します。ユーザーがロックされている時間は、LockoutPeriodとLockoutInterval設定のうち大きい方の値です。したがって、LockoutPeriodの値を変更する際は、関連する動作を確保するために、LockoutInterval設定を小さい値に更新する必要があります。この値は、対応するフィールドに希望の値を入力し、保存をクリックすることで変更できます。



TSplus - Edit Setting



## Period

### Description:

The Lockout Period specifies the duration an account is locked out and unable to login (in seconds, default is 1800 seconds). The period of time a user is locked out is the greatest value between LockoutPeriod and LockoutInterval settings. Therefore, when changing LockoutPeriod's value, one should update the LockoutInterval setting with a smaller value to ensure a relevant behavior.

### Value:

# 高度な機能 - ログ

## 概要

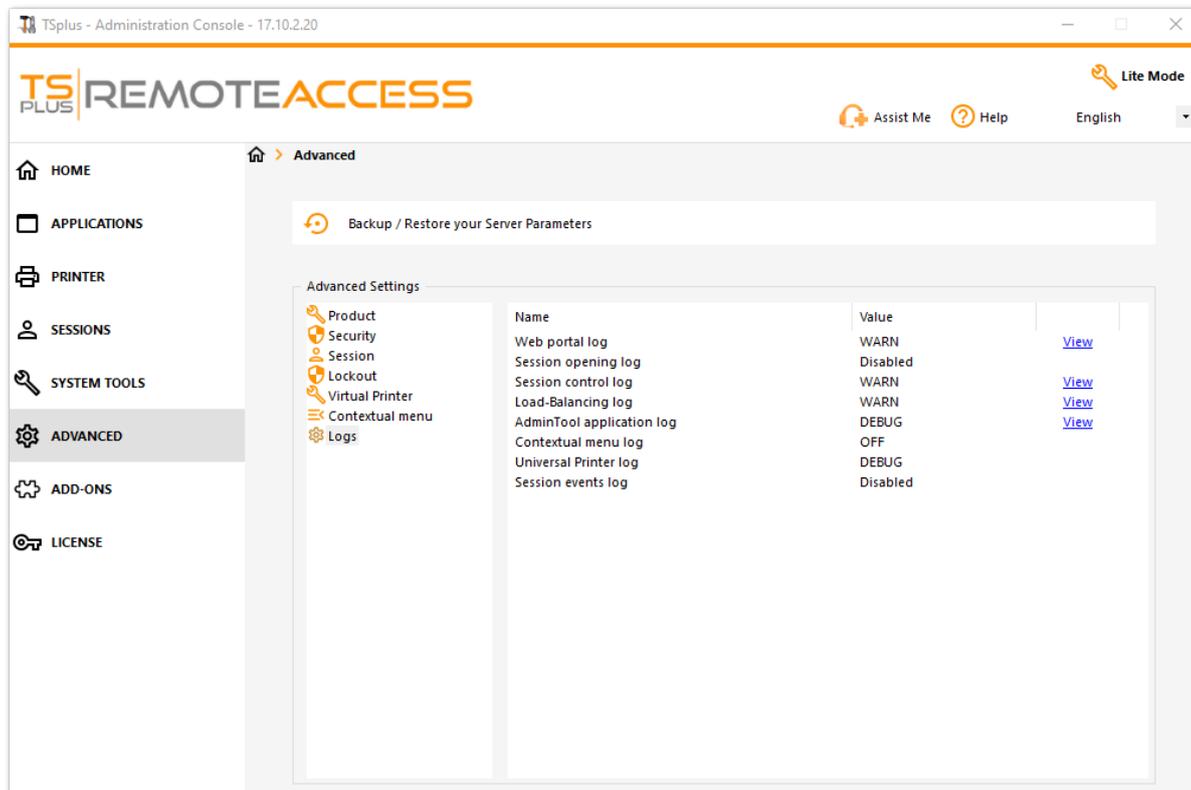
このタブでは、TSplus Logsの設定を構成できます。

デフォルトでは、TSplusはパフォーマンスの問題を避けるためにログを作成しません。

ログは、TSplusで発生したエラーの起源をより簡単に見つけるために存在し、次のようにして有効にできます:

- 行く C:\wsession
- フォルダー「Trace」を作成します。ログはユーザーごとに自動的にそこに作成されます。

管理ツール > 高度な設定 > ログでログ生成を有効にする必要があります。



ログの種類は5つあります。

- ウェブポータルログ、
- セッションオープニングログ、
- セッション制御ログ、
- 負荷分散ログと
- 管理ツールアプリケーション ( インターフェース ) ログ。

ログレベルは異なるコンポーネントに対応しており、私たちのサポートチームが遭遇した問題に応じてどの値を設定するかをお知らせします。

異なるログファイルの名前と場所は次のとおりです。

- Web Portal log: “C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\cgi-bin\hb.log”

- セッションオープニングログ: “C:\wsession\trace”
- セッション制御ログ: “C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\APSC.log”
- ロードバランシングログ: “C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\svcenterprise.log”
- AdminToolアプリケーションログ: “C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\AdminTool.log”
- RDS-Knight / TSplus Advanced Security: “C:\Program Files (x86)\TSplus-Security\logs”

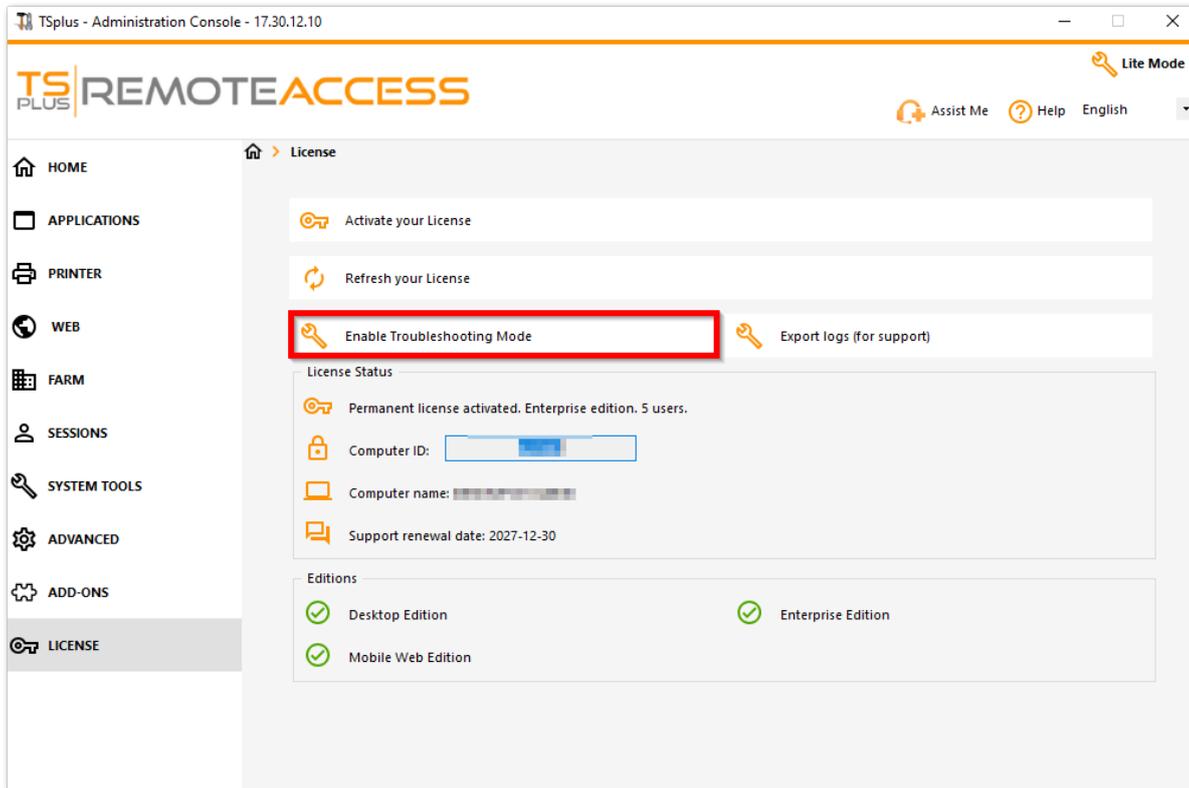
クライアント側の接続クライアントのログを有効にするには、次のレジストリキーを追加します:

**HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Digital River\ConnectionClient “Debug”=“true”**

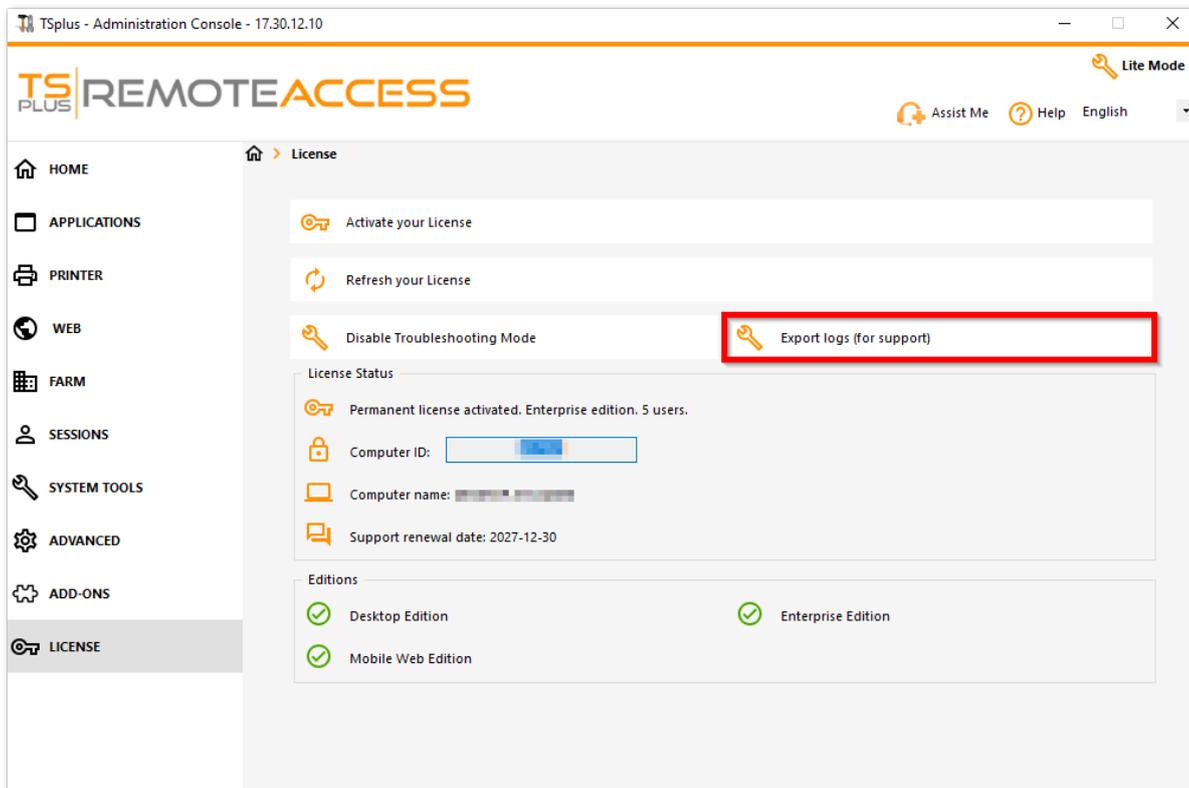
ログはC:\Usersにあります RDP6\logs ディレクトリは、インストールがユーザーごとの場合、または C:\Program Files (x86)\Connection Client\RDP6\logs ディレクトリは、すべてのユーザー用のインストールの場合です。

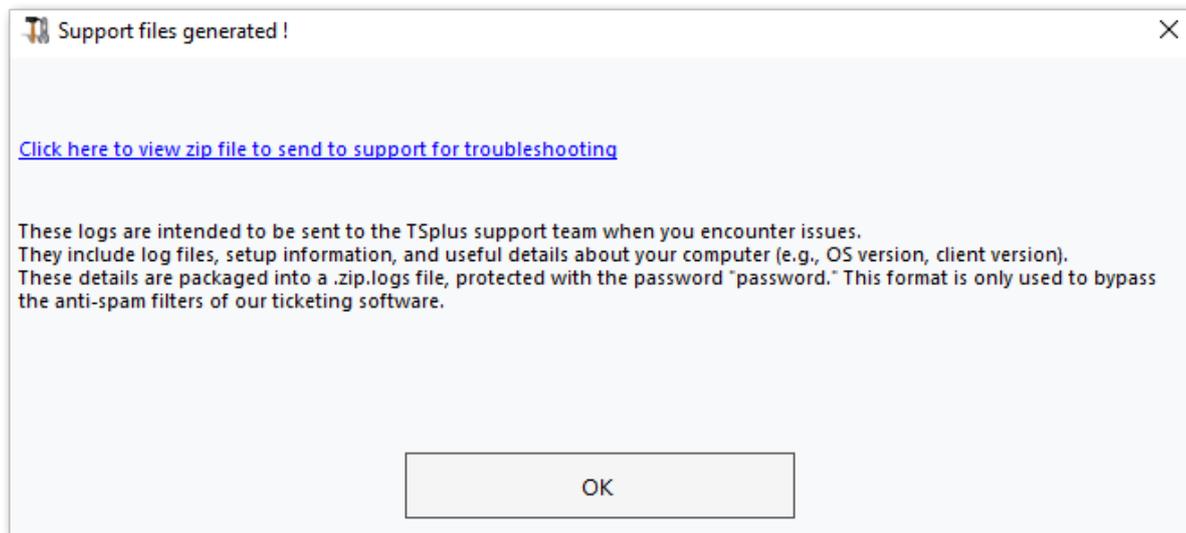
## トラブルシューティングモードを有効にする

「ライセンス」タブに移動し、「クリック」してください。トラブルシューティングモードを有効にする ボタン。



問題を再現し、その後クリックしてください サポート用のログをエクスポート サポートチームにログをメールで送信するボタン。



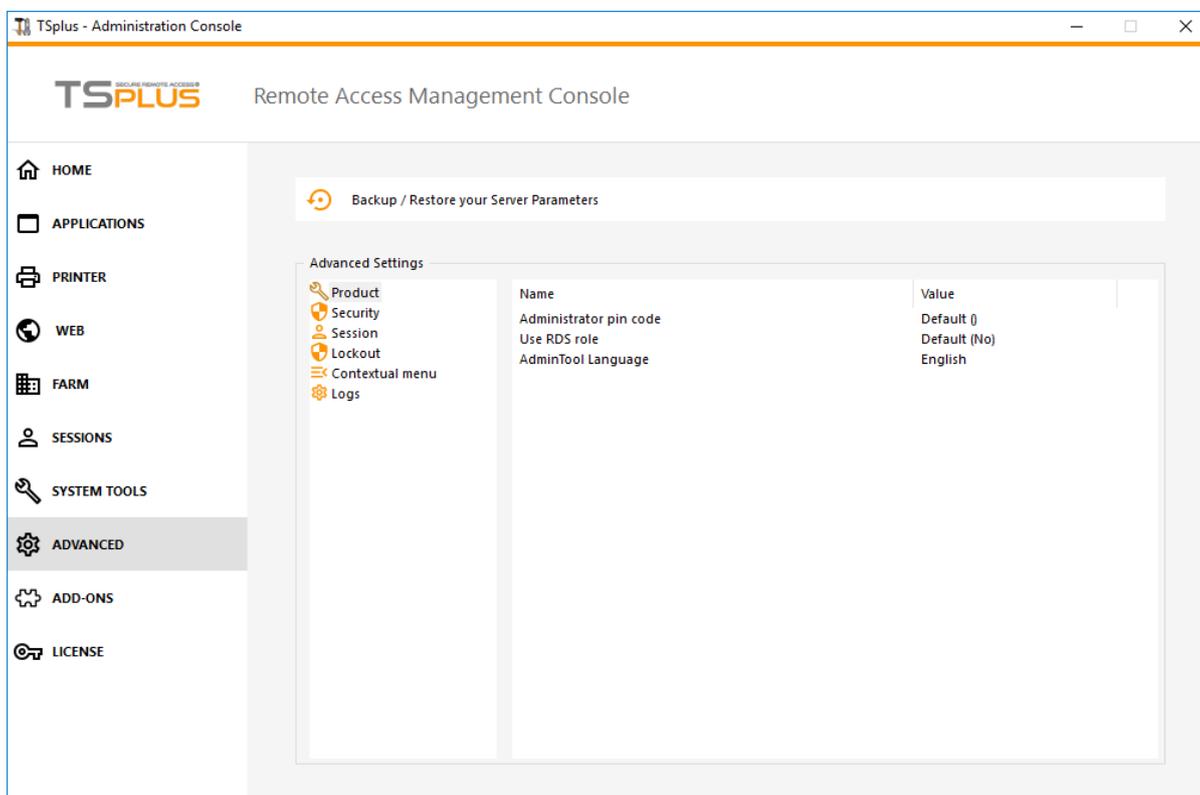


送信するファイルの形式は **.zip.logs** ファイルはパスワードで保護されています パスワード .

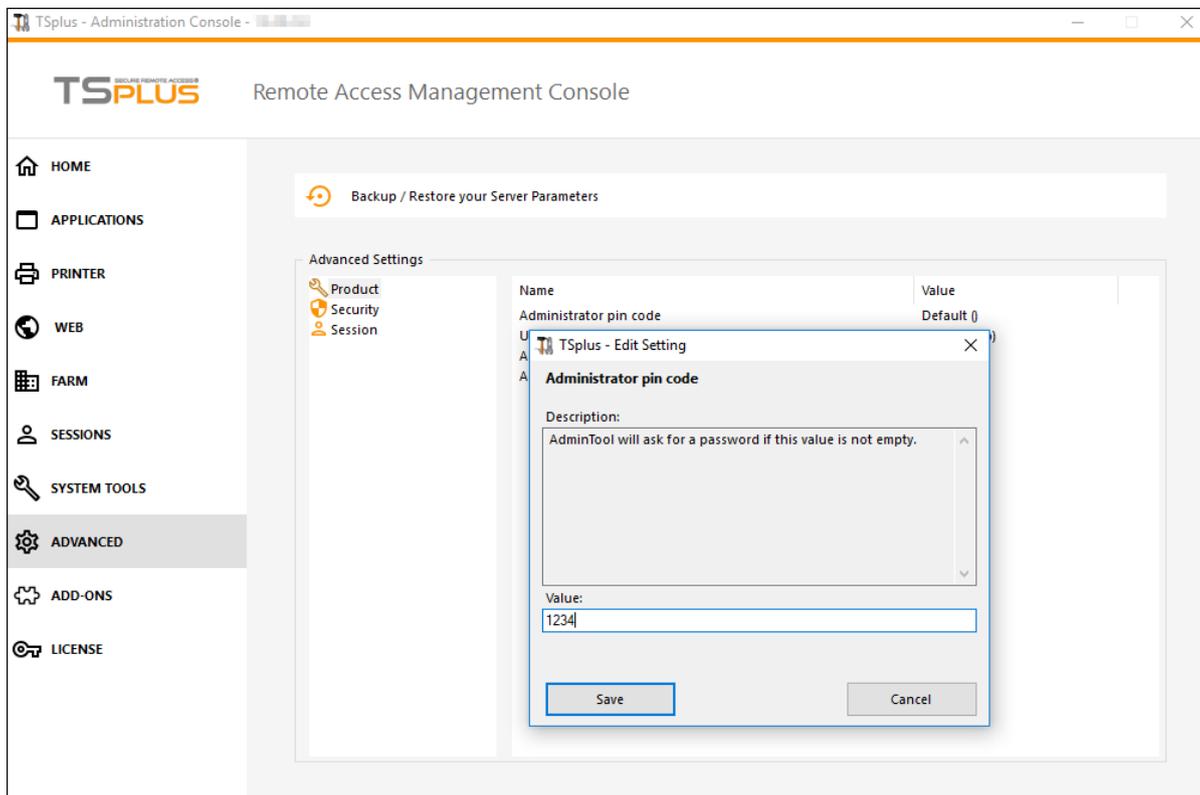
# 高度な機能 - 製品

## 概要

このタブでは、AdminTool Pincodeを追加してTSplusの設定を変更したり、Windows RDSロールを使用したり、AdminToolの背景色と言語をカスタマイズしたりできます。



管理者は、AdminToolのAdvancedタブのProduct Settingsの下で、毎回起動時に要求されるピンコードを設定することで、Administrator Toolへのアクセスを保護できます。

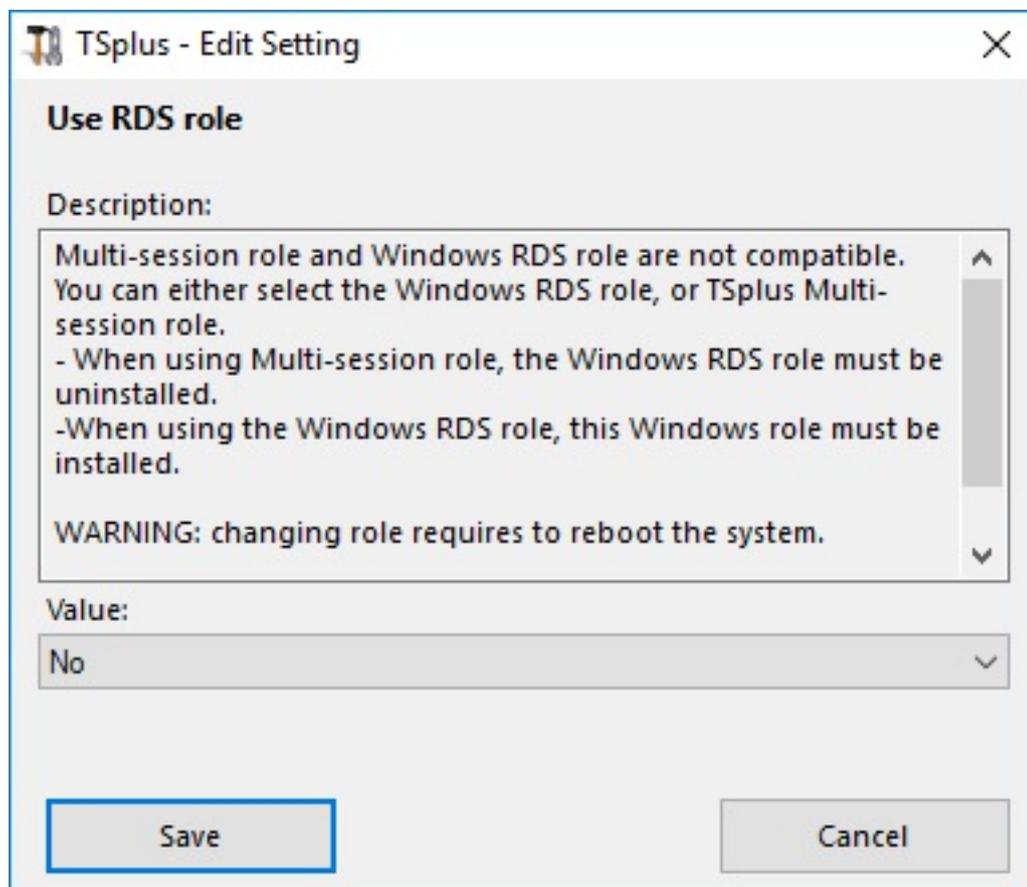


## RDSロールを使用する

マルチセッションロールとWindows RDSロールは互換性がありません。Windows RDSロールを選択するか、TSplusマルチセッションロールを選択できます。

- マルチセッションロールを使用する場合、Windows RDSロールをアンインストールする必要があります。
- Windows RDSロールを使用する場合、このWindowsロールをインストールする必要があります。

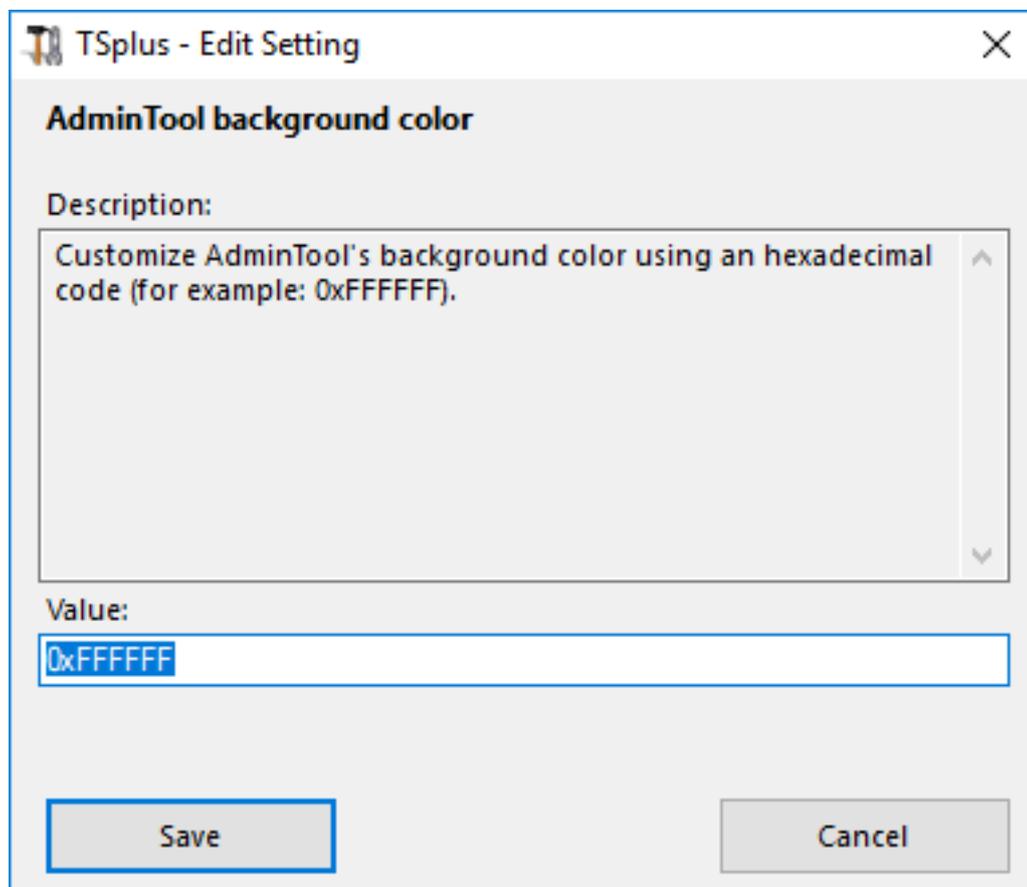
**警告** 役割を変更するには、システムを再起動する必要があります。Windowsリモートデスクトップを選択すると、ワークステーションシステムには同時に1人のユーザーのみが許可されます。



Windows RDSロールを使用するには、「はい」値を選択して保存します。

## 管理ツールの背景色を変更する

AdminToolの背景色を16進数コード（例：0xFFFFFFFF）を使用してカスタマイズします。



## 管理ツールの言語を変更する

管理ツールの21の利用可能な言語の中から、お好みの言語を選択してください。



### AdminTool Language

Description:

Set the AdminTool interface language.

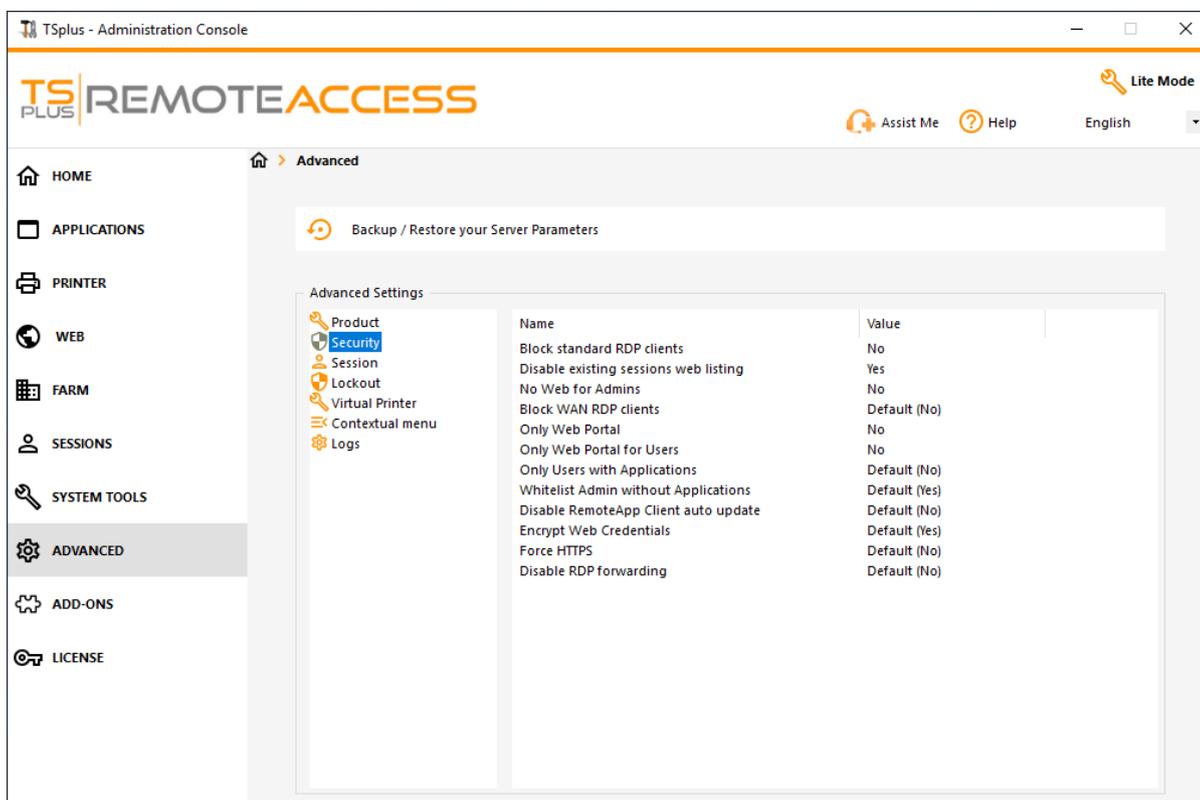
Value:

- English
- English
- French
- German
- Dutch
- Spanish
- Italian
- Portuguese
- Polish
- Russian
- Ukrainian
- Hungarian
- Czech
- Turkish
- Chinese
- Traditional Chinese
- Japanese
- Korean
- Arabic
- Farsi
- Hebrew
- Amenian

# 高度な機能 - セキュリティ

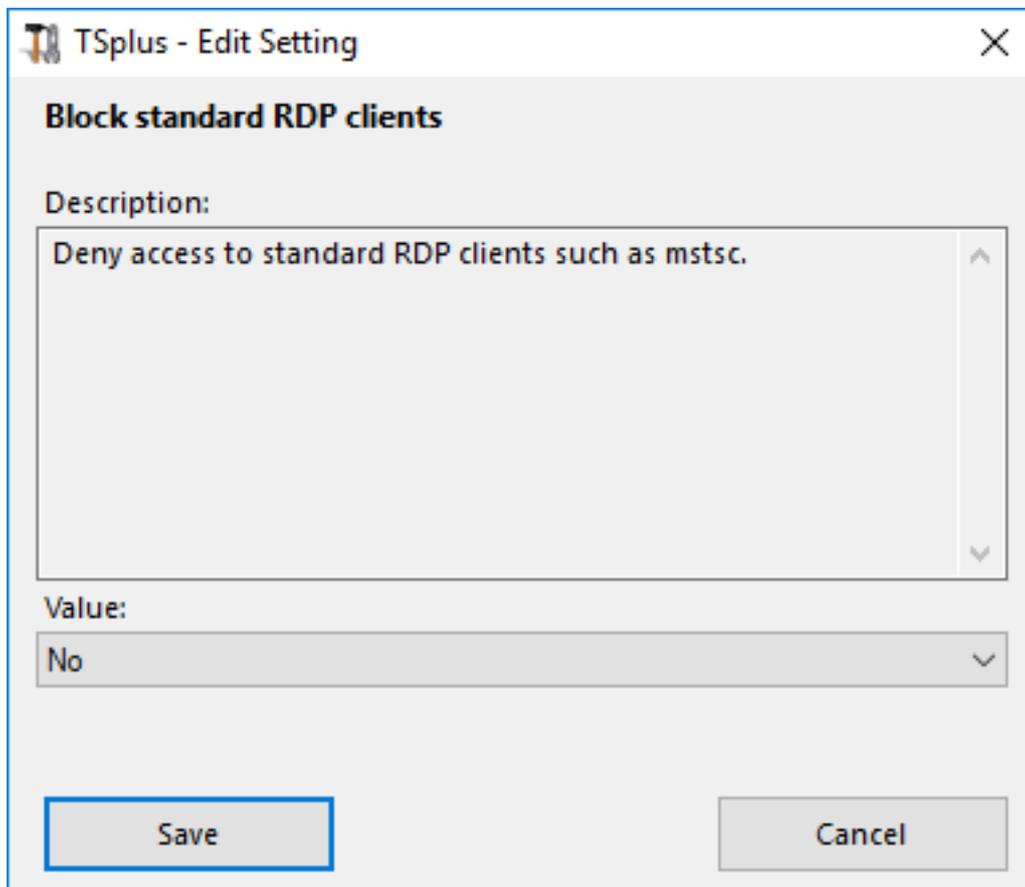
## 概要

高度な機能のセキュリティセクションでは、ユーザーの接続タイプをブロック、無効化、またはカスタマイズできます。



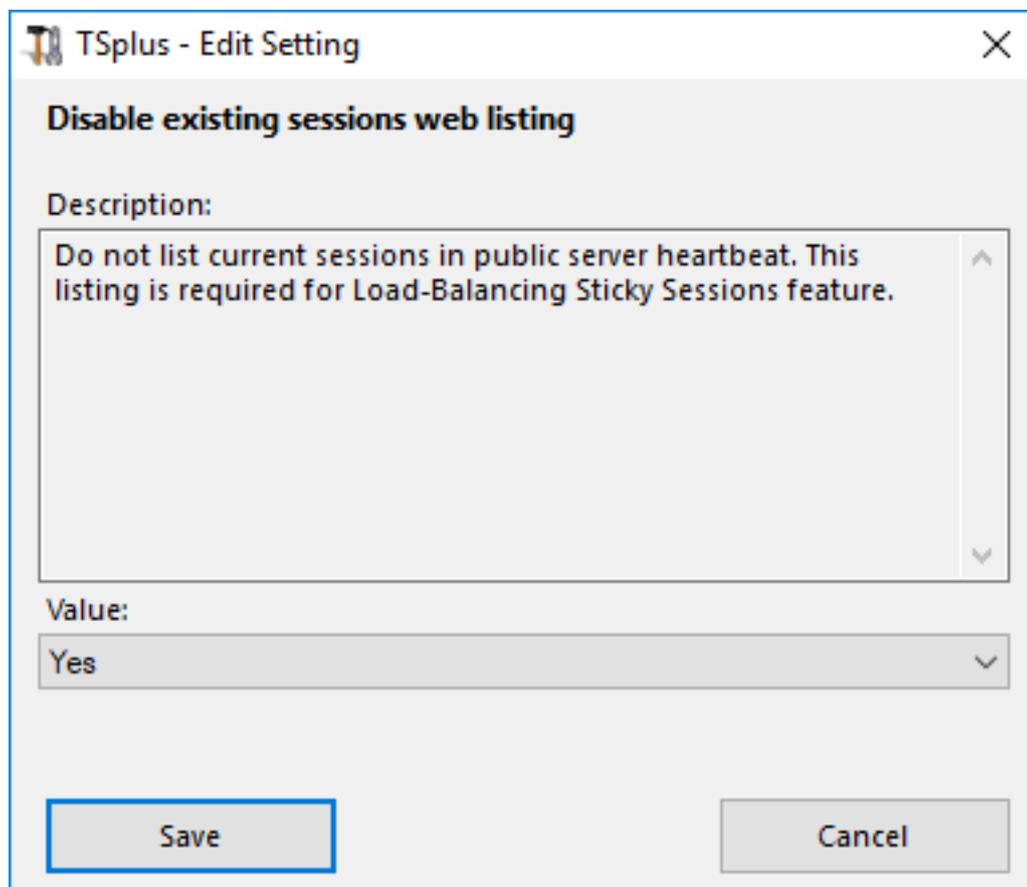
## 標準RDPクライアントをブロックする

「mstsc」などの標準RDPクライアントへのアクセスをユーザーに拒否したい場合は、「はい」の値を選択してください。



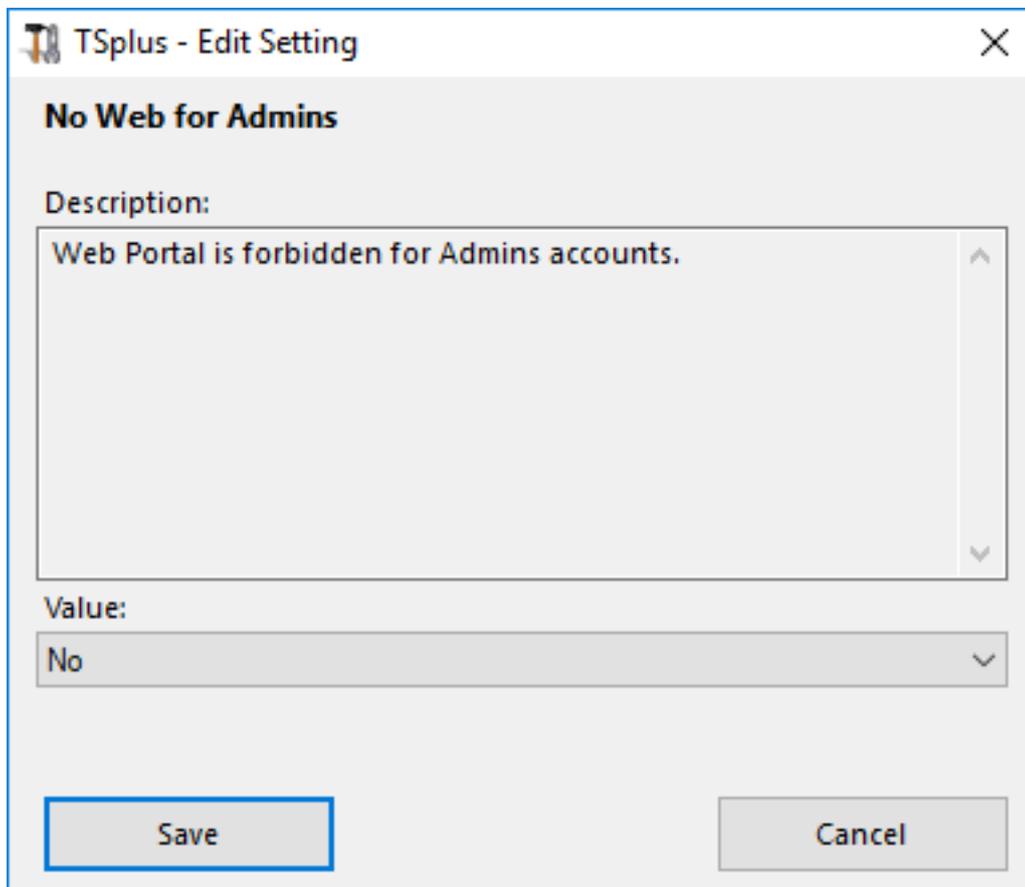
## 既存のセッションのウェブリストを無効にする

このリストは、負荷分散のスティッキーセッション機能に必要であり、デフォルトで有効になっています。無効にしたい場合は、このウィンドウで「いいえ」値を選択し、次に保存をクリックしてください。



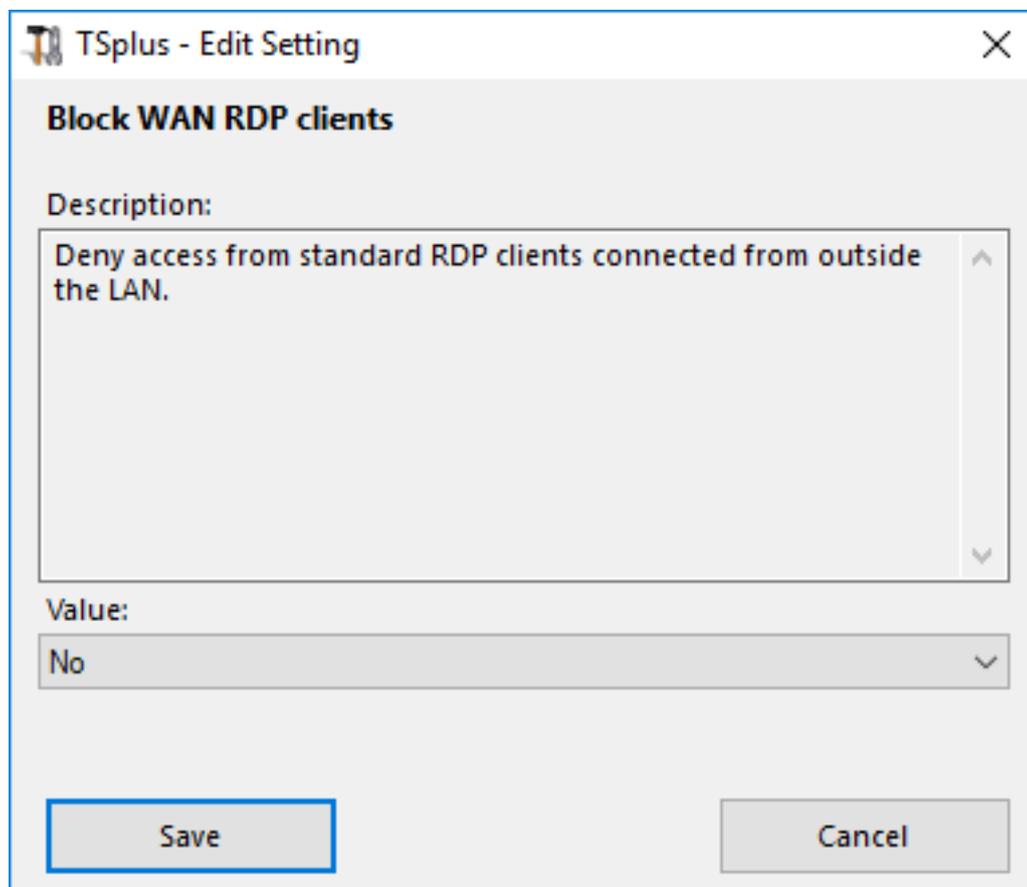
## 管理者用のWebはありません

管理者のためにWebポータルを無効にするには、「はい」値を選択します:



## WAN RDPクライアントをブロックする

LANの外部から接続された標準RDPクライアントからのアクセスを拒否するには、「はい」値を選択します。



## ウェブポータルのみ

すべてのユーザーに対して「はい」の値を選択することでWebポータルへのアクセスを必須にします。

TSplus - Edit Setting

### Only Web Portal

Description:

Web Portal access is mandatory for every users.

Value:

No

Save Cancel

## ユーザー専用のウェブポータル

すべてのユーザーに対してWebポータルへのアクセスを必須にし、管理者を除外するには、「はい」の値を選択してください。

TSplus - Edit Setting

### Only Web Portal for Users

Description:

Web Portal access is mandatory, except for Admins.

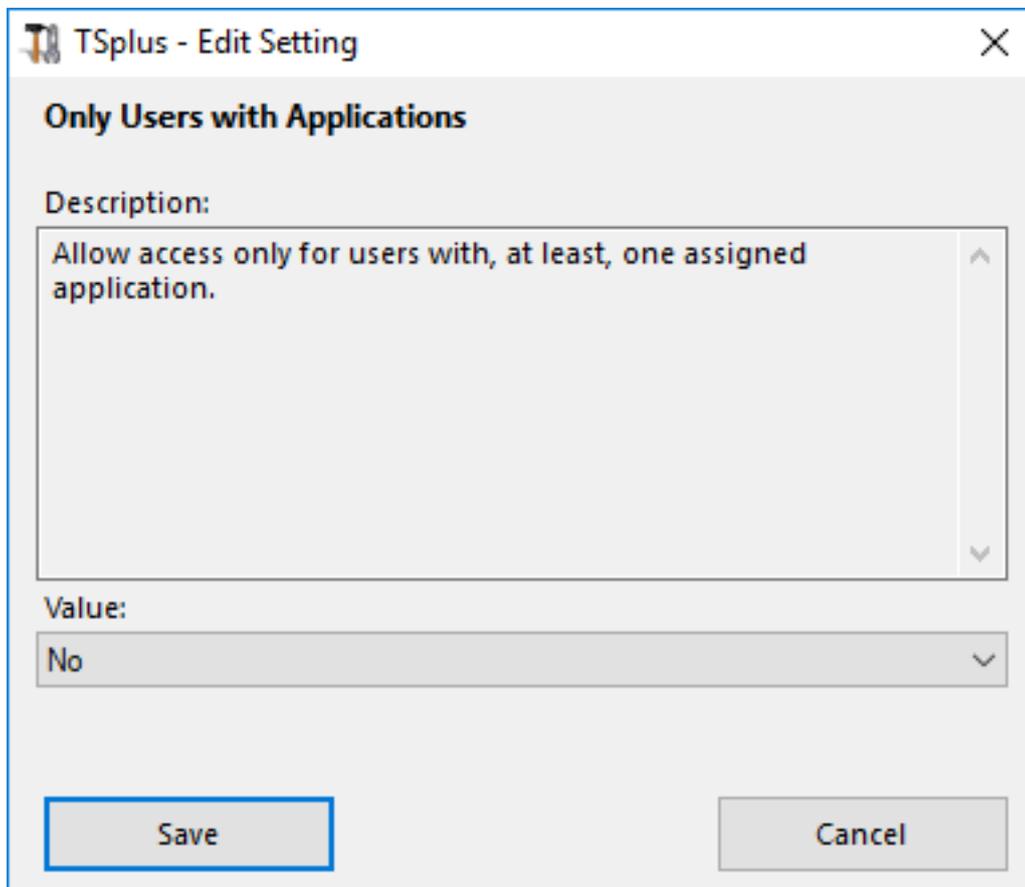
Value:

No

Save Cancel

## アプリケーションを持つユーザーのみ

ユーザーに少なくとも1つの割り当てられたアプリケーションがある場合のみ、アクセスを許可するには「はい」の値を選択してください。



## アプリケーションなしのホワイトリスト管理者

管理者に割り当てられたアプリケーションがなくてもアクセスを許可し、「アプリケーションを持つユーザーのみ」が有効になっている場合。この機能はデフォルトで有効です。無効にしたい場合は、このウィンドウで「いいえ」を選択し、次に保存をクリックしてください。



TSplus - Edit Setting



### Whitelist Admin without Applications

Description:

Allow access for admins even if they do not have any assigned application and "Only Users with Applications" is enabled.

Value:

Yes

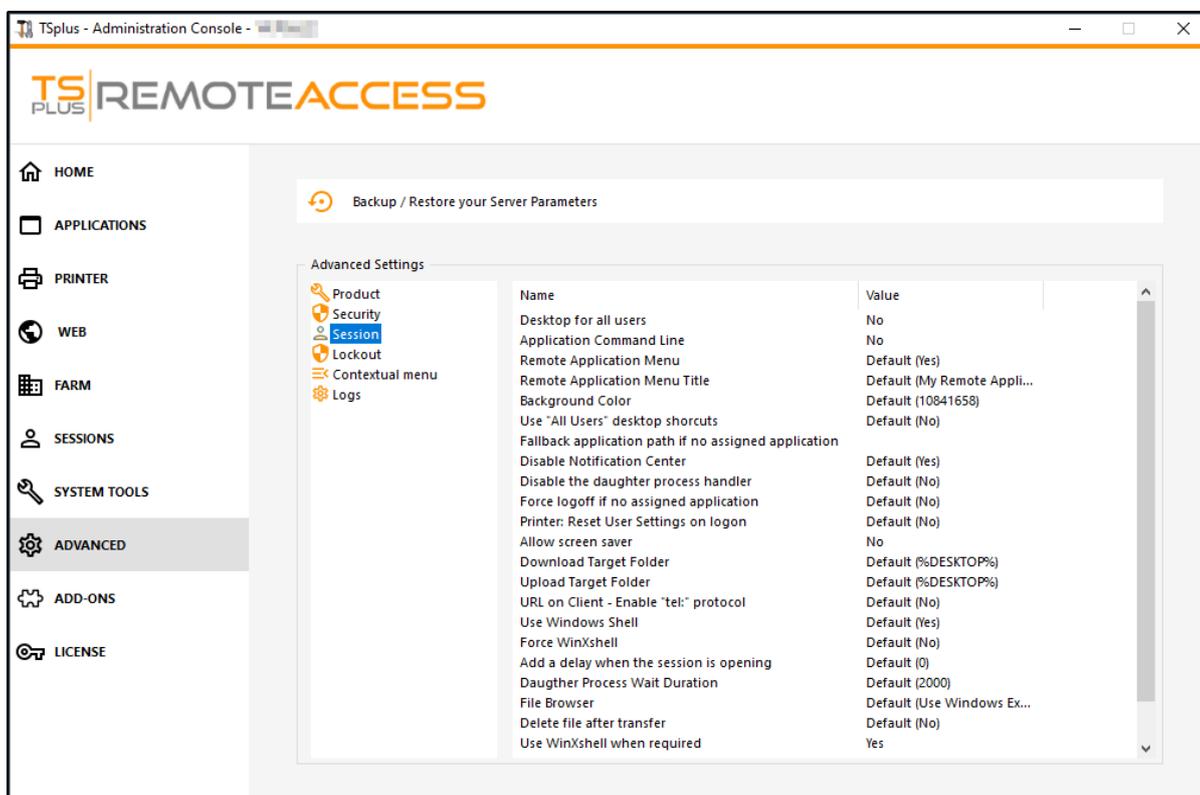
Save

Cancel

# 高度な機能 - セッション

## 概要

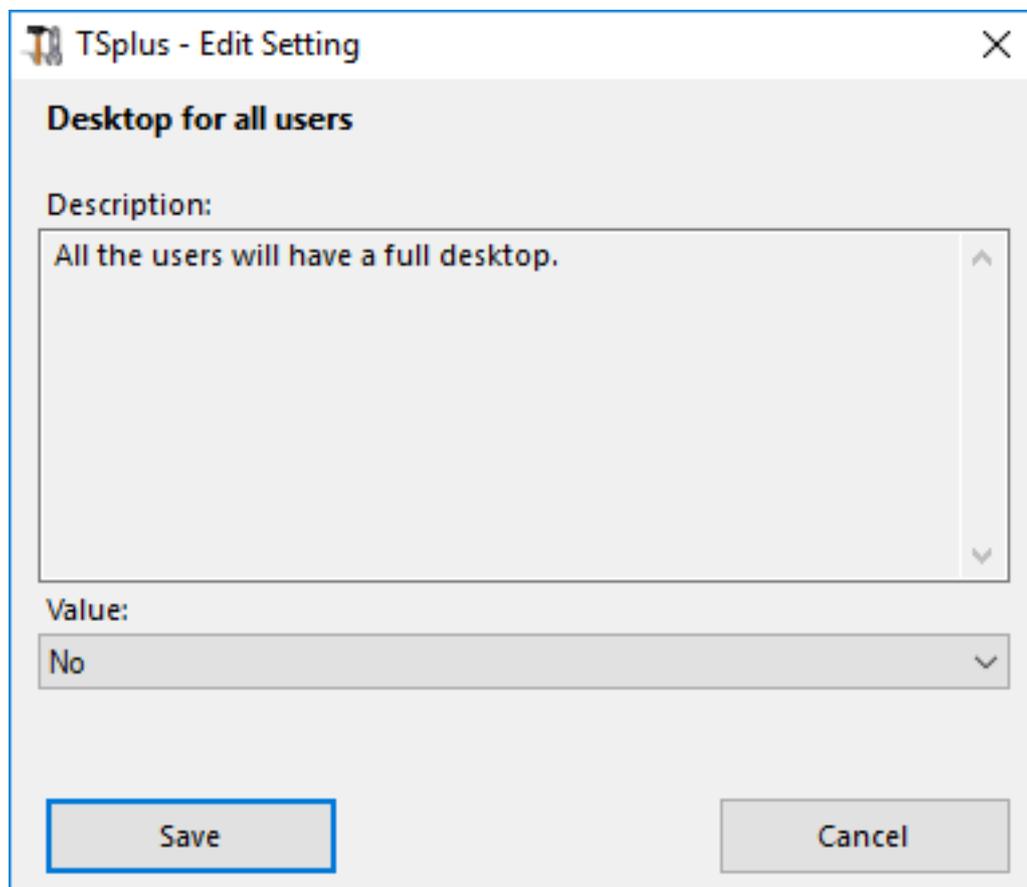
この高度なタブのセクションでは、ユーザーの権利やセッションに関する側面を構成できます。



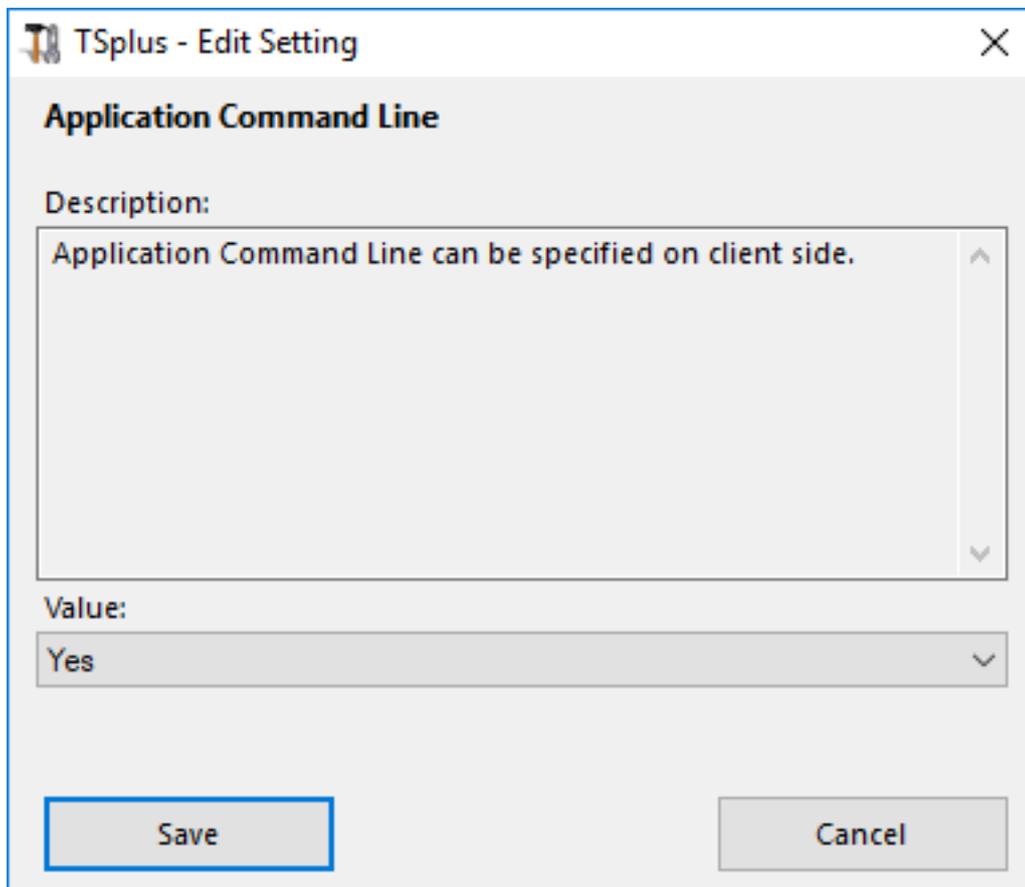
The screenshot shows the TSplus Administration Console interface. The left sidebar contains navigation options: HOME, APPLICATIONS, PRINTER, WEB, FARM, SESSIONS, SYSTEM TOOLS, ADVANCED (selected), ADD-ONS, and LICENSE. The main content area displays the 'Advanced Settings' for the 'Session' category. A table lists various settings with their names and current values.

Name	Value
Desktop for all users	No
Application Command Line	No
Remote Application Menu	Default (Yes)
Remote Application Menu Title	Default (My Remote Appli...
Background Color	Default (10841658)
Use "All Users" desktop shortcuts	Default (No)
Fallback application path if no assigned application	Default (No)
Disable Notification Center	Default (Yes)
Disable the daughter process handler	Default (No)
Force logoff if no assigned application	Default (No)
Printer: Reset User Settings on logon	Default (No)
Allow screen saver	No
Download Target Folder	Default (%DESKTOP%)
Upload Target Folder	Default (%DESKTOP%)
URL on Client - Enable "tel:" protocol	Default (No)
Use Windows Shell	Default (Yes)
Force WinXshell	Default (No)
Add a delay when the session is opening	Default (0)
Daughter Process Wait Duration	Default (2000)
File Browser	Default (Use Windows Ex...
Delete file after transfer	Default (No)
Use WinXshell when required	Yes

すべてのユーザーにフルデスクトップを有効にするには、このウィンドウで「はい」の値を選択し、次に保存をクリックします:

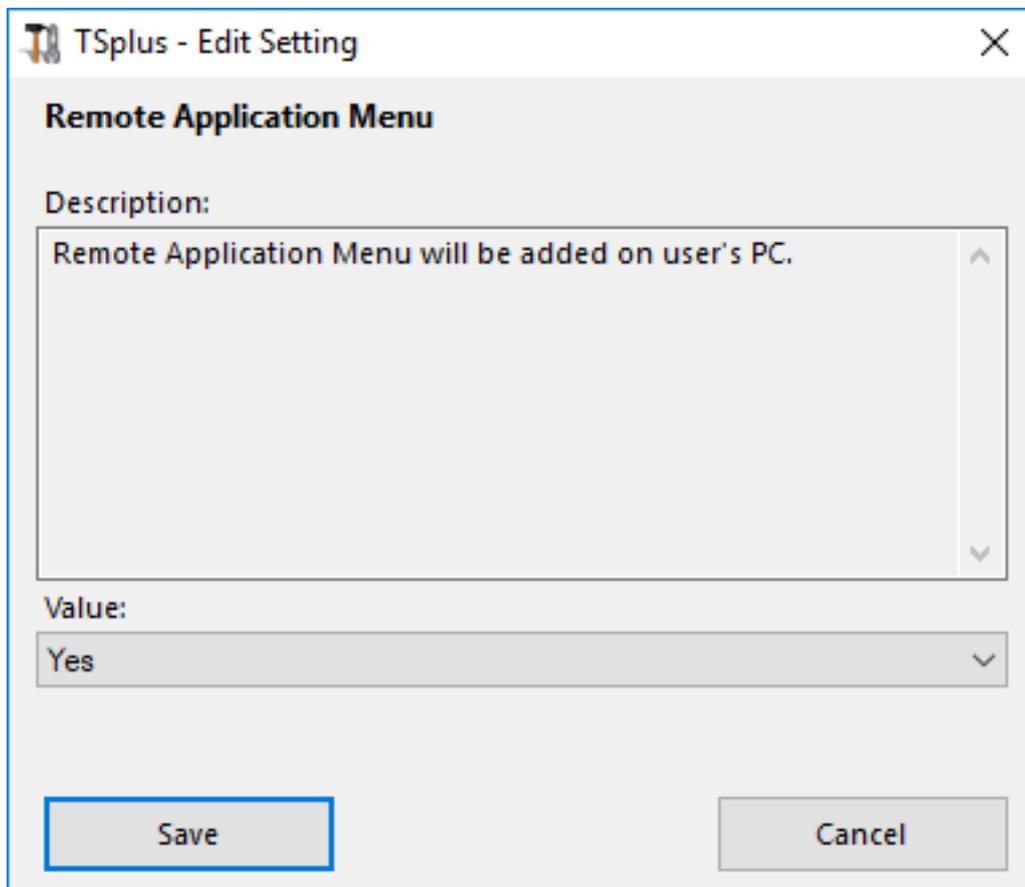


アプリケーションコマンドラインはクライアント側で指定できます。この機能はデフォルトで有効になっています。無効にしたい場合は、このウィンドウで「いいえ」値を選択し、次に保存をクリックしてください。



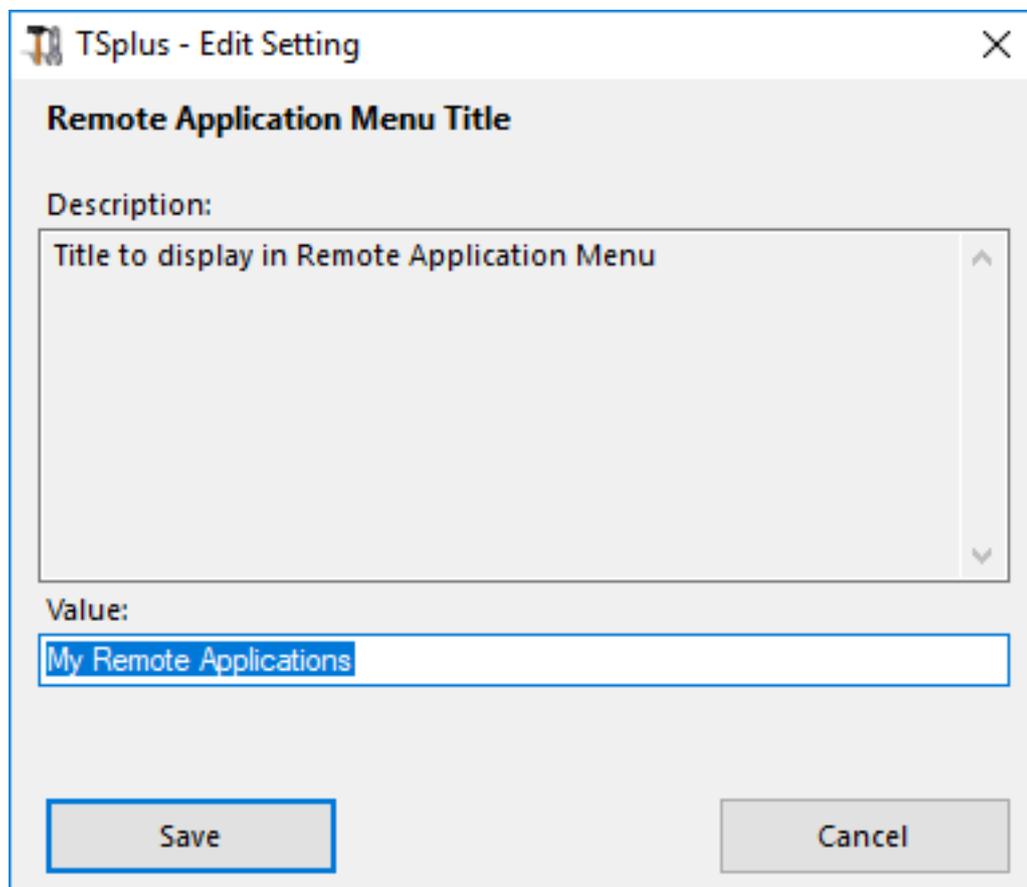
## リモートアプリケーションメニュー

リモートアプリケーションメニューはユーザーのPCに追加されます。この機能はデフォルトで有効になっています。無効にしたい場合は、このウィンドウで「いいえ」を選択し、次に保存をクリックしてください。



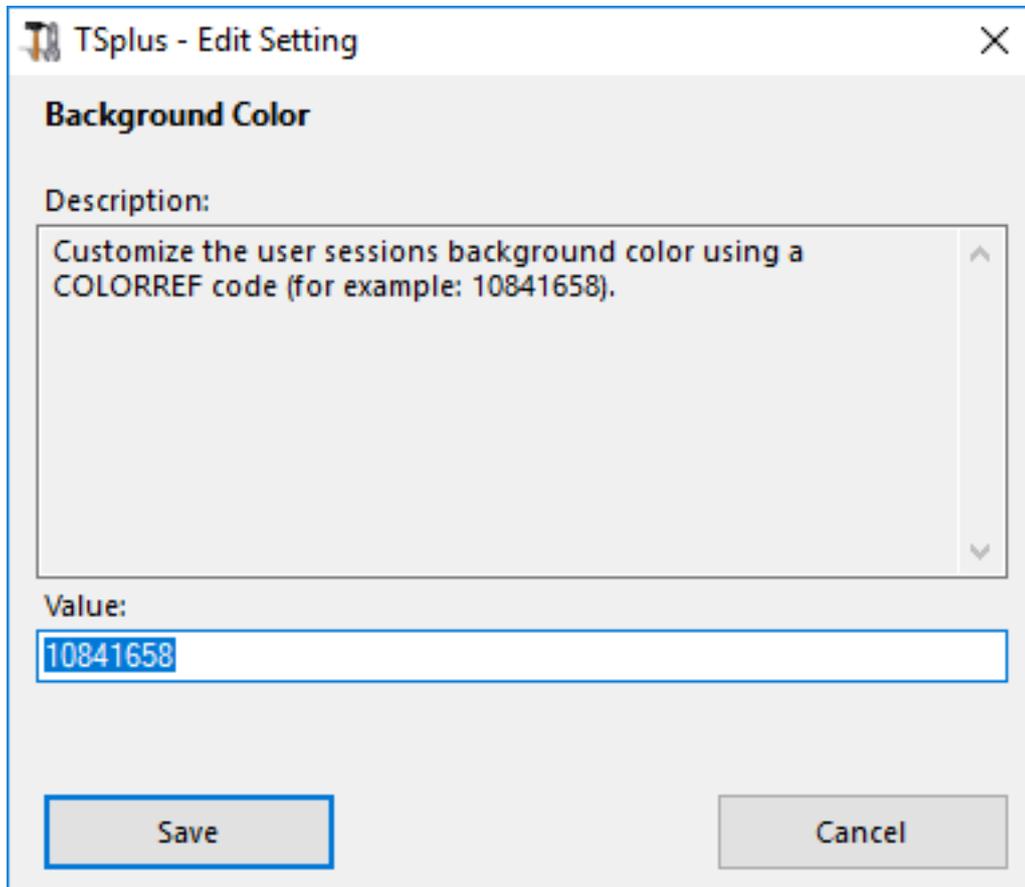
## リモートアプリケーションメニュータイトル

リモートアプリケーションメニューのタイトルを変更できます。デフォルトは「マイリモートアプリケーション」です。変更したい場合は、希望のタイトルを入力し、次に保存をクリックしてください。



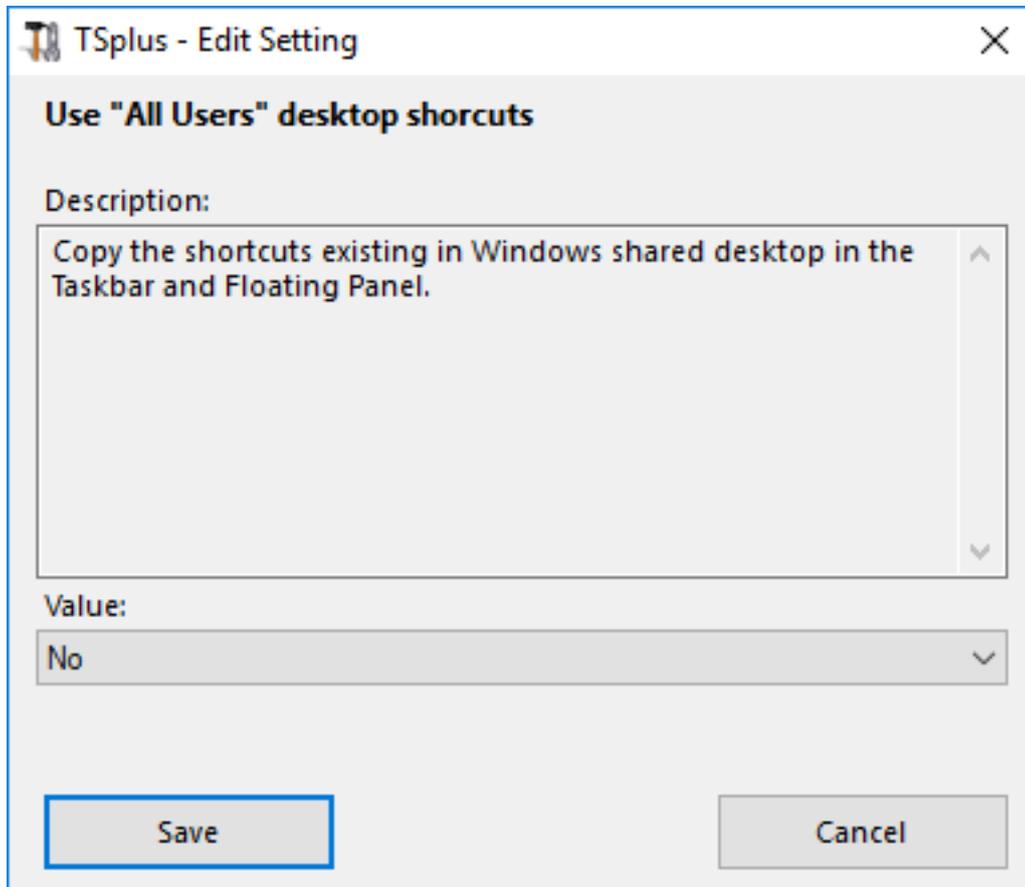
## 背景色

ユーザーセッションの背景色をCOLORREFコードを使用してカスタマイズします（例えば、デフォルトは：10841658です）。



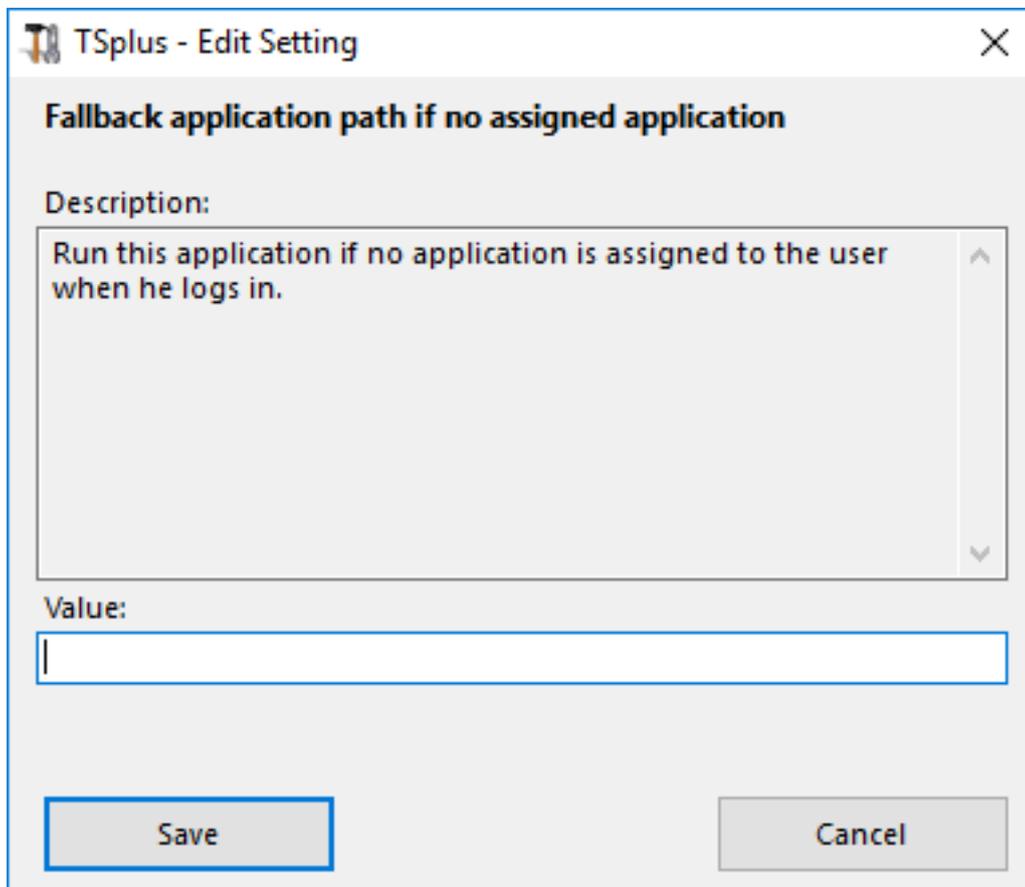
## 「すべてのユーザー」デスクトップショートカットを使用する

Windows共有デスクトップにあるショートカットをタスクバーとフローティングパネルにコピーします。この機能を有効にするには、このウィンドウで「はい」を選択し、次に保存をクリックします。



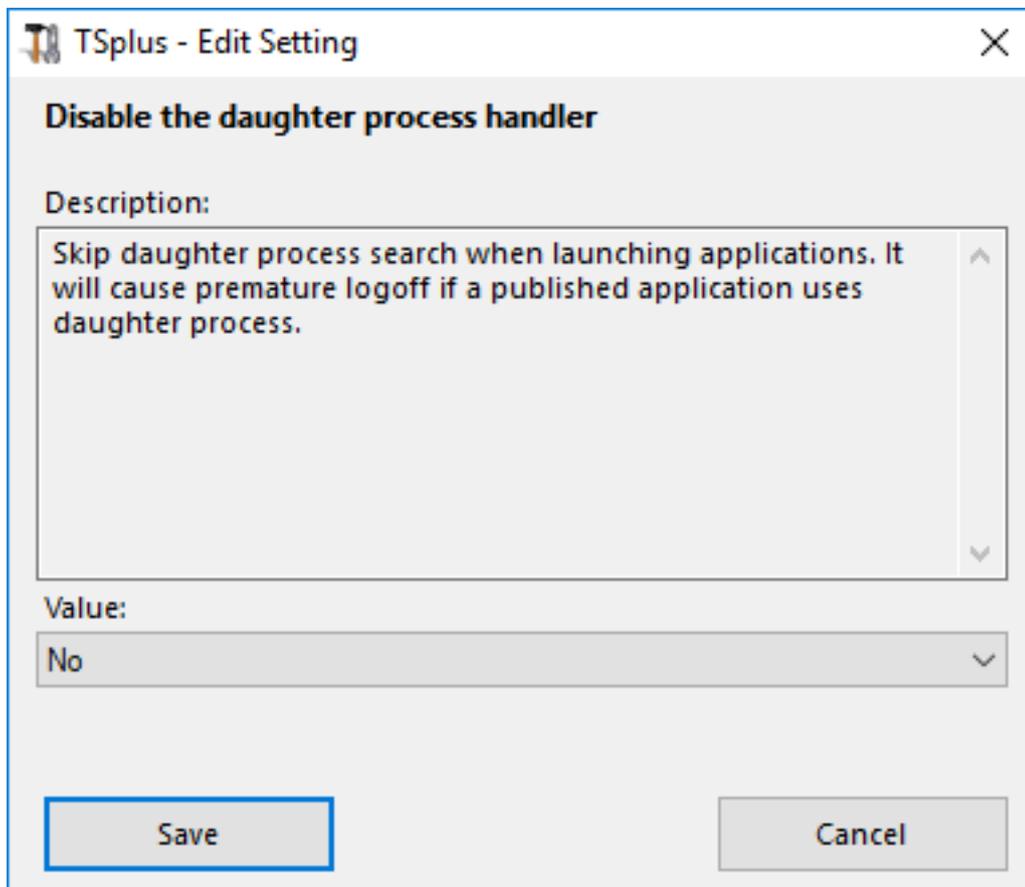
## 割り当てられたアプリケーションがない場合のフォールバックアプリケーションパス

このアプリケーションは、ユーザーがログインしたときにアプリケーションが割り当てられていない場合に実行します。デフォルトでは値はありません。このウィンドウに「はい」という値を入力してこの機能を有効にし、次に保存をクリックします。



## 子プロセスハンドラーを無効にする

アプリケーションを起動する際に子プロセスの検索をスキップします。公開されたアプリケーションが子プロセスを使用している場合、早期にログオフされる原因となります。この機能はデフォルトで無効になっています。このウィンドウで「はい」を選択してこの機能を有効にし、その後保存をクリックしてください。



## アサインされたアプリケーションがない場合は強制ログオフ

ユーザーに割り当てられたアプリケーションがない場合、自動的にログオフされます。この機能はデフォルトで無効になっています。このウィンドウで「はい」の値を選択してこの機能を有効にし、その後保存をクリックしてください。

TSplus - Edit Setting

### Force logoff if no assigned application

Description:

The user will be automatically logoff if he has no application assigned to him.

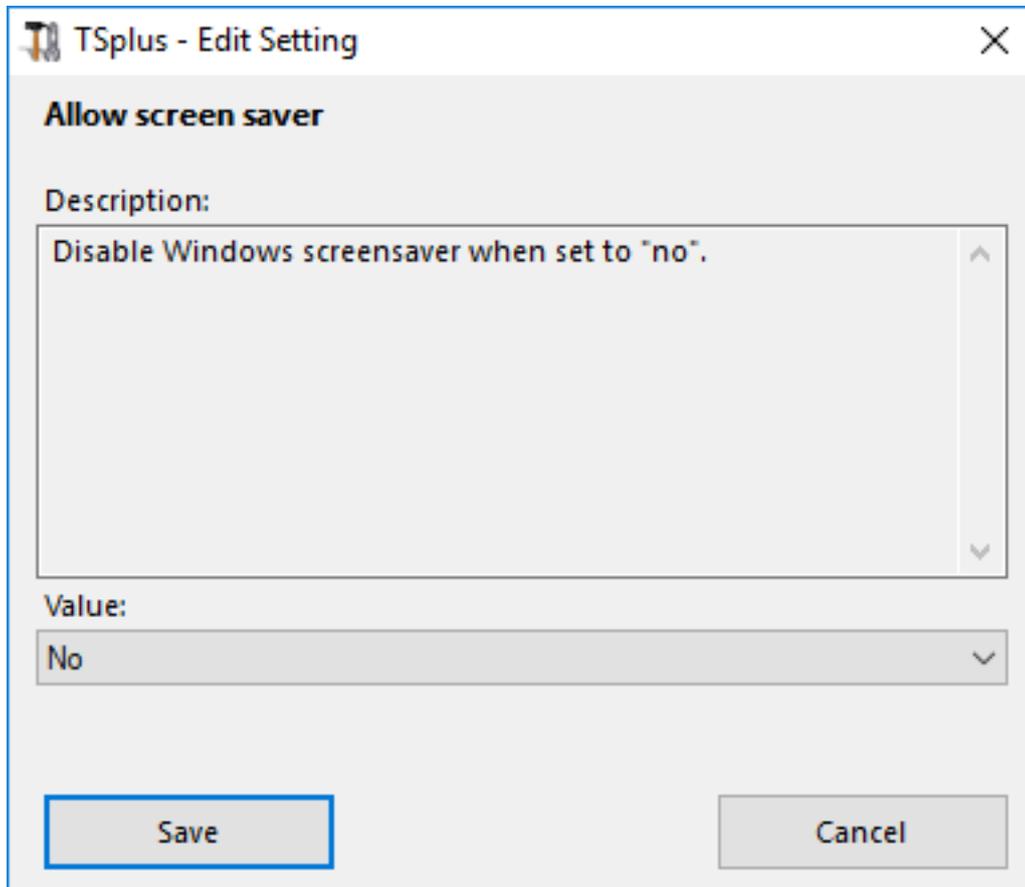
Value:

No

Save Cancel

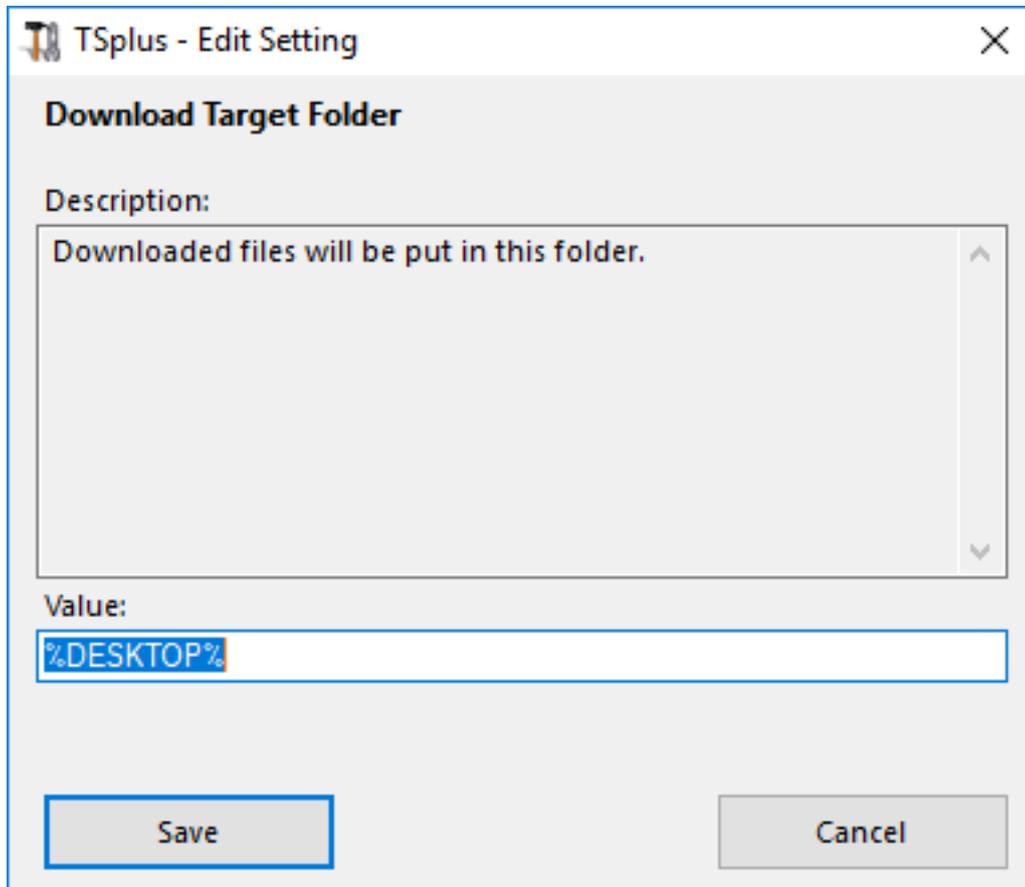
## スクリーンセーバーを許可する

この機能はデフォルトで無効になっています。このウィンドウで「はい」の値を選択してWindowsスクリーンセーバーを有効にし、次に保存をクリックしてください。



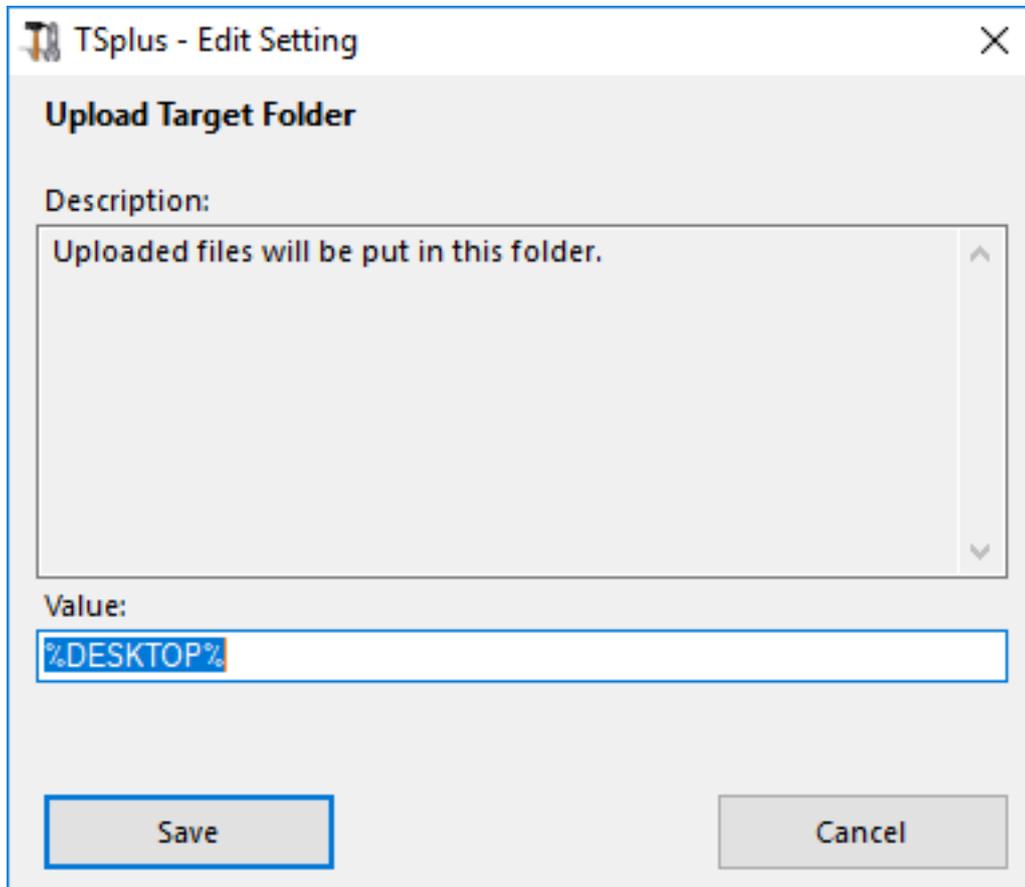
## ダウンロードターゲットフォルダー

ダウンロードしたファイルはデフォルトでデスクトップに保存されます。変更したい場合は、希望するダウンロードフォルダーのパスを入力し、次に保存をクリックしてください。



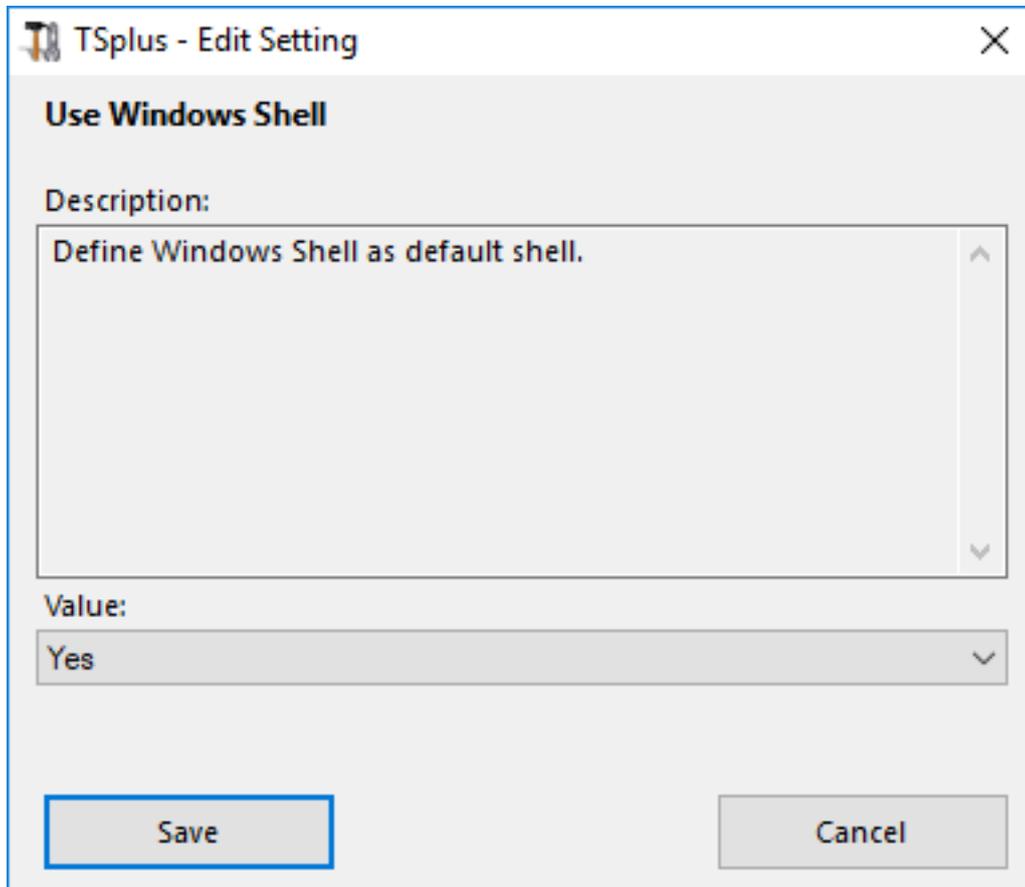
## アップロード対象フォルダー

アップロードされたファイルはこのフォルダーに置かれます。変更したい場合は、希望するアップロードフォルダーのパスを入力し、次に保存をクリックしてください。



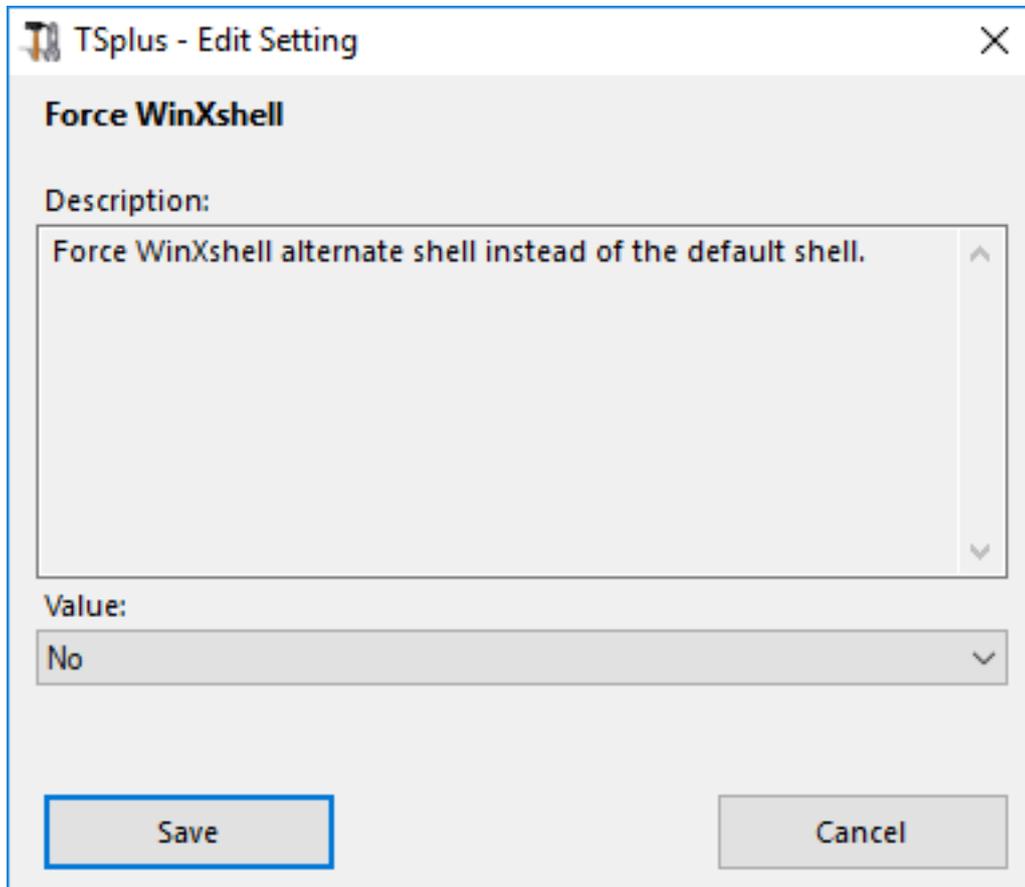
## Windowsシエルを使用する

Windowsシエルをデフォルトシエルとして定義します。この機能はデフォルトで有効になっています。無効にしたい場合は、このウィンドウで「いいえ」値を選択し、次に保存をクリックしてください。



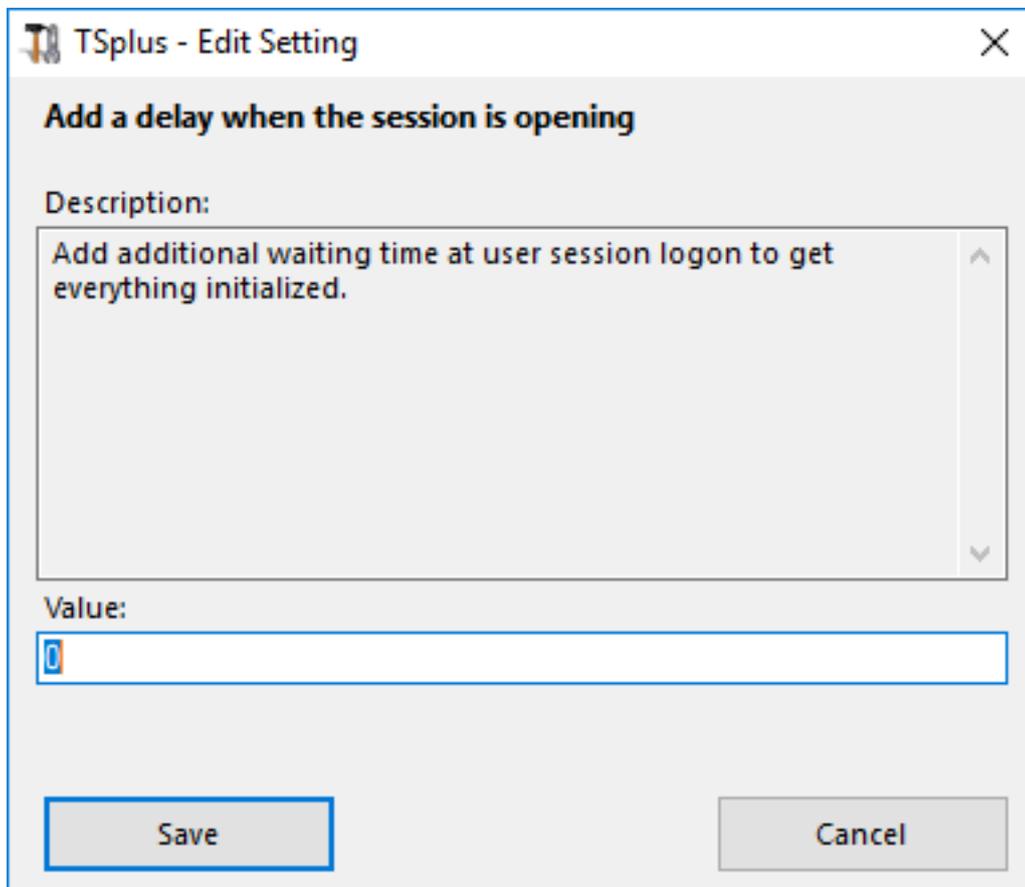
## WinXshellを強制する

この機能はデフォルトで無効になっています。このウィンドウで「はい」の値を選択してデフォルトシェルの代わりにWinXshellの代替シェルを強制し、その後保存をクリックしてください。



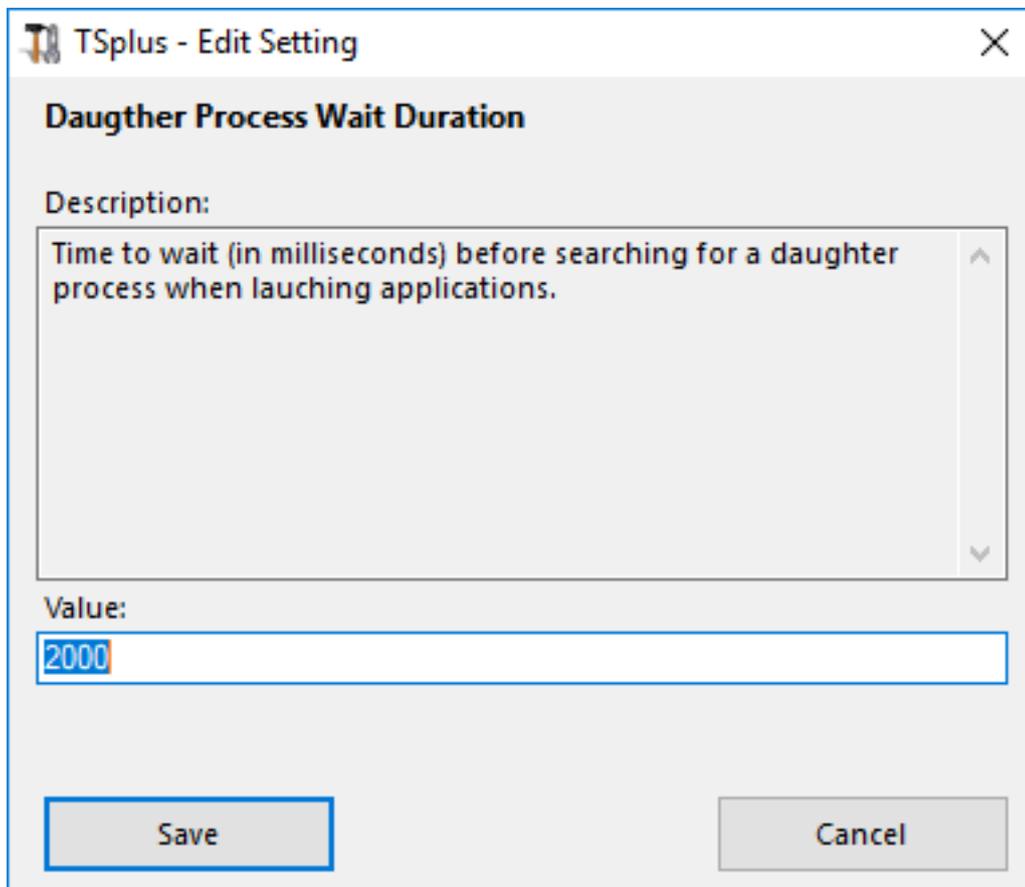
## セッションを開くときに遅延を追加する

ユーザーセッションのログオン時にすべてを初期化するための追加の待機時間を追加します。デフォルト値は0です。変更したい場合は、希望の値（秒単位）を入力し、次に保存をクリックしてください。



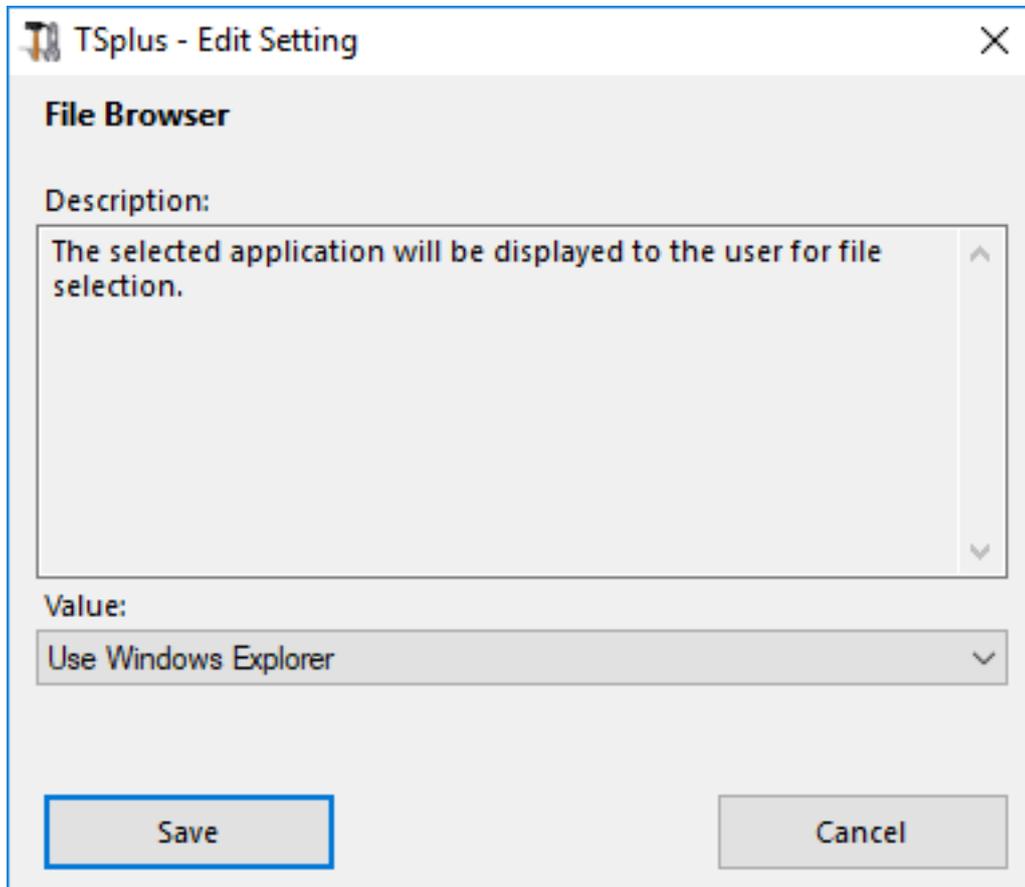
## 子プロセス待機時間

アプリケーションを起動する際に子プロセスを検索する前に待機する時間（ミリ秒単位）。



## ファイルブラウザ

選択したアプリケーションがユーザーにファイル選択のために表示されます。デフォルトのブラウザはWindows Explorerです。TSplusファイルブラウザを選択してから、保存をクリックすることができます。



## WinXshellが必要な場合は使用してください

システムが推奨された場合、デフォルトのシェルの代わりにWinXshellの代替シェルを使用することを許可します。この機能はデフォルトで有効になっています。無効にしたい場合は、このウィンドウで「いいえ」を選択し、次に保存をクリックしてください。



TSplus - Edit Setting



### Use WinXshell when required

Description:

Authorize system to use WinXshell alternate shell instead of the default shell when recommended.

Value:

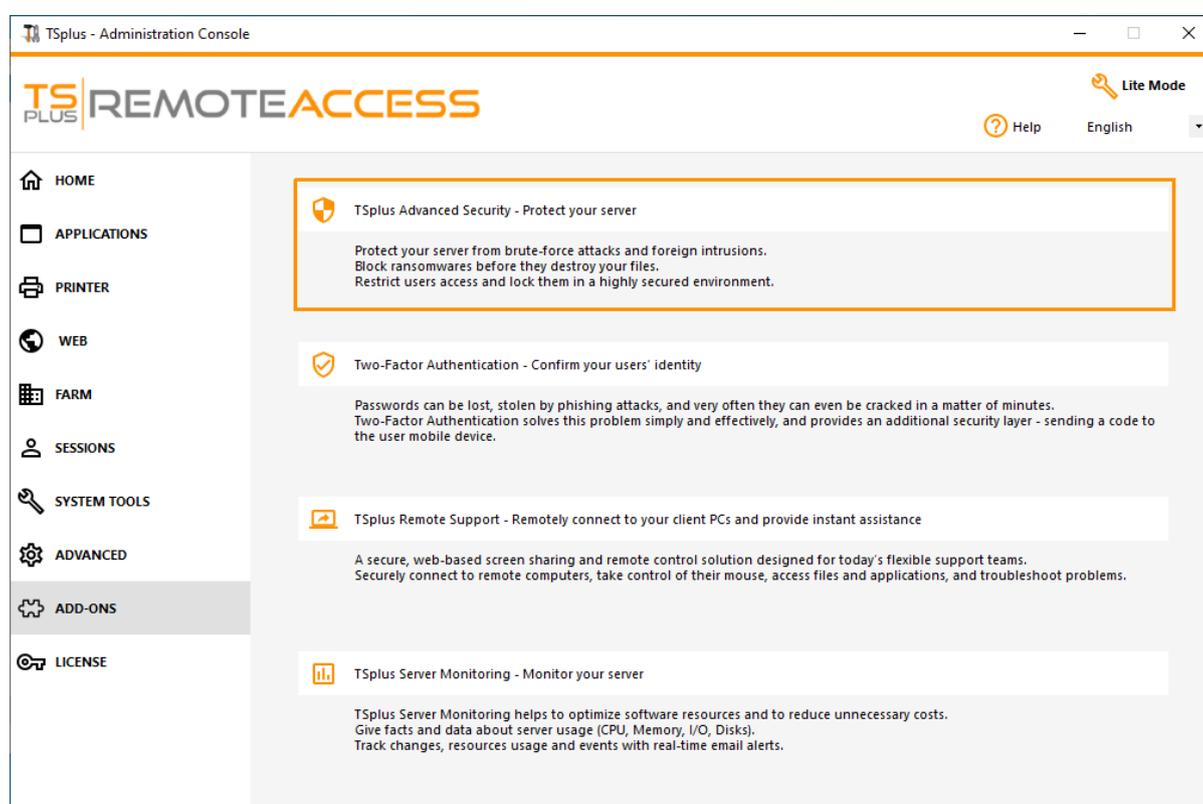
Yes

Save

Cancel

# TSplus Advanced Security

TSplus Advanced Securityは、TSplus AdminToolからAdd-Onとして利用可能で、Add-Onsタブで入手できます。

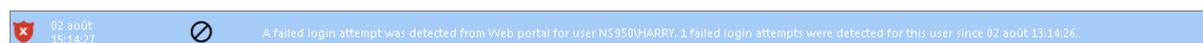


その完全なドキュメントを見つけることができます。 [このページで](#) .

## ロックアウトイベント

[TSplus ロックアウト](#) あなたのTSplusサーバーでのWebログイン試行の失敗を監視します。

TSplus Advanced Securityは、以下の例のようなWebポータルでの失敗した試行の後にロックアウトイベントを表示します。



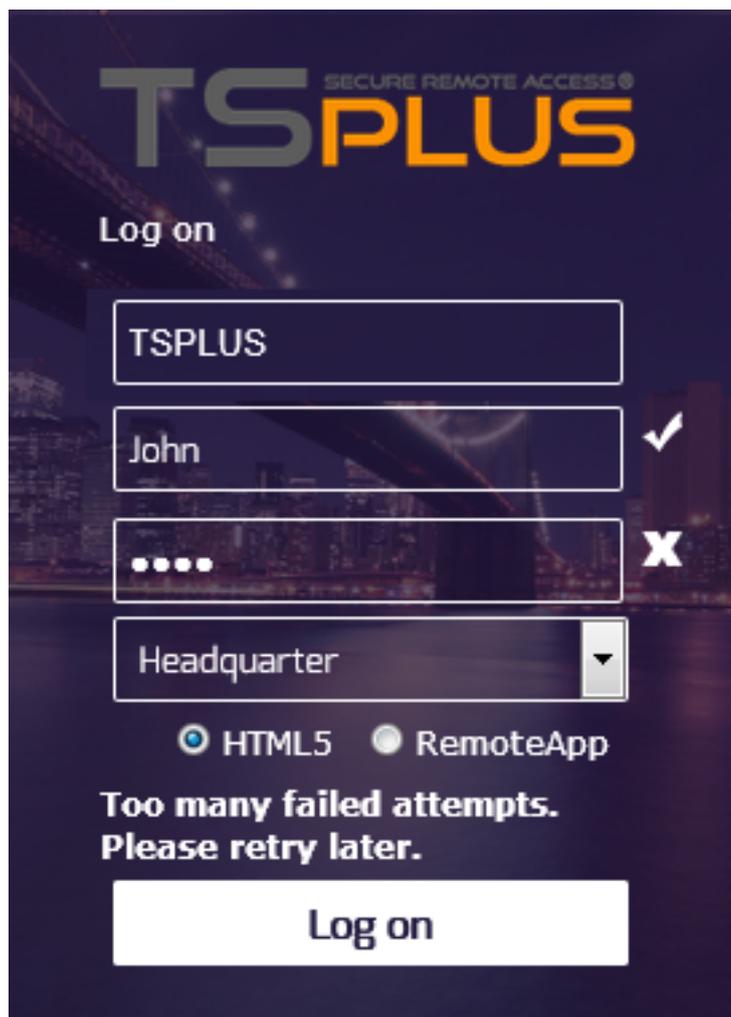
Webポータルからユーザー...に対して失敗したログイン試行が検出されました。このユーザーに対しては...1回の失敗したログイン試行が検出されました。

ブルートフォース保護により、ハッカー、ネットワークスキャナー、管理者のログインとパスワードを推測しようとするブルートフォースロボットから、あなたのパブリックサーバーを保護することができます。現在のログイン情報やパスワード辞書を使用して、彼らは毎分数百回から数千回、あなたのサーバーに自動的にログインを試みます。この機能の詳細については、[をご覧ください。](#)

## ウェブポータル

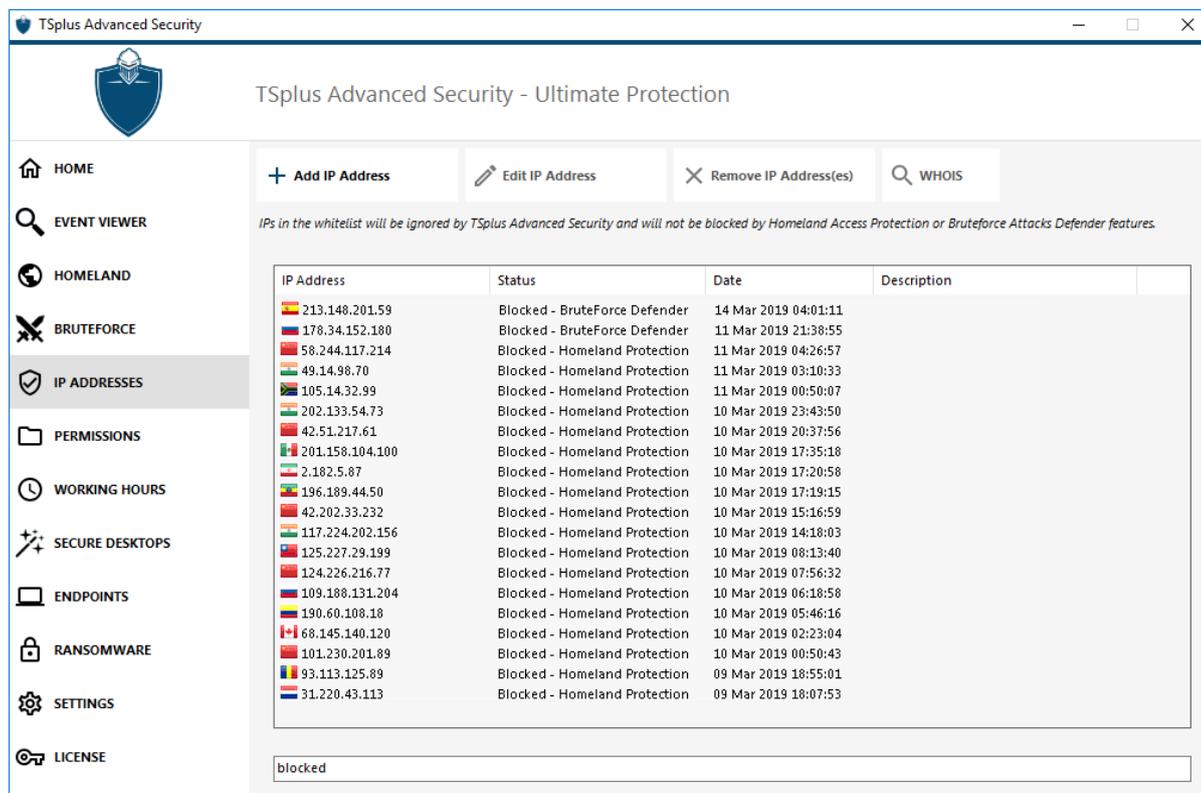
Webポータルへのブルートフォース攻撃は、ユーザーが誤った認証情報を入力したときにブロックされます。

10分間に10回の試行の後、Webポータルはユーザーのログオンを20分間禁止します。



これらは、のカスタマイズ可能なデフォルト設定です。 [BruteForce Protection タブ](#) TSplus Advanced Security AdminToolの。

TSplus Advanced Security Ultimate ProtectionのIPアドレススタイルで、すべてのブロックされた接続とログを確認できます。



The screenshot displays the 'IP ADDRESSES' section of the TSplus Advanced Security Ultimate Protection interface. The interface includes a sidebar with navigation options: HOME, EVENT VIEWER, HOMELAND, BRUTEFORCE, IP ADDRESSES (selected), PERMISSIONS, WORKING HOURS, SECURE DESKTOPS, ENDPOINTS, RANSOMWARE, SETTINGS, and LICENSE. The main content area shows a table of blocked IP addresses with columns for IP Address, Status, Date, and Description. A search bar with the text 'blocked' is visible at the bottom of the table area.

IP Address	Status	Date	Description
213.148.201.59	Blocked - BruteForce Defender	14 Mar 2019 04:01:11	
178.34.152.180	Blocked - BruteForce Defender	11 Mar 2019 21:38:55	
58.244.117.214	Blocked - Homeland Protection	11 Mar 2019 04:26:57	
49.14.98.70	Blocked - Homeland Protection	11 Mar 2019 03:10:33	
105.14.32.99	Blocked - Homeland Protection	11 Mar 2019 00:50:07	
202.133.54.73	Blocked - Homeland Protection	10 Mar 2019 23:43:50	
42.51.217.61	Blocked - Homeland Protection	10 Mar 2019 20:37:56	
201.158.104.100	Blocked - Homeland Protection	10 Mar 2019 17:35:18	
2.182.5.87	Blocked - Homeland Protection	10 Mar 2019 17:20:58	
196.189.44.50	Blocked - Homeland Protection	10 Mar 2019 17:19:15	
42.202.33.232	Blocked - Homeland Protection	10 Mar 2019 15:16:59	
117.224.202.156	Blocked - Homeland Protection	10 Mar 2019 14:18:03	
125.227.29.199	Blocked - Homeland Protection	10 Mar 2019 08:13:40	
124.226.216.77	Blocked - Homeland Protection	10 Mar 2019 07:56:32	
109.188.131.204	Blocked - Homeland Protection	10 Mar 2019 06:18:58	
190.60.108.18	Blocked - Homeland Protection	10 Mar 2019 05:46:16	
68.145.140.120	Blocked - Homeland Protection	10 Mar 2019 02:23:04	
101.230.201.89	Blocked - Homeland Protection	10 Mar 2019 00:50:43	
93.113.125.89	Blocked - Homeland Protection	09 Mar 2019 18:55:01	
31.220.43.113	Blocked - Homeland Protection	09 Mar 2019 18:07:53	

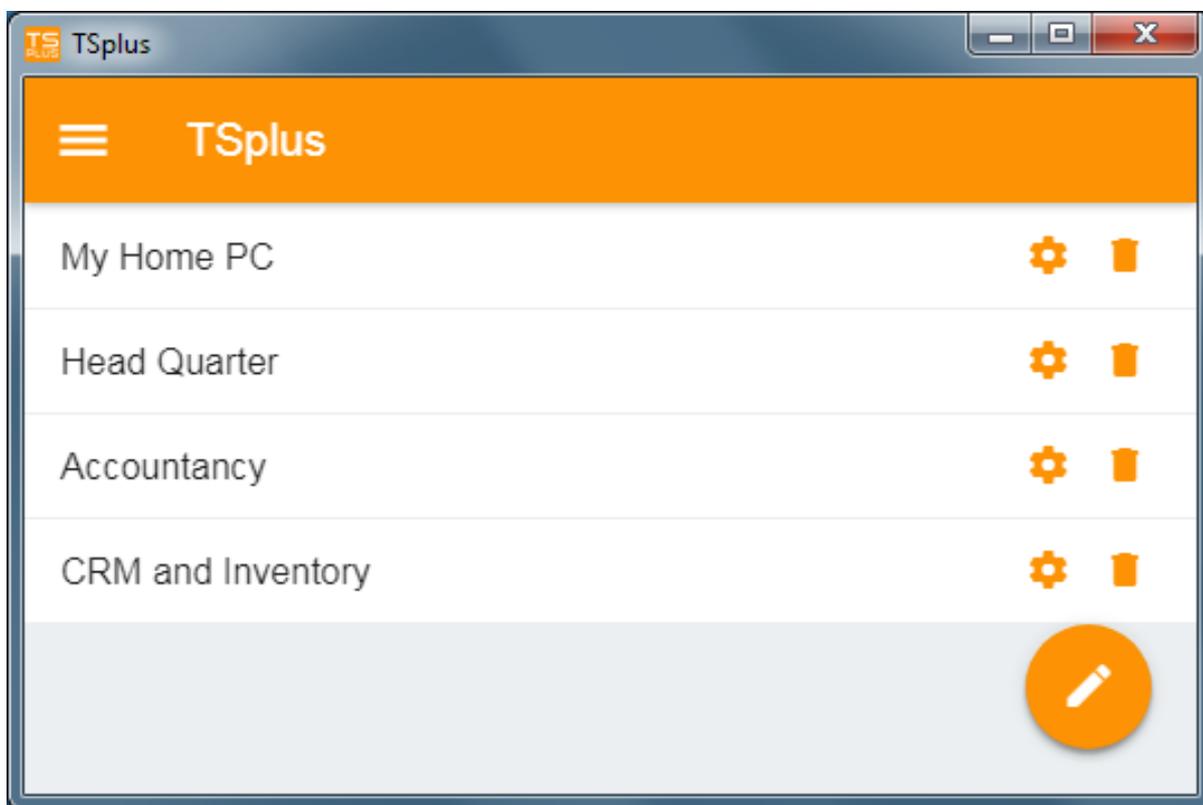
この機能は最初のWebポータル接続後に表示され、アクティブになります。

TSplus Advanced Securityの完全なドキュメントが利用可能です [このページで](#) .

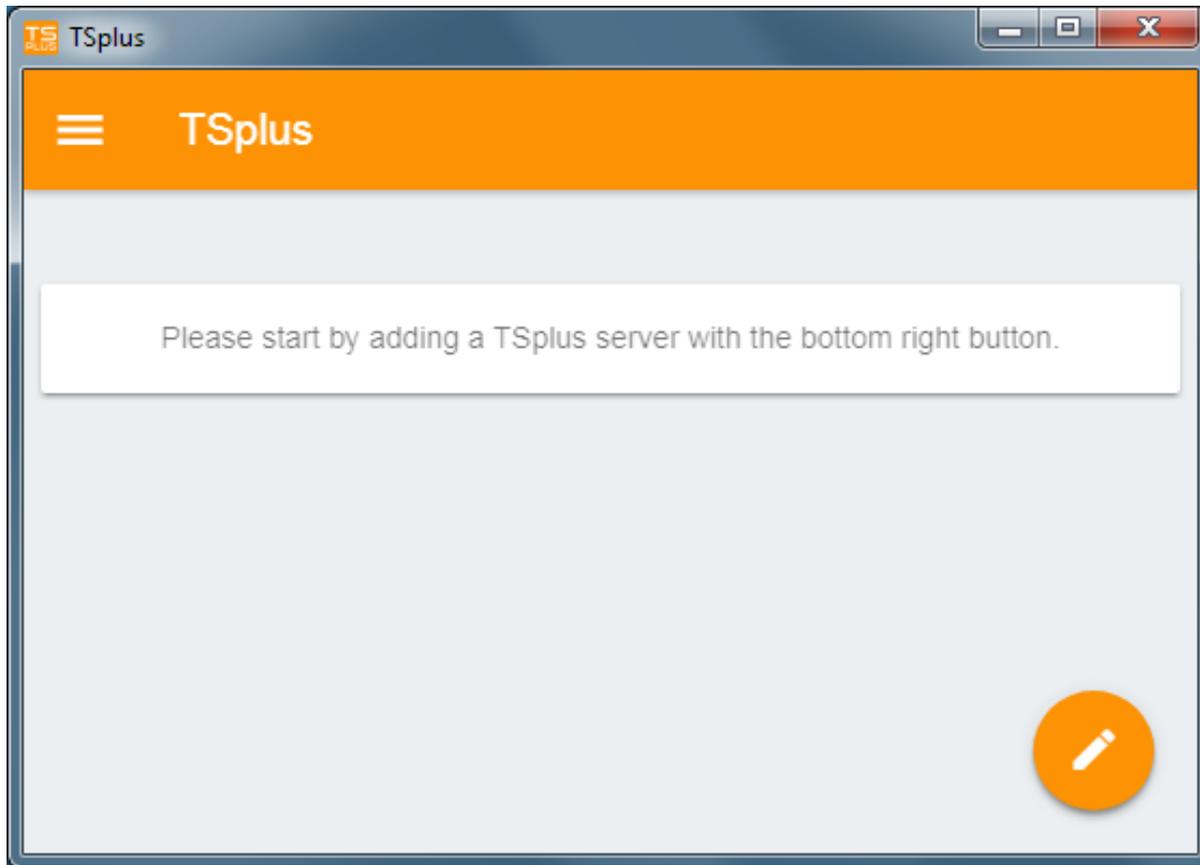
# TSplusアプリ設定

## サーバーを管理する

ユーザーインターフェースと設定はシンプルで直感的です。



まず、右下のボタンをクリックしてTSplusサーバーを追加します。

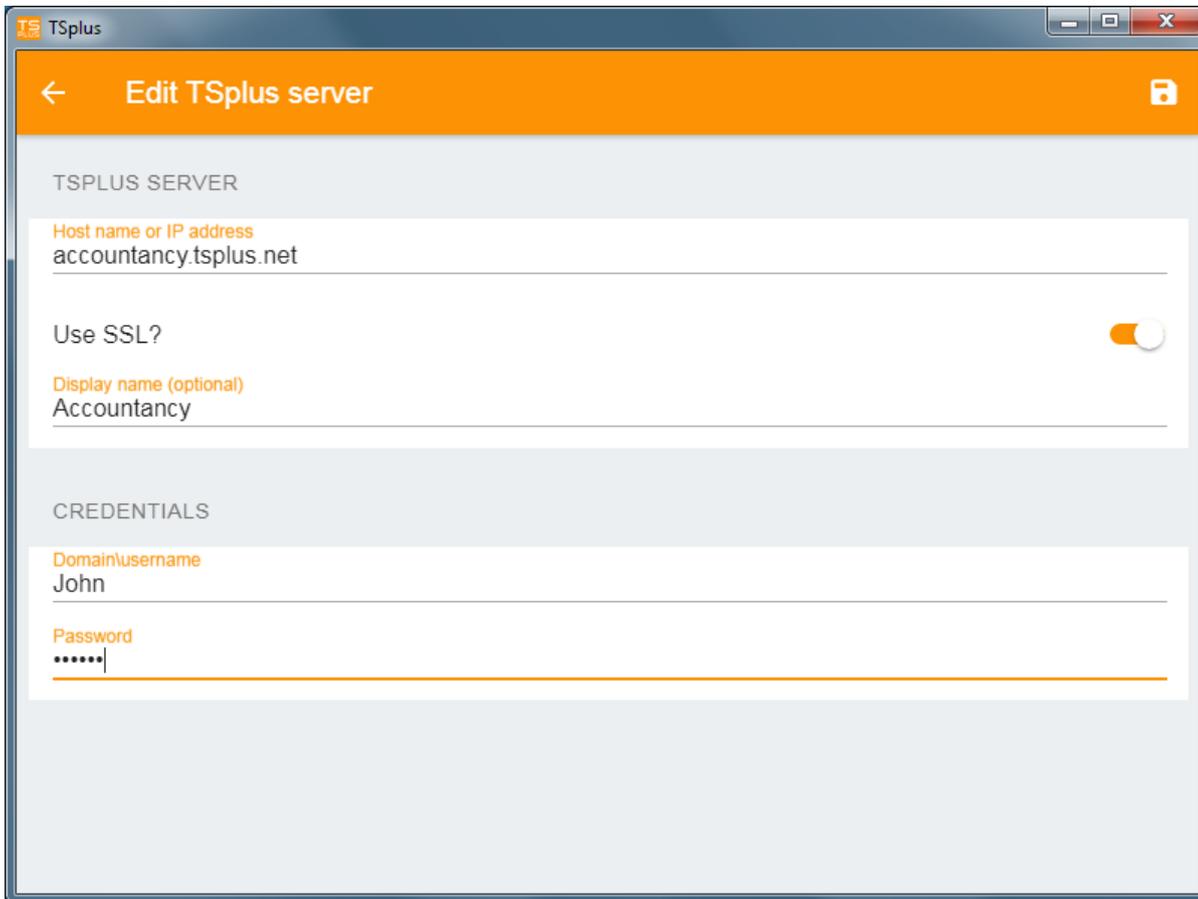


次に、サーバー情報を追加し、設定します:

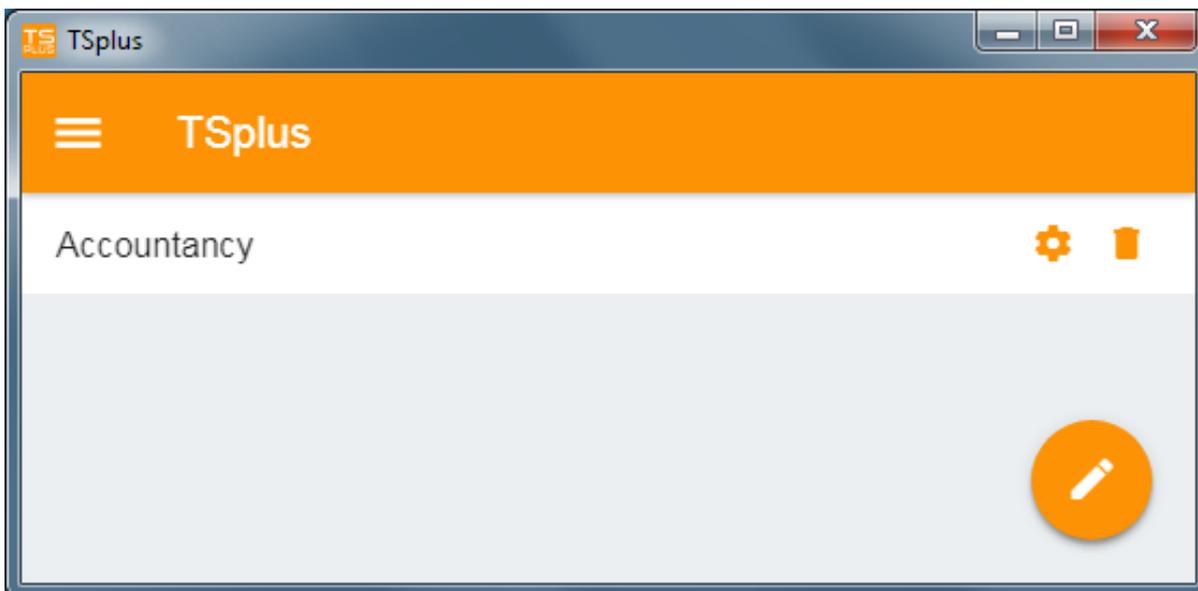
- ホスト名またはIPアドレスを入力してください。
- SSLはデフォルトで無効になっていますが、有効にすることを選択できます。

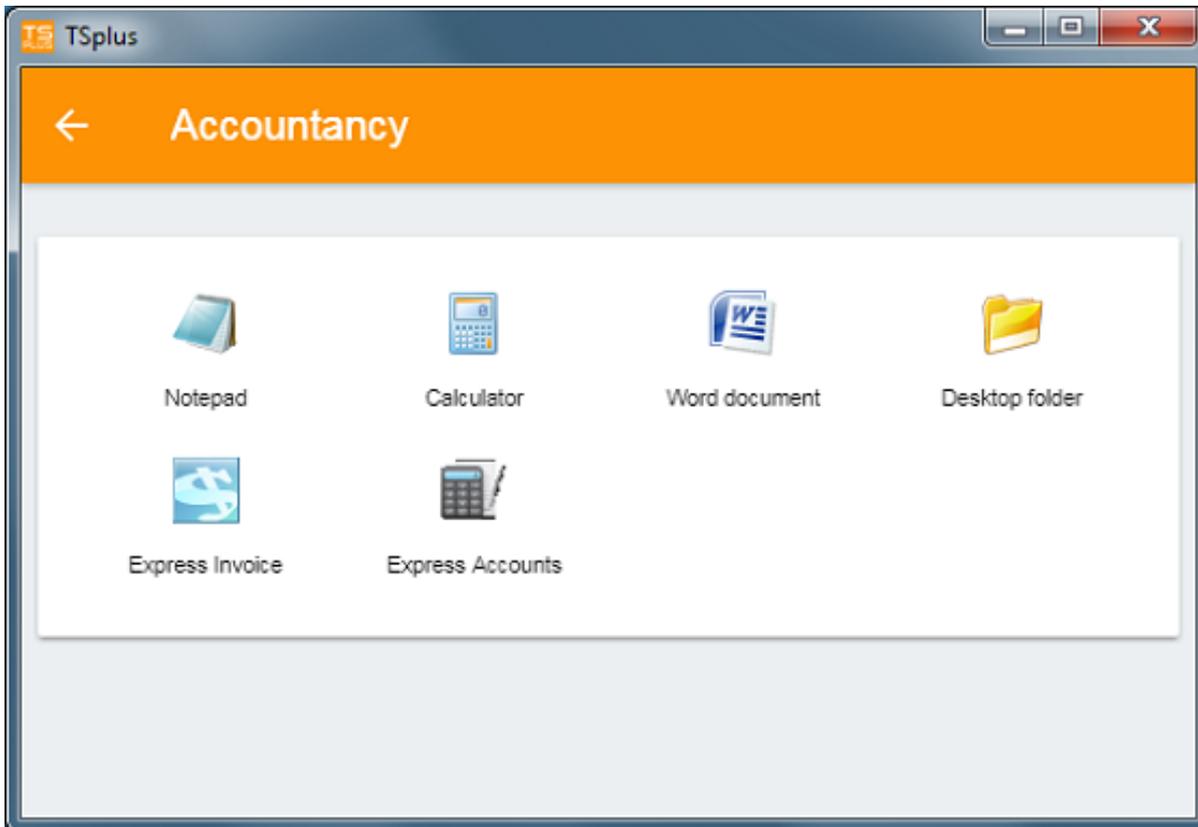
警告: SSLのアクティベーションは、TSplusサーバーに有効なSSL証明書をインストールした場合にのみ機能します。ご覧ください [このドキュメント](#) 詳細については。

- 表示名を入力してください (任意)。
- ユーザーの資格情報をドメインまたはユーザー名とそのパスワードで入力してください。
- HTTPSプロトコルを使用している場合は、設定されたアドレスにポートを入力する必要があります。 appportal.mydomain.com:443



右上のボタンをクリックして保存します。これで、アプリケーションにアクセスするためにサーバーをクリックできます。





## 印刷

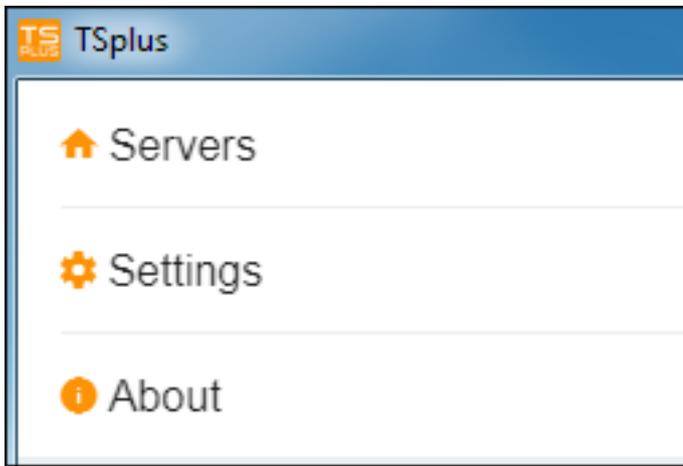
ローカルプリンターを使用して簡単に印刷できます。 [ユニバーサルプリンター](#)。

TSplus App 11.40バージョン以降、印刷された文書はデフォルトのPDFリーダーアプリで開きます。

## 設定とバージョン

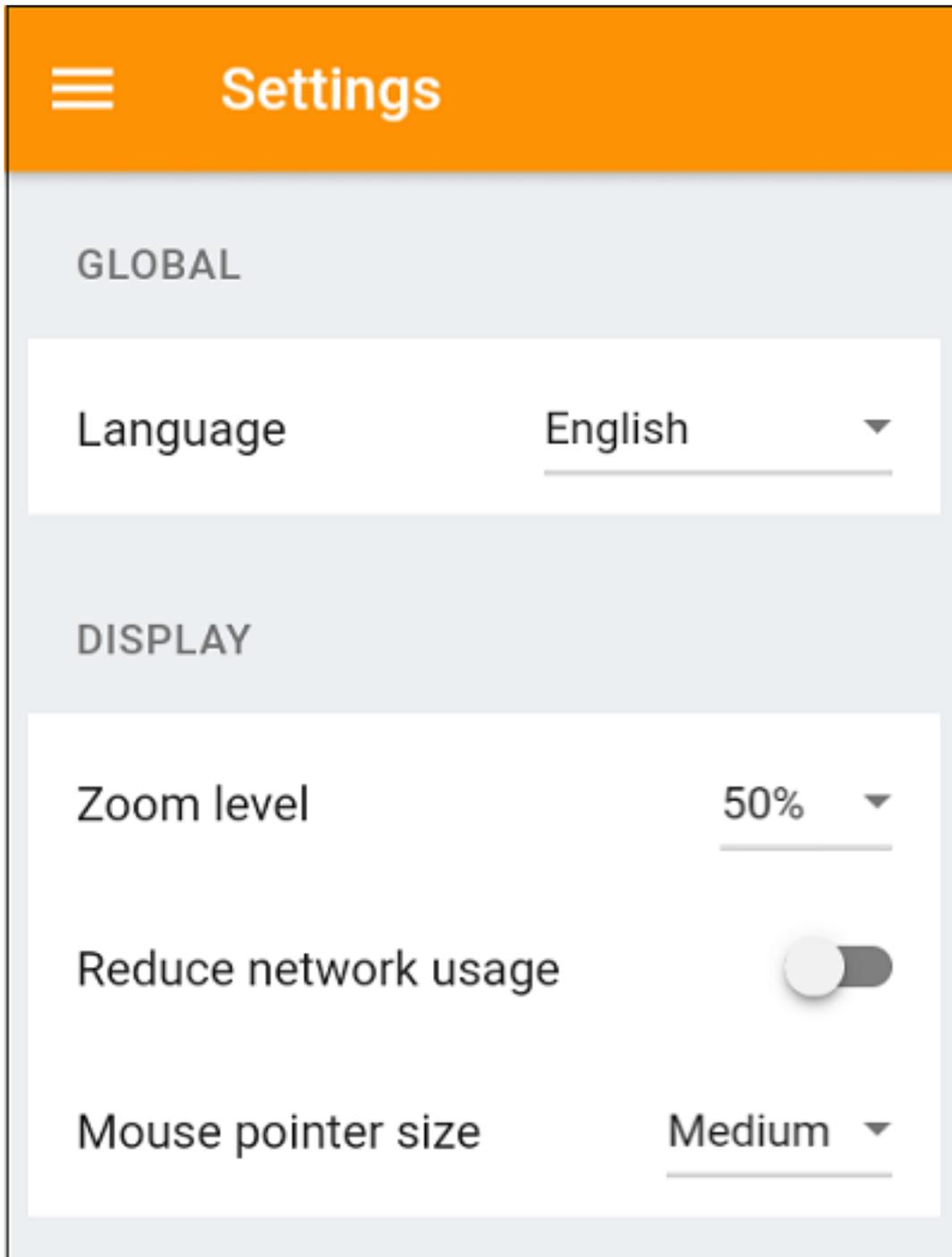
左上のメニューの下で、次のことができます:

- サーバーを管理する
- 設定を管理する
- 法的情報は「About」セクションで確認し、あなたのTSplusアプリのバージョンを確認してください。



## 設定

設定ウィンドウにはさまざまな設定が利用可能です。



- 言語を変更できます。
- 表示設定を変更して、ズームレベルをお好みに合わせて調整し、ネットワーク使用量を減らすか、3つのマウスポインタサイズ（小、中、大）から選択してください。

## 2FA認証

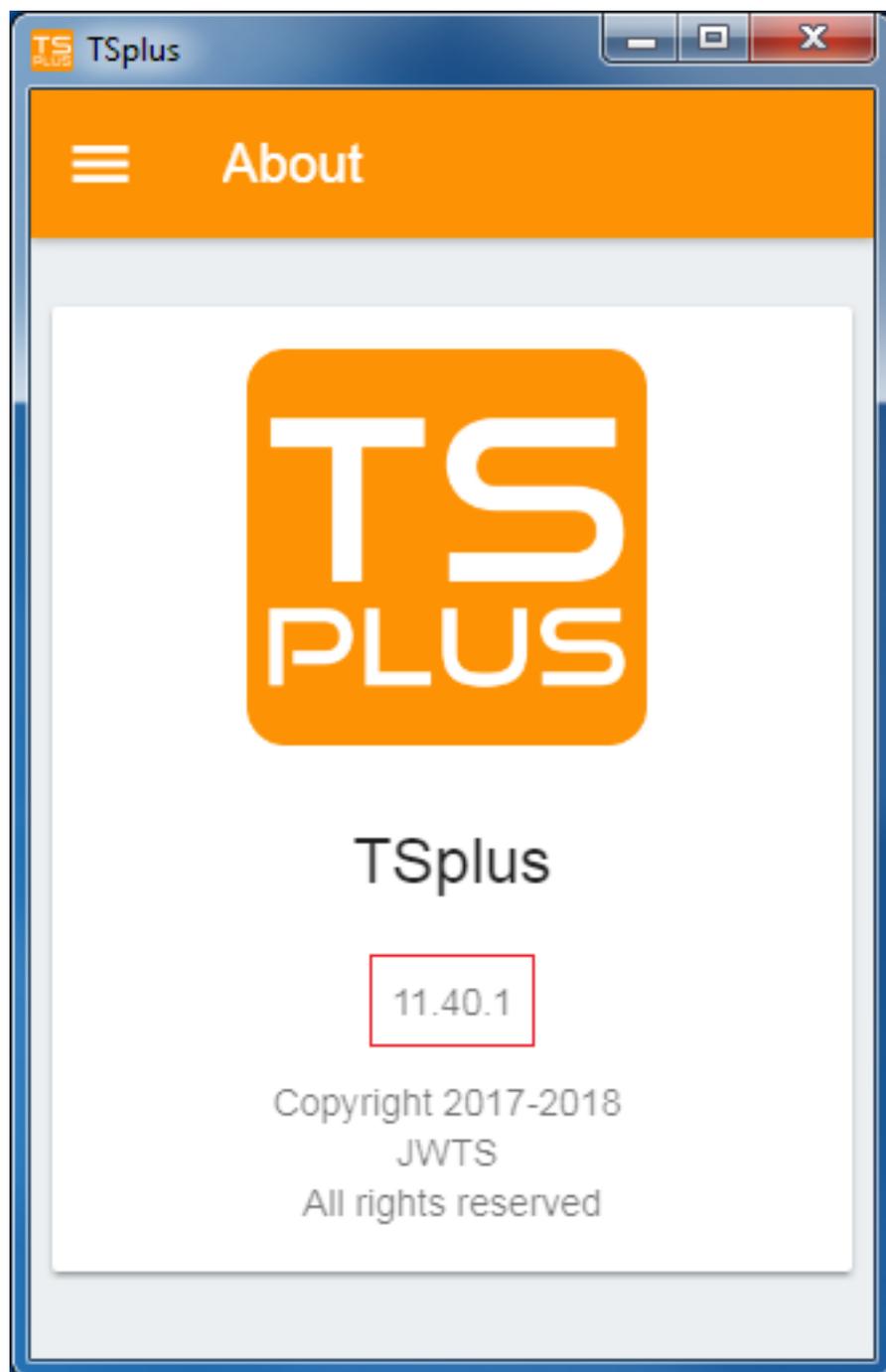
Androidアプリは2FAに対応しています。

アプリは、ユーザーアカウントが2FAを使用するように設定されている場合、2FAコードを要求します。

モバイルアプリからのアクティベーションはできません。まず、ウェブポータルから2FAを設定する必要があります。

## バージョン

「About」タブでは、法的情報と現在のTSplusアプリのバージョンを確認できます。





# TSplusアプリ

TSplusアプリを使用すると、どのデバイスからでも、どこでもTSplusサーバーに接続できます！

TSplusと同様に、タブレットやスマートフォンからWindowsデスクトップやビジネスアプリケーションへの迅速で安定したリモート接続を提供します。

アプリケーションやビジネスデータにリアルタイムでアクセスし、必要なドキュメントや写真を最寄りのローカルプリンターで簡単に印刷できます。

TSplusアプリは2FAに対応しています。



詳細情報とダウンロードリンクについては、当社のウェブサイトのアプリページをご覧ください。

## ハードウェア要件とオペレーティングシステム

TSplusアプリは、以下のOSを搭載したモバイルデバイスおよびタブレットで利用可能です：  
iOS、Android 4.4以降、Linux。

[Androidバージョン](#)

[iOSバージョン](#)

## 前提条件

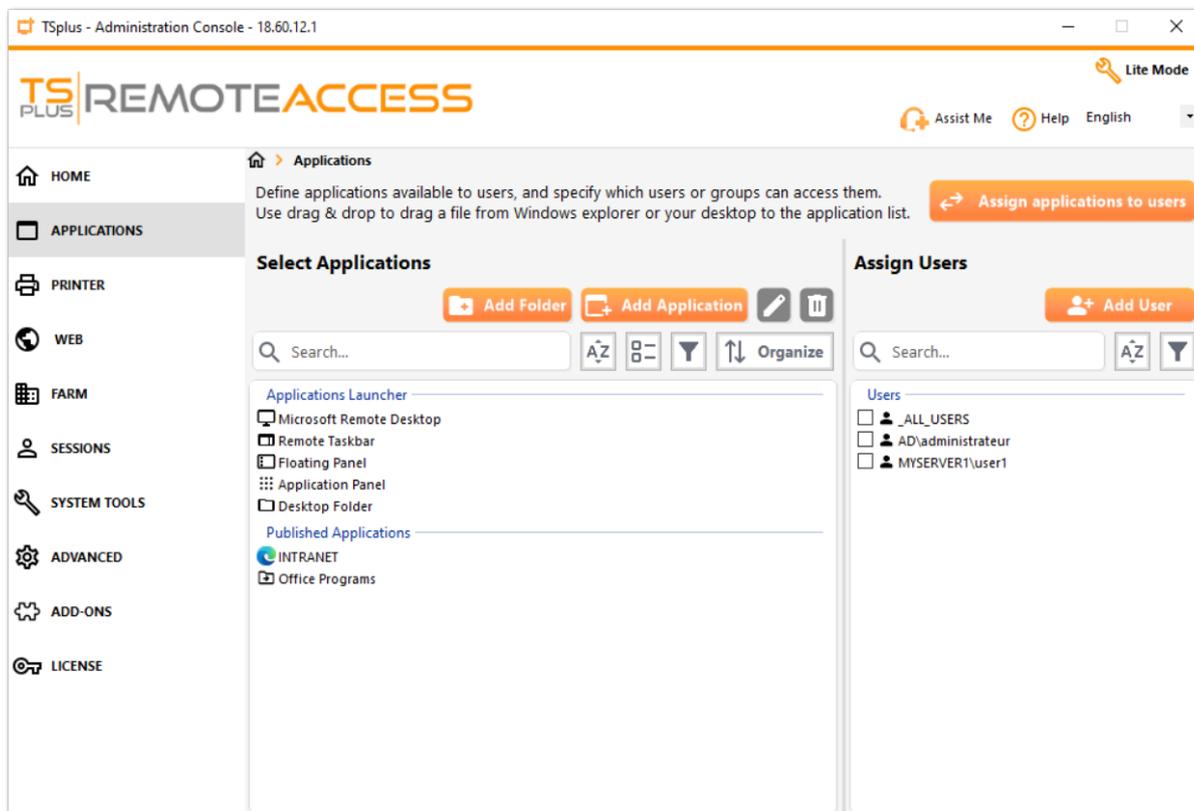
- ホストサイトはTSplus Mobile WebまたはEnterpriseシステムでなければなりません。
- このホストに11.30以上のリリースをインストールする必要があります。

# ユーザーまたはグループへのアプリケーションの割り当て

一度あなたが [いくつかのアプリケーションを公開しました](#)、これらを1人以上のユーザーおよび/またはグループに割り当てることができます。

## アプリケーションにユーザーまたはグループを割り当てる

すべての割り当ては、AdminToolの「アプリケーション」セクションの右側パネルで行う必要があります。この右側パネルには、現在アプリケーションが割り当てられているすべてのユーザーとグループが表示されます。

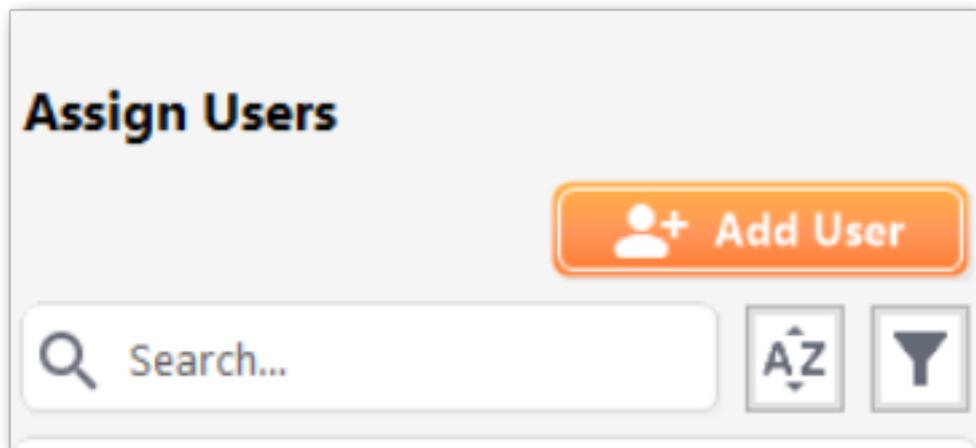


ユーザーまたはグループを割り当てるには、まずアプリケーションを割り当てたいユーザー/グ

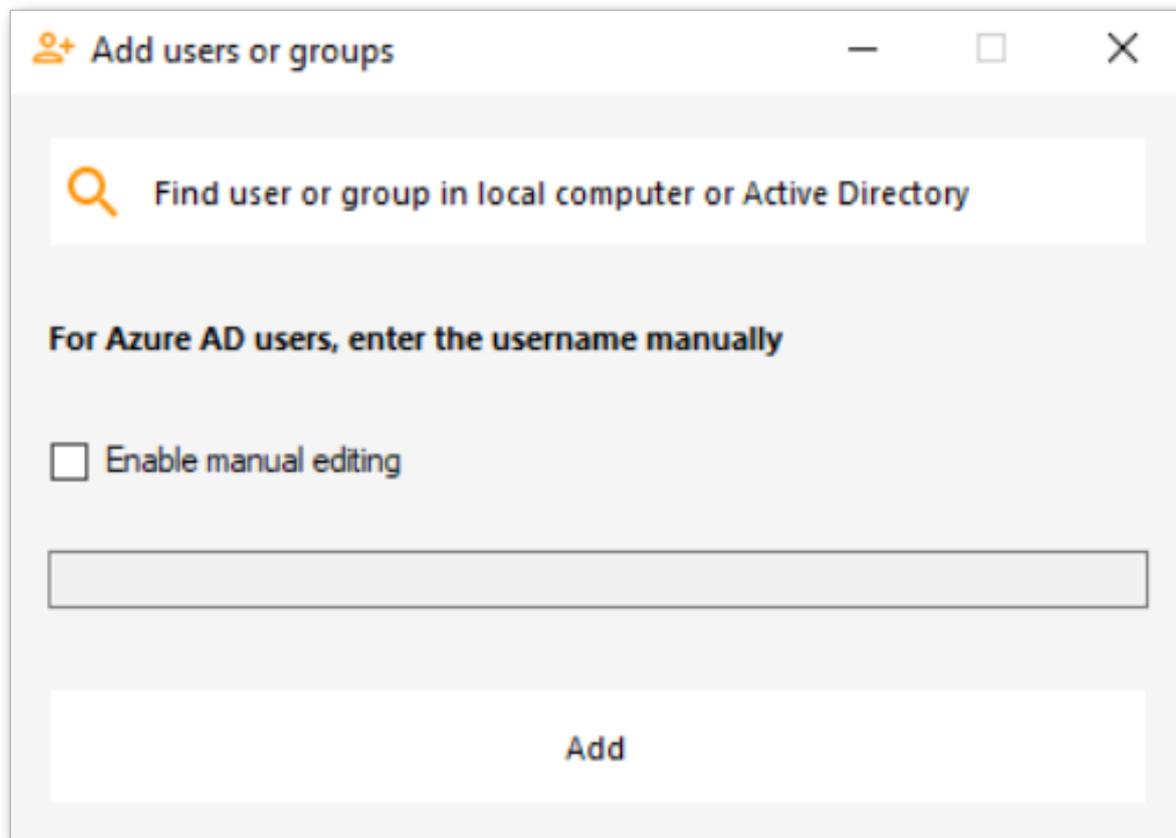
ループを追加する必要があります。

## ユーザーまたはグループを追加

ユーザーまたはグループを追加するには、「ユーザーを追加」アイコンボタンをクリックしてください。



このインターフェースが表示され、ユーザー/グループピッカーを使用してユーザーまたはグループを見つけるか、追加したいユーザー/グループの名前を直接入力することができます。  
ローカルまたはActive Directoryユーザーは、ローカルまたはActive Directoryユーザーまたはグループを検索するボタンを使用して選択する必要があります。  
外部ユーザーのみがテキストボックスに直接入力できます。



## \_ALL\_USERS 特殊ユーザー名

ユーザーのリストには、常に「\_ALL\_USERS」ユーザーが利用可能です。このユーザーは Windows ユーザーではなく、仮想ユーザーです。アプリケーションを選択し、「\_ALL\_USERS」ユーザー名にチェックを入れると、そのアプリケーションはすべてのユーザーが利用できるようになります。

## アプリケーションにユーザーまたはグループを割り当てる

ユーザーが追加されたら、アプリケーションを割り当てます。

1. 左側のパネルでユーザーに割り当てたいアプリケーションを選択する
2. 右側のパネルで、選択したアプリケーションをそのユーザーに割り当てるために、彼のユーザー名の隣にあるボックスをチェックします。

ユーザー「benjamin」にノートパッドを割り当てたい場合は、左側の「notepad」アプリケーションを選択し、右側のユーザー名「benjamin」の隣にあるチェックボックスをオンにします。

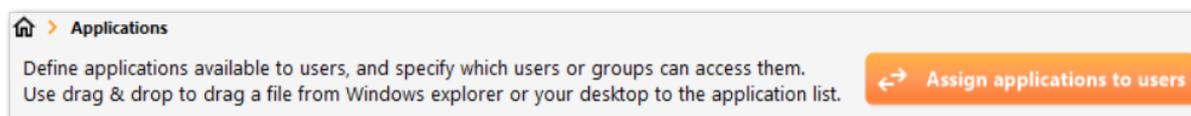
ユーザーの割り当てを解除するには、ユーザー名の横にあるボックスのチェックを外すだけです。

このアクションは複数選択をサポートします

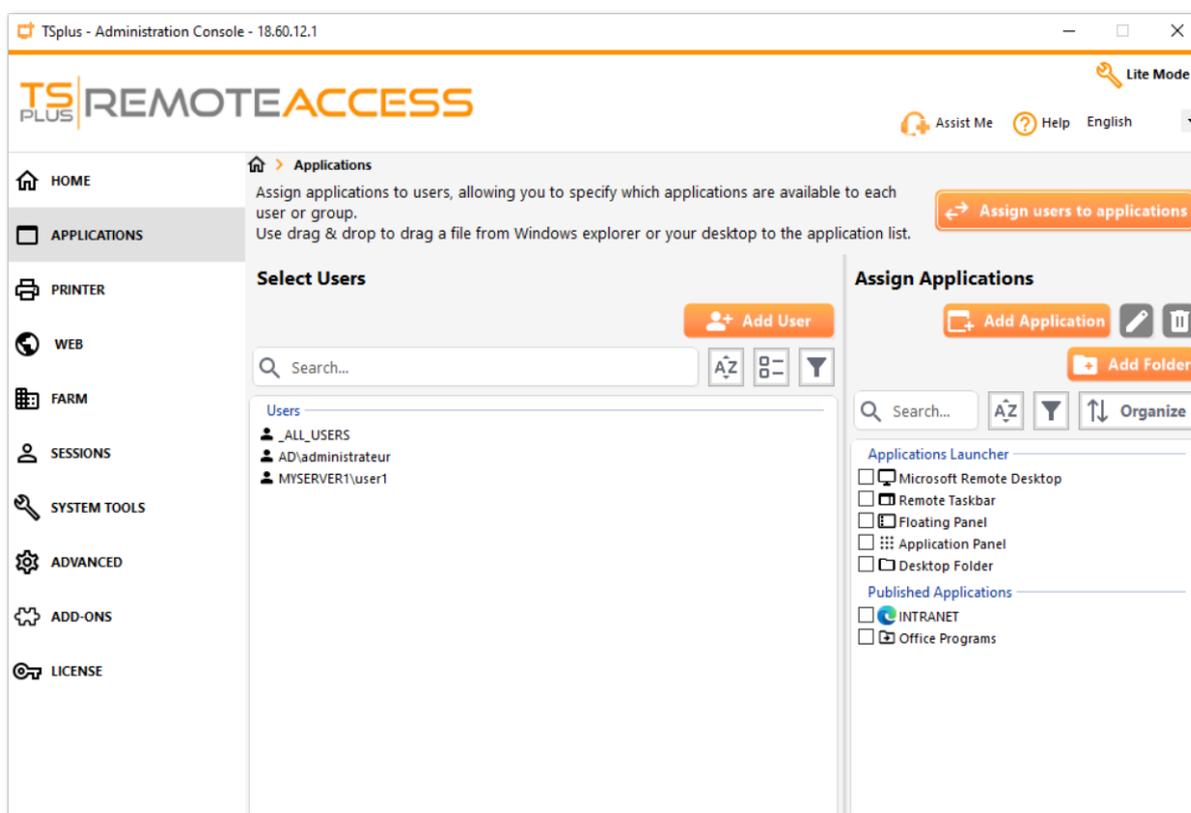
これにより、複数のアプリケーションを選択でき、アプリケーションを1つずつ割り当てる必要がなくなります。

## ユーザーまたはグループにアプリケーションを割り当てる

ユーザーやグループを選択してアプリケーションを割り当てたい場合は、「ユーザーにアプリケーションを割り当てる」をクリックすることで行えます。



これにより、左側と右側のパネルが反転します。



ボタンをクリックした後、ユーザーにアプリケーションを割り当てるために:

1. 左のパネルでアプリケーションに割り当てたいユーザーまたはグループを選択します。
2. 右側のパネルで、選択したユーザーまたはグループをそのアプリケーションに割り当てるた

めにアプリケーション名の隣にあるボックスをチェックします。

例えば、ユーザー「benjamin」にノートパッドを割り当てたい場合は、左側でユーザー「benjamin」を選択し、右側のアプリケーション名「notepad」の横にあるチェックボックスをオンにします。

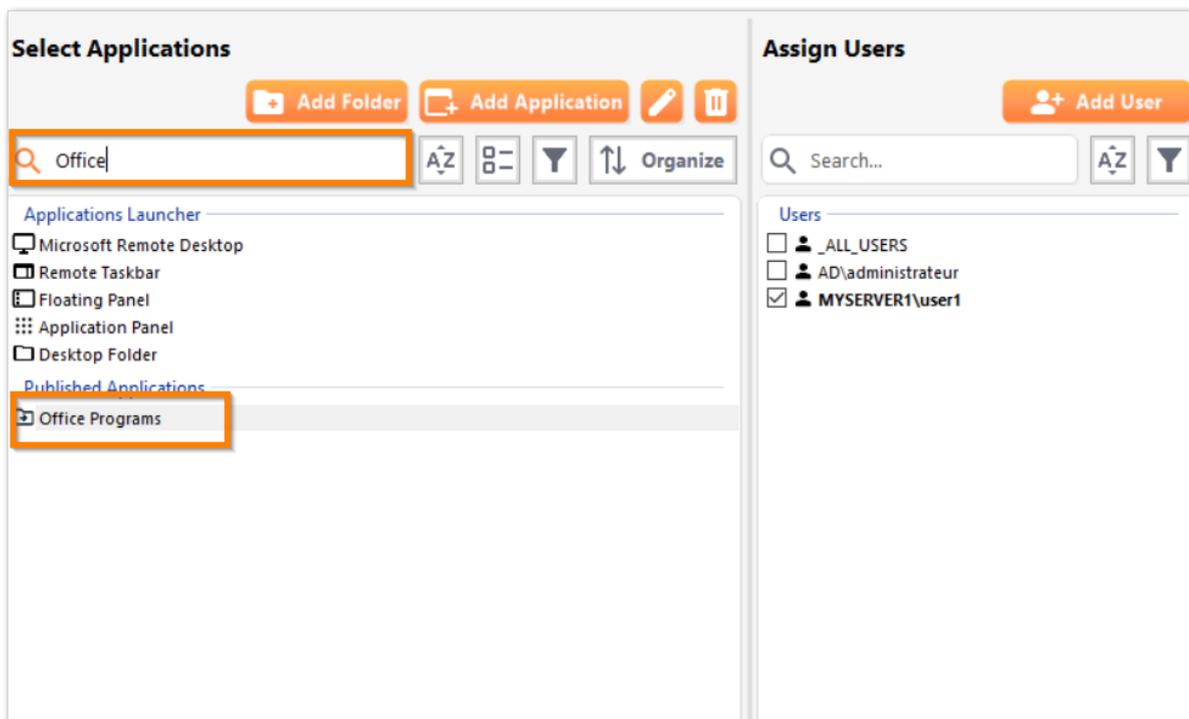
アプリケーションの割り当てを解除するには、アプリケーション名の横にあるボックスのチェックを外すだけです。

**このアクションは複数選択をサポートします**

これにより、複数のユーザーを選択でき、ユーザーを1人ずつ割り当てる必要がなくなります。

## 検索とフィルター

ユーザーの割り当て管理を容易にするために、検索バーとフィルタリングボタンが利用可能であり、ユーザーのみ、またはグループのみを表示することができます。



フィルターボタンを使用して、割り当てられた/未割り当てのアプリケーション（またはビューを切り替えると割り当てられた/未割り当てのユーザー）のみを表示することもできます。これにより、アサインされたアプリケーションを持つユーザーが多数いる場合や、単に公開されたアプリケーションが多数ある場合に、アサインメントを管理するのに役立ちます。



# 内蔵ウェブサーバー管理

あなたのリモートデスクトップサーバーは、利用可能でアクセスしやすく、安全でなければなりません。だからこそ、TSplusはそのステータスと操作を簡単に管理できる組み込みのWebサーバーを利用しています。

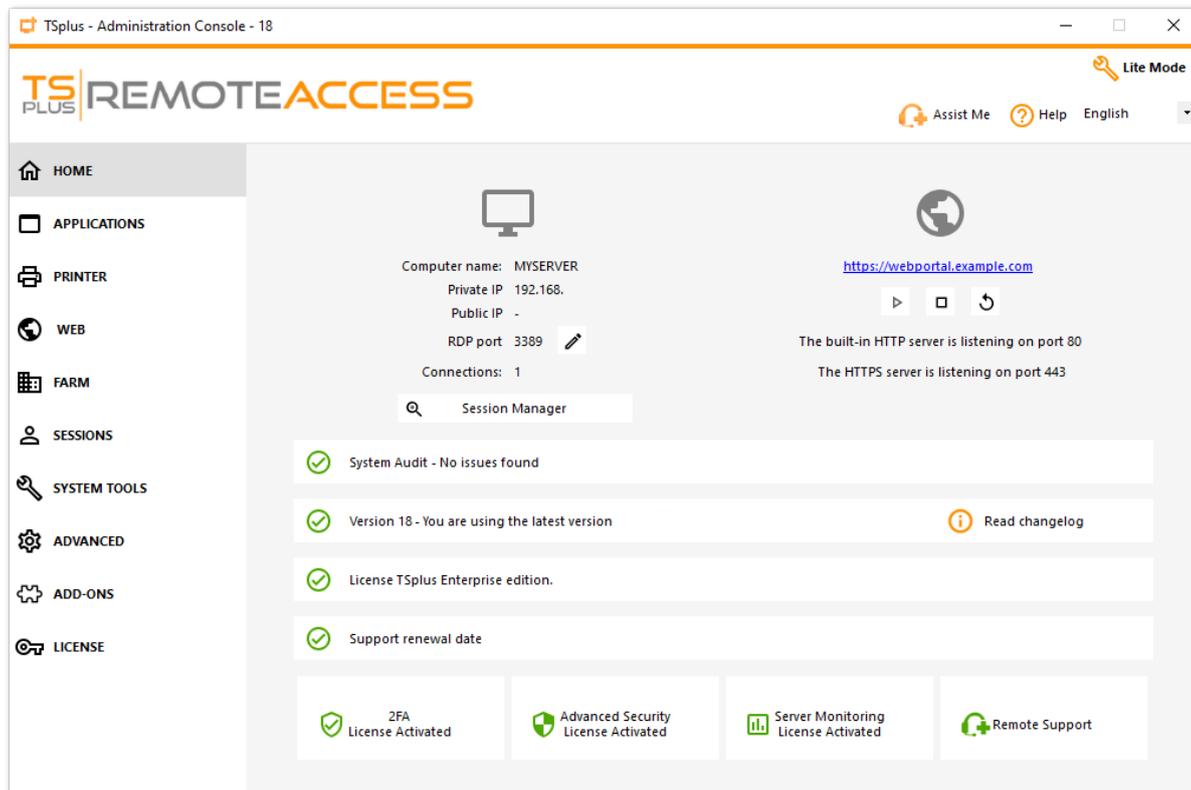
管理コンソールは管理者ツールに利用可能です。この管理コンソールを使用すると、Terminal Service Plusに組み込まれたWebサーバーの状態を表示および構成できます。

あなたが [TSplusをインストールする](#) ウェブサーバーはデフォルトでポート80と443でリッスンしています。定義されたポートが利用可能であり、サーバーにJavaがインストールされていることを確認してください。

見る [そのビデオ](#) Web機能について。

## ウェブサーバーコンポーネントのステータス

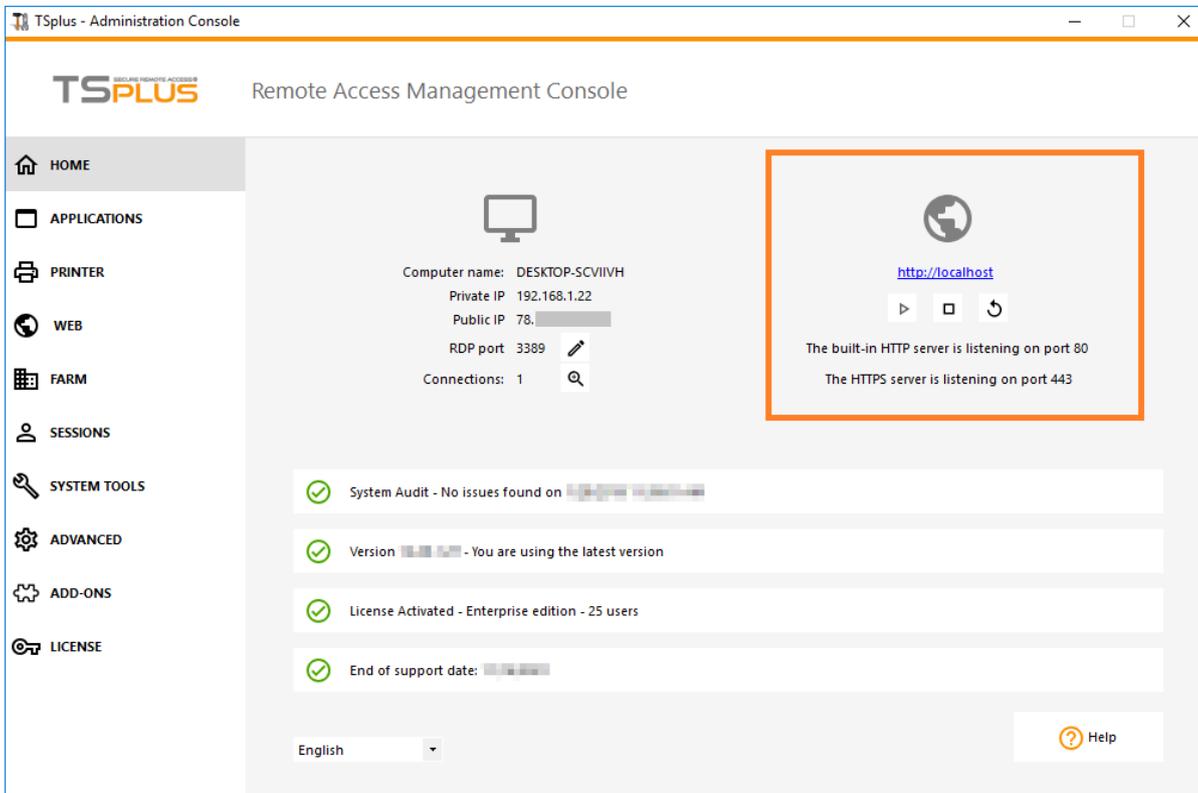
Webサーバーの主要コンポーネントのステータスは、AdminToolホームダッシュボードに表示されます。



## ポートの考慮事項 ( ローカルマシンとファイアウォール / ルーター )

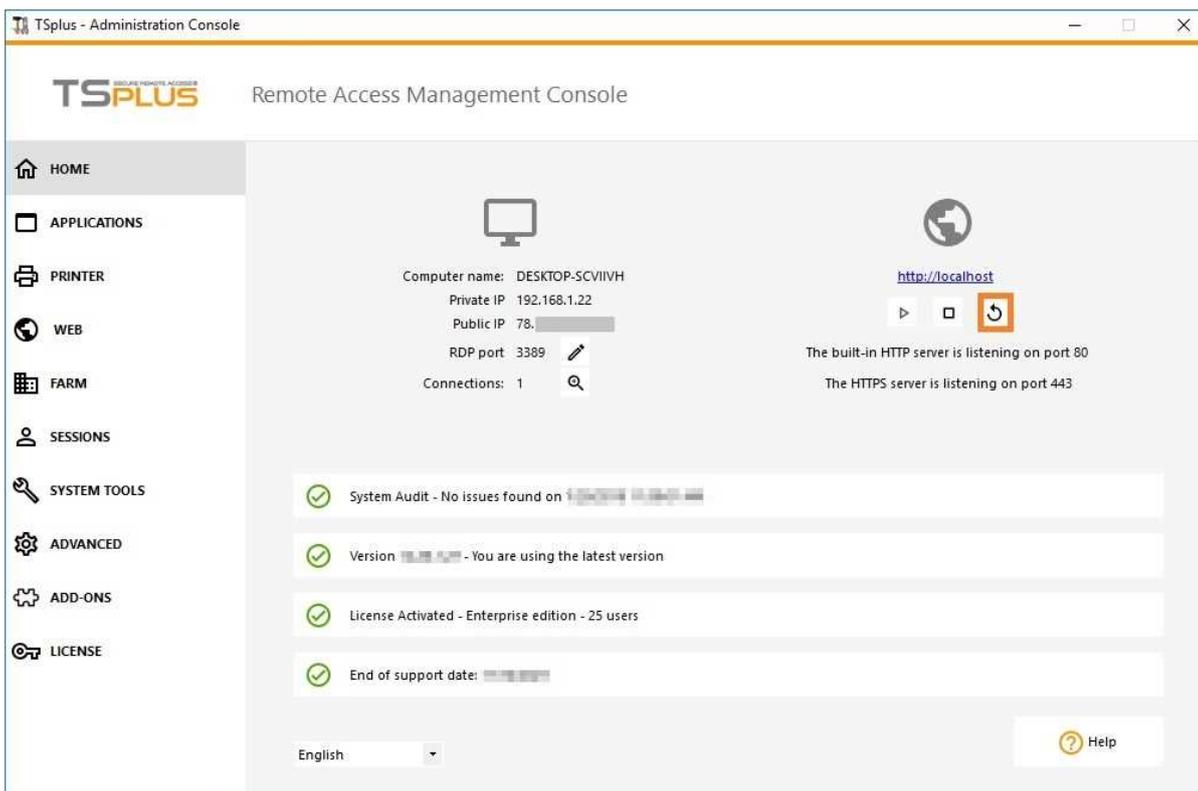
Terminal Service Plusは、ポート80またはポート443のいずれかを開く必要があります。

ポート3389は閉じたままで大丈夫です。

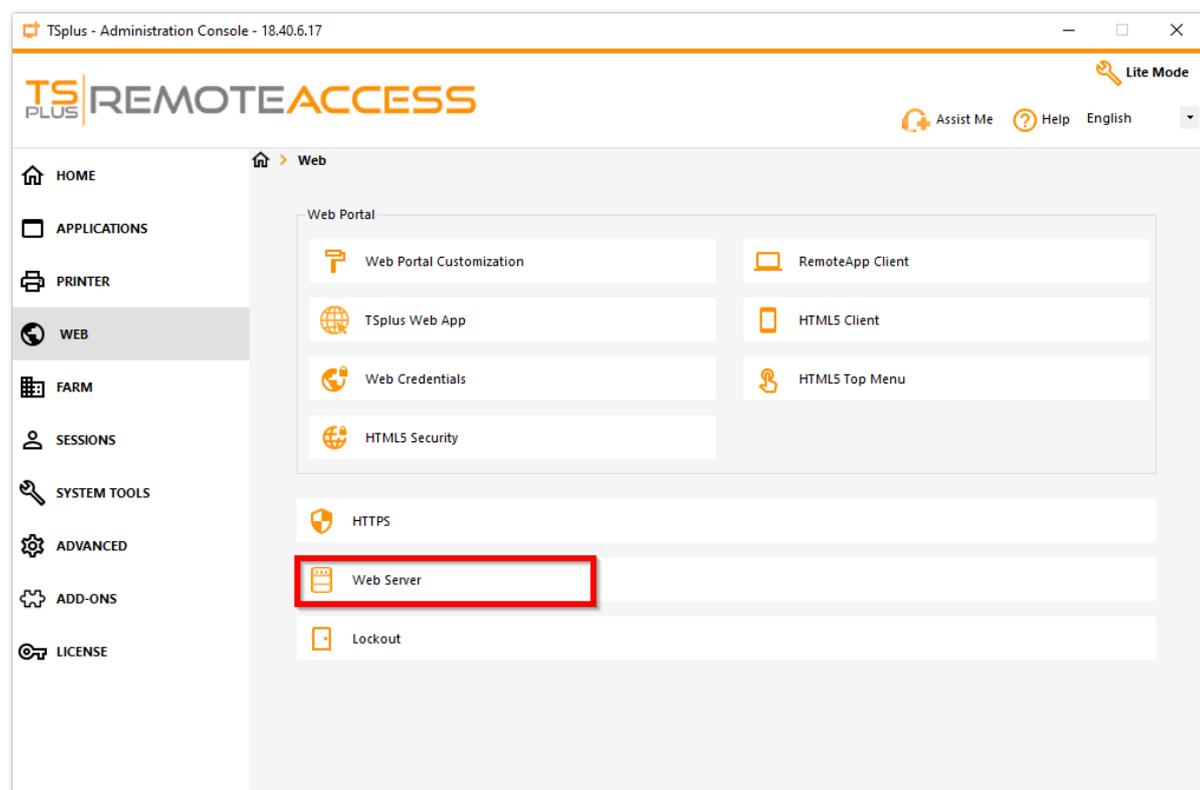
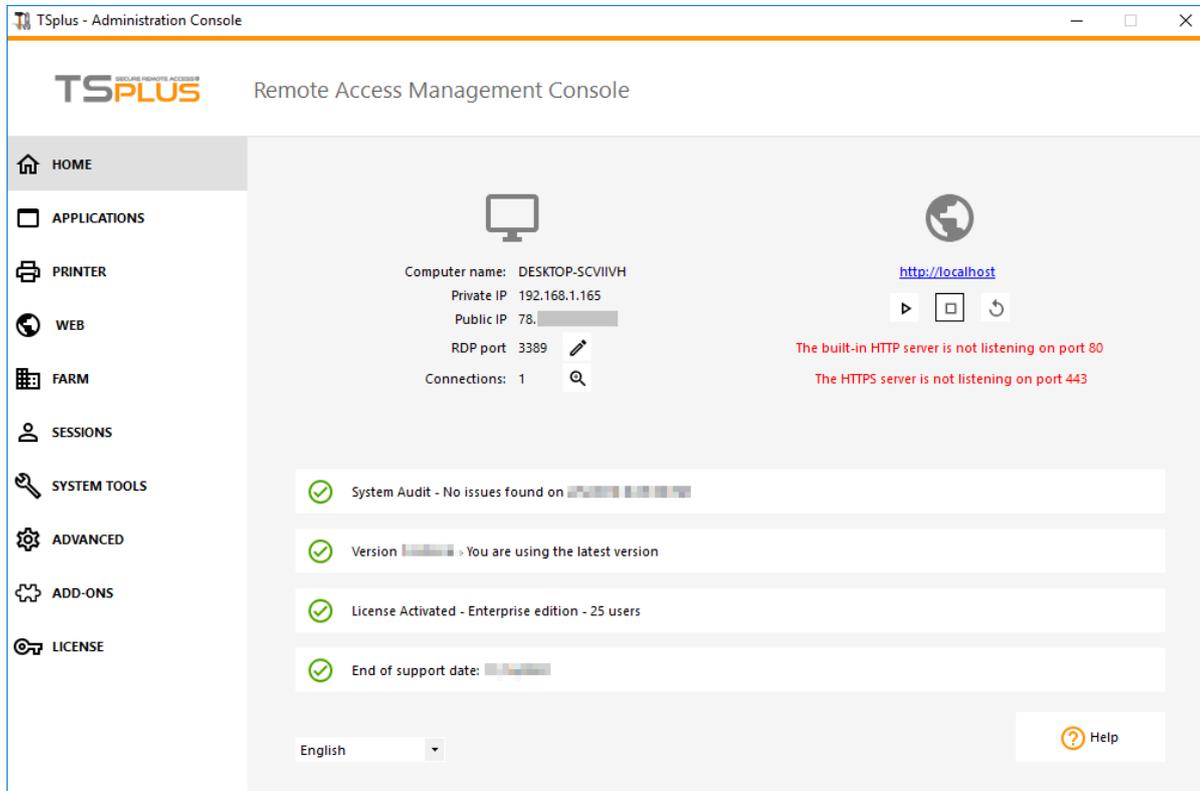


## ウェブサーバーサービスの再起動 / 停止

サービスが実行されていない場合は、右側の矢印で示されている「Webサーバーを再起動」ボタンをクリックしてWebサーバーを再起動する必要があります。Webサーバーが再起動され、サービスが再び実行されるはずですが。



「中央に配置された「Webサーバーを停止」ボタンをクリックすると、Webサーバーが停止します。HTTPおよびHTTPSサーバーのステータスは赤で表示され、HTTP / HTTPSサービスが停止していることを示します。」



インストール中またはいつでもWeb - Webサーバータブをクリックすることでポートを変更できます。このタブでは、異なるHTTPウェブサーバーを使用することを選択したり、WebサーバーのルートパスやHTTP/HTTPSポート番号を変更したりできます。これらのポートが変更する前に利用可能であることを確認してください。競合が発生した場合、TSplusウェブサーバーは動作しません。 [ここ](#) アプリケーションがサーバー上で使用する可能性のあるTCPポートの非網羅的なリストです。これらの変更を行ったら、保存をクリックし、AdminToolが再起動します。

###httpのみまたはhttps上のhttpを無効にする

見る [このドキュメント](#) このトピックに関する詳細情報について。

詳細情報について [サーバーのカスタマイズ](#) そして [設定](#) これらのページをご覧ください:

[ウェブポータルのカスタマイズ](#) , [ウェブアプリケーションポータル](#) , [ウェブ認証情報](#) .

# セキュリティを強化するための暗号スイートの選択

## 概要

TLS/SSL、HTTPSの背後にあるセキュリティは、接続を保護、暗号化、認証するためにいくつかの異なるアルゴリズムを使用できます。

アルゴリズムの選択は、サーバーとクライアントの間の合意によって決定され、各側で利用可能なアルゴリズムに依存します。

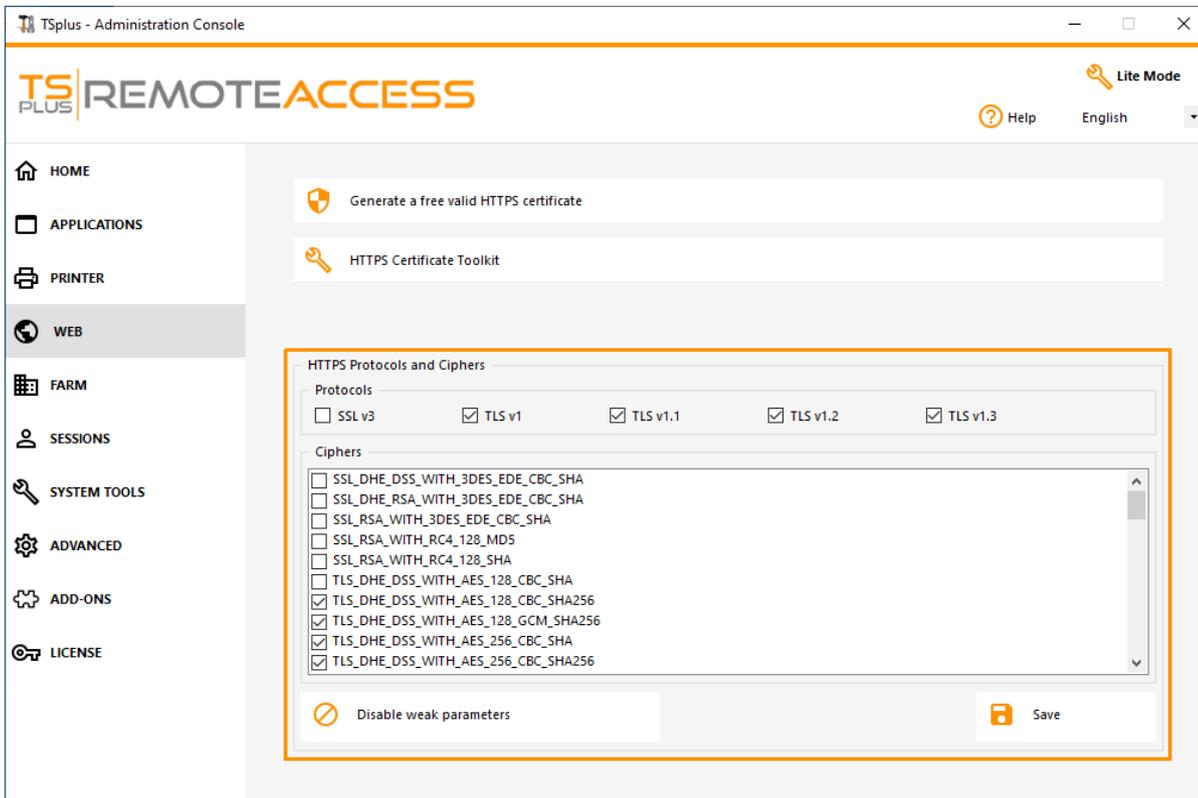
暗号スイートは、認証、暗号化、メッセージ認証、および鍵交換アルゴリズムの名前付きの組み合わせです。

Terminal Service Plusサーバーは、多くの異なる暗号スイートを処理できます。それらの中には他よりも安全なものもありますが、一部の古い/レガシーブラウザは接続するために比較的弱いアルゴリズムを必要とする場合があります。

これが、Terminal Service Plusが有効にしたい暗号スイートを選択できる理由です。もちろん、Terminal Service Plusには最も弱いアルゴリズムを無効にする簡単な設定もあり、接続のセキュリティを強化します。

## HTTPSプロトコルと暗号選択

Terminal Service Plusの暗号選択を表示するには、Terminal Service Plus AdminToolを開き、「Web - HTTPS」タブをクリックしてください。ここでHTTPSプロトコルと暗号が表示されます。



## 暗号スイートの有効化/無効化

暗号スイートのチェックボックスをオンにすることで簡単に有効にでき、オフにすることで無効にできます。

選択が完了したら、「保存」をクリックしてください。

これにより、選択内容が保存され、Terminal Service Plus内蔵のウェブサーバーで新しい構成が再読み込みされます。新しい暗号スイートの選択は、サーバーへのすべての新しい接続に即座に適用されます。

## 推奨暗号スイートの選択

ほとんどの管理者には、単に「弱いパラメータを無効にする」ボタンをクリックし、その後「保存」ボタンをクリックすることで、推奨される暗号スイートの選択を使用することをお勧めします。

この操作は、現在弱いと知られているすべての暗号スイートを無効にします。

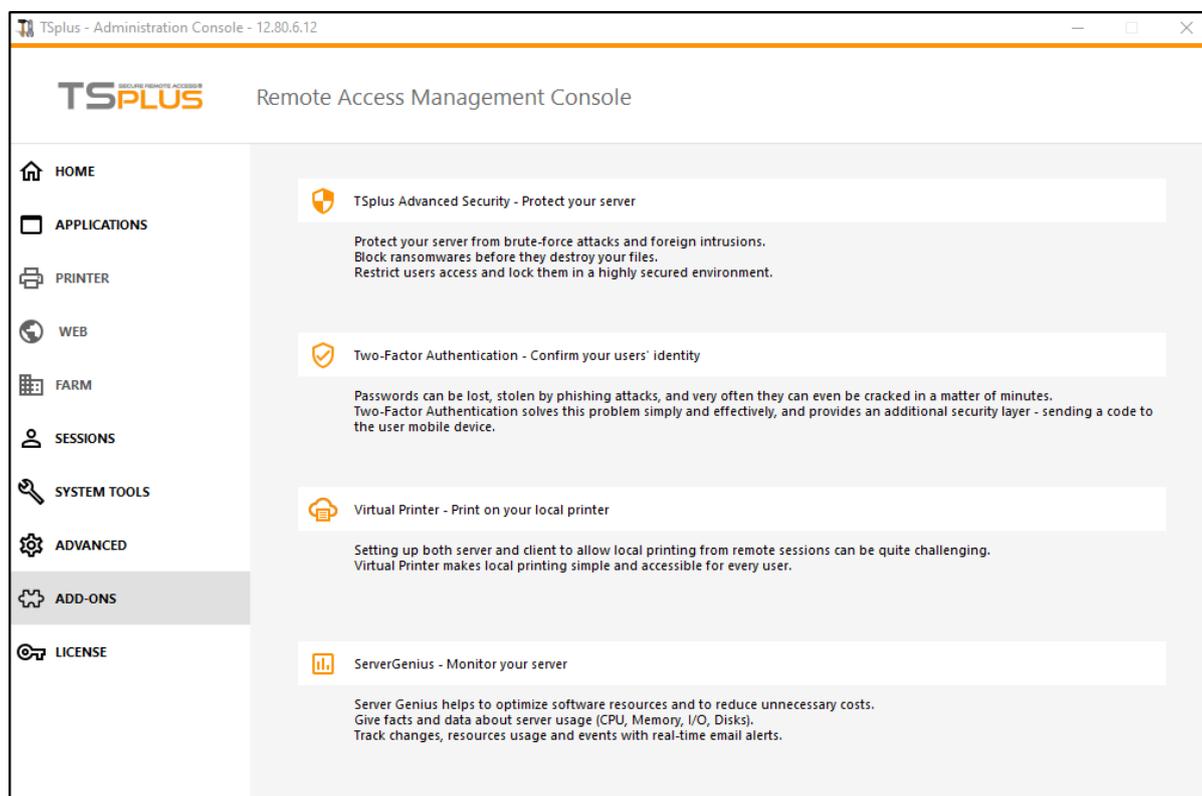
確認できます。 [SSL Labsオンラインテストツール](#) その弱い暗号スイートなしで、最大の評価を得るべきです: A!



# クリックしてヘルプ - 管理ツール - アドオン

Terminal Service Plus Admin Toolの機能について迅速にサポートを受けたいですか？

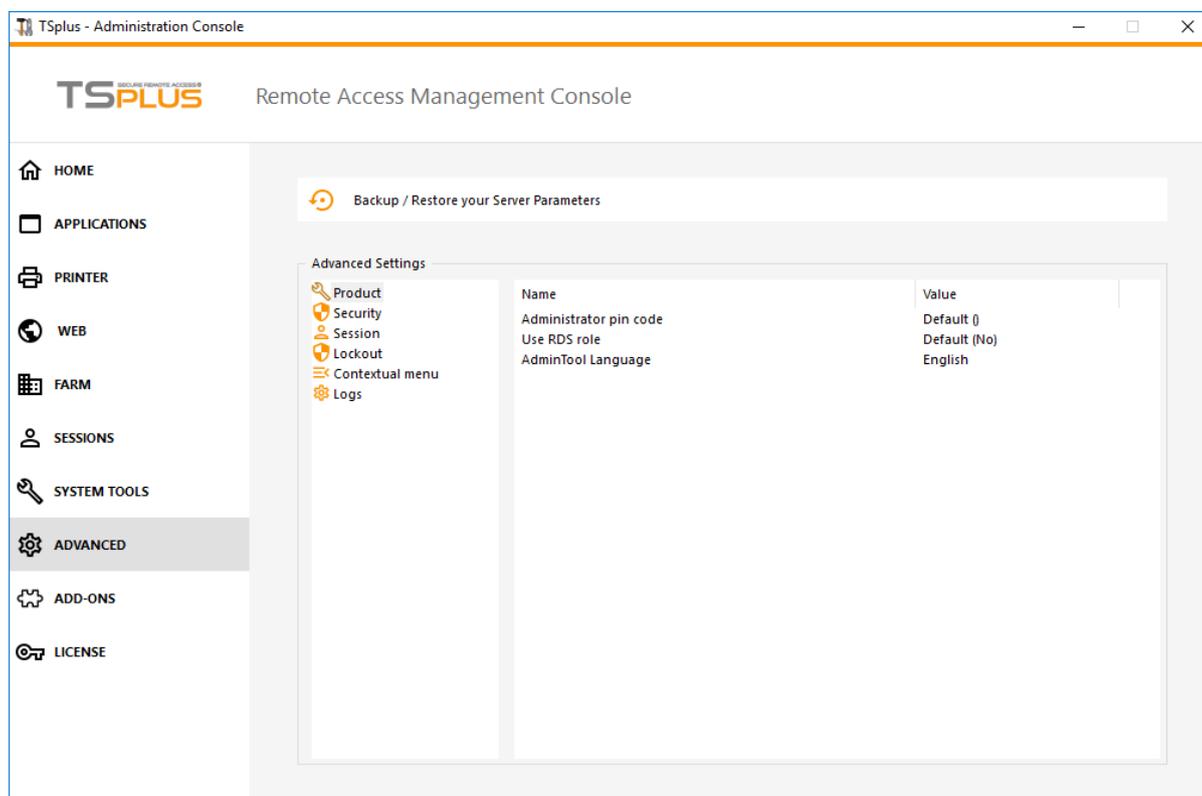
ただ **タイルまたはタブをクリックしてください** 一致するヘルプに移動する！



# クリックしてヘルプ - 管理ツール - 高度

Terminal Service Plus Admin Toolの機能について迅速にサポートを受けたいですか？

ただ タイルまたはタブをクリックしてください 一致するヘルプに移動する！



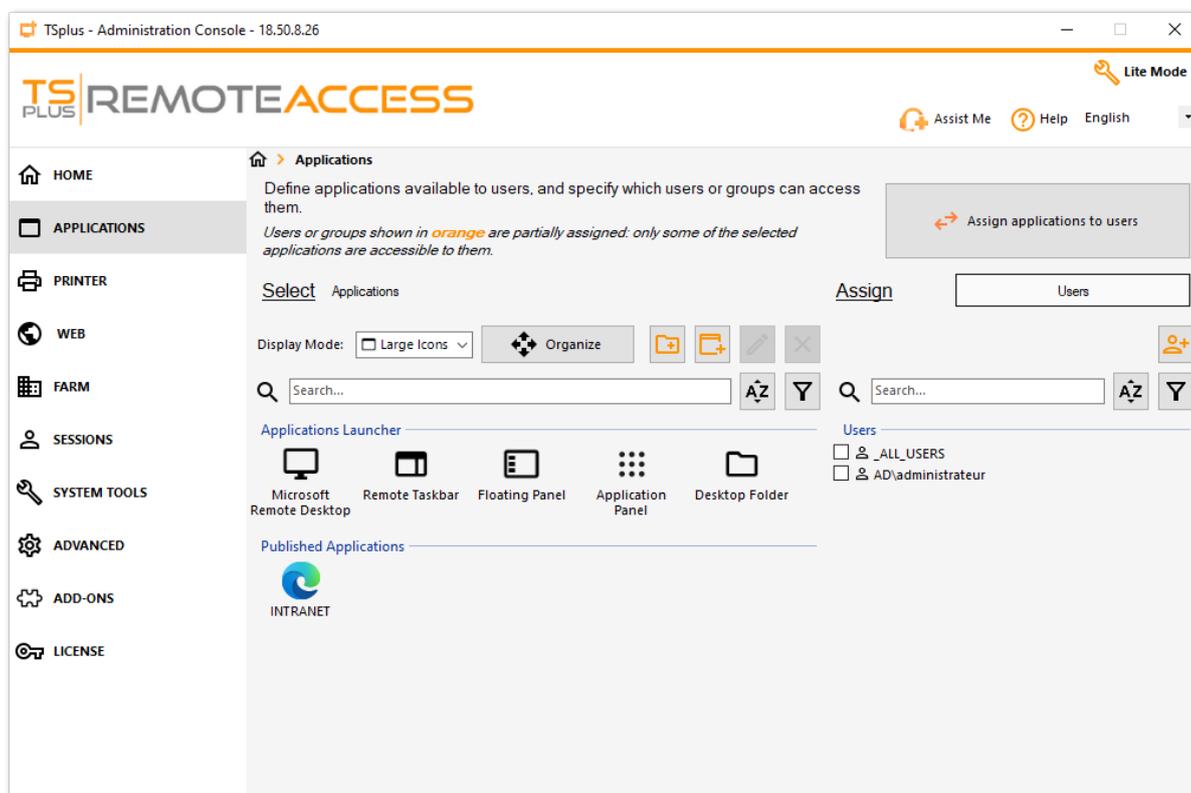
The screenshot shows the TSPLUS Administration Console interface. The title bar reads "TSplus - Administration Console". The main header includes the "TSPLUS" logo and the text "Remote Access Management Console". A left-hand navigation menu lists several categories: HOME, APPLICATIONS, PRINTER, WEB, FARM, SESSIONS, SYSTEM TOOLS, **ADVANCED** (highlighted), ADD-ONS, and LICENSE. The main content area features a "Backup / Restore your Server Parameters" button at the top. Below it, the "Advanced Settings" section is displayed as a table with three columns: "Product", "Name", and "Value".

Product	Name	Value
Security	Administrator pin code	Default ()
Session	Use RDS role	Default (No)
Lockout	AdminTool Language	English
Contextual menu		
Logs		

# クリックしてヘルプ - 管理ツール - アプリケーション

Terminal Service Plus Admin Toolの機能について迅速にサポートを受けたいですか？

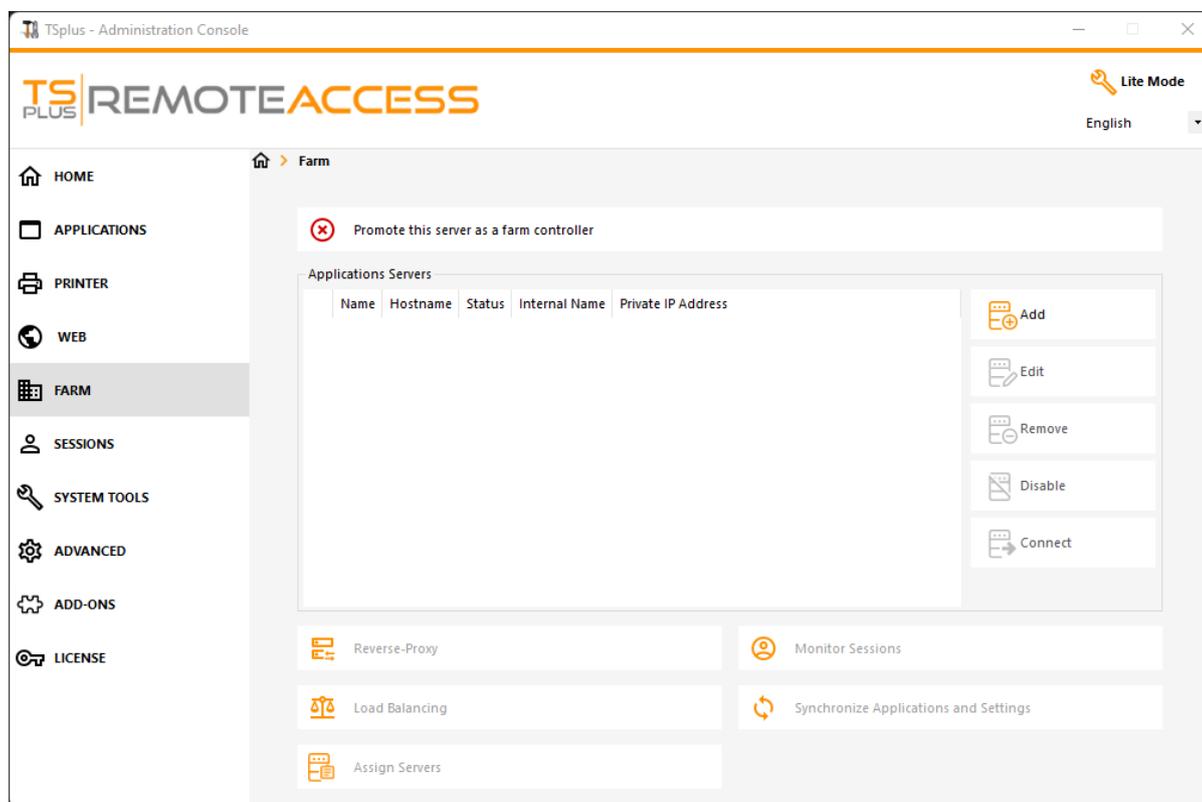
ただ タイルまたはタブをクリックしてください 一致するヘルプに移動する！



# クリックしてヘルプ - 管理ツール - ファーム

Terminal Service Plus Admin Toolの機能について迅速にサポートを受けたいですか？

ただ タイルまたはタブをクリックしてください 一致するヘルプに移動する！

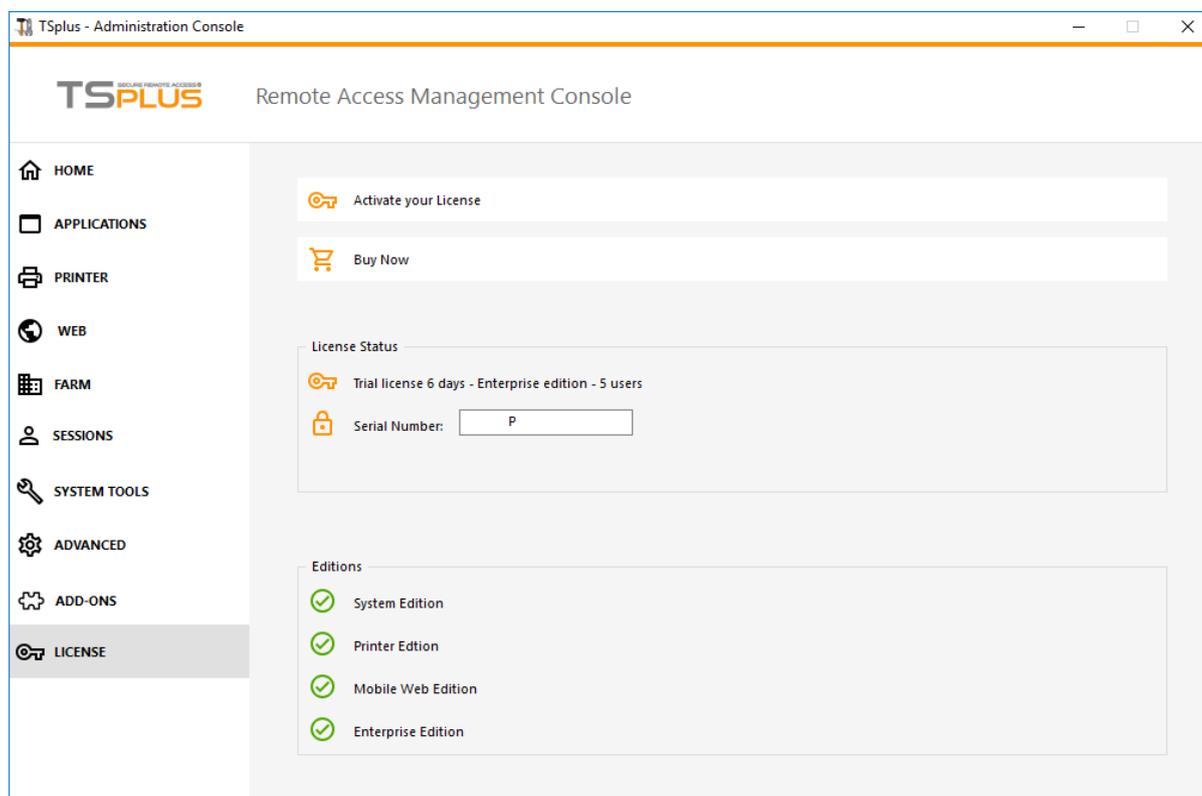


The screenshot displays the TSplus Administration Console interface. The top navigation bar includes the logo 'TS PLUS REMOTE ACCESS', 'Lite Mode', and 'English'. The left sidebar contains a menu with items: HOME, APPLICATIONS, PRINTER, WEB, FARM (highlighted), SESSIONS, SYSTEM TOOLS, ADVANCED, ADD-ONS, and LICENSE. The main content area is titled 'Farm' and features a notification: 'Promote this server as a farm controller'. Below this is a table for 'Applications Servers' with columns: Name, Hostname, Status, Internal Name, and Private IP Address. To the right of the table are buttons for 'Add', 'Edit', 'Remove', 'Disable', and 'Connect'. At the bottom, there are several functional tiles: 'Reverse-Proxy', 'Load Balancing', 'Assign Servers', 'Monitor Sessions', and 'Synchronize Applications and Settings'.

# クリックしてヘルプ - 管理ツール - ライセンス

Terminal Service Plus Admin Toolの機能について迅速にサポートを受けたいですか？

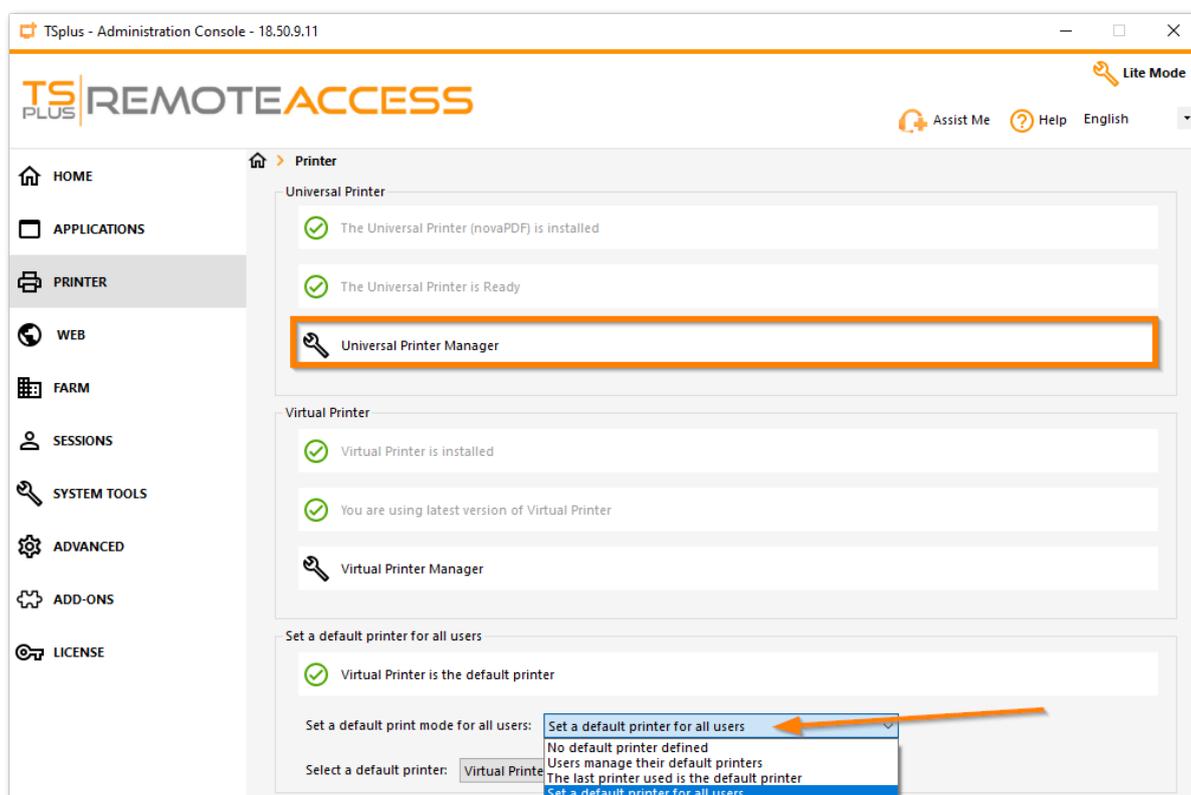
ただ タイルまたはタブをクリックしてください 一致するヘルプに移動する！



# クリックしてヘルプ - 管理ツール - プリンタ

Terminal Service Plus Admin Toolの機能について迅速にサポートを受けたいですか？

ただ タイルまたはタブをクリックしてください 一致するヘルプに移動する！



# クリックしてヘルプ - 管理ツール - セキュリティ

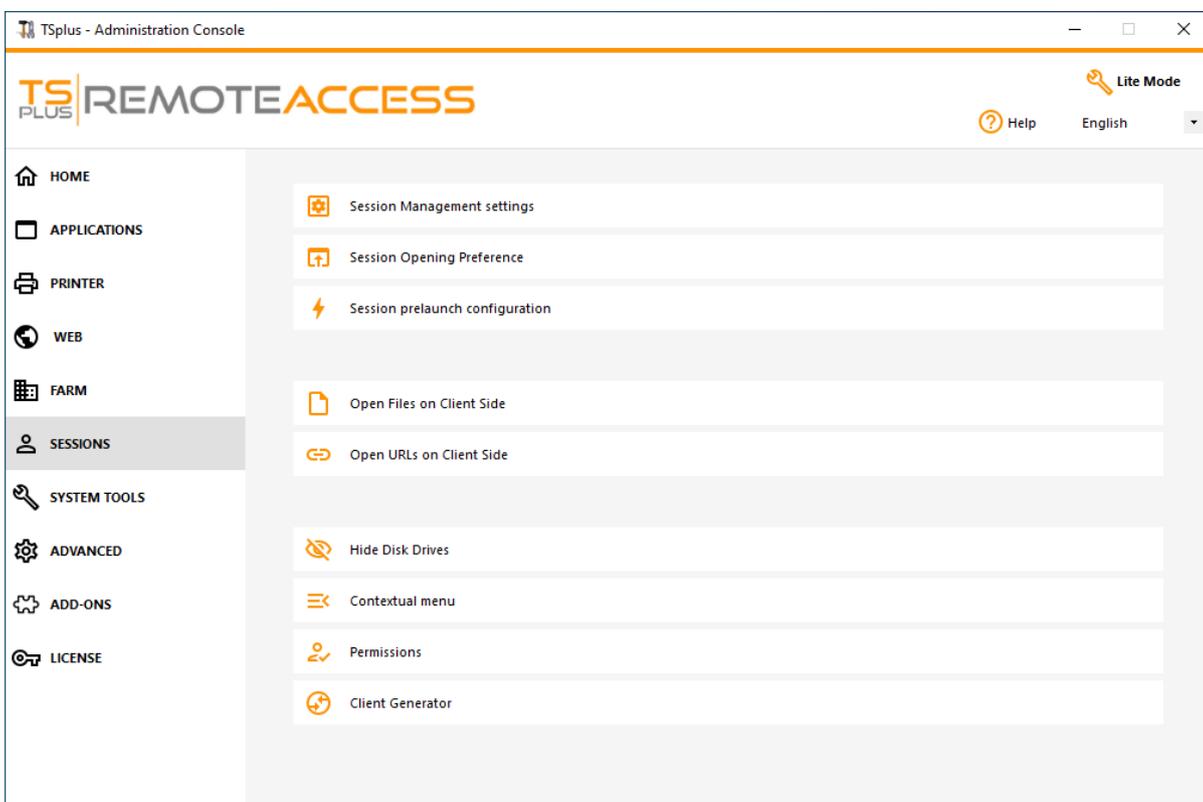
Terminal Service Plus Admin Toolの機能について迅速にサポートを受けたいですか？

ただ タイルまたはタブをクリックしてください 一致するヘルプに移動する！

# クリックしてヘルプ - 管理ツール - セッション

Terminal Service Plus Admin Toolの機能について迅速にサポートを受けたいですか？

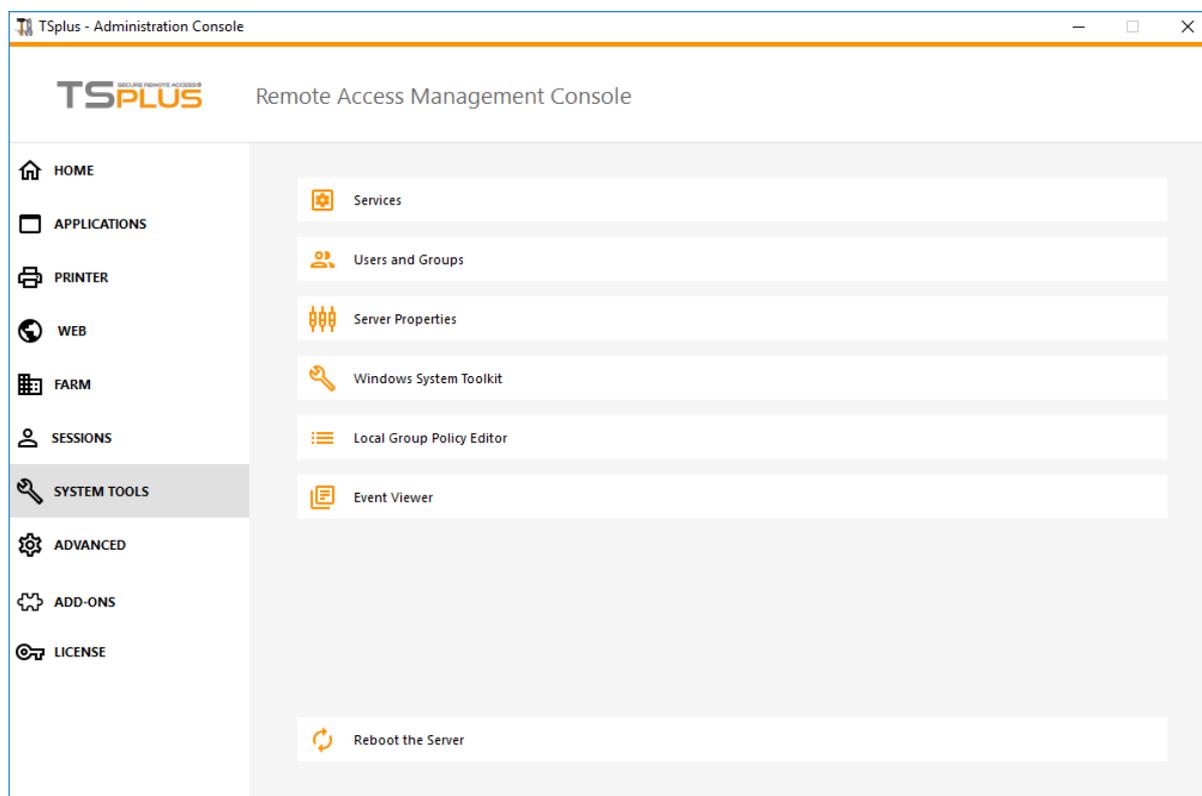
ただ タイルまたはタブをクリックしてください 一致するヘルプに移動する！



# クリックしてヘルプ - 管理ツール - システム

Terminal Service Plus Admin Toolの機能について迅速にサポートを受けたいですか？

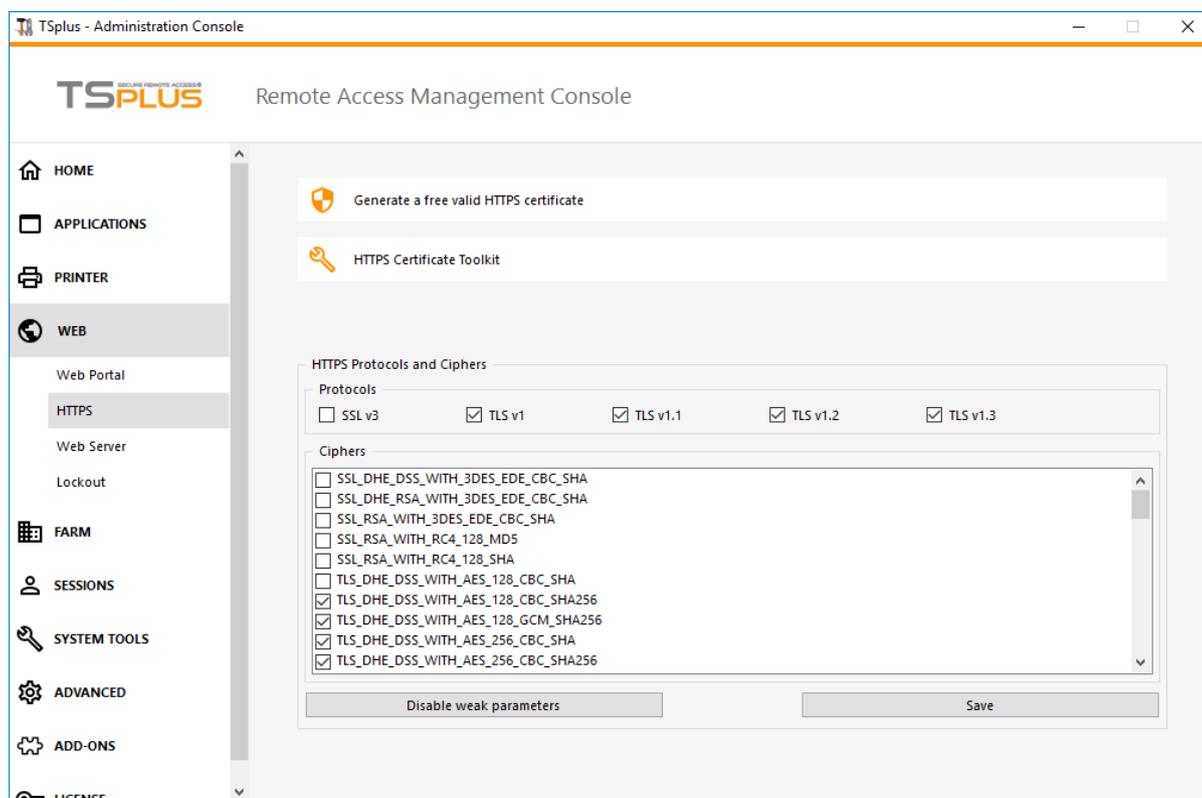
ただ **タイルまたはタブをクリックしてください** 一致するヘルプに移動する！



# クリックしてヘルプ - 管理ツール - ウェブ

Terminal Service Plus Admin Toolの機能について迅速にサポートを受けたいですか？

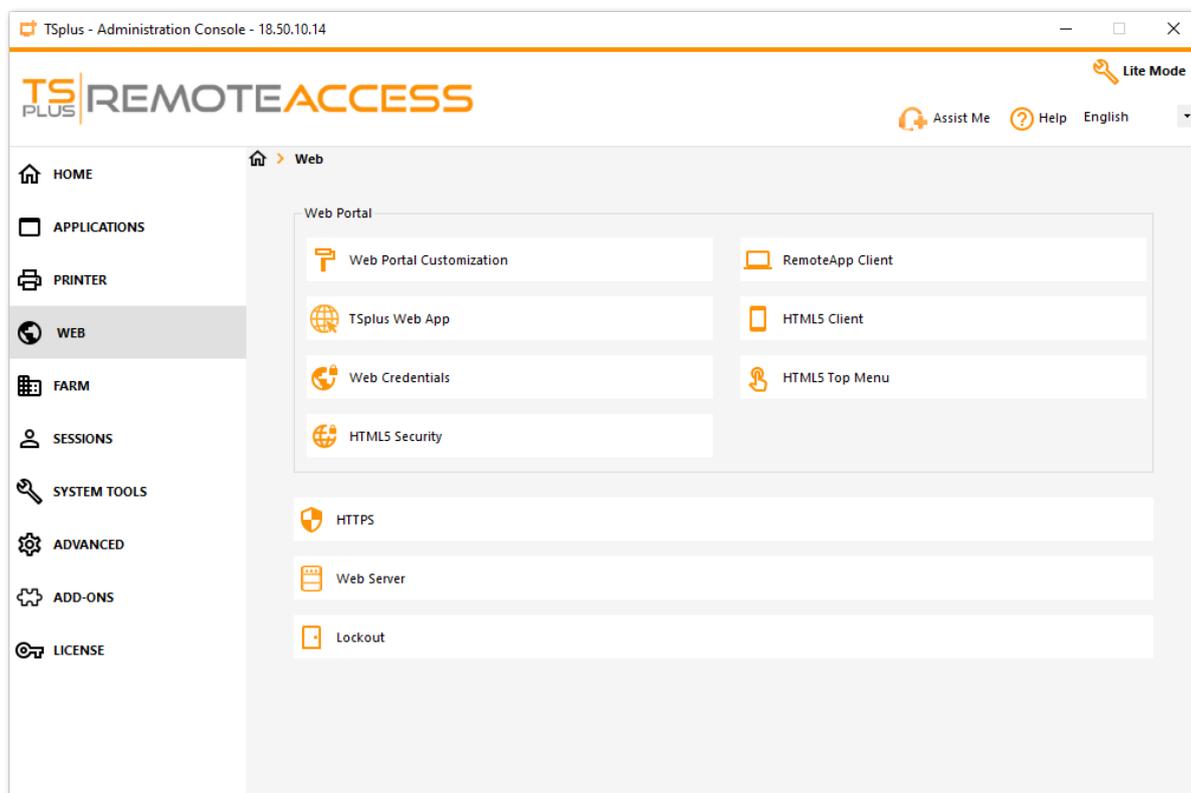
ただ タイルまたはタブをクリックしてください 一致するヘルプに移動する！



# クリックしてヘルプ - 管理ツール - ウェブ

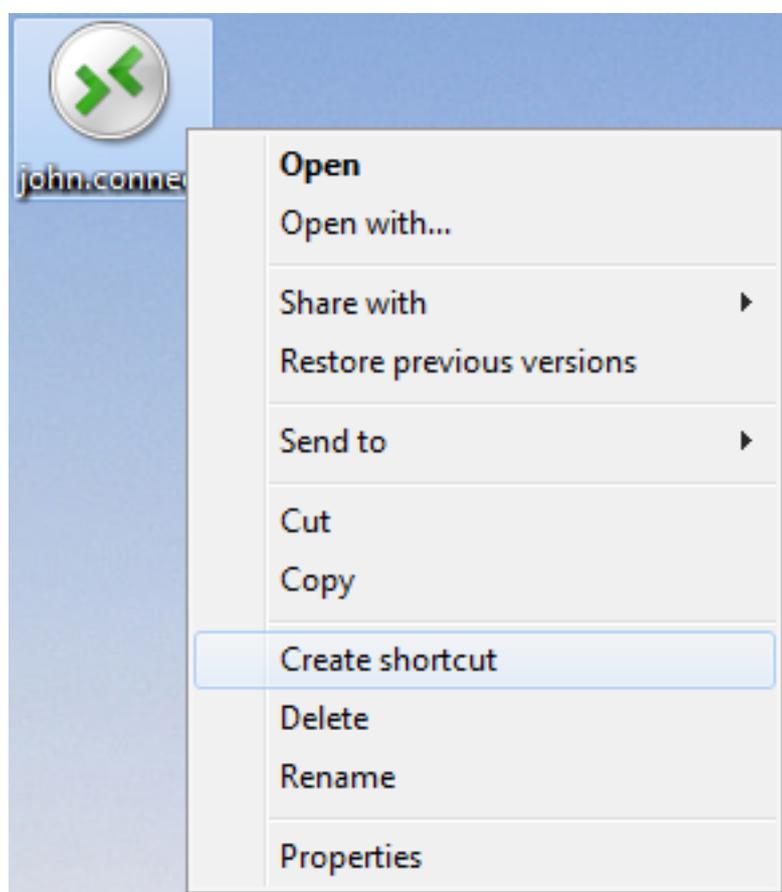
Terminal Service Plus Admin Toolの機能について迅速にサポートを受けたいですか？

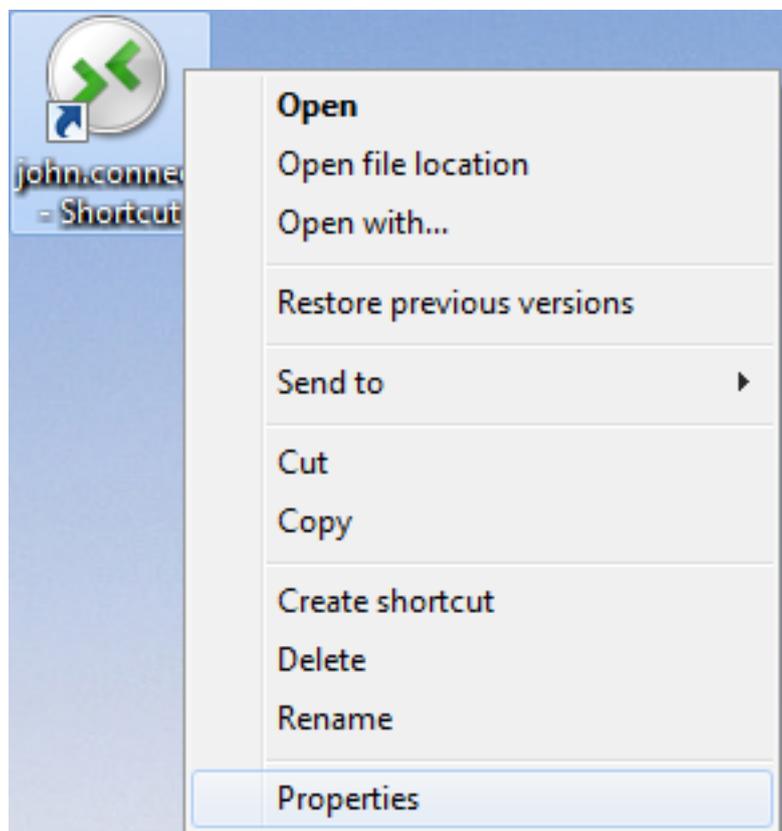
ただ タイルまたはタブをクリックしてください 一致するヘルプに移動する！

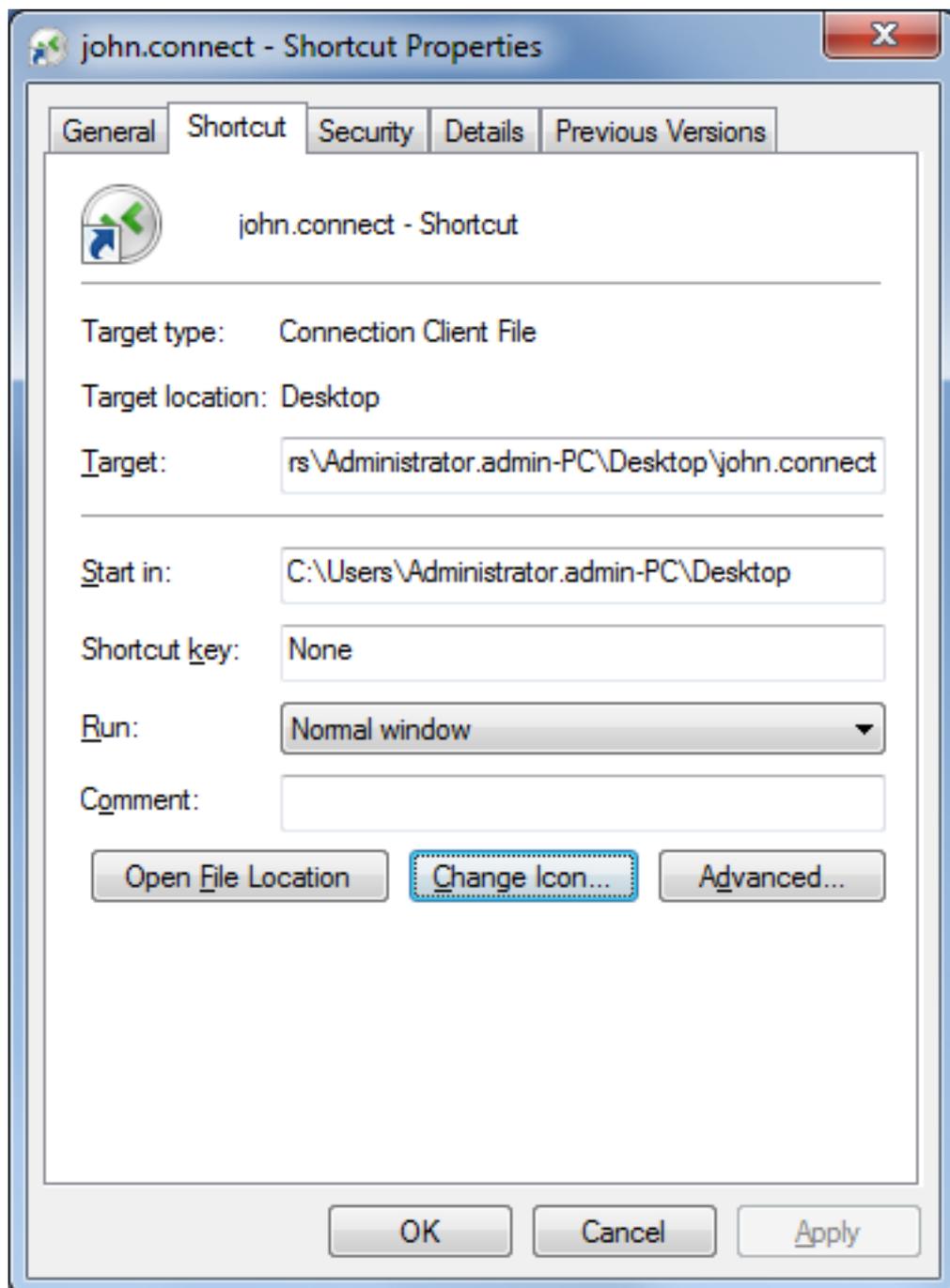


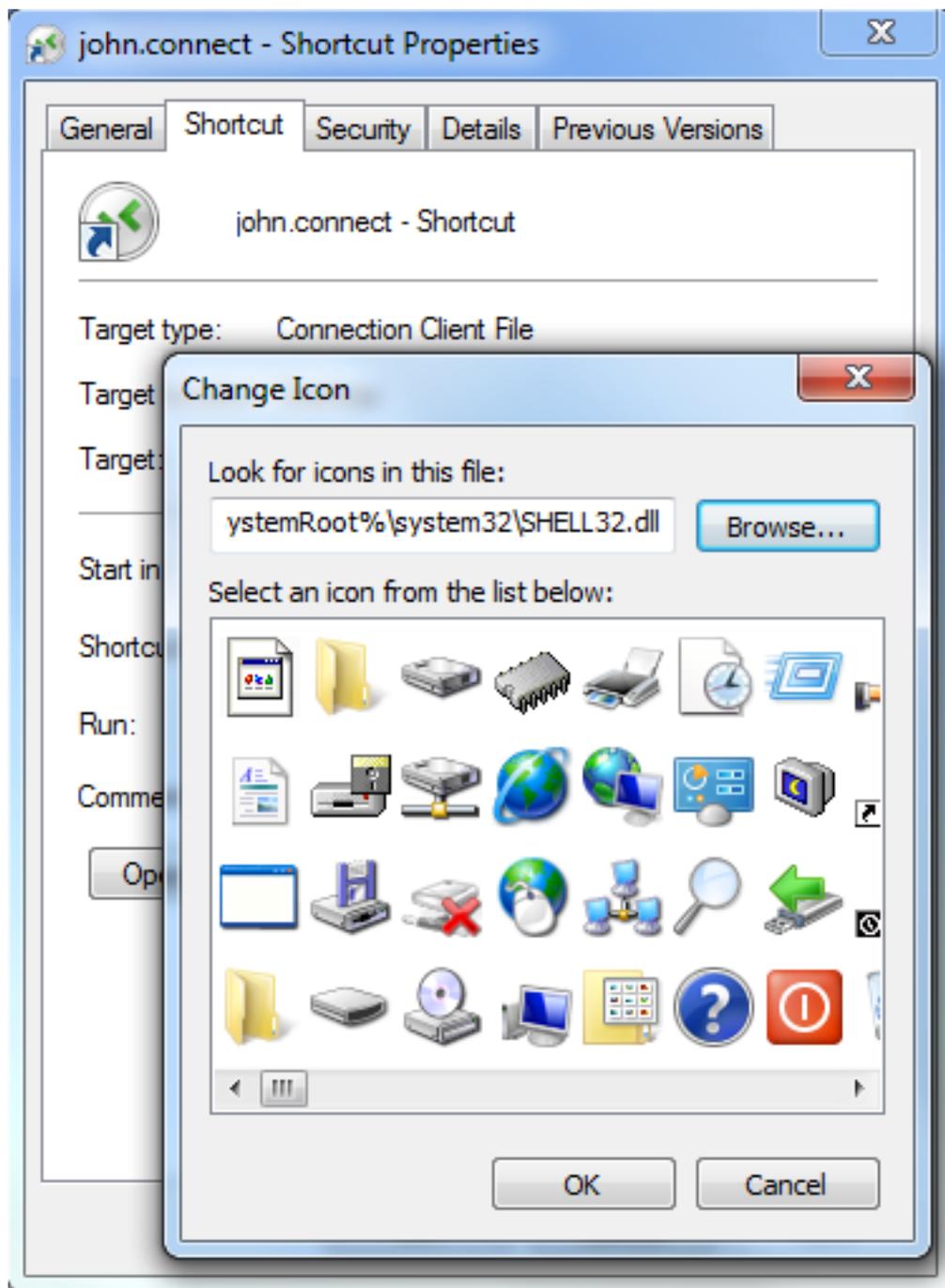
# TSplusクライアントのアイコンを変更する方法

生成されたクライアントのアイコンを変更するには、クライアントのショートカットを作成し、ショートカットのプロパティに移動してください。







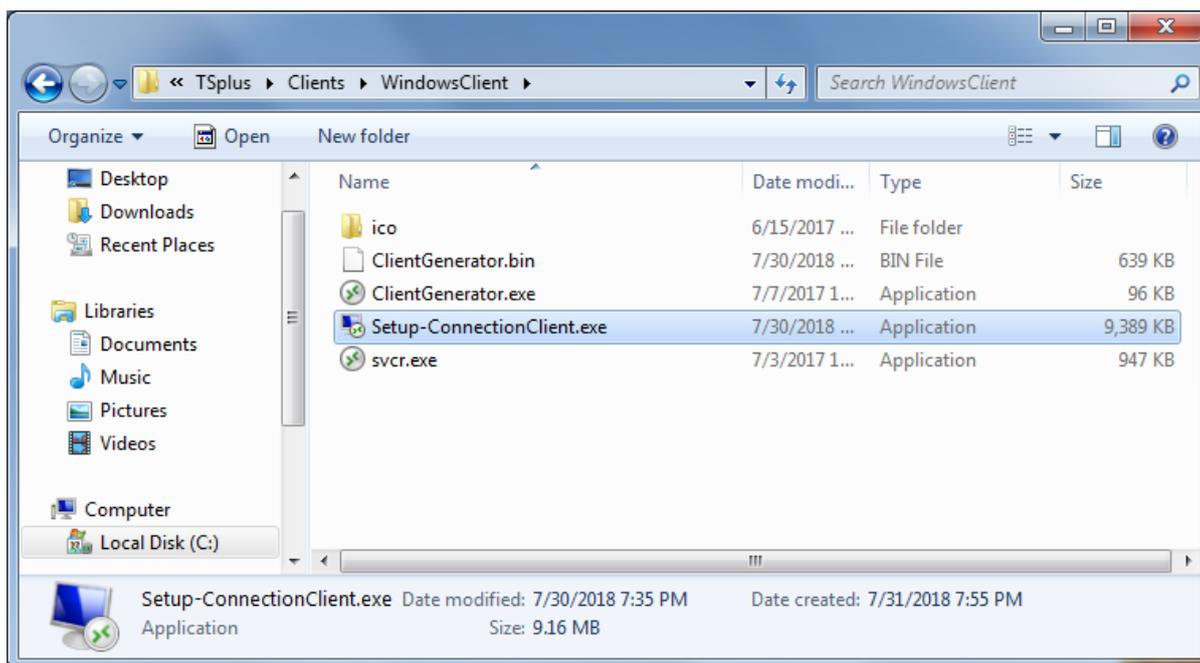


# TSplusクライアントセットアッププログラム

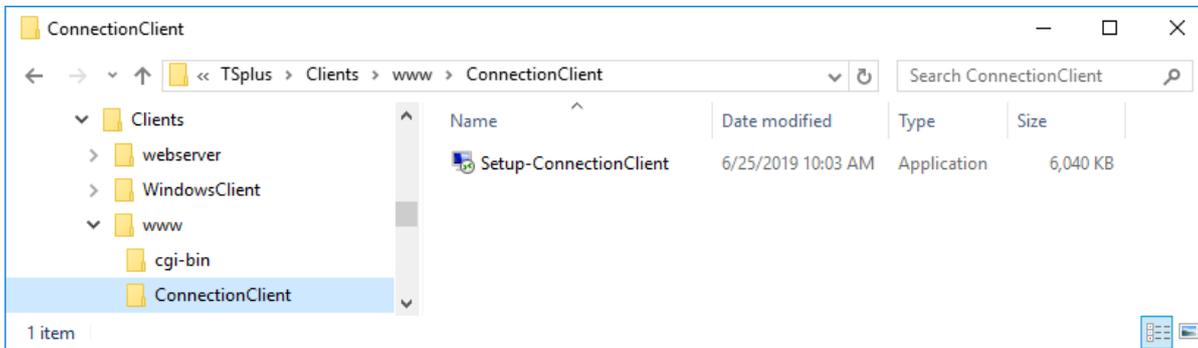
## インストール

クライアント側で、各ユーザーは、前提条件として「**Setup-ConnectionClient.exe**」という署名されたプログラムを実行する必要があります。

このプログラムはあなたのサーバー上、TSplusプログラムフォルダーにあります: C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\WindowsClient:



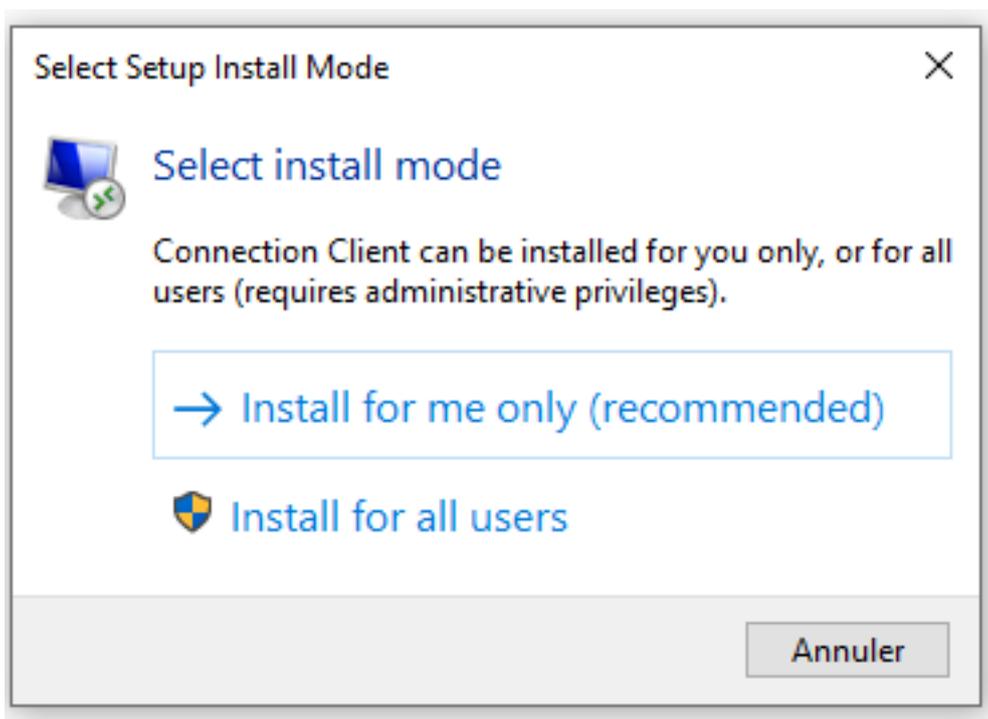
C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\ConnectionClient にも利用可能ですので、ユーザーはウェブサーバーアドレスでプログラムを一度実行するだけで済みます。 <http://xxxxxxxxxxx/ConnectionClient/Setup-ConnectionClient.exe>



または [ダウンロードする](#) .

## すべてのユーザーにインストール

接続クライアントをすべてのユーザーにインストールできるようになりました。これは、インストール後、コンピューター上の任意のユーザーがそれを利用でき、Webポータルから remoteAppモードで接続できるほか、生成された.connectクライアントファイルを使用して接続できることを意味します。



このポップアップを表示するには、すでに接続クライアントがインストールされていない必要があります。また、コマンドラインを使用してインストールする際に、引数 /ALLUSERS または /CURRENTUSER を指定することで、それぞれすべてのユーザーまたは現在のユーザー用にインストールするモードを選択できます。

注意 TSplus 12.40以降、クライアントセットアッププログラムと [RemoteAppクライアントの設定](#) 一つのセットアップで展開できるように統合されているため、Connection Client Setupを

ダウンロードすれば、RemoteApp Clientをダウンロードする必要はありません。

# sysprepを使用してサーバーをクローンする

## 要件

クローン仮想マシンを使用する際は、コンピュータ名とディスクボリュームIDを変更して、ユニークなTSplus Remote Accessインストールを確保し、ライセンスの問題を回避することが重要です。

## コンピュータ名の考慮事項

コンピュータ名は、イメージ自体のWindowsレジストリに保存されます。イメージを適用する前に変更した場合、Windowsが起動するときにSysprepによって上書きされます。ただし、事前に名前を定義することができます。 Unattended.xml 回答ファイル。参照してください [マイクロソフトのドキュメント](#) 詳細については。

コンピュータ名を設定するには、次のセクションを内部に追加します マイクロソフトウィンドウズシェルセットアップ :

```
<component name="Microsoft-Windows-Shell-Setup" processorArchitecture="amd64"
publicKeyToken="31bf3856ad364e35" language="neutral" versionScope="nonSxS"
xmlns:wcm="http://schemas.microsoft.com/WMIConfig/2002/State" xmlns:xsi="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <ComputerName>%COMPUTERNAME%ComputerName>
</component>
```

## ボリュームIDの考慮事項

ボリュームIDはディスクパーティションに関連付けられており、OSイメージには関連付けられていません。イメージを適用する前に変更でき、変更は保持されます。使用してください。  
volumeid.exe Sysinternalsから、利用可能です [マイクロソフト システム内部ツール](#) Windowsが起動する前に。

## 展開手順

新しい仮想マシンをsyspreppedイメージから展開すると、Windowsは最初の起動時にOut-Of-Box Experience (OOBE)に入ります。これにより、設定の構成を促されます。

### 展開の推奨手順：

1. **WinPEにブートする** – Windowsにブートせずにシステムを準備します。
2. **ボリュームIDを設定する** – 画像を適用する前に変更してください。そうすれば持続します。
3. **syspreppedイメージを展開する** – DISMを使用してイメージを適用します C: .
4. **コンピュータ名をオフラインに設定する** – マウントされたイメージ内のレジストリを編集します。
5. **コピーする Unattended.xml ファイル** – OOBE構成を自動化します。このファイルは、デプロイ前にスクリプトを使用して動的に変更できます。
6. **初回起動スクリプトを作成する** – 最終設定を1回の再起動で確実に行います。
7. **Windowsに再起動** – Windowsは指定された構成を使用して自動的に終了します。
8. **リモートアクセスライセンスのリセット** – 次のコマンドを実行してください:

ターミナルウィンドウ

```
AdminTool.exe /license /reset
```

これによりライセンスがリセットされ、新しいライセンスが適用されます。

# デプロイメントスクリプト

以下に関連するWinPE展開スクリプトを見つけてください。

ターミナルウィンドウ

```
<# Define variables #>
$imagePath = "D:\Images\Windows.wim" # Path to your sysprepped image
$ApplyDrive = "C:" # Target drive for deployment
$ComputerName = "REMOTE ACCESS-SERVER-" + (Get-Random -Minimum 1000 -
Maximum 9999) # Generate a random name (naive implementation)
$VolumeID = "1234-ABCD" # Desired Volume Serial Number
$UnattendFile = "D:\Unattended.xml" # Path to the unattended answer file

Write-Host "=== Windows Deployment Automation ==="

<# 1. Set Volume ID before applying the image #>
Write-Host "Setting Volume ID..."
Start-Process -NoNewWindow -Wait -FilePath "volumeid.exe" -ArgumentList "$ApplyDrive
$VolumeID"

<# 2. Apply the Sysprepped Windows image #>
Write-Host "Applying Windows Image..."
dism /apply-image /imagefile:$ImagePath /index:1 /applydir:$ApplyDrive

<# 3. Load Registry Offline to Set Computer Name #>
Write-Host "Modifying Registry to Set Computer Name..."
reg load HKLM\TempSys $ApplyDrive\Windows\System32\Config\SYSTEM
reg add "HKLM\TempSys\ControlSet001\Control\ComputerName\ComputerName" /v
ComputerName /t REG_SZ /d "$ComputerName" /f
reg unload HKLM\TempSys

<# 4. Ensure Unattended Setup is Used #>
Write-Host "Copying Unattended File..."
Copy-Item -Path $UnattendFile -Destination "$ApplyDrive\Windows\Panther\Unattended.xml" -
Force

<# 5. Set the First Boot Script for Final Configurations #>
Write-Host "Creating First Boot Script..."
$FirstBootScript = @"
Write-Host "Finalizing Configuration..."
Rename-Computer -NewName "$ComputerName" -Force
Restart-Computer -Force
```

```
"@
Set-Content -Path "$ApplyDrive\Windows\Setup\Scripts\SetupComplete.cmd" -Value
$FirstBootScript -Encoding ASCII
```

```
Write-Host "Deployment Complete! Rebooting into Windows..."
Write-Host "=====
Write-Host " Computer Name: $ComputerName"
Write-Host " Volume ID: $VolumeID"
Write-Host " Image Applied to: $ApplyDrive"
Write-Host "=====
```

```
<# Reboot into Windows #>
wpeutil reboot
```

## ライセンスのアクティベーション

展開後、ライセンスをアクティブにすると、仮想マシンの新しいコンピュータIDが生成されます。このコンピュータIDは、マシンがトライアルまたはライセンスのアクティベーションを要求したときにライセンスポータルによって作成されます。クローンされた仮想マシンの場合、ライセンスのアクティベーションは必須です。アクティベーションキーまたはボリュームライセンスキーのいずれかを使用してください。オフラインセットアップは許可されていません。セキュリティ上の懸念から。詳細なアクティベーション手順については、参照してください。

[TSplus コマンド一覧](#)

## 結論

このガイドは、TSplus Remote Accessを使用してクローン仮想マシンを展開する際の重要な考慮事項を概説しています。システムを正しく構成しライセンスを取得するための基本的な手順を提供し、あなたのニーズと要件に合わせて調整する必要があります。

# コマンドライン

私たちは、ソフトウェアの柔軟性と効率を向上させるために設計された包括的なコマンドラインツールのセットを提供できることを嬉しく思います。これらのツールは、ユーザーがさまざまな機能をスクリプト化し、自動化することを可能にし、ソフトウェアを特定のニーズやワークフローに合わせて調整します。

可能性を探り、コマンドラインオプションを使用して体験を最適化してください。

次のコマンドラインを昇格した管理者として実行する必要があります。念のため、AdminTool.exeとTwoFactor.Admin.exe (2FAアドオン) はここに配置されている必要があります。 **C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files**

---

## データと設定のバックアップ: /バックアップ

### 構文 :

```
AdminTool.exe /backup [optionalPath] [parameters]
```

### 説明 :

コマンド /バックアップ TSplusのデータと設定をバックアップするために使用されます。

デフォルトでは、バックアップはアーカイブディレクトリ (C:\Backupparam) に作成されます。

### パラメータ :

- オプションパス デフォルトのディレクトリとは異なる別のディレクトリにバックアップするため。相対パスと絶対パスが許可されています。
- /silent このパラメータが言及されている場合、バックアップは静かに行われます。

## 例:

```
AdminTool.exe /backup AdminTool.exe /backup "c:/TSplus/CustomBackupFolder" /silent
```

詳細については、こちらをご覧ください。 [TSplus - バックアップ設定](#)

---

## データと設定を復元する: /復元

### 構文 :

```
AdminTool.exe /restore [バックアップパス] [パラメータ]
```

### 説明 :

コマンド /復元 TSplusのデータと設定を復元するために使用されます。

指定されたバックアップディレクトリには、/backupコマンドによって作成されたデータフォルダーと設定フォルダーが含まれている必要があります。

### パラメータ :

- バックアップパス バックアップフォルダーを復元する場所のパス。
- /silent このパラメータが言及されている場合、復元は静かに行われます。

## 例:

```
AdminTool.exe /restore "C:/Backupparam" /silent AdminTool.exe /restore "C:/TSplus/CustomBackupFolder" /silent
```

詳細については、こちらをご覧ください。 [TSplus - バックアップ設定](#)

---

## ウェブサーバー: /webstop , /webstart そして /webrestart

## 構文：

AdminTool.exe /webstop

AdminTool.exe /webstart

AdminTool.exe /webrestart

## 説明：

コマンド /webstop Webサーバーを停止するために使用されます。

コマンド /webstart Webサーバーを起動するために使用されます。

コマンド /webrestart Webサーバーを再起動するために使用されます。

## パラメータ：

なし

---

## 更新： /更新

### 構文：

AdminTool.exe /update [オプション]

### 説明：

コマンド 更新 TSplus Remote Access および潜在的に Advanced Security を更新するために使用されます。

### パラメータ：

- オプション  
：
  - /アドオン このオプションが使用される場合、Advanced Securityも新しいバージョンが利

用可能であれば更新されます。

## 例 :

```
AdminTool.exe /update /addons
```

---

# Windowsの互換性更新プログラムを適用: /カーネルを更新する

## 構文 :

```
svcac.exe /updatekernel [/silent]
```

svcac.exeはここに配置されるべきです: **C:\Program Files (x86)\TSplus**

## 説明 :

コマンド /カーネルを更新する Windowsの互換性更新プログラムを適用するために使用されません。

これらの自動更新により、TSplus Remote Accessが新しいWindowsの更新と互換性を保ち、TSplus Remote Accessの新しいバージョンをダウンロードして再インストールする必要がなくなります。

Windowsの互換性更新は毎日行われることがあります。TSplus Remote Accessは強制的な更新を可能にします。これは、互換性が壊れているように見えるときに役立ち、通常の更新スケジュールの外で最新のTSplus Remote Accessパッチを取得する必要がある場合に便利です。

有効なライセンスが必要であることを注意してください。互換性の更新を取得するには、トライアルライセンスが期限切れであるか、ライセンスが無効な場合、エラーメッセージボックスが表示されます。問題が予期しないものである場合は、このエラーメッセージのスクリーンショットを添えてサポートチームにお問い合わせください。

## パラメータ :

- /silent このパラメータを指定することで、静かに更新します。メッセージボックスは表示されません。

---

# ユニバーサルプリンターをインストール: /ユニバーサルプリンターをインストールする

## 構文 :

universalprintermanagement.exe /InstallUniversalPrinter

universalprintermanagement.exeはここにありますが: C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files

## 説明 :

コマンド /ユニバーサルプリンターをインストールする ユニバーサルプリンターをインストールするために使用されます。

これはクリーンインストールであり、以前にインストールされていた場合は既存のユニバーサルプリンターを削除します。

## パラメータ :

なし

このアクションを手動で実行することもできますので、こちらをご覧ください。 [ユニバーサルプリンター](#)

---

# ユニバーサルプリンターを削除: /ユニバーサルプリンターを削除する

## 構文 :

universalprintermanagement.exe /RemoveUniversalPrinter

universalprintermanagement.exeはここにありますが: C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files

## 説明：

コマンド /ユニバーサルプリンターを削除する ユニバーサルプリンターをアンインストールするために使用されます。

## パラメータ：

なし

このアクションを手動で実行することもできますので、こちらをご覧ください。 [ユニバーサルプリンター](#)

---

## プロキシサーバーの設定: /proxy /set

### 構文：

AdminTool.exe /proxy /set [パラメータ]

### 説明：

コマンド /proxy /set インターネットアクセスのためにプロキシサーバーを構成するために使用されます。

### パラメータ：

- /ホスト 宛先ホストは、事前定義された値（「ie」または「none」）またはユーザー定義の値（例：127.0.0.1またはproxy.company.org）であることができます。このパラメーターは必須です。
- /ポート プロキシサーバーに接続するために使用されるポート番号。ホスト名の値がカスタムユーザー定義値の場合は必須です。
- /ユーザー名 プロキシサーバーに接続するためのユーザー名。この設定はオプションです。
- /パスワード ユーザー名が定義されている場合、ユーザーのパスワードを提供する必要があります。ただし、その値は空にすることができます。

### 例:

AdminTool.exe /proxy /set /host proxy.company.org /port 80 /username dummy /password

pass@word1

AdminTool.exe /proxy /set /host ie

詳細については、こちらをご覧ください。 [インターネットアクセスのためのプロキシサーバーの設定方法は？](#)

---

## オープンウェブ認証情報フォーム: /webcredentials

### 構文 :

AdminTool.exe /webcredentials

### 説明 :

コマンド /webcredentials 単一のウィンドウでWeb Credentialsインターフェースを起動します ( AdminTool > Web > Web Credentialsで行うように )。

### パラメータ :

なし

---

## Web資格情報を作成: /webcredentials-add

### 構文 :

AdminTool.exe /webcredentials-add [webLogin] [webPassword] [windowsLogin] [windowsPassword] [maximumConcurrentSessions]

### 説明 :

コマンド /webcredentials-add Web資格情報を作成するために使用されます ( AdminTool > Web > Web資格情報で行うように )。

## パラメータ :

- ウェブログイン 作成したいウェブログイン。
- ウェブパスワード 関連するウェブパスワード。空の資格情報にすることができます。そのためには、空のパスワードを示すために二重引用符 "" を使用してください。
- ウィンドウズログイン 該当ユーザーのWindowsログイン。
- ウィンドウズパスワード Windowsのパスワード。
- 最大同時セッション数 ( オプション ) : このユーザーの最大同時セッション数。

## 例 :

```
AdminTool.exe /webcredentials-add johndoe passwordABCD johnWinuser johnWinpassword 4
```

詳細については、こちらをご覧ください。 [ウェブ認証情報](#)

---

## Web資格情報を削除: /webcredentials-remove

### 構文 :

```
AdminTool.exe /webcredentials-remove [webLogin]
```

### 説明 :

コマンド /webcredentials-remove 既存のWeb資格情報を削除するために使用されます ( AdminTool > Web > Web資格情報で行うように ) 。

## パラメータ :

- ウェブログイン 削除したいウェブログイン。

## 例 :

```
AdminTool.exe /webcredentials-remove johndoe
```

詳細については、こちらをご覧ください。 [ウェブ認証情報](#)

---

# セッションマネージャーを開く: /sessionmanager

## 構文 :

AdminTool.exe /sessionmanager

## 説明 :

コマンド /sessionmanager セッションマネージャーを単一の大きなウィンドウで起動します ( AdminTool > ホーム > セッションマネージャーで行うように )。

## パラメータ :

なし

---

# オープンセッションモニター: /farm-sessions-monitor

## 構文 :

AdminTool.exe /farm-sessions-monitor

## 説明 :

コマンド /farm-sessions-monitor ファームマネージャーのセッションモニターを単一の大きなウィンドウで起動します ( AdminTool > Farm > Monitor Sessionsで行うように )。

## パラメータ :

なし

---

# ロードバランシングマネージャーを開く: /farm-loadbalancing

## 構文 :

AdminTool.exe /ファーム負荷分散

## 説明 :

コマンド /farm-loadbalancing ファームマネージャーの負荷分散マネージャーを単一の大きなウィンドウで起動します ( AdminTool > Farm > Load Balancingで行うように )。

## パラメータ :

なし

---

# システム監査を実行: /systemaudit

## 構文 :

AdminTool.exe /systemaudit

## 説明 :

コマンド /systemaudit システム監査を実行します ( AdminTool > ホーム > システム監査 > システム監査の実行で手動で行うように )。

## パラメータ :

なし

---

# ライセンスのアクティベーション: /アクティベート

## 構文：

AdminTool.exe /activate [ライセンスパス]

## 説明：

コマンド アクティベート リモートアクセスライセンスをアクティブにするために、ライセンスファイルを使用します。

## パラメータ：

- ライセンスパス ライセンスファイルのパス

## 例：

AdminTool.exe /activate "C:\Program Files (x86)\TSplus\license.lic"

---

# 仮想マシンのクローン作成に伴うライセンスリセット：リセット

## 構文：

AdminTool.exe /license /reset

## 説明：

サーバーをクローンする際、AdminToolの「ライセンス」タブにコンピュータIDが表示されないか、「無効なハードウェア識別子」というエラーメッセージが表示されることがあります。コマンド リセット クローンサーバーでライセンスを初期化し、インストールされたTSplus製品に新しいライセンスを割り当てられるようにすることを目的としています。

## 重要な注意事項:

1. 新しいTSplusライセンスは、新しいアクティベーションキーを使用してアクティブ化する必要があります。

2. 非クローンマシンで`/license /reset`コマンドを使用しないでください。ライセンスの割り当てが永久に防止されます。進む前に、必ずマシンの状態を確認してください。

## クローンサーバーでライセンスをリセットする手順:

1. クローンサーバーで管理者セッションを開きます。
2. HDDボリュームシリアル番号を変更します。
  - 実行する ボリューム 現在のボリュームシリアル番号 ( VSN ) を表示するコマンド。結果は次のようになります : 74F8-9C08 .
  - VolumeIDユーティリティをダウンロードしてインストールしてください。 [ここ](#) .
  - コマンドを実行します: `volumeid C: 84F8-9C08` 管理者としてドライブのVSNを変更します。この例では、ディスクC:のVSNを変更し、古いVSNの最初の1文字だけを変更して新しいものを指定しました。
  - 注意: このステップは重要です。なぜなら、特定のWindows Serverバージョンは、SysPrepを使用してもクローン作成中に新しいボリュームシリアル番号を生成しないからです。
3. クローンされたサーバーの名前を変更し、再起動します。
4. 管理ツールでライセンスをリセット:
  - 管理者権限でコマンドプロンプトを開きます。
  - このコマンドを使用してAdminTool実行可能ファイルが含まれているディレクトリに移動します: `cd "C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files"`
  - 次のコマンドを実行してください: `AdminTool.exe /license /reset`

5. リセットを確認してください。

- コマンドを実行した後、「ライセンス」タブには次のエラーが表示されるはずですが。ライセンスファイルを読み取れませんでした（予期しないファイル形式）。

6. 新しいライセンスを有効にします。

- 「ライセンス」タブで「ライセンスをアクティブ化」をクリックし、新しいアクティベーションキーを入力して必要なライセンスとサポートをアクティブ化します。

## 例：

```
AdminTool.exe /license /reset TSplus-Security.exe /license /reset ServerMonitoring.exe /license /reset
```

---

# ボリュームライセンスのアクティベーション： /vl /activate

## 構文：

```
AdminTool.exe /vl /activate [ライセンスキー] [パラメータ]
```

コマンド vl /activate ボリュームライセンスをアクティブにするために使用されます。

## パラメータ：

- ライセンスキー ライセンスキーをアクティブにするための形式: AAAA-BBBB-CCCC-DDDD
- /ユーザー 1から50までの任意の数、または「無制限」
- /エディション 「デスクトップ」、「モバイルウェブ」または「エンタープライズ」
- サポート年数 0から3までの任意の数字。
- /コメント ライセンスポータルにライセンスに添付するコメントを指定します

## 例：

```
AdminTool.exe /vl /activate VOLU-MELI-CENS-EKEY /users unlimited /edition Enterprise /supportyears 3 /comments “これはコメントです”
```

詳細については、こちらをご覧ください。 [ボリュームライセンスのドキュメント](#)

---

# ボリュームライセンスの有効化と無効化: /vl /enable そして /vl /無効化

## 構文 :

AdminTool.exe /vl /enable [ライセンスキー]

AdminTool.exe /vl /disable [ライセンスキー]

## 説明 :

コマンド vl /enable ボリュームライセンスを有効にするために使用されます。

コマンド vl /無効化 ボリュームライセンスを無効にするために使用されます。

## パラメータ :

- ライセンスキー ライセンスキーを有効/無効にするための、次の形式: AAAA-BBBB-CCCC-DDDD

## 例:

AdminTool.exe /vl /enable VOLU-MELI-CENS-EKEY

AdminTool.exe /vl /disable VOLU-MELI-CENS-EKEY

詳細については、こちらをご覧ください。 [サーバーからライセンスを有効/無効にする方法は？](#)

---

# ボリュームライセンスの更新: /vl /アップデート

## 構文 :

AdminTool.exe /vl /update [ライセンスキー] [パラメータ]

## 説明：

コマンド `vl /update` ボリュームライセンスのユーザーを更新するために使用されます。

## パラメータ：

- ライセンスキー ライセンスキーを更新するには、この形式で: AAAA-BBBB-CCCC-DDDD
- /ユーザー 1から50までの任意の数、または「無制限」

## 例:

`AdminTool.exe /vl /update /users 2` `AdminTool.exe /vl /update /users unlimited`

詳細については、こちらをご覧ください。 [ボリュームライセンスのユーザーをサーバーから更新する方法は？](#)

---

## ボリュームライセンスキーの残りのライセンスクレジットを表示: `/vl /クレジット-ライセンス`

## 構文：

`AdminTool.exe /vl /credits-license [ライセンスキー] [パラメータ]`

## 説明：

コマンド `vl /クレジット-ライセンス` ボリュームライセンスキーに関連付けられた残りのライセンスクレジットを表示するために使用されます。

## パラメータ：

- ライセンスキー ボリュームライセンスキー、この形式: AAAA-BBBB-CCCC-DDDD
- /ログイン ボリュームライセンスキーに関連付けられたパートナーのログインを提供してください
- /エディション Advanced SecurityおよびServer Monitoring製品のためにオプションのエディションパラメータを提供してください
- /silent コマンドを静かに実行します

出力はユーザーレベルの環境変数に格納されます。ボリュームライセンスクレジット 値を読み取る必要があるかもしれません。ボリュームライセンスクレジット 異なるプロセスから、コマンドを使用して エコー %VOLUME\_LICENSE\_CREDITS% .

## 例:

```
AdminTool.exe /vl /credits-license VOLU-MELI-CENS-EKEY /login JOHNDOE TSplus-  
Security.exe /vl /credits-license VOLU-MELI-CENS-EKEY /login JOHNDOE /edition Essentials /  
silent
```

詳細については、こちらをご覧ください。 [ボリュームライセンスキーの残りのライセンスクレジットを表示する方法は？](#)

---

## ボリュームライセンスキーの残りのサポートクレジットを表示: /vl /クレジット-サポート

### 構文 :

```
AdminTool.exe /vl /credits-support [licensekey] [parameters]
```

### 説明 :

コマンド vl /クレジット-サポート ボリュームライセンスキーに関連する残りのサポートクレジットを表示するために使用されます。

### パラメータ :

- ライセンスキー ボリュームライセンスキー、この形式: AAAA-BBBB-CCCC-DDDD
- /ログイン ボリュームライセンスキーに関連付けられたパートナーのログインを提供してください
- /エディション Advanced SecurityおよびServer Monitoring製品のためにオプションのエディションパラメータを提供してください
- /silent コマンドを静かに実行します

出力はユーザーレベルの環境変数に格納されます。ボリュームライセンスクレジット 値を読み取る必要があるかもしれません。ボリュームライセンスクレジット 異なるプロセスから、コマンドを使用して エコー %VOLUME\_LICENSE\_CREDITS% .

## 例:

```
AdminTool.exe /vl /credits-support VOLU-MELI-CENS-EKEY /login JOHNDOE TSplus-  
Security.exe /vl /credits-support VOLU-MELI-CENS-EKEY /login JOHNDOE /edition Essentials
```

詳細については、こちらをご覧ください。 [ボリュームライセンスキーの残りのサポートクレジットを表示する方法は？](#)

---

## 2FA - リセット: /resetuser

### 構文 :

```
TwoFactor..Admin.exe /resetuser [user1] [user2] ... [userN]
```

### 説明 :

コマンド /resetuser 2FAユーザーをリセットするために使用され、ユーザーインターフェースを通じて行う代わりに (これはここでインターフェースで行うことができます : TwoFactor.Admin > ユーザー管理 > リセット )

### パラメータ :

- ユーザー1 ユーザー2 ... ユーザーN ユーザーのリセットを希望するドメイン名 (単純なスペースで区切る)

## 例:

```
TwoFactor.Admin.exe /resetuser johndoe jackrussell chuckbartowski
```

詳細については、こちらをご覧ください。 [ユーザーの設定をリセット](#)

---

## 2FA - ユーザーを追加: /ユーザーを追加する

### 構文 :

TwoFactor.Admin.exe /addusers [userInfo1] [userInfo2] ... [userInfoN]

## 説明 :

コマンド /ユーザーを追加する 複数の2FAユーザーを追加するために使用され、ユーザーインターフェースを介してユーザーごとに行う代わりに、ここで行うことができます:

TwoFactor.Admin > ユーザー管理 > ユーザー追加

## パラメータ :

•

ユーザー情報1 ユーザー情報2 ... ユーザー情報N

ユーザーを追加するために必要なユーザー情報。これらの情報は、セミコロンで区切られた以下のフィールドで構成されています。

- ドメイン名 ( 必須 ) : 追加するユーザーのドメイン名
- 受信方法 ( オプション ) : 確認コードを受け取る方法。これらの値のいずれかでなければなりません : SMS、アプリ、メール、またはユーザーに選択させる。アプリがデフォルト値です。
- 携帯電話 ( オプション ) : 追加するユーザーの電話番号
- メール ( オプション ) : 追加するユーザーのメールアドレス

## 例:

TwoFactor.Admin.exe /addusers johndoe jackrussell;LetTheUserChoose chuckbartowski;電話;  
+33101010101; [abcd@efgh.com](mailto:abcd@efgh.com) サマンサ・カーター;メール;;

詳細については、こちらをご覧ください。 [ユーザーとグループを追加](#)

---

## 2FA - グループを追加: /グループを追加

### 構文 :

TwoFactor.Admin.exe /addgroups [group1] [group2] ... [groupN]

### 説明 :

コマンド /グループを追加 複数の2FAグループを追加するために使用され、ユーザーインターフェースを通じてグループごとに行う代わりに、ここでインターフェースで行うことができます: TwoFactor.Admin > ユーザー管理 > グループを追加

## パラメータ :

- グループ1 グループ2 ... グループN 追加したいグループの名前。

## 例:

```
TwoFactor.Admin.exe /addgroups group1 group2 group3
```

詳細については、こちらをご覧ください。 [ユーザーとグループを追加](#)

---

## 2FA - ユーザーのリスト: /getusers

### 構文 :

```
TwoFactor.Admin.exe /getusers
```

### 説明 :

コマンド /getusers 2FA管理コンソールに設定されているすべてのユーザー/グループのリストを取得するために使用されます。このユーザー/グループのリストのJSON表現が返され、例えばPowershellスクリプトで使用することができます。

このリストはインターフェースで見ることができます: TwoFactor.Admin > ユーザー管理.

### パラメータ :

なし

---

## 2FA - グループを追加: ユーザーを削除します。

## 構文：

```
TwoFactor.Admin.exe /deleteuser [domainName] [userType]
```

## 説明：

コマンド ユーザーを削除します。 ユーザーを2FA設定から削除するために使用されます（これはインターフェースでここで行うことができます：TwoFactor.Admin > ユーザー管理 > 削除）。

## パラメータ：

- ドメイン名 ユーザーまたは削除するグループの名前。
- ユーザータイプ 削除するオブジェクトの種類。その値は「user」または「group」でなければなりません。

## 例：

```
TwoFactor.Admin.exe /deleteuser “これはグループ名です” group TwoFactor.Admin.exe /deleteuser administrator user
```

詳細については、こちらをご覧ください。 [ユーザーとグループを削除](#)

---

## Windows 資格情報マネージャーに資格情報を追加または更新します： /windowscredential-addorupdate

## 構文：

```
AdminTool.exe /windowscredential-addorupdate
```

または

```
AdminTool.exe /windowscredential-addorupdate csvFilePath
```

## 説明：

コマンド /windowscredential-addorupdate 新しいWindows資格情報をWindows資格情報マネージャーに追加するか、既存のものを更新するために使用されます。ドメイン、ユーザー名、およびパスワードを指定することで個別に資格情報を提供するか、CSVファイルから複数のエントリを一括処理することができます。

このコマンドは、SSOを使用してWebポータル of 外部認証をSAML経由で構成するのに便利です。

## パラメータ：

- シングル認証モード
  - ドメイン（必須）：ユーザーがActive Directoryの一部である場合はユーザーのドメイン名、またはユーザーがローカルユーザーである場合はマシン名
  - ユーザー名（必須）：Windowsアカウントのユーザー名
  - パスワード（必須）：Windowsアカウントのパスワード

- バルクモード ( CSVファイル )
  - csvファイルパス ( 必須 ) : CSVファイルへのパスで、追加または更新する1つ以上の資格情報が含まれています

## 例示

Active Directory ユーザーの場合:

```
AdminTool.exe /windowscredential-addorupdate COMPANY johndoe SecurePassword123
```

ローカルユーザー用:

```
AdminTool.exe /windowscredential-addorupdate MACHINE-NAME janedoe SecurePassword123
```

CSVファイルから資格情報を一括追加または更新するには:

AdminTool.exe /windowscredential-addorupdate C:\\credentials\\users.csv

---

## Windows Credentials Managerから資格情報を削除します: /windowscredential-remove

### 構文 :

AdminTool.exe /windowscredential-remove ユーザー名

または

AdminTool.exe /windowscredential-remove csvFilePath

### 説明 :

コマンド /windowscredential-remove Windowsの資格情報を削除するために使用されます。ターゲットを指定することで単一の資格情報を削除することができ、CSVファイルを使用して複数の資格情報を一括で削除することもできます。

### パラメータ :

- シングル認証モード:
- ターゲット ( 必須 ) : 資格情報のターゲット名、通常はドメインまたはサーバー名
- バルクモード ( CSVファイル ) :

- csvファイルパス（必須）：削除するユーザー名を含むCSVファイルへのパス。ファイルは存在する必要があります。

## 例:

```
AdminTool.exe /windowscredential-remove COMPANY
```

```
AdminTool.exe /windowscredential-remove C:\credentials\remove_users.csv
```

# Webポータルを超えて、Webアクセスページを完全にカスタマイズする方法は？

## 概要

使用することによって [ウェブポータル](#) Terminal Service PlusのWebアクセスページを広範囲にカスタマイズできます。

ただし、場合によっては、これだけでは不十分です。これらのケースでは、Webポータルを超えて、Webマスターツールキットによって生成されたWebアクセスページを自分で修正することで、Webアクセスページを完全にカスタマイズできます。

警告、このドキュメントは熟練したWeb開発者のみを対象としています。

## 必須設定の生成

Web Accessページに必須設定を含めるために、まずは[を使用してWeb Accessページを生成することをお勧めします。 [ウェブポータル](#) .

## ファイルの場所

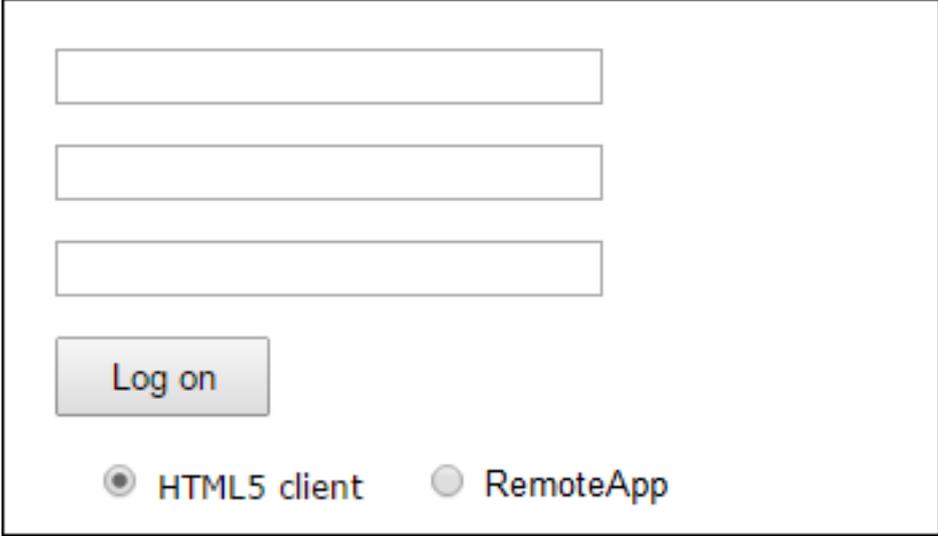
Webアクセスページは「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www」フォルダーに生成されます。たとえば、ページ名に「index」を選択した場合、このフォルダー内の「index.html」という名前のファイルになります。これは標準のHTMLファイルですので、HTML、JavaScript、CSSプログラミング言語の知識を活用してカスタムページを開発できます。

すべてのファイルのインクルージョンは「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www」フォルダーに対して相対的に記述されています。たとえば、主要なCSSスタイルファイルは「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\software\common.css」にあり、次の行によってHTML Web Access Pageファイルに含まれています。

## 最小限のウェブアクセスページ

Webポータルの設定から生成されたHTMLファイルを基に、最小限のWebアクセスページに削減します。NotepadやNotepad++などのテキストエディタを使用することをお勧めします。 ないWordを使用してください。

作業後は、以下のスクリーンショットのようになります。



The screenshot shows a simple login interface. It consists of three horizontal input fields stacked vertically. Below the input fields is a button labeled "Log on". At the bottom of the form, there are two radio buttons: the first is selected and labeled "HTML5 client", and the second is unselected and labeled "RemoteApp".

最初に、あなたはすべてを保持しなければなりません。

および HTML タグ:

- ブラウザにキャッシュをクリアさせるためのメタタグ
- .jsファイルのインクルージョン
- JavaScript設定宣言

その後、'body'と'/body'のHTMLタグの間のコンテンツをこれらの数行に減らすことができます。

## HTML5クライアント リモートアプリ

ウェブブラウザでウェブページを更新すると、上記のスクリーンショットの最小限のページが表示されるはずです。

変更されたファイルを保存した後は、ブラウザのキャッシュをクリアすることをお勧めします。

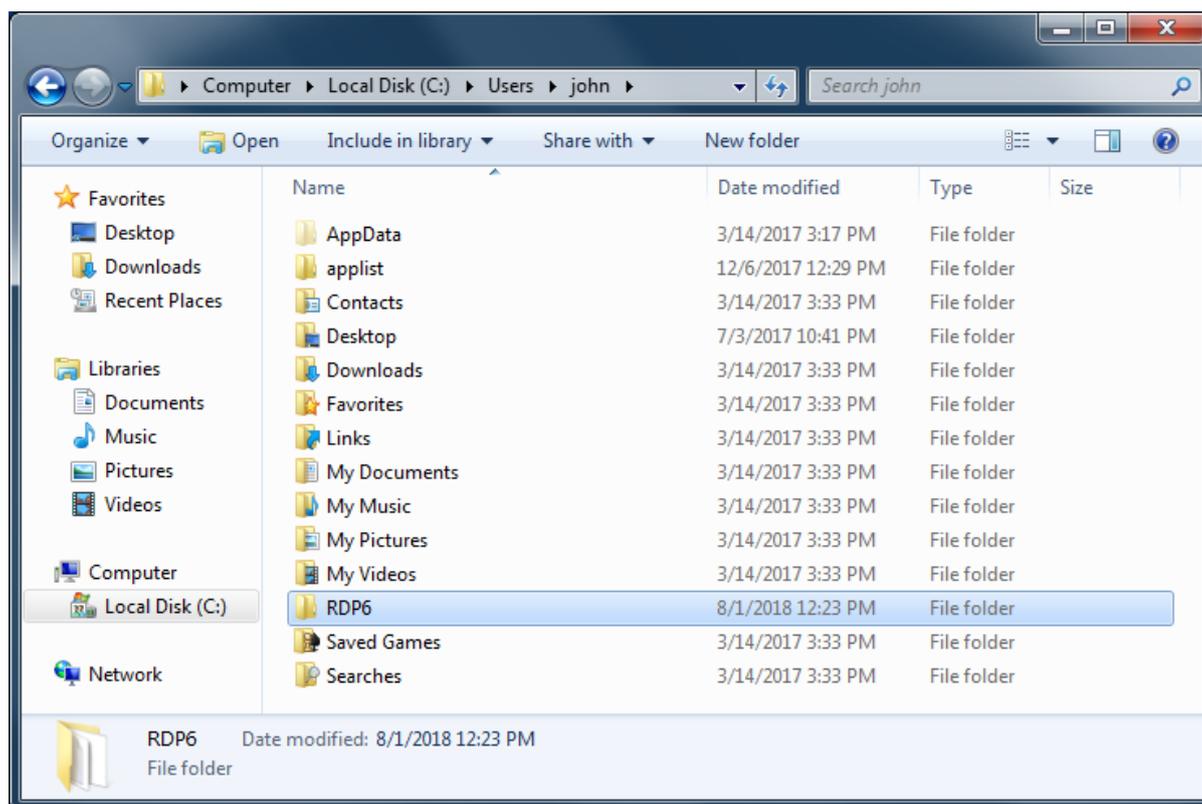
最後に、今はあなた次第です！

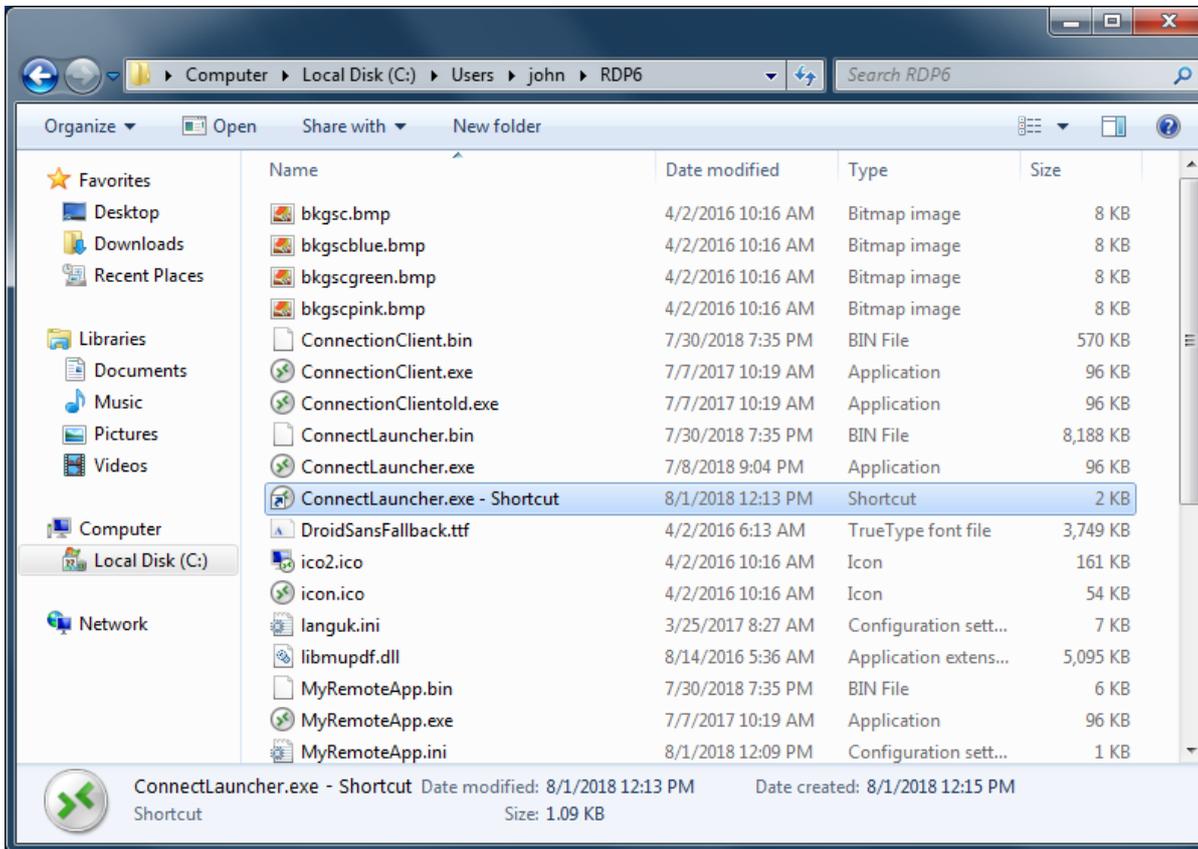
特定のイベントでのJavaScript関数への呼び出しと指定された識別子 ( id="..." ) を保持している限り、完全にカスタマイズされたWebアクセスページは正常に動作します！

# 生成されたクライアントのパラメータを編集または削除する

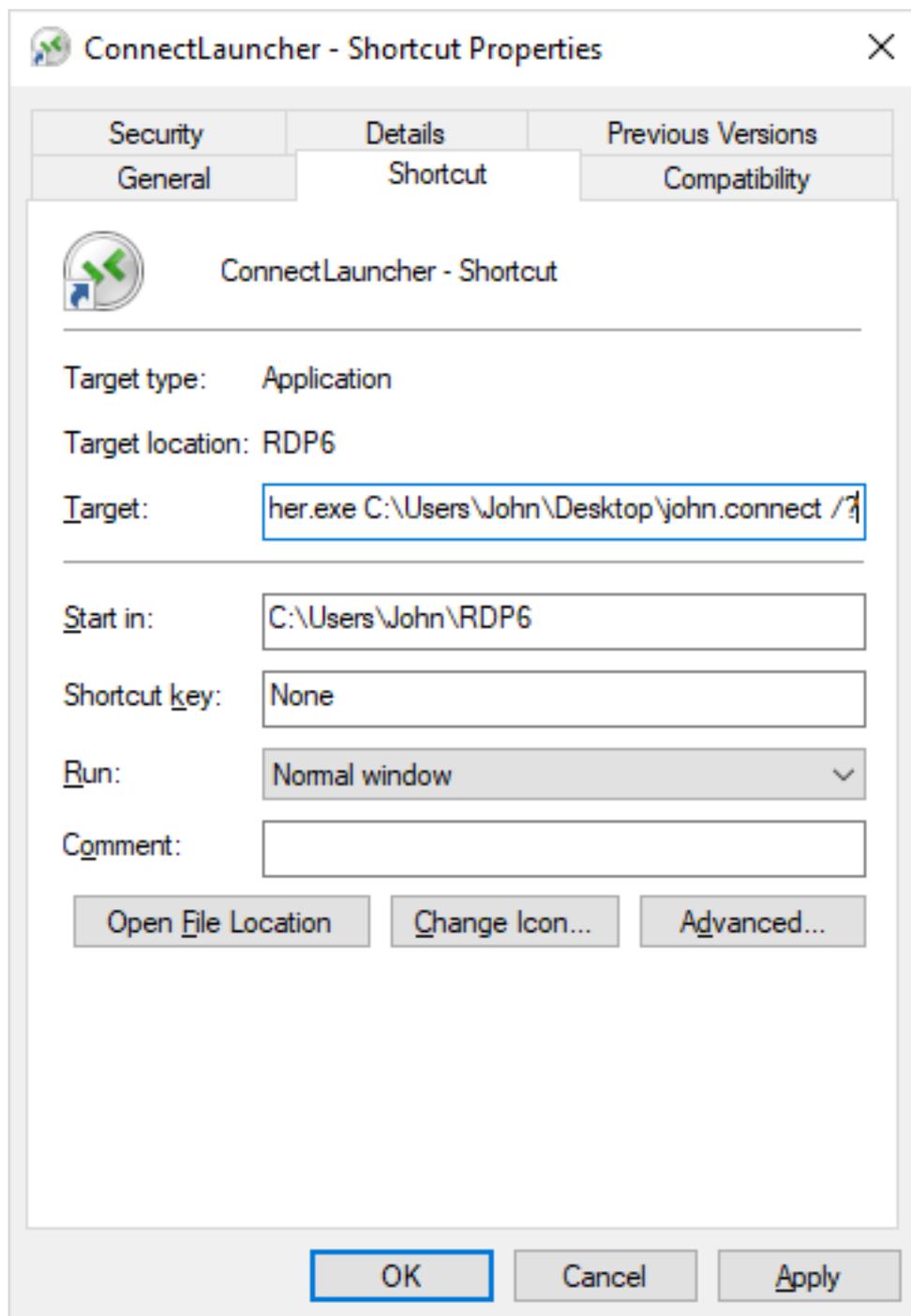
接続クライアントのパラメータを変更したい理由はたくさんあります。TSplusサーバーのIPアドレスが変更された、プリンターのリダイレクションを追加する必要がある、ユニバーサルプリンターの設定を変更する必要がある、などです。

- 最初に、ユーザープロファイルのRDP6フォルダーにあるConnectLauncher.exeファイルのショートカットを作成する必要があります。

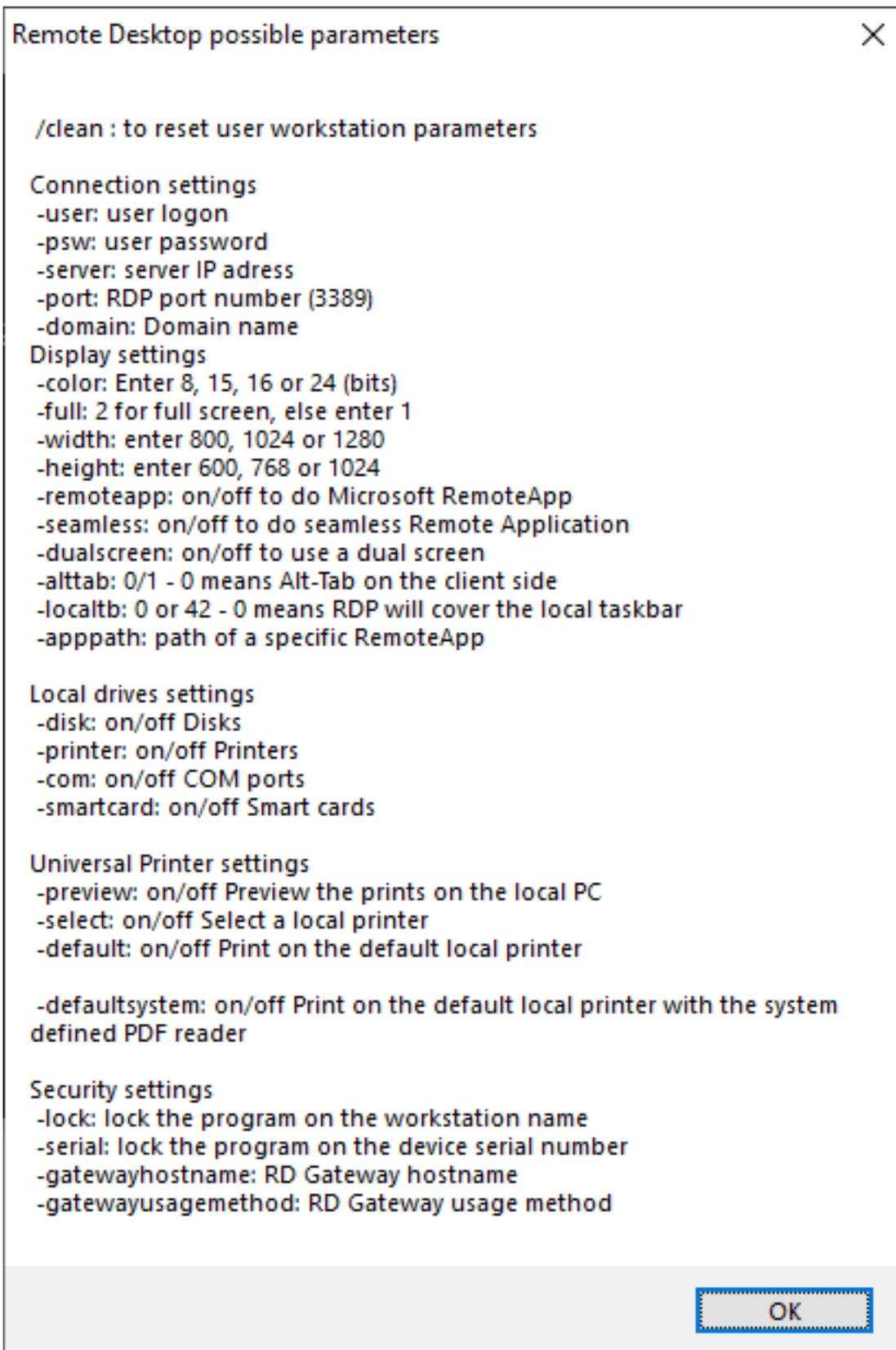




- 次に、それを右クリックしてプロパティを選択します。「ターゲット」フィールドの末尾にマウスを置き、クライアントのパスの後に「/?」を入力します。例えば：「C:\Users\John\Desktop\clientname.connect /?»:

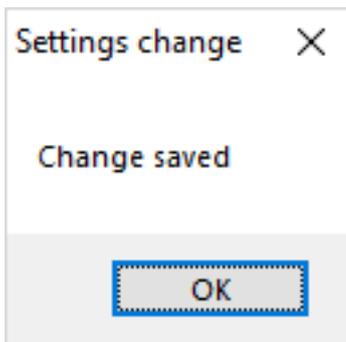
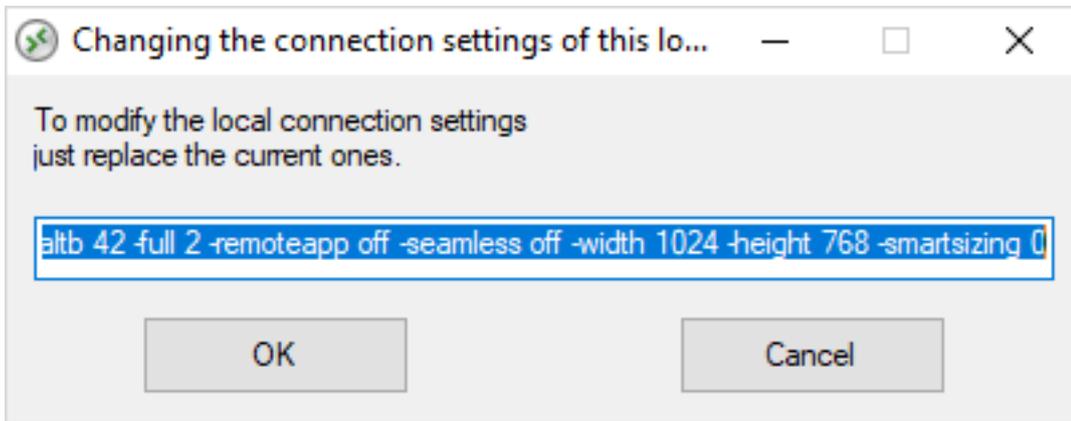


今すぐOKをクリックし、ショートカットをダブルクリックしてください。スイッチのリストが表示されます：



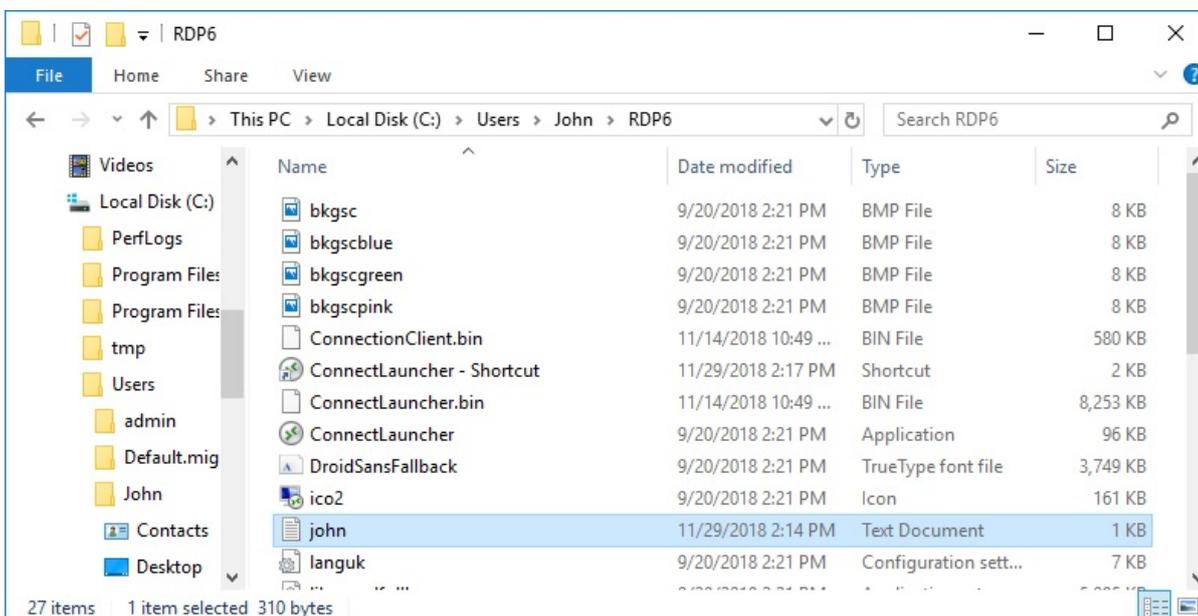
OKをクリックすると、すべてのパラメータのリストが小さなウィンドウに表示されます。

あなたの好みに合わせて編集できるようになりました。変更を適用するには、ログオフして再度ログインする必要があります。



## 生成されたクライアントのパラメータをクリーンアップする

クライアントを少なくとも一度起動した後、RDP6フォルダーにあるclient.txtファイルを削除することでパラメータをクリーンアップできます。





# Active Directory ドメインで Windows 統合認証を有効にする

このガイドは、Webポータル上でグループ管理サービスアカウント ( gMSA ) を使用して Windows統合認証 ( Kerberos/NTLM ) を構成するために提供されています。

各企業のネットワークとアーキテクチャの特性により、このドキュメントに従って発生する問題に対するサポートを提供することはできません。Windows統合認証を使用したWebポータルの技術要件を満たしていますが、実装は自己責任となります。

## ドメイン設定

Active Directory 環境は Kerberos または NTLM 認証をサポートする必要があります。

## マネージドサービスアカウント (gMSA) を設定する

Webポータルサービスをインストールし、それを実行します。 ドメイン管理サービスアカウント ドメイン管理者アカウントの代わりに。

## 前提条件

- Active Directory スキーマレベル: **Windows Server 2012** または後 ( gMSAに必要 )
- 少なくとも1つのドメインコントローラーが実行されています **Windows Server 2012** または後で
- KDSルートキーが作成されました ( 初回設定 )
- メンバーシップに **ドメイン管理者** または **アカウントオペレーター** アカウントを作成する

## KDSルートキーを作成します ( まだ作成されていない場合 ) 。

ドメインコントローラーで昇格されたPowerShellセッションで実行します:

ターミナルウィンドウ

```
Add-KdsRootKey -EffectiveTime ((Get-Date).AddHours(-10))
```

これにより、ルートキーがすぐに利用可能になります。

## gMSAを作成する

使用 New-ADServiceAccount :

ターミナルウィンドウ

```
New-ADServiceAccount `
-Name "WebPortalSvc" `
-DNSHostName "WebPortalSvc.domain.local" `
-PrincipalsAllowedToRetrieveManagedPassword "YourServerGroup" `
-Enabled $true
```

- 名前 gMSAアカウント名
- DNSホスト名 アカウントのFQDN
- 管理されたパスワードを取得することが許可されている主な者 コンピュータ/グループがこのgMSAを使用することを許可されています

**管理者権限を付与する ( オプション / 必要に応じて )**

デフォルトでは、gMSAには特別な特権はありません。

ドメインレベルのアクセスを付与する ( オプション ) :

ターミナルウィンドウ

```
Add-ADGroupMember -Identity "Domain Admins" -Members "WebPortalSvc$"
```

ローカル管理者/ログオン機能を付与する ( 必要な場合 ) :

ターミナルウィンドウ

```
Add-ADGroupMember -Identity "Administrateurs" -Members "WebPortalSvc$"
```

重要: 末尾 \$ AD内のgMSAアカウント参照に必要です。

## 再起動要件

再起動が必要です。サービスアカウントのインストール/使用を続行する前に、ポリシーを更新してください。

## ターゲットサーバーにgMSAをインストールします

各gMSAを使用するサーバーで実行します:

ターミナルウィンドウ

```
Install-ADServiceAccount -Identity "WebPortalSvc"
```

テストインストール:

ターミナルウィンドウ

```
Test-ADServiceAccount -Identity "WebPortalSvc"
```

## gMSAを使用するサービスを構成する

1. 付与 サービスとしてログオン アカウントに:
  - グループポリシーエディターを開く
  - 行く: コンピュータの構成 > Windowsの設定 > セキュリティの設定 > ローカルポリシー > ユーザー権利の割り当て
  - オープン サービスとしてログオン
  - 追加 DOMAIN\WebPortalSvc\$
2. Webポータルファイル/フォルダーにNTFS権限を確保してください:

- アプリケーションフォルダー/実行可能ファイルを右クリック > プロパティ > セキュリティ
- 追加 DOMAIN\WebPortalSvc\$
- 少なくとも **読み取りと実行** または **完全な制御** 必要に応じてデプロイメントによって

3.

サービスIDを構成する:

- アカウント: DOMAIN\WebPortalSvc\$
- パスワード: 空白のままにしてください

## サービスプリンシパル名 (SPN) を構成する

ウェブサービスはKerberosに登録されている必要があります。

ドメインコントローラーで実行:

ターミナルウィンドウ

```
setspn -A HTTP/webserver.domain.com DOMAIN\WebPortalSvc
```

サーバーのFQDNとアカウントを置き換えてください。

WebポータルホスティングサーバーがHTTP.sysを使用している場合、マシンアカウントに対してSPNを登録します。

ターミナルウィンドウ

```
setspn -S HTTP/portal.hiyoko.com:8008 WIN-HLBO0AGABB7  
setspn -S HTTP/portal.hiyoko.com:8009 WIN-HLBO0AGABB7
```

# クライアントマシンのネットワークを構成する

ドメイン参加クライアントを正しいサブネットに配置するには:

1. 正しいネットワークインターフェースを特定する
2. 既存の静的IPを削除する ( 不正確な場合 )
3. 静的IP、サブネットマスク、およびDNS/DCサブネットに一致するデフォルトゲートウェイを割り当てる
4. DNSサーバーアドレスを設定する

重要: ドメインコントローラーとクライアントに静的IPアドレスを割り当ててください。この文脈では、セキュリティポリシーの同期には、マシンが同じサブネット内にある必要があります。

## 必要なクライアント接続を許可する

UDP/TCP 53 ブロックされる可能性があり、DNSクエリを防ぐことがあります。

## トラブルシューティング手順

### DNSサーバーのステータスを確認する

ドメインコントローラー上:

ターミナルウィンドウ

```
net start DNS
```

DNSサービスが実行中であることを確認してください。

## DNSサーバーIPを確認する

クライアント上:

ターミナルウィンドウ

```
ipconfig /all
```

DNSサーバーのIPがドメインコントローラーのIPと一致していることを確認してください。

## 基本接続のテスト

クライアント上:

ターミナルウィンドウ

```
ping <DC_IP_Address>
```

pingが失敗した場合は、ネットワーク/ファイアウォールのルーティングをトラブルシューティングしてください。

# ファイアウォールルールを確認してください

クライアントとサーバーで、インバウンド/アウトバウンドのUDP/TCP 53が許可されていることを確認してください。

## nslookupでテスト

ターミナルウィンドウ

```
nslookup domain.com <DC_IP_Address>
```

これが機能する場合、デフォルトのDNSサーバーが誤って設定されているか、到達できない可能性があります。

## イベント ビューアをレビュー

ドメインコントローラーで、DNS関連のエラーを確認してください。

## Windows統合認証のためにMozilla Firefoxを設定する

FirefoxはデフォルトでWIAを使用しません。

### ステップ1: 信頼された交渉URI

1. Firefoxを開く
2. 行く about:config
3. 警告を受け入れる
4. セット

network.negotiate-auth.trusted-uris

あなたのドメインに、例えば：

- intranet.domain.com, domain.com

## ステップ2: 信頼されたNTLM URI

セット network.automatic-ntlm-auth.trusted-uris 同じドメインリストへ。

## ステップ3: Kerberos委任URI ( 必要な場合 )

セット network.negotiate-auth.delegation-uris 例えば:

- domain.com

## ステップ4 : ブラウザを再起動する

Firefoxを再起動して変更を適用してください。

## Windows統合認証のためにGoogle Chromeを設定する

ChromeはWindows/system認証設定を使用します。

## グループポリシー経由 ( 推奨 )

1. Chrome ADMX テンプレートをダウンロード:

- <https://chromeenterprise.google/policies/>

2. コピー

chrome.admx

そして

chrome.adml

へ:

- C:\Windows\PolicyDefinitions
- C:\Windows\PolicyDefinitions\ja-JP

3. オープン gpedit.msc

4. 行く:

- コンピュータの構成 > 管理用テンプレート > Google > Google Chrome

5. イン트라ネットサイトの統合認証を有効にし、信頼されたサイトを構成します:

- intranet.domain.com, domain.com

6. ポリシーを適用:

ターミナルウィンドウ

gpupdate /force

## 他の方法

この文脈では、他の方法 ( Chromeコマンドラインスイッチとフラグ ) は成功しませんでした。

## Microsoft EdgeをWindows統合認証用に構成する

EdgeはMicrosoft EdgeポリシーとWindowsセキュリティゾーン設定を使用します。

### イントラネットゾーンでの自動ログオンを有効にする

1. インターネットオプションを開く
2. セキュリティ タブ > ローカルイントラネット > カスタムレベル
3. 下  
ユーザー認証  
、設定：
  - イントラネットゾーンでのみ自動ログオン

## GPOを介してEdgeポリシーを構成する

### ステップ 1: Edge ADMX テンプレートをインストールする

1. ダウンロード：
  - <https://www.microsoft.com/ja-jp/edge/business/download>
2. コピー  
msedge.admx  
そして  
msedge.adml  
へ：
  - C:\Windows\PolicyDefinitions
  - C:\Windows\PolicyDefinitions\ja-JP

## ステップ2 : ポリシー設定を編集する

1. オープン gpedit.msc
2. 行く:
  - コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Microsoft Edge
3. 有効にする :
  - Microsoft Edgeが資格情報を委任できるサーバーのリストを構成します
4. 信頼できるサーバーを構成する:
  - intranet.domain.com, domain.com

## ステップ3 : ポリシーを適用する

ターミナルウィンドウ

```
gpupdate /force
```

## 他の方法

この文脈では、他の方法 ( Edgeコマンドラインスイッチとフラグ ) は成功しませんでした。

## 統合認証のトラブルシューティング

### Kerberosチケットを確認する

Windowsクライアントで:

ターミナルウィンドウ

```
klist
```

チケットが表示されるはずですが HTTP/webserver.domain.com .

## キャッシュされた資格情報/チケットをクリア

ターミナルウィンドウ

```
klist purge
```

## SPN登録を確認する

ドメインコントローラー上:

ターミナルウィンドウ

```
setspn -L serviceaccount
```

確保する HTTP/webserver.domain.com リストされています。

## FirefoxでKerberosをデバッグする

Firefoxをログ記録モードで起動:

ターミナルウィンドウ

```
set NSPR_LOG_MODULES=negotiateauth:5  
set NSPR_LOG_FILE=%USERPROFILE%\Desktop\firefox.log  
start firefox.exe
```

レビュー firefox.log 認証エラーの場合。

## Chromeポリシーを確認する

Chromeで開く:

```
chrome://policy
```

確保する AuthServerWhitelist そして AuthNegotiateDelegateWhitelist 適用されます。

## エッジポリシーを確認する

Edgeで開く:

edge://policy

確保する AuthServerWhitelist そして AuthNegotiateDelegateWhitelist 適用されます。

# ライフサイクル終了バージョン 1-12

Remote Access v12 ( およびそれ以前のすべてのバージョン ) は、すべてのWindowsコンピュータで機能しなくなります。

サービスの中断は2026年1月に始まり、4月の完全停止まで徐々に延長されます。

LTSバージョンまたは最新バージョンへの更新には、次のものがが必要です。 アクティブサポートサブスクリプション ライセンスのために。もしそうでない場合は、ライセンスポータルからサポートサブスクリプションに登録し、.LICファイルを使用してAdmintoolからライセンスを更新して、アップデートの恩恵を受けることをお勧めします。

サポートサブスクリプションを追加できない場合やエラーメッセージが表示される場合は、私たちに連絡するには、当社の [サポートに連絡する](#) 提供：

- あなたのライセンス番号は PXX XXX XXX の形式です ( Admintoolのライセンスタブに表示されます )
- あなたのライセンス購入請求書
- サポートサブスクリプションの請求書

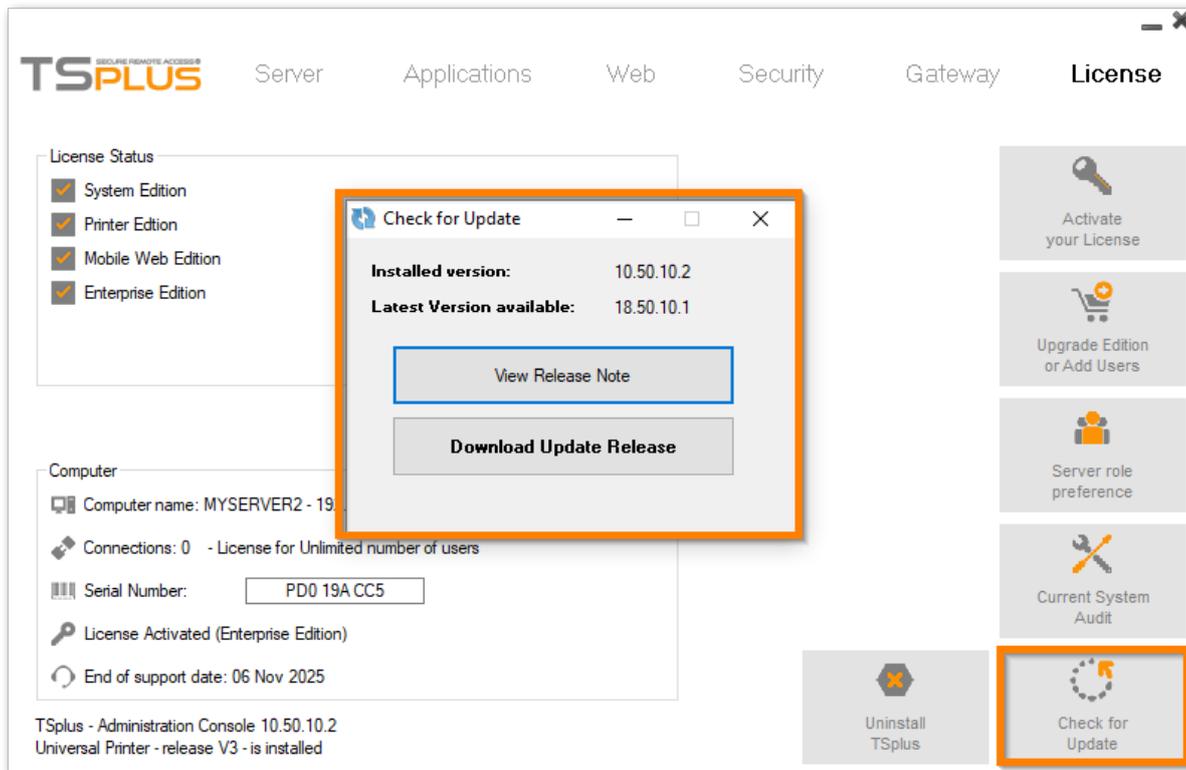
## あなたのバージョン v10 を更新中

LTSの代わりに最新バージョンをインストールしたい場合は、ページに移動してください。 [LTS](#) )

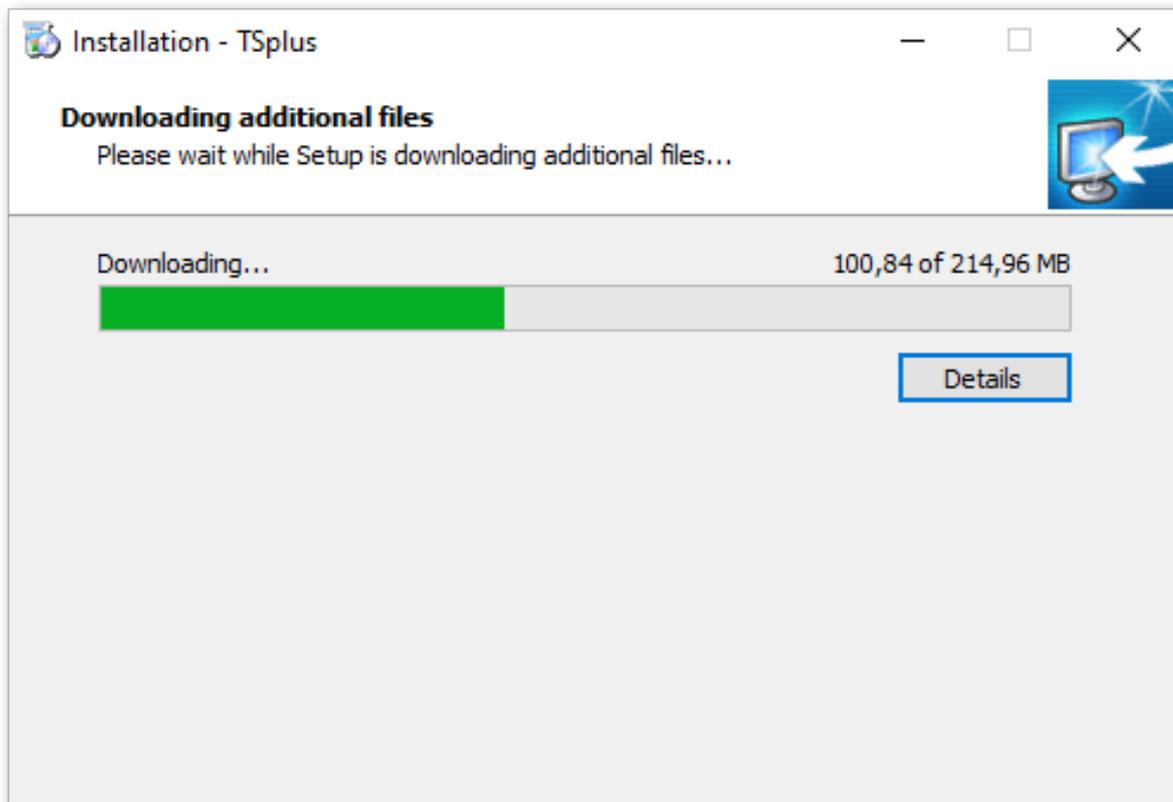
オンラインバージョン10から、次のフィールドをクリックしてダウンロードしてください。

**UpdateRelease.exe**

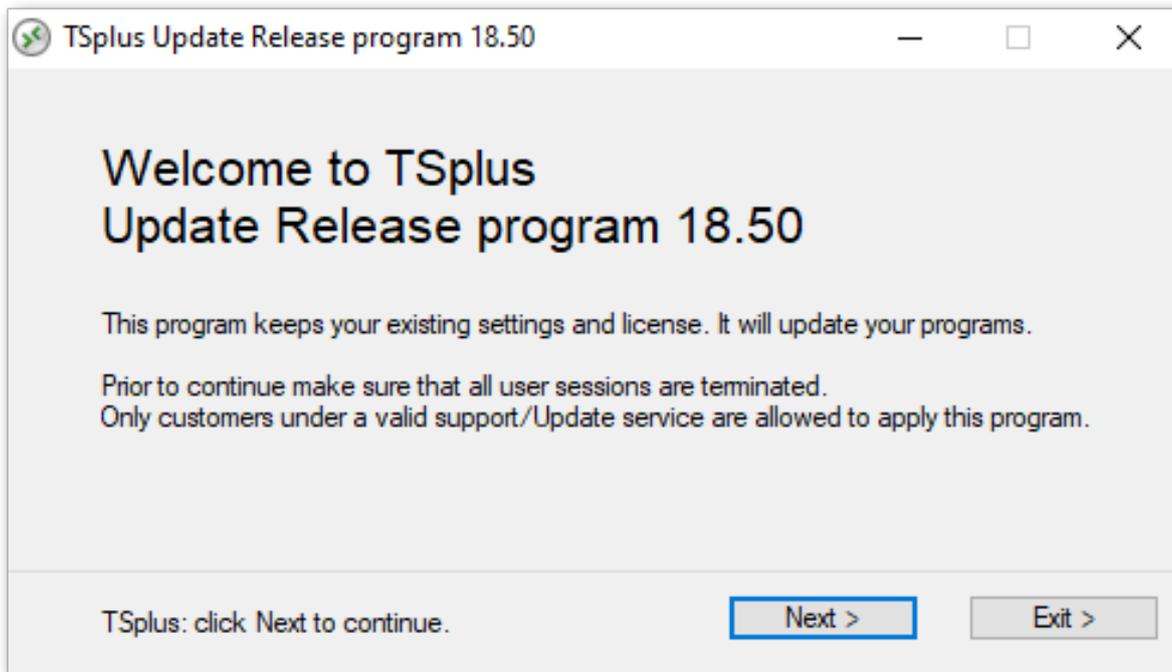
あなたはまたダウンロードできます [UpdateRelease.exe](#) 更新手続きを開始するには。



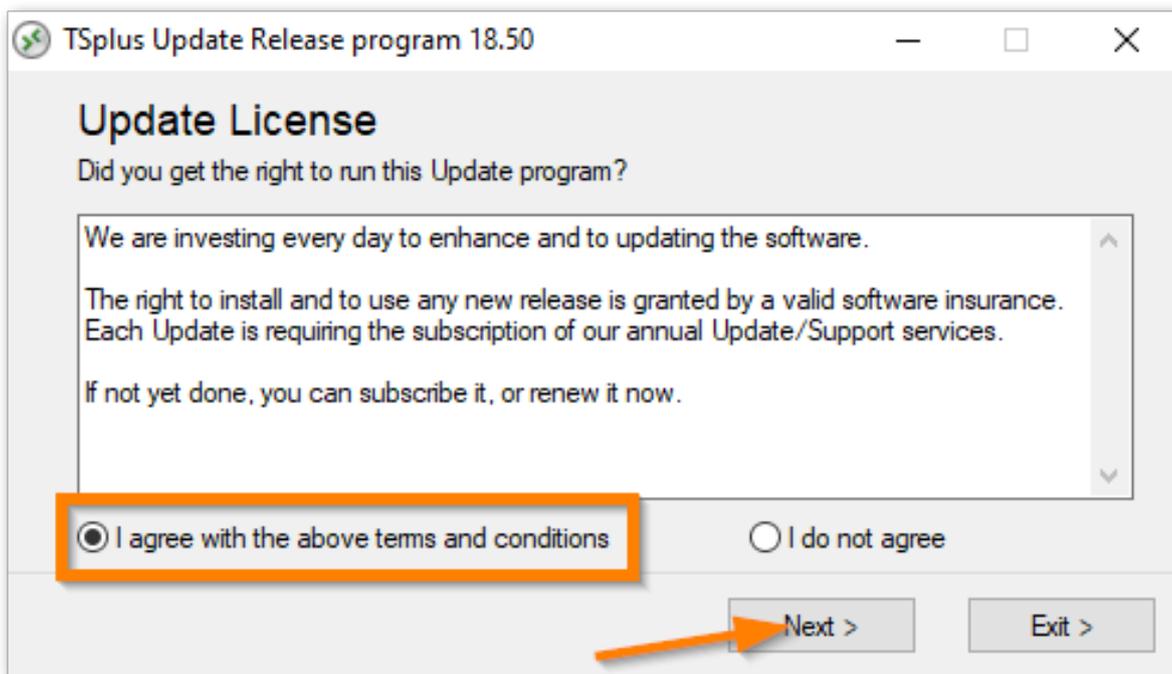
アップデートリリース.exeをダウンロードして、実行可能ファイルを実行してください。



更新プログラムが表示されます。



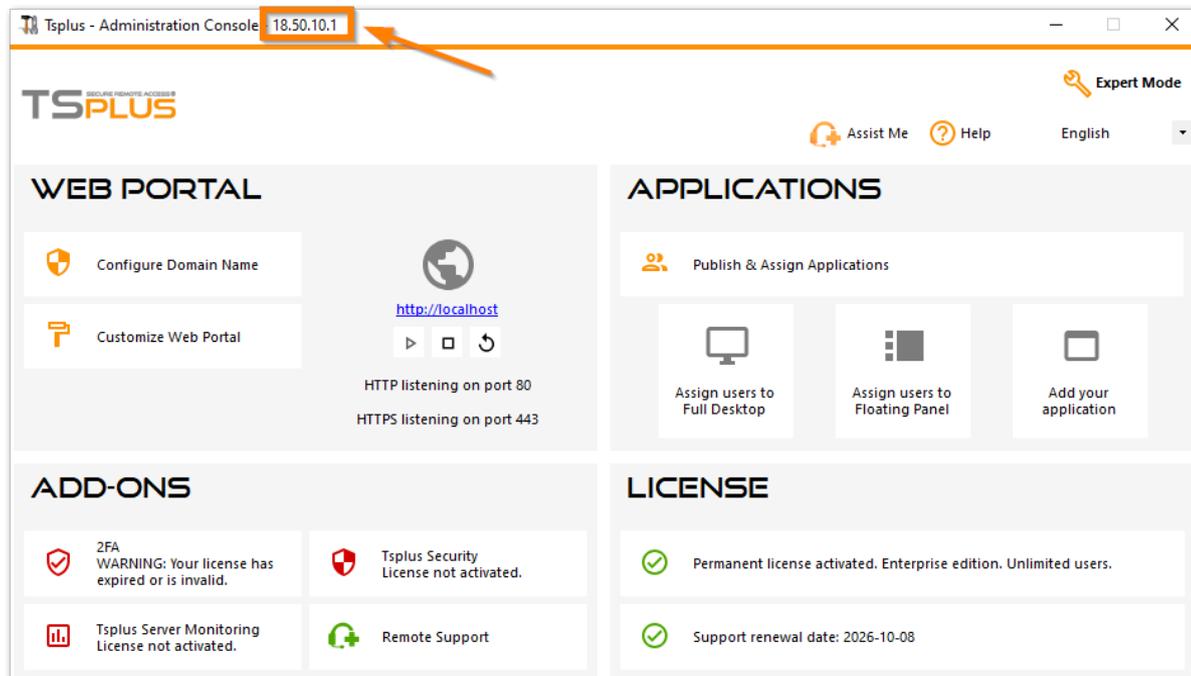
条件に同意してクリックしてください  
次へ



すべての手順に従い、移行の最後にサーバーを再起動してください。

- 完了したら、サーバーを再起動してください 更新を完了するために。

AdminToolを起動します。おめでとうございます、あなたは現在バージョン19にいます。

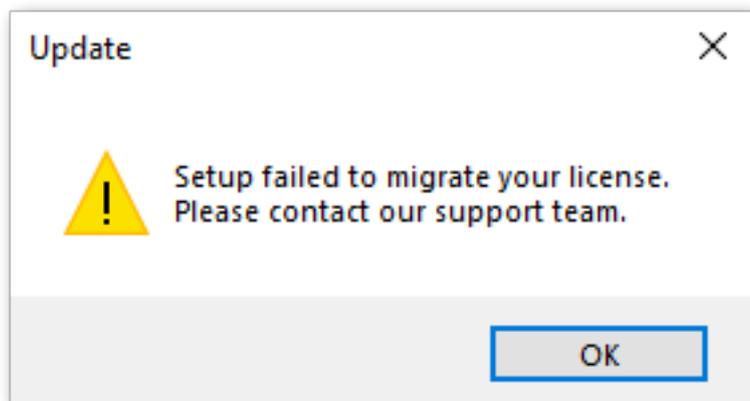


## エラーメッセージ v10

このエラーメッセージを受け取った場合、

[サポートに連絡する](#)

リモートアクセスをアンインストールするには、ライセンス番号をPXX XXX XXXの形式で提供し、サポート購入の請求書の証明も添付してください。



## あなたのバージョン v12 を更新中

オンラインバージョン12から、次のフィールドをクリックしてダウンロードしてください。

**UpdateRelease.exe**

あなたはまたダウンロードできます [UpdateRelease.exe](#) 更新手続きを開始するには。

Tsplus - Administration Console - 12.80.6.12

# TSPLUS Remote Access Management Console

- HOME
- APPLICATIONS
- PRINTER
- WEB
- FARM
- SESSIONS
- SYSTEM TOOLS
- ADVANCED
- ADD-ONS
- LICENSE

Computer name: MYSERVER2  
Private IP 192.168.1.155  
Public IP 89.92.57.145  
RDP port 3389  
Connections: 1

<http://localhost>

Session Manager

The built-in HTTP server is not listening on port 80  
The HTTPS server is not listening on port 443

- System Audit - No issues found on 08/10/2025 11:34:09
- Version 12.80.6.12 - Version 18.50.10.1
- License Activated - Enterprise edition - Unlimited users
- End of support date: 08/10/2026

English

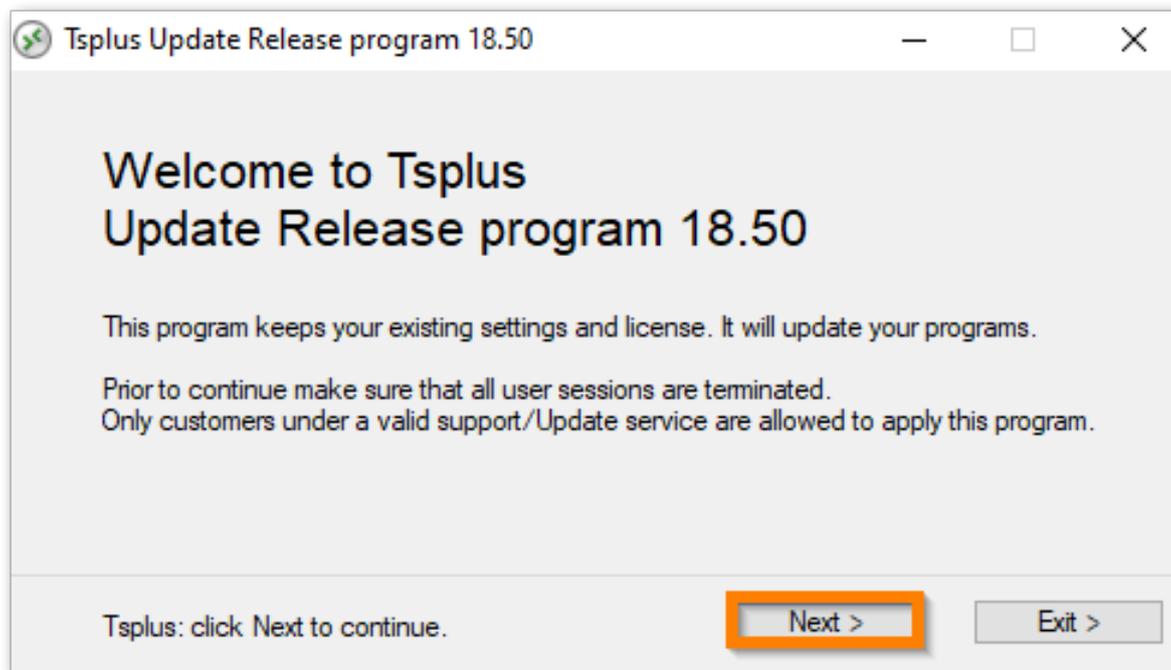
Help

## Update Release

The download of UpdateRelease.exe program has been completed.  
It has been saved in: C:\Users\admin\Downloads

Would you like to apply it now?

Oui Non

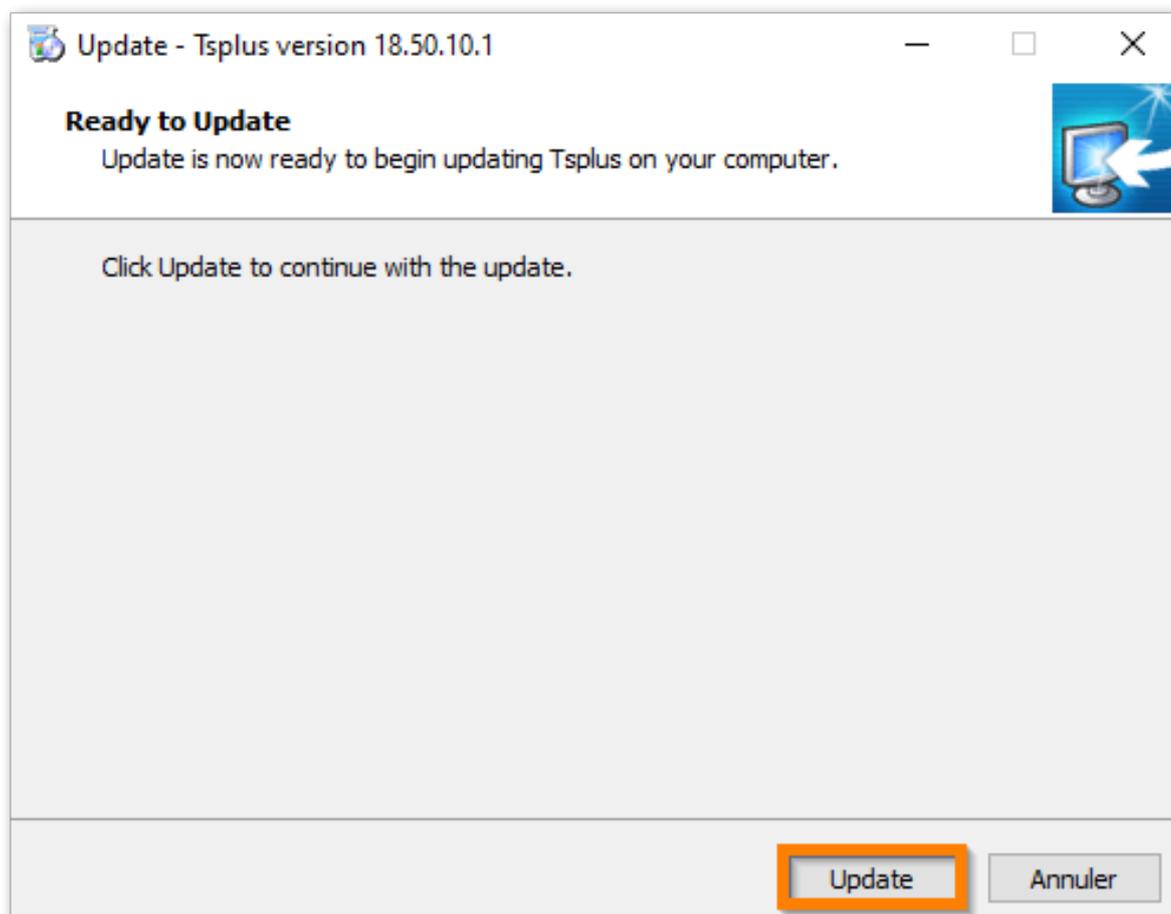


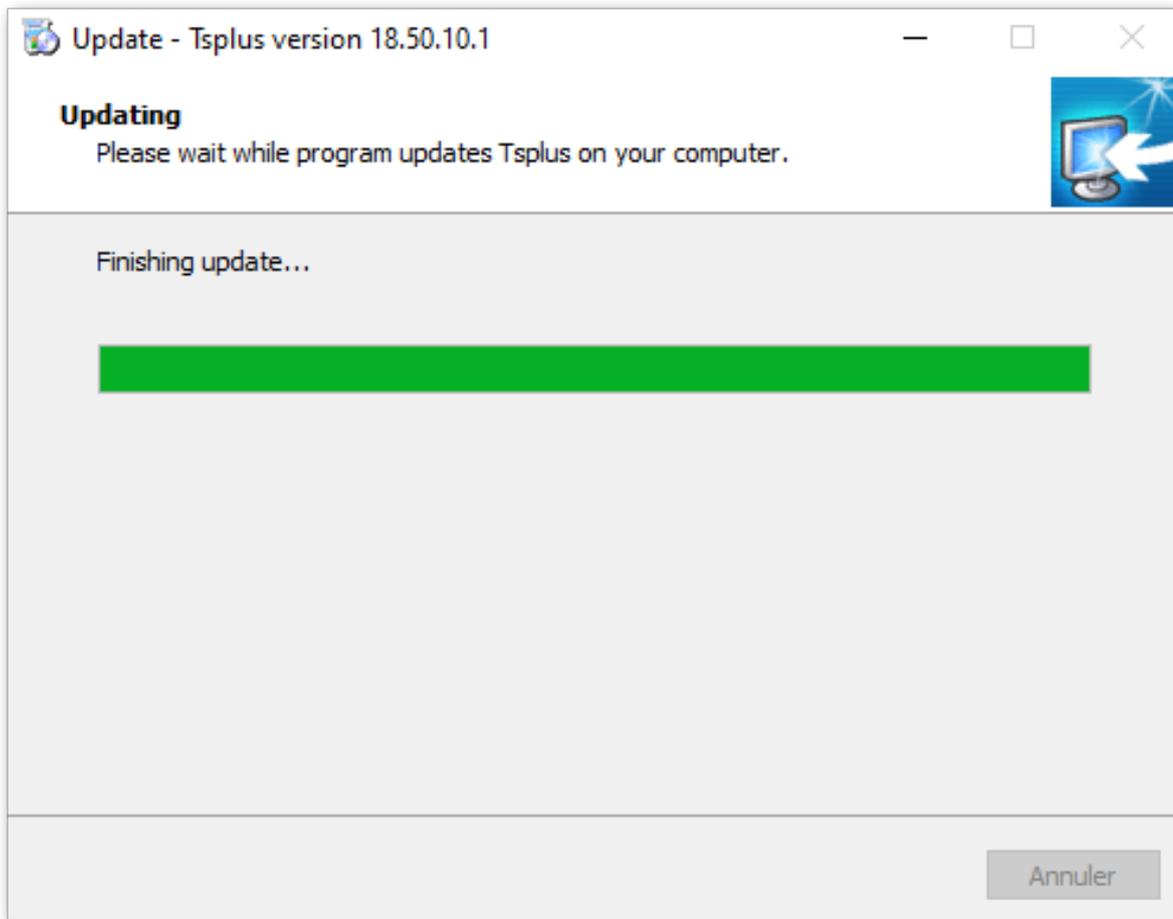
- 利用規約に同意し、次へ進むをクリックしてください。

ダウンロードが完了したら、クリックしてください。

更新

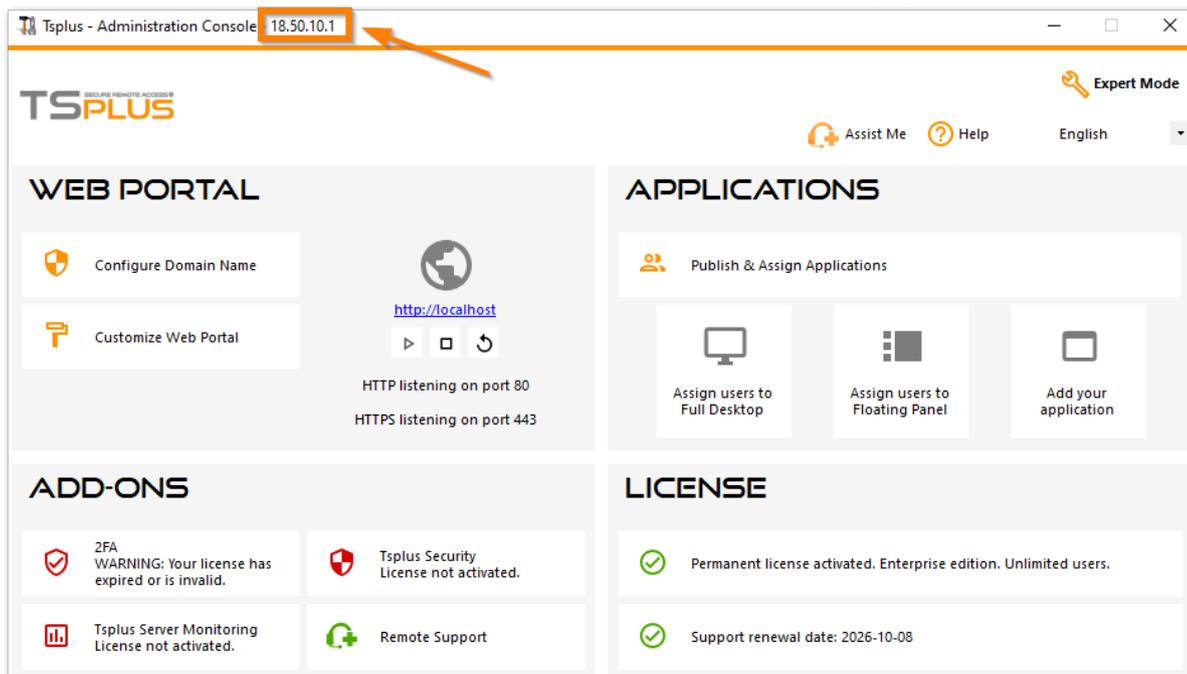
プロセスを開始するには。





- 完了したら、サーバーを再起動してください 更新を完了するために。

AdminToolを起動します。おめでとうございます、あなたは現在バージョン19にいます。



## エラーメッセージ v12

このエラーメッセージを受け取った場合、 [サポートに連絡する](#) リモートアクセスをアンインストールするには。  
ライセンス番号をPXX XXX XXXの形式で提供し、サポート購入の請求書の証明もご提示ください。

---

# HTTPSプロトコルを強制する

## スタンダードケース

Terminal Service Plus バージョン 9.20 から、HTTP を使用するすべてのウェブリクエストを HTTPS セキュアプロトコルにリダイレクトできます。

この機能をサーバーで有効にするには、「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webserver\settings.bin」ファイルを編集 (または作成) し、次の行を追加します :

```
disable_http_only=true
```

ファイルを保存し、Terminal Service PlusのWebサーバーを再起動します ( AdminTool > Web > Webサーバーの再起動または設定を再読み込みするにはアクセスしてください) 。 <http://127.0.0.1/w0j3?settings.bin> ) .

この機能が有効になると、次の不正なウェブページにアクセスしようとすることができます:

<http://your-server>

そして、あなたのリクエストを安全なWebポータルページに自動的にリダイレクトします。

<https://your-server>

## 特別なケース : カスタムウェブポート

HTTPSを提供するために特定のポートを使用している場合は、「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webserver\settings.bin」ファイルを編集し、上記で説明した行の代わりに次の行を使用してください。

```
disable_http_only="domain.com:4431"
```

domain.comはあなた自身のサーバーホスト名で、4431はあなたのHTTPSカスタムポートです。

ファイルを保存し、Terminal Service Plusウェブサーバーを再起動します ( AdminTool > Web >

Webサーバーの再起動 )。

この機能が有効になると、次の不正なウェブページにアクセスしようとすることができます:

<http://domain.com>

そして、あなたのリクエストを安全なWebポータルページに自動的にリダイレクトします。

<https://domain.com:4431>

コメント: これは安全ではありませんが、httpポートでssl/httpsを無効にしたい場合は、settings.binファイルを編集し、次の行を追加してください: `disable_ssl_on_http=true`。保存してサーバーを再起動します。

## httpsでhttpを無効にする

デフォルトではアクセスが許可されています <https://my-domain.com> , <https://my-domain.com:80> , <http://my-domain.com:443> httpをポート443で許可するか、ポート80でhttpsを許可しますが、これはセキュリティに影響を与えず、ウェブソケットのサポートが不可能な場合に劣化したxhr接続に簡単に戻ることができます。しかし、これを無効にしたい場合は、settings.binファイルを編集し、次の行を追加してください。

```
disable_http_on_https=true
```

その後、Terminal Service PlusのWebサーバーを再起動します ( AdminTool > Web > Webサーバーの再起動または構成の再読み込み )。 <http://127.0.0.1/w0j3?settings.bin> )

## HTTPS強制と無料SSL証明書検証

このHTTPS強制機能は、私たちの製品と完全に互換性があることに注意してください。 [無料SSL証明書](#) 機能。

# サーバーに接続するためにウェブポータルの使用を強制する

Terminal Service Plus バージョン 6.60 から、mstsc.exe ( または任意の RDP クライアント ) を使用してオープン/リダイレクトされたポート ( 80 または 443 ) 経由で接続しようとする試みをブロック/無効にすることができます。

この機能は、Terminal Service Plus Web Portalからのアクセスのみを許可し、ポート80/443での他のRDP接続を無効にします。

この機能をサーバーで有効にするには、ファイル C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\AppControl.ini を編集し、次の変数を追加または変更します。

セキュリティ Block\_rdp\_splitter=yes

# 負荷分散

## 前提条件

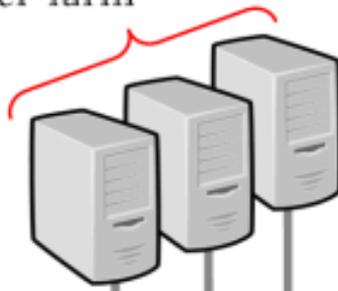
この機能を使用すると、負荷分散された環境を管理できるようになります。

すべてのユーザーの負荷がサーバー間で分散されることを意味します。作業負荷は、ファーム内のすべてのサーバー間で共有されます。

負荷分散は、無制限のサーバーを使用できるようにし、エンタープライズエディション (サーバーごとに1つの有効なライセンス) で利用可能です。この非常に強力な高度な機能は、多数のユーザー/サーバーを展開する必要がある場合に使用されます。

**重要：**単に負荷分散を有効にすると、ユーザーに割り当てられたサーバーに関係なく、ファームの最も負荷の少ないサーバーにユーザーがリダイレクトされます。負荷分散とサーバー割り当ての両方を使用する場合は、「割り当てられたサーバーで負荷分散を行う」のチェックボックスをオンにしてください。

TSplus  
Server farm



Windows  
Active Directory



PC



通常、50人の同時ユーザー用に1台のサーバーを使用することをお勧めします。  
サーバーの性能とユーザーのアプリケーションリソースの消費に応じて、50人以上のユーザーを超えることができます。

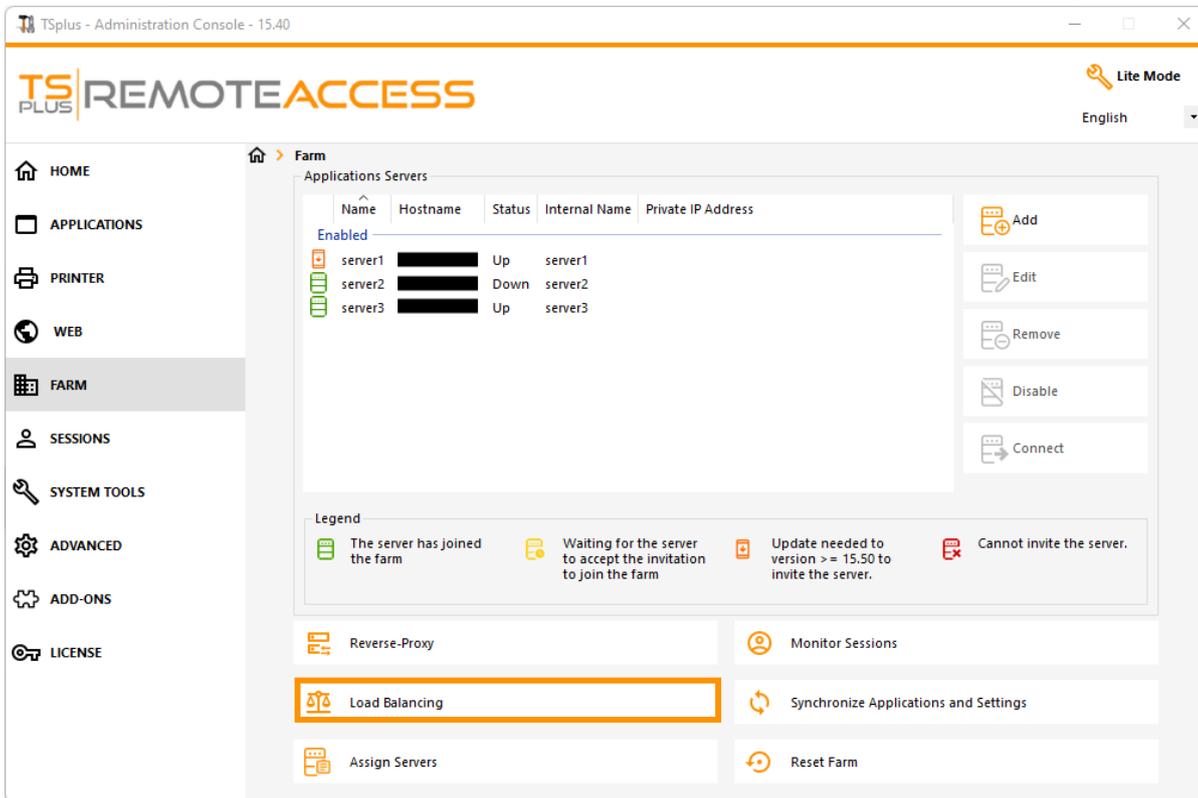
## 生成されたクライアントとウェブアクセス

ロードバランスされたクラスターに接続する方法は3つあります：

- 使用する **生成されたクライアント** 実行可能なプログラム、作成された [ポータブルクライアントジェネレーター](#) )
- 使用する **ウェブポータルアクセス** Webポータルの設定ウィンドウでそれを有効にすることによって。
- とともに [TSplusアプリ](#) モバイルデバイスから。

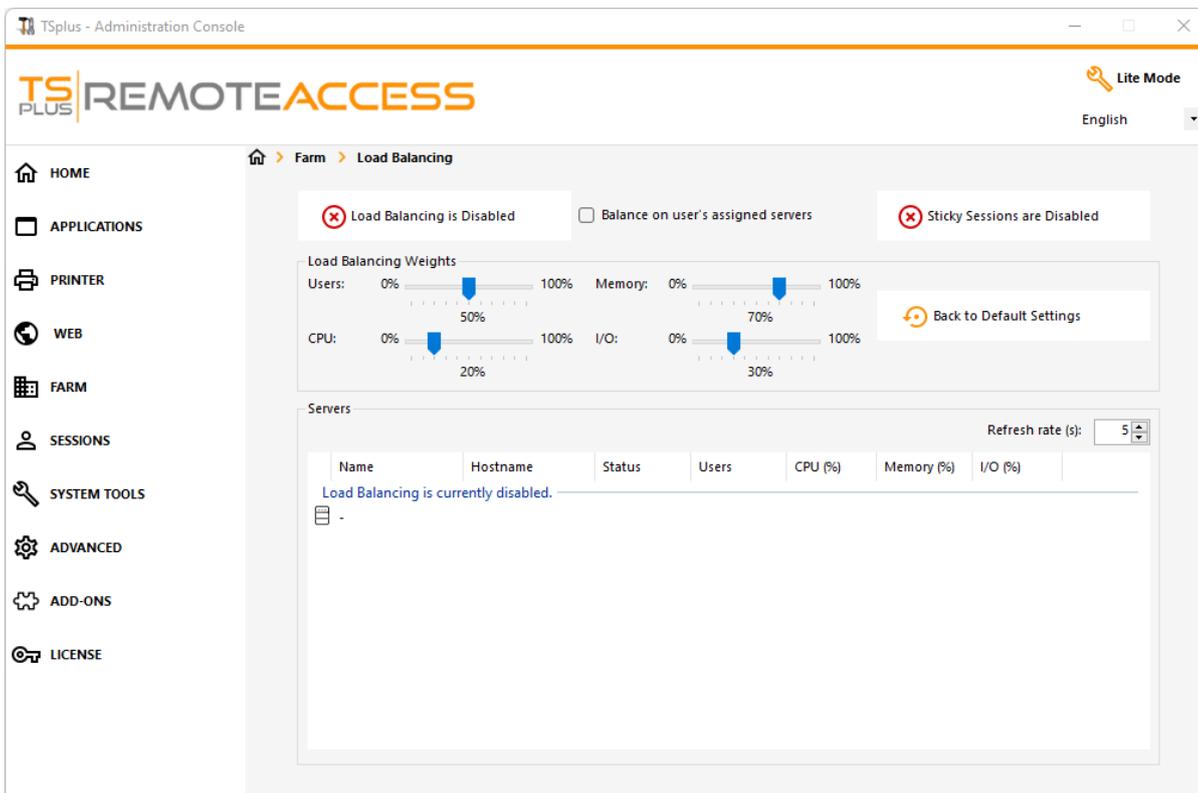
## 負荷分散メインウィンドウ

ロードバランシングマネージャーは、AdminToolのファームタブの下にあります。



このウィンドウでは、負荷分散を構成できます。負荷分散されたサーバーファーム内のすべてのサーバーがリストされ、負荷分散を有効化、無効化、構成することができます ( 詳細は下記をご覧ください )。

下の画像のボタンをクリックして、対応する情報にアクセスしてください。



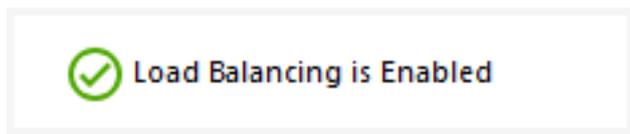
負荷分散ウィンドウの上部に、大きなボタンが表示されます。

- このボタンは負荷分散の現在の状態を表示します。
- クリックすると、現在の状態に応じて負荷分散を有効または無効にします。

ロードバランシングの際のボタンはこちらです 無効 それをクリックすると、アクティブになります。



ロードバランシングの際のボタンはこちらです 有効化された それをクリックすると、無効になります。



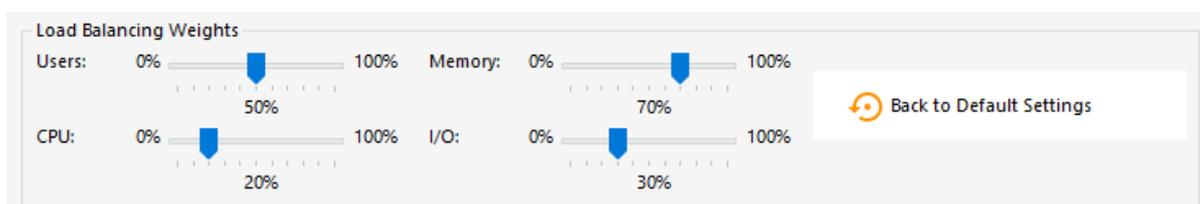
## 負荷分散はどのようにサーバーを選択しますか？

負荷分散が有効になっている場合、ユーザーは接続時に負荷の少ないサーバーに送信されません。

どのサーバーが最も負荷が少ないかを判断するために、各サーバーの負荷は、いくつかのパフォーマンス指標の加重平均を使用して計算されます。

- 接続されているユーザーの数
- プロセッサの使用状況
- メモリ使用量
- ディスク使用量

これらの指標の重み ( 重要性 ) を次のスライダーを使用して変更できます。



これらのスライダーを使用することで、負荷分散を微調整し、自分のニーズに最適化することができます。たとえば、ユーザーが大きなメモリ要件を持つビジネスアプリケーションを起動する場合、「メモリ」スライダーを使用して負荷計算におけるRAMの影響を増加させることが良いアイデアかもしれません。

これらの値は「デフォルト設定に戻す」ボタンをクリックすることでリセットすることもできます。

## サーバーの負荷はどのように計算されますか？

各サーバーの負荷は、ユーザーをどのサーバーに送信するかを決定するために必要に応じて計算されます。

この計算には、私たちはを使用します **加重平均** 4つのハードウェアメトリックの間。

4つのスライダーを使用すると、これらの指標のそれぞれに対してより多く（または少なく）の重みを与えることができます。

- 接続されているユーザーの数
- CPU：非アイドルプロセッサ時間の割合
- メモリ：使用中のメモリの割合
- I/O：非アイドルディスク時間の割合

例えば、「メモリ」スライダーを右側に置き、他のすべてのスライダーを左側に置くと、各サーバーの負荷は使用されているメモリの割合のみを使用して計算され、ユーザーは最も利用可能なメモリを持つサーバーに送信されます。

- スライダーが完全に左にあるとき、負荷計算に使用される重みは1になります。
- スライダーが完全に右にあるとき、負荷計算に使用される重みは100になります。

さらに、特定のサーバーの負荷は[使用リソース / 総リソース]の比率に依存します。したがって、サーバーAがサーバーBの2倍の性能を持っている場合、サーバーAにはサーバーBの2倍のユーザーを送信する必要があります（他の条件が同じである場合）。

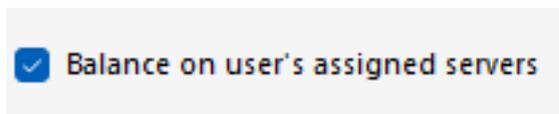
ロードバランスされたサーバーのステータスのリストと各サーバーのパフォーマンス指標の詳細を確認できます。

サーバーは、あなたの設定に従って、負荷の少ないものから最も負荷の高いものへと並べられています。

負荷分散サーバーのステータスのリストは自動的に更新されます。この自動更新は、接続が利用できなくなると停止します。「サーバー」ボックスの右上隅で更新頻度を変更できます。

Name	Hostname	Status	Users	CPU (%)	Memory (%)	I/O (%)	Load (%)
Enabled							
srv1	...	Up	3	13	11	0	11
srv2	...	Up	0	0	36	0	25
srv3	...	Up	1	0	61	0	43

負荷分散は、ユーザーに割り当てられたサーバー上で直接行うこともできます。ユーザーに割り当てられたサーバーでのバランス。その結果、特定のサーバーが会計士ユーザーに割り当てられた後、会計部門のサーバーでのみ会計士ユーザーのために負荷分散を行うことができるようになります。



ロードバランシングウィンドウの右ボタンをクリックすることで、スティッキーセッション機能を有効にできます。



有効化 既存のセッションのウェブリスト ロードバランシングのスティッキーセッション機能に必要です。

切断されたセッションに再接続することができ、新しいセッションを別のサーバーで開く必要がなくなります。

有効にする 既存のセッションのウェブリスト、次の設定を行います [設定](#) 「いいえ」

## 接続クライアントを使用した負荷分散

生成したい場合は [接続クライアント](#) ユーザーが負荷の少ないサーバーに接続するために あなたが必要とするのは、クライアントジェネレーター “の中で 負荷分散 ” タブへ:

- 「負荷分散を使用する」チェックボックスを確認してください
- 「Gateway Webポート番号」フィールドに、Gateway Serverで使用されるHTTPまたはHTTPSポートを入力してください。

Windows Client Generator

General Display Remote Desktop client Local resources Program Security Load-Balancing

Enable Load-Balancing ?

Use Load-Balancing Gateway Web port number 80

When "Use Load-Balancing" is checked, it enables using the Gateway with Load-Balancing to connect to an Application Server of the farm.

Prior using this advanced feature, please read our documentation

Client location: C:\Users\admin\Desktop Browse

Client name: John-44.connect Create Client

- ゲートウェイサーバーの「サーバー」フィールドに、パブリックIPアドレスまたはホスト名を直接使用してください。

# Windows Client Generator



General | Display | Remote Desktop client | Seamless client | Local resources | Program | Security | Load-Balancing

## Server



Server address

gateway.mycompany.com

Port number

## User



Logon

John

Password

.....

Domain name (without extension)

## Preferred display mode

Remote Desktop client

RemoteAPP client

Seamless client

Disable background & animations for better performances

Fast network or Fiber optic

Client location:

C:\Users\John\Desktop

Browse

Client name:

John.connect

Create Client

# ファームマネージャーAPI

サーバーファームの包括的な管理機能を提供するために設計された強力なAPIを提供できることを嬉しく思います。

このAPIを使用すると、既存のインフラストラクチャに当社のソフトウェアをシームレスに統合でき、独自のカスタムスクリプトを使用してサーバー操作を管理および自動化できます。

私たちが提供する堅牢で多用途なAPIを使って、ソフトウェアの可能性を最大限に引き出してください。

## 要件

ファームマネージャーAPIにクエリを送信するには、サーバーが必要です:

- 有効なSSL/TLS証明書を持っている
- ポート19956で開かれる必要があります
- 証明書がカバーするドメインを使用して連絡可能です。

## 使用例

例えば、管理者は使用できます [ファーム > サーバーリストを取得](#) すべてのサーバーの包括的なリストを取得する機能、在庫管理を効率化します。 [ファーム > ファームを初期化](#) 機能は新しいサーバーファームの迅速なセットアップを可能にし、スムーズな展開プロセスを保証します。ユーザー特有のサーバー管理のための [ファーム > ユーザーに割り当てられたサーバーのリスト](#) サーバー割り当ての追跡と管理に役立ちます。

負荷分散シナリオでは、 [負荷分散 > サーバーを選択](#) そして [負荷分散 > 再読み込み](#) 機能は動的サーバー選択とロードバランサー設定の再読み込みを可能にし、リソースの分配とパフォーマンスを最適化します。 [リバースプロキシ > 再読み込み](#) 機能は、プロキシ設定の変更がダウンタイムなしで適用されることを保証します。さらに、 [サーバー > 追加](#) そして [サーバー > 編集](#) サーバーのファームへのシームレスな追加と変更を容易にする機能。

管理者は、利用することでさらに業務を強化できます。 [設定 > リスト設定](#) そして [設定 > 設定を適用](#) サーバーファーム全体で構成設定を取得して適用するための機能。

セッション管理のために、[セッション > 切断](#) そして [セッション > ログオフ](#) 機能はユーザーセッションの制御された終了を可能にしますが、[セッション > ユーザーセッションのリスト](#) アクティブセッションの詳細なビューを提供し、監視目的で使用します。

これらの強力なAPI機能を活用することで、サーバー管理プロセスの自動化、効率性、制御を高め、インフラストラクチャの最適なパフォーマンスと信頼性を確保できます。

## ドキュメンテーション

このAPIの完全なドキュメントはここにあります：[API ドキュメント](#)

# 概要

## 概要と命名

TSplus Farmの機能の目的は、管理者が単一のサーバーからすべてのTSPlusサーバーを管理できるようにすることです。このサーバーは次のように呼ばれます。 **ファームコントローラー**。

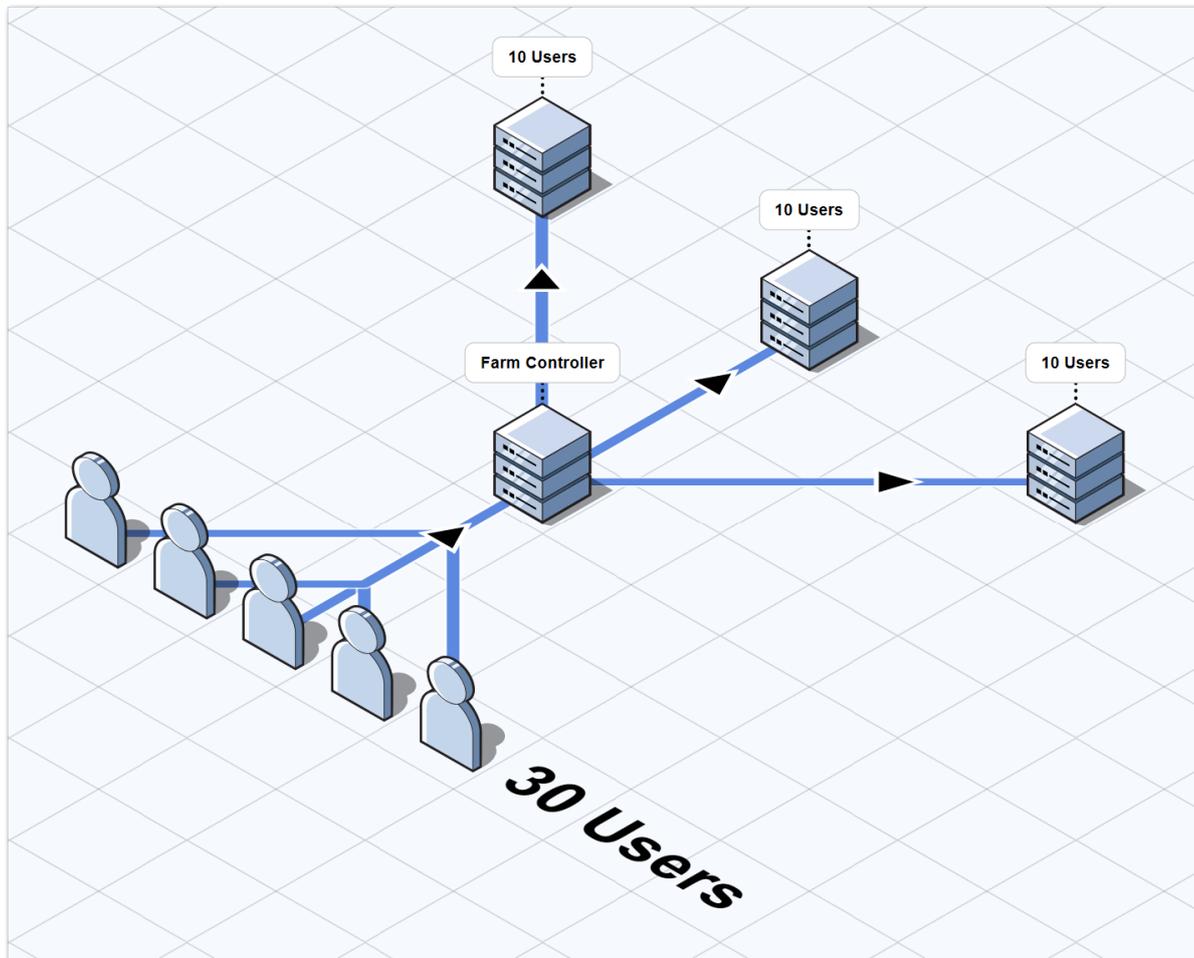
ファーム内のTSplusサーバーは次のように名付けられています **アプリケーションサーバー**、または**サーバーのみ**。

このファームコントローラーは、アプリケーションサーバーでファームが構成されると、次のようになります。 **ゲートウェイサーバー** ファーム機能のいずれかを有効にすると、例えば：

- Load balancing
- リバースプロキシ
- サーバーを割り当てる

このゲートウェイサーバーは、基本的に「負荷分散」または「サーバーの割り当て」が有効になっているときに、すべてのユーザーの主要なエントリーポイントになります。

最後に、このファームコントローラーは、アプリケーションサーバーを監視し、ファームコントローラーからアプリケーションや高度な設定などのTSplus関連設定をアプリケーションサーバーに簡単にプッシュできるようにします。



## TSplusサーバーアーキテクチャファーム

TSplusサーバーファームを展開するためのオプションは2つあります：

**オプション 1** すべてのサーバーにはパブリックIPアドレスがあり、インターネットからアクセスできます。

または

**オプション 2** インターネットからアクセスできるのはゲートウェイポータルのみです。ゲートウェイサーバーは「リバースプロキシロール」を提供しています。

両方のオプションで：

- すべてのサーバーは同じTSplus構成を持っています。
- すべてのサーバーは同じHTTP/HTTPSポートを持っています。
- 新しいアプリケーションを公開するには、AdminToolでユーザー/ユーザーグループに追加するだけです。

もちろん、このアプリケーションが対象のアプリケーションサーバーにインストールされていることを確認してください。

すべてのWebアクセスタイプは、特別な設定なしで利用可能です：RemoteAppおよびHTML5クライアント。

## **オプション1 - すべてのサーバーには独自のパブリックIPアドレスがあり、インターネットからアクセスできます。**

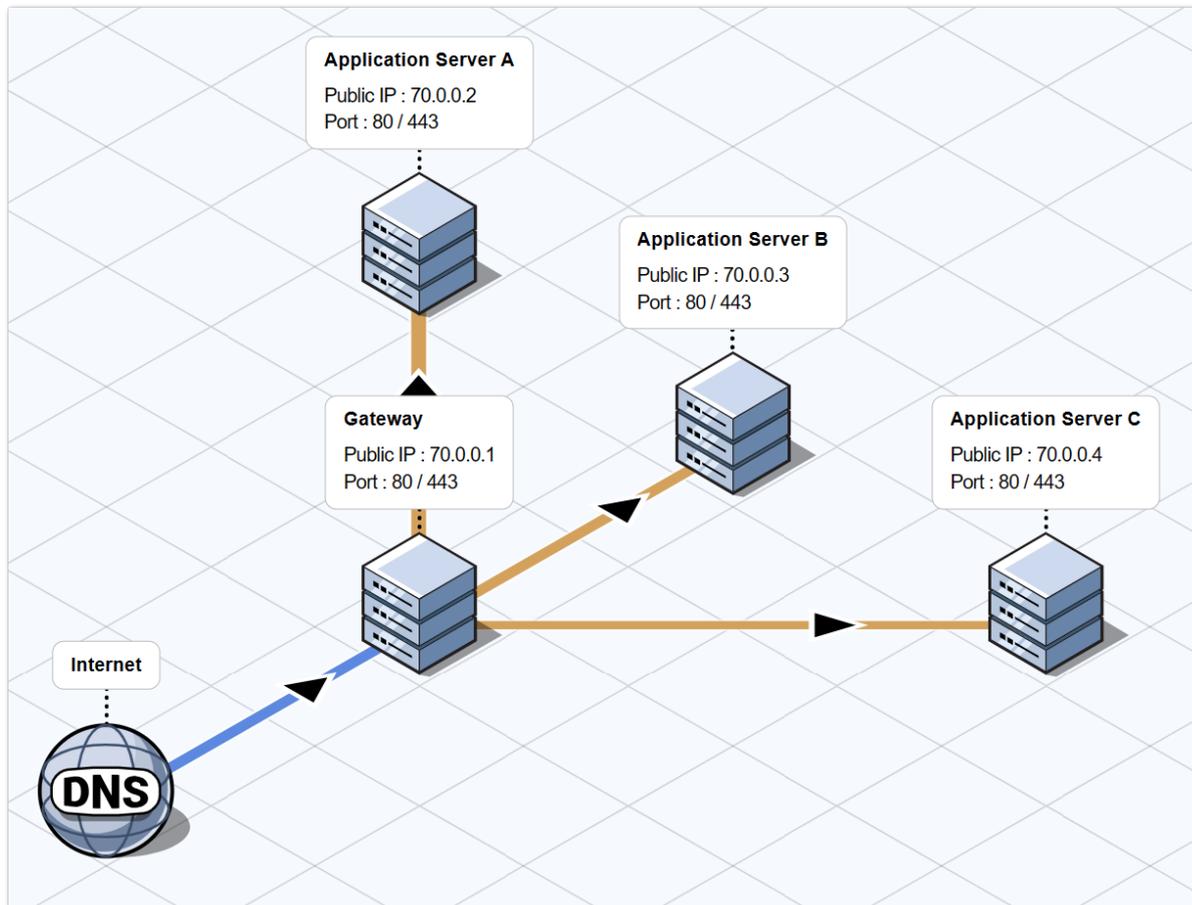
これは、Terminal Service Plus Gatewayを使用するために推奨されるアーキテクチャです。

このアーキテクチャはベストプラクティスに従い、IT管理者がその環境を産業化することを可能にします。

- すべてのサーバーは同じTerminal Service Plus構成を持っています。
- すべてのサーバーは同じHTTP/HTTPSポートを持っています。
- 新しいアプリケーションサーバーの展開は数分の問題です（ゲートウェイサーバーのAdminToolでサーバーをファームに追加するだけです）。

このアーキテクチャにより、特別な設定なしで全てのアクセスタイプが利用可能です：RemoteappおよびHTML5クライアント。

このアーキテクチャは以下の図に示されています。



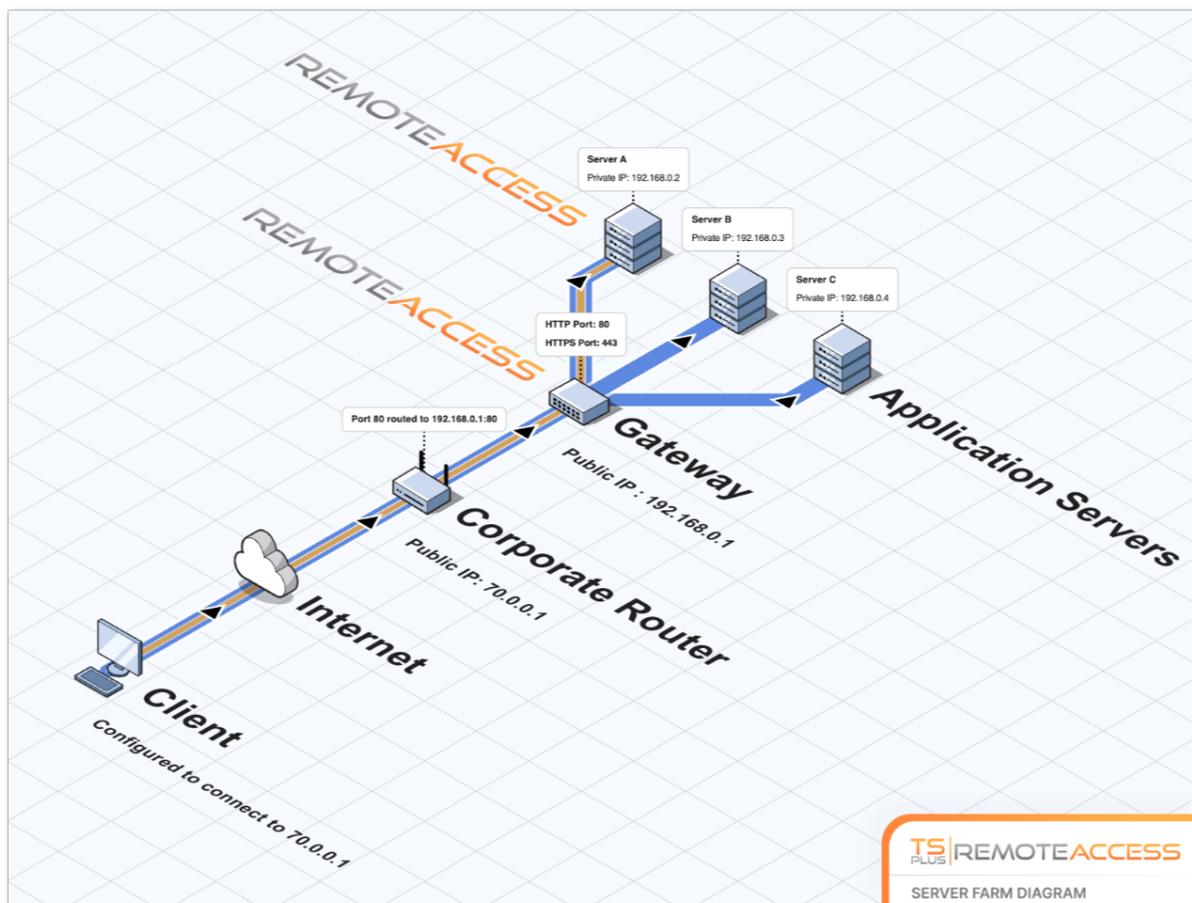
・  
・  
・

**オプション2：ゲートウェイポートのみがインターネットからアクセス可能で、「リバースプロキシロール」を含みます。**

Terminal Service Plus Gatewayは、1つのパブリックIPアドレスのみで設定することもできます。

ゲートウェイは、外部接続要求を利用可能なサーバーにリダイレクトします。ロードバランシング機能を使用しない場合、ユーザーは割り当てられたサーバーに接続します。

このアーキテクチャは以下の図に示されています。



リバースプロキシロールに関する詳細は、[をご覧ください。](#) [リバースプロキシ機能のドキュメント](#) .

## リリース履歴

- API 1.5 ( TSplus 15.50と共にリリース )
  - 統合リバースプロキシ、負荷分散およびアプリケーションサーバー割り当ての設定
  - ファームコントローラーとすべてのアプリケーションサーバーのアプリケーション/設定間の同期を追加しました。
- API 1.4 ( TSplus 10.10と共にリリース )
  - 負荷分散の集中監視
  - TSplus負荷分散マネージャーでサーバーを有効/無効にする
  - 多言語翻訳 ( TSplus言語が使用されます )
  - いくつかの設定が追加され、表示のバグが修正されました
- API 1.3 ( TSplus 9.70と共にリリース )
  - 設定の集中監視と管理 ( グローバル設定 / フローティングパネル / RemoteAppクライアント / HTML5クライアント )
- API 1.2 ( TSplus 9.60と共にリリース )
  - ファームマネージャー
  - サーバーの集中管理 ( 追加/削除 )

- セッションの集中監視と管理 (メッセージ/切断/ログオフ)
- API 1.1 (TSplus 9.30と共にリリース)
  - 負荷分散の内部
  - 負荷分散ステイキーセッション

# 前提条件

## ハードウェア要件

ファームコントローラーとアプリケーションサーバーには標準があります [Terminal Service Plusの要件](#) ハードウェア用。

## オペレーティングシステムの要件

ファームコントローラーとアプリケーションサーバーは、次のオペレーティングシステムのいずれかを使用する必要があります：

- ウィンドウズ 7 Pro
- ウィンドウズ 8/8.1 プロ
- ウィンドウズ 10プロ
- ウィンドウズ 11 Pro
- ウィンドウズ Server 2008 SP2/スモールビジネスサーバー SP2 または 2008 R2 SP1
- ウィンドウズ Server 2012 または 2012 R2
- ウィンドウズ サーバー 2016
- ウィンドウズ サーバー 2019
- ウィンドウズ サーバー 2022
- ウィンドウズ サーバー 2025

32ビットと64ビットのアーキテクチャの両方がサポートされています。

## ネットワーク要件

すべてのアプリケーションサーバーはファームコントローラーからアクセス可能でなければなりません。

より具体的には、ファームコントローラーはそのAPIポート（デフォルトは19955）上のすべてのアプリケーションサーバーにリクエストを発行し、このポートはファームコントローラーとアプリケーションサーバーの間にあるファイアウォールで開放されている必要があります。

ファームコントローラーとアプリケーションサーバー間のネットワーク遅延は低くなければなりません。200 ms未満の遅延が推奨され、2,000 ms未満の遅延が必要です。

# ソフトウェア要件

.NET 2.0以上が必要です - これは、Terminal Service Plus Farmでサポートされているすべてのオペレーティングシステムでデフォルトで有効になっている互換性のある.NETバージョンがあるため、問題にはならないはずです。

## ターミナルサービスプラスライセンスおよびバージョン要件

Terminal Service Plusは、ファームコントローラーおよびすべてのアプリケーションサーバーで「Enterprise」エディションである必要があります。

すべてのサーバーは、同じバージョンの Terminal Service Plus を実行する必要があります。

## 構成要件

ファームコントローラーとアプリケーションサーバーは、同じ日付/時刻を設定する必要があります。まだ行っていない場合は、すべてのサーバーのWindows時計をインターネットタイムサーバーと同期させることを強くお勧めします。

## ユーザーの要件

アクティブディレクトリは **ない** 必要ですが、Active Directoryがある場合は、ドメイン管理者もファームコントローラーのローカル管理者でなければ、Terminal Service Plus Farm Managerを使用できません。

# リバースプロキシ

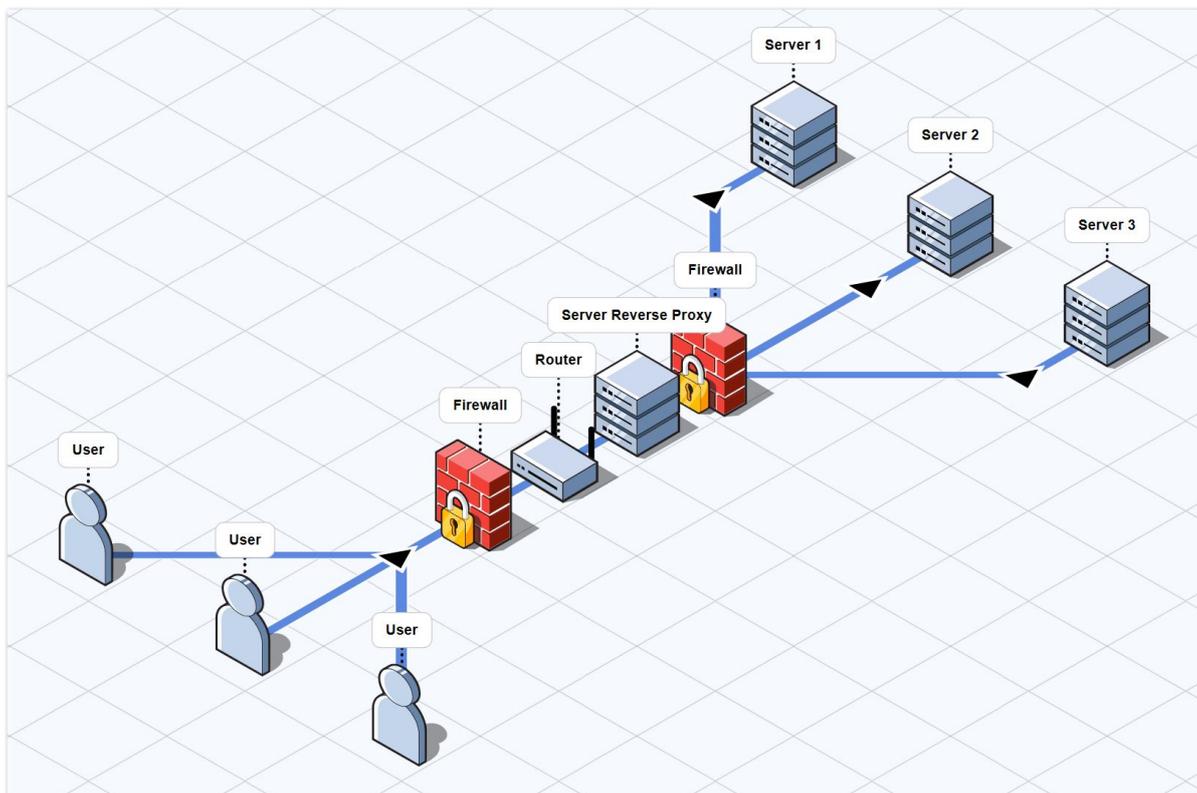
## 概要

この機能はTSplus Enterprise Editionで利用可能です。

リバースプロキシシステムは、関連するサーバーが任意のクライアントによって接触されるための仲介者として機能します。

リバースプロキシを使用する利点は簡単です：TSplusサーバーの数と同じだけのポートリダイレクションルールを作成する必要がなくなります。

負荷分散機能を使用しているかどうかにかかわらず、リバースプロキシを使用して接続するには、それを有効にする必要があります。TSplusでは、負荷分散されたTSplusサーバーのファームへのユニークなアクセスポイントを提供します。

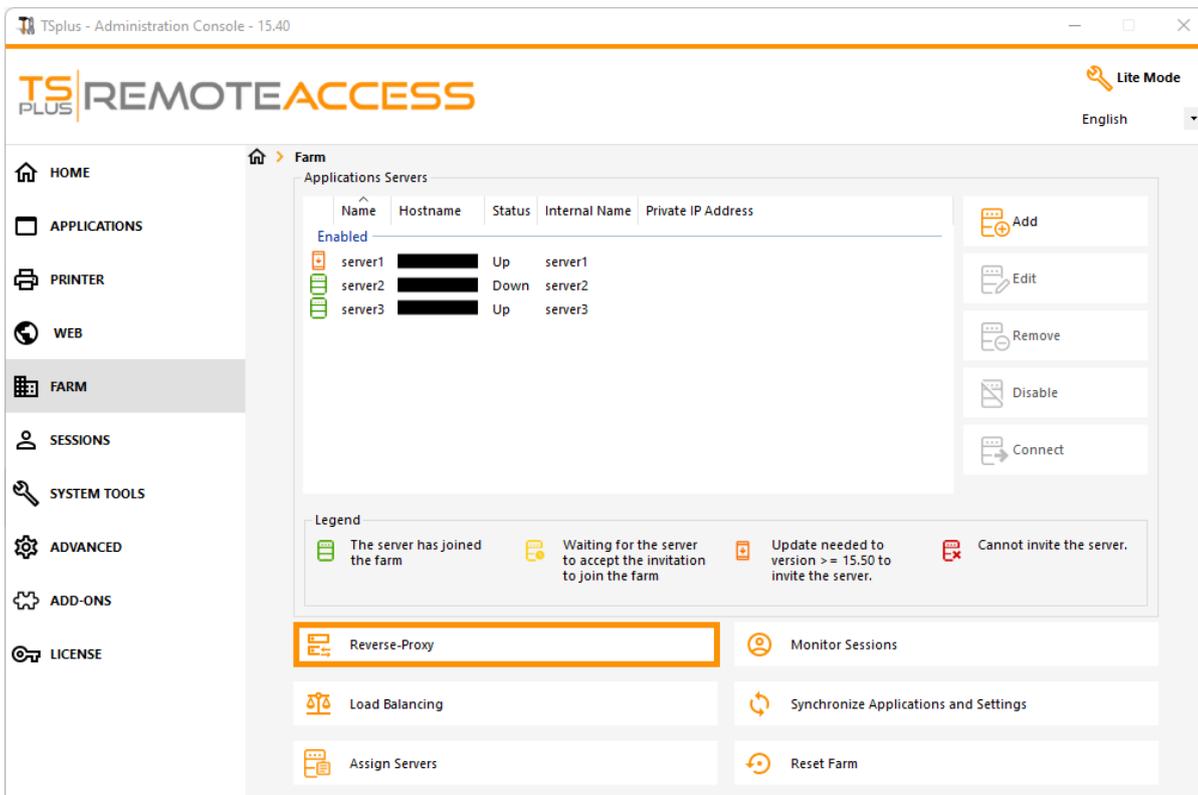


このユニークなアクセスポイントは、あなたのゲートウェイサーバーTSplus Webポータルになります。

このサーバーにリモートでアクセスするためには、ルーターにポート転送ルールを1つ設定する必要があります。これは、好みに応じてhttpまたはhttpsポートを含める必要があります ( httpのデフォルトポートは80、httpsのデフォルトポートは443です )。

## 設定

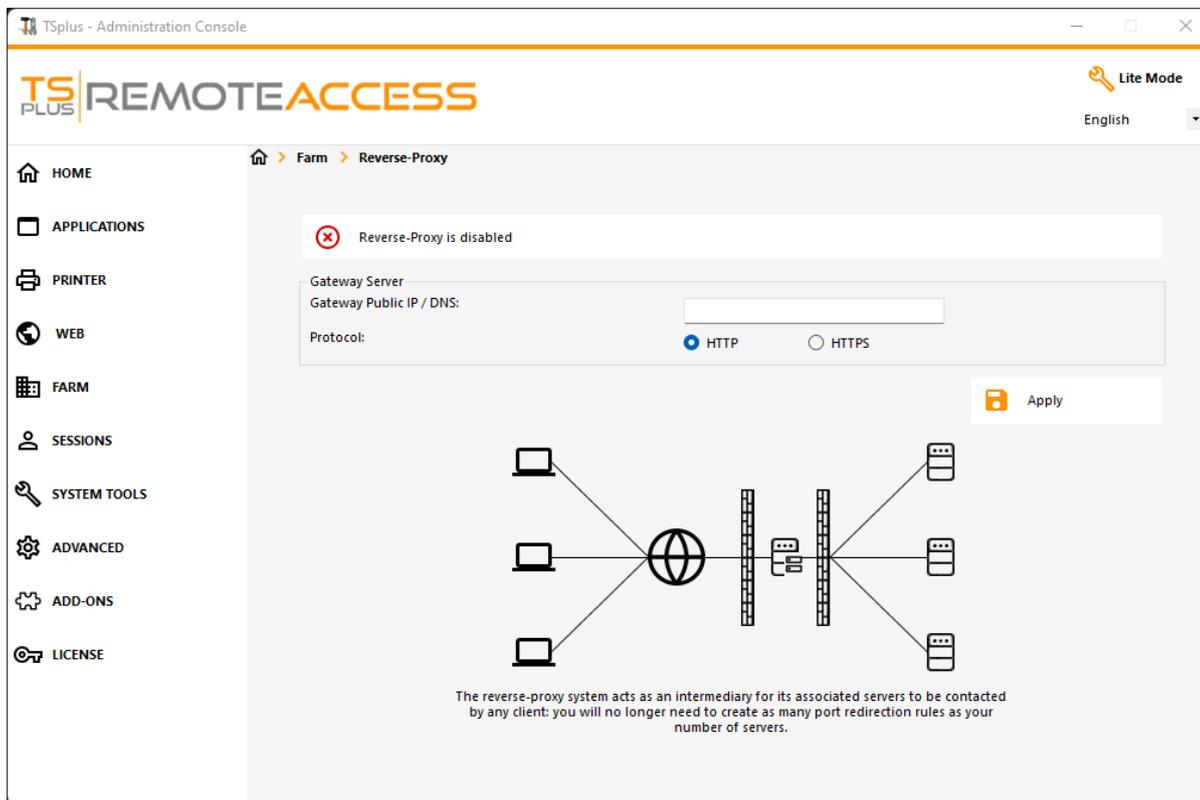
FARMタブを通じてリバースプロキシ設定インターフェースにアクセスできます:



The screenshot shows the TSplus Administration Console interface. The main content area is titled 'Farm' and contains a table of 'Applications Servers'. The table has columns for Name, Hostname, Status, Internal Name, and Private IP Address. There are three servers listed: server1 (Up), server2 (Down), and server3 (Up). To the right of the table are buttons for Add, Edit, Remove, Disable, and Connect. Below the table is a 'Legend' section with four items: 'The server has joined the farm', 'Waiting for the server to accept the invitation to join the farm', 'Update needed to version >= 15.50 to invite the server.', and 'Cannot invite the server.'. At the bottom of the main content area, there are several buttons: Reverse-Proxy (highlighted with an orange border), Monitor Sessions, Load Balancing, Synchronize Applications and Settings, Assign Servers, and Reset Farm. The left sidebar contains navigation options: HOME, APPLICATIONS, PRINTER, WEB, FARM (selected), SESSIONS, SYSTEM TOOLS, ADVANCED, ADD-ONS, and LICENSE. The top right corner shows 'Lite Mode' and 'English'.

Name	Hostname	Status	Internal Name	Private IP Address
server1	[REDACTED]	Up	server1	[REDACTED]
server2	[REDACTED]	Down	server2	[REDACTED]
server3	[REDACTED]	Up	server3	[REDACTED]

リバースプロキシボタンをクリックしてください。



- 「リバースプロキシが無効です」ボタンをクリックして、これを有効にします。
- ゲートウェイのパブリックIPは、固定の有効なIPアドレスまたはドメイン名で設定する必要があります。
- HTTPまたはHTTPSを選択して、好みの接続方法を指定してください。ファームのサーバーは、使用する接続方法に応じて、ポート80または443のいずれかで相互に通信する必要があります。また、Windowsファイアウォールがこれらのポートをブロックしないことも重要です。

設定が完了したら、「適用」をクリックしてこれらのリバースプロキシ設定を保存します。

## ゲートウェイサーバーを通じたアプリケーションサーバーへのアクセス

有効化され、運用開始されると、リバースプロキシ機能を使用して、次の形式の特別なURLを使用してアプリケーションサーバーにアクセスできます。

(1) :// 2 : 3 /~~ 4

とともに:

- (1): 設定されたリバースプロキシプロトコル

- (2): ゲートウェイサーバーのパブリックIPアドレスまたはドメイン名
- (3): 設定されたリバースプロキシプロトコルに関連付けられたゲートウェイサーバーのウェブポート
- (4): リバースプロキシによって使用されるアプリケーションサーバーの内部名

例えば、次のように仮定します:

- 設定されたリバースプロキシプロトコルはHTTPSです
- あなたのゲートウェイサーバーのパブリックIPは1.1.1.1です。
- あなたのゲートウェイサーバーはHTTPSポート443を使用しています。
- 接続したいターゲットアプリケーションサーバーは、内部名「srv2」を使用しています。

ターゲットアプリケーションサーバーに到達するために使用する特別なURLは次のとおりです。 1.1.1.1:443/~~srv2

その結果、この特別なURLを使用して、このアプリケーションサーバーのウェブポータルにアクセスできます。

この特定のアプリケーションサーバーにゲートウェイサーバーを介して接続する接続クライアントを生成することもできます。この同じ方法を使用してください。接続クライアントジェネレーターのサーバーアドレスフィールドに特別なURLを単に使用してください。

例えば:

# Windows Client Generator



General | Display | Remote Desktop client | Seamless client | Local resources | Program | Security | Load-Balancing

## Server



Server address

246.14.245.12:443/~sv2

Port number

3389

## User



Logon

john

Password

••••

Domain name (without extension)

## Preferred display mode

Remote Desktop client

RemoteAPP client

Seamless client

Disable background & animations for better performances

Fast network or Fiber optic

Client name:

john.connect

Create Client

# サーバー割り当て

## 概要

ファームコントローラーはゲートウェイサーバーとして機能し、接続時にユーザーをファームの特定のアプリケーションサーバーにリダイレクトします。ユーザー/ローカルグループ/Active Directoryグループに1つまたは複数のサーバーを割り当てることができます。

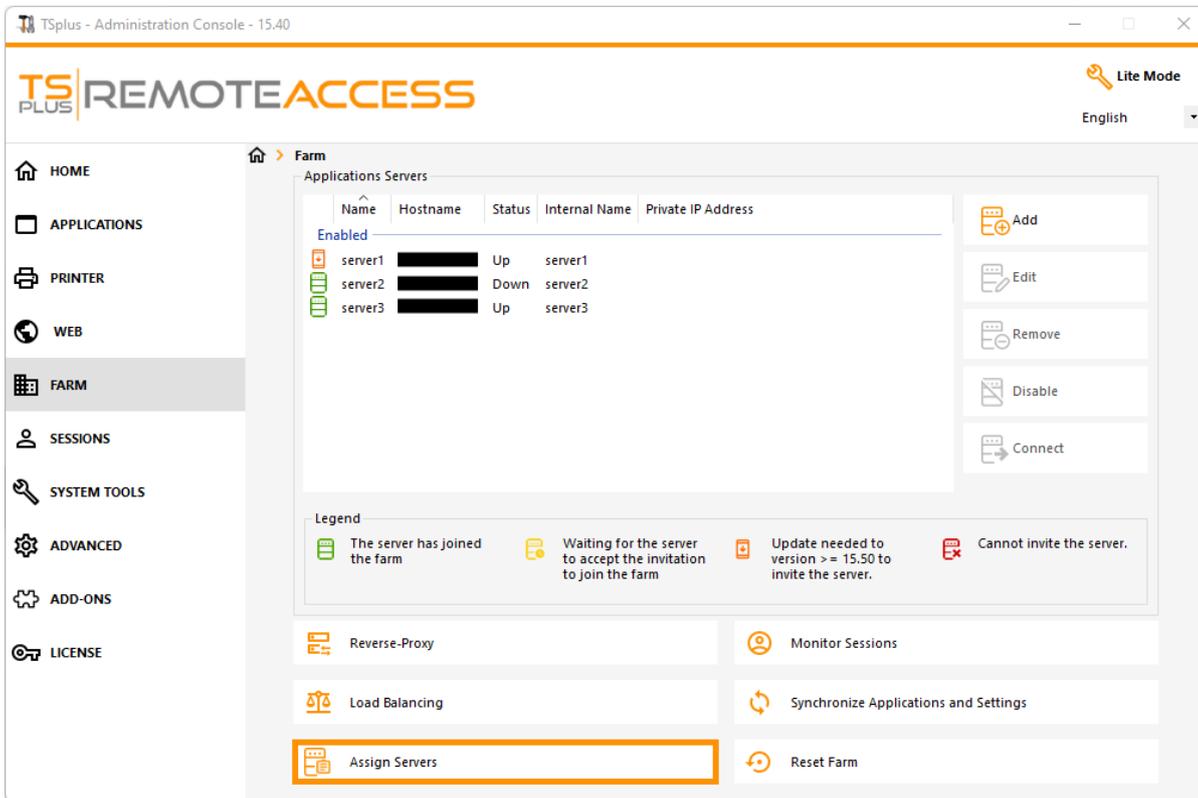
**重要:** サーバーの割り当ては、TSplus Webポータルからのみ機能し、接続クライアントでは機能しません。

ユーザーに複数のサーバーが割り当てられている場合、彼は自分に割り当てられたサーバーのリストからアクセスしたいサーバーを選択できるようになります。

ファームがドメイン内にある場合、ゲートウェイは彼のAD資格情報を使用し、ユーザーはシングルサインオン (SSO) で接続します。

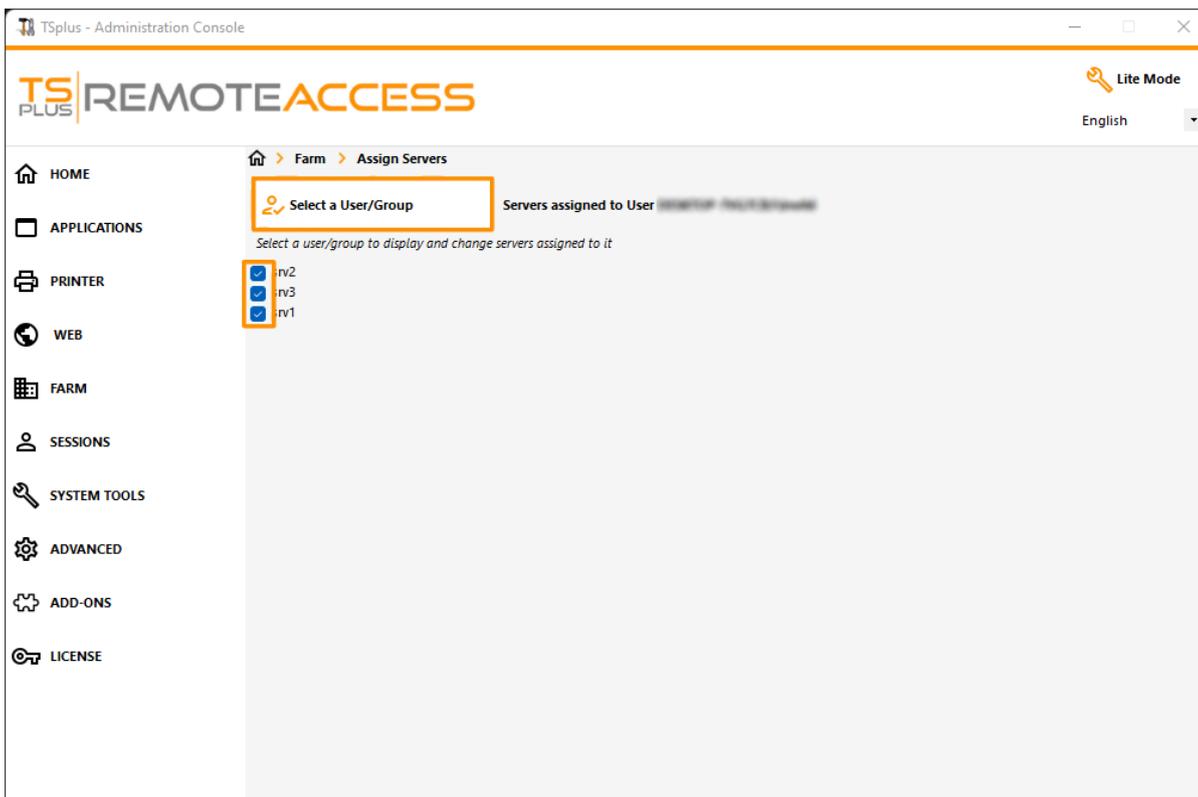
そうでなければ、彼は各サーバーで同じローカル資格情報を持っている必要があります。

サーバーを割り当てるには、「サーバーを割り当てる」ボタンをクリックしてください。



ユーザーにサーバーを割り当てるには、「ユーザー/グループを選択」ボタンでサーバーを選択し、「サーバー」リストでサーバーのチェックボックスをオンにするだけです。

ユーザーに割り当てられたサーバーを削除するには、「サーバー」リストでサーバーのチェックボックスのチェックを外すだけです。

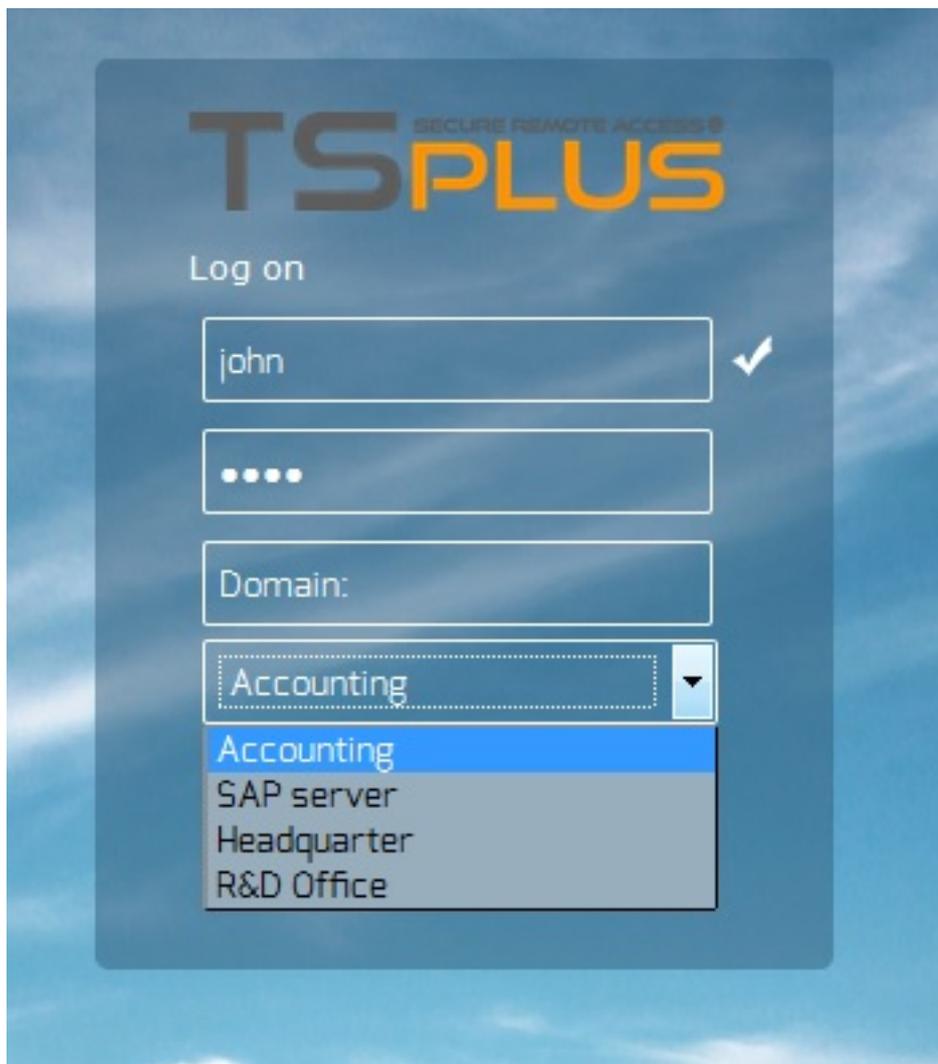


## 重要な注意事項

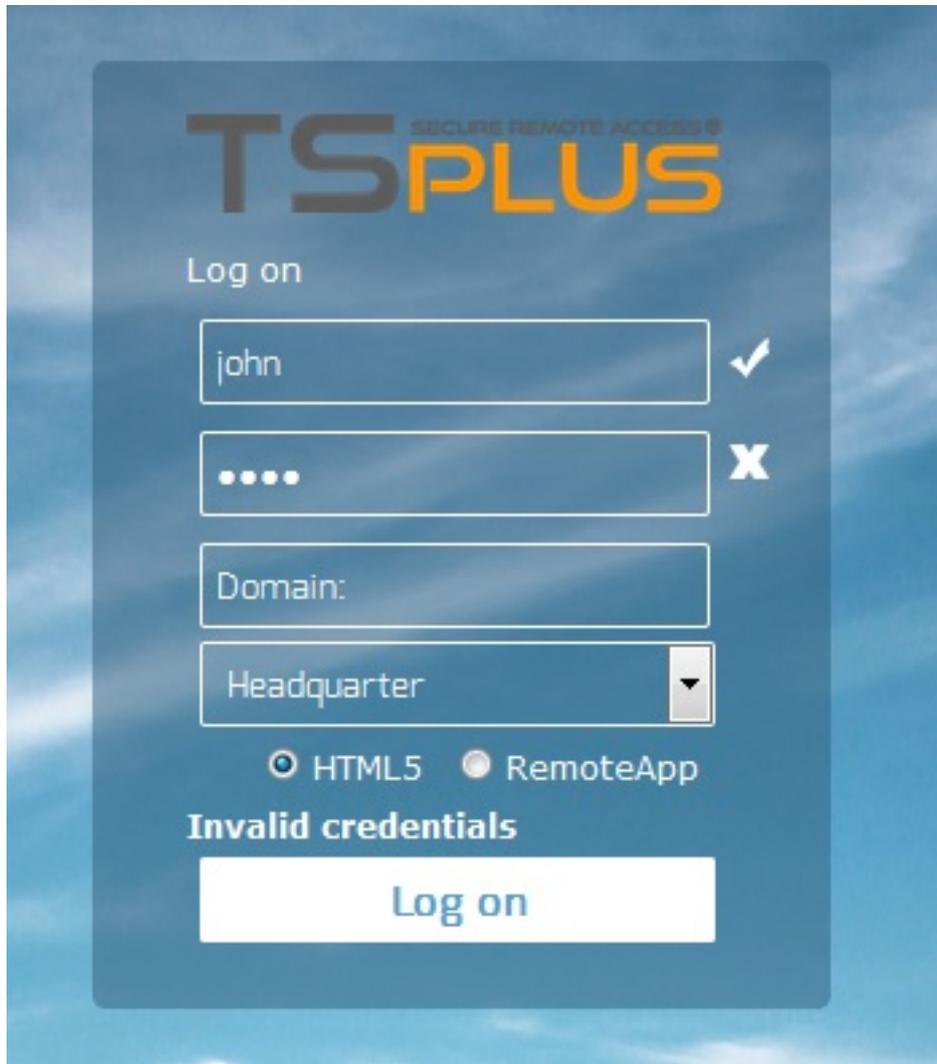
- 上記の例は、ドメインまたはワークグループ用です。
- 作業グループを使用する場合、ユーザーのログインは割り当てた各アプリケーションサーバーで同じでなければなりません。
- このサーバー割り当て機能は、負荷分散機能と同時に構成および使用でき、ファームコントローラーが割り当てられたサーバーで負荷分散を行うことを可能にします。そのためには、負荷分散を有効にし、「割り当てられたサーバーで負荷分散」を選択してください。
- サーバー割り当て機能と負荷分散が両方有効になっている場合、負荷分散設定の「割り当てられたサーバーでの負荷分散」オプションが有効でない限り、ゲートウェイサーバーはユーザーを割り当てられたサーバーに関係なく、最も負荷の少ないサーバーにリダイレクトします。

## ユーザーがゲートウェイに接続したときに得られる例

ジョンはサーバーを選択できます。彼は望んでおり、このサーバーへの自動ログインを取得します。



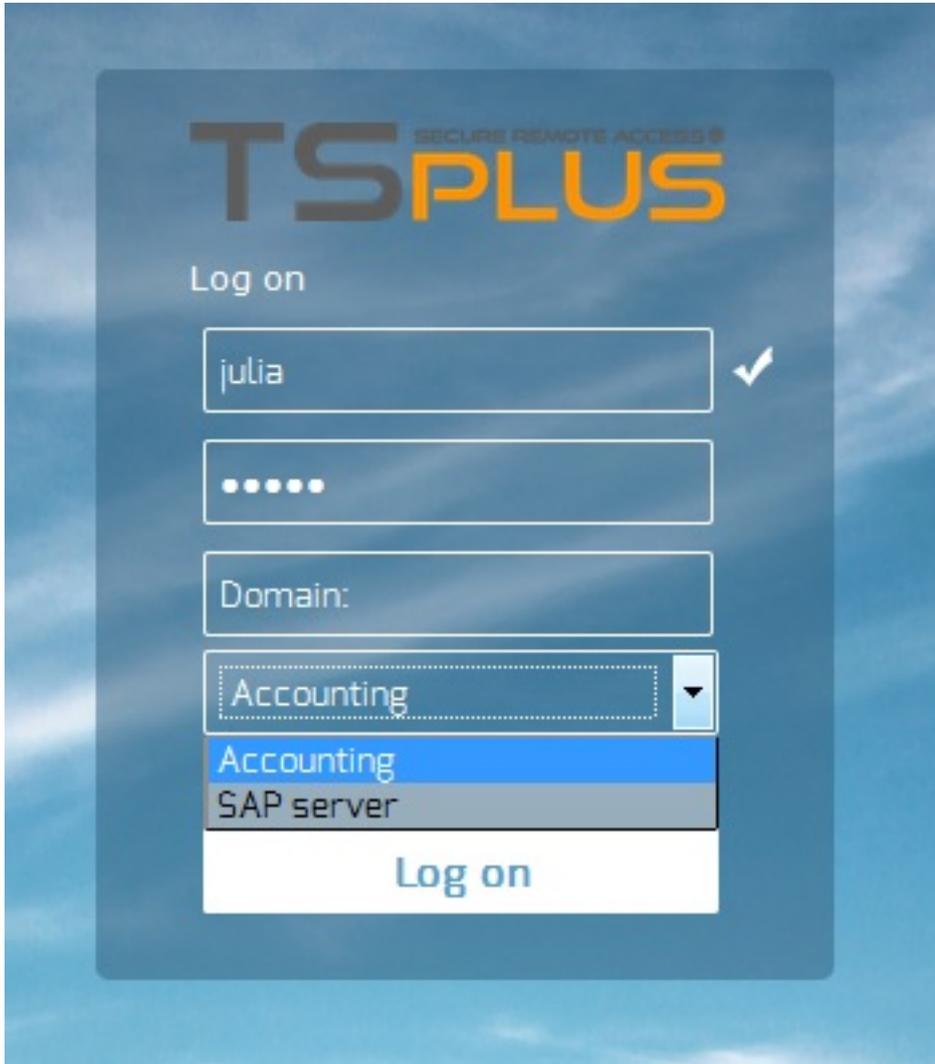
もし彼が間違ったパスワードを入力した場合、ジョンはパスワードを再入力しなければなりません。



The image shows a login screen for TSPLUS (Secure Remote Access). The interface includes a 'Log on' section with the following elements:

- A username field containing 'john' with a checkmark icon to its right.
- A password field containing four dots with an 'X' icon to its right, indicating an error.
- A 'Domain:' label above an empty text input field.
- A dropdown menu with 'Headquarter' selected and a downward arrow.
- Two radio buttons: 'HTML5' (selected) and 'RemoteApp'.
- A red error message: 'Invalid credentials'.
- A white 'Log on' button.

ジュリアは可能なサーバーの異なるリストを持っています。



誰かがゲートウェイをハッキングしようとしています。彼はサーバーを見えず、ゲートウェイは彼のウェブアクセスをブロックします。

# TS PLUS

SECURE REMOTE ACCESS

Log on

hacker **X**

.....

Domain:

HTML5  RemoteApp

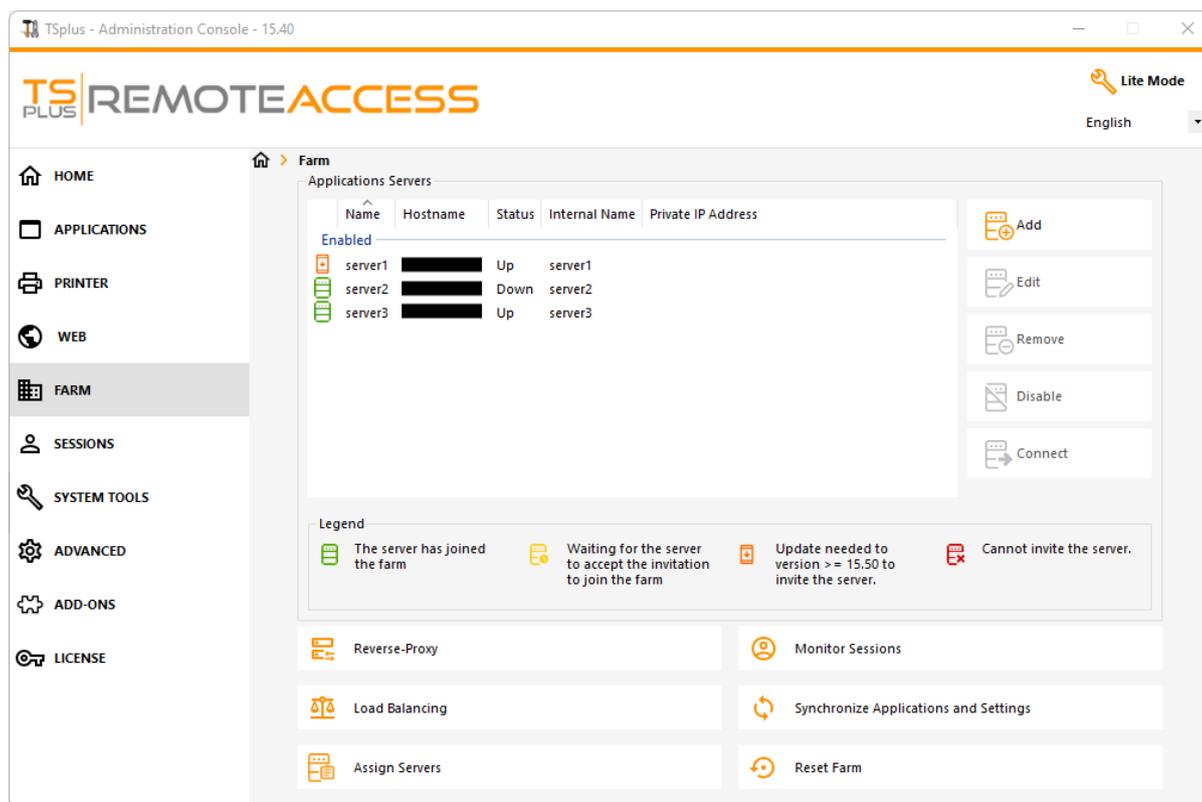
Log on

# ファームセットアップ

## 概要

ファームを作成するには、TSplus AdminToolからアプリケーションサーバーを追加するだけです。

管理ツールの「ファーム」セクションでアプリケーションサーバーを管理できるようになります。



このウィンドウから、いくつかのアクションを実行できます。

- “ 追加 新しいアプリケーションサーバーを追加する
- “ 編集 選択したサーバーを編集します。
- “ 削除 選択したサーバーをファームから永久に削除します（後で「追加」ボタンを使って再度追加することはできません）。

- “ 無効化/有効化 ” 一時的に選択したサーバーを無効または有効にします ( ユーザーはこのサーバーに接続できません )。
- “ 接続 ” デフォルトのRDPクライアントを開き、選択したサーバーに自動的に接続します。MSTSCに資格情報が保存されている場合、それが使用されます。そうでない場合は、資格情報を入力する必要があります。

サーバーを右クリックすると表示されるコンテキストメニューからも、これらのアクションにアクセスできます。

下部パネルには、アプリケーションサーバーが追加された後に利用可能な主要なファーム機能へのクイックアクセスがあります。

- 「負荷分散」: ゲートウェイサーバーから接続するユーザーをファームの最も負荷の少ないサーバーにリダイレクトすることを可能にします。
- “リバースプロキシ”: ゲートウェイサーバーのみを公開し、アプリケーションサーバーをURLを使用してアクセス可能にします。 <https://gateway-server-domain-or-ip-address/~application-server-internal-name>
- “サーバーの割り当て”: ゲートウェイサーバーから接続する際に、ユーザーとグループが利用可能なアプリケーションサーバーを制限できるようにし、複数のサーバーが割り当てられている場合には接続したいサーバーを選択できるようにします。
- セッションを監視する \* 現在のセッションを監視し、切断、ログオフ、メッセージ送信、セッションの表示またはセッションの制御などのアクションを迅速に実行することができます。
- アプリケーションと設定を同期する \* 選択したアプリケーションサーバーにすべての高度な設定と公開アプリケーションをプッシュすることができます。
- “ファームのリセット”: ファームをリセットことができ、すべてのサーバーを削除し、すべてのファーム機能の設定をリセットします。例えば、「リバースプロキシ」、「負荷分散」、および「サーバーの割り当て」設定などです。

\* これらの機能は、セキュリティ上の理由からファームに完全に参加したアプリケーションサーバーのみがアクセス可能であり、つまり、アプリケーションサーバー側でファームコントローラーから送信された招待を最初に受け入れる必要があります。

## ファームにアプリケーションサーバーを追加する

アプリケーションサーバーを追加するには、「追加」ボタンをクリックしてください。次のウィンドウが表示されます。

Add a new Server

General server information

Display Name:

Hostname:

Ports information

Web Port:   Use HTTPS

RDP Port:   Use the Web Port

Reverse-Proxy information

*Filling the Reverse Proxy Information is optional if you don't intend to use it.*

Private IP address (LAN):

Internal server name:

Save

表示名とホスト名を指定する必要があります ( IPアドレスまたはドメイン名をポート番号なしで入力できます )。

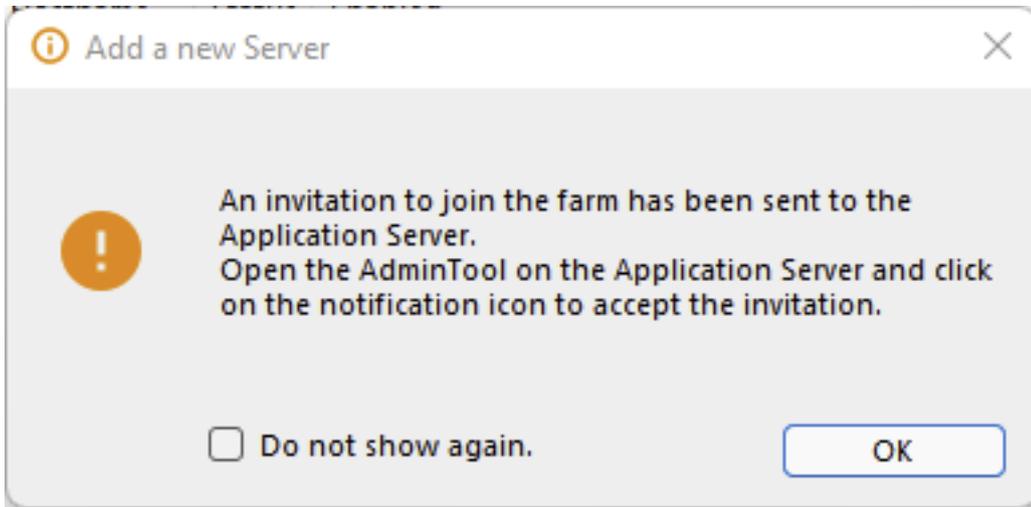
リバースプロキシ情報フィールドの入力は、現在リバースプロキシ機能を使用していない場合のみ任意です。

内部名が空の場合、全体のサーバー構成を容易にするために、利用可能な表示名で自動的に入力されます。

**重要:** RDPポートオプション「Webポートを使用する」は、アプリケーションサーバーのWebサーバーが提供するRDPポートフォワーディング機能 ( デフォルトで有効 ) を利用したいことを指定します。

その結果、「Webポートを使用する」オプションを使用したい場合は、追加されたアプリケーションサーバーで、AdminTool > 高度な設定 > セキュリティの「RDP転送を無効にする」オプションが「いいえ」に設定されていることを確認してください。

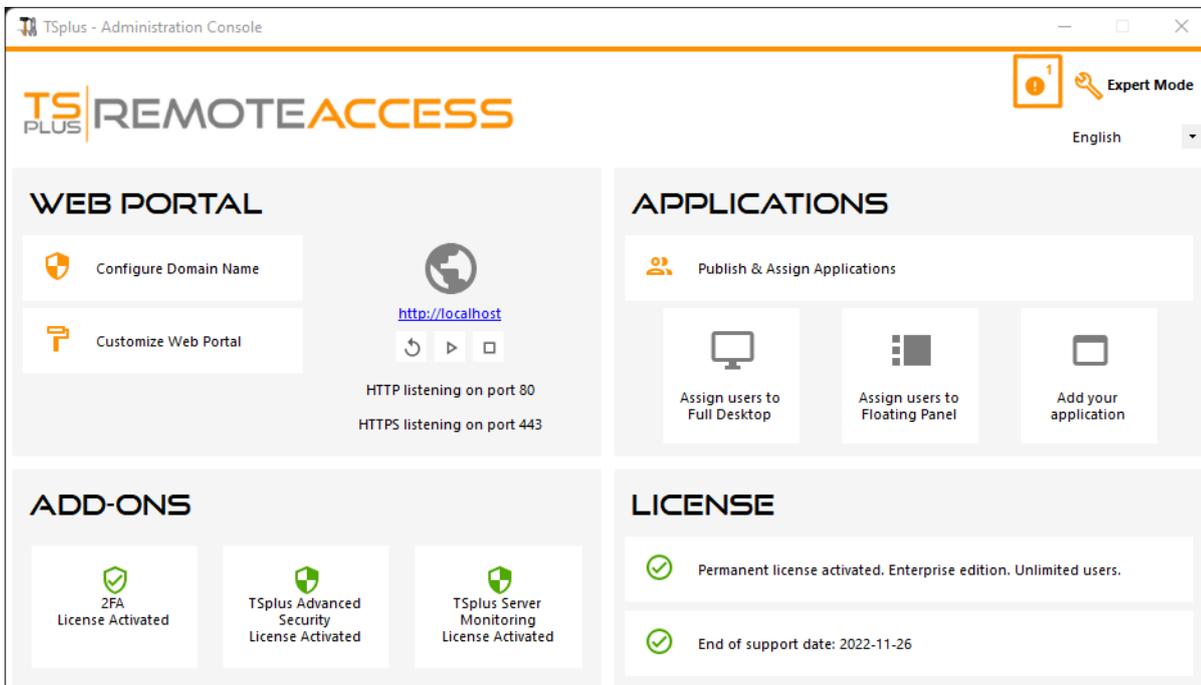
アプリケーションサーバーの詳細を入力し、「保存」ボタンをクリックしてください。追加されたアプリケーションサーバーにファームに参加するための招待状が送信されます。

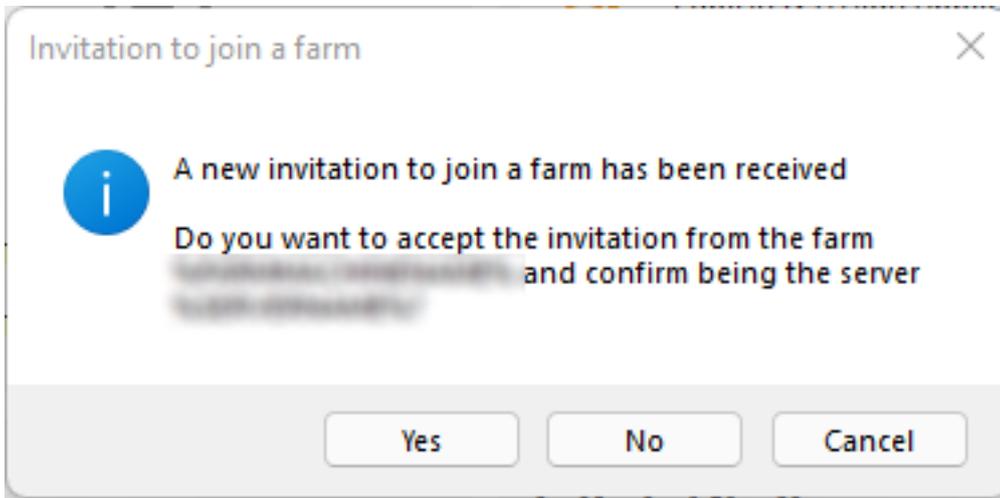


アプリケーションサーバー側でこの招待を受け入れることは、セキュリティ上の理由から「セッションの監視」と「アプリケーションと設定の同期」を使用できるようにするために必要です。

ただし、「リバースプロキシ」、「ロードバランシング」、および「サーバー割り当て」機能のみを使用する場合は、必須ではありません。

招待を受け入れるには、管理者セッションを開いてください。アプリケーションサーバー上でファームに追加しました。TSplus AdminToolの右上隅にあるアラートボタンをクリックし、「はい」をクリックしてください。





ファームコントローラー側では、ファーム内のアプリケーションサーバーのリストを確認できます。これらは、色付きのアイコンで表される3つの状態を持つことができます。

•



参加しました アプリケーションサーバーは、招待を受け入れることによってファームに完全に参加しました。

•



保留中 アプリケーションサーバーは部分的にファームに参加し、アプリケーションサーバーが招待を受け入れるのを待っています。

•



更新が必要です アプリケーションサーバーは部分的にファームに参加しましたが、サーバーがTSplus Remote Accessバージョン< 15.50を使用しているため、招待状を送信できません。

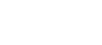
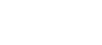
•



到達不能 アプリケーションサーバーは部分的にファームに参加しましたが、サーバーにア

クセスできないため、招待状を送信できません。

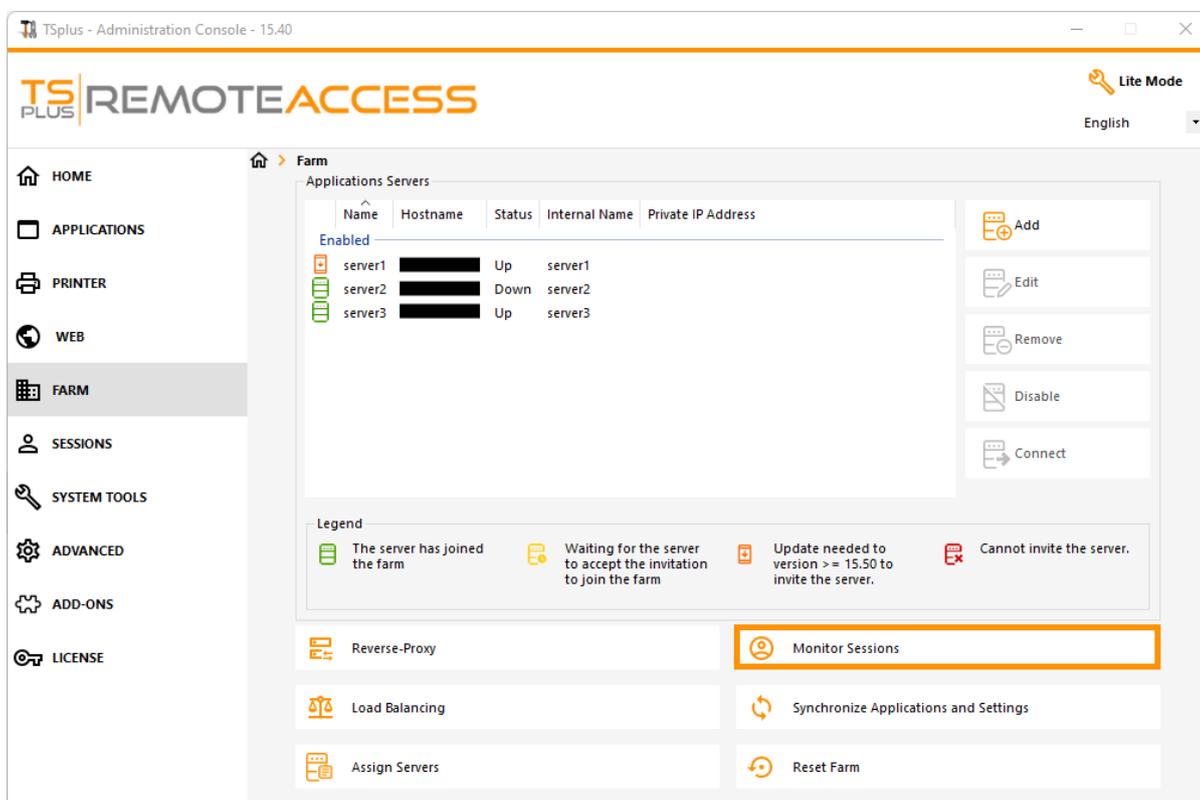
Applications Servers

	Name	Hostname	Status	Internal Name	Private IP Address
Enabled					
	srv1	Up			
	srv2	Up			
	srv3	Down			

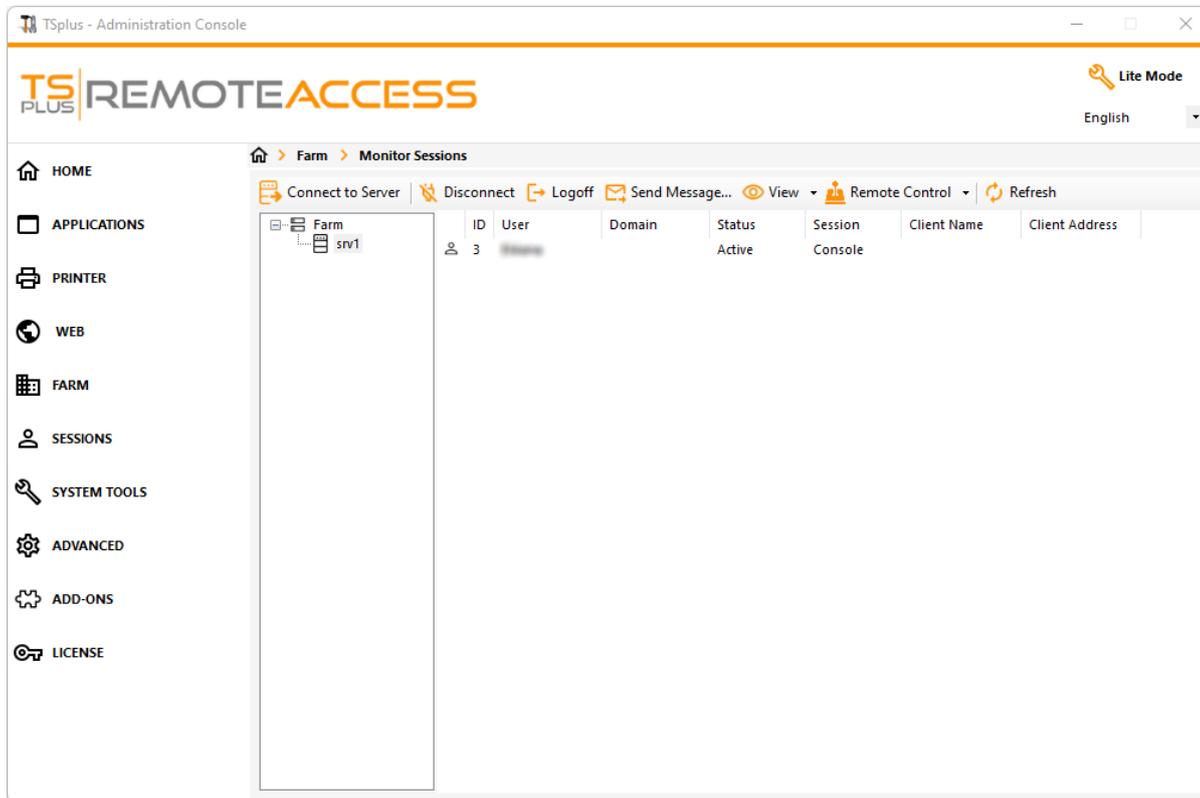
# セッションを監視する

## 概要

FARMタブを通じて監視セッションインターフェースにアクセスできます:



「セッションを監視」ボタンをクリックして、次のタブを表示します:



このタブでは、ファームの任意のアプリケーションサーバー上のユーザーセッションのリストを表示できます。

左側のパネルでアプリケーションサーバーをクリックして選択し、その現在のアクティブユーザーセッションを表示します。表示されたら、1つ以上のセッションを選択し、次のボタンのいずれかをクリックしていくつかのアクションを実行できます。

- 「切断」：選択したユーザーセッションを切断します（ユーザーは自分のセッションに再接続することができます）。
- “ログオフ”：選択したユーザーセッションをログオフします（すべての未保存の変更は失われ、アプリケーションは突然終了します）。
- “メッセージを送信”：タイトルとテキストを入力するウィンドウを表示し、その後このメッセージを選択したユーザーセッションに送信します。
- 選択したユーザーセッションを\*\*\*\*\*権限で表示します。
- 「リモートコントロール」：選択したユーザーセッションを、\*\*\*\*\* 権限の有無にかかわらずリモートで制御します。
- “リフレッシュ”：選択したサーバーのユーザーセッションのリストを完全にリフレッシュします。

\* セッションを表示または制御するには 権限なし、あなたは必要になります アプリケーションサーバーでセッションを表示および/または制御したいGPOを変更してください。

GPOの場所：コンピュータの構成 > 管理用テンプレート > Windowsコンポーネント > リモートデスクトップサービス > リモートデスクトップセッションホスト > 接続

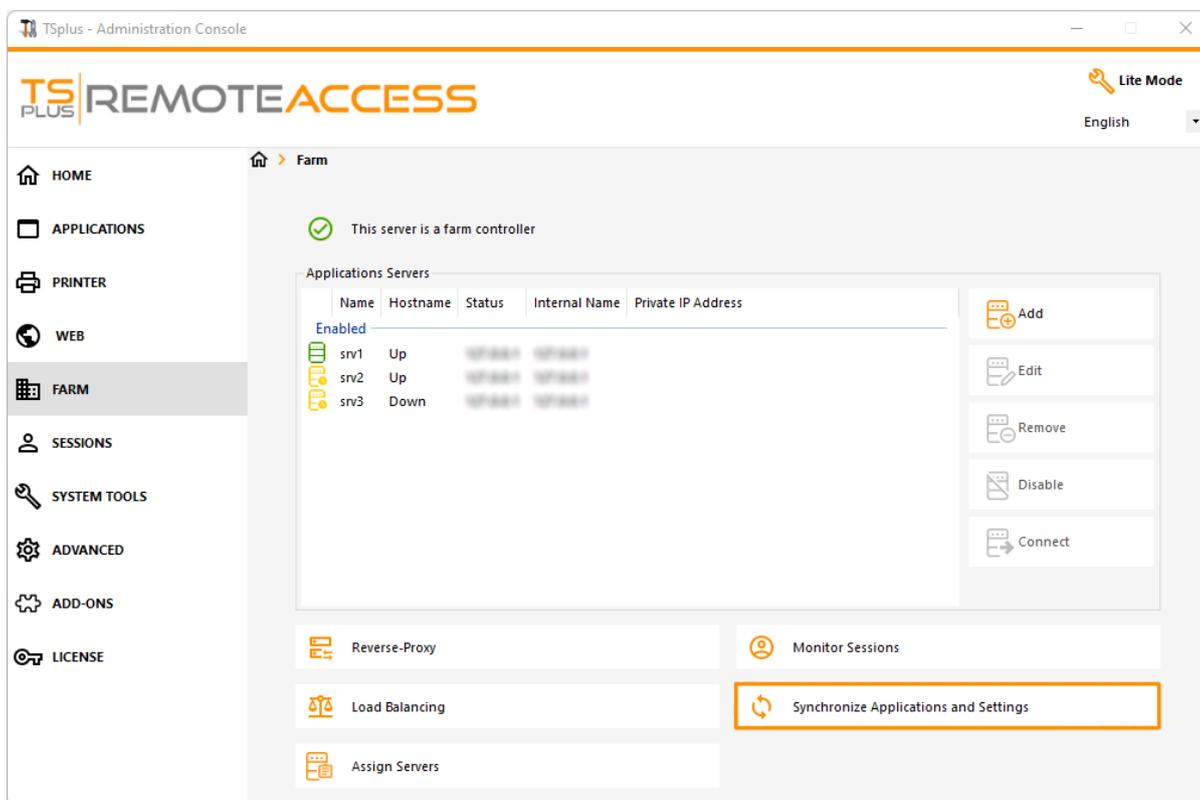
GPOキー： リモートデスクトップサービスユーザーセッションのリモートコントロールのルールを設定する

ユーザーセッションのリストは5秒ごとに自動的に更新されます。この自動更新は、選択した

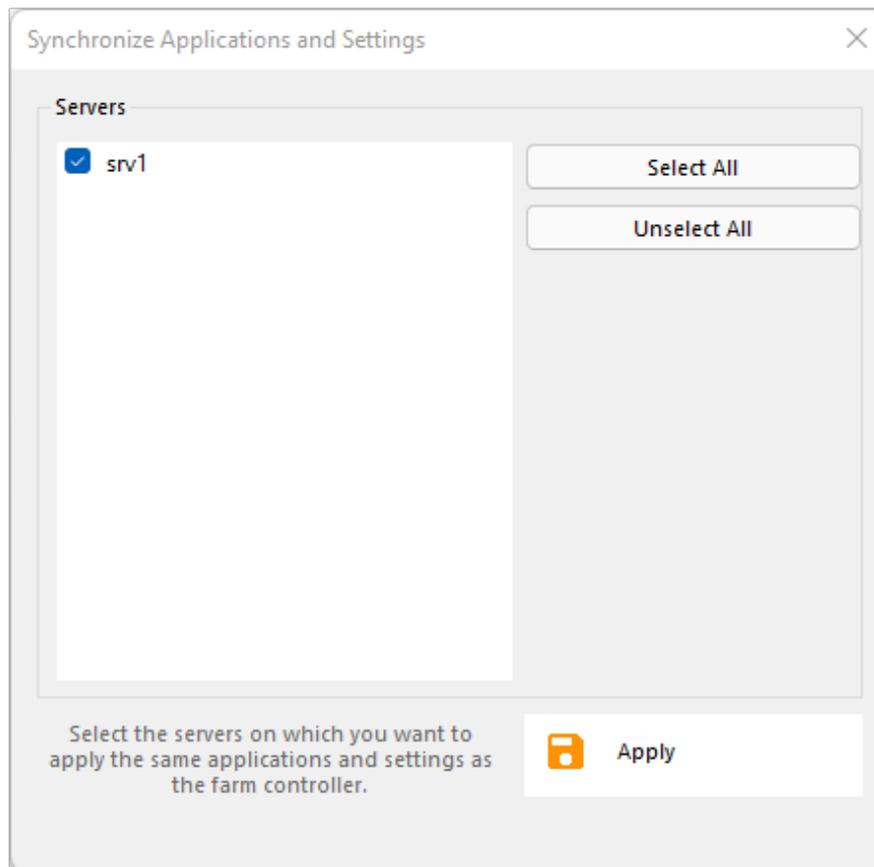
サーバーが利用できなくなると停止します。「更新」ボタンをクリックすると、自動更新が再開されます。

# アプリケーションと設定の同期

## 概要



「アプリケーションと設定を同期する」ボタンをクリックして、次のウィンドウを表示します。



すべてのサーバーを確認し、ファームコントローラーと同じ設定を適用し、同じアプリケーションを公開したい場合は、「適用」をクリックしてください。

次のウィンドウが表示され、タスクの進行状況を監視できるようになります。

Synchronize Applications and Settings



Servers

 srv1

Select All

Unselect All

 Finish

# ユーザーとサーバー間の迅速かつ簡単なファイル転送

## 概要

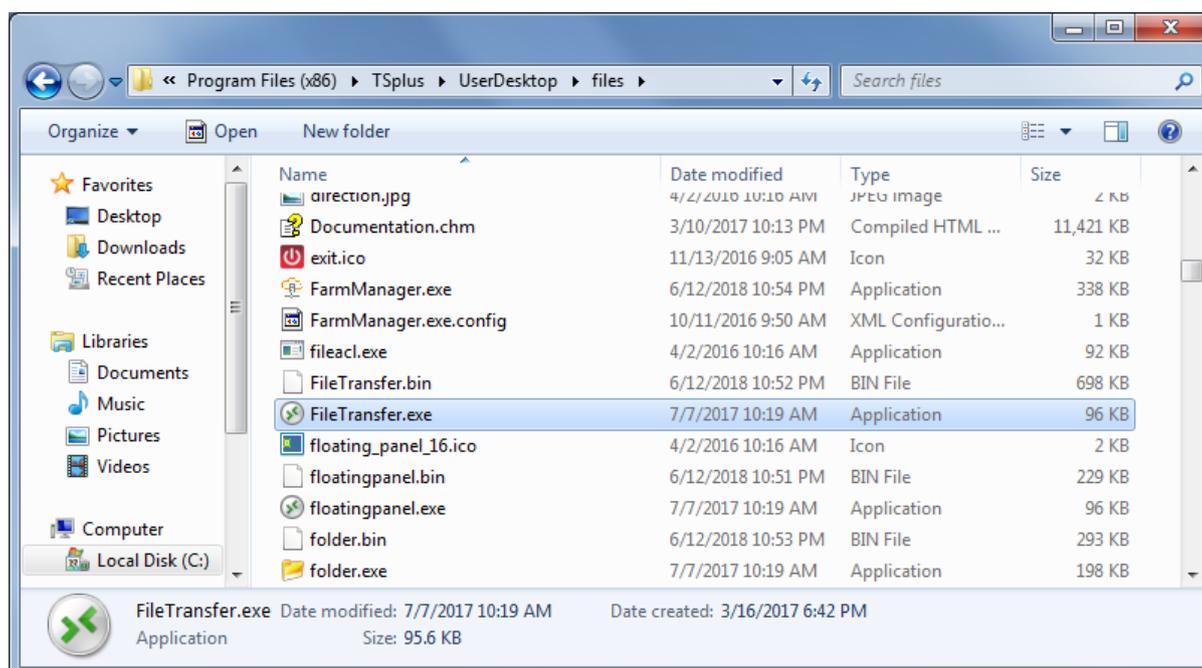
TSplusにはファイル転送の独自の方法が含まれています。

- ローカルユーザーワークステーションからユーザーのリモートデスクトップへ
- TSplusサーバーからローカルユーザーデスクトップへ

ファイル転送は仮想チャンネルに基づいているため、ファイルコピーよりもはるかに速く、実行できます。 ローカルユーザーディスクドライブがマッピングされていない場合でも

## ファイル転送プログラムと生成されたクライアント

ファイル転送プログラムは、次のパス「UserDesktop\files」の下にある「FileTransfer.exe」という名前のTSplusプログラムフォルダーにあります。



# ファイルの転送

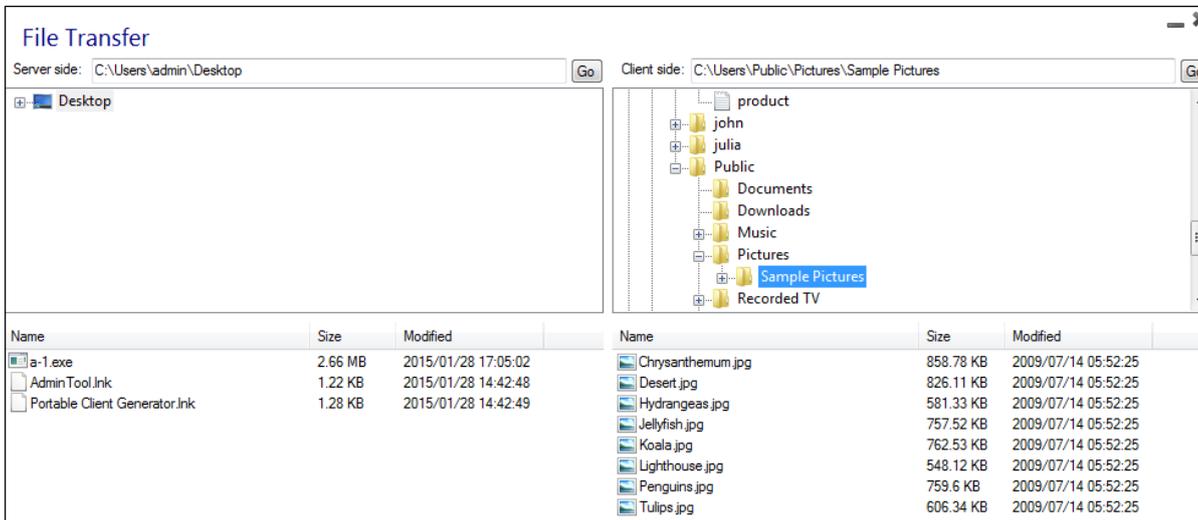
ファイルの転送は非常に簡単です。

最初に、ファイル転送を起動します（例えば、TSplus フローティングパネルを使用して）。

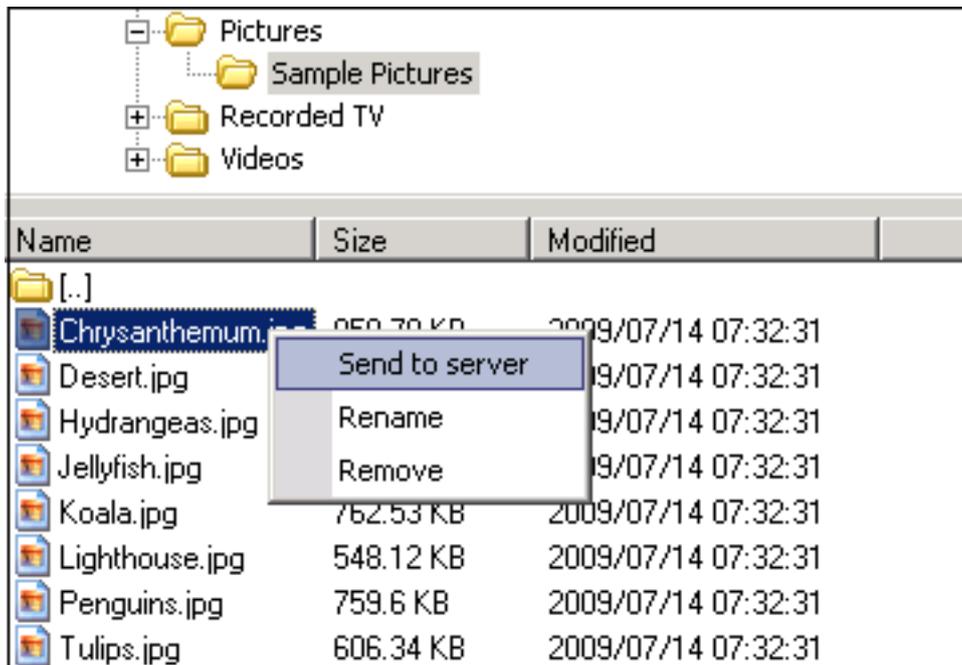


次に、フォルダツリーを使用してファイルに移動します:

- サーバーのフォルダーとファイルは次の場所にあります ウィンドウの左側（サーバー側）
- ローカルワークステーションのフォルダーとファイルは次の通りです。 ウィンドウの右側（クライアント側）



最後に、転送したいファイルを右クリックし、「サーバーに送信」（または「クライアントに送信」）をクリックします：



ファイル転送は、ローカルワークステーションからサーバーへ、またその逆（サーバーからローカルワークステーションへ）機能します。

注意 HTML5セッションからファイル転送ユーティリティを使用する際は、サーバーからクライアントにのみファイルを転送できます。[HTML5トップメニュー方式](#) サーバーにファイルをアップロードし、クライアントにダウンロードし、ファイル転送リストを管理できる場所。



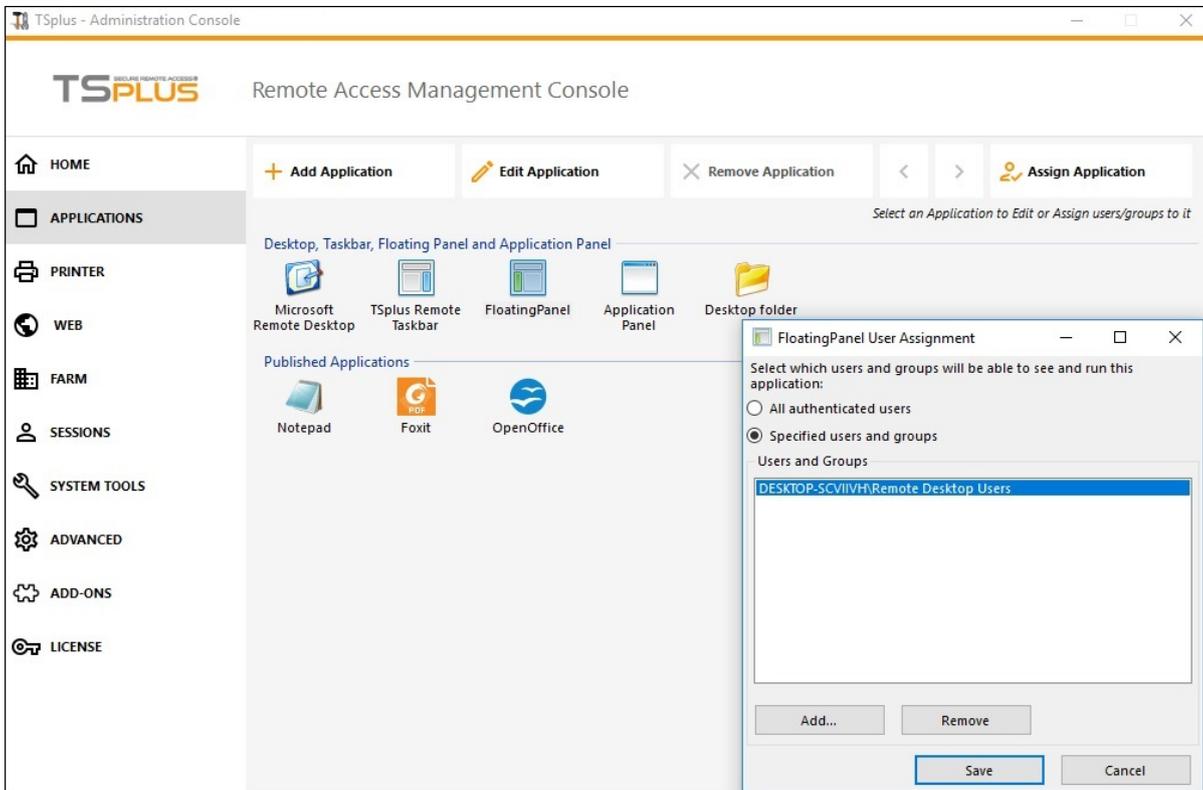
# フローティングパネルとアプリケーションパネル

ユーザーまたはグループのために、フローティングパネルまたはアプリケーションパネルを有効にすることを選択できます。

これらの2つのアプリケーションの公開方法は、すべての接続方法で利用可能です。

割り当てられたアプリケーションが有効になっている場合、ユーザー画面の左中央にアプリケーションのミニドロップダウンリストまたは浮遊パネル ( TSplusユーザーに非常に評価されています ) を見ることができます。

アプリケーションとして割り当てる:



フローティングパネルを選択し、次に「アプリケーションを編集」タイルをクリックして、フローティングパネルを便利にカスタマイズします。

TSplus - Administration Console

# TS PLUS REMOTE ACCESS

- HOME
- APPLICATIONS
- PRINTER
- WEB
- FARM
- SESSIONS
- SYSTEM TOOLS
- ADVANCED
- ADD-ONS
- LICENSE

**Applications:** Desktop, Taskbar, Floating Panel and App; Microsoft Remote...; tsplus Remo...; FloatingPanel; Published Applications; Notepad

### Floating/Application Panel Customization

**Floating Panel preference** | Folder Panel preference

**Icons size**

- Large size: Display Icons and Application Names
- Small size: Only Icons (no Application Names)
- Do not switch to Small Size (Only Icons) over 8 applications

**Customize the Floating Panel logo**

- Do not display the Floating Panel Logo
- Select your own logo (.bmp, 122x74 pixels)
- 

**With or without Slider on the top right side**

- Display the Slider
- Hide the Slider

**With or without Minimize/Close buttons**

- Display Minimize/Close
- Hide Minimize/Close

**With or without Log off button**

- Display log off button
- Hide log off button

**Background color:**

**Text color:**

**Remote App**

Your session name is:

You are not allowed to start any Remot

Please contact your administrator

Remote Applications

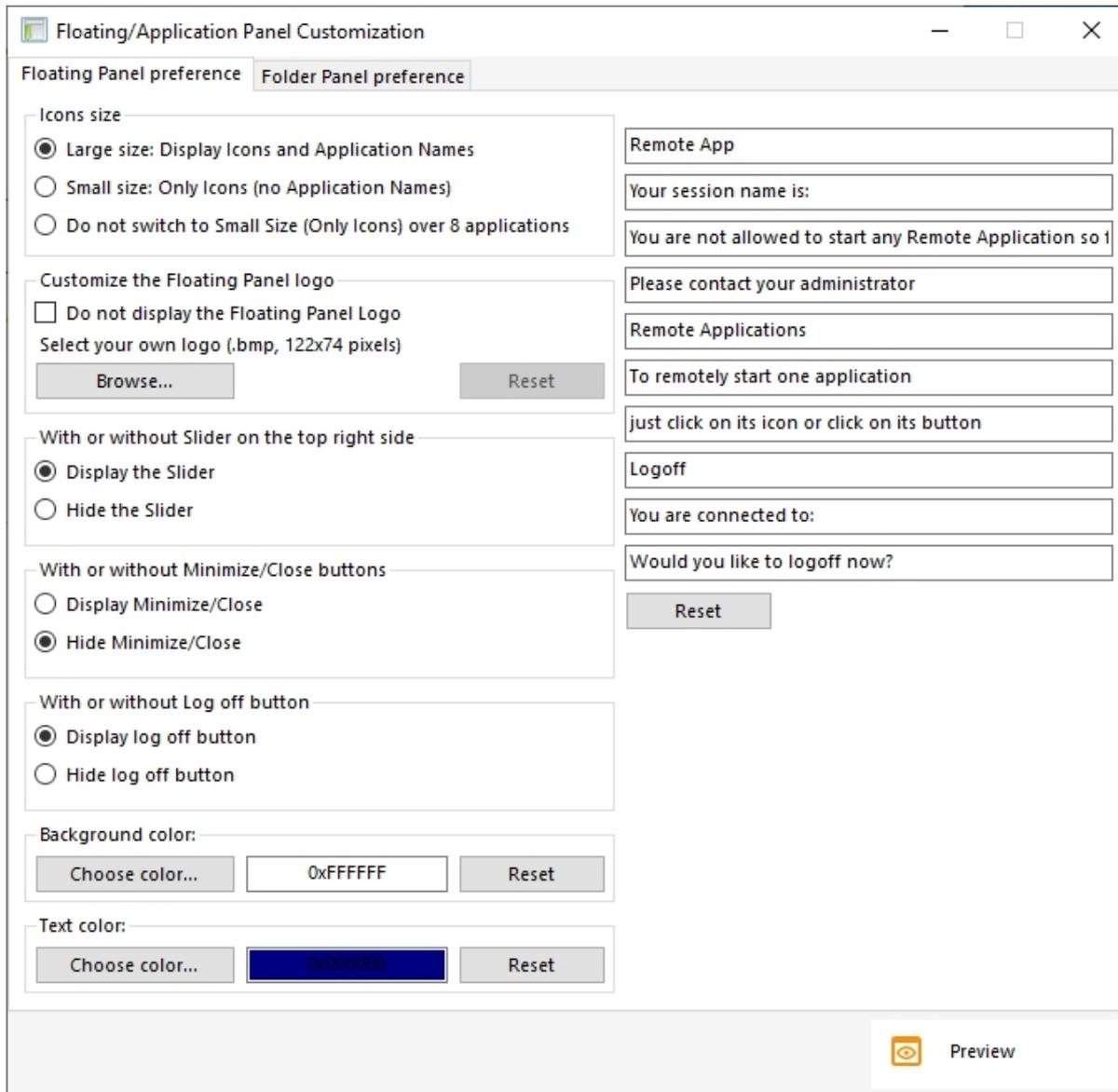
To remotely start one application

just click on its icon or click on its butto

Logoff

You are connected to:

Would you like to logoff now?



これらのさまざまなオプションを使用すると、エンドユーザーの体験をカスタマイズできます。

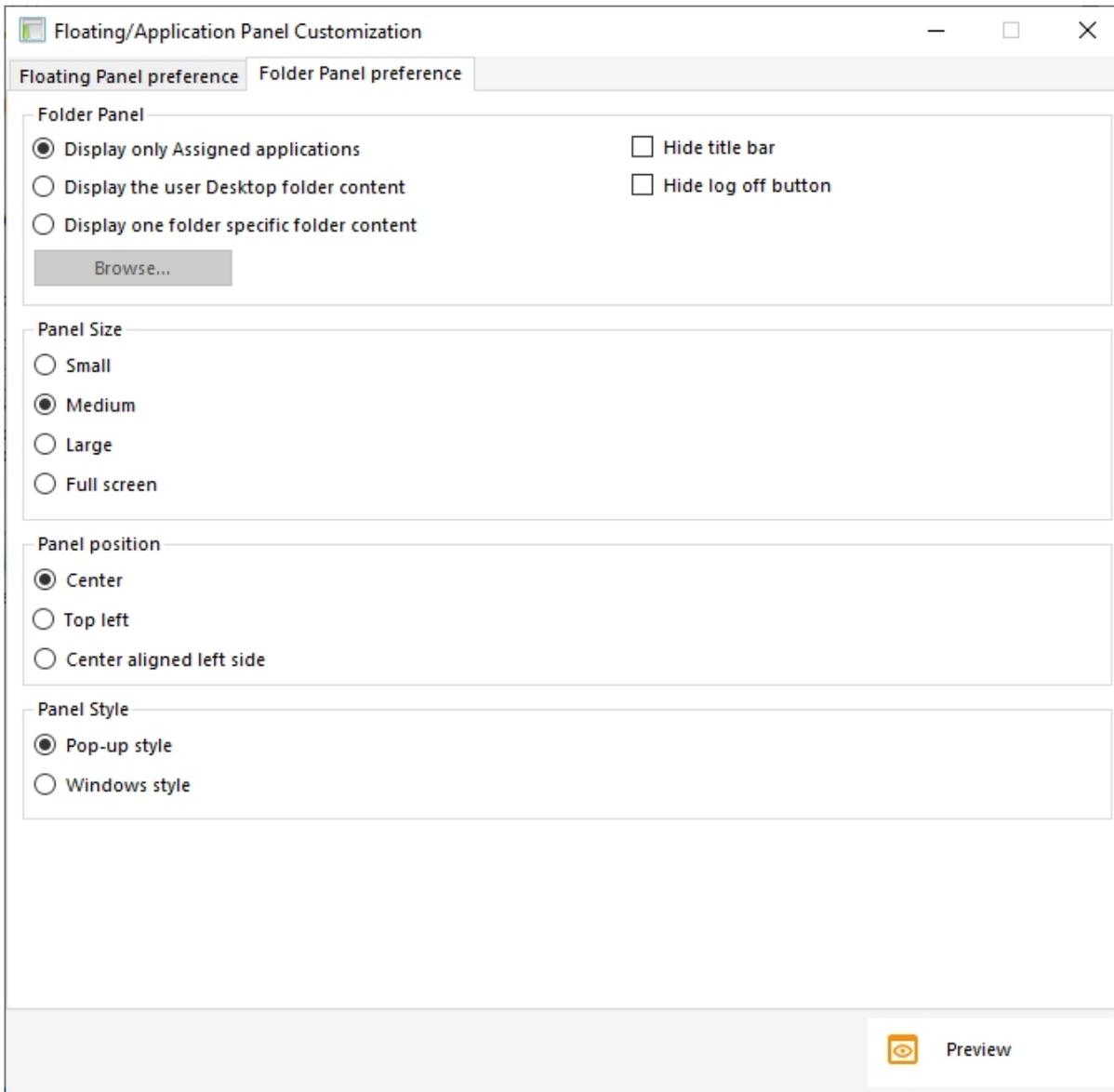
異なるフローティングパネルの表示オプションがここにあり、設定できます。

- 表示されているテキストを変更してください。
- 好みのサイズを選択してください。大と小の間で、アイコンのみを表示できます。
- 自分のロゴを追加してください、
- 背景とテキストの色をカスタマイズする、
- スライダーを表示するかどうか
- 最小化/閉じるボタンを表示するかどうか
- ログオフアイコンを表示するかどうか...

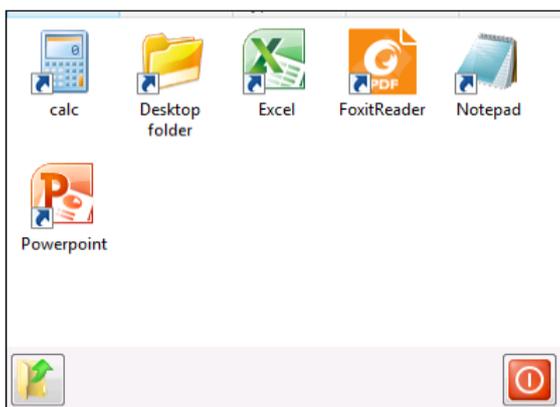


ご注意ください 8つ以上のアプリケーションがある場合、フローティングパネルは自動的に小サイズに切り替わります。アプリケーション名を表示したい場合は、「8つ以上のアプリケーションで小サイズ(アイコンのみ)に切り替えない」を選択してください。

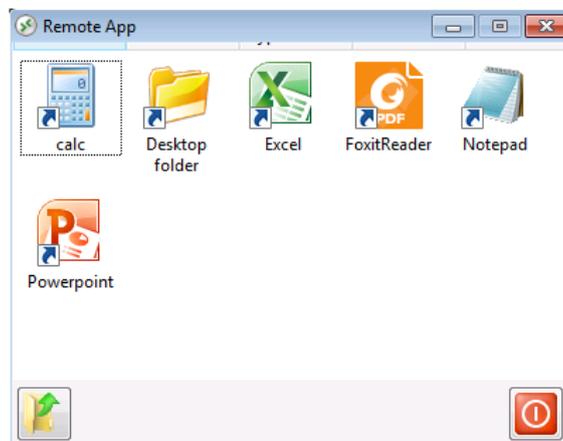
そのフォルダパネル カスタマイズ可能で、割り当てられたアプリケーション、ユーザーデスクトップフォルダー、またはセッション内の特定のフォルダーの内容を多くの表示オプションで表示することができます。



フォルダーパネルのサイズ、位置、スタイル（ポップアップまたはウィンドウ）をお好みに合わせて変更できます。

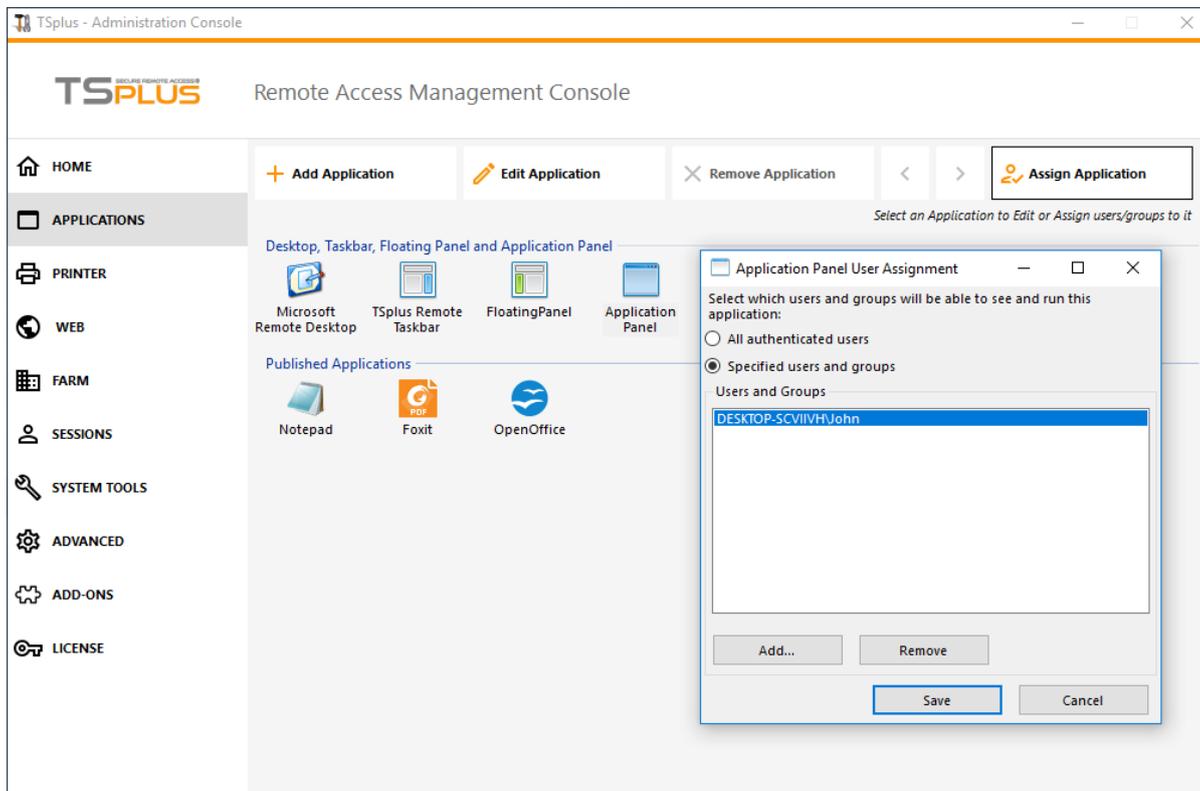


Pop-up style

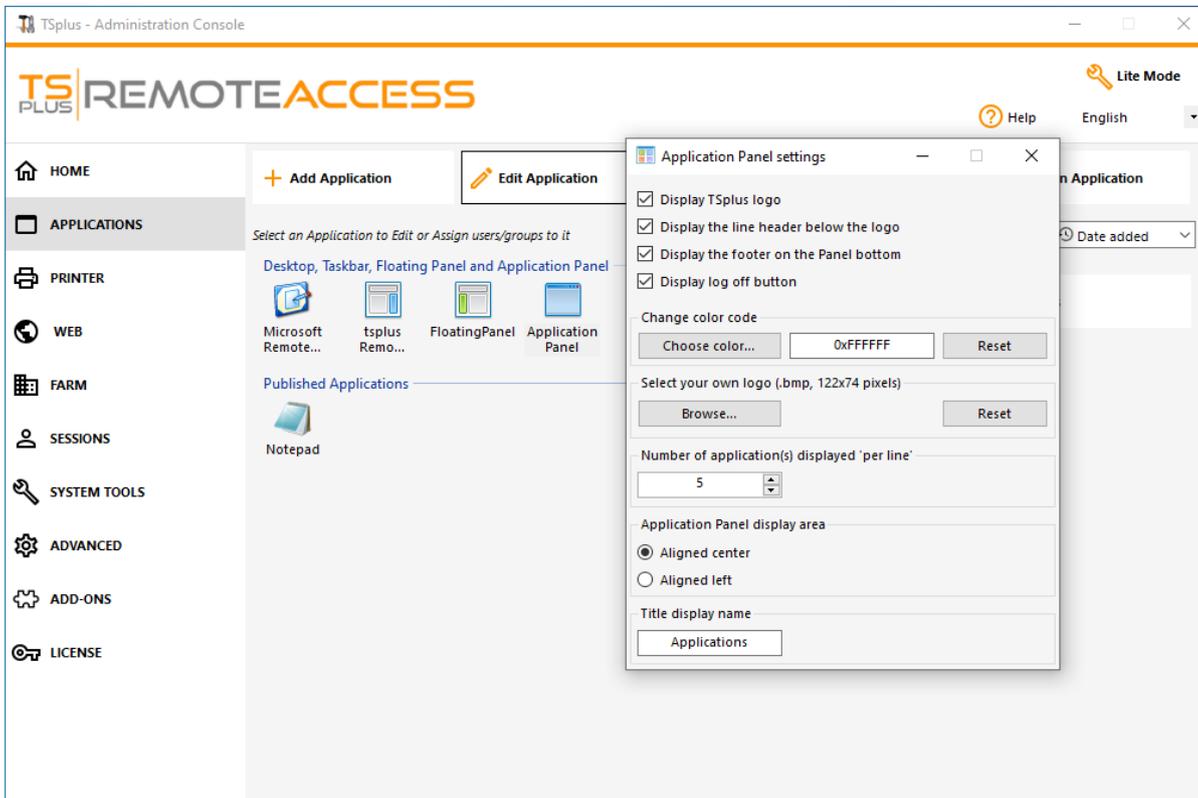


Windows style

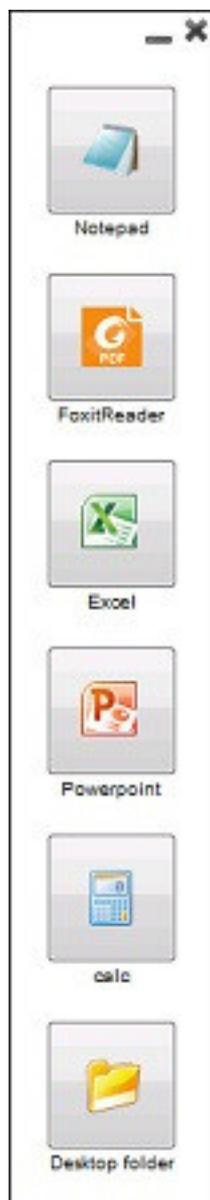
アプリケーションパネルは、表示されるアプリケーションを整理する機能を提供します。これはWebアプリケーションポータルと同様ですが、単に1人のユーザーまたはグループに割り当てるだけです。



管理者は、TSplusのロゴまたは独自のロゴを表示することを選択し、ロゴの下に行ヘッダーとフッターを表示し、色を変更するか、該当するボックスの選択を外すことで、全く表示しないこともできます。また、表示されるアプリケーションの数を行と列で調整し、行ごとに表示されるアプリケーションの数を入力することにより、アプリケーションパネルの配置と名前を調整することもできます。



例えば、ロゴなしで1列に6つのアプリを表示するか、TSplusのロゴ付きで2列3行に表示します。

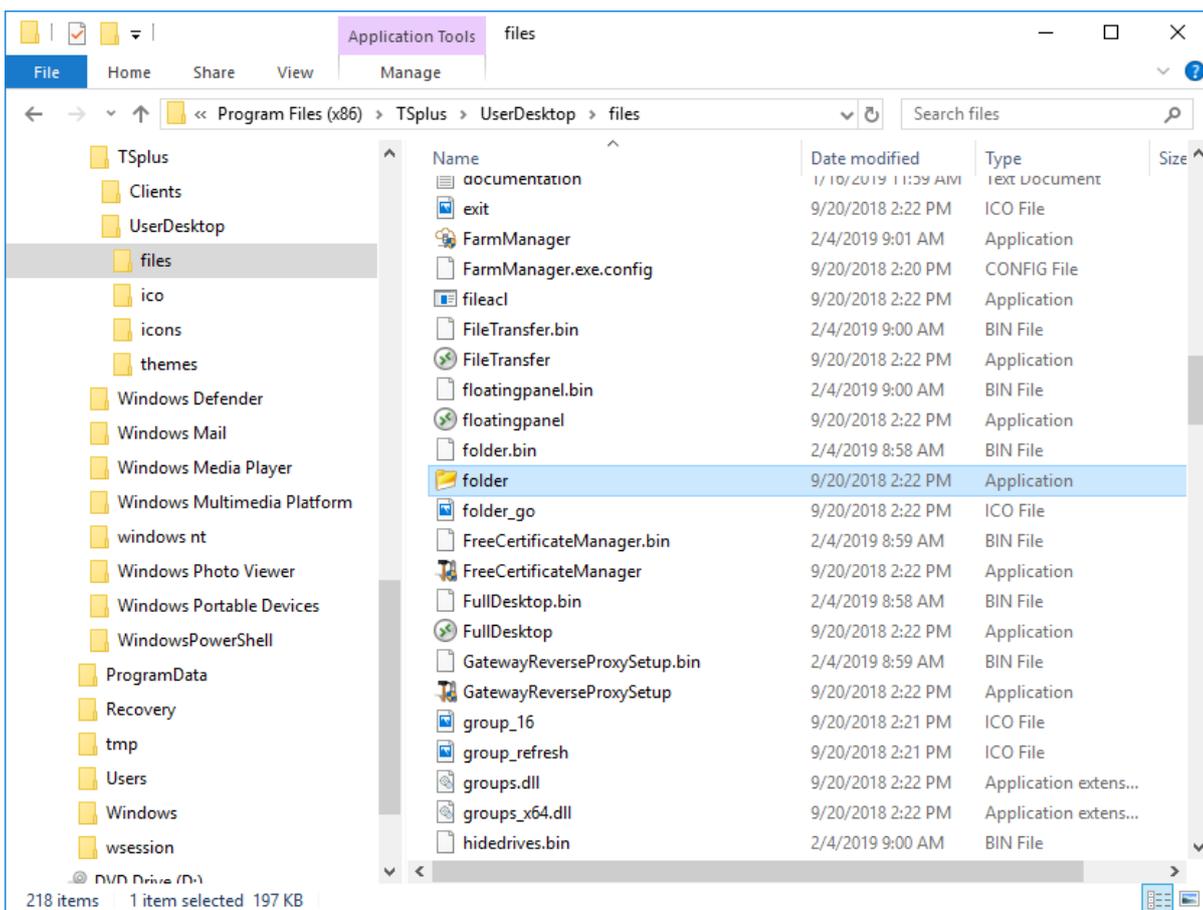


# セキュアフォルダー共有 - Folder.exe

フォルダーアプリケーションは、ユーザーに提供するフォルダーの内容を安全に表示します。

最初に、共有したいアプリケーションやドキュメントを含むフォルダーをサーバー上に作成します。

explorer.exeを開き、C:\Program Files\tsplus\UserDesktop\filesにあるfolder.exeアプリケーションを見つけます。

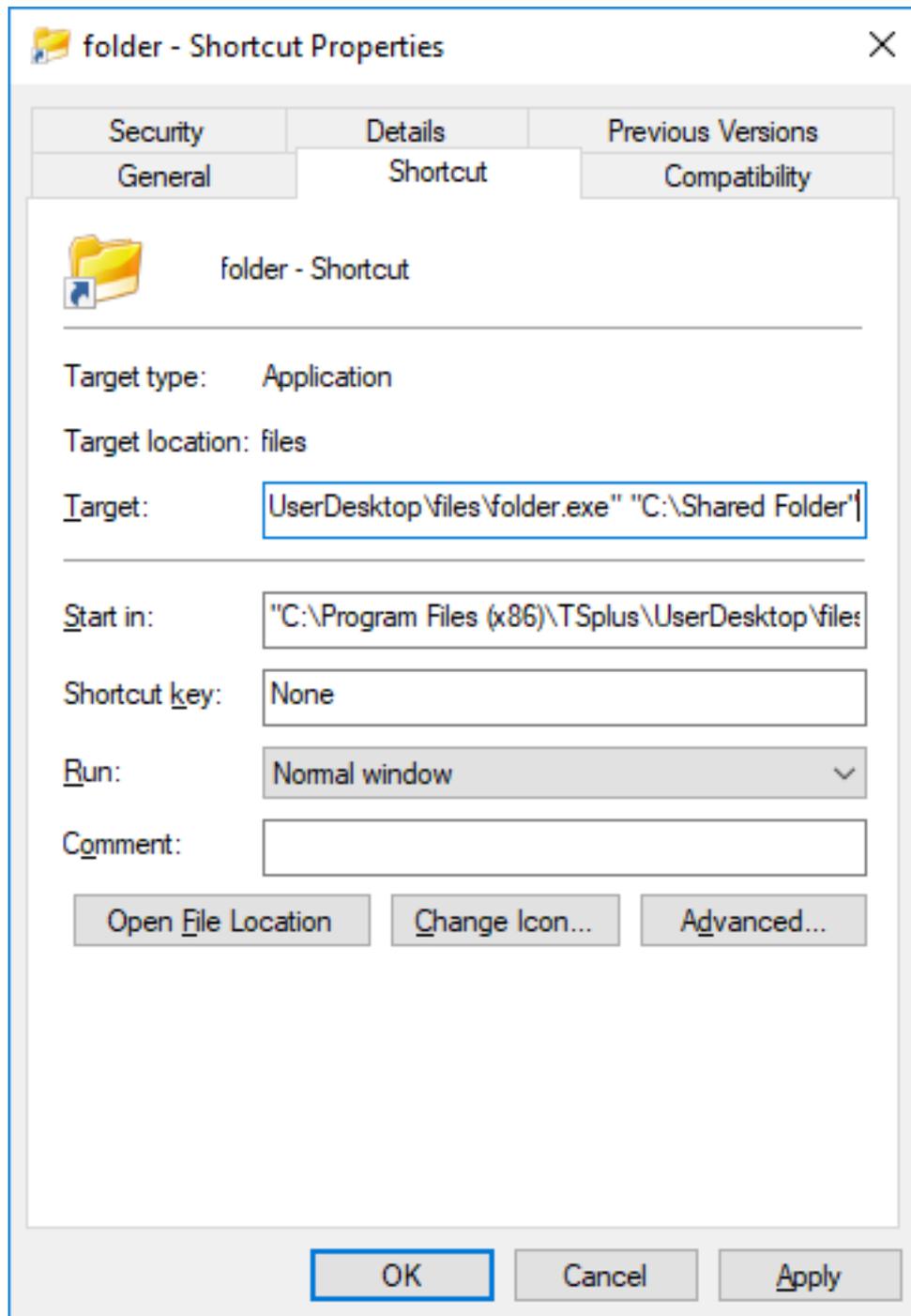


このファイルのショートカットを作成します。このショートカットのプロパティを右クリックして編集します。

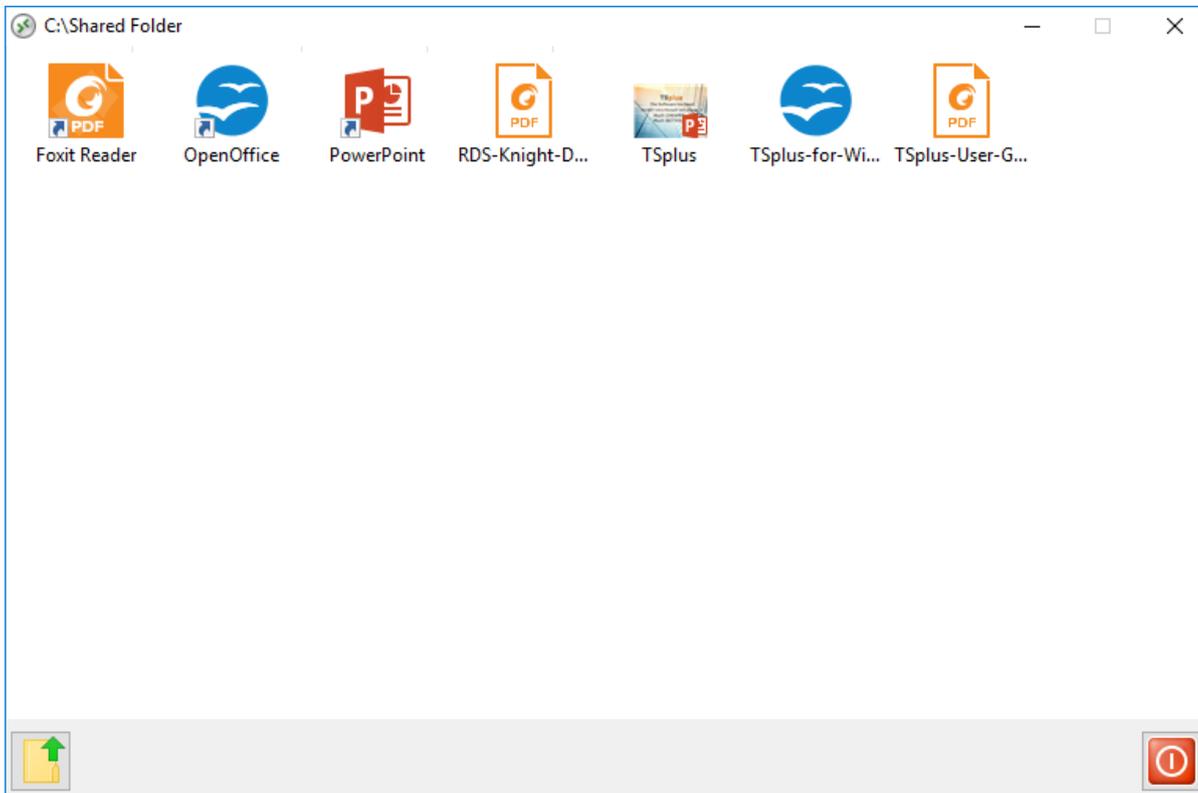
その後、ショートカットのターゲットパスを変更し、元のターゲットパスの後に「ターゲッ

ト」行にアプリケーションフォルダーのパスを入力します。例えば：

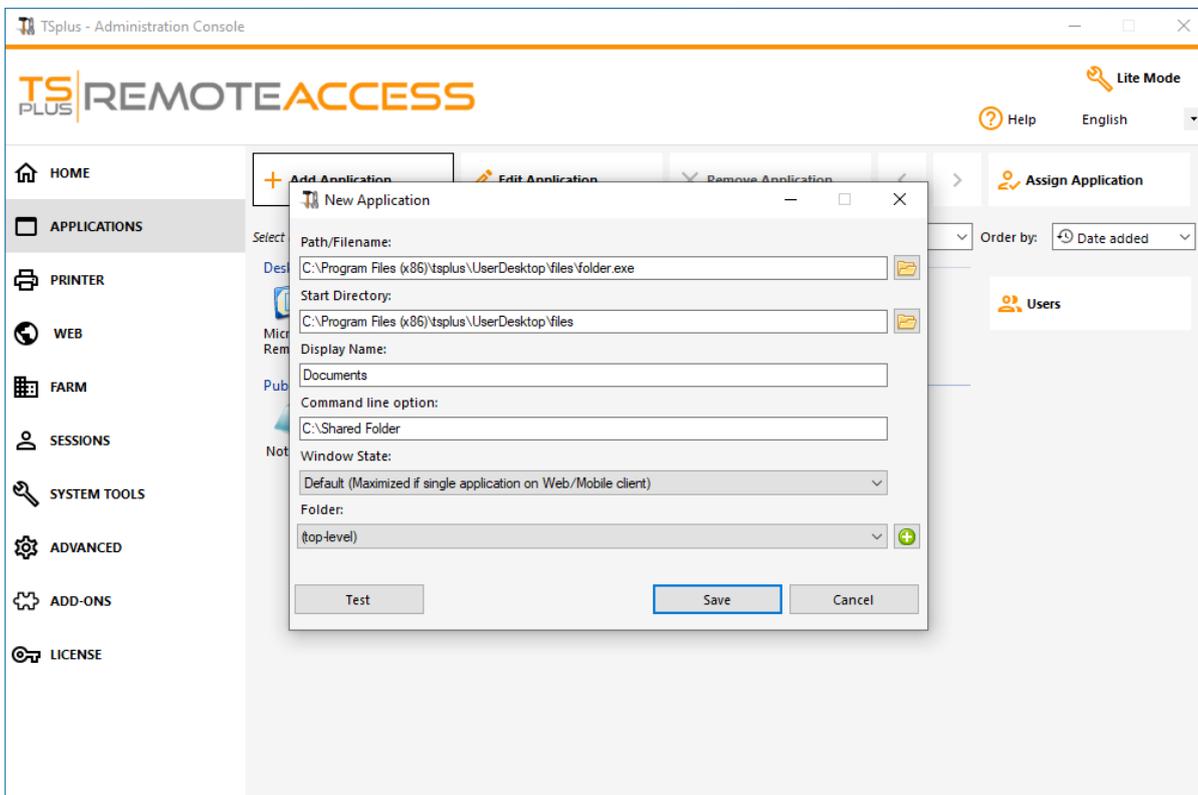
“C:\Program Files\tsplus\UserDesktop\files\folder.exe” “C:\Shared Folder”



フォルダー.exe ショートカットを開くと、次のように表示されるはずですが（自分のドキュメントやアプリケーションを含む）：



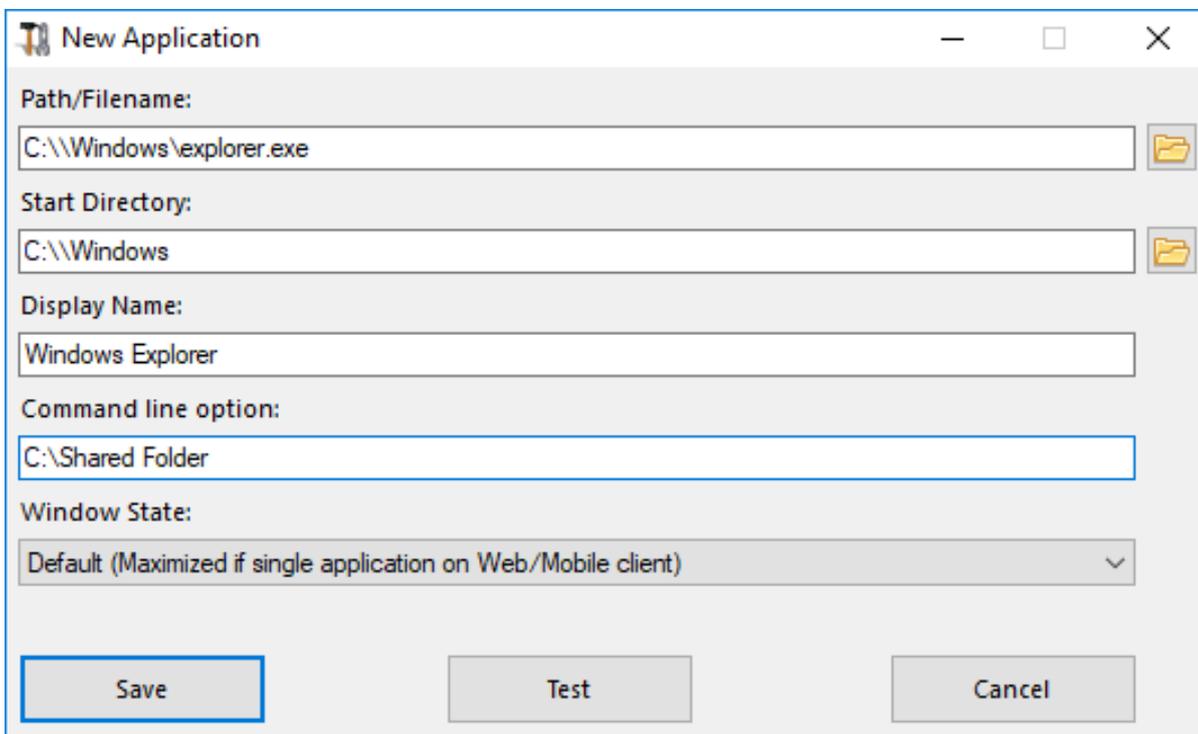
このショートカットはユーザーのプロファイルデスクトップフォルダーにコピーすることができるか、フォルダー.exeをアプリケーションとしてユーザーに公開することができます。最新の方法を行う場合は、コマンドラインオプションセクションでフォルダーのパスを指定する必要があります。



ドキュメントのフォルダーを共有する別の方法があります。

## 共有フォルダーをユニークなアプリケーションとして公開する：

新しいアプリケーションを追加します。表示名に共有フォルダーの名前または任意の名前を入力します。「パス/ファイル名」フィールドの右側にある参照ボタンをクリックし、C:\Windows\explorer.exeを見つけます。開始ディレクトリは自動的にexplorer.exeのパスで埋められます。コマンドラインオプションフィールドに共有フォルダーのパスを入力します。これはローカルフォルダーまたはUNCパスを使用したネットワーク共有フォルダーであることができます（例：\data\shared folder）。下のフィールドに共有フォルダーの情報を入力してください。



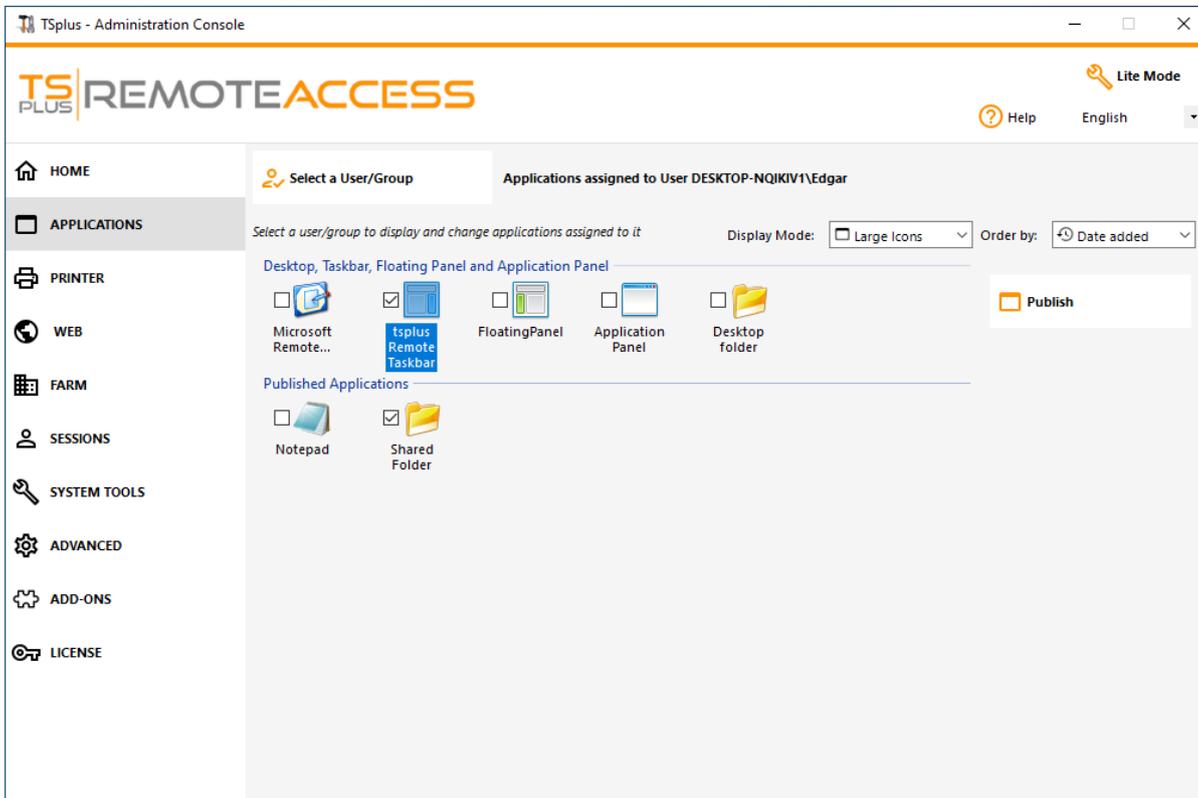
The image shows a 'New Application' dialog box with the following fields and values:

- Path/Filename: C:\\Windows\\explorer.exe
- Start Directory: C:\\Windows
- Display Name: Windows Explorer
- Command line option: C:\\Shared Folder
- Window State: Default (Maximized if single application on Web/Mobile client)

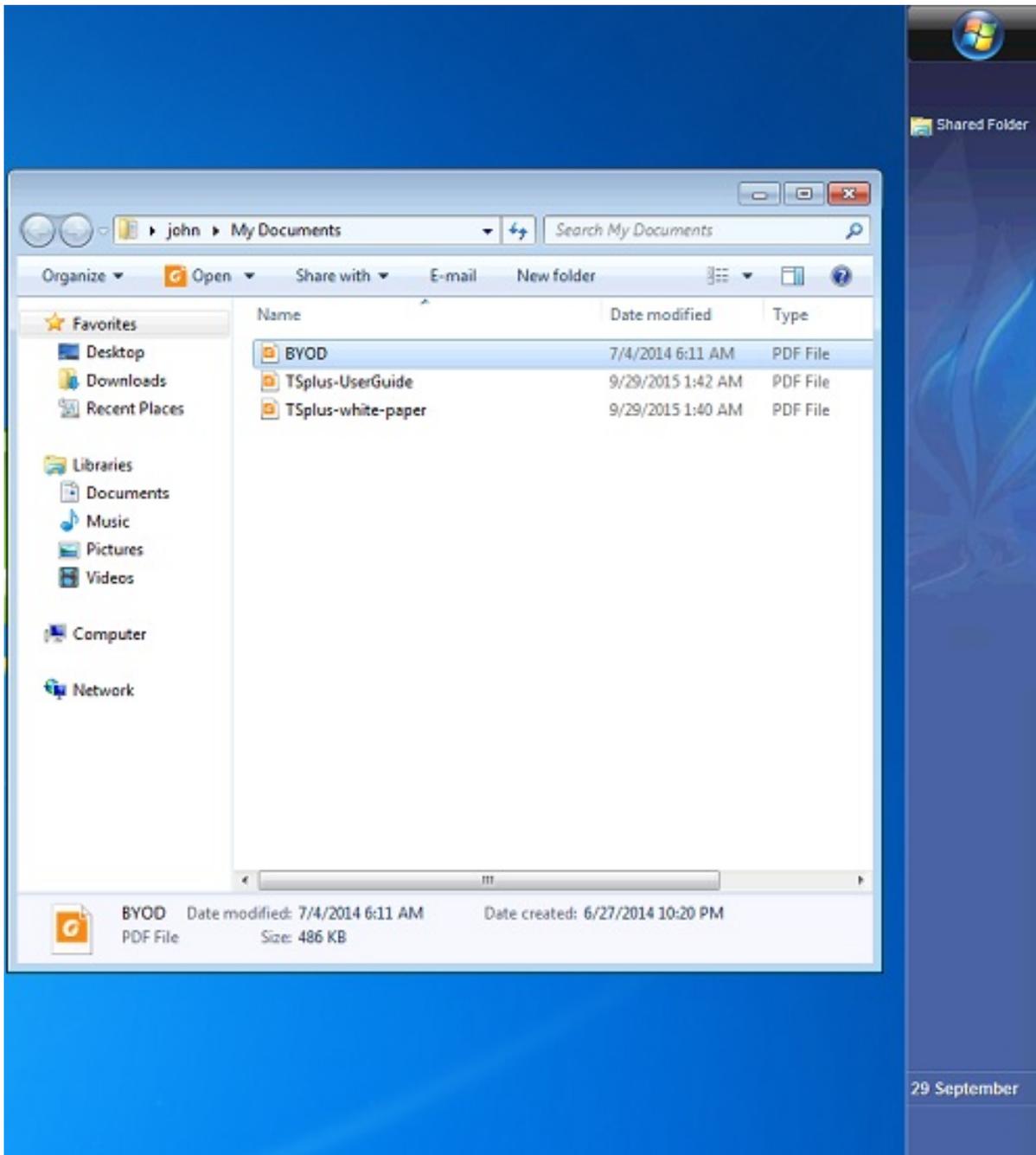
Buttons at the bottom: Save, Test, Cancel.

次に「保存」をクリックします。

「ユーザー」タブをクリックします。ユーザーを選択し、TSplus Remote TaskbarとShared Folderのボックスをチェックします。

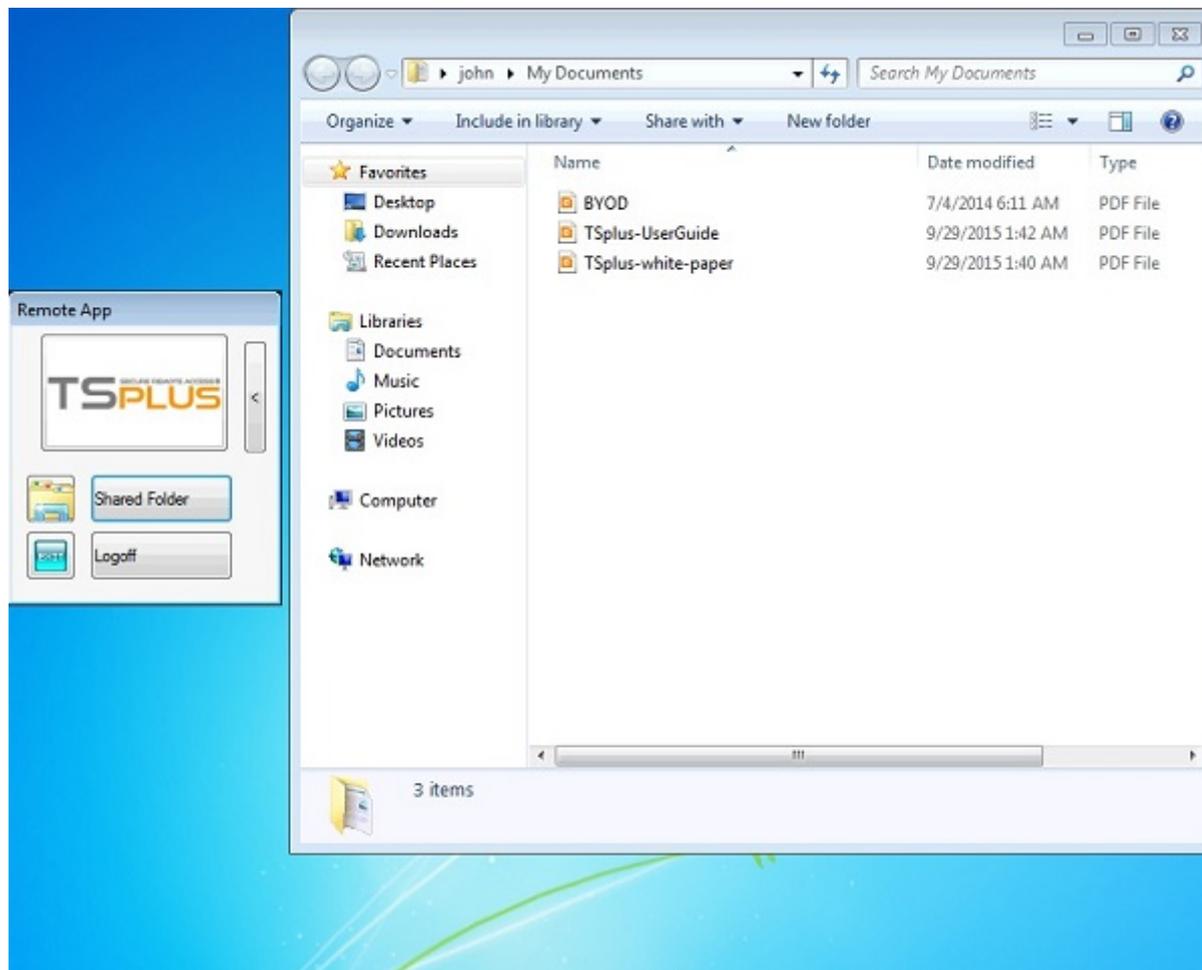


セッションをRDPクライアントで開くと、共有フォルダーアプリケーションを含むTSplusタスクバーが表示されます。



浮動パネルを使用してこれを行うこともできます。管理ツールを開き、「アプリケーションの割り当て」タブをクリックします。浮動パネルと共有フォルダのボックスをチェックしてください。

ここに結果があります:



# 無料で簡単にインストールできるHTTPS証明書

## 概要

`https://demo.tsplus.net/software/html5.html?user=demo&pwd=demo&program=c:\\windows\\system32\\notepad.exe&startupdir=c:\\windows\\system32\\ms=`

3回のマウスクリックで、セキュリティが確保された有効な証明書が自動的に更新され、TSplusの内蔵ウェブサーバーに自動的に設定されます。

この機能は使用します [Let's Encrypt](#) HTTPS接続のために無料で安全なHTTPS証明書を提供します。

## 前提条件

TSplusサーバーが無料証明書マネージャーを使用する前に、これらの要件を満たしていることを確認してください。

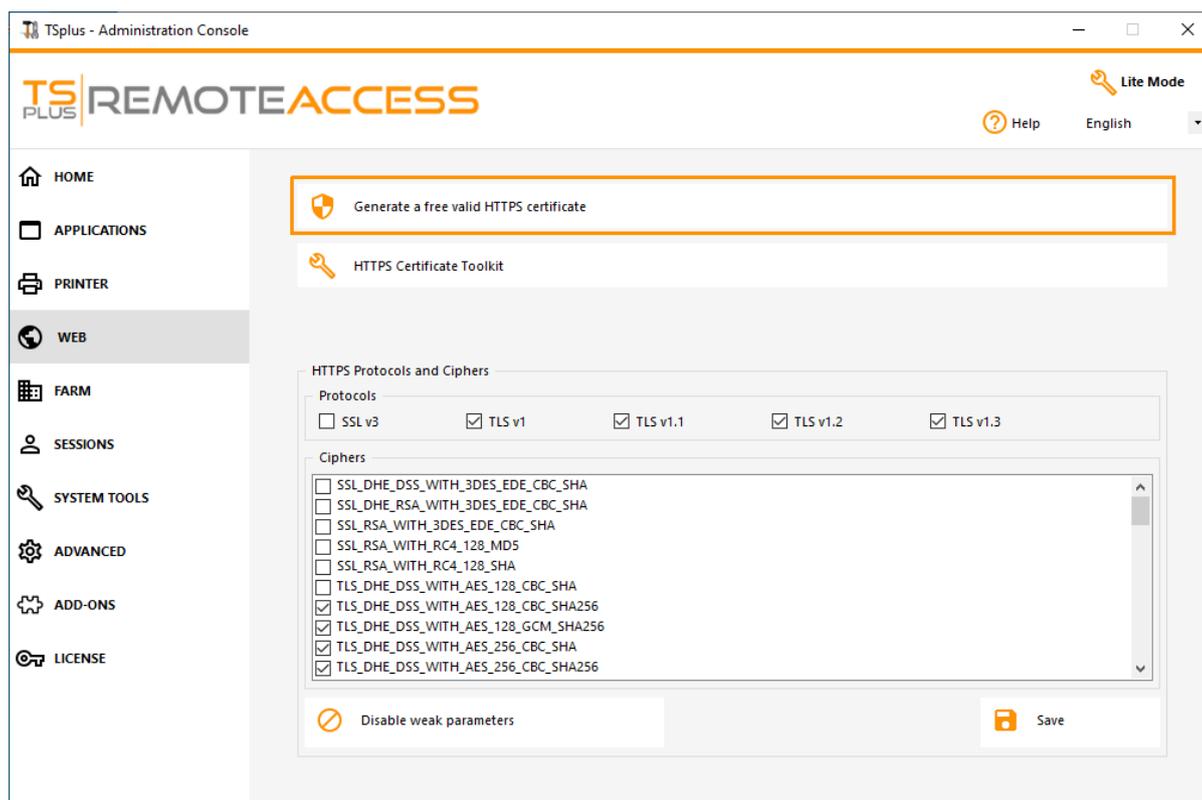
- あなたは必ずしなければなりません **TSplusの組み込みWebサーバーがポート80でHTTPをリスンしています。** これはLet's Encryptのドメイン所有権検証プロセスによって要求されます。
- あなたの **サーバーのドメイン名にアクセスできる必要があります** 公開インターネットから。これは、あなたがそのドメインの本当の所有者であることを確認するためにも必要です。
- あなたは必ずしなければなりません **このプログラムをゲートウェイサーバーまたはスタンドアロンサーバーで実行してください。** アプリケーションサーバーではありません。(ただし、アプリケーションサーバーがパブリックインターネットからアクセス可能であり、パブリックドメイン名を持っている場合を除きます。)

IPアドレス ( 公開またはプライベート ) に対して証明書を取得することはできません。

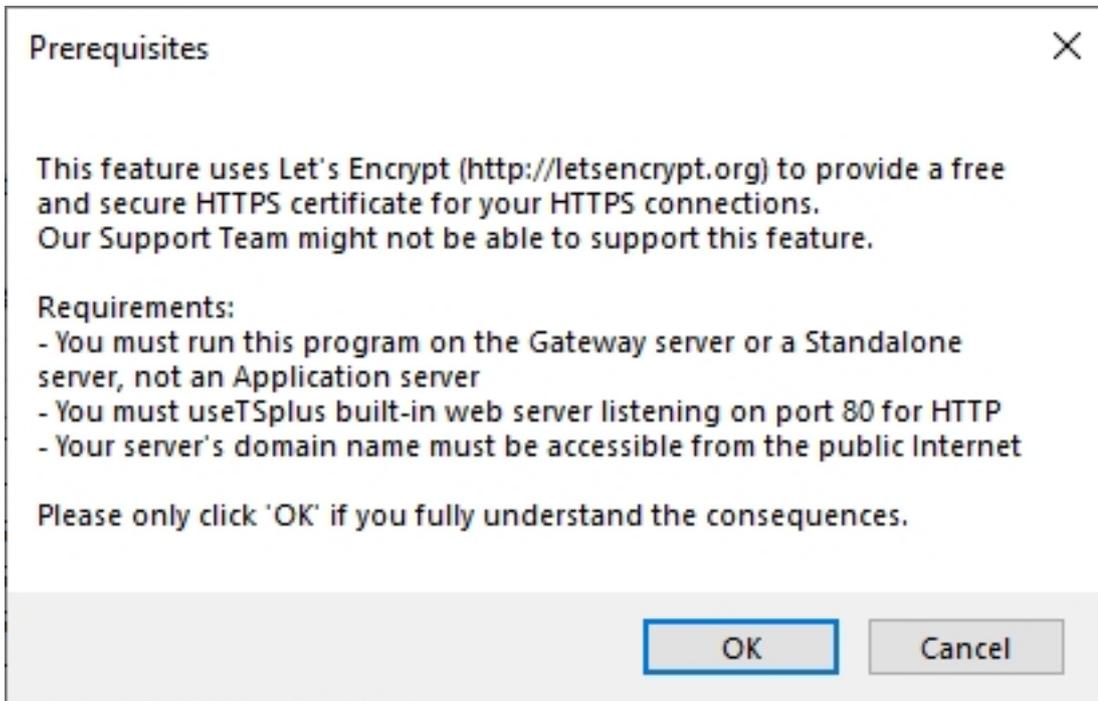
内部ドメイン名（つまり、プライベートネットワーク内でのみ解決されるドメイン）に対して証明書を取得することはできません。

## 無料証明書管理GUI

TSplus Free Certificate Manager GUIを開くには、TSplus AdminToolを開き、「Web - HTTPS」タブをクリックし、次に以下のスクリーンショットに示されている「無料の有効なHTTPS証明書を生成」をクリックします。



無料証明書管理者GUIが開き、以下のスクリーンショットに示されている前提条件についてお知らせします。



サーバーがすべての要件を満たしていることを注意深く確認し、「Ok」ボタンをクリックしてください。

## ステップ 1: あなたのメールアドレスを入力してください

このメールはスパムとして使用されることはありません。実際、TSplusや他の第三者には送信されず、証明書発行者であるLet's Encryptにのみ送信されます。

必要に応じて、サービス利用規約に従ってのみ連絡を取ります。

## ステップ 2: サーバーのドメイン名を入力してください

これは、gateway.your-company.comのような、公共のインターネットにアクセス可能なドメイン名です。 "+"ボタンをクリックした後に、別のドメイン名またはサブドメイン名を追加することもできます。

GUIで説明されているように、プロトコルプレフィックスやポートサフィックスを追加せず、クリーンなドメイン名のみを入力してください。

このドメイン名に対して証明書が生成され、このドメイン名でホストされているウェブページでのみ有効になります。ユーザーがあなたのWebポータルに接続する場合、<https://server1.example.com:1234> 次に、「server1.example.com」を入力する必要があります。

## ステップ 3: キーアルゴリズムを選択してください

キーペアを作成し、デジタル署名操作を実行するために使用されます。

Generate a free valid HTTPS certificate

Administrator Email

Please enter a valid address.

Let's Encrypt will only contact you if required and only regarding the certificate.

Server Web Domain Name

Please enter the fully qualified domain name of the current server.

This is the domain you are using to access this server from the Internet, without protocol ('http://') and without port (':443').

Key Algorithm

ES256 (recommended)

Choose a signing algorithm.

RSA-algorithm enjoys wide compatibility across multiple platforms.  
ES-algorithms provide the same security as the RSA-algorithm with smaller keys and a quicker process of signing and verification.  
Larger key sizes provide greater security strength but result in more data being stored and transmitted.

Generate a free valid HTTPS certificate

Cancel

**証明書をお楽しみください！**

Finished

Your free certificate has been installed successfully.  
It will be automatically renewed every 2 months, without any downtime.

We strongly advise you to make a regular backup of the 'C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\cert' folder, as it contains your Let's Encrypt account private key and your domain private key.

OK

TSplus Free Certificate Managerは、すべてのデータを使用してLet's Encryptに接続し、入力したドメイン名を実際に所有していることを確認し、一致する有効な証明書を取得します。

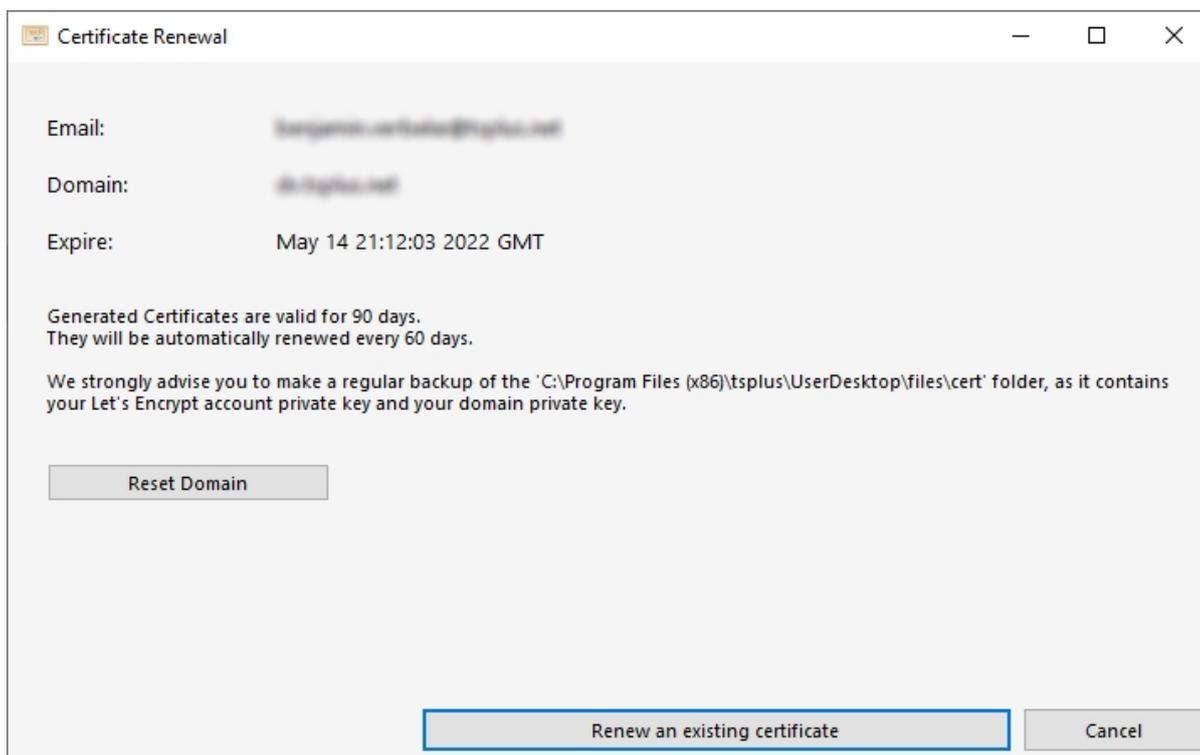
プログラムが証明書を受け取ると、自動的に必要なファイル形式の変換をすべて処理し、新しい証明書をすべての新しい接続に適用するために、TSplus内蔵のウェブサーバーをソフトに再読み込みします。ウェブサーバーは **ない** 再起動され、接続が停止していません。

# 証明書の更新

Let's Encryptの証明書は90日間有効です。有効期限は2028年までに半分の45日間に短縮され、業界全体も同様です。

TSplusは、安全のために15日ごとに証明書を自動的に更新します。Windowsサーバーの再起動時にチェックが行われ、その後24時間ごとにチェックされます。

証明書の無料証明書管理ツールを開くことで、手動で証明書を更新できます。ツールは証明書のドメイン名とその有効期限を表示します。以下のスクリーンショットに示されています。



証明書を手動で更新するには、「次へ」ボタンをクリックしてください。

このウィンドウの「ドメインのリセット」ボタンは、SSL証明書を削除し、証明書マネージャーを使用する前の元の状態にWebサーバーを再構成します。

## ベストプラクティス

エラーが発生しない場合、TSplusは15日ごとに証明書を自動的に更新します。私たちはあなたに推奨します。 **45日ごとに確認してください** あなたの証明書が自動的に更新されたことをお知らせします。Let's Encryptは現在、90日間有効な証明書を発行しており、2028年までに半分の45日間に短縮されます。

私たちはあなたにお勧めします **毎月少なくともバックアップを取る** 以下のフォルダーとその

サブフォルダー :

C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files.lego

これは内部フォルダーで、あなたのLet's Encryptアカウントの秘密鍵と、証明書の鍵ペアが含まれています。

## トラブルシューティング

エラーが発生した場合 サポートに連絡し、次のログファイルをメールで送信してください。

C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files.lego\logs\cli.log

このログファイル ( おそらく同じフォルダー内の他のログファイルも ) を使用して、私たちのサポートチームが問題を調査し、よりよく理解するのに役立つはずです。

以前に使用した証明書を復元したい場合 フォルダーに移動:

C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webserver

すべての「cert.jks」ファイルが含まれます。これらは「キーストア」ファイルであり、私たちはそれらを削除することではなく、無効化の日時で名前を変更するだけです。

## エラーコード

- エラー 801: 無料証明書マネージャーはあなたのLet's Encryptアカウントを登録できませんでした。インターネット接続を確認してください。あなたのメールがすでにLet's Encryptに登録されていないことを確認してください。別のメールで再試行してください。
- エラー 802 とエラー 803: 無料証明書マネージャーは Let's Encrypt 利用規約の URL アドレスを取得できませんでした。これは非ブロッキングエラーです: 引き続き操作を続け、Let's Encrypt 利用規約を受け入れることができます - もちろん、最初にブラウザでそれらを読むことを忘れないでください。
- エラー 804: Free Certificate Manager は、Let's Encrypt サービス利用規約に対するあなたの同意を Let's Encrypt サーバーで検証できませんでした。インターネット接続を確認してください。再試行してください。
- エラー 805 およびエラー 806: 無料証明書マネージャーは、証明書作成中 (エラー 805) または証明書更新中 (エラー 806) に入力したドメインを所有していることを検証できませんでした。すべての前提条件を再確認してください。インターネット接続を確認してください。

ウェブサーバーがポート 80 でリッスンしていることを確認してください。IIS や Apache などのサードパーティ製ウェブサーバーを使用していないことを確認してください。ドメイン名がパブリックインターネットからアクセス可能であることを確認してください。

## HTTPS証明書コマンドライン

### 証明書設定ファイルの準備

「C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\cert」フォルダー内に、「FreeCertificateManager.ini」という名前のファイルがまだ存在しない場合は作成してください。テキストエディタやWindowsファイルエクスプローラーが末尾に「.txt」拡張子を追加しないようにしてください。

ファイルを編集し、次の形式になるように書き込むか更新してから保存してください。

設定

メール = [your.email@company.com](mailto:your.email@company.com)

domain = your-server- domain-name.company.com

### 証明書の作成

サーバー管理者として、次のコマンドを実行してください：

```
C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\cert\CertificateManager.exe /create
```

このコマンドが成功するためには：

- 「FreeCertificateManager.ini」ファイルは存在し、期待される形式を使用している必要があります。
- あなたのTSplus Remote Accessサーバーは稼働している必要があります
- あなたのTSplus Remote Access Web Portalはプロトコルで利用可能でなければなりません。

インターネットのパブリックネットワークからポート80のHTTP、TSplus HTTPS証明書プロバイダーがそれを使用してサーバーのドメイン名を検証します。

### 証明書の更新

証明書が設定され作成されると、TSplus Remote Accessは自動的に2か月ごとに更新し、決して期限切れにならないようにします。

## サードパーティ証明書の追加

「C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\cert」フォルダー内に、「certpassword.txt」という名前のファイルを作成し、証明書のパスワードのみを含めます。サーバー管理者として、次のコマンドを実行します。

```
“C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\cert\CertificateManager.exe” /add “your-certificate-path”
```

TSplus Advanced Securityを使用している場合、機能が動作するために地理的保護機能を一時的に無効にする必要があるかもしれません。コマンドを実行した後、パスワードファイルを削除できます。

# RDPアクセスを防止し、ゲートウェイサーバーでHTTPを許可する

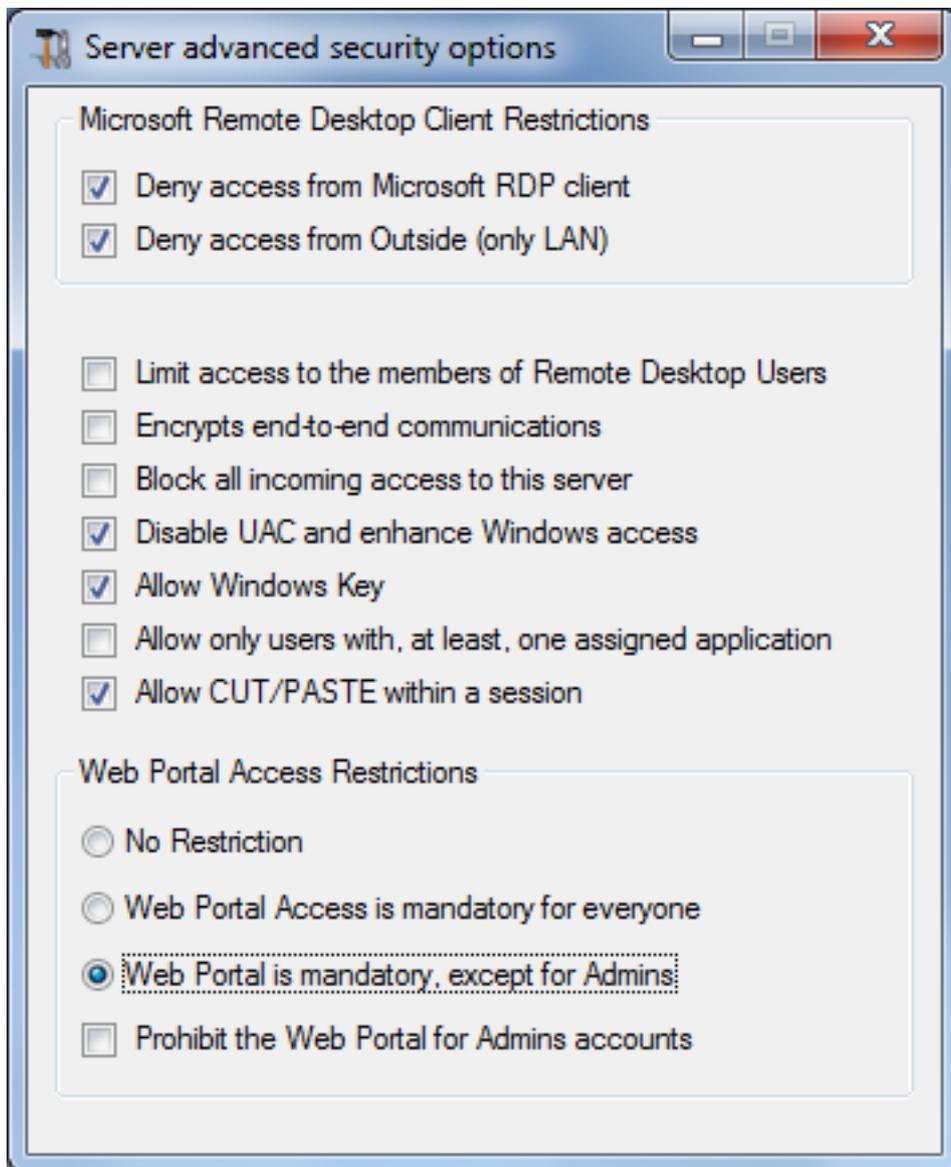
ゲートウェイサーバーにアクセスする方法は2つあります：

- HTML5 / HTML
- ゲートウェイ IP/DNS – ポート番号による RDP セッション

## HTML/HTML5をロックダウンする方法

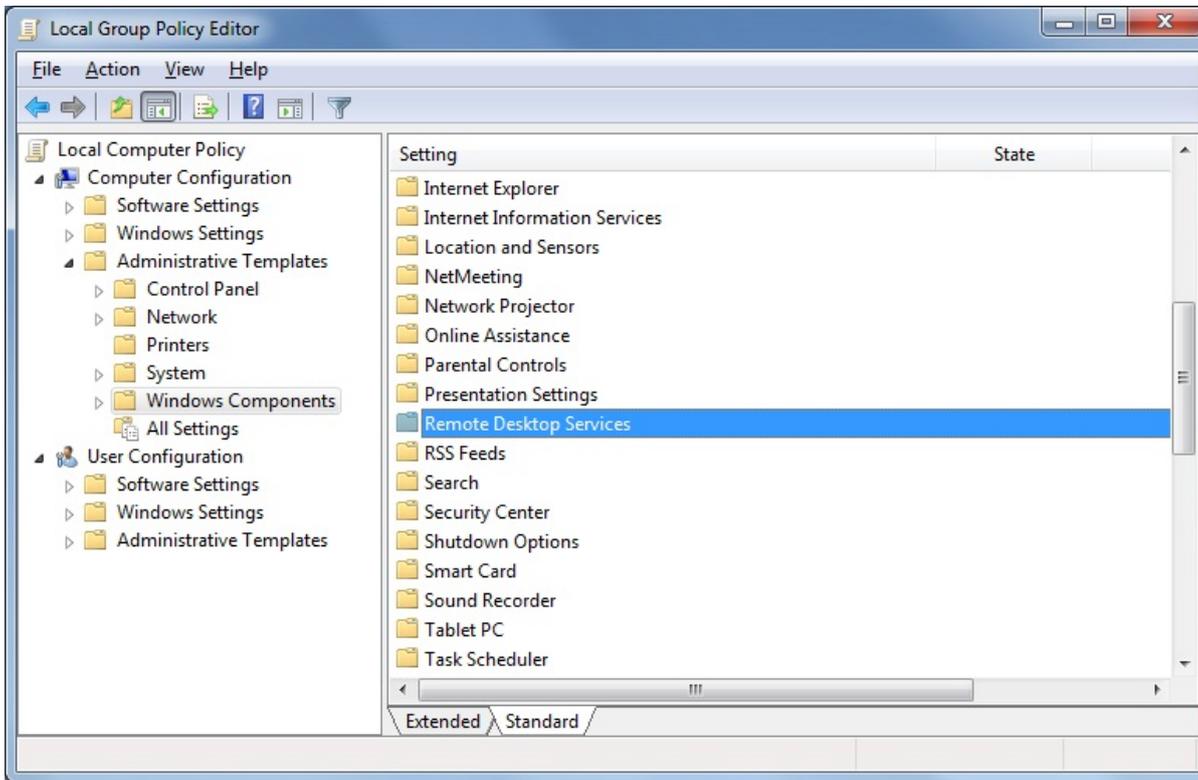
mstscを使用してポート番号でTSplusアプリケーション/ゲートウェイサーバーにRDP接続できます。

しかし、ゲートウェイサーバーのTSplus管理コンソールにあるこれらの高度なセキュリティツールを使用する場合は、セキュリティタイトル/タブに移動し、次に高度なセキュリティオプションタイトルをクリックします...

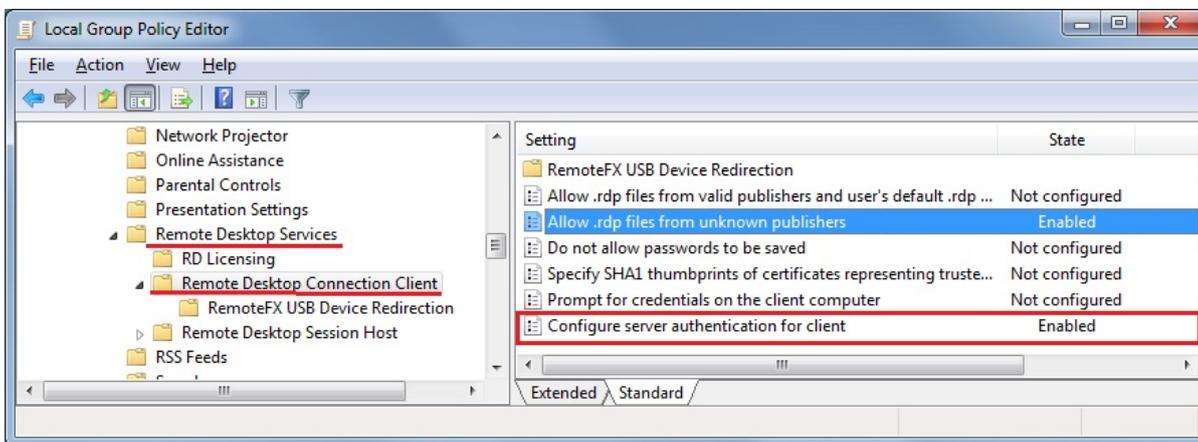


...RDPで接続しようとするするとアクセスが拒否されます。この動作を回避するために、ゲートウェイサーバーで次のことを行う必要があります:

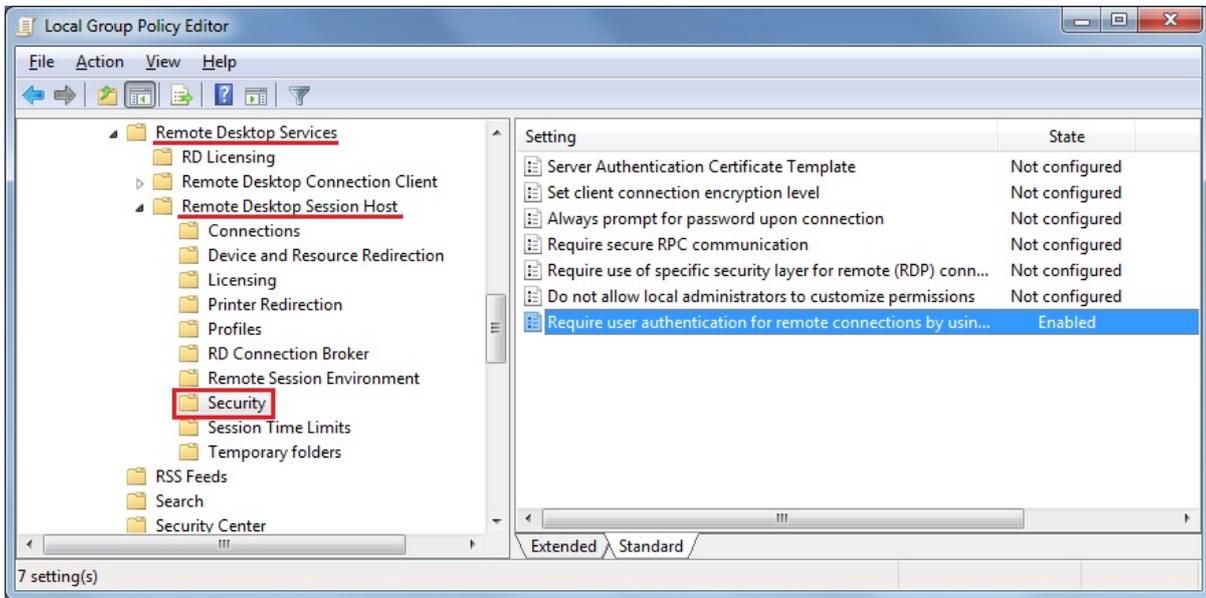
- Gpedit.mscに移動し、次にコンピュータの構成の下で、管理用テンプレートフォルダー、Windowsコンポーネントフォルダー、そしてRemote Desktop Servicesをクリックします。



- 次に、リモートデスクトップ接続クライアントフォルダーをクリックし、「不明な発行者からの .rdp ファイルを許可する」設定をダブルクリックして有効にし、「クライアントのサーバー認証を構成する」も有効にします。



- リモートデスクトップクライアントメニューの下で、リモートデスクトップセッションホストフォルダーをクリックし、次にセキュリティフォルダーをクリックします。「ネットワークレベル認証を使用してリモート接続のユーザー認証を要求する」設定を有効にします。

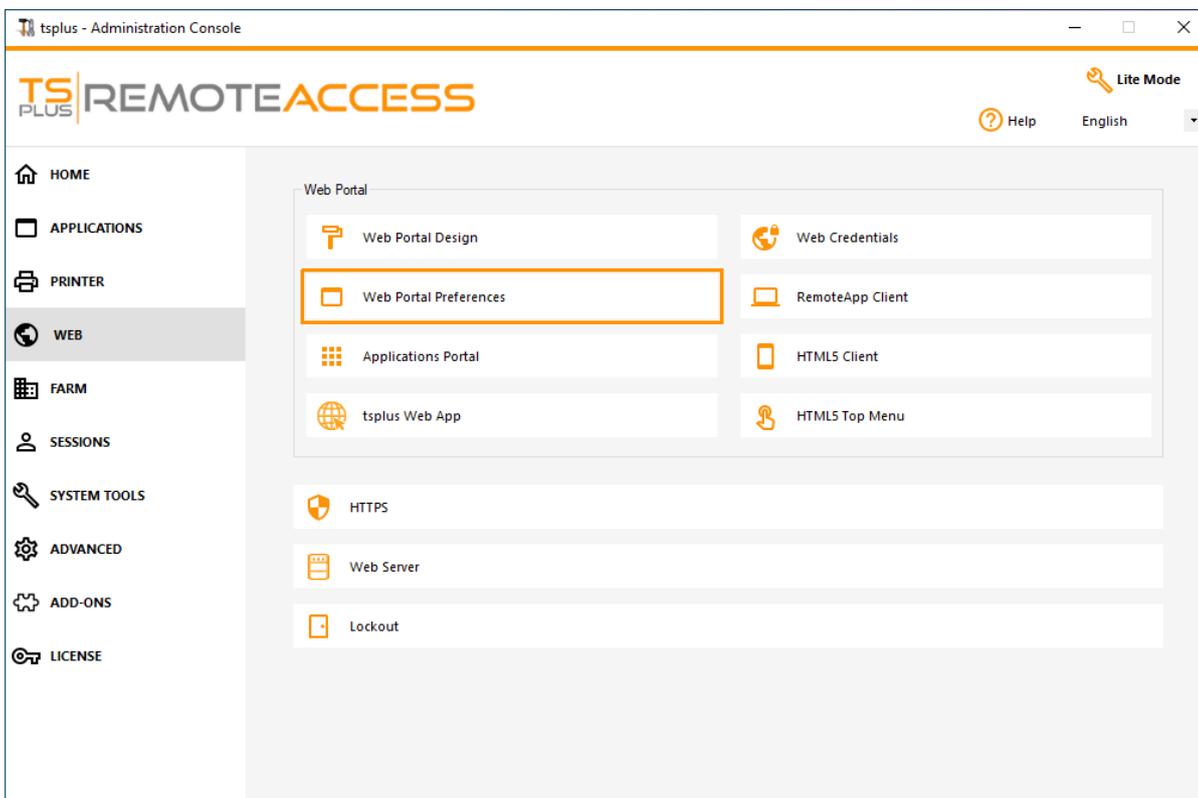


# ゲートウェイサーバーを手動で有効/無効にする

## 概要

農場の構成に基づいて、ファームコントローラーは自動的に自分のWebポータル設定を変更してゲートウェイサーバーになります。 TSpplus Web Portalからファームコントローラーに接続するユーザーが、ファームコントローラー自体に直接接続するのではなく、ファームのアプリケーションサーバーの1つに接続できるようにします。

ただし、この動作を手動で変更したい場合は、「WEB」 タイルをクリックし、次にWebポータルの設定ボタンをクリックすることで変更できます。



- 「ファームコントローラー（現在設定しているサーバー）のゲートウェイポータルをゲートウェイサーバーにし、ファームのアプリケーションサーバーにユーザーをリダイレクトしたい場合は、「ゲートウェイポータルを有効にしたWebページを生成する」ボックスにチェックを入れてください。」

- 「ファームコントローラーのゲートウェイポータルがファームコントローラー自体にリダイレクトされるようにしたい場合は、「ゲートウェイポータルを有効にしたWebページを生成する」のチェックを外してください。これにより、ファームの設定をバイパスします。」

## Preferences

Default Values

Login:

Password:

Domain:

Show the Domain field     Remember last login

Advanced

Keyboard:

Access Type

Available Clients:     HTML5    (iPad, iPhone, Android devices, computers)  
                           RemoteApp    (Windows PCs)

**Gateway Portal:     Generate a Gateway Portal enabled Web Page**

Upload: Folder to select files.

User Desktop (default)  
 My Documents  
 WebFile folder  
 Custom folder:

Folder path from where the user will select files to be uploaded.

Download: Folder for all received files

User Desktop (default)  
 My Documents  
 WebFile folder  
 Custom folder:

Folder where all downloaded files will be stored on the Server.

Downloaded files from the users PC will be stored in the specified folder.  
(Drag/Drop from the user PC, Download button or File Transfer button)

Use Explorer to select files     Use TSplus GUI

「保存」をクリックしてこの設定を保存します。

# ハードウェア識別子とクローンサーバー

## 1- ハードウェア識別子の変更。

### クローン作成または更新後のハードウェア識別子の修復。

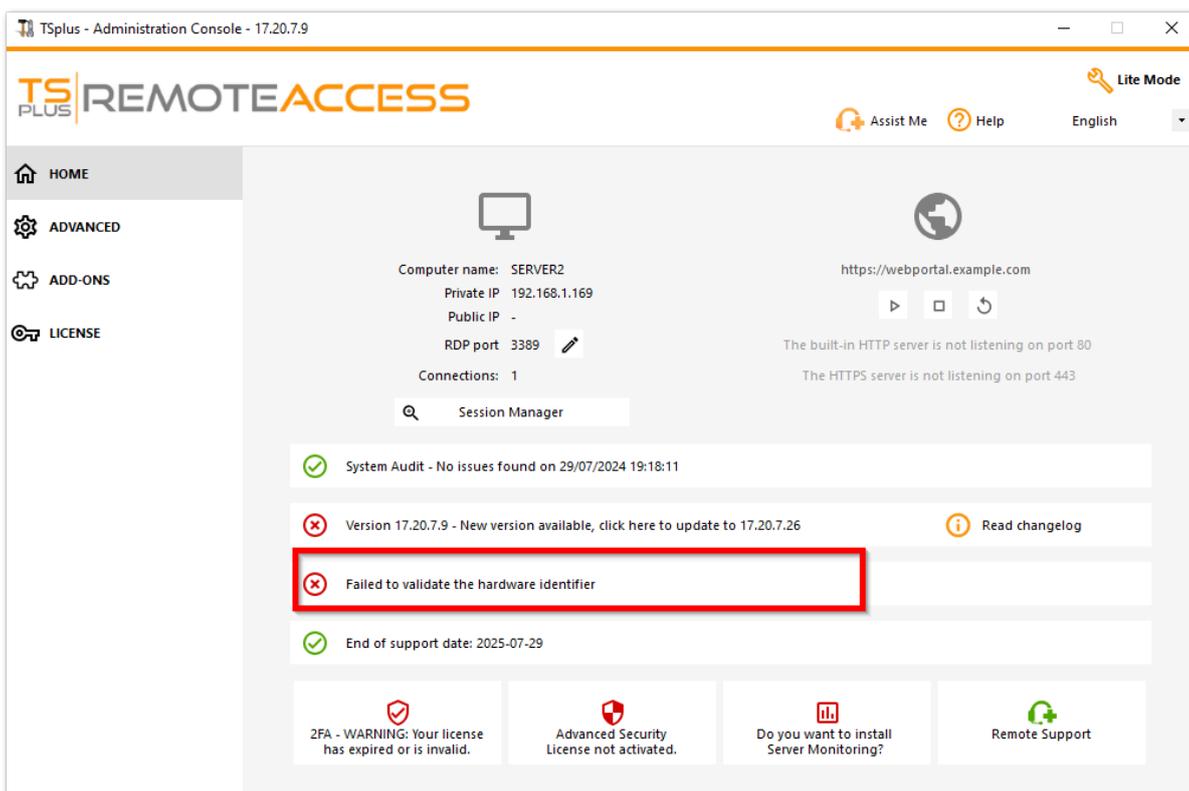
警告 : ハードウェア識別子の検証に失敗しました

物理サーバーを仮想マシンに移行したり、Microsoftのカーネルを更新した後、ライセンスの状態が新しいハードウェアでハードウェア識別子の検証に失敗しましたに変更されます。

このメッセージは、TSplusが同じコンピュータIDと同じ名前を持つ別のサーバーからコピーされたライセンスの競合を検出したために表示されます。

新しいサーバーの名前を変更することをお勧めします ( 例 : SERVER1 > SERVER2 )

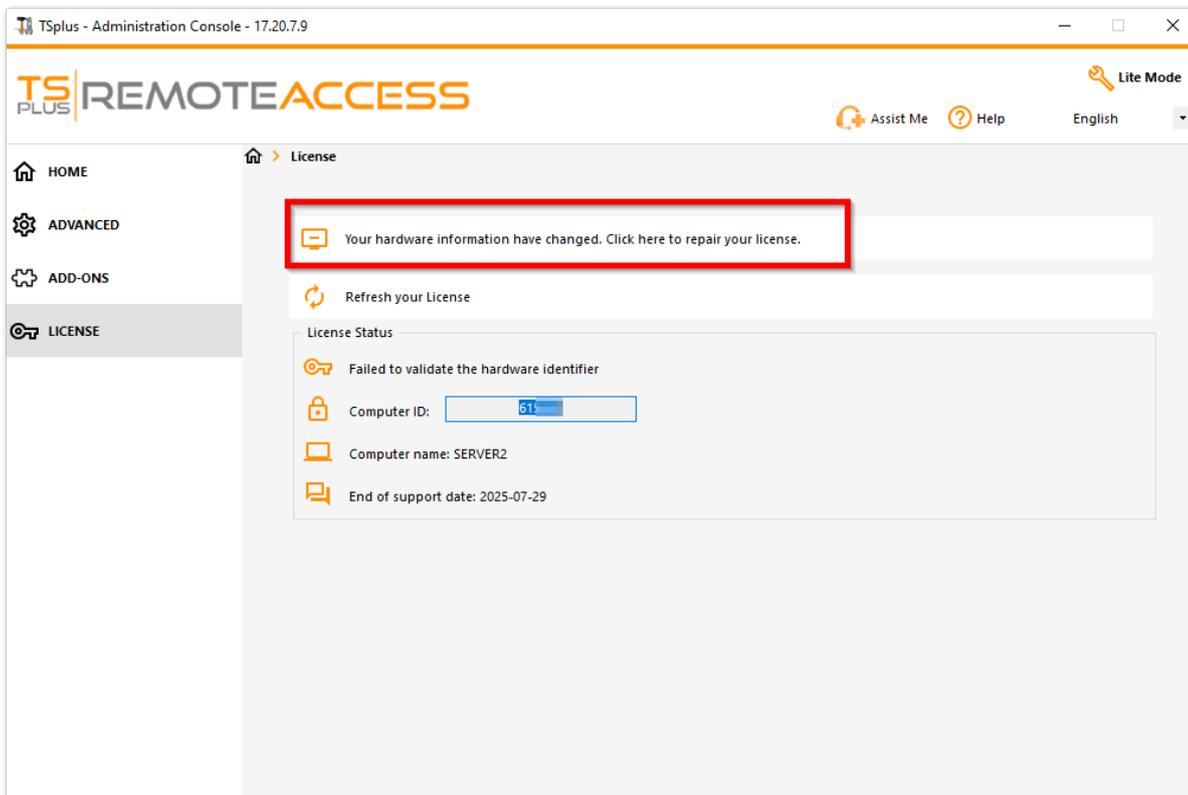
- サーバーを再起動してください



The screenshot shows the TSplus Administration Console interface. The main content area displays system information for a server named 'SERVER2', including its private IP (192.168.1.169), RDP port (3389), and connection status (1 connection). A warning message is highlighted with a red box: 'Failed to validate the hardware identifier'. Other messages include a system audit report, a version update notification (17.20.7.9 to 17.20.7.26), and an end of support date (2025-07-29). The bottom of the console features four status indicators: '2FA - WARNING: Your license has expired or is invalid.', 'Advanced Security License not activated.', 'Do you want to install Server Monitoring?', and 'Remote Support'.

ウィンドウをクリックしてライセンスページに移動します。

次に「ハードウェア情報が変更されました。ライセンスを修復するにはここをクリックしてください。」タブをクリックします。



「ライセンス再ホスト」ポップアップが開き、ライセンスを復元できるようになります。

### ケース1: サポートがありません！

リホスティングは不可能であるため、元のサーバーでサポートサブスクリプションに加入し、再度移行アクションを開始する必要があります。

問題が発生した場合、[サポートに連絡する](#) コンピュータIDとアクティベーションキーを示してください。

### ケース2：すでに6ヶ月間再ホスティングしています！

メッセージ: このコンピュータは過去6ヶ月以内にすでに再ホストされています。ライセンスの再ホストに関してサポートが必要な場合は、お問い合わせください。

再ホスティングはしたがって不可能です。[サポートに連絡する](#) コンピュータIDとアクティベーションキーを示してください。

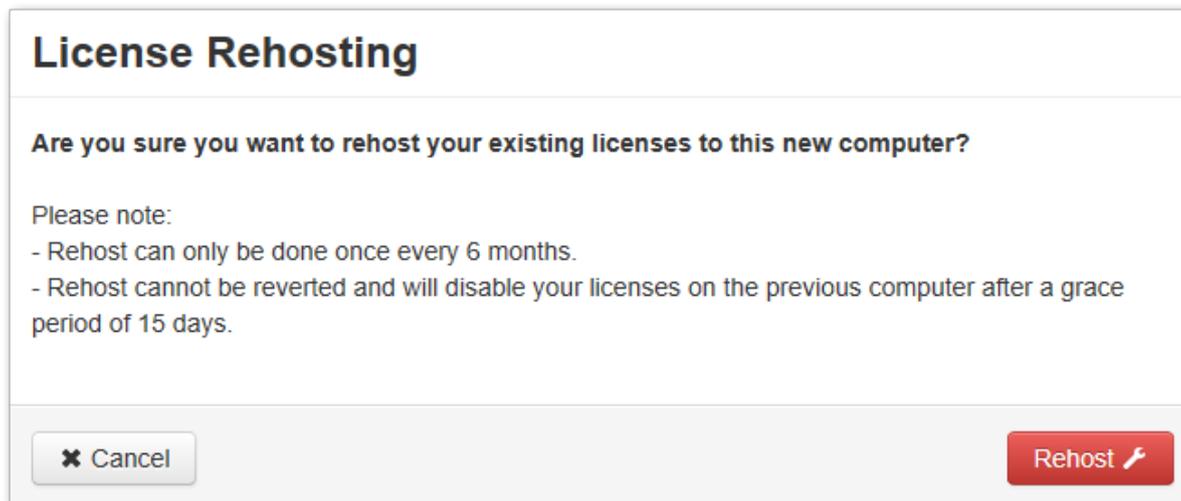
### ケース3：サポートがあります！

次のメッセージが表示されます: この新しいコンピュータに既存のライセンスを再ホストしてもよろしいですか？

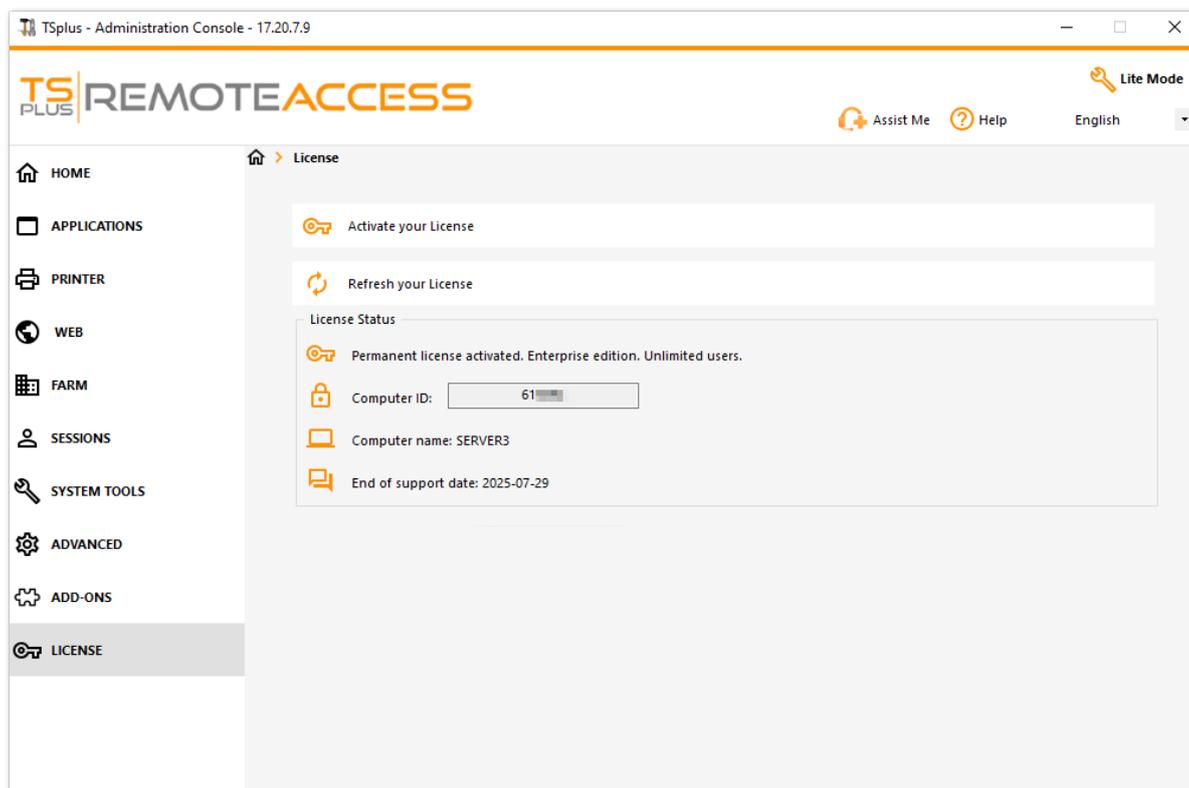
ご注意ください:

- 再ホスティングは6か月に1回のみ行うことができます。
- リホスティングはキャンセルできず、15日間の猶予期間後に以前のコンピュータ上のライセンスが無効になります。

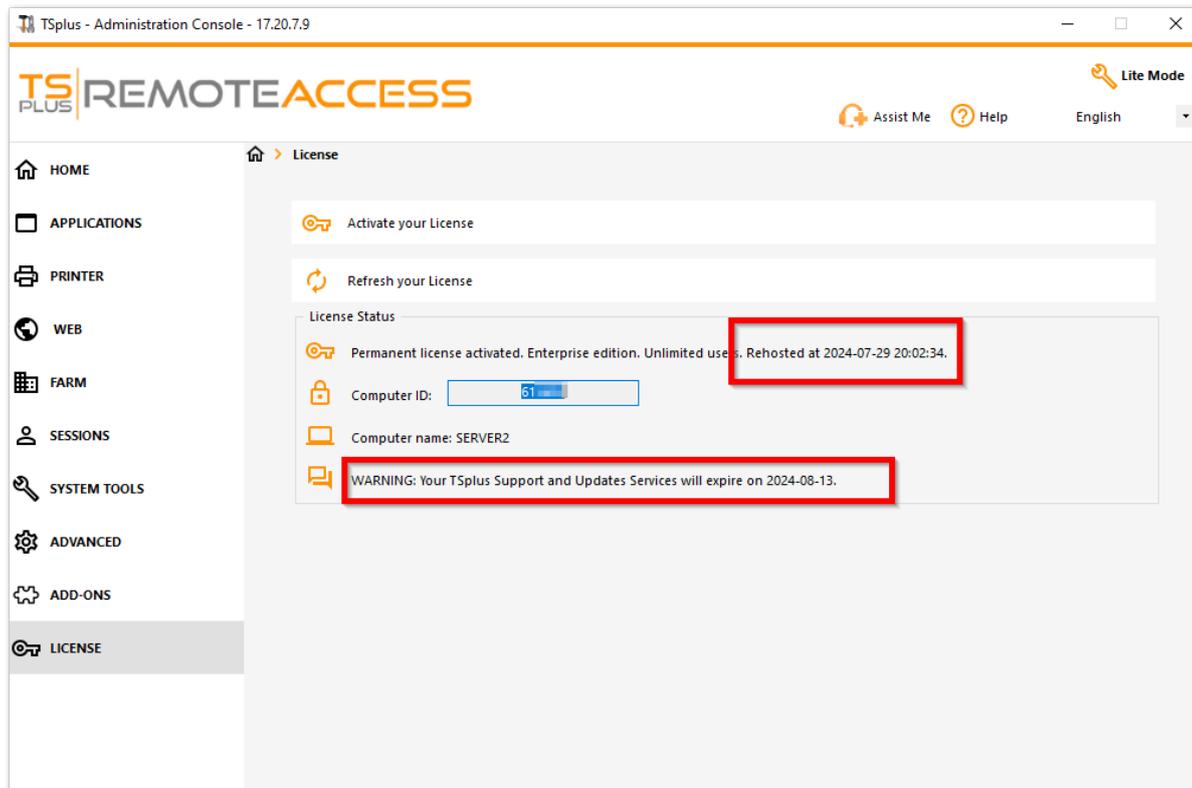
クリックして 「リホスト」 ボタン



ライセンスが再ホストされました！



古いサーバーには、再ホスト日と古いサーバーの使用期間の終了日（15日）が表示されるメッセージが表示されます。



#### 更新失敗：

アップデートリリースを実行し、サーバーを再起動した後に問題が解決されたかどうかを確認してください。

- ダウンロードする [更新リリース](#)

## サーバーをクローンし、既存のサーバーを保持しながら新しいライセンスを有効化します。

### 要件

クローン仮想マシンを使用する際は、コンピュータ名とディスクボリュームIDを変更して、ユニークなTSplus Remote Accessインストールを確保し、ライセンスの問題を回避することが重要です。

### コンピュータ名の考慮事項

コンピュータ名は、イメージ自体のWindowsレジストリに保存されます。イメージを適用する前に変更した場合、Windowsが起動するときにSysprepによって上書きされます。ただし、事前に名前を定義することができます。 Unattended.xml 回答ファイル。参照してください [マイクロソフトのドキュメント](#) 詳細については。

コンピュータ名を設定するには、次のセクションを内部に追加します [マイクロソフトウィンドウズシェルセットアップ](#) :

```
<component name="Microsoft-Windows-Shell-Setup" processorArchitecture="amd64"
publicKeyToken="31bf3856ad364e35" language="neutral" versionScope="nonSxS"
xmlns:wcm="http://schemas.microsoft.com/WMIConfig/2002/State" xmlns:xsi="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <ComputerName>%COMPUTERNAME%ComputerName>
</component>
```

## ボリュームIDの考慮事項

ボリュームIDはディスクパーティションに関連付けられており、OSイメージには関連付けられていません。イメージを適用する前に変更でき、変更は保持されます。使用してください。 volumeid.exe Sysinternalsから、利用可能です [マイクロソフトシステム内部ツール](#) Windowsが起動する前に。

## 展開手順

新しい仮想マシンをsyspreppedイメージから展開すると、Windowsは最初の起動時にOut-Of-Box Experience (OOBE)に入ります。これにより、設定の構成を促されます。

## 展開の推奨手順 :

1. **WinPEにブートする** – Windowsにブートせずにシステムを準備します。
2. **ボリュームIDを設定する** – 画像を適用する前に変更してください。そうすれば持続します。
3. **syspreppedイメージを展開する** – DISMを使用してイメージを適用します C: .
4. **コンピュータ名をオフラインに設定する** – マウントされたイメージ内のレジストリを編集します。
5. **コピーする Unattended.xml ファイル** – OOBE構成を自動化します。このファイルは、デプロイ前にスクリプトを使用して動的に変更できます。
6. **初回起動スクリプトを作成する** – 最終設定を1回の再起動で確実に行います。
7. **Windowsに再起動** – Windowsは指定された構成を使用して自動的に終了します。
8. **リモートアクセスライセンスのリセット** – 次のコマンドを実行してください:

ターミナルウィンドウ

```
AdminTool.exe /license /reset
```

これによりライセンスがリセットされ、新しいライセンスが適用されます。

## デプロイメントスクリプト

以下に関連するWinPE展開スクリプトを見つけてください。

ターミナルウィンドウ

```
<# Define variables #>
$ImagePath = "D:\Images\Windows.wim" # Path to your sysprepped image
$ApplyDrive = "C:" # Target drive for deployment
$ComputerName = "REMOTE ACCESS-SERVER-" + (Get-Random -Minimum 1000 -
Maximum 9999) # Generate a random name (naive implementation)
$VolumeID = "1234-ABCD" # Desired Volume Serial Number
$UnattendFile = "D:\Unattended.xml" # Path to the unattended answer file

Write-Host "=== Windows Deployment Automation ==="
```

```

<# 1. Set Volume ID before applying the image #>
Write-Host "Setting Volume ID..."
Start-Process -NoNewWindow -Wait -FilePath "volumeid.exe" -ArgumentList "$ApplyDrive
$VolumeID"

<# 2. Apply the Sysprepped Windows image #>
Write-Host "Applying Windows Image..."
dism /apply-image /imagefile:$ImagePath /index:1 /applydir:$ApplyDrive

<# 3. Load Registry Offline to Set Computer Name #>
Write-Host "Modifying Registry to Set Computer Name..."
reg load HKLM\TempSys $ApplyDrive\Windows\System32\Config\SYSTEM
reg add "HKLM\TempSys\ControlSet001\Control\ComputerName\ComputerName" /v
ComputerName /t REG_SZ /d "$ComputerName" /f
reg unload HKLM\TempSys

<# 4. Ensure Unattended Setup is Used #>
Write-Host "Copying Unattended File..."
Copy-Item -Path $UnattendFile -Destination "$ApplyDrive\Windows\Panther\Unattended.xml" -
Force

<# 5. Set the First Boot Script for Final Configurations #>
Write-Host "Creating First Boot Script..."
$FirstBootScript = @"
Write-Host "Finalizing Configuration..."
Rename-Computer -NewName "$ComputerName" -Force
Restart-Computer -Force
"@
Set-Content -Path "$ApplyDrive\Windows\Setup\Scripts\SetupComplete.cmd" -Value
$FirstBootScript -Encoding ASCII

Write-Host "Deployment Complete! Rebooting into Windows..."
Write-Host "======"
Write-Host " Computer Name: $ComputerName"
Write-Host " Volume ID: $VolumeID"
Write-Host " Image Applied to: $ApplyDrive"
Write-Host "======"

<# Reboot into Windows #>
wpeutil reboot

```

# ライセンスのアクティベーション

展開後、ライセンスをアクティブにすると、仮想マシンの新しいコンピュータIDが生成されます。このコンピュータIDは、マシンがトライアルまたはライセンスのアクティベーションを要求したときにライセンスポータルによって作成されます。クローンされた仮想マシンの場合、ライセンスのアクティベーションは必須です。アクティベーションキーまたはボリュームライセンスキーのいずれかを使用してください。 **オフラインセットアップは許可されていません**。セキュリティ上の懸念から。詳細なアクティベーション手順については、参照してください。

[TSplus コマンド一覧](#) .

## 結論

このガイドは、TSplus Remote Accessを使用してクローン仮想マシンを展開する際の重要な考慮事項を概説しています。システムを正しく構成しライセンスを取得するための基本的な手順を提供し、あなたのニーズと要件に合わせて調整する必要があります。

# ウェブサーバーを複数のネットワークカードにバインドする方法

## 概要

いくつかのユースケースでは、サーバーが複数の異なるネットワークに属している場合など、Terminal Service Plusウェブサーバーが1つ以上のネットワークカードでリッスンする必要があるかもしれません。

この機能はこの特定のニーズに応えます。

## 複数のネットワークカードにWebサーバーをバインドする

複数のネットワークカードにTerminal Service Plusウェブサーバーをバインドするには、次の手順が必要です。

- 「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webserver」フォルダーに「settings.bin」ファイルを作成します。
- 次の行を追加して、バインドしたいすべてのネットワークカードのローカルIPアドレスをすべて記入してください。例えば：  
  
`bind_nic="127.0.0.3","127.0.0.4"`
- ウェブサーバーを再起動します ( AdminTool > Web > ウェブサーバーの再起動 ) 変更を適用するために

Terminal Service Plusのウェブサーバーは、すべてのバインドされたネットワークカードからのすべてのクエリをリッスンするようになります ( 私たちの例では、バインディングは 127.0.0.3、127.0.0.4、および127.0.0.1に自動的に行われます )。



# カスタムHTTPヘッダーの追加方法

## 前提条件

この機能は非常に技術的であり、このドキュメントは技術専門家のみを対象としています。

HTTPプロトコルおよびHTTPヘッダーに精通している必要があります。

## 概要

一部のユースケースでは、Terminal Service Plusウェブサーバーが標準のHTTPヘッダーに加えて、1つ以上のカスタムHTTPヘッダーを返す必要がある場合があります。

この機能はこの特定のニーズに応えます。

## カスタムHTTPヘッダーの設定

独自のカスタムHTTPヘッダーを追加するには、次の手順が必要です。

- 「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webserver」フォルダーに「headers.bin」ファイルを作成します。
- カスタムヘッダーを改行で区切って追加してください。例えば、ケース: header1=X-Frame-Options
- ウェブサーバーを再起動します ( AdminTool > Web > ウェブサーバーの再起動 ) 変更を適用するために

Terminal Service Plusサーバーは、標準のHTTPヘッダーに加えて、このカスタムHTTPヘッダーで全てのクエリに応答するようになります。

# HTMLページとカスタマイズ

提供されたHTMLページは、NotepadやNotepad++を使用して編集し、ユーザーインターフェースをカスタマイズできます。

## index.html ページ

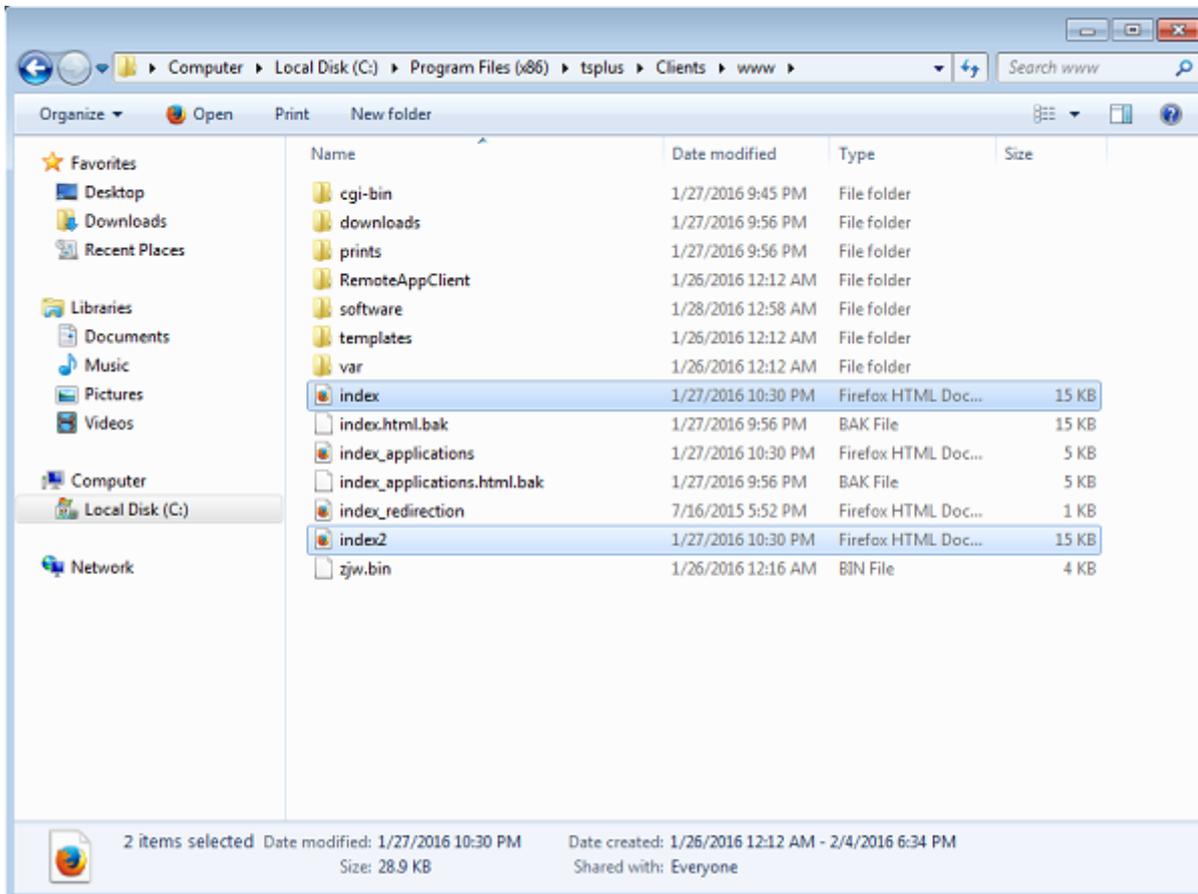
index.htmlはWebサーバーのルートフォルダパスにあります。

C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www

Index.htmlページはデフォルトのウェブページです。接続ページへのリンクが含まれたフロントエンドポータルページのようなものです。接続ページは\www\フォルダにあります。

このウェブページは、複数の設定および/またはログオン情報を許可するためにコピーして名前を変更できます。

例えば、index.htmlをコピーしてindex2.htmlに名前を変更しましょう。このページはこのURLを使用して利用可能になります。 <http://localhost/index2.html>



注意してください。「index.html」ファイル名を「index2.html」に変更し、Web Applications Portalを使用している場合は、このファイル内の次の変数を変更する必要があります：  
「page\_configuration["applications\_portal"] = "index\_applications.html"」を  
「index2\_applications.html」に変更し、「index\_applications.html」ファイルの名前を  
「index\_2applications.html」に変更します。

デフォルトのindex.htmlには、すべての可能なオプションが含まれています。

- アプリケーションへのRemoteAppアクセス、Webブラウザ外の接続
- HTML5を使用した任意のデバイスからの接続
- ローカル印刷設定

WebタブのWebポータル設定タイルのWebポータルデザイン機能で、ヘッダーとフッターを変更できるようになります。

index.htmlウェブページを編集することで、さまざまな設定にアクセスできます。

// ----- アクセス設定 -----

```
var user = "";
```

// リモートサーバーに接続する際に使用するログイン ( このページに入力されたログインを使用するには""のままにしてください )

```
var pass = "";
```

// リモートサーバーに接続する際に使用するパスワード ( このページに入力されたパスワードを使用するには""のままにしてください )

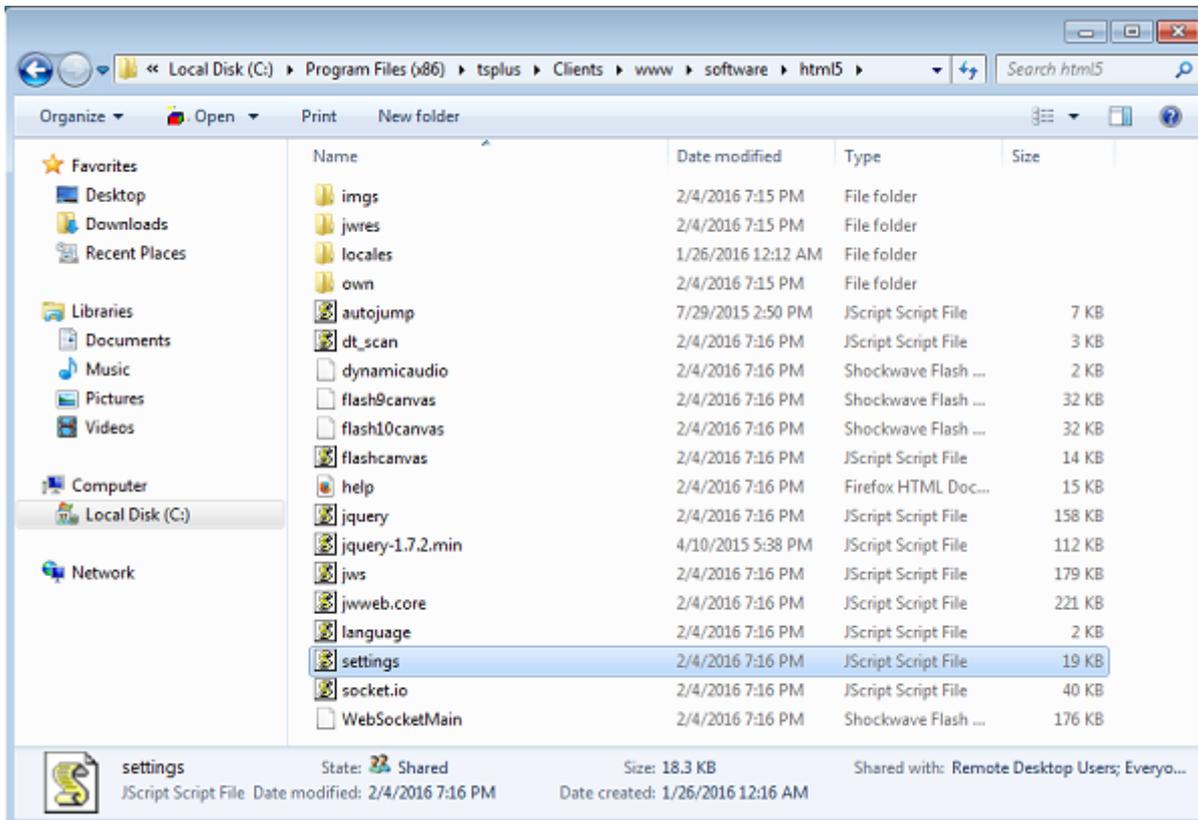
```
var domain = ""; // リモートサーバーに接続する際に使用するドメイン ( この  
ページに入力されたドメインを使用するには""のままにしてください )  
  
var server = "127.0.0.1"; // 接続するサーバー ( このページで選択したサーバーを使用するに  
は""のままにしてください )  
  
var port = ""; // 接続するポート ( ""のままにしておく、localhostおよびこの  
ページで選択したサーバーのポートを使用します )  
  
var lang = "as_browser"; // 使用する言語  
  
var serverhtml5 = "127.0.0.1"; // HTML5クライアントを使用する際に接続するサーバー  
  
var porthtml5 = "3389"; // HTML5クライアントを使用する際に接続するポート  
  
var cmdline = ""; // 接続後にサーバーのクリップボードに入るオプションのテキ  
スト  
  
// ----- アクセス設定の終了 -----
```

例えば、デモ/Pswをログイン/パスワードとして設定します。

```
var user = "デモ"; var pass = "パスワード";
```

ポータル各訪問時に、事前に入力された認証情報が表示されます。

別の非常に重要な設定ファイルは **settings.js** C:\Program Files  
(x86)\TSplus\Clients\www\software\html5:



このファイルには、音声の無効化、クリップボードの使用、ブラウザタブが閉じられた場合のセッション再接続の許可など、HTML5ウェブクライアントのさまざまな設定が含まれています。

- クリップボードを無効にする:

```
W.clipboard = "はい"; //または "いいえ"
```

- 音を無効にするには、この設定を使用します。

```
W.playsound = false;
```

- モバイルデバイスのデフォルト解像度を変更する:

```
W.viewportwidth = "1024" - 高さはブラウザによって計算されます。
```

- リモート接続のためのHTTPS強制

```
W.forcealways_ssl = true;
```

- ブラウザタブが閉じられたときのセッション再接続を許可する:

```
W.send_logoff = false;
```

- ブラウザタブを閉じるのを防ぐための警告ポップアップを追加すること:

“W.pageUnloadMessage = "" ” パラメータを検索します。

以下に使用するメッセージの例を設定しました：

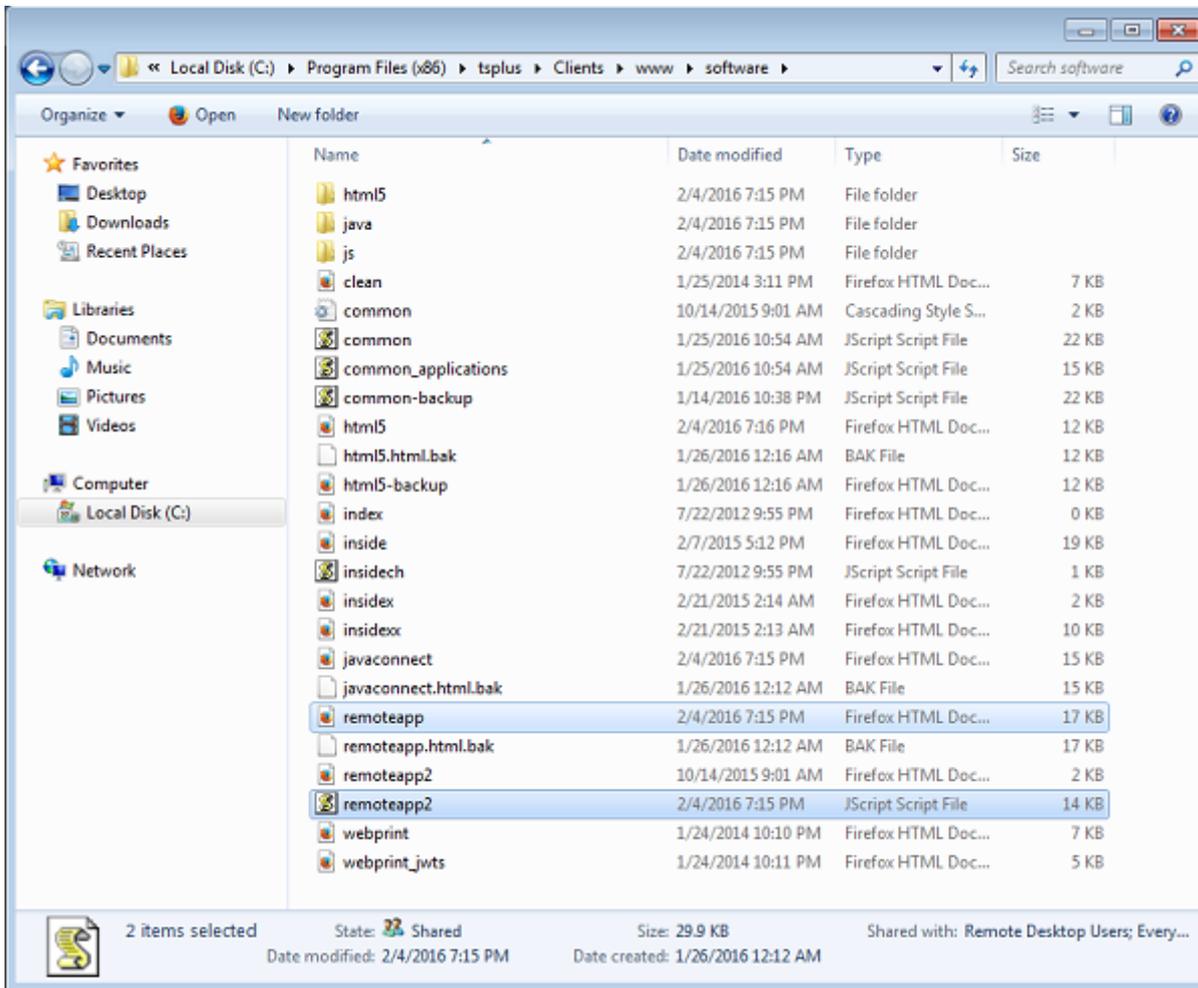
W.pageUnloadMessage = “このタブを閉じるとリモートセッションが切断されますが、よろしいですか?”; //ページがアンロードされる時に返されるダイアログ。

//1. 重要なお知らせ、独自のダイアログはすべてのブラウザでサポートされていません。

//2. HTML標準はページのリフレッシュとページの閉じるアクションを区別しないため、ページのリフレッシュ時にもダイアログがポップアップします。



リモートアプリのウェブページの一般設定は、ソフトウェアフォルダー内の2つの異なるファイルに保存されています。 **remoteapp.html** そして **remoteapp2.js** .



利用可能な設定の例が存在します **remoteapp2.js** :

```
// リモートデスクトップサーバー
```

```
var remoteapp2_server = ”; var remoteapp2_port = ‘443’;
```

```
// Windows 認証
```

```
var remoteapp2_user = ”; var remoteapp2_psw = ”; var remoteapp2_domain = ”;
```

```
// オプションのコマンドラインパラメータ
```

```
var remoteapp2_apppath = ”;
```

```
// RemoteApp モード
```

```
var remoteapp2_wallp = ‘緑’; var remoteapp2_remoteapp = ‘オン’;
```

```
// スクリーン
```

```
var remoteapp2_color = ‘32’;
```

```
var remoteapp2_full = '2';

var remoteapp2_width = ”;

var remoteapp2_height = ”;

var remoteapp2_scale = '100';

var remoteapp2_smartsizing = '1';

var remoteapp2_dualscreen = 'オフ';

var remoteapp2_span = 'オフ';

ディスクのマッピング ( 印刷に必要 )

var remoteapp2_disk = '1';

// 印刷

var remoteapp2_printer = 'オフ';

var remoteapp2_preview = 'オフ';

var remoteapp2_default = 'オン';

var remoteapp2_select = 'オフ';

// ハードウェア

var remoteapp2_com = '0';

var remoteapp2_smartcard = '0';

var remoteapp2_serial = 'オフ';

var remoteapp2_usb = 'オフ';

var remoteapp2_sound = 'オン';

var remoteapp2_directx = 'オフ';

// 雑多な事項

var remoteapp2_alttab = '0';

var remoteapp2_firewall = '1';
```

```
var remoteapp2_localtb = '32';
```

```
var remoteapp2_lock = 'オフ';
```

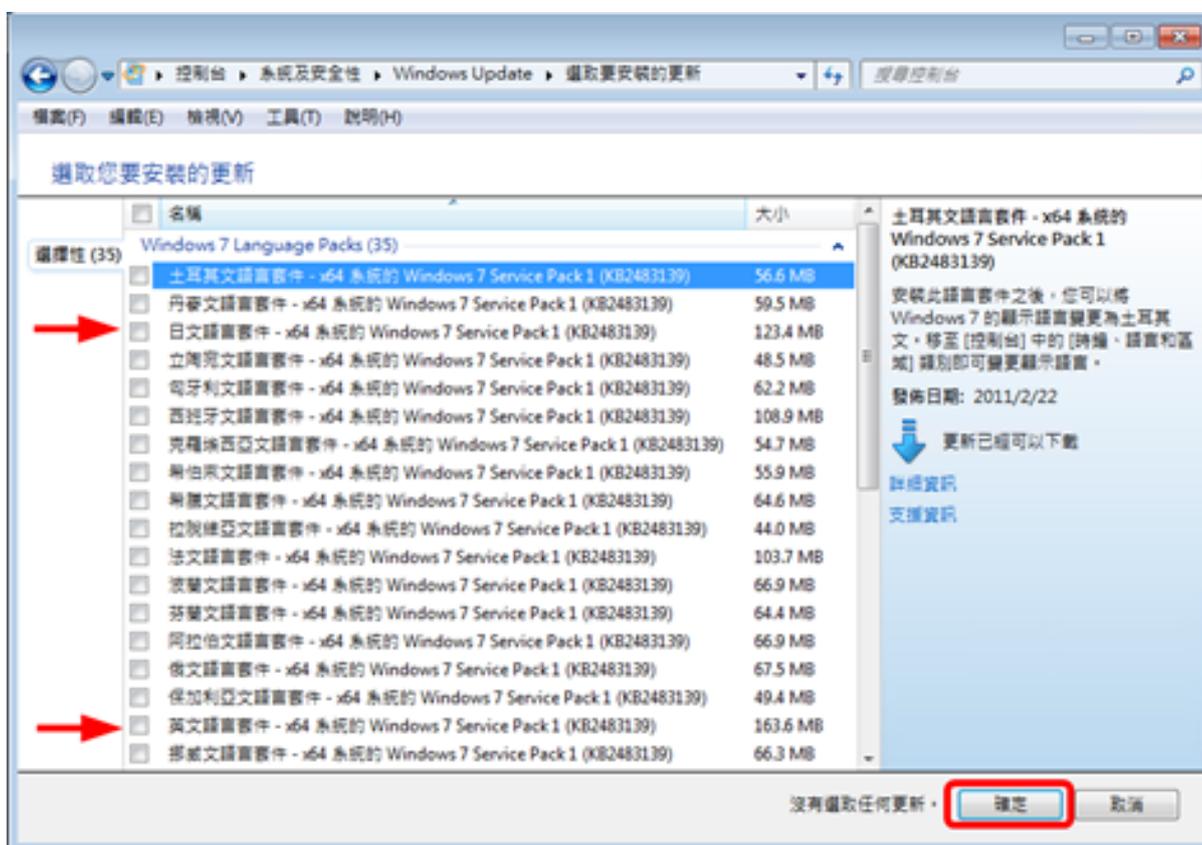
```
var remoteapp2_rdp5 = 'オフ';
```

```
var remoteapp2_reset = 'オフ';
```

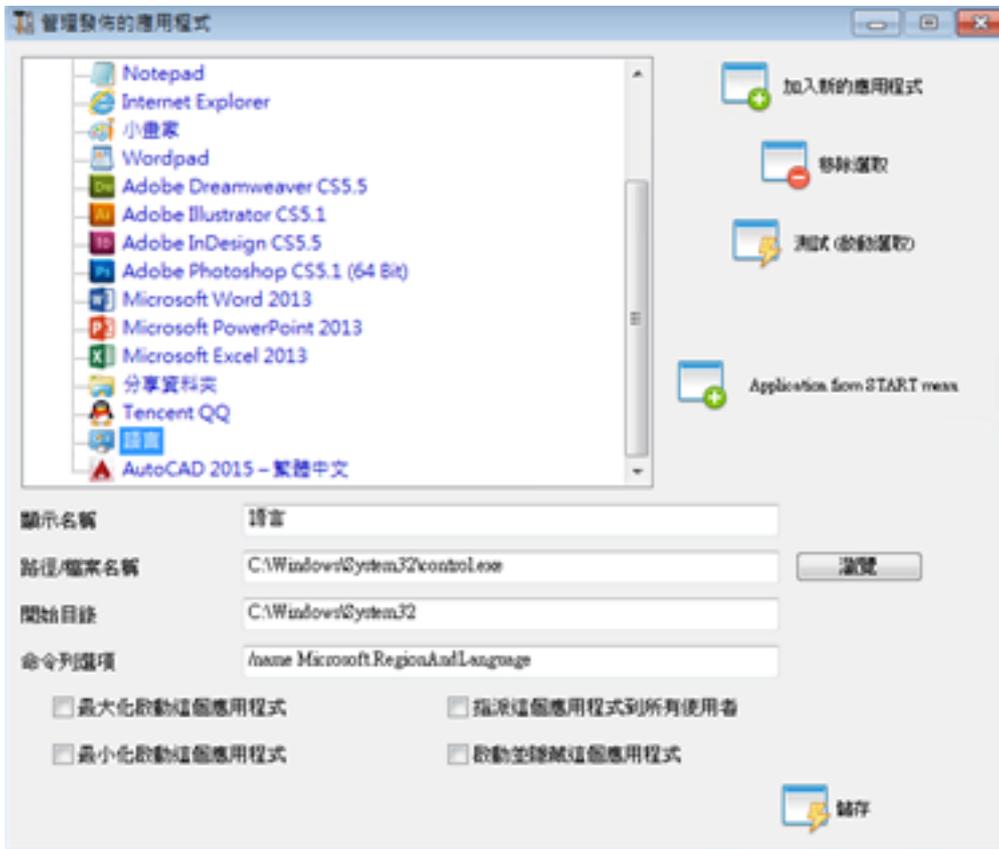
# HTML5 : 中国語に言語を変更する

Windows 7 EnterpriseまたはUltimate / Windows 8 EnterpriseまたはProfessionalが必要です。1つのシステムで多言語を使用するには。

システムに必要なすべての言語をインストールできます。



ユーザーが自分のO/SのUI言語を変更し、IME ( 入力メソッドエディタ ) を追加できる言語アプレットを公開することができます。

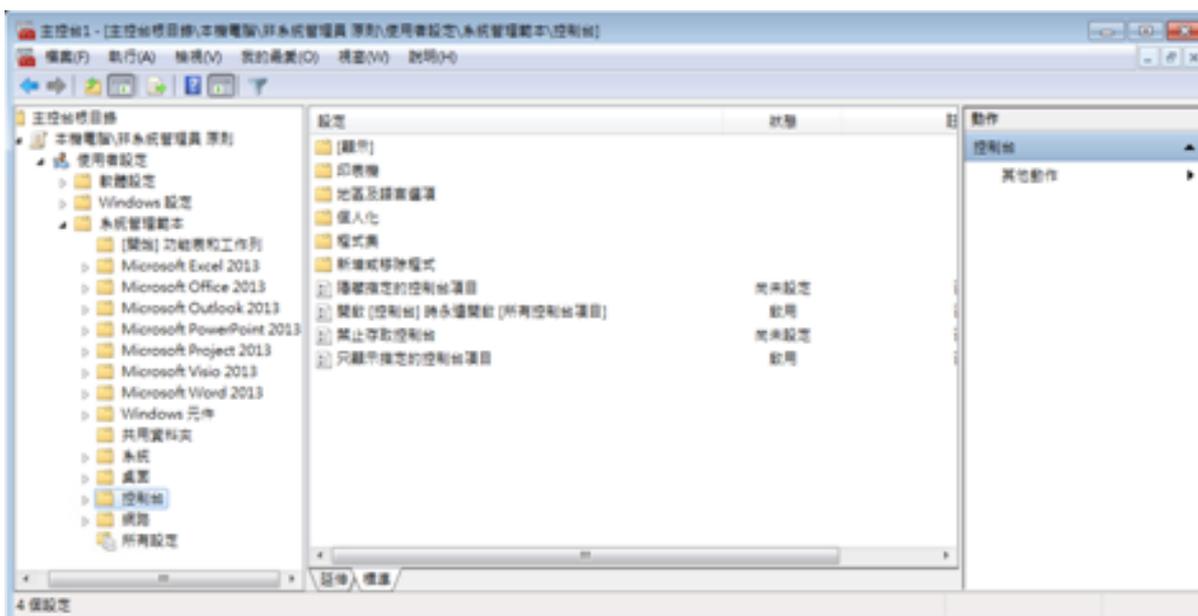


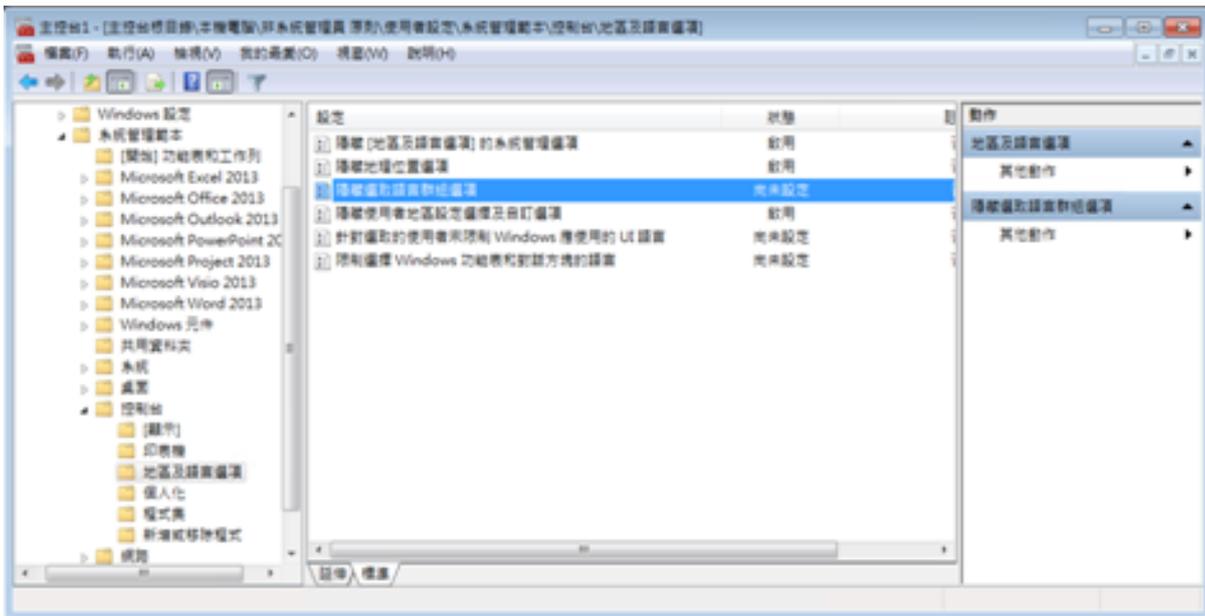
Windows 7の場合: control /name Microsoft.RegionAndLanguage

Windows 8の場合: control /name Microsoft.Language

完全なリスト : <http://pcsupport.about.com/od/tipstricks/tp/control-panel-applets-list.htm>

オプション : これはGPOによってユーザーのコントロールパネルの動作を制限する方法です :

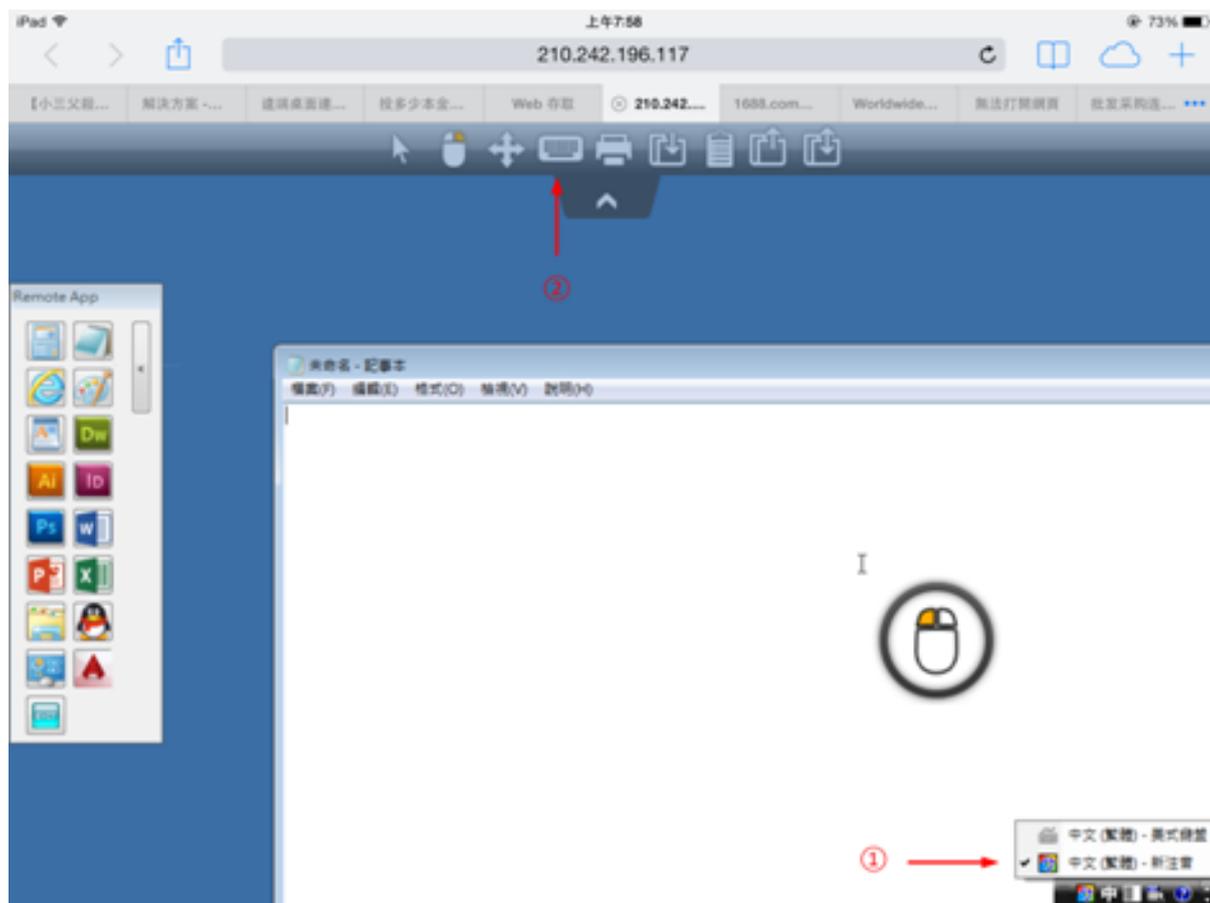




ユーザーはログオンシステム後にUIのO/S言語を変更できます。(この設定を変更した後、効果を得るためにはユーザーは再度ログアウトしてログオンする必要があります。)



ユーザーは最初に中国語IMEを選択して中国語の文字を入力する必要があります。





# HTML5クライアント : WebsocketsとXHRの違いは何ですか？

Websocketsは、順序を問わず、httpヘッダーなしでデータを受信/送信するために使用できる持続的な接続です。

Xhrポーリングは新しいリクエストをhttpヘッダーで作成し、httpヘッダーでの回答を待ちます。また、順次の順序です。

そうすることで、XHRデータフローは常に次のようになります：

HTTP\_HEADER\_REQUEST -> HTTP\_HEADER\_ANSWER HTTP\_HEADER\_REQUEST -> HTTP\_HEADER\_ANSWER and so on

データをダウンロードする前に、HTTP\_HEADERでリクエストする必要があります。そのため、名前はxhr-pollingです。

Websocketsデータフローは次のように見える場合があります：

FRAME\_DATA\_SEND FRAME\_DATA\_SEND FRAME\_DATA\_RECEIVE FRAME\_DATA\_SEND  
FRAME\_DATA\_RECEIVE FRAME\_DATA\_RECEIVE

特別な順序やHTTPヘッダーデータなしで、ランダムなデータの送受信でもあります。

それにより、ほとんどの知られているリバースプロキシがWebsocketsをサポートしていないため、リバースプロキシとの使用が不可能になります。ただし、xhrトランスポートの半分はApacheリバースプロキシで動作する可能性があります。

またご覧ください: [HTML5クライアント : サポートされているブラウザ](#)

# HTML5クライアント：モバイルデバイスでのRDPセッション解像度

ほとんどのデバイス、特に携帯電話の一般的な画面解像度は320x480ですが、それではRDPセッションを作成するには明らかに不十分です。

したがって、解像度は幅800にプリセットされました。解像度の高さは、隠れたブラウザのネイティブロジックによって再計算されます。幅が大きいほど、高さも大きくなります。

- 例として、標準解像度は320x480ですが、ビューポートを800に設定すると、ブラウザは高さの値を800x904に再計算します。幅を1280に設定すると、1280x1160になります。

デバイスの横向き/縦向き表示に応じて、高さとは幅は異なります。例えば、800x904や904x800などです。各ブラウザは、rdp画面をデバイスのビューポートに合わせるために独自のロジックで再計算することができ、同じデバイスで使用していてもブラウザによって異なる場合があります。

手動で高さを設定すると、デバイスのビューポート比率が崩れ、最終的なRDPセッションがポートビューの外に出てしまいます。そのため、これらの領域に到達するには、希望する位置までスクロールする必要があります。

- したがって、高さを手動で設定せず、デバイスに自動的に高さを選択させることをお勧めします。

高さがもっと必要な場合は、幅を増やしてください！

モバイルフォンデバイスでテストしたところ、幅の良い値は800でした。ただし、注意が必要です：ほとんどのモバイルフォンのCPUは通常遅いため、高さを増やすとCPUの負荷が増加します。タブレットデバイスではCPUが速いため、幅を1280のような高い値に設定し、デバイスに高さの値を再計算させることをお勧めします。

一部のブラウザ ( FireFoxモバイルなど ) がページ読み込み後にビューポートの設定を許可しないため、この値はClients\www\software\html5.htmlファイルに固定されました。

例えば、これを変更してください:

幅を増やし、同時にブラウザのネイティブ内部ロジックによって高さを再計算します。

第二の例として、これを次のように変更します：

ビューポートエリアが壊れ、RDPセッションが画面に収まらなくなります。

# HTML5クライアント：URLアドレスのパラメータ

リモートサーバーに接続するためにTerminal Service Plus HTML5クライアントを使用する際、デフォルトのパラメータを上書きするために、URLアドレスにいくつかのパラメータを指定できます。

- ユーザーログイン
- ユーザーパスワード
- プログラムを実行する
- プログラムを実行するためのスタートアップディレクトリ
- プログラムを実行するためのコマンドライン

## 特定のアプリケーションを実行する

ユーザー「demo」のリモートセッションを開くための完全なURLアドレスの例です。パスワードは「demo」で、セッション開始時に標準のメモ帳を起動します。

<https://demo.tsplus.net/software/html5.html?user=demo&pwd=demo&program=c:\\windows\\system32\\notepad.exe&startupdir=c:\\windows\\system32&ms=>

URLアドレスでは、すべてのスラッシュ文字を繰り返す必要があることに注意してください。  
4回

すべてのパラメータを同時に指定する必要はありません。指定されていないパラメータは、デフォルトの設定値が適用されます。

## Web資格情報で接続する

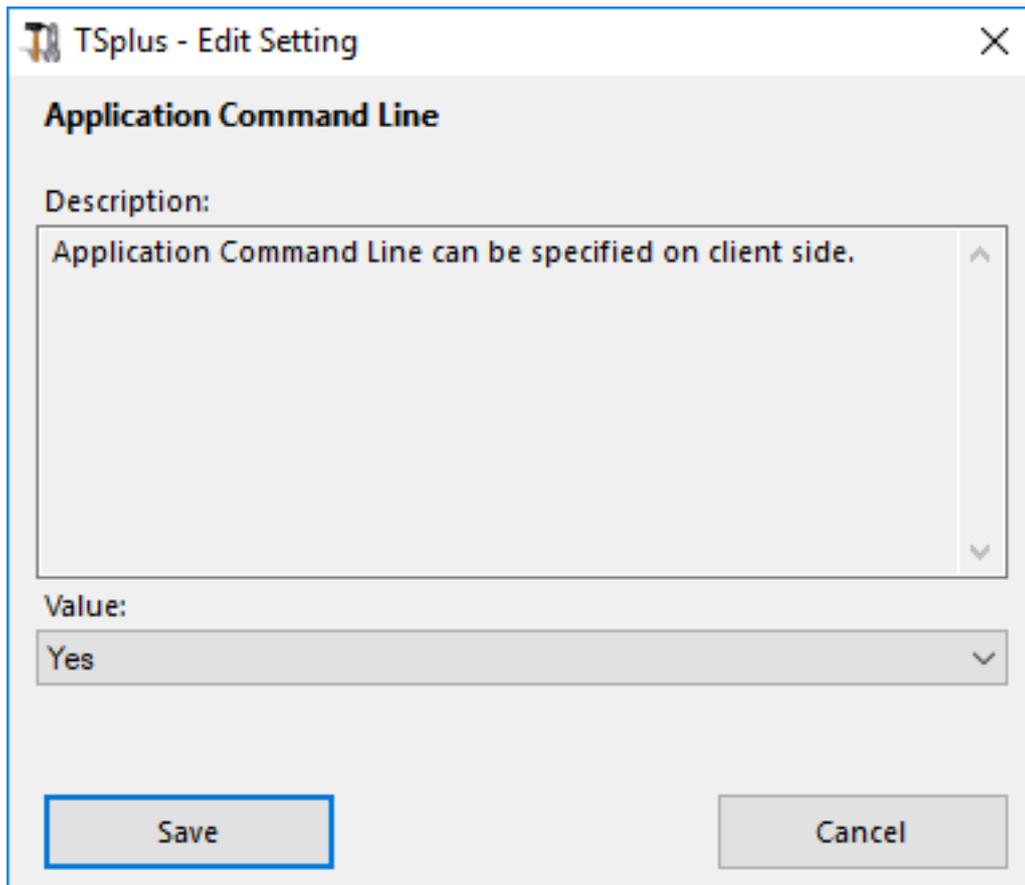
使用したい場合は [ウェブ認証](#) 接続するには、Webログインの前に「@」を追加してURLに渡すことができます。

ここに、パスワード「demo」を使用してWeb資格情報「1234」のアプリケーションパネルでリモートセッションを開くためのURLアドレスの例があります。

<https://demo.tsplus.net/software/html5.html?user=@1234&pwd=demo>

## この使用をユーザーのデフォルトアプリケーションに制限します

ユーザーのためにアプリケーションコマンドラインを無効にするには、次の場所に移動します。 [セッションタブ](#) AdminToolの「アプリケーションコマンドライン」設定をダブルクリックし、値を「いいえ」に設定します。



TSplus - Edit Setting

### Application Command Line

Description:

Application Command Line can be specified on client side.

Value:

Yes

Save Cancel

# HTML5クライアント：サポートされているブラウザ

## HTML5クライアントを使用して起動時にブラウザが赤い警告を表示する場合

あなたのブラウザがWebsocketsをサポートしていないか、ブラウザがCanvasをサポートしていないことを意味します。

これらの技術をサポートしていないブラウザは、IE6、IE7、IE8、IE9であり、これらの機能をエミュレートするためにFLASHが必要です。

## WebsocketとCanvasをサポートしているブラウザ

ブラウザ	キャンバス	ウェブソケット
ファイアフォックス	フル	バージョン4から始まる完全な
クローム	フル	PCの最も知られているバージョンでのフル
オペラ	フル	最新バージョンでの完全版
IE6	フラッシュ	フラッシュ (エミュレートされたおよびプロキシサポートなし)
	フラッシュ	プロキシサポート付きXHR
IE7	フラッシュ	フラッシュ (エミュレートされたおよびプロキシサポートなし)
	フラッシュ	プロキシサポート付きXHR
IE8	フラッシュ	フラッシュ (エミュレートされたおよびプロキシサポートなし)
	フラッシュ	プロキシサポート付きXHR

IE9	フラッシュ	フラッシュ ( エミュレートされたおよびプロキシサポートなし )
	フラッシュ	プロキシサポート付きXHR
IE10	フル	フル
Androidネイティブ	フル	XHR
オペラモバイル	フル	最新バージョンでの完全版
Firefoxモバイル	フル	フル
サファリモバイル	フル	最新バージョンのiOS4では完全に動作し、それ以外はXHRを介してエミュレートされます。

またご覧ください: [ウェブソケットとXHRの違いは何ですか？](#)

## ブラウザが自動的にページをHTTPSアドレスにリロードする場合

Websocketsのトランスポートはサポートされていないことを意味します。これは、いくつかのAndroidネイティブモバイルブラウザでのケースです。

ブラウザが自動的にXHRトランスポートに切り替わるためです。

しかし、このトランスポートはHTTPプロトコルで長距離にわたって行われるため、各リクエストは新しい接続を作成します。新しい接続を作成するのは非常に遅く、不安定です ( 1秒あたり最大20の新しい接続 )。したがって、この不安定さを避けるために、プログラムはページが自動的にHTTPSアドレスにリロードされてHTTPS接続を強制するように設計されています。

物理的には、主に持続的な安全な接続を得ることができ、長距離でもはるかに安定しています。したがって、ブラウザのロジックは、HTTPプロトコルを使用して新しい接続を作成するのではなく、すでに確立されたSSL接続を再利用します。

この動作は、次のオプションによって変更できます。TSplusプログラムフォルダー内のこのパスにある設定.jsファイル : Clients\www\software\html5\settings.js:

```
forcesslforxhr = false;
```

しかし、XHRモードでのSSLの使用を無効にすることは絶対に推奨されません。

\* 「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\software\html5」フォルダーに「settings.js」という名前のファイルがない場合、あなたのTSplusバージョンは古く、このドキュメントは適用されません。まずシステムを更新するか、サポートに連絡してください。\*

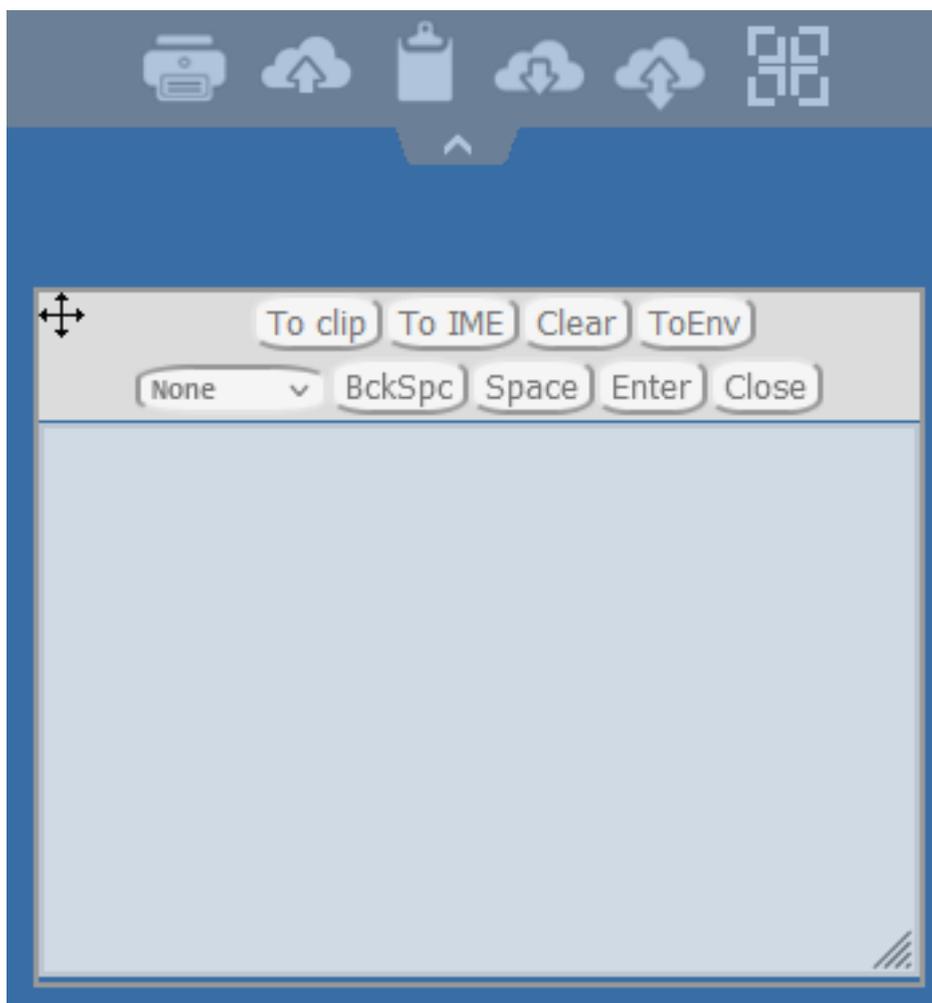


# HTML5クライアント：クリップボードの使用

クリップボードはHTML5のトップメニューにあり、このアイコンがあります。



ほとんどのブラウザは、セキュリティ上の理由から古いMSIEブラウザを除いて、クリップボードの直接読み取りおよび書き込みをサポートしていません。



## さまざまなアクションは次のとおりです:

- **クリップする** RDPセッションにテキストエリアの内容を送信し、テキストをRDPセッション内に挿入するためにCtrl+Vを実行します ( あなたの環境には影響しません!!! )
- **IMEに行く** テキストエリアから文字をキー入力に変換し、キーボードを使用したかのように送信します。 ( このボタンは、RDPセッションアプリ内でクリップボードのテキスト入力がサポートされていない場所にテキストを配置したい場合に必要です。 )
- **ToEnv** テキストエリアから自分のブラウザの外 ( RDPセッションではなく、自分の環境に ) クリップボードにテキストをコピーしようとします ( !! ) 自分のクリップボードにテキストを追加することは特権的なアクションであるため、クリックによって実行する必要があります。
- **クリップする** RDP-クリップボードへのテキストの挿入とCtrl/Vアクションを処理するために、セキュリティ上の理由から自分のブラウザの外にテキストを追加しないようにするため、実際に望まない場合に自分のクリップボードにテキストを入れるのは非常に愚かであるため、「ToEnv」を使用します。この動作はそのまま維持され、変更されることはありません。
- **バックスペース** RDPセッションにBACKSPACEボタンコマンドを送信します ( あなたのアプリはフォーカスされていて、Backspaceボタンのアクションをサポートしている必要があります )
- **スペース** RDPセッションに送信するスペースボタンコマンド ( あなたのアプリはフォーカスされていて、スペースボタンアクションをサポートする必要があります )
- **エンター** RDPセッションにEnterボタンコマンドを送信します ( アプリがフォーカスされていて、Enterボタンアクションをサポートしている必要があります )

セッションからテキストをクリップボードにコピーするには Ctrl+C を使用し、クリップボードからテキストを挿入するには Ctrl+V を使用します。

ただし、Ctrl+Cでテキストをコピーする際は注意してください。Ctrl+Cボタンを押したまましばらく待ってから放してください。要求されたクリップボードのテキストがこのキーの組み合わせを放した後に到着すると、そのテキストは環境のクリップボードに追加されません。この方法は、Ctrl+Cによって開始されたネイティブブラウザのクリップボードコピーサポートを使用し

ます。

代わりにあなたは クリップボードメニューを使用してください RDPセッションのクリップボードにテキストをコピーおよび挿入するため。

ここでは、テキストをRDPセッションのクリップボードに挿入するか、クリップボードに追加してRDPセッション側でCtrl+Cを自動的に実行してテキストを挿入できます。クリップボードメニューは、アクションメニューまたはShift + F11を介して開くことができます。

- RDPセッション内でマウスを使ってクリップボードをコピーすると、テキストがブラウザに送信され、ブラウザのフォーカスを外すと、クリップボードメニューが自動的に表示され、クリップボードにテキストがあったことと、それをクリップボード環境に追加しなかったことを通知します。

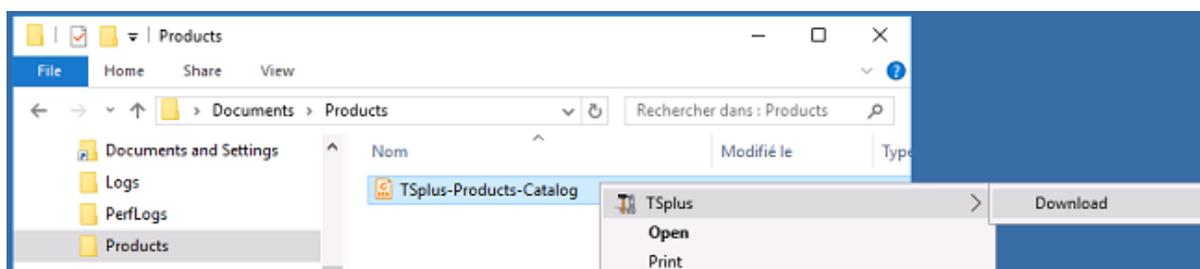
この動作を回避するには、クライアントフォルダーに次の行を設定してください。デフォルトでは、パスは次のとおりです : C:\Program Files(x86)\tsplus\Clients\www\software\html5\settings.js

```
openonclipblur = false;
```

\* 「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\software\html5」フォルダーに「settings.js」という名前のファイルがない場合、あなたのTSplusバージョンは古く、このドキュメントは適用されません。まずシステムを更新するか、サポートに連絡してください。\*

# HTML5クライアント：ファイル転送の使用

ファイル転送は、TSplusで複数の方法で行うことができます：バージョン12.50以降、サーバーからローカルPCにファイルをダウンロードするためのコンテキストメニューが利用可能です。



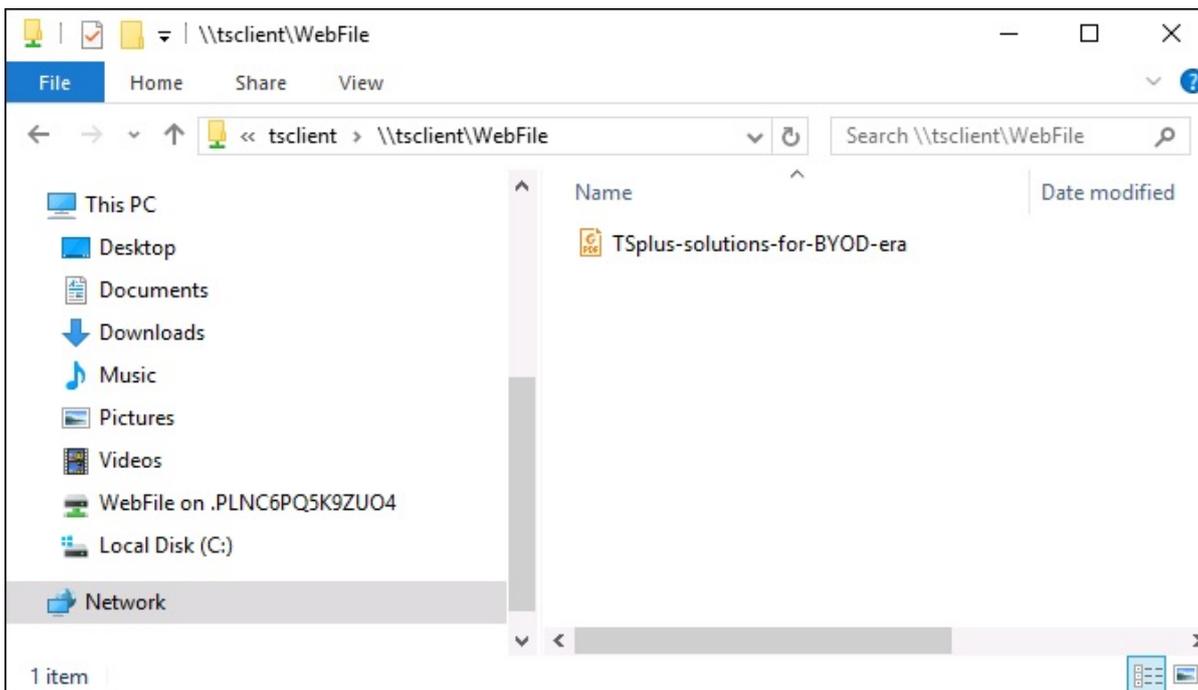
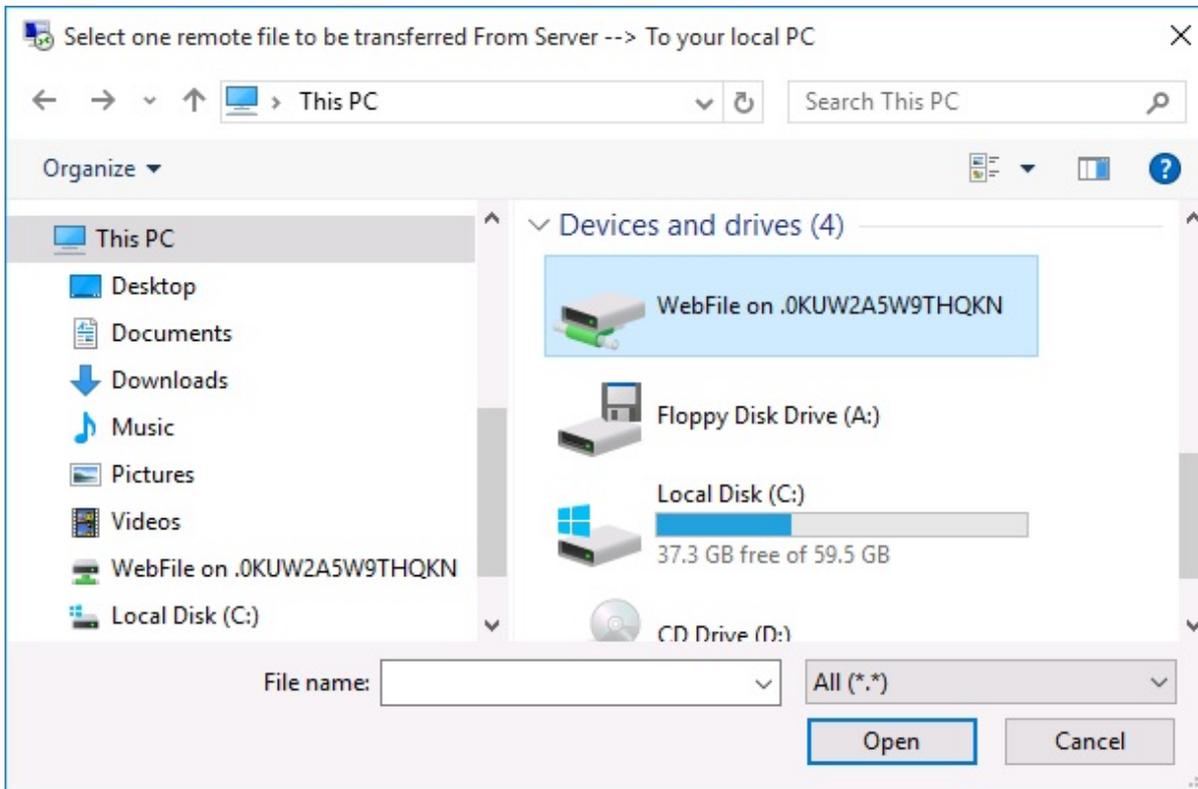
詳細情報は次の場所で見つけることができます [このドキュメント](#)。

**ファイル転送のための上部メニューを使用しています。**



実際のRDPセッションとは異なり、ブラウザはハードドライブに直接アクセスすることを許可せず、ファイル転送はエミュレートされています。

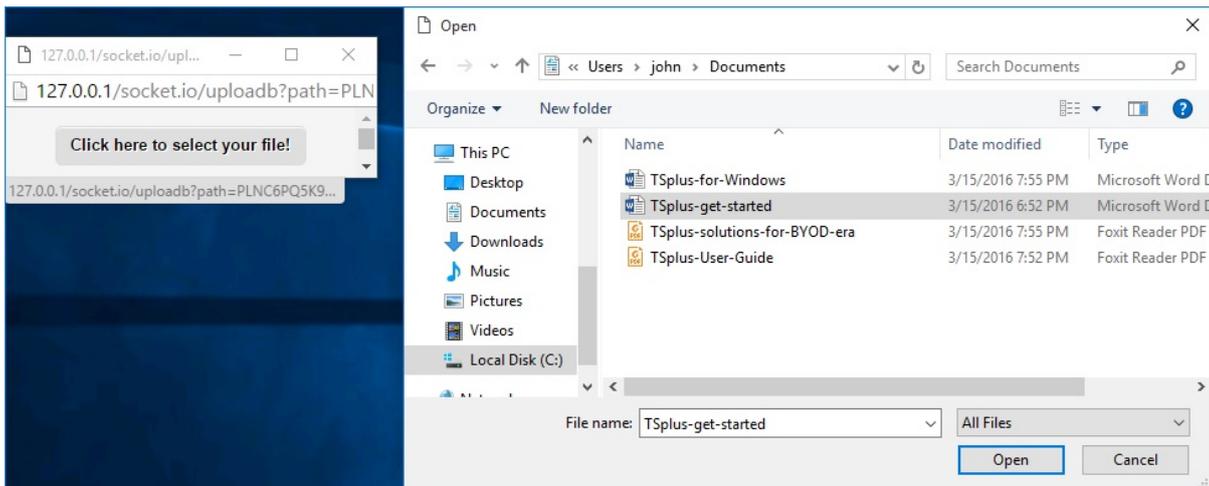
ゲートウェイのサブフォルダーは、RDPセッション内でWebFileデバイスとしてマウントされます。RDPセッション内では、「WebFile」をクリックするか、「\\tsclient\WebFile」を直接呼び出すことでアクセスできます。



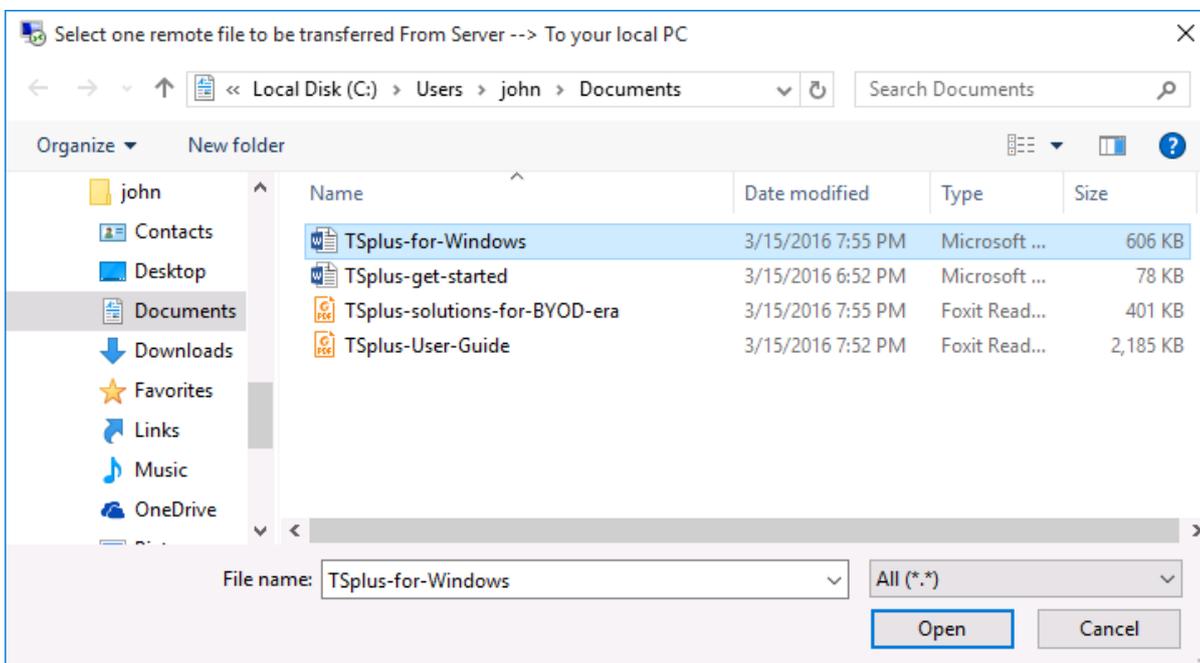
ファイルを転送するための3つの異なる可能性があります：

- ローカルコンピュータからサーバーへ：

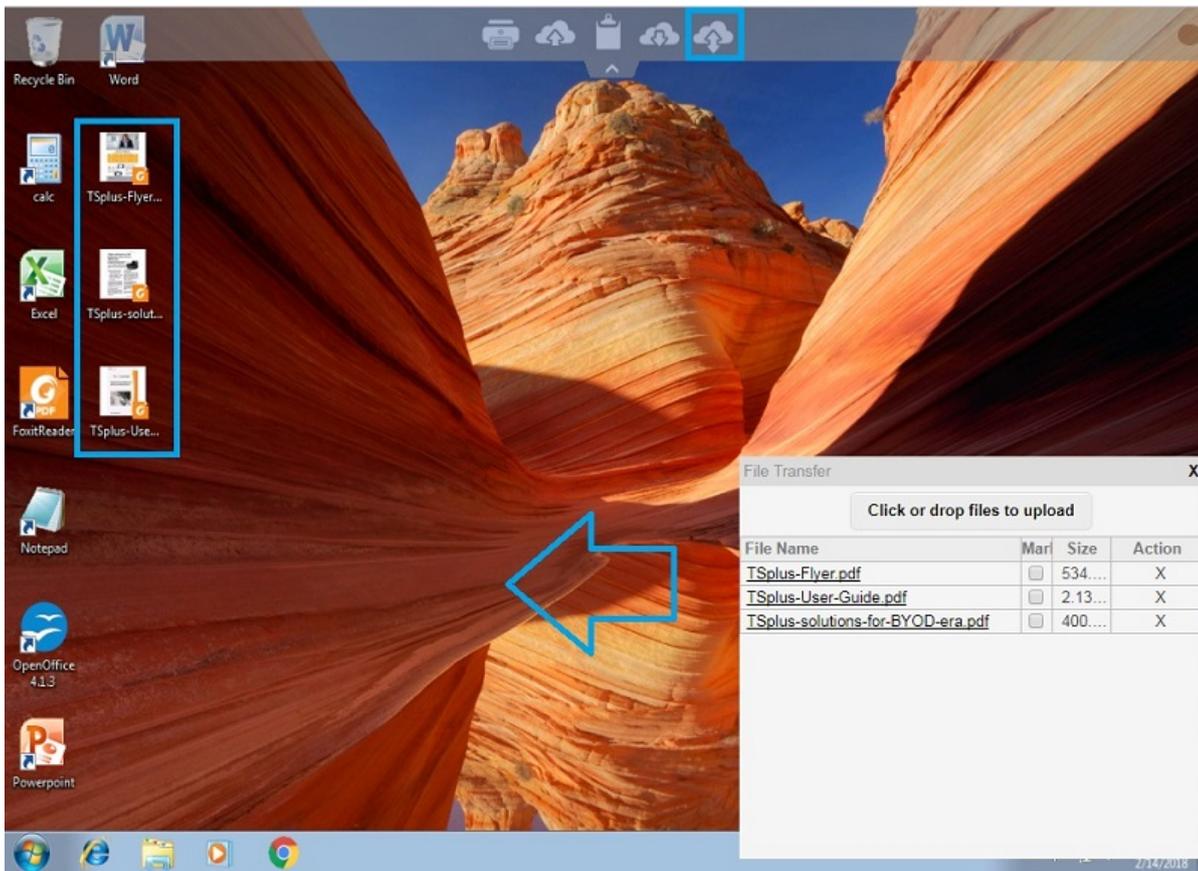




- サーバーからローカルコンピューターへ:

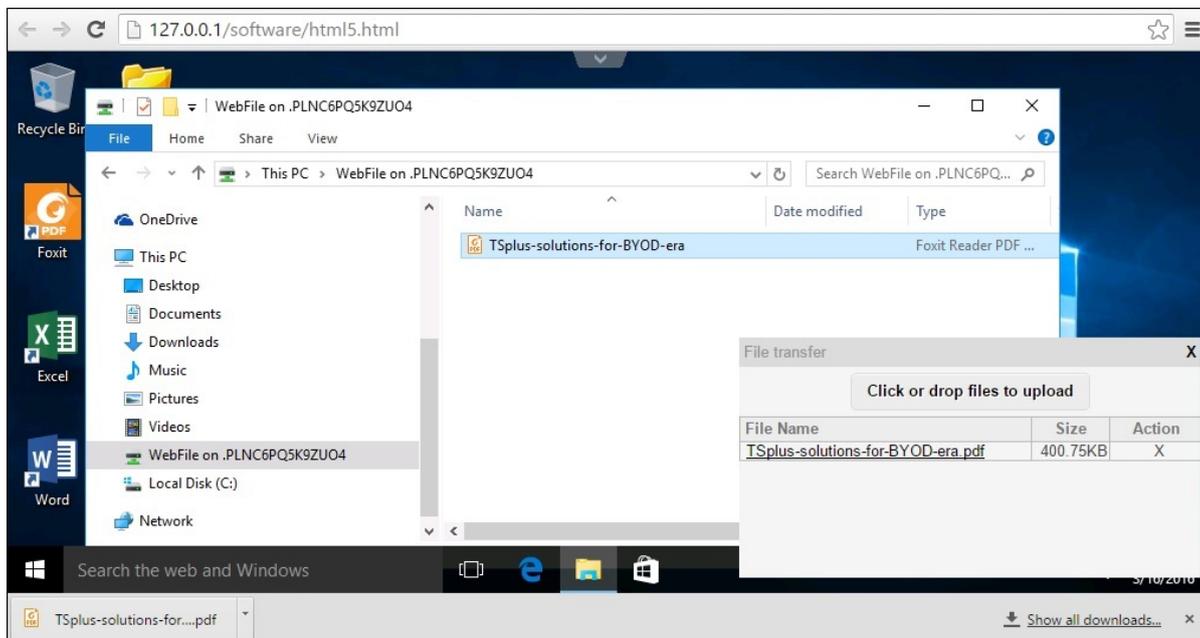


- ローカルコンピューターからサーバーにファイルを転送できるファイルマネージャーで、転送されたファイルの履歴があります。



ブラウザ側では、ファイルがブラウザのリストメニュー内に表示されます。アクションメニューまたは Shift + F12 で開くことができます。

- Explorerを使用してWebFileフォルダーにファイルをコピーすると、これによりWebFileフォルダー内の新しいファイルの作成に関するイベントが自動的にトリガーされ、ブラウザメニューが自動的に開いたり更新されたりして新しいファイルを表示します。



カスタムフォルダーを使用する場合は、このフォルダーがクライアントとサーバーの両方に存在することを確認してください。アップロード/ダウンロードの宛先フォルダーは、管理ツールのWebタブにあるWebポータルの設定タイトルで設定できます。

# Preferences

Default Values

Login:

Password:

Domain:

Show the Domain field     Remember last login

Advanced

Keyboard:

Access Type

Available Clients:  HTML5 (iPad, iPhone, Android devices, computers)  
 RemoteApp (Windows PCs)

Gateway Portal:  Generate a Gateway Portal enabled Web Page

Upload: Folder to select files.

User Desktop (default)  
 My Documents  
 WebFile folder  
 Custom folder:

Folder path from where the user will select files to be uploaded.

Download: Folder for all received files

User Desktop (default)  
 My Documents  
 WebFile folder  
 Custom folder:

Folder where all downloaded files will be stored on the Server.

Downloaded files from the users PC will be stored in the specified folder.  
(Drag/Drop from the user PC, Download button or File Transfer button)

Use Explorer to select files     Use TSplus GUI

この動作を回避したい場合は、デフォルトのパスであるC:\Program Files (x86)\tsplus\Clients\www\software\html5\settings.jsファイルに次の行を設定してください。

```
dropboxonnewfile = 0;
```

さらに設定できます:

```
sharedfolder = “はい”;
```

共有フォルダーを表示し、他のユーザーとファイルを共有する ( デフォルトでは無効 )。

「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\software\html5」フォルダーに「settings.js」という名前のファイルがない場合、あなたのTSplusのバージョンは古く、このドキュメントは適用されません。まずシステムを更新するか、サポートに連絡してください。

- デフォルトでは、ファイル転送にエクスプローラーが使用されます。「TSplus GUIを使用する」をチェックすることで、サーバーからクライアントに直接ファイルをダウンロードしたり、任意のファイルをwebfileフォルダーにコピーしたりできます。

# Preferences



## Default Values

Login:

Password:

Domain:

- Show the Domain field       Remember last login

## Advanced

Keyboard:

## Access Type

- Available Clients:  HTML5 (iPad, iPhone, Android devices, computers)  
 RemoteApp (Windows PCs)

Gateway Portal:  Generate a Gateway Portal enabled Web Page

## Upload: Folder to select files.

- User Desktop (default)  
 My Documents  
 WebFile folder  
 Custom folder:

Folder path from where the user will select files to be uploaded.

## Download: Folder for all received files

- User Desktop (default)  
 My Documents  
 WebFile folder  
 Custom folder:

Folder where all downloaded files will be stored on the Server.

Downloaded files from the users PC will be stored in the specified folder.  
(Drag/Drop from the user PC, Download button or File Transfer button)

- Use Explorer to select files       Use TSpplus GUI



Help...



Reset



Preview



Save



# HTML5クライアント：モバイルデバイス（タッチ）でのジェスチャーの使用

## 画面領域の使用：

1. 画面上の簡単なタッチ = マウスをタッチした位置に移動し、左クリック
2. 画面を素早くダブルタップ = マウスがタッチした位置に移動し、左マウスボタンをダブルクリック
3. 画面上で1秒間タッチして保持すると、マウスがタッチした位置に移動し、右クリックします。
4. カーソルエリアの外をタッチして移動 = 表示されているセッションフレームのスクロール（これは特にピンチズーム後のスクロールに関するネイティブブラウザの動作です）
5. カーソルエリアにタッチして移動 = マウスカーソルのみ移動
6. カーソルエリア内をダブルタップして移動 = 左クリックを押しながらマウスを移動 ウィンドウの移動、要素の移動、サイズ変更に便利です。
7. 画面をダブルタップ（カーソルエリアの外）し、指を上下に動かす = 中央マウスのスクロール ページをスクロールしたり、PDFを表示するのに便利です。
8. 2本の指でピンチズーム = RDPセッションフレームをズームする（これはネイティブブラウザの動作です）

## マウスパッドエリアの使用 - マウスパッドの中央ポイントでの追加機能:

1. 中央の簡単なタッチ = 左クリック
2. 中央をダブルタップ = 左マウスのダブルクリック
3. 中央でタッチして移動 = マウス移動とマウスパッドの移動
4. 1秒間タッチして保持すると、右クリックになります。

## キーボードモードオン：

1. 画面上の簡単なタッチ = フォーカスが失われ、キーボードが無効になります（これはネイティブブラウザの動作です）が、これによりマウスの移動と左クリックが発生します。
2. ファストダブルタップ = マウス移動と左クリック（キーボード無効化なし）カーソルを再配置し、異なる文字にフォーカスを設定し、同時にキーボードモードに留まるのに便利です。
3. 上記に記載されたマウスパッドの機能



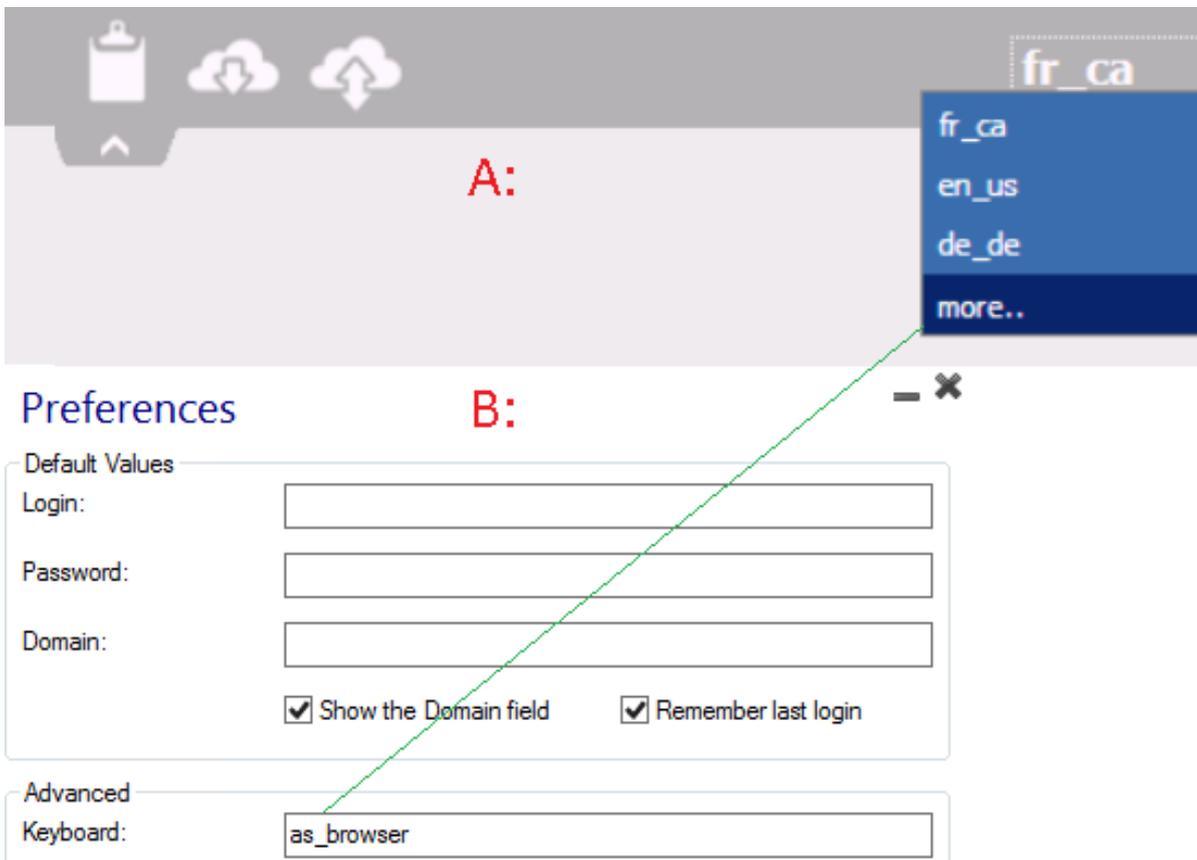
# HTML5クライアント：2つの言語を使用する

デフォルトでは、HTML5クライアントはブラウザのデフォルト言語を認識し、それをRDPセッション内で使用しようとしています。この動作は「as\_browser」タグによって制御されています。ただし、利用可能な言語タグの完全なリストは<http://software/language.html>の「ロケール」の下

固定言語を設定する選択肢があります **A:** クライアントごとにHTML5のトップメニューから直接。

	Language	Locale	Value
<input type="radio"/>	Portal	as_portal	
<input type="radio"/>	Browser	as_browser	
<input type="radio"/>	Gateway	as_gateway	
<input type="radio"/>	Arabic	ar_ar	1025
<input type="radio"/>	Arabic (Algeria)	ar_dz	5121
<input type="radio"/>	Assamese	as_as	1101
<input type="radio"/>	Azeri (Cyrillic)	az_cy	2092
<input type="radio"/>	Azeri (Latin)	az_lt	1068
<input type="radio"/>	Belarusian	be_be	1059
<input type="radio"/>	Bulgarian	bg_bg	1026
<input type="radio"/>	Bengali	bn_bn	1093
<input type="radio"/>	Tibetan	bo_bo	1105
<input type="radio"/>	Bosnian (Cyrillic)	bs_cy	8218
<input type="radio"/>	Bosnian (Latin)	bs_lt	5146
<input type="radio"/>	Catalan	ca_ca	1027
<input type="radio"/>	Czech	cs_cs	1029
<input type="radio"/>		cs_cz	1029
<input type="radio"/>	Welsh	cy_gb	1106
<input type="radio"/>	Danish	da_da	1030
<input type="radio"/>		da_dk	1030
<input type="radio"/>	German (Swiss)	de_ch	2055
<input type="radio"/>	German	de_de	1031
<input type="radio"/>	Divehi	dv_dv	1125
<input type="radio"/>	Greek	el_el	1032
<input type="radio"/>		el_gr	1032
<input type="radio"/>	English (Canada)	en_ca	1105

**B:** ポータルからまたはAdminTool GUIで設定することによって、全員に対して有効になります。



別の言語をメインとして設定する場合は、セッションを再起動する必要があります。

覚えておいてください：使用する際は **HTML5クライアント** 複数言語シナリオでは、Web-HTML5-RDPセッション内で使用される言語が、実際にPC/Laptop/Macなどに設定されている言語と同期していることを確認してください。そうしないと、すべての言語マップで表現される文字が、別の言語のために実際に送信されるスキャンコードによって誤った文字を生成する可能性があります。また、これは、Webセッション内で言語を英語からドイツ語に変更した場合、PC/Laptop/Macでもドイツ語に変更する必要があることを意味します。

# HTML5クライアント：ブラウザウィンドウを最大化する方法

## 概要

RDPプロトコルは、再接続なしに接続中にサイズを変更することを許可していません。

**Terminal Service Plus HTML5クライアントに接続することで、可能な限り最高の体験が得られることにご注意ください。 最大化されたブラウザ。**

ただし、ブラウザウィンドウをできるだけ大きくすることを強制したい場合は、HTML5ウィンドウを最大サイズで開くように「強制」を試みることができます（ただし、インターネットブラウザのセキュリティ制限により「最大化」されたウィンドウとしてではありません）。

## ブラウザウィンドウの最大化

あなたは、Terminal Service Plusディレクトリにある「Clients\www\software\common.js」ファイルを修正する必要があります。Notepad++などのテキストエディタを使用することをお勧めします。 ない Wordを使用してください。

ブラウザウィンドウが画面全体を使用するには、「window.open」を含む行を修正し、次のテキストを追加する必要があります。

ターミナルウィンドウ

```
"screenX=0,screenY=0,left=0,top=0,fullscreen=yes,width="+(screen.availWidth-5)+",height="+(screen.availHeight-(55))
```

これにより、IE/Chrome/Firefox/Safariがウィンドウを画面サイズ（Windowsバーを除く）で開くことができます。残念ながら、ウェブブラウザにウィンドウを「フルスクリーン」Windowsタイプで「最大化」するよう強制することはできません。

ファイルを開いて「window.open(」を検索します

その後、新しいものを追加します。

ターミナルウィンドウ

```
window.open(hostGateway + jwtsclickLinkBefore(getside(), p), window.opforfalse);
```

なります:

ターミナルウィンドウ

```
window.open(hostGateway + jwtsclickLinkBefore(getside(), p), window.opforfalse, "screenX=0,screenY=0,left=0,top=0,fullscreen=yes,width="+screen.availWidth-5+",height="+screen.availHeight-55));
```

そして再び:

ターミナルウィンドウ

```
tmpwin = window.open(p, '_blank'); //Chrome needs _blank
```

なります:

ターミナルウィンドウ

```
tmpwin = window.open(p, '_blank',  
"screenX=0,screenY=0,left=0,top=0,fullscreen=yes,width="+  
(screen.availWidth-5)+"",height="+  
(screen.availHeight-(55))"); //Chrome needs _blank
```

そして再び:

ターミナルウィンドウ

```
success = window.open(p, k);
```

なります:

ターミナルウィンドウ

```
success = window.open(p, k,  
"screenX=0,screenY=0,left=0,top=0,fullscreen=yes,width="+  
(screen.availWidth-5)+" ,height="+  
(screen.availHeight-55));
```

そして最後に :

ターミナルウィンドウ

```
cpwin = window.open("about:blank", n);
```

なります:

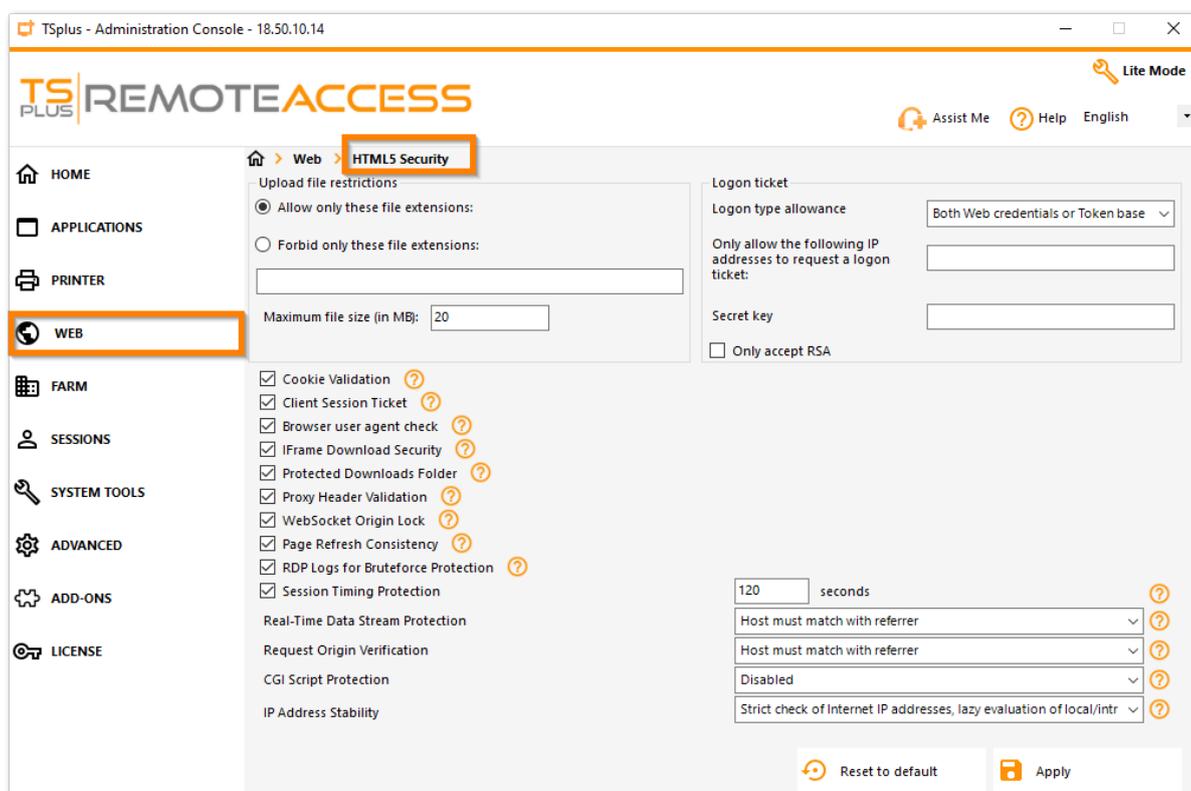
ターミナルウィンドウ

```
cpwin = window.open("about:blank", n,  
"screenX=0,screenY=0,left=0,top=0,fullscreen=yes,width="+  
(screen.availWidth-5)+" ,height="+  
(screen.availHeight-55));
```



# HTML5セキュリティ

HTML5セキュリティタブでは、ウェブ設定を管理できます。



追加のセキュリティが必要な場合は、当社のを表示およびダウンロードできます。 [Advanced Security](#) .

# HTML5サーバーメモリ使用量

Terminal Service Plus HTML5サーバーはJAVAで動作します。JAVAがメモリをどのように扱うかを理解することで、Terminal Service Plus HTML5サーバーのメモリ使用量を理解するのに役立ちます。

## 割り当てられたメモリ

Javaが実行されると、コンピュータの物理メモリの25%を割り当てようとします。このメモリは「割り当てられています」が、直接使用されるわけではありません - これはWindowsタスクマネージャーで見ることができる実際のメモリ使用量ではありません。

## JAVAプラットフォーム: 32ビット vs 64ビット

これら二つのプラットフォームの間には大きな違いがあります。

- JAVA 32ビットは定義上4GB以上のRAMを扱うことができません。利用可能なメモリの25%を割り当てるため、物理メモリが4GBあると仮定すると、最大で1GBを割り当てます。物理メモリが2GBしかない場合は、500MBのみを割り当てます。
- JAVA 64ビットは4GB以上の容量を理論的には最大16GBまで扱うことができます。 exa バイト)したがって、割り当てられたメモリは物理メモリのみに依存します。

## JAVAメモリ管理

JAVAは「仮想マシン」です。これはJAVAが自分でメモリ管理を行うことを意味します。一度JAVAがメモリを割り当てると、もう必要なくなっても自動的にシステムに返すことはありません。これはパフォーマンスの理由からであり、メモリの割り当てと解放はCPUに負担をかける作業です。

JAVAは通常、システムに返す前に未使用のメモリの大きな塊ができるまで待機します。この大きな塊のサイズは、コンピュータの物理メモリのサイズに直接依存します。コンピュータの物理メモリが多いほど、JAVAによって割り当てられるメモリも多くなります。

## Terminal Service Plus HTML5 サーバー メモリ使用量

これらの技術的な詳細が、Windowsタスクマネージャーを開いて、Terminal Service Plus HTML5 Serverが多くのメモリを使用していると思ったり、JAVA 32ビットがJAVA 64ビットよりも少ないメモリを使用していると思ったりする理由です。

実際、Terminal Service Plus HTML5 Serverによって実際に使用されるメモリは、開かれたHTML5セッションの数に直接関連しています。コンピュータの利用可能なメモリが多いほど、より多くのHTML5セッションを開くことができます。

## HTML5セッションメモリ使用量

HTML5セッションで使用されるメモリは、ユーザーの活動（使用されるアプリケーションやプログラム、Word/Excelと描画集中的なプログラムの違い）およびTerminal Service Plus HTML5サーバーとクライアントコンピュータ間に確立された接続方法に依存します。

一般的な使用ケースでは、HTML5セッションは30 MBのメモリを使用します（標準使用、バイナリウェブソケット接続）。最悪の場合、セッションは最大100 MBのメモリを使用します（集中的な使用、古いブラウザ用の「XHR」フォールバック接続）。

## HTTPおよびHTTPSサーバーのリスニングの喪失

各Javaエラーログは、操作に十分なネイティブメモリを示しています。

問題は実際には非常に簡単です。

HTML5セッションが開始されると、報告された値に応じて十分なメモリがあります。

その後、RDPセッション内で、未知のプログラムを起動し、すべてのネイティブメモリを自分のものとして盗みます。

Javaが再度要求すると、それは突然利用できなくなり、この不十分なメモリエラーが発生します。

- Javaランタイム環境が続行するためのメモリが不足しています。
- ネイティブメモリ割り当て（mmap）が234881024バイトをマップできませんでした。エラーの詳細：仮想空間G1# 可能な理由：
- システムは物理RAMまたはスワップスペースが不足しています# このプロセスは圧縮Oopsが有効になっており、Javaヒープがネイティブヒープの成長を妨げている可能性があります

可能な解決策：

- システムのメモリ負荷を軽減する
- 物理メモリまたはスワップ領域を増やす# スワップサポートストレージが満杯かどうかを確認する
- Javaヒープサイズを減少させる (-Xmx/-Xms)
- Javaスレッドの数を減らす # Javaスレッドスタックサイズを減らす (-Xss)
- -XX:ReservedCodeCacheSize=の大きなコードキャッシュを設定します

JVMはゼロベース圧縮Oopsモードで実行されており、このモードではJavaヒープが最初の32GBのアドレス空間に配置されます。Javaヒープのベースアドレスは、ネイティブヒープの成長の最大限界です。

使用してください **-XX:HeapBaseMinAddress**

潜在的には、最初からJavaにより多くのネイティブメモリを割り当て、システムにメモリを返さないように強制し、したがって自分自身に割り当てることができます。

しかし、この場合、次の問題に直面することになります：RDPセッションで実行されているプログラムがメモリ不足になる可能性があり、システム全体がクラッシュする可能性があります。

しかし、まだ試すことができます。

1.  
以下のファイルをNotepadで開いて編集してください: `*\Clients\webserver\runwebserver.ini`

2.  
ここでは、次のコマンドライン設定が見つかります。このように:

#### ターミナルウィンドウ

```
-Djdk.tls.ephemeralDHKeySize=matched -Djdk.tls.rejectClientInitiatedRenegotiation=true -
Dorg.jboss.netty.epollBugWorkaround=true -XX:+UseG1GC -XX:MinHeapFreeRatio=10 -
XX:MaxHeapFreeRatio=10 *****
and so on
```

3. `runwebserver.ini`の全行を削除し、その代わりに以下を追加してください:

#### ターミナルウィンドウ

```
-server -javaagent:"%~dp0httpwebs.jar" -Djdk.tls.ephemeralDHKeySize=matched -
```

```
Djdk.tls.rejectClientInitiatedRenegotiation=true -Dorg.jboss.netty.epollBugContourn=true --add-opens java.prefs/java.util.prefs=ALL-UNNAMED --add-opens java.base/java.lang.reflect=ALL-UNNAMED --add-opens java.base/sun.security.ssl=ALL-UNNAMED --add-opens java.base/java.nio=ALL-UNNAMED --add-opens java.base/jdk.internal.ref=ALL-UNNAMED --add-exports java.prefs/java.util.prefs=ALL-UNNAMED ---add-exports java.base/java.lang.reflect=ALL-UNNAMED --add-exports java.base/sun.security.ssl=ALL-UNNAMED --add-exports java.base/jdk.internal.ref=ALL-UNNAMED --add-exports java.base/java.nio=ALL-UNNAMED
```

#### 4. AdminTool GUIを介してHTML5サーバーを再起動して変更を適用します。

しかし、その前に、web server\runwebserver.batファイルのプロパティに読み取り専用属性が設定されていないことを確認してください。そうでないと、AdminTool GUIは再起動後にrunwebserver.batを適応できません。

ほとんどの場合、これで十分です。Javaがメモリを使用すると、それをシステムに戻すのではなく、他の用途に割り当てます。したがって、html5service.exeのメモリ使用量は、システムの利用可能なメモリの70%に達する可能性があります。この場合、Javaはクラッシュを停止する可能性があります。しかし、別のプログラムが大量のメモリを消費している場合、代わりにクラッシュする可能性があります。その場合、私たちは無力です。Java HTMLサーバーや他のプログラムを実行するのに十分なメモリがあることを確認する必要があります。

Javaには、Java仮想マシン自体のメモリ割り当てを改善できる-XX:+AggressiveHeapというオプションがあり、そのため\*webserver\runwebserver.iniの最終的な内容が改善される可能性があります。

それはこのように見えるかもしれません：

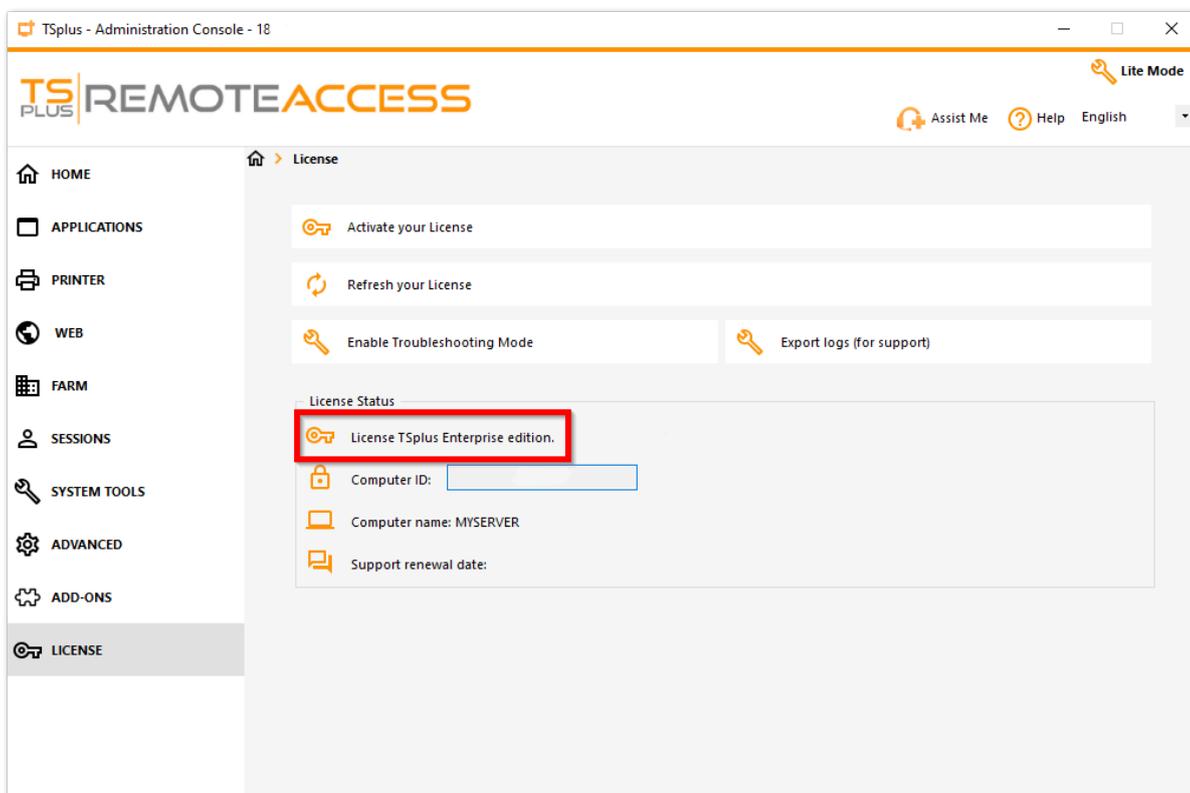
#### ターミナルウィンドウ

```
-XX:+AggressiveHeap -server -javaagent:"%~dp0httpwebs.jar" -Djdk.tls.ephemeralDHKeySize=matched -Djdk.tls.rejectClientInitiatedRenegotiation=true -Dorg.jboss.netty.epollBugWorkaround=true --add-opens java.prefs/java.util.prefs=ALL-UNNAMED --add-opens java.base/java.lang.reflect=ALL-UNNAMED --add-opens java.base/sun.security.ssl=ALL-UNNAMED --add-opens java.base/java.nio=ALL-UNNAMED --add-opens java.base/jdk.internal.ref=ALL-UNNAMED --add-exports java.prefs/ java.util.prefs=ALL-UNNAMED --add-exports java.base/java.lang.reflect=ALL-UNNAMED --add
```



# あなたのTSplusエディションを特定する方法

ライセンススタイルのシリアル番号の下に、購入したライセンスの種類と接続数の横にあるユーザー数を確認できます。



TSplusは、より明確さを得るために古いライセンスを1つに統合しました。システムおよびプリンターエディションは移行しました。 **Desktop Edition** .

## Desktop Edition

基本機能：

- TSplus管理者ツール ( AdminTool )、

- 同時接続サポート、
- ユーザーおよび/またはグループごとのアプリケーション制御、
- TSplusリモートタスクバーおよび/またはTSplusフローティングパネル、
- リモートデスクトップアクセス、
- TSplusポータブルクライアントジェネレーター、
- RemoteApp接続クライアント、
- RDPプロトコルに完全準拠しています。
- デュアルスクリーンサポート、双方向サウンド、Windowsバージョンと互換性がある場合のRemoteFX、
- ローカルおよびリモート接続サポート、
- ワークグループおよびActive Directoryユーザーのサポート、
- デバイス/ディスクリダイレクション。
- 仮想プリンターは、特定のドライバーをインストールすることなく、任意の場所から印刷できるようにし、プリンターのリダイレクションを可能にします。

## モバイルウェブエディション

**すべてのシステムおよびプリンターエディションの機能に加えて、あなたに次のことを可能にします：**

-

任意のウェブブラウザからTSplus HTTP Web Serverに接続します。

- 任意のウェブブラウザからの完全に安全な接続、TSplus HTTPSウェブサーバーおよびSSHサーバーを使用して、
- HTMLページにはWindowsおよびHTML5ウェブアクセスクライアントが含まれています。
- iPhone/iPadやAndroidデバイスから簡単に接続できます。また、 [TSplusモバイルアプリ](#)、
- TSplusの使いやすいWebmaster ToolkitでログインWebページをカスタマイズする
- TSplus Web Applications Portalを使用すると、ユーザーはウェブブラウザ内でアプリケーションリストにアクセスできます。
- Windowsの資格情報の代わりに、TSplus Web資格情報を使用すると、ユーザーはメールアドレスまたはピンコードのみで接続できます。
- ユニバーサルプリンターを使用すると、特定のプリンタードライバーをインストールすることなく、どこからでも印刷できます。

## Enterprise Edition

**以前のすべての機能に加えて、これらの機能が含まれています：**

- 各TSplusファーム内で無制限のサーバーをサポートします（サーバーごとに1ライセンスが必要です）、
- 数千のユーザーがスケーラブルな負荷分散アーキテクチャ上で同時に作業しています。
- すべてのTSplusサーバーにアクセスするためのシングルエンタープライズポータル、
- ユーザーまたはユーザーグループに1つまたは複数のアプリケーションサーバーを割り当てる

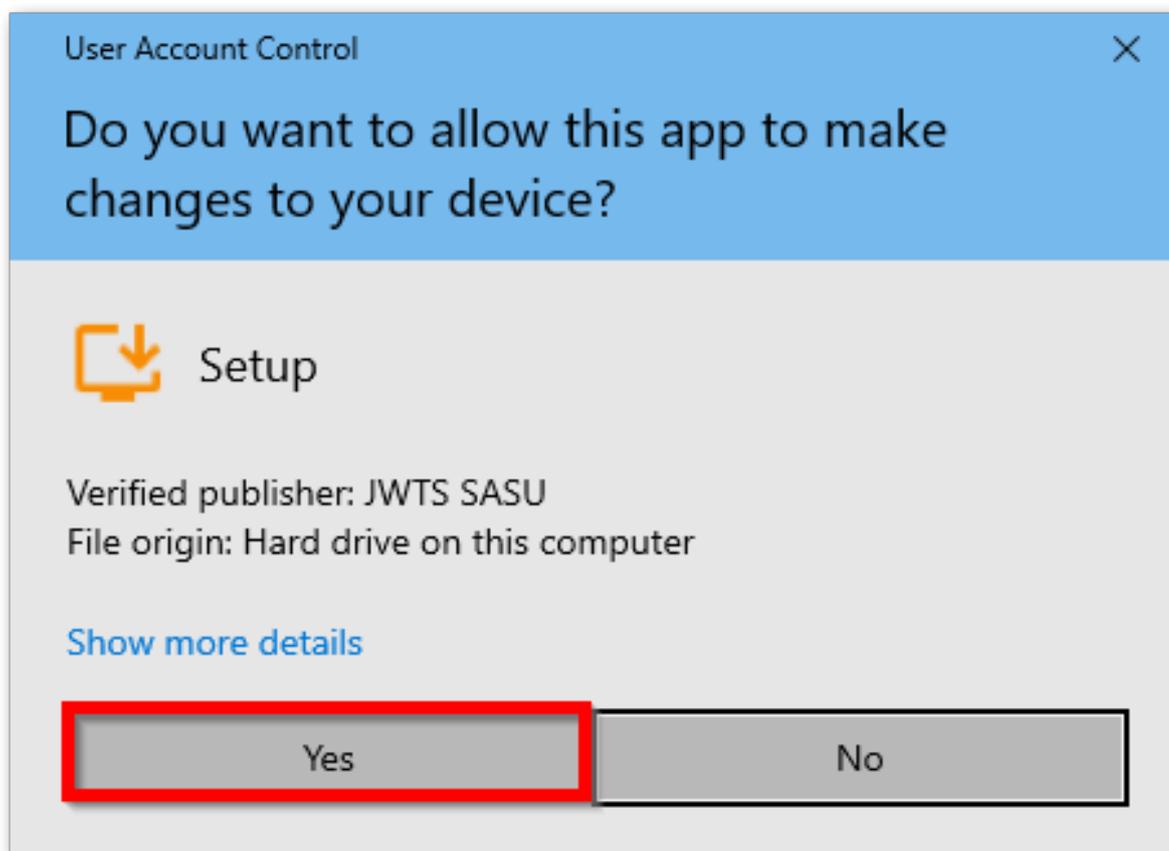
能力、

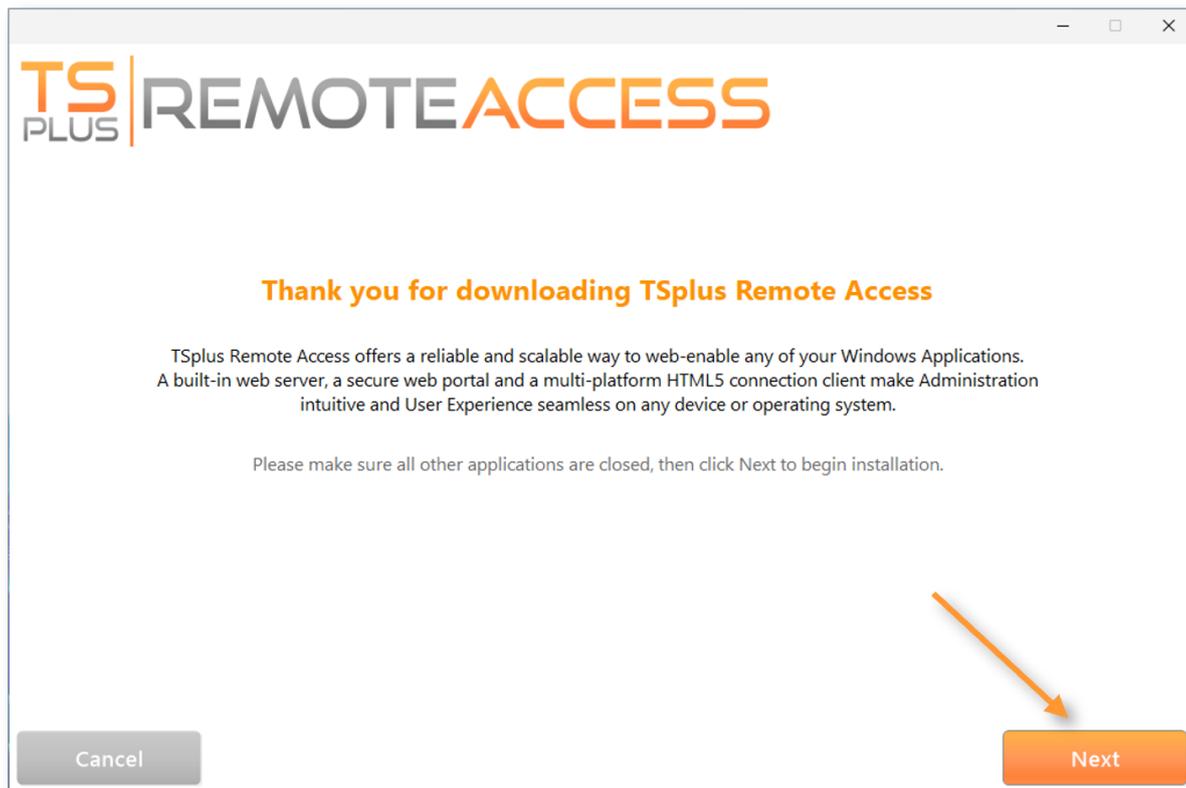
- 負荷分散とフェイルオーバーサポートが含まれています。
- 追加のセキュリティ層を追加する可能性があること [TSplus 2FAアドオン](#) .

# TSplus Remote Access v19 インストール

実行 [TSplus Remote Access セットアッププログラム](#) そして インストール手順に従ってください。

最初のTSplus Remote Accessの再起動後に、ローカル管理者パスワードが必要です。





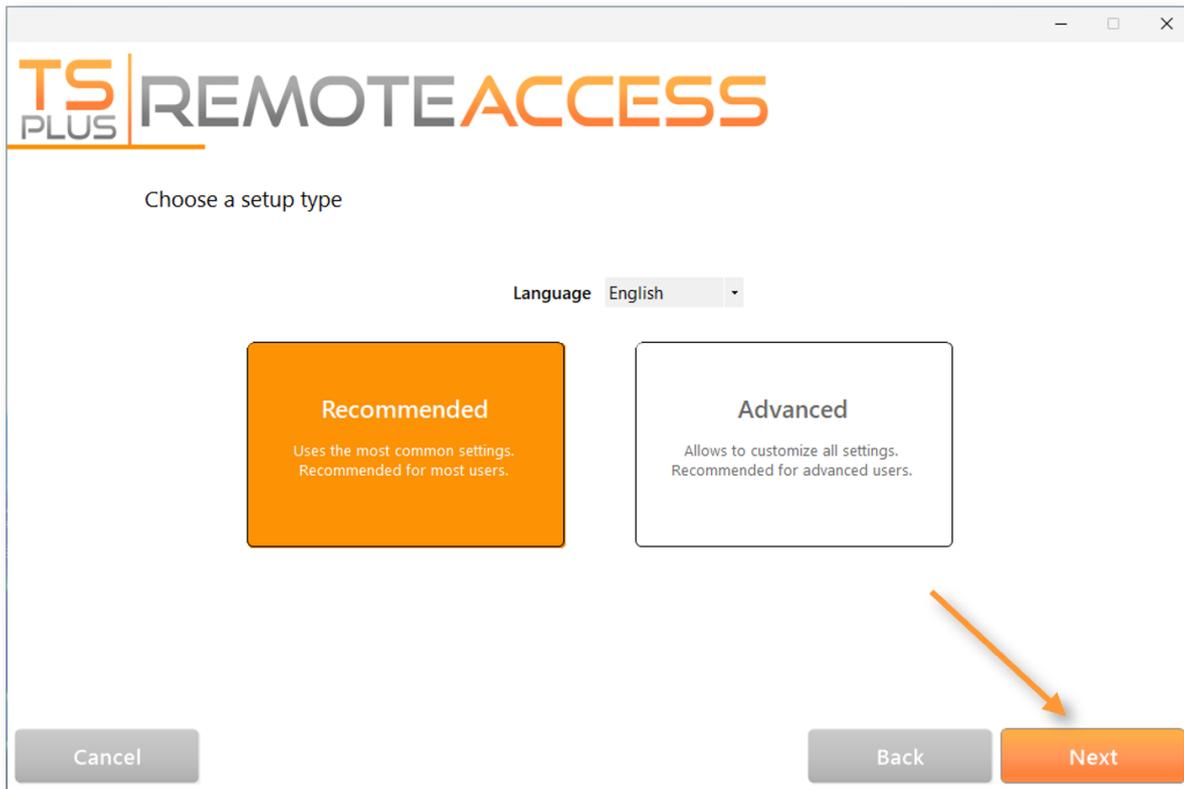
言語を選択できます ( 後で変更可能です )

次に、対応するボックスにチェックを入れることで、2つのカスタムオプションを選択できます。 **推奨** または **高度な**

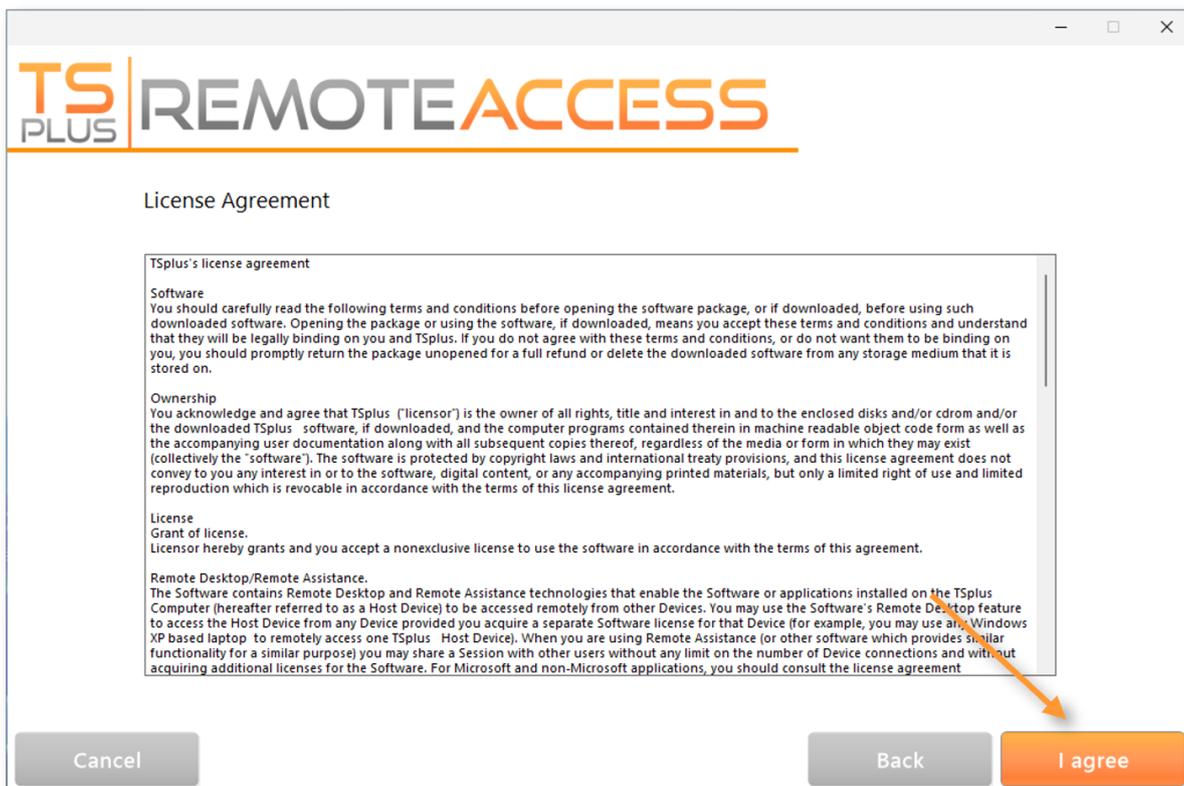
高度なオプションを使用すると、次のことができます :

- TSplus Advanced Securityをインストールしない。
- カスタムプロキシ設定を使用します。
- インストーラーのみをダウンロードしてください。これはTSplusをインストールしません。
- デフォルトポートを変更する ( 推奨されません )。

次へクリックしてください。



クリックして 「契約に同意します。」



プログラムをダウンロードしてインストールしていますので、しばらくお待ちください。

**TS PLUS | REMOTE ACCESS**

## MFA Without Extra Stacks

Protect logins with time-based codes or push - no third-party gymnastics.

**Try it in the trial:**  
Enforce 2FA for one user group and sign in through the portal.



Installing

Please wait, this may take a few minutes.

その後、TSplusのロゴが表示され、インストールの完了についてのウィンドウが通知されます。

**TS PLUS | REMOTE ACCESS**

## Installation Complete

You have successfully installed TSplus Remote Access!

To complete the installation of TSplus, setup must restart your computer.

Restart now     Restart later

**For security reasons, TSplus Remote Access will disable automatic logon.**  
User: WIN-NKIEA3J0ATM\Administrator  
Please make sure you know your Windows username and password before rebooting.

Finish

## 重要なお知らせ

セキュリティ上の理由から、**TSPlus Remote Access** 各ログイン時にユーザー名とパスワードを手動で入力する必要があります。

システムを再起動する前に、ロックアウトされないように資格情報を確認してください。

もし

### 自動ログオン

システムで有効になっている場合、インストーラーはユーザー名とパスワードを知っていることを確認するように求める警告ポップアップを表示します。

 **Automatic log-in is enabled on your system.**

User: User

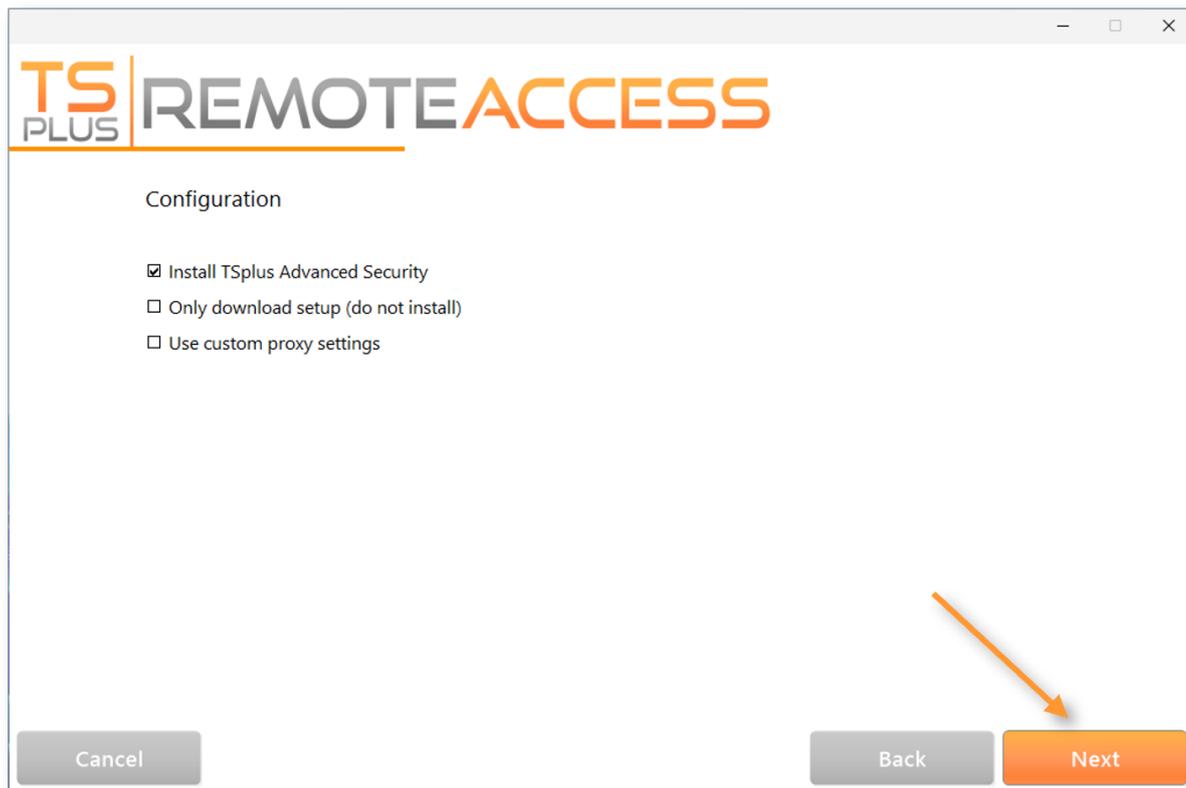
For security reasons, TSplus Remote Access will disable automatic logon.  
Please make sure you know your Windows username and password before rebooting.

**I know my username and password.**

TSplusを使用するには、システムを再起動する必要があります。試用期間は15日間、5人の同時ユーザーでフル製品を提供します。

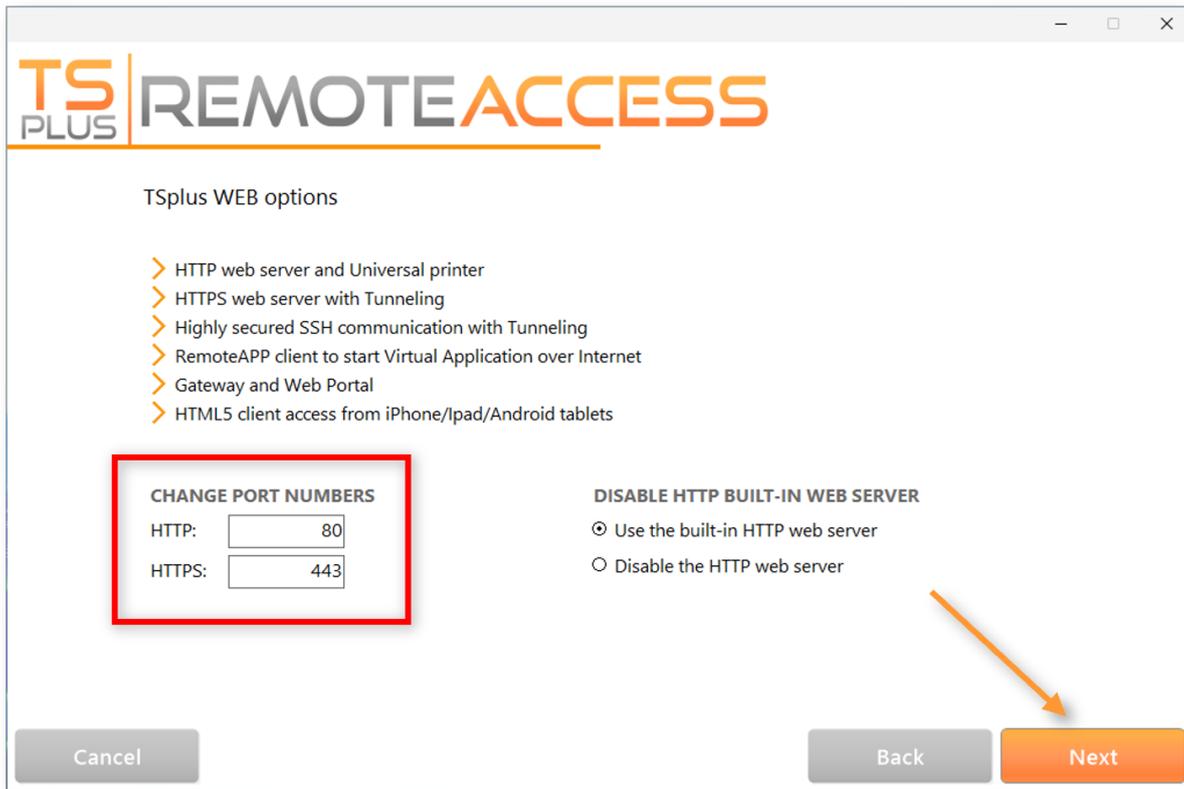
---

以下の手順は、TSplus Remote Accessのインストールをチェックした場合のみです。高度なモード。

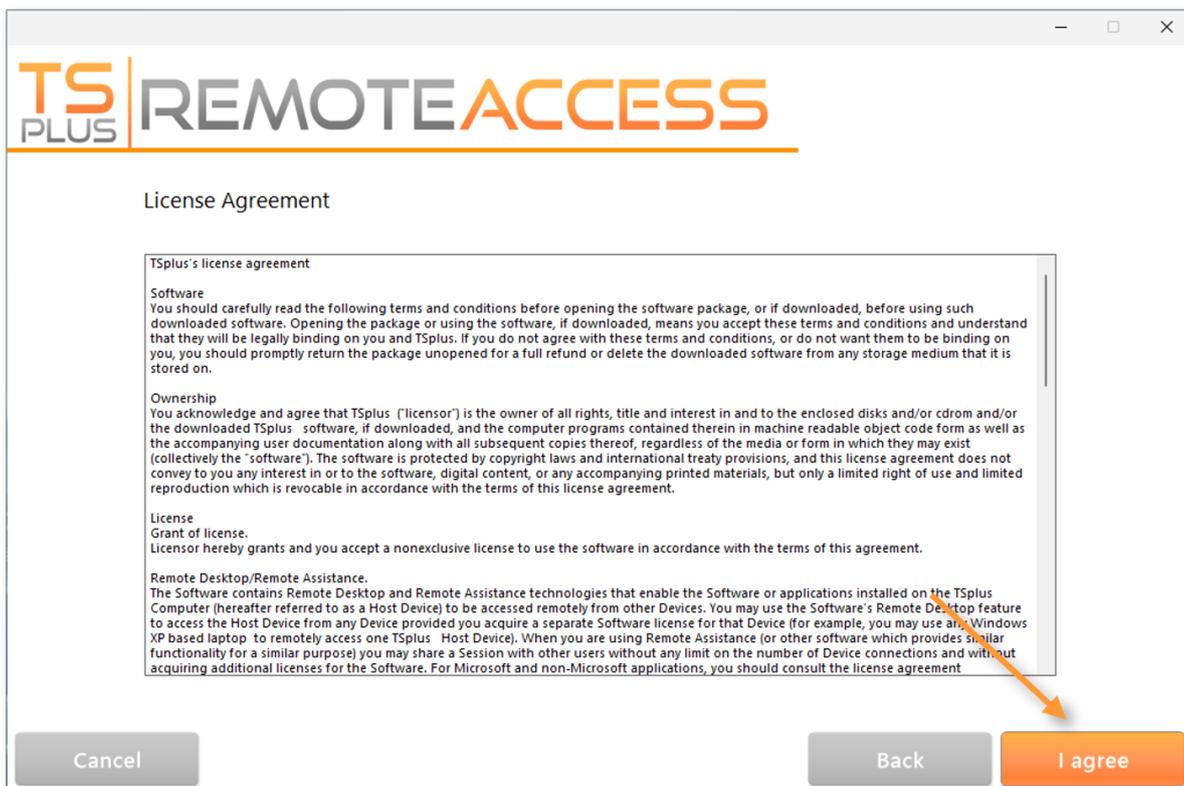


Webサーバーはデフォルトでポート80と443でリッスンしています。私たちは、TSplusのデフォルトインストール設定を受け入れることをお勧めします。私たちの経験によれば、ほとんどの生産問題はWindowsのセキュリティ機能に起因しています。

インストール中またはいつでもこれらのポートを変更することができます。 [AdminToolの組み込みWebサーバー管理](#) 定義されたポートが利用可能であり、サーバーにJavaがインストールされていることを確認してください。



クリックして 「契約に同意します。」



進捗バーが表示され、プロセスの進行状況を追跡できるようになります。

# TS PLUS | REMOTE ACCESS

## MFA Without Extra Stacks

Protect logins with time-based codes or push - no third-party gymnastics.

**Try it in the trial:**  
Enforce 2FA for one user group and sign in through the portal.



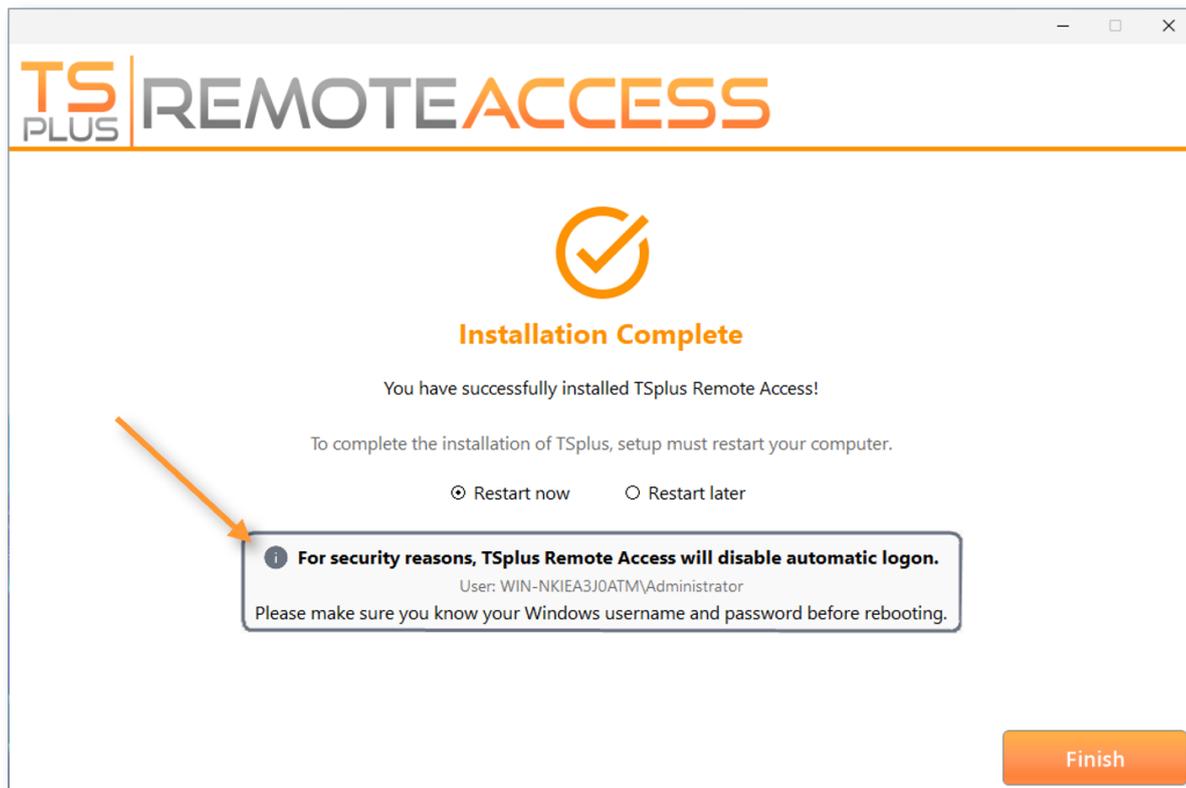
Installing

Please wait, this may take a few minutes.

- TSplus 11.40バージョン以降、インストールする選択肢があります [TSplus Advanced Security](#) 私たちの強力なセキュリティアドオン、究極のトライアルバージョン (すべてのセキュリティ機能を2週間無料で使用可能) をあなたのTSplusシステムに:

この製品に関する詳細は、TSplus Advanced Securityに関するページをご覧ください。 [ドキュメント](#) .

その後、TSplusのロゴが表示され、インストールの完了についてのウィンドウが通知されます。



## □ 重要なお知らせ

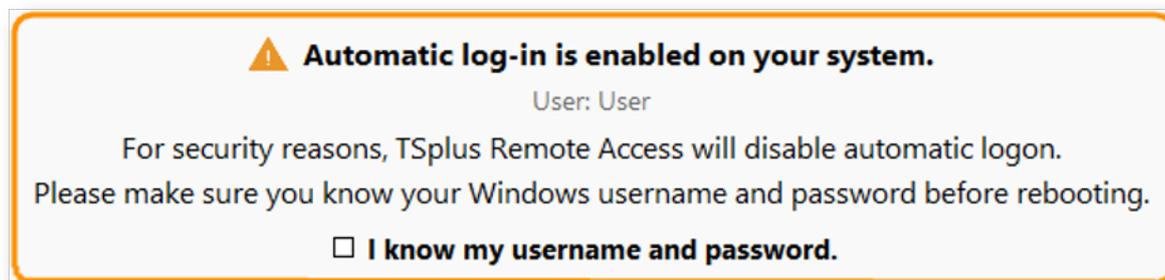
セキュリティ上の理由から、**TSPlus Remote Access** 各ログイン時にユーザー名とパスワードを手動で入力する必要があります。

システムを再起動する前に、ロックアウトされないように資格情報を確認してください。

もし

### 自動ログオン

システムで有効になっている場合、インストーラーはユーザー名とパスワードを知っていることを確認するように求める警告ポップアップを表示します。



TSplusを使用するには、システムを再起動する必要があります。試用期間は15日間、5人の同時ユーザーでフル製品を提供します。



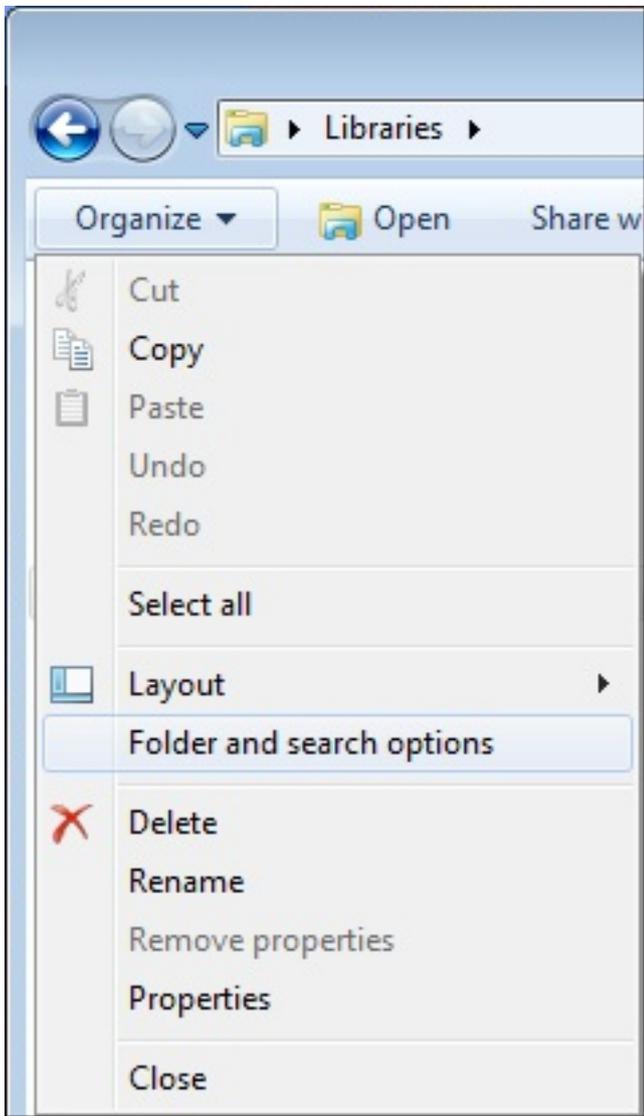
# TSplusセッション内で論理ドライブをマウントする方法

このチュートリアルでは、以下の側面を扱います：

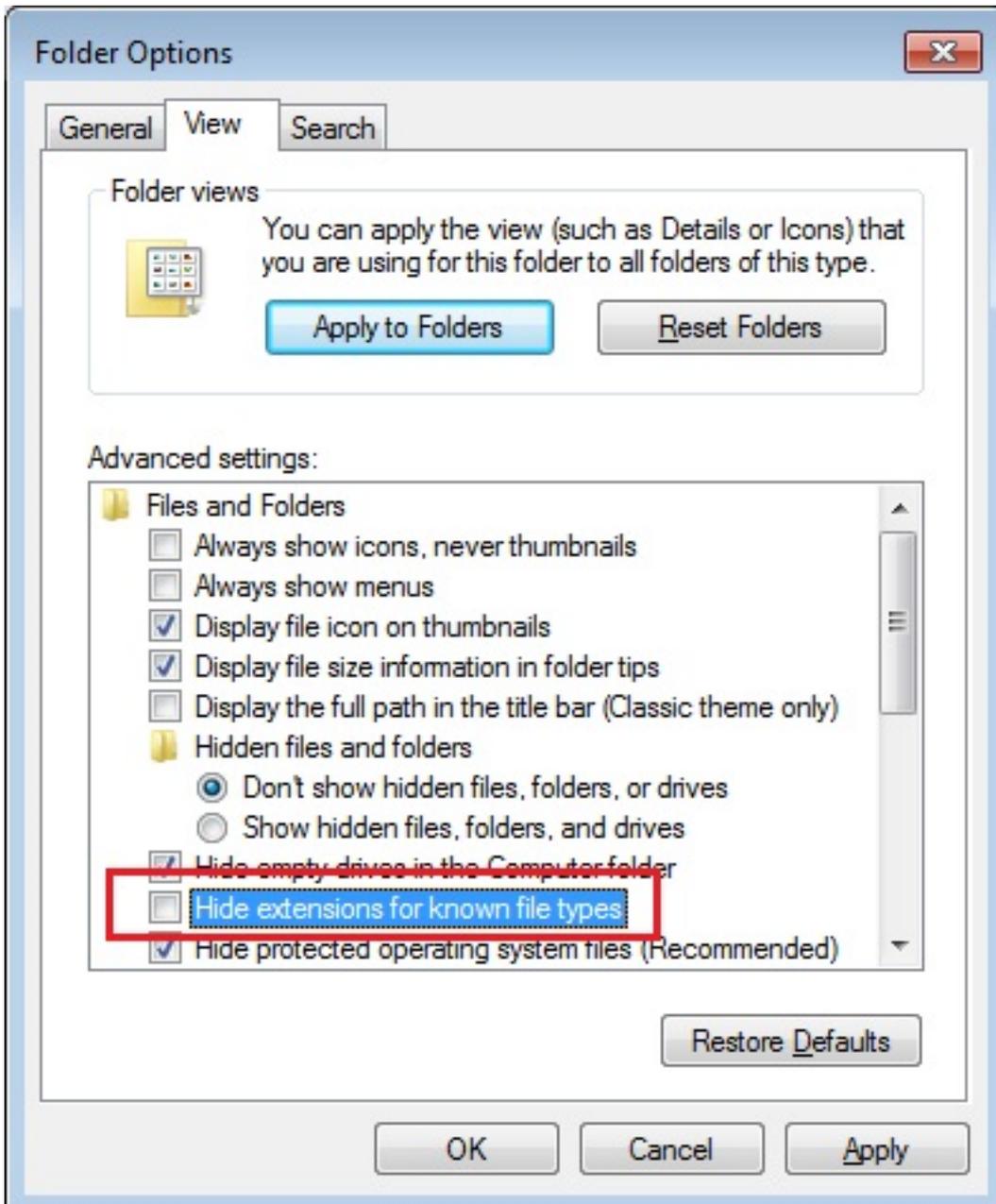
- ログオンスクリプトを展開し、複数のログオンスクリプトシナリオを持つ方法。
- セッション内でクライアントまたはサーバー側から特定のフォルダーをマウントする。

ユーザーのために論理的な仮想ドライブにフォルダーを公開したい場合は、この手順に従ってください。

スクリプトを作成する前に、Windowsエクスプローラーを開き、「フォルダーと検索オプション」をクリックします。



次に、表示タブをクリックし、「既知の種類の変換子を隠す」のチェックボックスをオフにします。

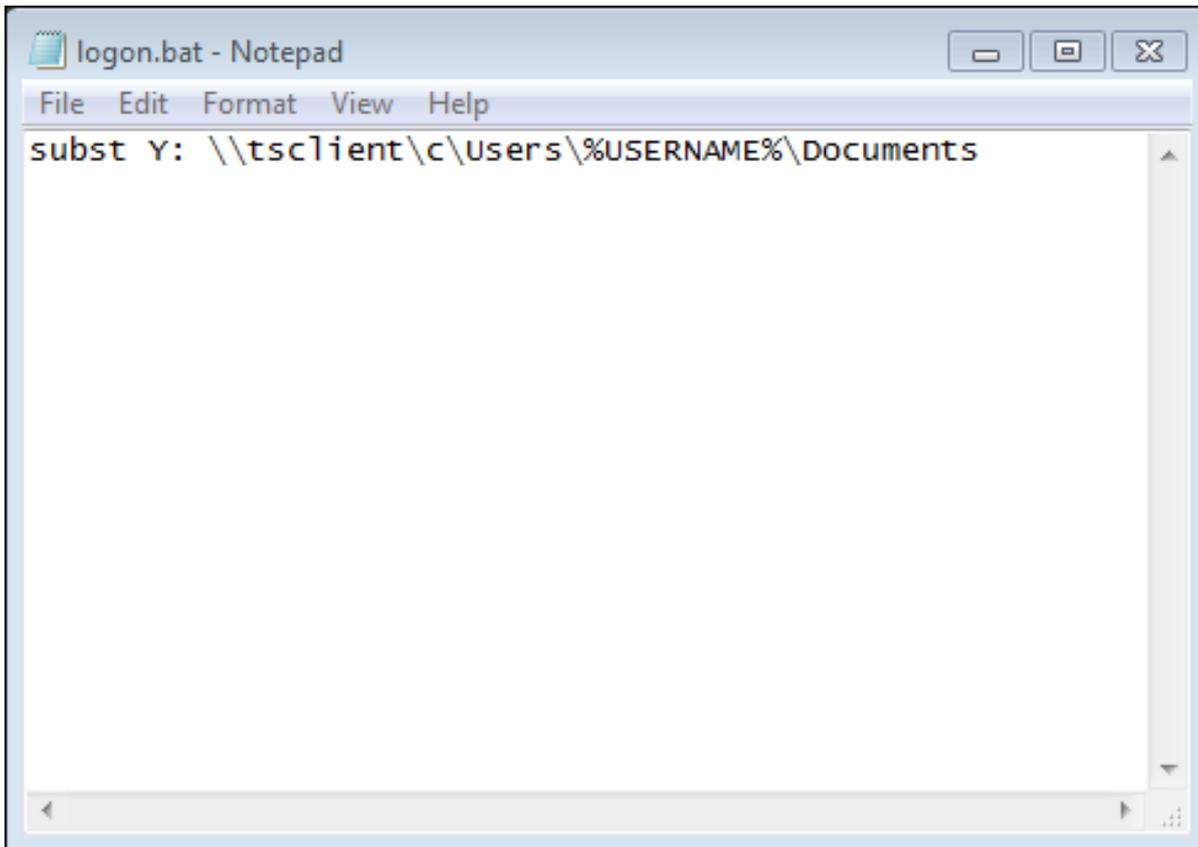


テキストドキュメントを作成し、拡張子を「logon.bat」と名付けて変更します。



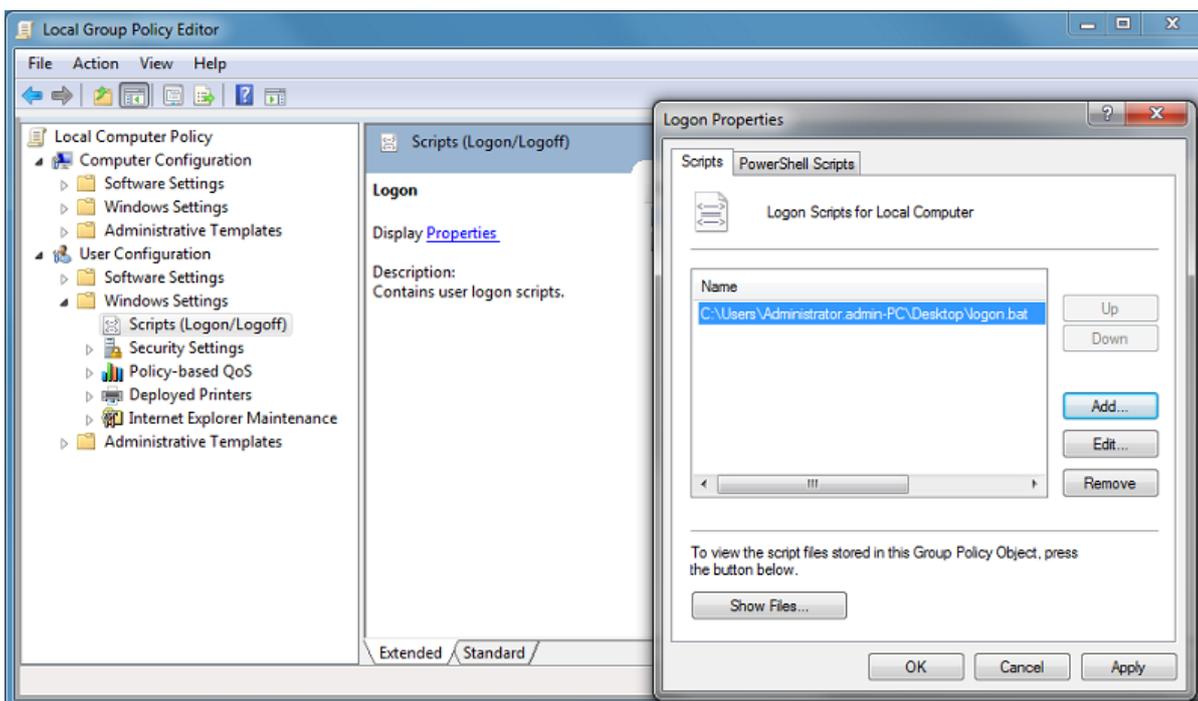
ファイル内で、例えばこのコマンドを入力して Folder.exe フォルダを公開します:

```
"subst Y: \tsclient\C\Users%USERNAME%\Documents"
```

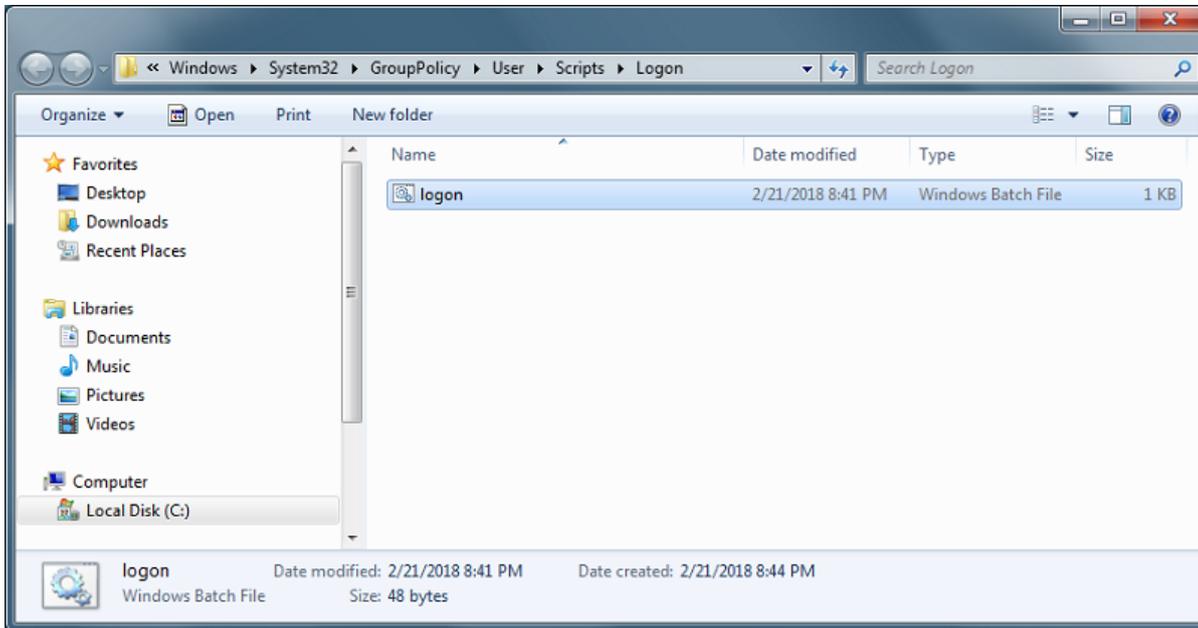


次に、スタートメニューで検索タスクバーにgpedit.mscと入力します。このサーバーに接続するすべてのユーザーがスクリプトを起動するように、ローカルポリシーを使用します。

ユーザーの設定メニューに入り、次にWindowsの設定に入り、最後にスクリプト（ログオン/ログオフ）に入ります。ログオンスクリプトをダブルクリックし、「追加」をクリックし、その後「参照」をクリックします。



次に、ログオンプロパティウィンドウの「ファイルを表示」ボタンをクリックし、ポリシーエディターによって指定されたパスにlogon.batスクリプトをコピーします。つまり、「C:\Windows\System32\GroupPolicy\User\Scripts\Logon」です。



- このlogon.batファイルをC:\ProgramDataにコピーすれば、このスクリプトがすべてのユーザーに対して実行されるようになります。
- 各ユーザーのために特定のログオンスクリプトが必要な場合は、C:\Users\Username\AppData\Roamingにスクリプトをコピーしてください。

ユーザーセッションにこのYドライブを表示させるにはどうすればよいですか？これを達成する方法はいくつかあります。管理ツール内で新しいアプリケーションを作成し、それをユーザーに割り当てることで、ショートカットがセッションに表示されます。

Common Folder Settings

Path/Filename:  
C:\Windows\explorer.exe

Start Directory:  
C:\Windows

Display Name:  
Common Folder

Command line option:  
Y:

Window State:  
Default (Maximized if single application on Web/Mobile client)

Folder:  
(top-level)

Save Test Cancel



 CommonFolder

mstsc.exeでセッションに接続する場合は、オプションメニューに移動し、ローカルリソースタブの「ローカルデバイスとリソース」セクションで「詳細」をクリックし、「ドライブ」のチェックボックスをオンにするのを忘れないでください。

非管理者ユーザーのみにこのスクリプトを割り当てたい場合は、これに従ってください。 [チュートリアル](#) .

フォルダーのアクセスを保護したい場合は、公開するためのドキュメントをご覧ください。 [保護されたフォルダー](#) .

# ログオンチケットと負荷分散

## ゲートウェイサーバーでのログオンチケットの作成

ゲートウェイでログオンチケットを作成できます:

```
/socket.io/LPW?WinUser=DOMAIN\LOGIN&WinPassword=PASSWORD
```

しかし、それはゲートウェイサーバー自体にのみ接続を許可します。

## アプリケーションサーバーでのログオンチケットの作成

リバースプロキシ化されたアプリケーションサーバーでログオンチケットを作成することもできます。

```
/srv4/socket.io/LPW?WinUser=DOMAIN\LOGIN&WinPassword=PASSWORD
```

( ~~srv4は、TSplusリバースプロキシに設定されたアプリケーションサーバーの内部名であると仮定します )

しかし、これは特定のアプリケーションサーバーにのみ接続を許可します。

## ログオンチケットと負荷分散

ログオンチケットと負荷分散を使用したい場合は、最初に追加のHTTPリクエストを行うことをお勧めします。

<https://your-gateway-server.com/cgi-bin/hb.exe?action=lb&l=LOGIN&d=DOMAIN&t=TIMESTAMP>

これにより、このような回答が返されます。

```
ロードバランシング-オン|アプリサーバー 4|your-gateway-server.com/~~srv4|https|443|
```

この回答を解析して、TSplus Load-Balancerがこの特定のユーザーに接続することを推奨するアプリケーションサーバーを取得できます。

つまり、負荷の少ないサーバーをあなたのTSplusファームで推奨し、TSplusゲートウェイでスティッキーセッションが有効になっている場合は、既存のアクティブセッションを考慮に入れます。

この特定のアプリケーションサーバーでログオンチケットを作成し、ユーザーに接続することができます。

これはまさにTSplus Web Portalのログインページで行われるhttpリクエストです。

## ユーザーセッションを開くためのログオンチケットの使用

有効なログオンチケットを取得したので、このURLにブラウザウィンドウを開いてこのチケットを使用してユーザーセッションを開くことができます。

[https://your-gateway-server.com/~~srv4/software/html5.html?user=\\*xxxxxxx](https://your-gateway-server.com/~~srv4/software/html5.html?user=*xxxxxxx)

「xxxxxxx」はログオンチケットです。

# 長期サポート版

TSplusサポート & アップデートサービスに加入しており、TSplusの最新機能や改善に興味がない顧客は、TSplus LTS (長期サポート) バージョンをインストールできます。

TSplus LTS (長期サポート) バージョンは、ソフトウェアメンテナンスの期間を延長し、ソフトウェアの展開に伴うリスク、費用、混乱を軽減するためにソフトウェア更新の頻度を減らし、ソフトウェアの信頼性を高めます。

さらに、TSplus LTS (長期サポート) は新しい機能を受け取りません。

## TSplusライフサイクル

TSplusの標準バージョンは非常に頻繁に公開されており、最新のリリースは常にお客様にとって最良のソリューションです：すべての既知のバグが修正され、新機能が非常に頻繁に利用可能です。

毎年の初めに新しい主要なTSplusバージョンがリリースされます。

2019年1月から、TSplusは「LTS」と名付けられた長期サポート版でも利用可能です。新しいメジャーバージョンごとに、TSplusは前のバージョンの安定したLTS版を公開し、これを2年間サポートします。

## TSplus LTSの利点と制限

TSplus LTSにはいくつかの利点があります。

- セキュリティ修正とWindowsアップデートの互換性を除いて、更新はありません。
- 更新時に動作や機能に変更はありません。
- 特定のLTSの2つのマイナーバージョン間での更新時のリスクが少ない
- 少なくとも2年間サポートされています

TSplus LTSには制限と制約もあります。

- 顧客はサポートおよび更新サービスを購入する必要があります (ライセンスはアクティブなサポートおよび更新サービスなしではアクティブ化できません)。
- 全く新しい機能はありません (TSplus標準版と比較すると、標準版は常に多くの更新と新機

能を受け取っています)。

私たちは、お客様に最先端のソリューションの恩恵を受けるために、TSplus標準版の使用をお勧めします。

## TSplus LTSリンク

**TSplus LTS 18** 2026年1月から2028年1月までサポートされます:

- [変更履歴](#)
- [セットアップ](#) 新しいサーバーにTSplusをインストールするには
- [更新リリース](#) 既存のTSplusインストールを更新するために
- [LTS18 ドキュメント](#)

**TSplus LTS 17** 2025年1月から2027年1月までサポートされます:

- [変更履歴](#)
- [セットアップ](#) 新しいサーバーにTSplusをインストールするには
- [更新リリース](#) 既存のTSplusインストールを更新するために
- [LTS17 ドキュメント](#)

TSplus LTS 16 ( 2024年1月から2026年1月までサポート ): サポート終了

TSplus LTS 15 ( 2023年1月から2025年1月までサポート ): サポート終了

TSplus LTS 14 ( 2021年12月から2023年12月までサポート ): サポート終了

TSplus LTS 12 ( 2019年12月から2022年12月までサポート ): サポート終了

TSplus LTS 11 ( 2018年12月から2021年12月までサポート ): サポート終了

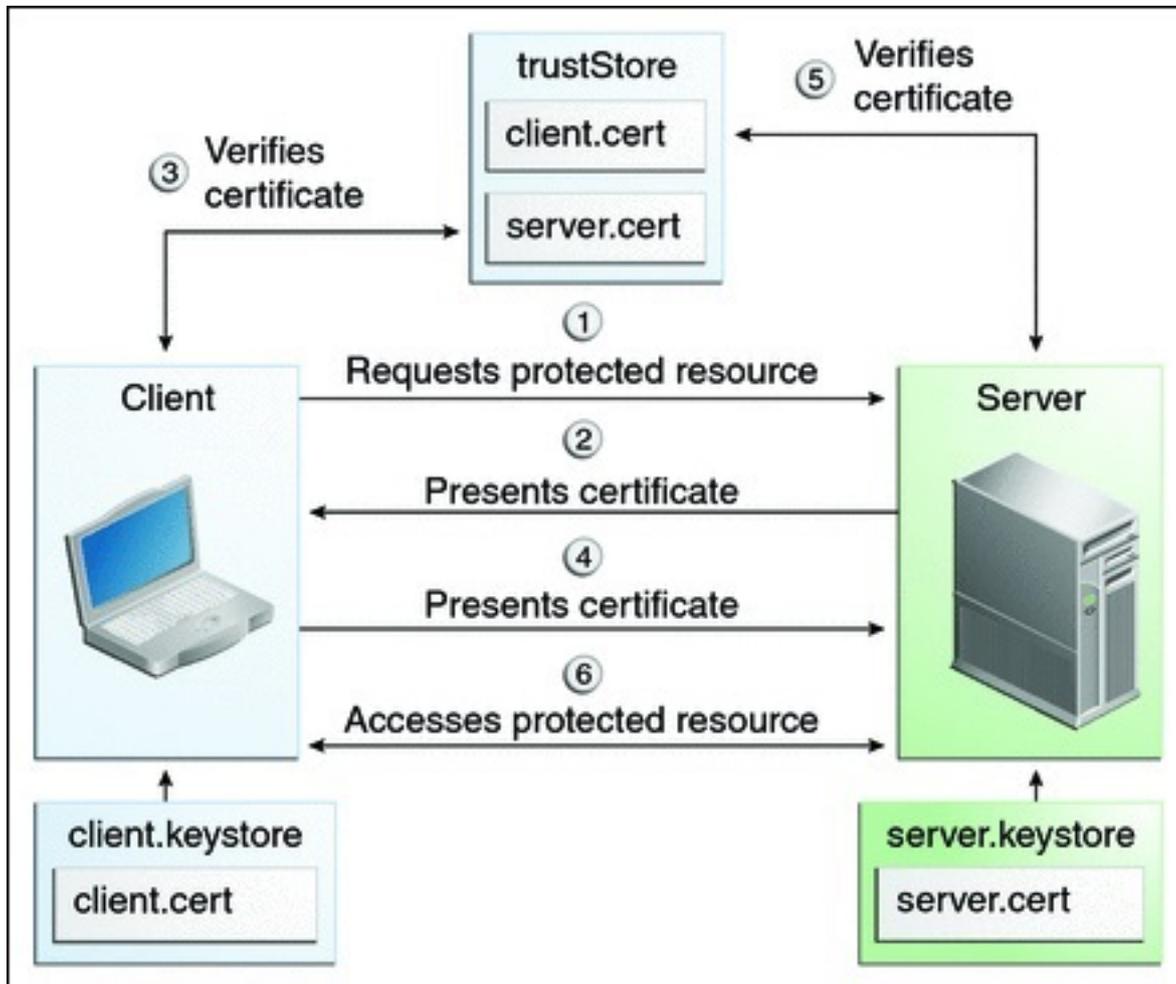
# 相互SSL認証の有効化

## 相互認証とは何ですか？

多くの人々が追加のセキュリティを期待しており、相互認証は通常、銀行や政府機関によって実装されているTerminal Service Plusで既にサポートされています。

それが何であるかを理解するために、標準のSSLプロセスと比較することができます。ここでは、ユーザーのウェブブラウザがSSL接続を許可しているかどうかを確認するための追加のチェックを追加します。あなたはサーバー側のSSL証明書が何であるかを知っています。この証明書が特定のウェブブラウザが接続を作成するために信頼されていることを保証するために、ウェブブラウザにインポートされていると想像してください。通信の最初のステップでは、ウェブブラウザはクライアントとして機能し、2番目のステップではその逆になります。最終的に、クライアントのウェブブラウザとウェブサーバーの両方が権限を受け入れ、接続を開始することができます。

より完全な定義: 相互SSL認証または証明書ベースの相互認証は、2つの当事者が提供されたデジタル証明書を確認することによって互いに認証し合うことを指し、両者が相手の身元を保証されることを意味します。技術的には、クライアント(ウェブブラウザまたはクライアントアプリケーション)がサーバー(ウェブサイトまたはサーバーアプリケーション)に対して自らを認証し、そのサーバーも信頼された証明書機関(CA)によって発行された公開鍵証明書/デジタル証明書を確認することによってクライアントに対して自らを認証することを指します。認証はデジタル証明書に依存するため、VerisignやMicrosoft Certificate Serverなどの認証機関は相互認証プロセスの重要な部分です。



## TSplusでのアクティベーション

TSplusの組み込みウェブサーバーは、相互認証の設定を可能にします。

相互認証を有効にするには、このプロセスに従ってください。

最新のJava Development Kit (JDK)をインストールする必要があります。入手先は <http://java.com> > ダウンロード > JDK.

1. Notepadを使用して以下のファイルを作成および編集します: C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webserver\settings.bin

これらの3行を追加してください：

```
disable_http_only=true disable_print_polling=true force_mutual_auth_on_https=true
```

2. cert.jksを削除する

「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webserver」にファイルcert.jksが表示されます。それを「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients」にコピーしてください。「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webserver\cert.jks」を削除します。

### 3. バッチファイルを作成する

'C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients'にバッチファイルを作成します。例えば、「createcertuser.bat」という名前で、これらの設定を使用します。

```
@rem 次の行のコメントを解除すると、新しい自己署名証明書を生成できます cert.jks @rem
keytool -genkey -v -alias jwts -keyalg RSA -validity 3650 -keystore cert.jks -storepass secret -
keypass secret -dname "CN=localhost, OU=my_ou, O=my_org, L=my_city, ST=my_state, C=MY"
@keytool -genkey -v -alias AliasUser1 -keyalg RSA -storetype PKCS12 -keystore
forBrowserUser1.p12 -dname "CN=some_name, OU=some_ou, O=some_org, L=Paris, ST=FR,
C=FR" -storepass mypassword -keypass mypassword @keytool -export -alias AliasUser1 -
keystore forBrowserUser1.p12 -storetype PKCS12 -storepass mypassword -rfc -file
forCertUser1.cer @keytool -alias AliasCertUser2 -import -v -file forCertUser1.cer -keystore
cert.jks -storepass secret @del forCertUser1.cer
```

これは、ブラウザのキーペアを作成した後に、ウェブブラウザから「cert.jks」に証明書キーのペアを自動的にインポートします。

### 4. 新しく作成された修正された「cert.jks」を復元する

"C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\cert.jks"を"C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webserver"にコピーし、Webサーバーを再起動します。

### 5. 証明書のインポートとテスト

提供されたバッチ例は、テストファイル「BrowserUser1.p12」を生成するはずですが、HTTPSアドレスを開くと、セキュリティメッセージが表示され、Webサーバーページにアクセスできなくなります。ChromeまたはIEを使用している場合は、この「BrowserUser1.p12」ファイルをクリックして、証明書をWindowsのデフォルトキーストアにインポートできます。Firefoxを使用している場合は、設定に移動し、証明書フォルダーの下にこの「BrowserUser1.p12」ファイルをインポートする必要があります。

正しくインポートが完了すると、HTTPSアドレスにアクセスできるようになります。

管理者は各ユーザーのために別々のキー ペアファイルを作成できます。

例えば:

```
forBrowserUser1.p12 forBrowserUser2.p12 forBrowserUser3.p12
```

彼はこれらの証明書をcert.jksにエクスポートできます。もし彼が1人のユーザーのアクセスを無効にしたい場合は、そのユーザーを「cert.jks」から削除するだけです。そうすることで、そのユーザーは権限を失い、ウェブサーバーにアクセスできなくなります。

この相互認証はHTTPS接続のみに影響し、コマンドラインでHTTP接続は禁止されます:  
settings.bin>disable\_http\_only=true



# クライアント側のファイルを開く

## 概要

この機能は強力です。ファイル拡張子に応じて、サーバー上にあるドキュメントをクライアント側で開くことができます。

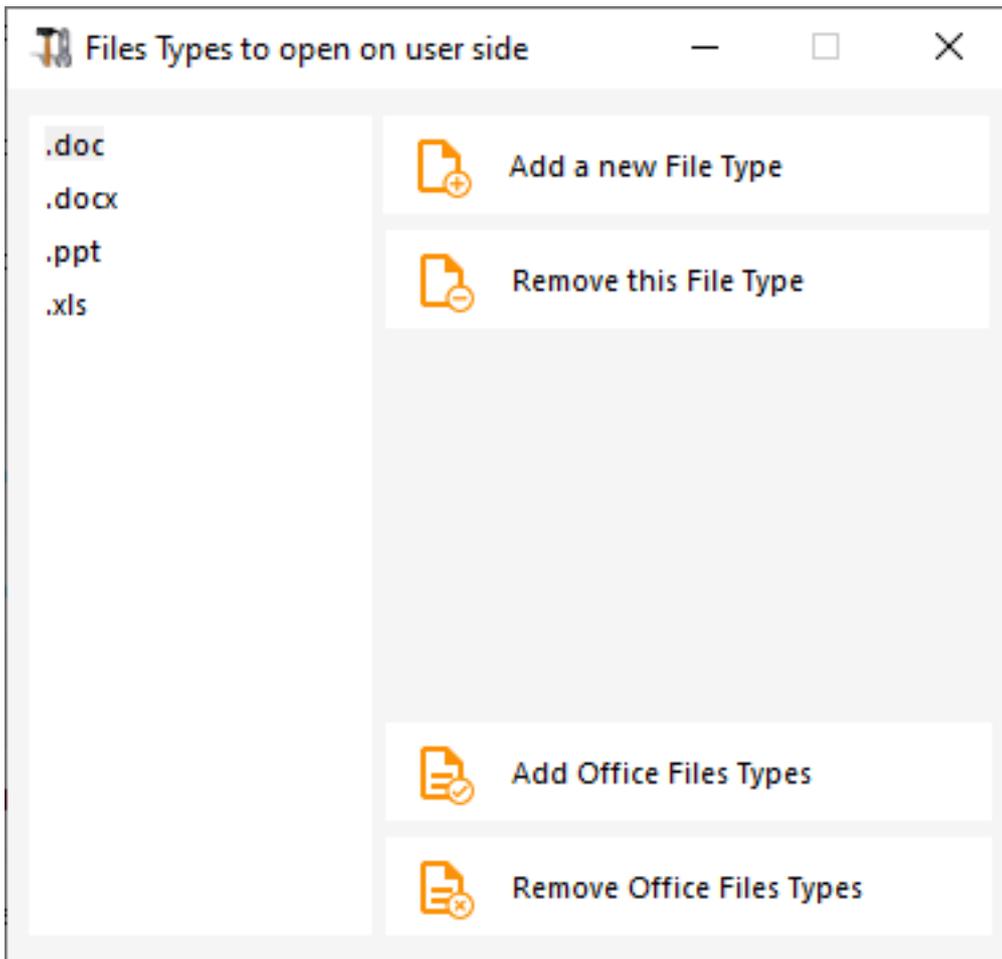
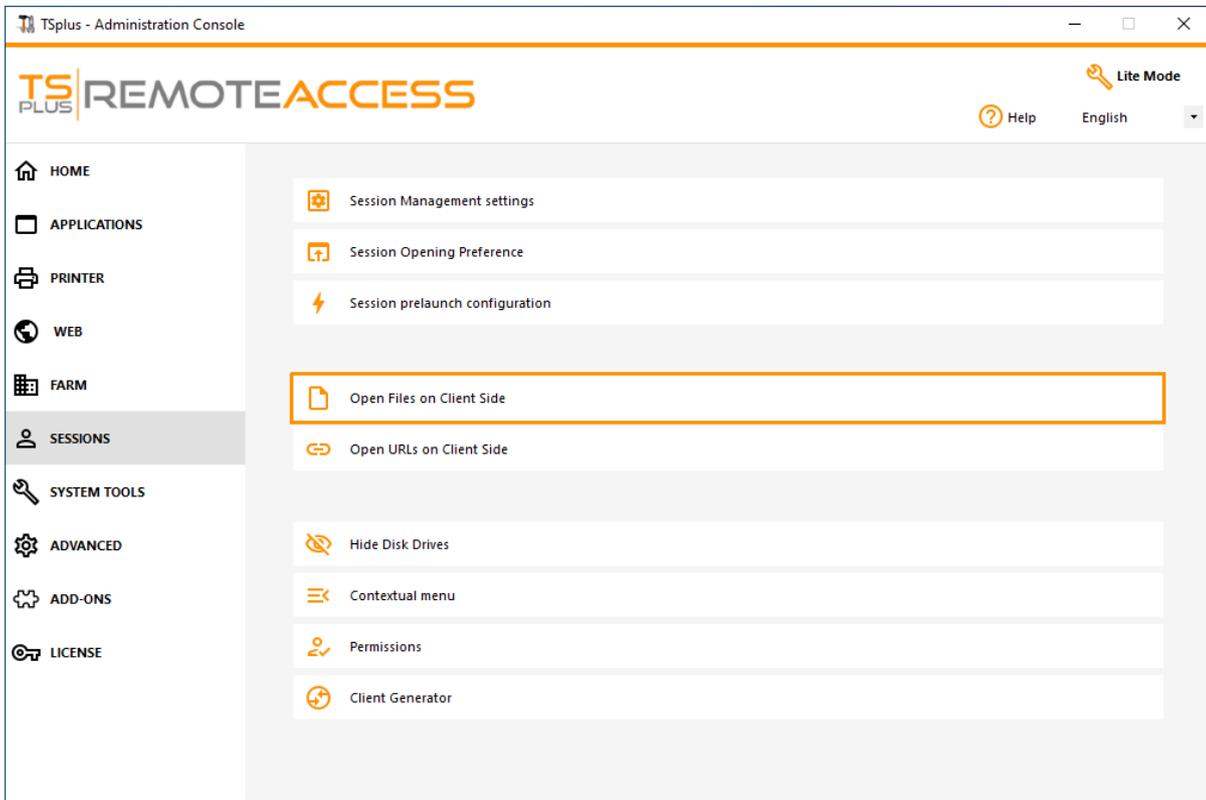
たとえば、サーバーにOfficeがインストールされていなくても、**Microsoft Office Word**文書を開くことができます。

ユーザー側で.local Officeを使用して開くために、.docx ( または.xlsx ) ドキュメントが自動的にアップロードされます。

アプリケーションをクラウドサーバーでホスティングしていて、アプリケーションがExcel、Access、またはWordドキュメントを生成している場合、この機能はサーバー上のOfficeライセンスを気にする必要がなくなります。

## クライアント側で開くファイルタイプの設定

「クライアント側でファイルを開く」というタイトルは、AdminToolの「セッション - 設定」タブにあります。それをクリックすると、設定ウィンドウが表示されます。



「新しいファイルタイプを追加」ボタンを使用すると、リストに拡張子（例えば「.docx」な

ど、Microsoft Office Word 2007-2010用 ) を追加できます。

このリストにある拡張子を持つすべてのファイルは、クライアント側で開かれます。 、ただし、Terminal Service Plus接続クライアントのいずれかを使用する場合:

- [生成された Terminal Service Plus クライアント \(RemoteApp または RDP\)](#)
- ターミナルサービスプラスWebポータルからの任意のWindows接続
- [Terminal Service Plus Web Portalからの任意のHTML5接続](#)

警告: この機能はサポートされていません:

- 任意のRDPクライアント ( 例えばmstsc )

## トラブルシューティング

クライアント側で開くように設定されたファイルタイプが機能していない場合 ( つまり、ファイルが自分のコンピュータでまだ開かれている場合 )、Windowsコンテキストメニューの「プログラムから開く」リストを確認することをお勧めします。

- ファイルを右クリックします。
- 「開く」メニュー項目をクリックしてください。
- このリストにアプリケーションが複数ある場合は、「既定のプログラムを選択」をクリックし、「OpenOnClient.exe」を選択してください。

このTerminal Service Plusの素晴らしいツールは、コンピュータを使用しているすべてのユーザーにその設定を適用しますが、以下のルールに留意してください。

- Windowsは各ユーザーがこのデフォルトのオープニングプログラムを自分の選択した別のプログラムに変更することを許可しています。
- HTML5接続クライアントを使用すると、ファイルはローカルブラウザによってダウンロードおよび管理されます。一部のブラウザは特定の方法でファイルタイプを扱うため、ブラウザの設定も二度確認する必要があります。

これらのルールは、Open On Client機能を使用する際のほとんどの問題を説明しています。そのため、デフォルトプログラムを確認することから始めることをお勧めします。

- サーバー上のログインユーザー用
- クライアントのユーザー向け
- クライアントのブラウザ用 ( HTML5を使用する場合 )



# クライアント側でURLを開く

## 概要

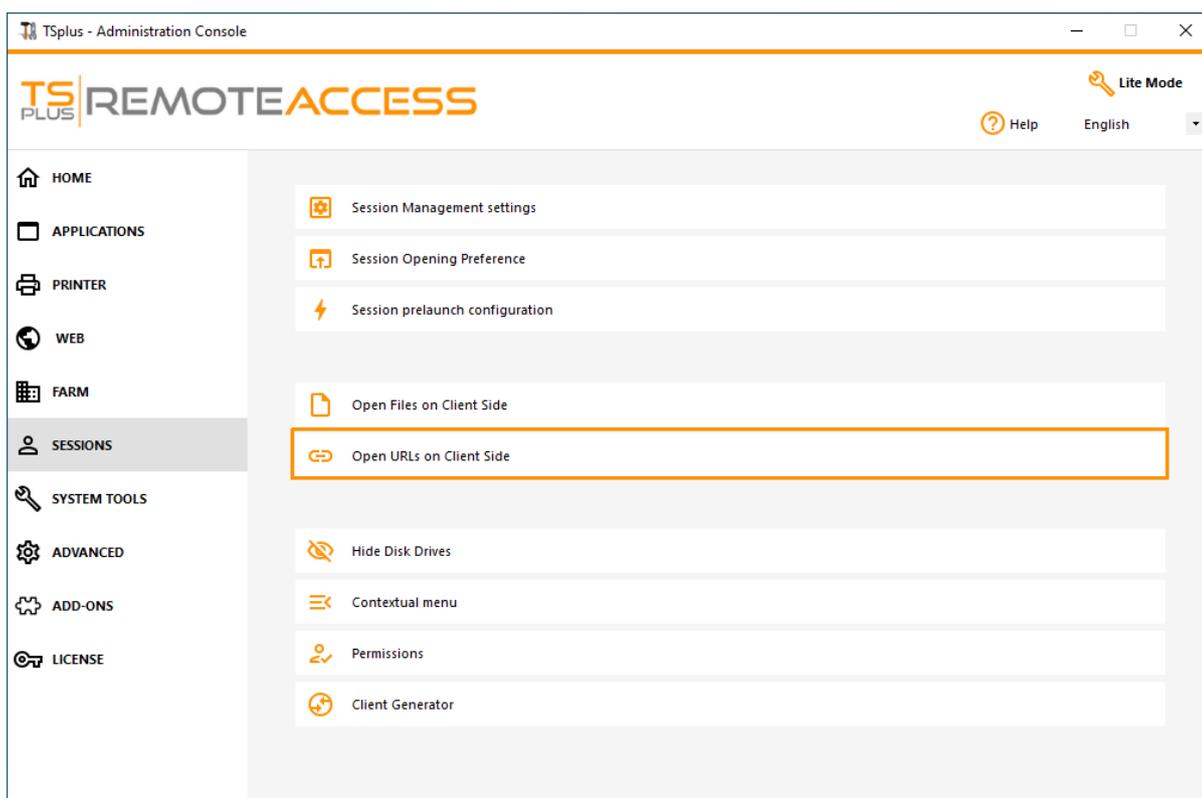
この機能は強力です。サーバー上にあるすべてのウェブサイトのリンクやウェブサイトのショートカットをクライアント側で開くことができます。

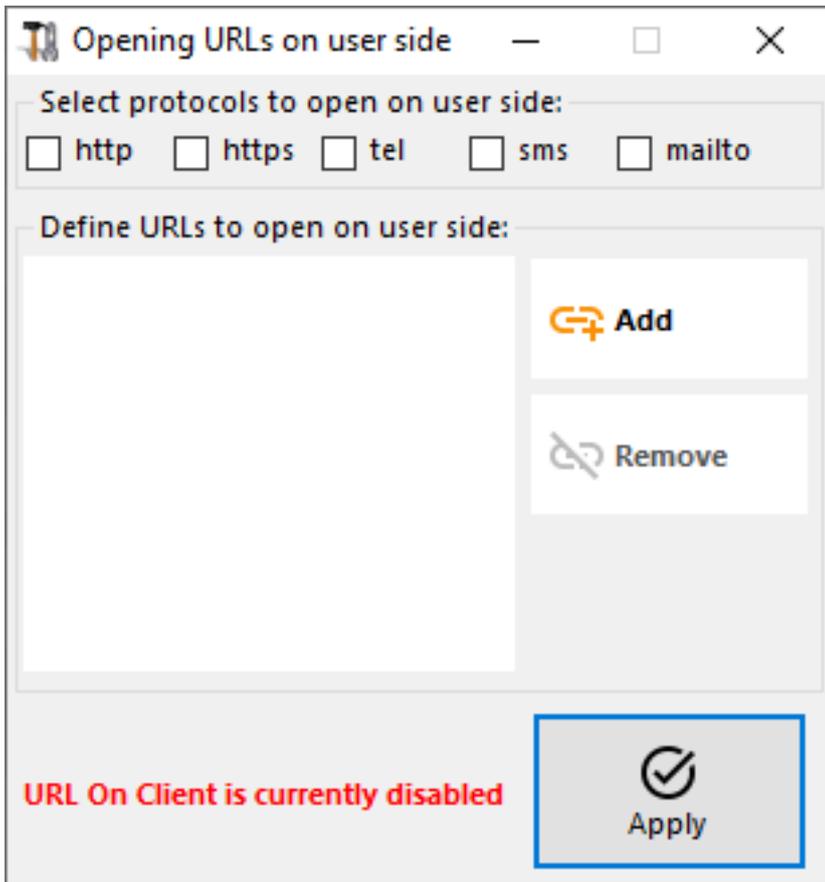
クライアント上でYouTubeの動画を直接開くことができるため、サーバーの帯域幅とCPUパワーを大幅に節約できます。

ウェブアドレス ( URL ) は自動的にユーザー側に転送され、ローカルのデフォルトブラウザが使用されて開かれます。

## この機能をサーバーで有効にする

「クライアント側でURLを開く」タイルは、AdminToolの「セッション - 設定」タブにあります。それをクリックすると、設定ウィンドウが表示されます。





Httpおよびhttpsプロトコルのボックスはデフォルトでチェックされていません。  
tel、sms、mailtoプロトコルに対応するボックスにチェックを入れることで有効にすることもできます。

次に「適用」ボタンをクリックすると、この機能をサーバー上のすべてのユーザーに対して有効にすることができます。

この機能を完全に有効にするためには、すべてのユーザーがこの機能を使用する前にセッションを再起動する必要があります（ログオフしてから再ログイン）。

すべてのウェブリンクとショートカットはクライアント側で開かれます。ただし、Terminal Service Plus接続クライアントのいずれかを使用する場合：

- [生成された Terminal Service Plus クライアント \(RemoteApp または RDP\)](#)
- ターミナルサービスプラスWebポータルからの任意のWindows接続
- ターミナルサービスプラスWebポータルからの任意のHTML5接続。

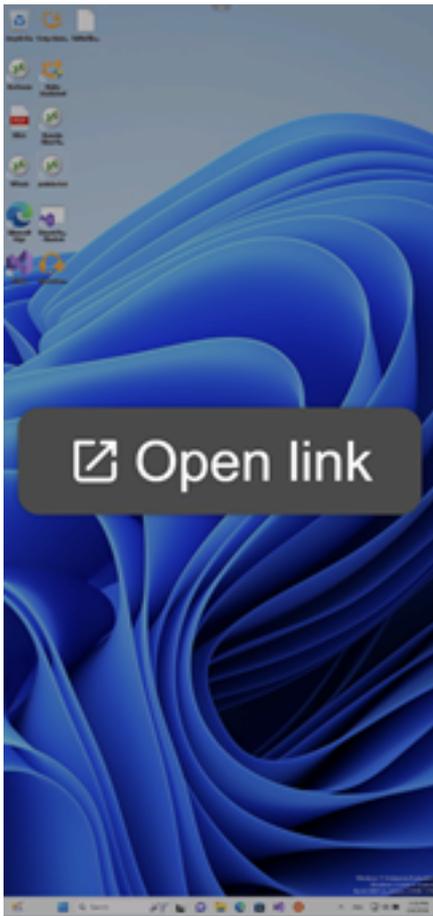
**警告：** この機能はサポートされていません：

- 任意のRDPクライアント（例えばmstsc）。

**ウェブブラウザの動作（ウェブポータル）：**

一部のウェブブラウザ、特にiOSデバイスでは、アプリケーションから自動的にリンクを開くこ

とができません。このような場合、ユーザーが手動で目的の場所にアクセスできるように、クリック可能なリンクが表示されます。



## サーバーのデフォルトウェブブラウザを変更する

クライアント側で開くように定義されていないすべてのURLは、Microsoft EdgeまたはInternet Explorerを使用してサーバー側で引き続き開かれます。サーバー側で使用するデフォルトのWebブラウザを変更したい場合は、設定ファイルを編集する必要があります。

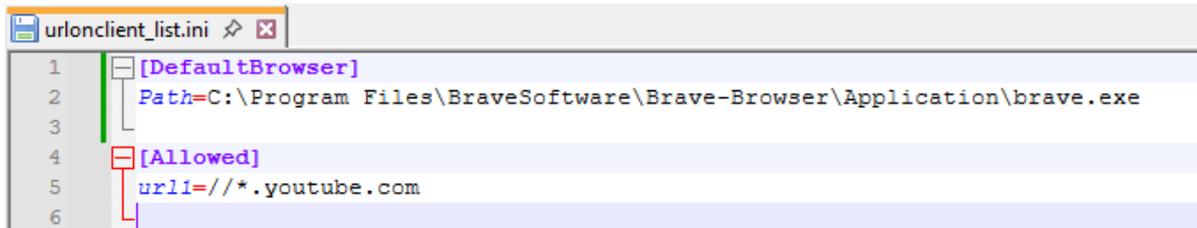
**urlonclient\_list.ini** TSPlusのインストールフォルダーにあります。

正確な場所 ( 正確なインストールパスに依存 ) は次のとおりです : C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\urlonclient\_list.ini .

新しいセクション「DefaultBrowser」をファイルに追加し、「Path」というエントリを、使用したいウェブブラウザのパスの値で設定する必要があります。次のように:

[DefaultBrowser]

Path=C:\Path\To\Your\Favorite\WebBrowser.exe



```
urlonclient_list.ini
1 [DefaultBrowser]
2 Path=C:\Program Files\BraveSoftware\Brave-Browser\Application\brave.exe
3
4 [Allowed]
5 url=//*.youtube.com
6
```

Braveをデフォルトブラウザに設定する

c:\wsession\URLonClient.exeをfirefox.exeの代わりに置き換えた場合

サーバー側でFirefoxをデフォルトのウェブブラウザにしたい場合：

- 古い firefox.exe ファイルの名前を firefox-real.exe に変更します。
- 新しい実行可能ファイル名を使用してください **urlonclient\_list.ini** ファイル：

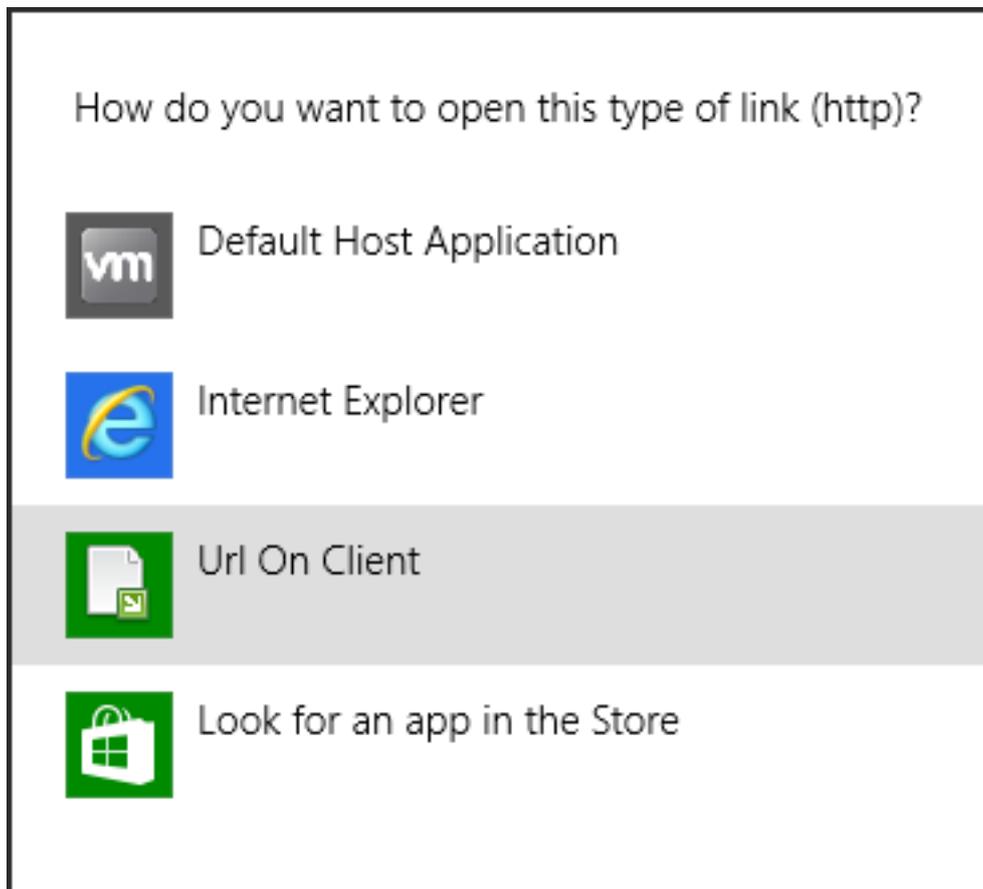
[DefaultBrowser]

Path=C:\Program Files\Mozilla Firefox\firefox-real.exe

## Windows 8 と 8.1

Windows 8以降、Microsoftはユーザーのデフォルトブラウザの自動変更を禁止しました。

これが理由で、サーバーで機能が有効化されると、すべてのユーザーはデフォルトのブラウザを尋ねられたときに「クライアントのURL」を選択する必要があります。



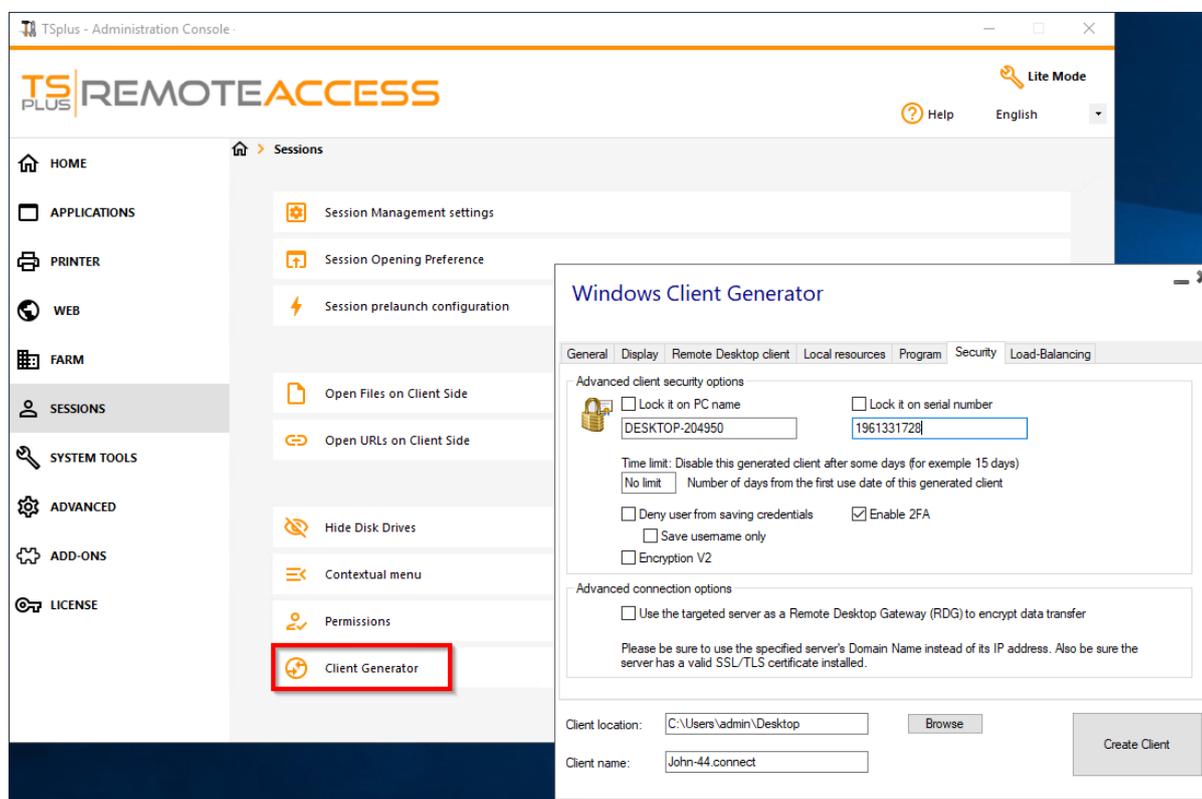
このウィンドウは、ユーザーがウェブリンクを初めて開いたときにのみ表示されます。残念ながら、これはMicrosoft Windowsのポリシーであり、回避策については把握していません。

# ポータブルクライアントジェネレーター

TSplusはデフォルトでポータブルクライアントジェネレーターのアイコンを作成します。



管理ツールのセッションタブでもアクセスできます。



ユーザーのデスクトップやUSBメモリにコピーしてポータブル使用できる2種類の接続クライアント

ントを作成することができます。

注意 接続クライアントはMacコンピュータと互換性がありません。

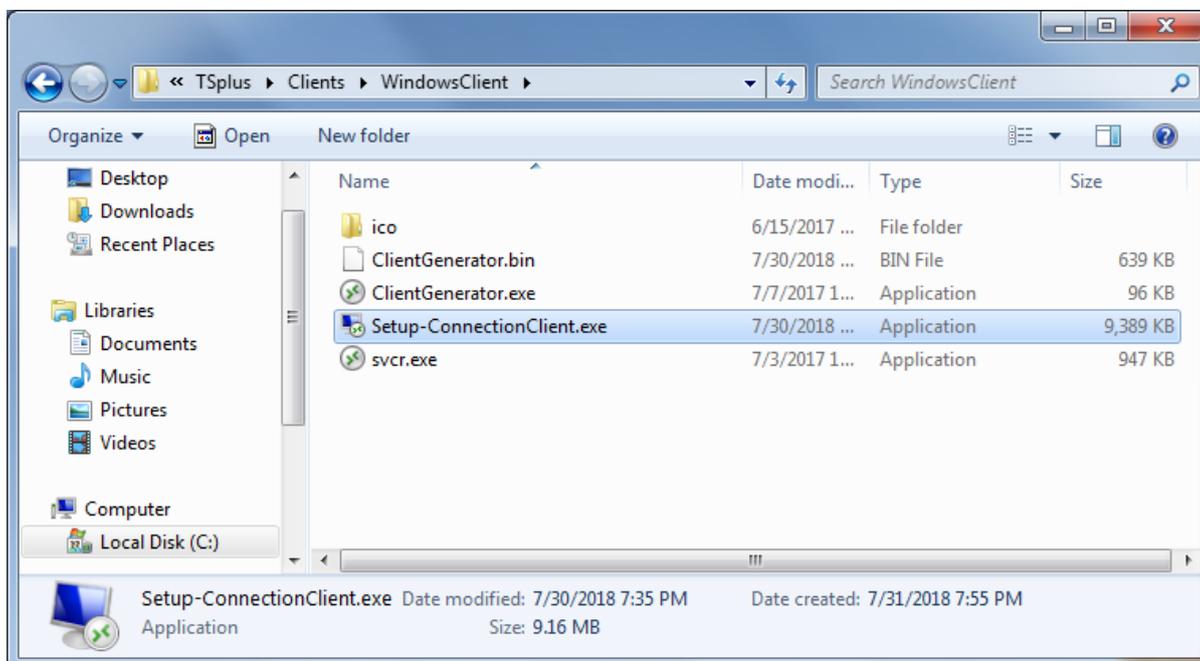
TSplus 11.40のリリース以来、クライアントジェネレーターは数値的に署名されるように再設計され、誤検知のあるウイルス対策ソフトウェアの反応を回避するようになりました。

新しいクライアントジェネレーターは、「.exe」プログラムの代わりに、「.connect」拡張子のフラットな暗号化ファイルを作成しています。

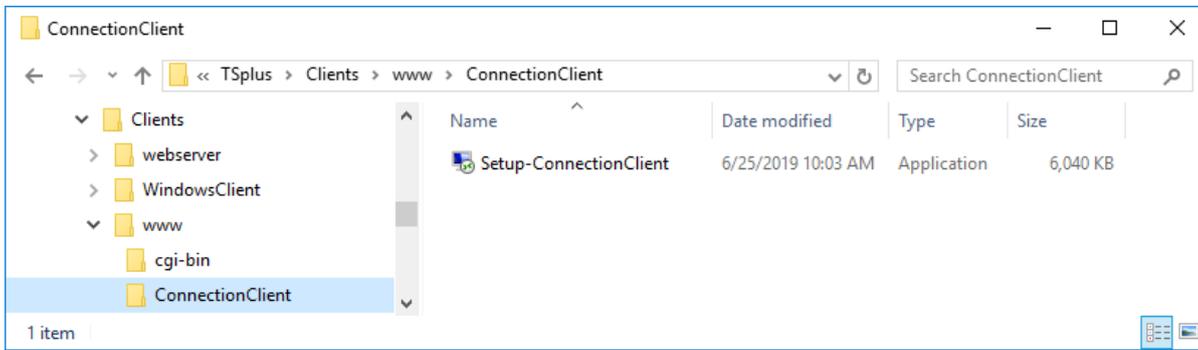


## クライアント側の前提条件

クライアント側では、各ユーザーが「Setup-ConnectionClient.exe」という署名されたプログラムを前提条件として実行する必要があります。このプログラムは、サーバーのTSplusプログラムフォルダーにあります: TSplus\Clients\WindowsClient:



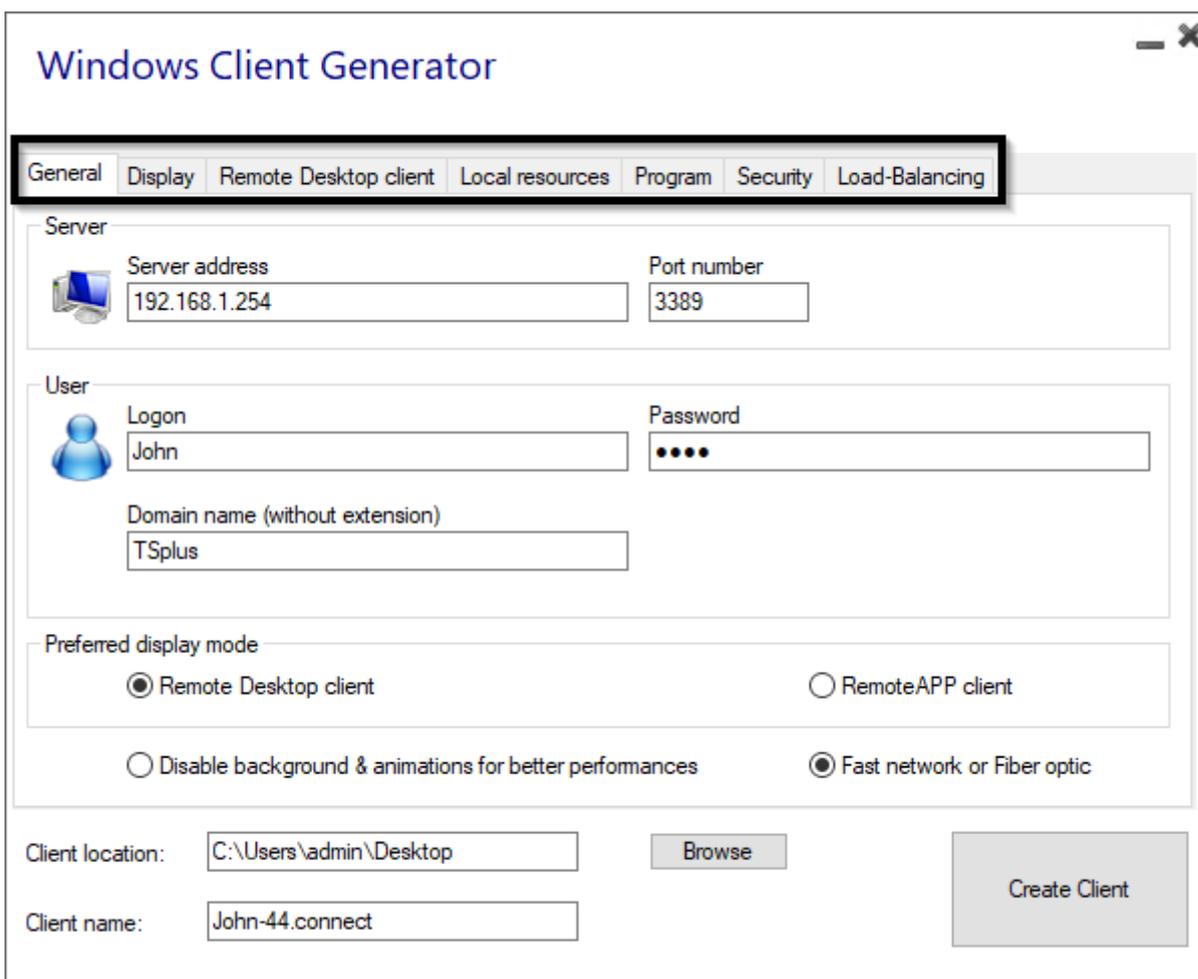
または TSplus\Clients\www フォルダー内で:



または [ダウンロードする](#) .

## 詳細な概要

クリックして タブ 対応する情報に移動するには:



クライアントジェネレーターを起動すると、最初に表示されるタブは一般タブです。ここでは、開始するために必要なすべての基本的な接続設定が見つかります。

- **サーバーアドレス:** クライアントが接続したいサーバーのIPアドレスを入力してください。
- **ポート番号:** サーバーポート番号を入力してください。デフォルトは3389です。
- **ユーザー名とパスワード:** ユーザー名とパスワードを入力すると、クライアントプログラムは各セッションで再入力を求めません。

このログオンパスワードの保存をリセットするには、リモートデスクトップクライアントのショートカットを作成して編集し、追加する必要があります。リセットオン ターゲットフィールドの最後で切り替えます。

---

## 資格情報

- 資格情報を保存したくない場合は、ポータブルクライアントジェネレーターのログオンフィールドに「nosavecredential」と入力してください。
- ユーザー名、パスワード、ドメイン名を含むログオンウィンドウを表示したくない場合は、パスワードフィールドに「nopassword」と入力してください。
- 自動ログオンを有効にしたい場合は、ユーザー名フィールドに\*SSOを入力してください。クライアントプログラムは最初の接続時にユーザー名とパスワードを求めるだけです。この情報はユーザーのワークステーションに保存されるため、ユーザーは再度自分を特定する必要がありません。
- 現在のローカルユーザーの名前をセッションのログオンとして表示したい場合は、ログオンフィールドに\*\*または%USERNAME%を入力してください。

- 
- **ドメイン名:** ドメイン名がある場合は入力してください。
  - **表示モードの優先設定:** お好みの表示モードを以下のオプションから選択できます:
    - その クラシックリモートデスクトップ リモートセッション環境を表示しています。
    - その Microsoft RemoteApp 接続クライアント リモートアプリケーションをローカルにインストールされているかのように表示します。最小化されたアプリケーションに対してよ

り優れたグラフィックパフォーマンスを持っています。

---

- **ネットワーク速度** ネットワーク速度に応じて2つのオプションから選択できます。
- **低速ネットワーク用にバックグラウンド表示とグラフィックアニメーションを無効にします。**
- **光ファイバーまたは高速ネットワークのために、バックグラウンド表示とグラフィックアニメーションを有効にします。**
- **クライアントの場所:** 生成されたクライアントの場所を定義します。
- **クライアント名:** クライアントに好きな名前を付けることができます。

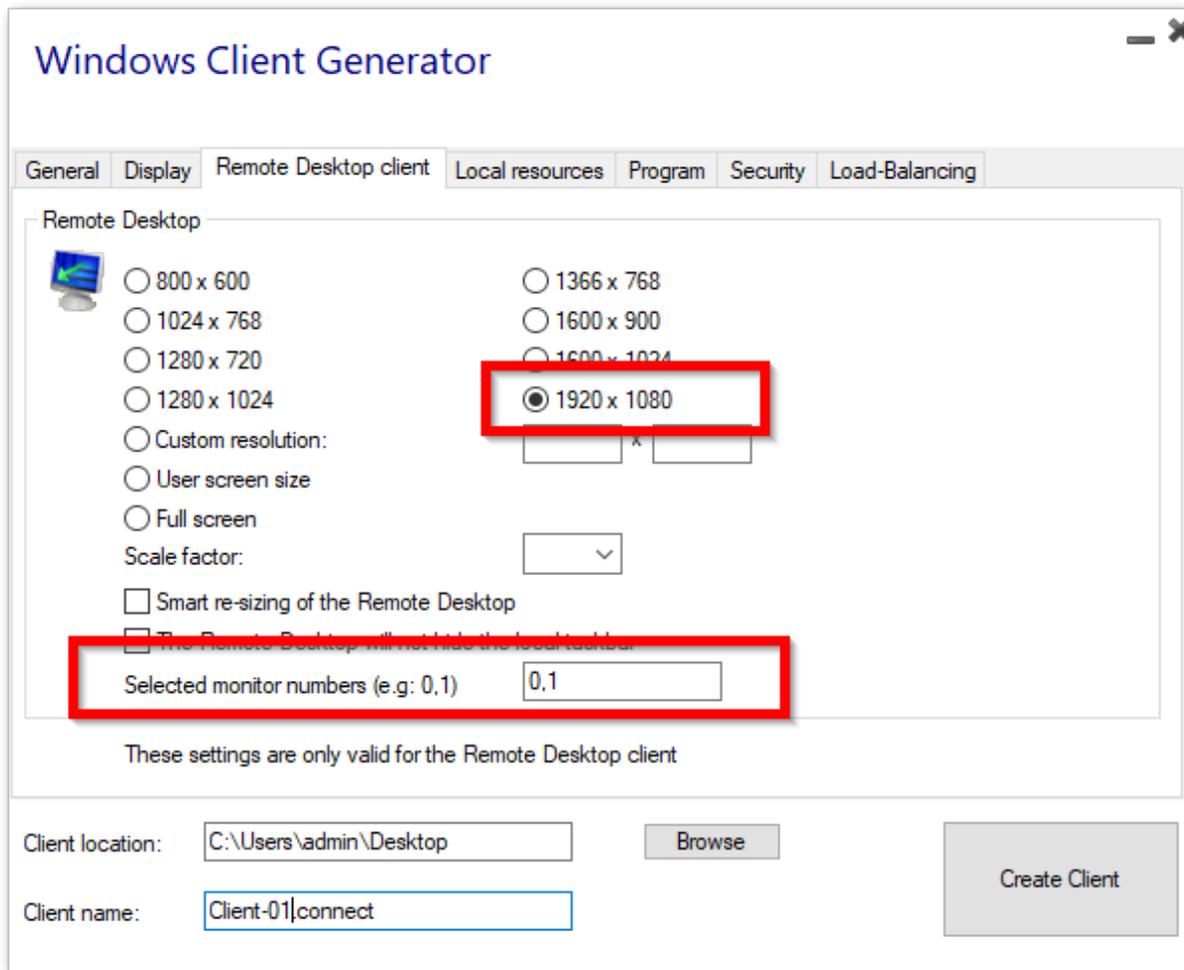
The screenshot shows the 'Windows Client Generator' application window. The 'Display' tab is selected, showing graphical settings. The 'Graphical settings' section includes four radio button options for color resolution: 15 bits, 16 bits (selected), 24 bits, and 32 bits. Below these are three checkboxes: 'Dual-screen', 'Span', and 'Enable shortcut keys'. A note states that these settings apply to all kinds of connection clients, including Remote Desktop and RemoteApp. At the bottom, there are input fields for 'Client location' (C:\Users\admin\Desktop) and 'Client name' (John-44.connect), along with 'Browse' and 'Create Client' buttons.

このタブでは、色とセッション画面の解像度を変更できます。

デュアルスクリーン用にセッションを適応させることもできます。スパンの有無にかかわらず、スパンオプションを使用すると、両方のスクリーンにセッションを広げることができます。

セッションでTABキーの使用を許可できます。

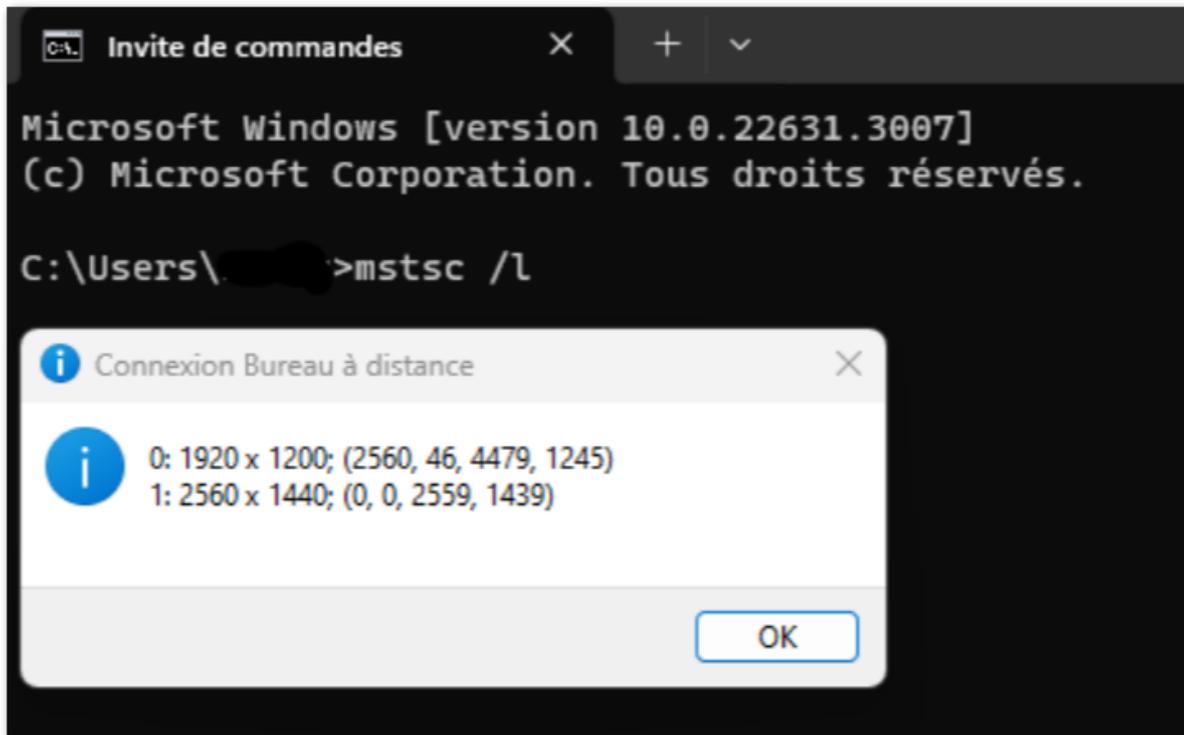
このタブでは、ユーザーに対して有効にしたい解像度を選択できます。



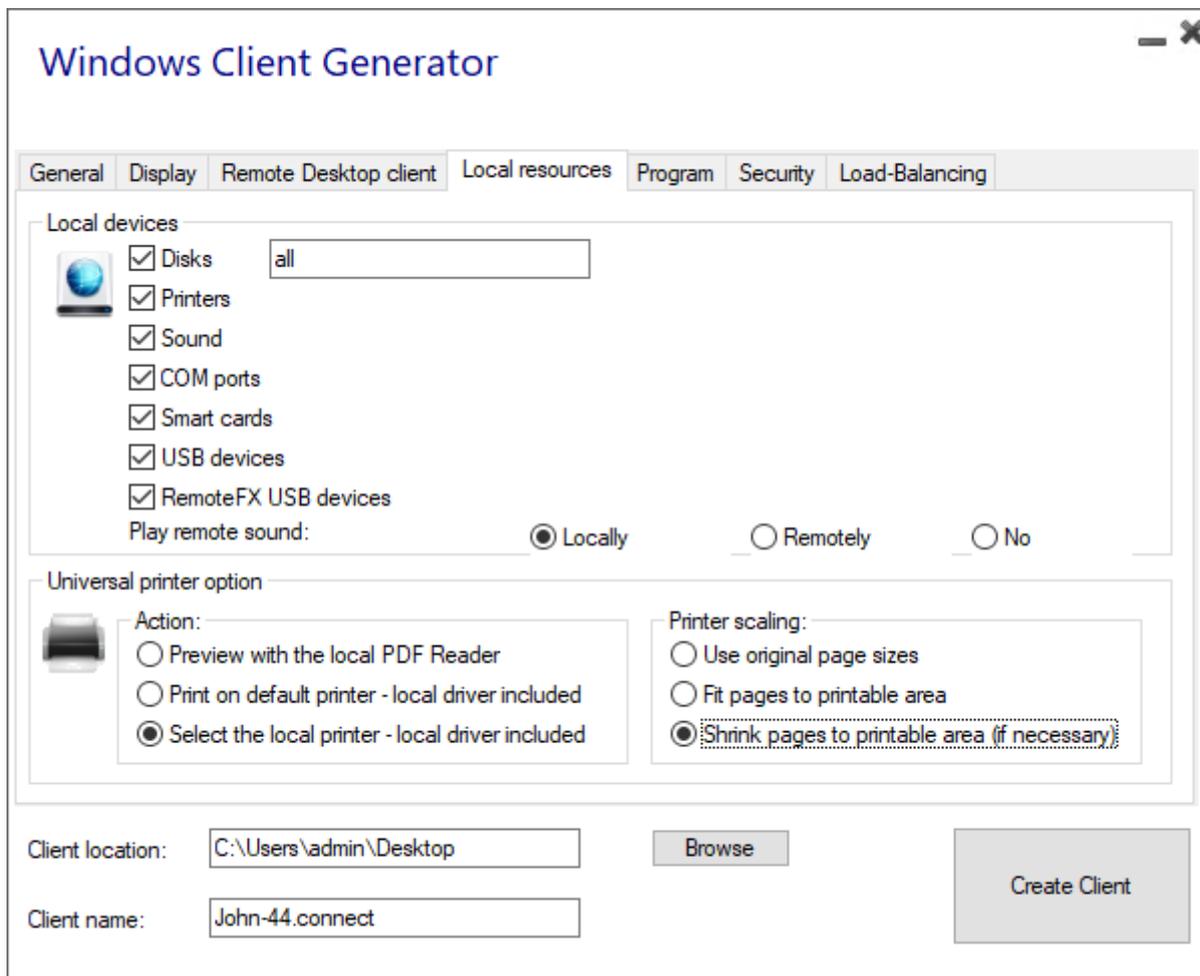
リモートデスクトップのスマートサイズを有効にするためにチェックボックスをオンにすることができ、リモートデスクトップがローカルタスクバーを隠したり重なったりしないようにしたい場合は、チェックを外すことができます。

### 画面選択オプション

これにより、RDPセッションで使用したいモニターを指定できます。フィールドには使用する画面番号のリストを入力する必要があります (カンマ、スペース、またはセミコロンで区切ります)。



画面番号を特定するには、コマンドを実行するだけです。“mstsc /l”



ローカルリソースタブは、リモートセッションでリダイレクトできるすべてのデバイスを集約します。

隣の編集可能なフィールド **ディスク ボックス**では、リモートセッションで利用可能なディスクを指定できます。ディスクの各文字 ( C:, E:... ) をカンマで区切るだけです。ディスクボックスがチェックされていて、指定されたディスクがない場合、すべてのディスクがリモートセッションに含まれます。

**プリンター** LPTポートに対応し、COMポートはシリアルポートに対応します。TSplus 11.50バージョン以降、これらのローカルデバイスはデフォルトで選択されます。

以下で、ユニバーサルプリンターを使用した印刷オプションを選択できます。

- **ローカルPDFリーダーのプレビュー:** ドキュメントはPDFとして表示され、ローカルのAcrobat Readerがファイルを開きます。ユーザーはそれを印刷するか、ローカルディスクドライブにコピーを保存できます。
- **ユーザーのデフォルトプリンターに印刷:** ドキュメントは自動的にユーザーのデフォルトプリンターに送信されます ( ローカル印刷ドライバーはTSplus接続クライアントに含まれています )。
- **ローカルプリンターを選択:** ユーザーは、ローカルプリンターの1つを選択できます ( ローカル印刷ドライバーはTSplus接続クライアントに含まれています )。

PDFリーダーがインストールされていない場合は、Foxit Readerの使用をお勧めします。

Windows Client Generator

General Display Remote Desktop client Local resources Program Security Load-Balancing

Startup program ?

We recommend to use the AdminTool to assign Application(s) to users or to groups. However, you can specify here after one application to be started at logon.

Path/Filename: C:\Program Files (x86)\Foxit Software\Foxit Reader\Foxit Updater.exe Browse

Start Directory: C:\Program Files (x86)\Foxit Software\Foxit Reader

Command line option:

Client location: C:\Users\admin\Desktop Browse

Client name: John-44.connect

Create Client

ポータブルクライアントジェネレーターを使用してスタートアップアプリケーションを設定し、そのパス、ディレクトリ、およびパラメータを指定できます。これは11.30リリース以降の機能です。

ただし、希望するアプリケーションを割り当てるためにAdminToolを使用することをお勧めします。

TSplusは、ユーザーの接続を安全に保つために、2つの追加の物理的セキュリティ層を提供します。

接続はUSBキーのIDにロックすることも、コンピュータ名にロックすることもでき、両方のセキュリティ層を同時に使用することもできます。

## 高度なクライアントセキュリティオプション

- **USBキーにロックされている場合** ユーザーは、USBキーを挿入し、管理者によってそこに配置された接続プログラムを使用することで、任意の適格なWindowsコンピュータから接続を開始できます。
- **コンピュータ名にロックされている場合** ユーザーは、そのユーザーのポータブルクライアント接続のためにサーバーに登録されたコンピュータからのみ、成功裏に接続できます。両方のセキュリティオプションが使用されている場合、ユーザーは特定のデバイスからのみ接

続き、正しい事前設定されたUSBキーが接続されている場合に限りです。

接続クライアントをUSBキーにロックするには、次の場所にあるクライアントジェネレーターをコピーすることで行えます: C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\WindowsClient

クライアントジェネレーターをダブルクリックし、セキュリティタブにあるシリアル番号ボックスのロックを確認してください。完了したら、USBキーからクライアントジェネレーターを削除できます。

新しく生成された接続クライアントはデスクトップに配置されますので、USBキーに戻すのを忘れないでください！その後、USBキーにコピーしたクライアントジェネレーターは削除できます。

The screenshot shows the 'Windows Client Generator' application window with the 'Security' tab selected. The 'Advanced client security options' section includes a lock icon and two checkboxes: 'Lock it on PC name' (checked) and 'Lock it on serial number' (unchecked). The PC name field contains 'DESKTOP-204950' and the serial number field contains '1961331728'. Below these are options for 'Time limit' (set to 'No limit'), 'Deny user from saving credentials' (unchecked), 'Save username only' (unchecked), 'Enable 2FA' (checked), and 'Encryption V2' (unchecked). The 'Advanced connection options' section has a checkbox for 'Use the targeted server as a Remote Desktop Gateway (RDG) to encrypt data transfer' (unchecked). A note at the bottom of this section reads: 'Please be sure to use the specified server's Domain Name instead of its IP address. Also be sure the server has a valid SSL/TLS certificate installed.' At the bottom of the window, the 'Client location' is 'C:\Users\admin\Desktop' and the 'Client name' is 'John-44.connect'. There are 'Browse' and 'Create Client' buttons.

- 定義できます **時間制限** 生成されたクライアントの初回使用日から、時間制限ボックスに値を入力することによって。（デフォルトでは「制限なし」に設定されています。）
- 下のボックスでは、あなたができることを示しています：
  - 生成されたクライアントの資格情報を保存する機能を表示しない。

- ユーザー名のみを保存します。
- 暗号化を使用 V2。

## 二要素認証のサポート

クライアントジェネレーターはサポートしています **二要素認証** バージョン 15.30.3.15 以降、二要素認証のサポートにはも必要です。 **モバイルウェブエディション以上** .

ご参照ください [二要素認証のドキュメントページ](#) TSplus Remote Accessのインストールでユーザーとグループのために二要素認証を設定および有効にする方法についての詳細情報。

以下の追加要件に注意してください。生成されたクライアントの二要素認証を有効にするために:

- 接続クライアントはHTTPSポートを使用してWebポータルに対して認証コードを検証します。したがって、 **ウェブポータルは稼働している必要があります** クライアントマシンからHTTPSポートを介してアクセス可能です。
- WebポータルのHTTPSポートが変更された場合、二要素認証を有効にした生成されたクライアントは再度生成する必要があります。以前に生成されたクライアントは、いかなる二要素認証の検証にも失敗します。

バージョン15.30.3.15以降、以前に生成されたクライアントおよび2FAサポートが有効になっていない新しいクライアントは、以前と同様に動作します。 **ユーザーが二要素認証を有効にしている場合、明示的な2FAサポートなしで生成されたクライアントを使用してログインしようとすると、ログインは拒否されます。** 二要素認証が不可能であるため、失敗します。

二要素認証のサポートを追加するには、**[チェックしてください] 2FAを有効にする** クライアントファイルを生成する前にチェックボックスを選択してください。その結果、Remote Accessアプリケーションサーバーに接続する際に二要素認証が検証されます。アプリケーションサーバーで二要素認証が有効になっていて、接続するユーザーが設定されていない場合、接続は拒否されます。

Windows Client Generator

General Display Remote Desktop client Local resources Program Security Load-Balancing

Advanced client security options

Lock it on PC name  Lock it on serial number

DESKTOP-204950 1961331728

Time limit: Disable this generated client after some days (for example 15 days)

No limit Number of days from the first use date of this generated client

Deny user from saving credentials  Enable 2FA

Save username only

Encryption V2

Advanced connection options

Use the targeted server as a Remote Desktop Gateway (RDG) to encrypt data transfer

Please be sure to use the specified server's Domain Name instead of its IP address. Also be sure the server has a valid SSL/TLS certificate installed.

Client location: C:\Users\admin\Desktop Browse

Client name: John-44.connect Create Client

生成されたクライアントに後から2FAサポートを追加することはサポートされていないことに注意してください。たとえば、生成された.connectファイルに対してコマンドラインを通じて2FAサポートを追加することはサポートされていません。

ユーザーが認証アプリでアカウントを設定すると、パスワードと認証アプリまたはSMSで提供されたコードを使用して接続できるようになります。

2FA authentication

Please enter your authentication code.

OK Cancel

## 高度な接続オプション

対象のサーバーが特定のアクセス可能なドメイン名を持ち、有効なSSL/TLS証明書がインストールされている場合、「データ転送を暗号化するために対象のサーバーをリモートデスクトップゲートウェイ ( RDG ) として使用する」を有効にできます。

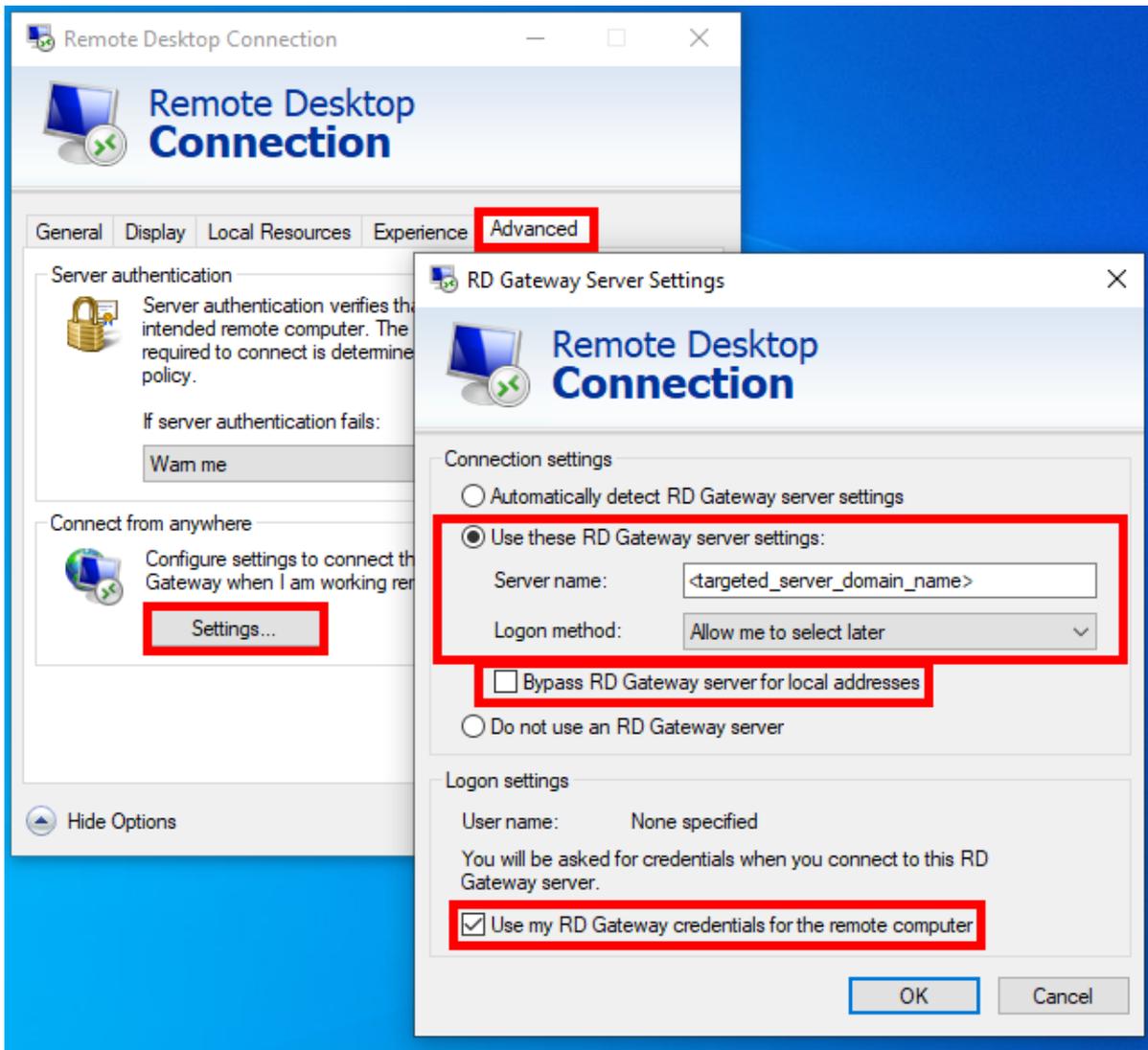
このオプションは、接続中にRDPデータ転送をTLSカプセル化を使用して暗号化し、データ暗号化の観点からVPNの代替として適切なものにします。

## RDゲートウェイに接続するには、代わりにmstscを使用してください。

この機能は、上記の前提条件が満たされている場合、生成されたクライアントを使用せずにmstsc設定を通じて使用することもできます。

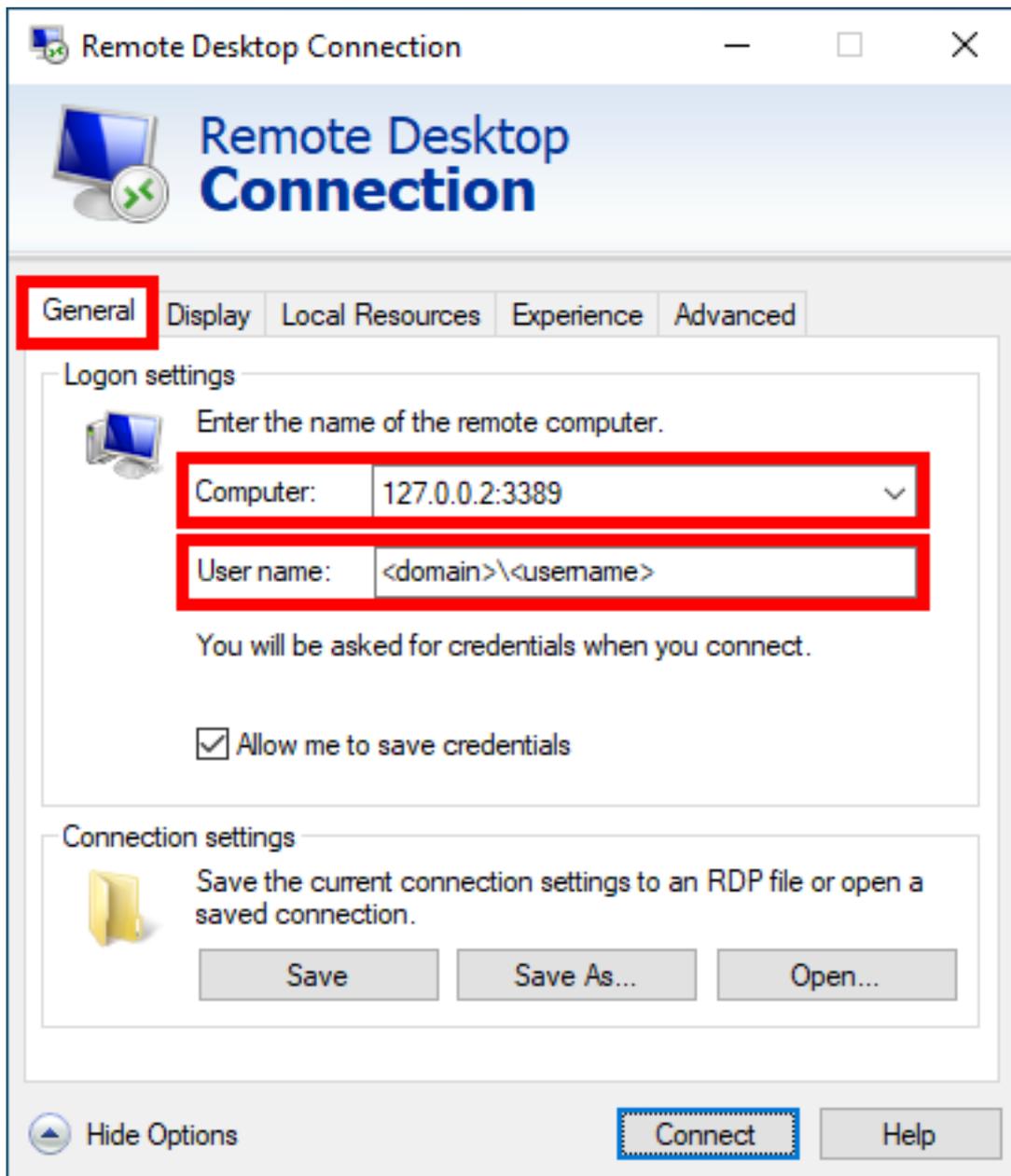
そのためには、まず「詳細」タブに移動し、「どこからでも接続」セクションで「設定」をクリックし、Remote Desktop Gatewayを構成します。

- 「これらの RD ゲートウェイ サーバー設定を使用する」オプションにチェックを入れる
- サーバー名を対象のサーバードメイン名 ( https://なし ) に置き換えます。
- ログオン方法「後で選択できるようにする」を選択しています
- 「ローカルアドレス用のRDゲートウェイサーバーをバイパスする」オプションのチェックを外す
- 「リモートコンピュータに対してRDゲートウェイの資格情報を使用する」オプションにチェックを入れる
- 「OK」をクリックしてこれらの設定を保存します



次に「一般」タブに移動し、：

- コンピュータ名を「127.0.0.2:3389」に置き換え、異なるポートを使用している場合はポート「3389」を変更してください。
- 接続したいユーザー名にユーザー名を置き換えてください（重要: ドメインの指定は必須です）
- 「接続」をクリックしてください



ファームの1つのサーバーに接続するために、負荷分散を有効にすることもできます。

「サーバーでロードバランシング機能を有効にしていない場合は、「ロードバランシングを使用する」ボックスをチェックしないでください。」

ゲートウェイWebポートを入力する必要があります。これは、ファーム内のすべてのサーバーで使用されるデフォルトのWebポートと同じである必要があります。

# Windows Client Generator

General Display Remote Desktop client Local resources Program Security **Load-Balancing**

Enable Load-Balancing ?

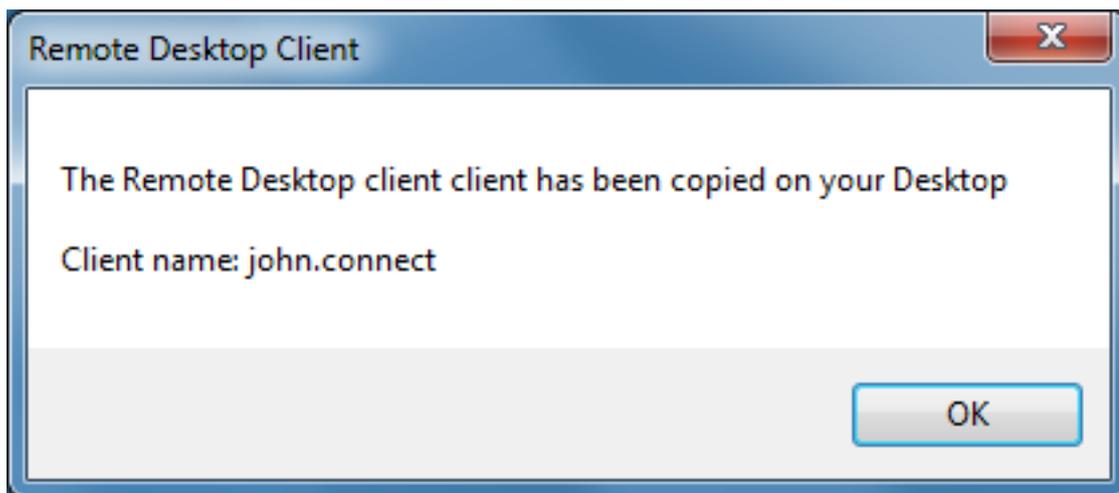
Use Load-Balancing    Gateway Web port number

When 'Use Load-Balancing' is checked, it enables using the Gateway with Load-Balancing to connect to an Application Server of the farm.

Prior using this advanced feature, please read our documentation

Client location:

Client name:



クライアントのカスタマイズが可能です。対応するドキュメントを参照してください。 [クライアントのアイコンを変更する方法](#) そして [パラメータを編集または削除する](#) .

クライアント側の接続クライアントのログを有効にするには、次のレジストリキーを追加します:

**HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Digital River\ConnectionClient “Debug”=“true”**

ログはC:\Usersにあります RDP6\logs ディレクトリは、インストールがユーザーごとの場合、または C:\Program Files (x86)\Connection Client\RDP6\logs ディレクトリは、すべてのユーザー用のインストールの場合です。

# TSplus Remote Accessの前提条件

## アーキテクチャシミュレーター

オンラインでアーキテクチャを構成して、私たちのソフトウェアとアドオンを選ぶ手助けをしてください。

### [TSplusアーキテクチャシミュレーター](#)



## 1. ハードウェア

TSplus Remote Access Serverの最小要件:

ユーザー数	Windows 2008から2025年または7から11 Pro
3 - 5	I5以上 1 CPU 2 GHZ 最小 : 4 GB RAM

	推奨 : 8 GB RAM
10	I5以上 1 CPU 2 GHZ 最小 : 8 GB RAM 推奨 : 16 GB RAM
25	1つのCPU I7 または Xeon 最小 : 16 GB RAM 推奨 : 32 GB RAM
50以上	32 GB デュアルCPU - システム専用のSSDディスク 最小 : 32 GB RAM 推奨 : 64 GB RAM

10年未満のCPUの使用をお勧めします。

RAMの使用量については、インストールされているOS、同時接続ユーザーの数、およびそれらに割り当てられたアプリケーションによって異なります。

各サーバー（物理または仮想）は、最大50人の同時ユーザーを処理できます。50人を超える同時セッションの場合は、TSplus Remote Access Enterprise Editionで利用可能な負荷分散機能を備えたサーバーファームの使用をお勧めします。

注意： あなたのハードウェアの正確な仕様は、アプリケーションが消費するリソース（CPU/RAM/ディスク）の種類によって異なります。

のみ x86 と x64 アーキテクチャがサポートされています。  
ARM32 と ARM64 アーキテクチャはサポートされていません。

## 2. オペレーティングシステム

あなたのハードウェアは以下のオペレーティングシステムのいずれかを使用する必要があります:

- ウィンドウズ 7 Pro
- ウィンドウズ 8/8.1 プロ
- ウィンドウズ 10プロ
- ウィンドウズ 11 Pro
- ウィンドウズ Server 2008 SP2/スモールビジネスサーバー SP2 または 2008 R2 SP1
- ウィンドウズ Server 2012 または 2012 R2
- ウィンドウズ サーバー 2016
- ウィンドウズ サーバー 2019
- ウィンドウズ サーバー 2022
- ウィンドウズ サーバー 2025

32ビットと64ビットのアーキテクチャの両方がサポートされています。

必要なフレームワークは .NET バージョン 4.7.2 すべてのサポートされているWindowsバージョン用。

リモートアクセス版	最小Windowsバージョン
19, LTS 18, LTS 17, LTS 16, LTS 15	Windows 7 サービスパック 1 Windows Server 2008 R2 サービスパック 1
LTS 14	Windows Vista Windows Server 2008

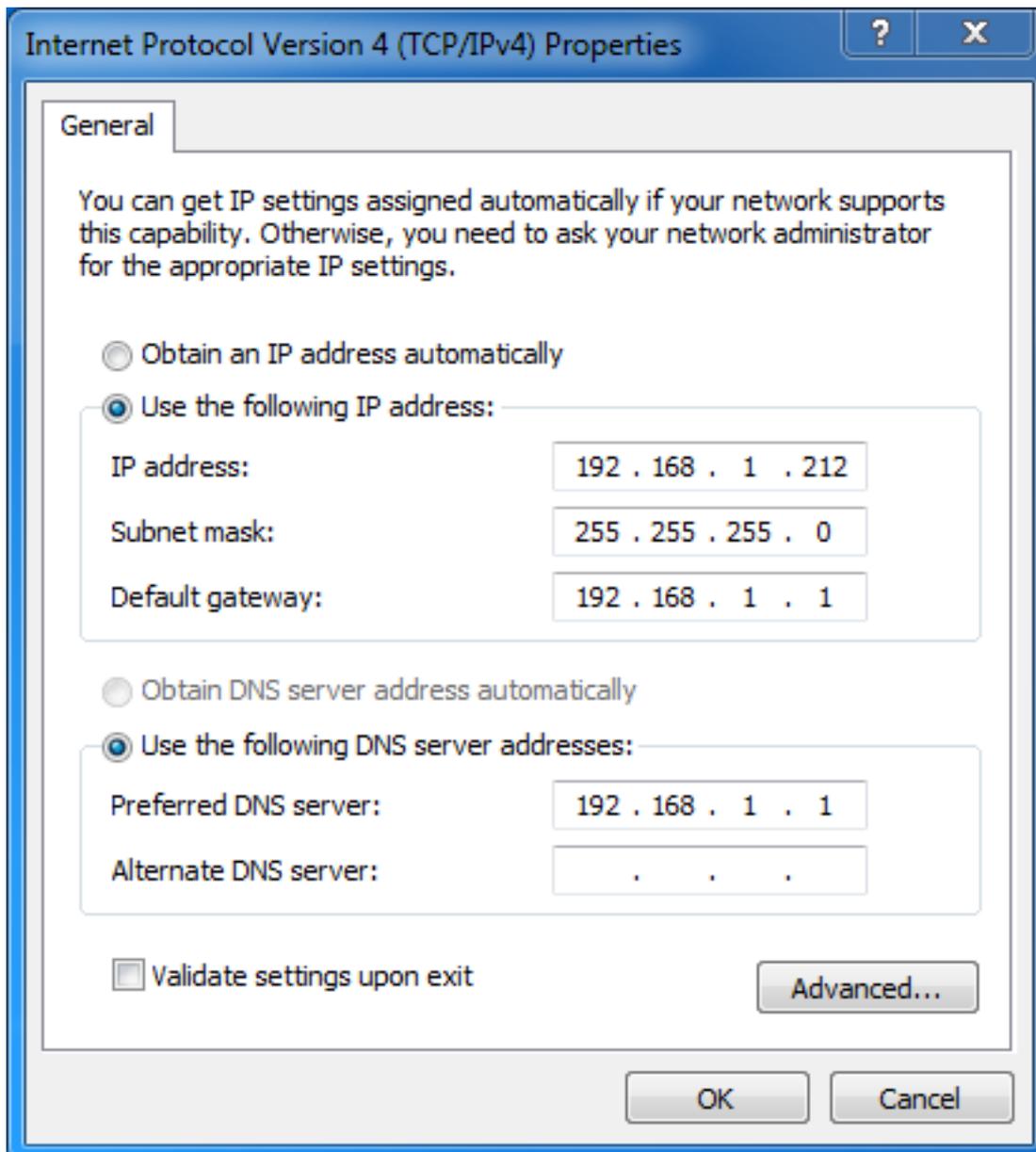
- Windows Server OSにRemote Accessをインストールする場合は、TSplus Remote Accessをインストールする前にRDS/Terminal ServicesおよびRDS/Terminal Services Licensingの役割がインストールされていないことを確認してください。

これらの役割が現在インストールされている場合は、それらを削除して再起動してください。

- Windows Home Editionsはサポートされていません。
- Windows Server 2016では、リモートデスクトップアクセスのために最大15セッションが許可されています。
- Windows Server 2016、2019、2022 Essentials Editionは、TSplus Remote Accessの使用にはサポートされておらず、推奨されていません。
- TSplus Remote Accessに組み込まれたWebサーバーが必要です **Java OpenJDK 17 以上** .

### 3. ネットワークパラメータ

リモートアクセスサーバーには静的プライベートIPアドレスが必要です。



広域ネットワーク (WAN) からのリモートアクセス

- ブロードバンドインターネット接続と静的なパブリックIPアドレスを推奨します。静的IPアドレスがない場合は、次のような動的DNSサービスの使用を検討してください。
- TCP RDPポート (デフォルトでは3389) は、ファイアウォールで双方向に開放する必要があります。

### 3. セキュリティ

2024年初頭以来、

TSplusは、信頼のチェーンにおけるLet's Encryptの変更に合わせて、自動SSL/TLS証明書生成メカニズムを更新しました。“DST Root CA X3” ルートが置き換えられました“ISRG Root X1”。

クライアントまたはワークステーションが新しい証明書を認識しない場合は、追加する必要があります。

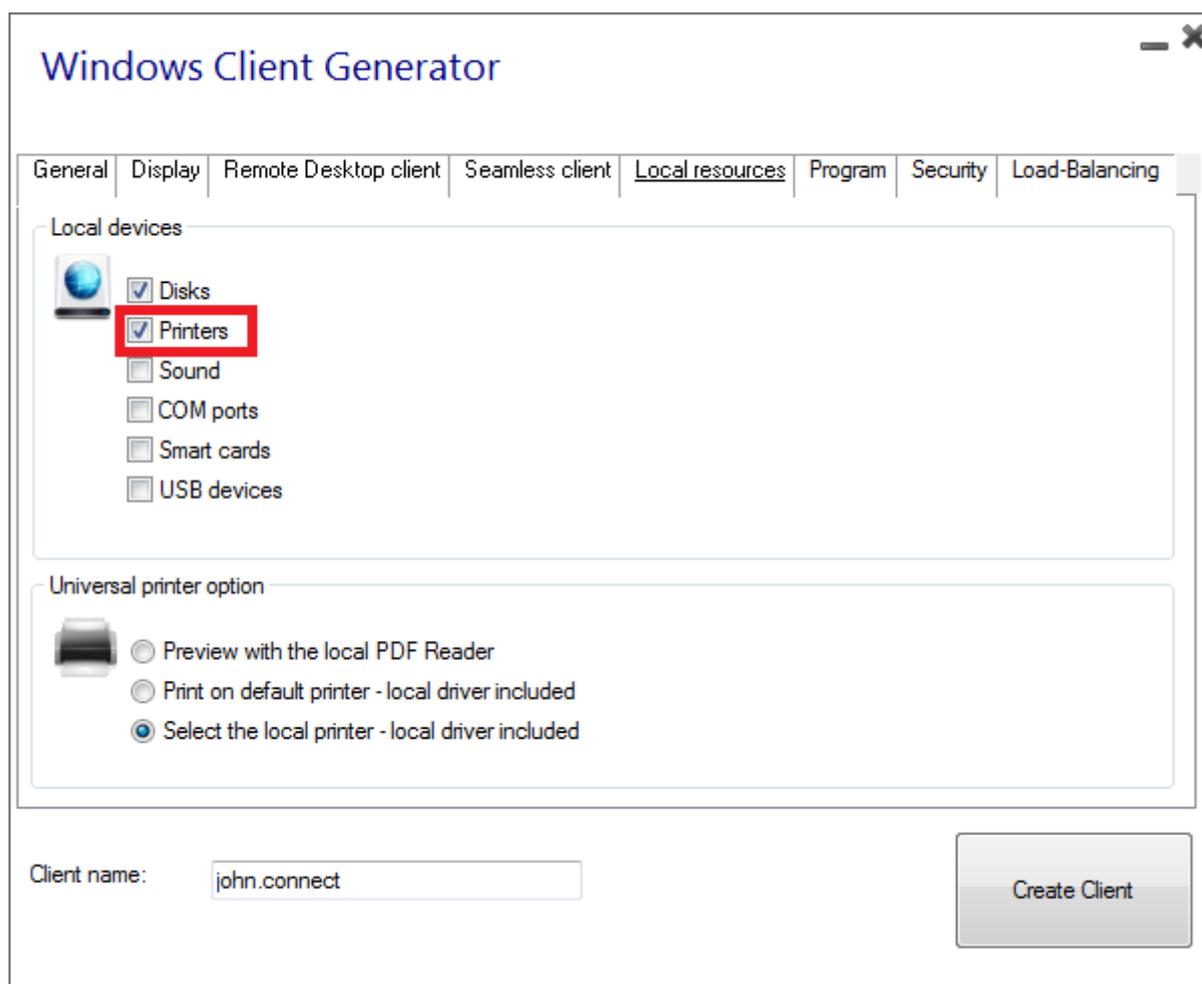
あるかもしれません。“**ISRG Root X1**” Windowsの信頼された証明書ストアに。

TSplusはワイルドカード証明書と連携し、安全なリモート接続のためにTLSプロトコルをサポートしています。

# 標準RDPプリンターマッピング機能を使用した印刷

これはリモートデスクトップユーザーによく使用されており、Microsoftターミナルサービスで持っているものと同等です。

エキゾチックプリンターを使用する予定がある場合は、クライアントジェネレーターのローカルリソースタブでプリンターのボックスにチェックを入れることを忘れないでください。



The screenshot shows the 'Windows Client Generator' application window. The 'Local resources' tab is selected, and the 'Printers' checkbox is checked and highlighted with a red box. The 'Client name' field contains 'john.connect' and the 'Create Client' button is visible.

Windows Client Generator

General | Display | Remote Desktop client | Seamless client | Local resources | Program | Security | Load-Balancing

Local devices

- Disks
- Printers
- Sound
- COM ports
- Smart cards
- USB devices

Universal printer option

- Preview with the local PDF Reader
- Print on default printer - local driver included
- Select the local printer - local driver included

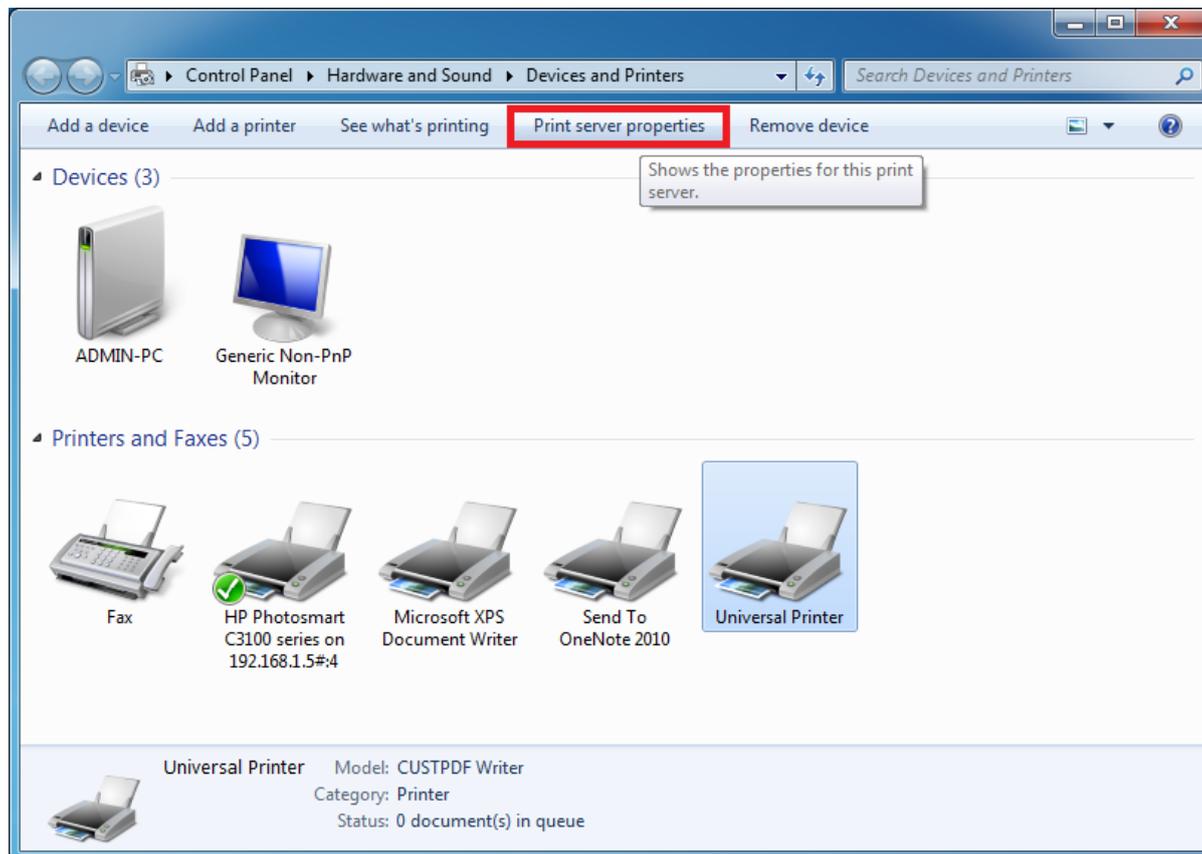
Client name:

Create Client

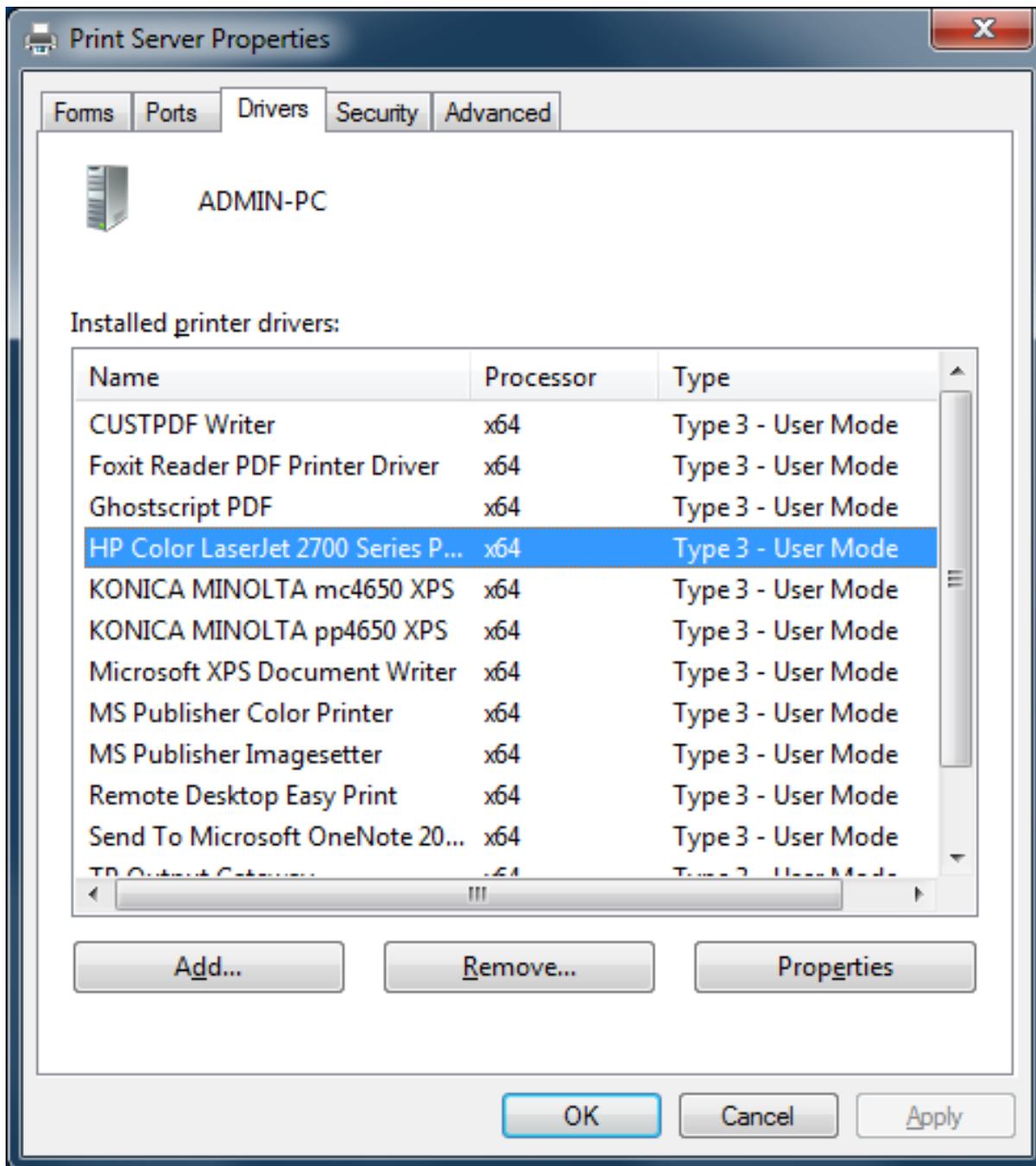
ほとんどの場合、正しく動作させるためには、クライアントとサーバーの両方に同じバージョンのプリンタードライバーをインストールする必要があります。

これは、サーバーが Windows 2008 64 ビットで、クライアントコンピューターが Windows XP 32 ビットを実行している場合、サーバーに 32 ビット XP プリンタードライバーをインストールする必要があることを意味します。

スタートメニューをクリックし、次にデバイスとプリンターをクリックします。任意のプリンターをクリックして、ウィンドウの上部にある印刷サーバーのプロパティボタンを表示します。



プリントサーバーのプロパティに入ったら、ドライバータブをクリックしてクライアントドライバーを手動で追加します。(この場合、Windows XP 32ビットドライバーをインストールしています)



プリンターメーカーのウェブサイトからの情報とドライバーを使用して、プリンタードライバーを直接インストールすることもできます。

- ターミナルサーバー環境でのインストール手順については、ハードウェアマニュアルを確認することをお勧めします。
- USBプリンターを使用している場合は、リダイレクトされたプリンターとの最大の互換性を確保するために、クライアントコンピューターのRDPプロトコルをRDPバージョン6以上に更新していることを確認してください。

最良の結果を得るためには、USBプリンターを使用しないことをお勧めします。COMまたはLPTプリンターを使用することで、互換性と信頼性が向上します。

一部のエキゾチックなプリンター、例えばラベルプリンターやレシートプリンターは、TSplus

セッションでリダイレクトするのに適していない場合があります。RDSまたはターミナルサーバー環境での互換性とインストール手順については、常にハードウェアメーカーに確認する必要があります。この場合、TSplusに非常に近いです。

# TSplus Remote Access v19: クイックスタートガイド

前提条件 :

サーバー上で :

- **OS:** Microsoft Windows バージョン 7 から 11 または Windows Server 2008R2 から 2025 まで、少なくとも 2GB の RAM を搭載。
- TSplusはWindows Home EditionsへのRemote Accessのインストールをサポートしていません。
- オペレーティングシステム 必須 C:ドライブにあります。
- Java Runtime Environment。Javaがまだインストールされていない場合、Remote Accessはセットアップ中にOpenJDKをインストールします。
- Windows ServerオペレーティングシステムにRemote Accessをインストールする場合は、RDS/Terminal ServicesおよびRDS/Terminal Servicesライセンスロールが必ずインストールされていることを確認してください。 **インストールされていません** TSplus Remote Accessをインストールする前に。
- あなたのRemote Accessサーバーは、静的なプライベートIPアドレスを持っている必要があります。
- 外部アクセスのためには、サーバーに静的なパブリックIPアドレスまたは動的DNSプロバイダーが必要です。
- TSplus Remote Accessに組み込まれたWebサーバーが必要です **Java OpenJDK 17 以上** .

クライアント上で :

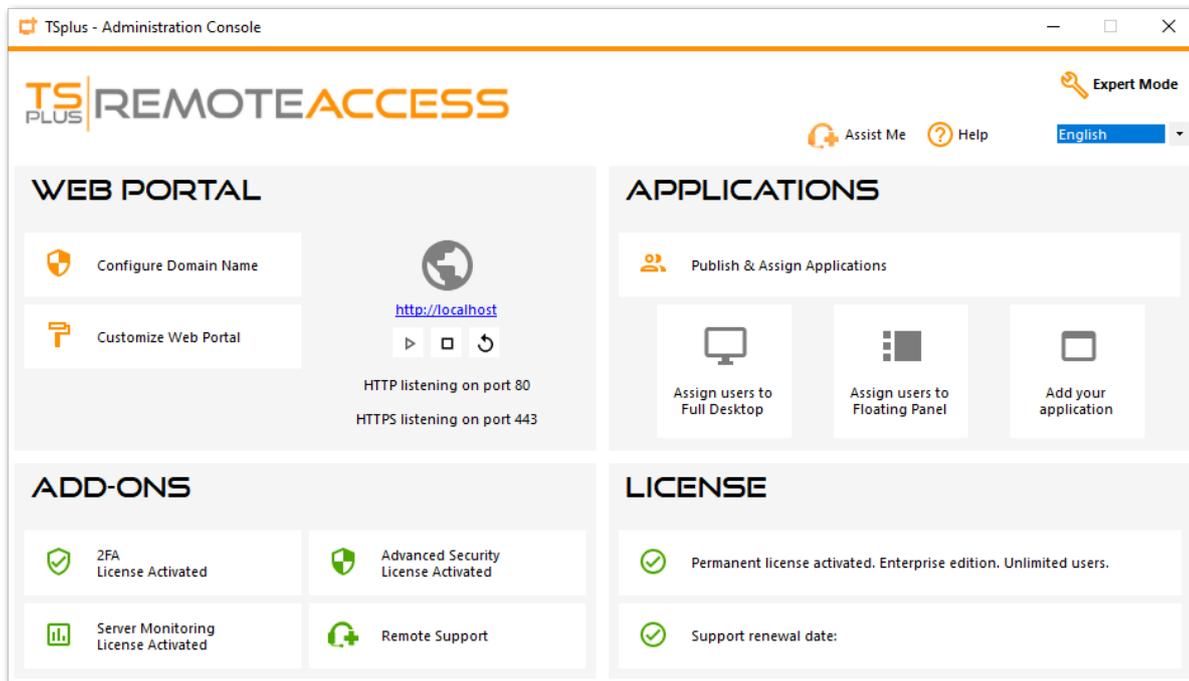
- **OS:** Microsoft Windows 7から11までのバージョンは完全にサポートされています。
- MacOSでは、任意のMac RDPクライアントまたはTSplus HTML5クライアントを使用できません。
- Linuxでは、RdesktopまたはTSplus HTML5クライアントを使用できます。
- Java Runtime Environment.
- PDFリーダー ( 例 : Foxit ReaderまたはAcrobat DC )

詳細な前提条件についてはご覧ください [ドキュメント](#)

注意 :

Remote Access バージョン 15 から、管理コンソールの外観が変更されました。 A ライトモー

ド そして一つの エキスパートモード 導入されました。管理者は、管理コンソールの右上隅にあるボタンをクリックすることで、2つのインターフェーススタイルを切り替えることができます。



## ステップ 1：インストール。

### 注意：

リモートアクセスの試用版は、機能が完全なエンタープライズエディションです。最大5人の同時ユーザーに対して、15日間の期間でライセンスされています。

TSplus Remote Accessのインストールは簡単なプロセスです。ウェブサイトからダウンロードし、Setup-TSplus.exeプログラムを実行するだけです。

ファイルは解凍され、次の場所にコピーされます：

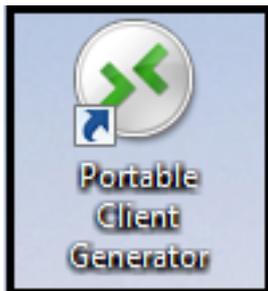
- C:\Program Files\TSplus (32ビットシステム)
- C:\Program Files(x86)\TSplus (64-bit systems).

インストールが完了すると、インストーラーが再起動を求めます。

再起動後、デスクトップに2つの新しいアイコンが表示されます：



AdminToolはRemote Accessを使用するために必要なものです。

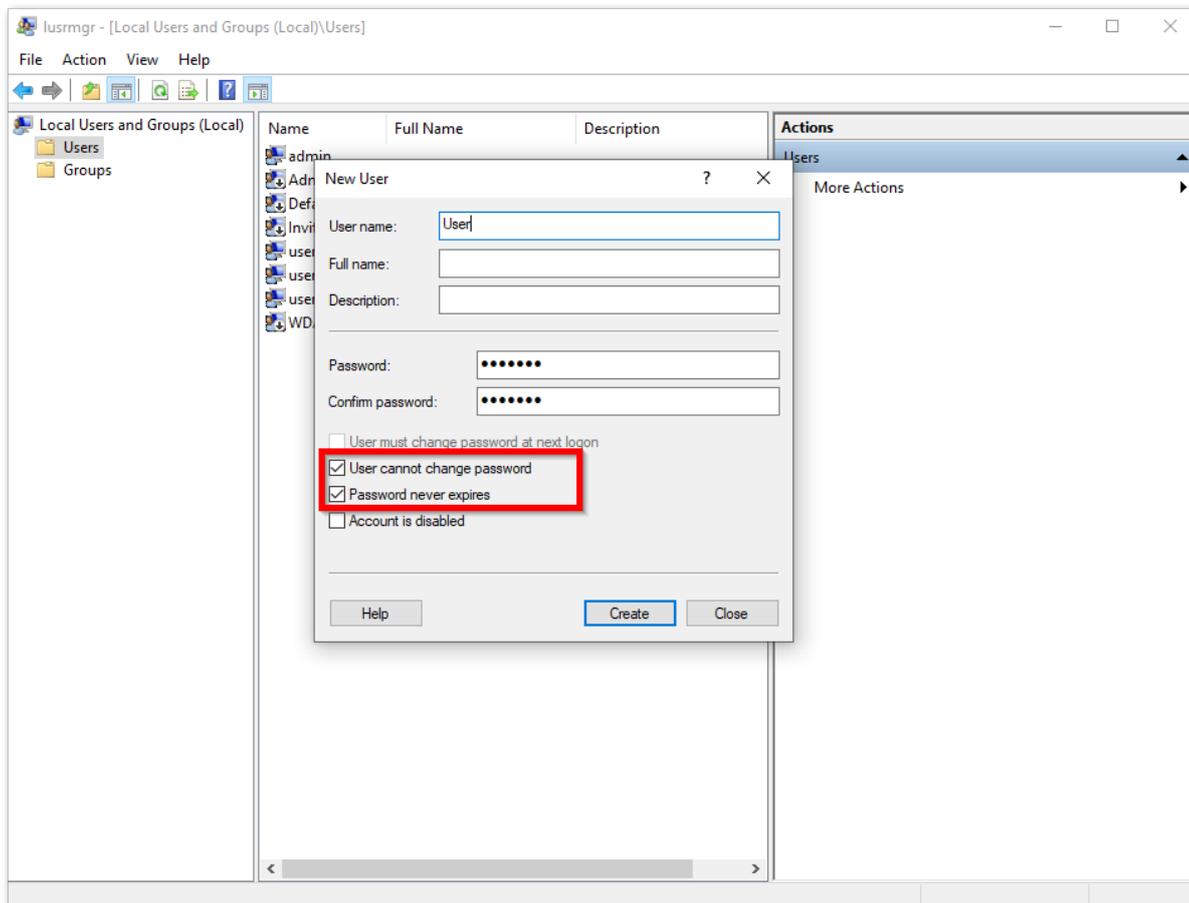
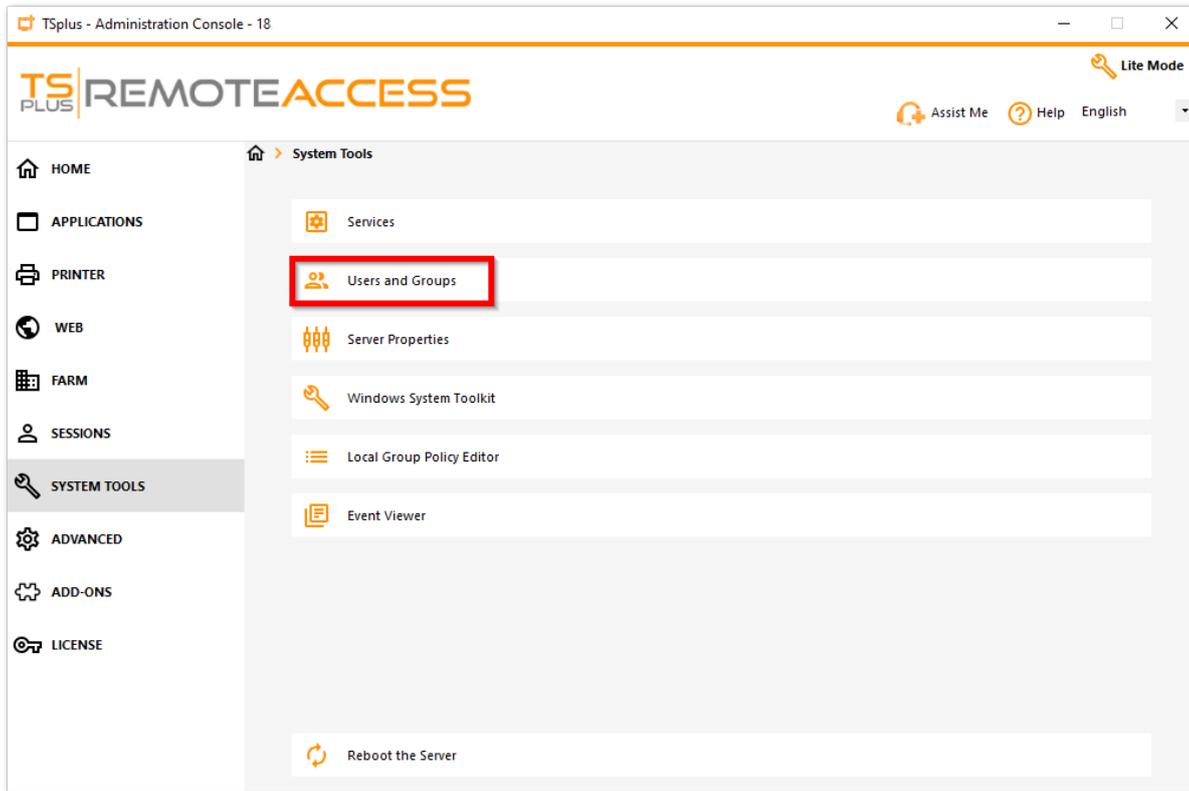


ポータブルクライアントジェネレーターは、ユーザーのためにRemote Access接続クライアントを作成するために使用されます。

見る [ドキュメント](#) 完全なインストール手順については。

## ステップ 2 : ユーザーの作成。

再起動後、Remote Access Serverはほぼ準備が整いました。次にユーザーを作成します。AdminToolを開いて始めましょう。次に、System Toolsタブに移動し、「Users and Groups」をクリックします。これにより、Local Users and Groupsウィンドウが表示されます。



各ユーザーはユーザー名とパスワードを持っている必要があります。ユーザーを作成する際は、「ユーザーは次回のログオン時にパスワードを変更する必要があります」というボックス

に注意してください。ユーザーに初回ログイン時にパスワードを変更させたくない場合は、このボックスのチェックを外し、「パスワードは期限切れにならない」または「ユーザーはパスワードを変更できない」にチェックを入れてください。

## ステップ 3 : あなたのニーズに最も適したクライアントを選択してください。

Remote AccessはWindows Remote Desktop Protocolと互換性があります。ユーザーは、標準のRemote Desktop Connectionクライアント ( mstsc.exe ) または任意のRDP互換クライアントを使用して、ローカルまたはリモートで接続できます。Remote Accessの高度な機能 ( RemoteApp、Universal Printerなど ) を最大限に活用するには、生成されたクライアントまたはRemote Access Web Portalを使用できます。

リモートアクセスは非常に柔軟なソリューションであり、セッションを開くための複数の方法を提供します。

- **クラシックリモートデスクトップ接続 (MSTSC.EXE).**
- **ポータブル TSplus RDP クライアント** リモート接続のためのウィンドウ環境を表示し、Windowsのタスクバーに最小化できるようになります。
- **MS RemoteAPP クライアント** ネイティブMS RemoteAppを使用してアプリケーションを表示します。
- **Windowsクライアント** TSplus Webポータルを通じて。
- **HTML5クライアント** TSplus Webポータルを通じて。

これらのクライアントはユーザーに次の体験を提供します :

### リモートデスクトップ接続 (mstsc.exe)

- **接続** 接続は非常に標準的なものです。このタイプの接続ではユニバーサルプリンターはサポートされていません。
- **表示** ユーザーは、Remote Desktopウィンドウ内で自分のセッションを見ることができません。このデスクトップは、ユーザーのデスクトップフォルダーの内容を表示します。

管理者がAdminToolで特定のアプリケーションを割り当てた場合、これらのアプリケーションのみが表示されます ( タスクバーなし、デスクトップなし ) 。

### [TSplus RDP生成クライアント](#) .

これはユニークなTSplusソリューションであり、ローカルおよびリモートユーザーが1つの専用プログラムを使用して接続できるようにします。

接続プログラム、ユニバーサルプリンティングの高度な機能、高いセキュリティレベルを維持しながらユーザーにとって非常にシンプルなポータビリティが含まれています。

TSplusクライアントジェネレーターの使用に関する詳細については、次を参照してください。

[このドキュメント](#)

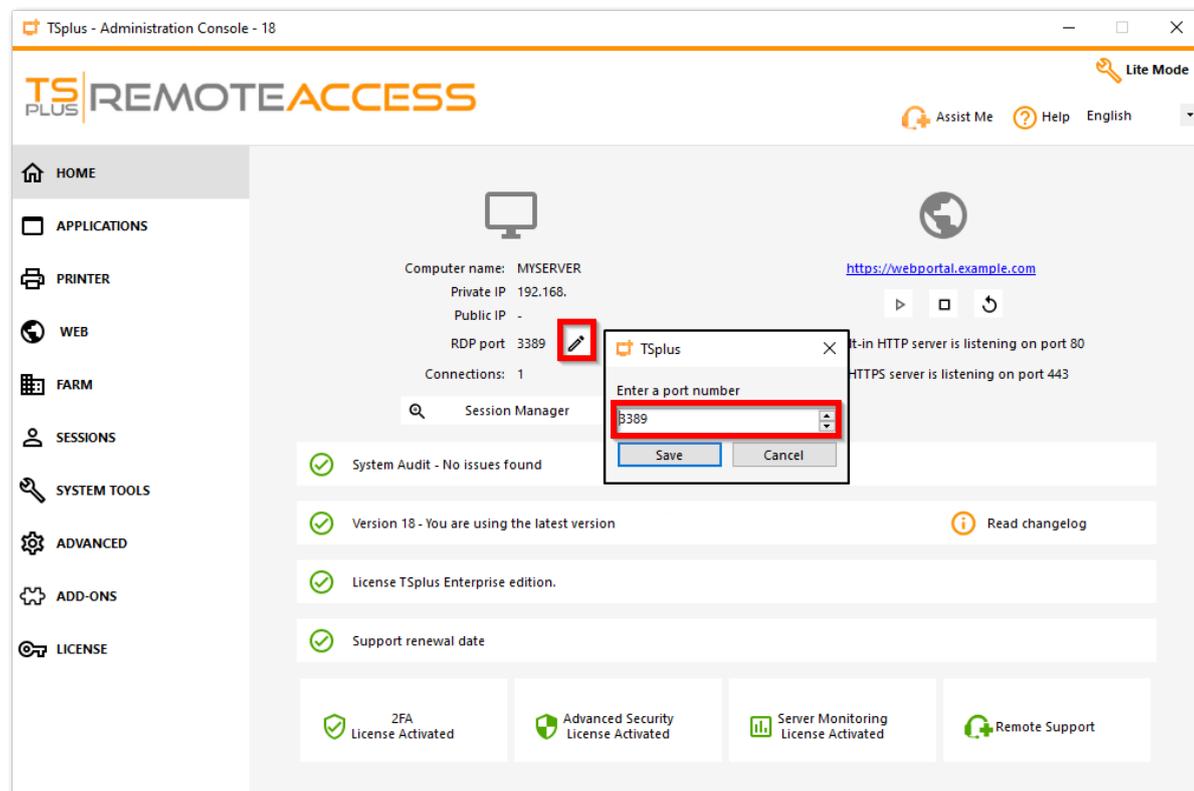
### [TSplus RemoteAppによって生成されたクライアント](#)

リモートアプリケーションは、ローカルアプリケーションのように見え、動作します。従来のリモートデスクトップウィンドウの代わりに、リモートデスクトップウィンドウを最小化することなく、ローカルアプリケーションとリモートアプリケーションの間を自由に切り替えることができます。

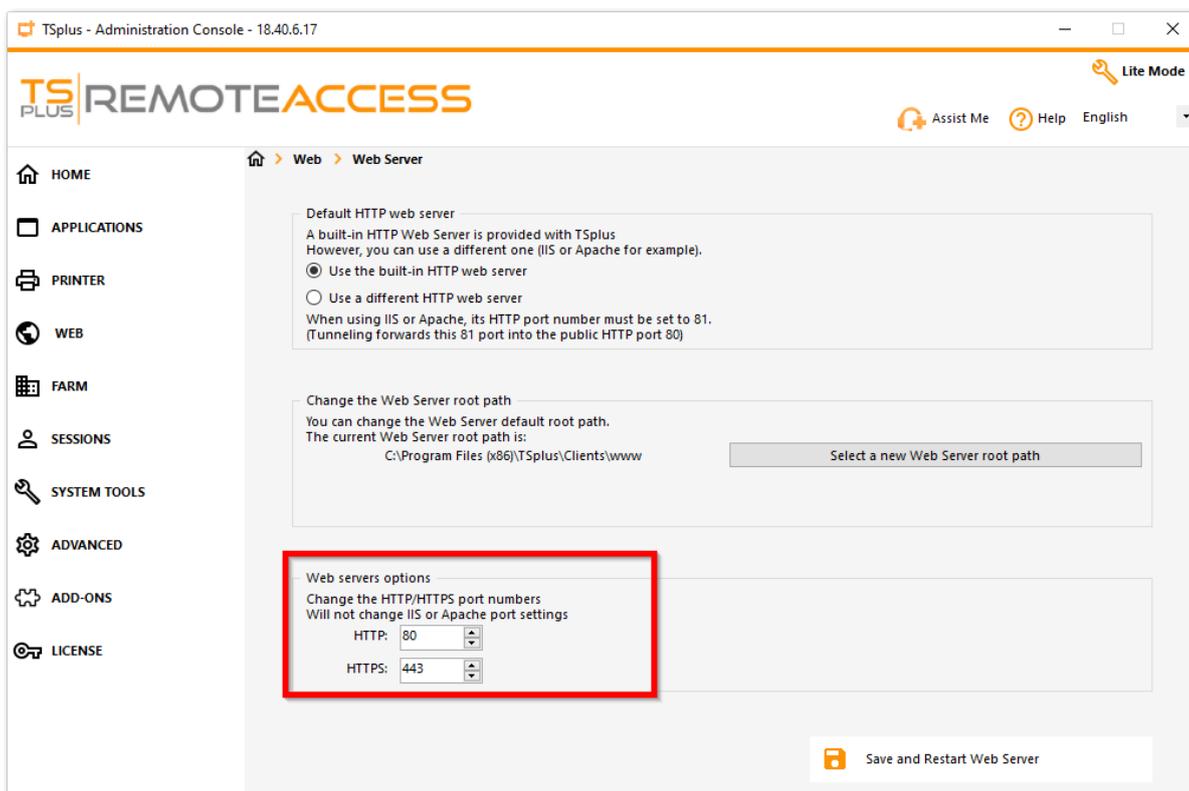
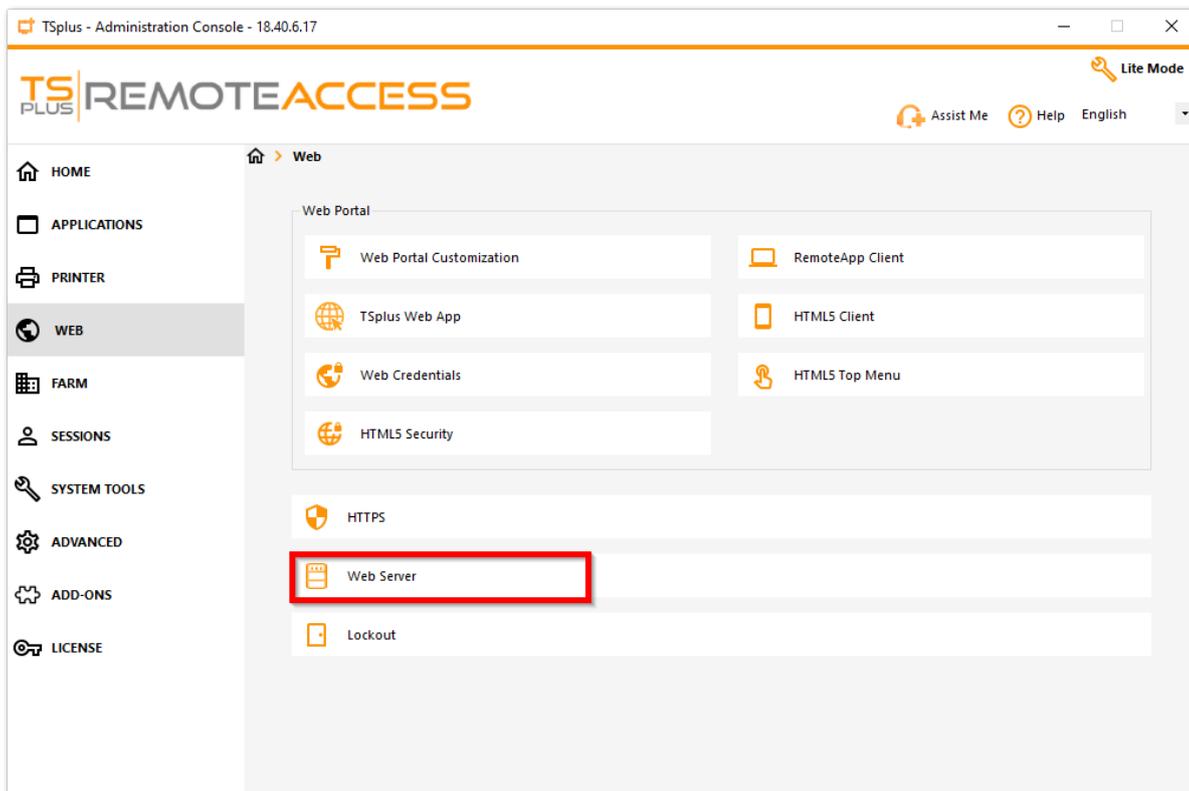
これらのクライアントに関する詳細は、をご覧ください。 [このドキュメント](#)。

## リモートロケーションからのTSplus Remote Accessサーバーへのアクセス

ローカルネットワークの外からRemote Accessサーバーにアクセスするには、好みの接続方法に応じて3389/80/443ポートのポートフォワーディングまたはポートリダイレクションルールを作成する必要があります。ホームタブでRDPポートを変更できます。



Webサーバータブで80/443ポートを変更できます:



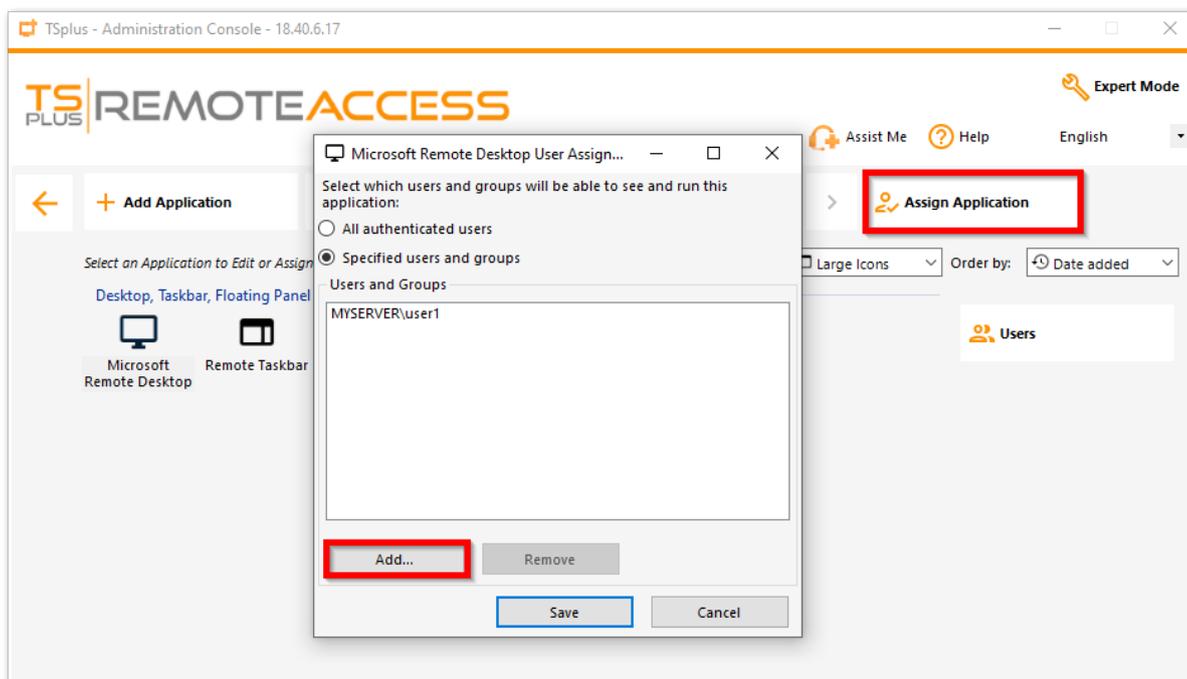
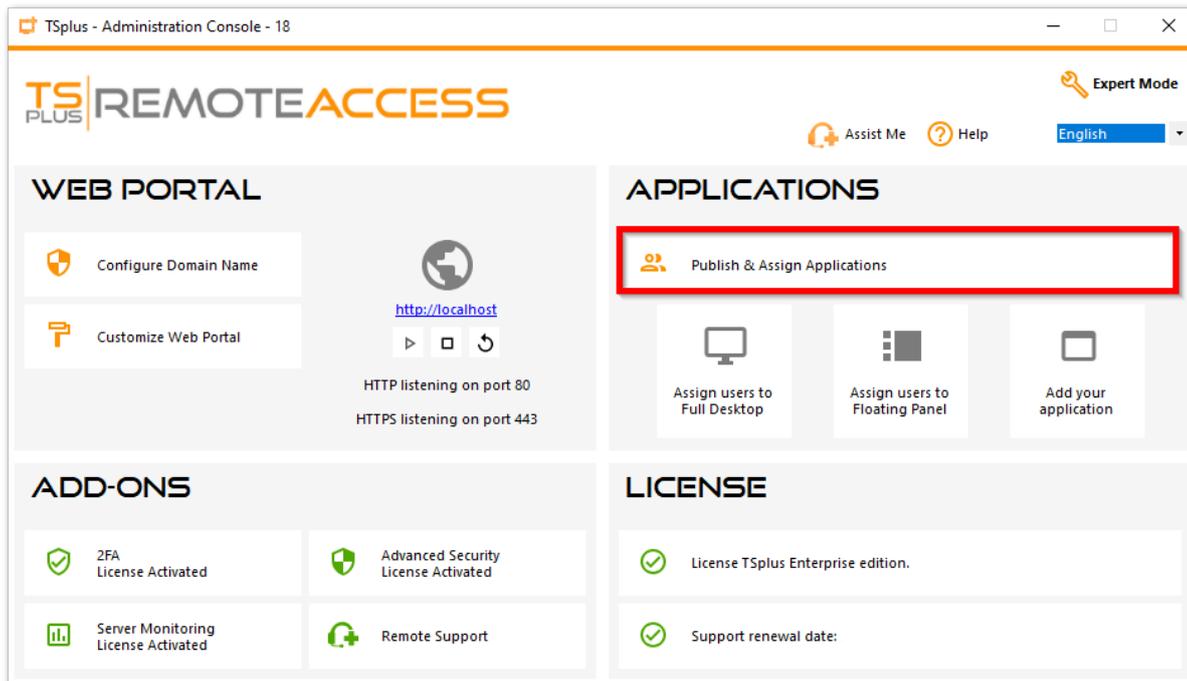
## ステップ 4 : アプリケーションの公開とアプリケーションの制御。

リモートアクセス管理ツールでは、アプリケーションをユーザーまたはグループに割り当てる

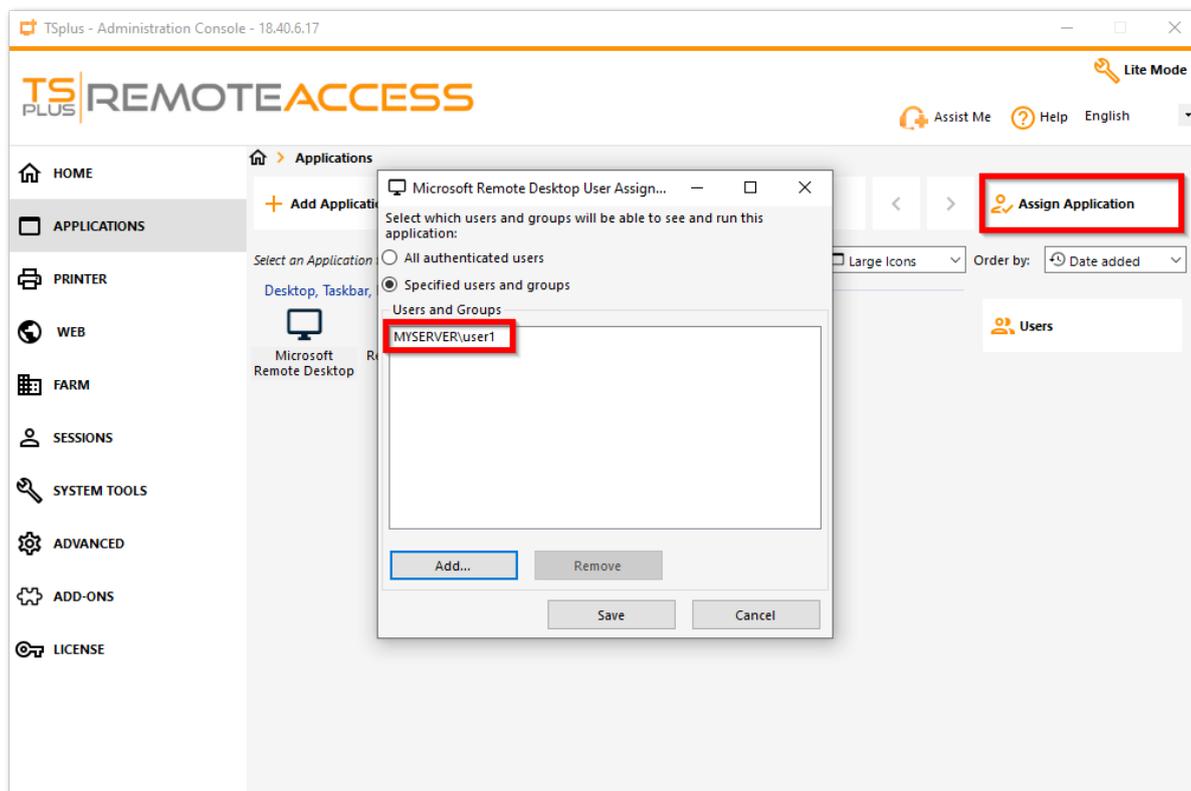
ことができます。

- ユーザーに1つのアプリケーションを割り当てると、そのユーザーはこのアプリケーションのみを表示します。
- 彼らにTSplusタスクバー、フローティングパネル、またはアプリケーションパネルを割り当てて、複数のアプリケーションを表示することもできます。
- 完全なりモートデスクトップを公開することもできます。

現在利用可能です  
ライトモード  
ホームタブから。



または移動する エキスパートモード アプリタブでアプリを追加、編集、削除、および割り当てます。



この例では、管理者はユーザー「John」がTSplusタスクバーを取得することに決定しました。ご覧ください。 [このドキュメント](#) 詳細については。

TSplus Remote Accessをご利用いただきありがとうございます！

# TSplusライセンスの再ホスティング

## オンライン再ホスティング

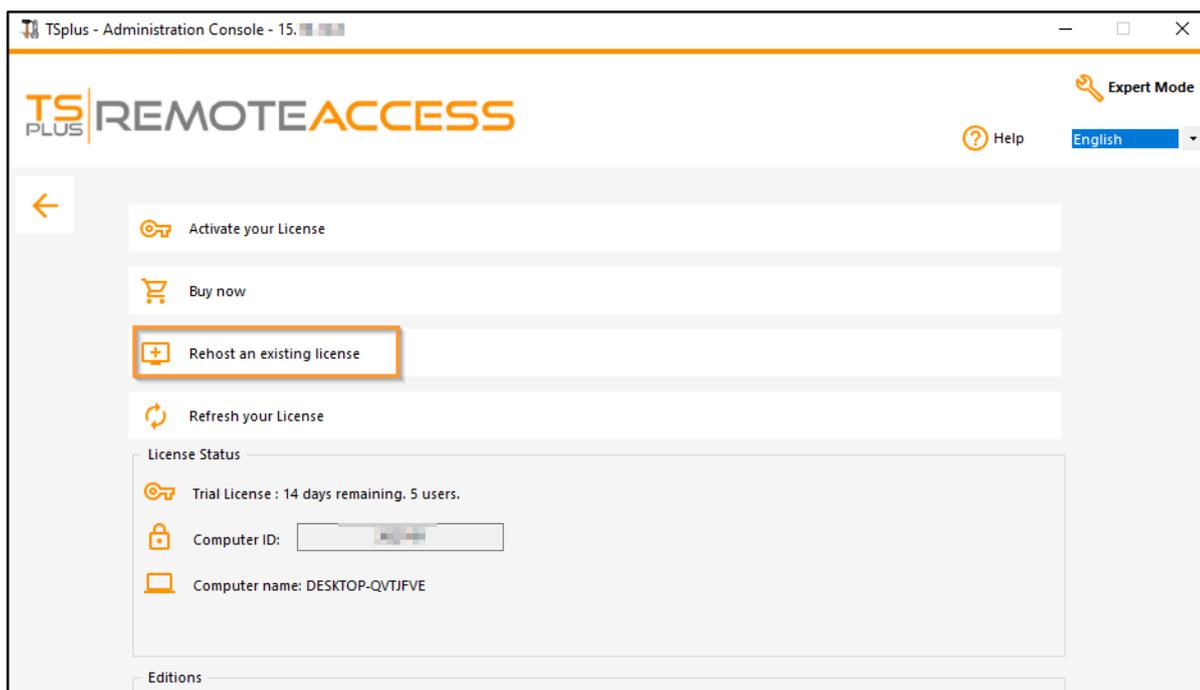
オンラインアクティベーションは月に一度許可されます。

前提条件：ライセンスを再ホストするには、アクティブなサポートサブスクリプションが必要です。

新しいコンピュータIDを生成するには、クローンされていないRemote Accessの新しいバージョンをインストールする必要があります。

サーバーを複製し、Remote Accessをクローンした場合は、次のページに移動してください。  
[サーバーをクローンする](#)

新しいサーバーで「ライセンス」タブに移動「既存のライセンスを再ホストする」をクリック



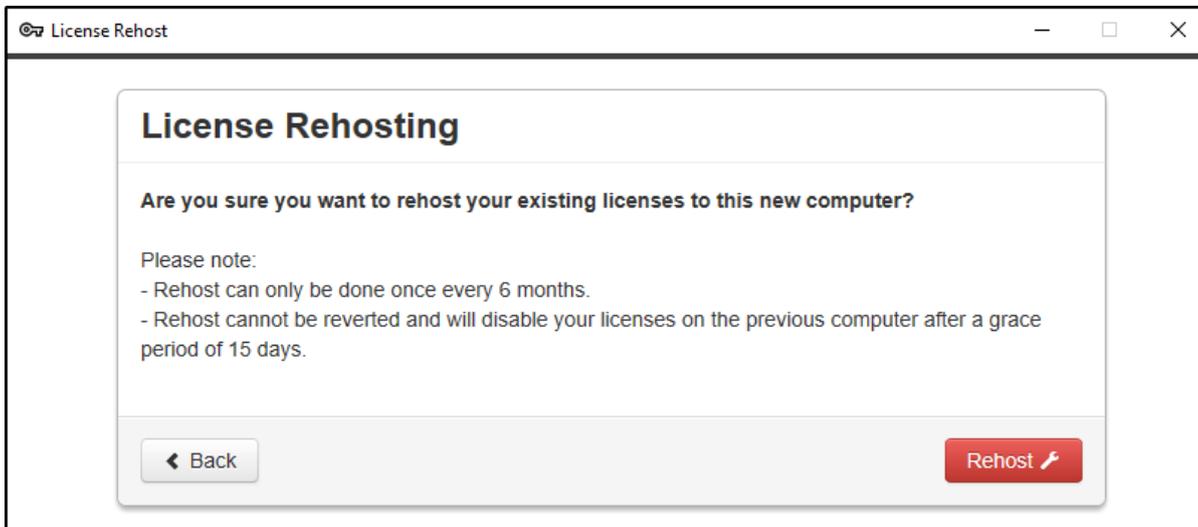
アクティベーションキーを入力してください:

The screenshot shows a window titled "License Rehost" with a "License Rehosting" header. Below the header, it says "Please enter your Activation Key:" followed by a text input field containing "XXXX-XXXX-XXXX-XXXX". Below the input field, there is explanatory text: "You will find your Activation Key in our order confirmation email. Please contact Support should you require any help rehosting your license." At the bottom right, there is a blue "Next >" button.

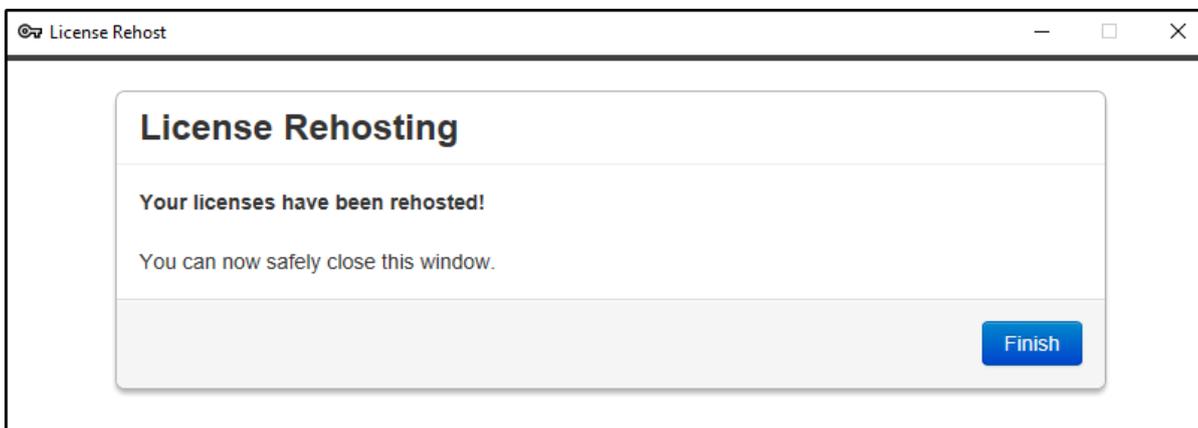
再ホストしたい初期コンピュータを選択してください。

The screenshot shows the same "License Rehosting" window. The instruction now is "Please select the initial Computer you want to rehost from:" followed by a dropdown menu. The dropdown menu is open, showing a selection of "DESKTOP-XXXX-XXXX". Below the dropdown, there is explanatory text: "This is the original Computer, which you want to stop using. Please contact Support should you require any help rehosting your license." At the bottom left, there is a "Back <" button, and at the bottom right, there is a blue "Next >" button.

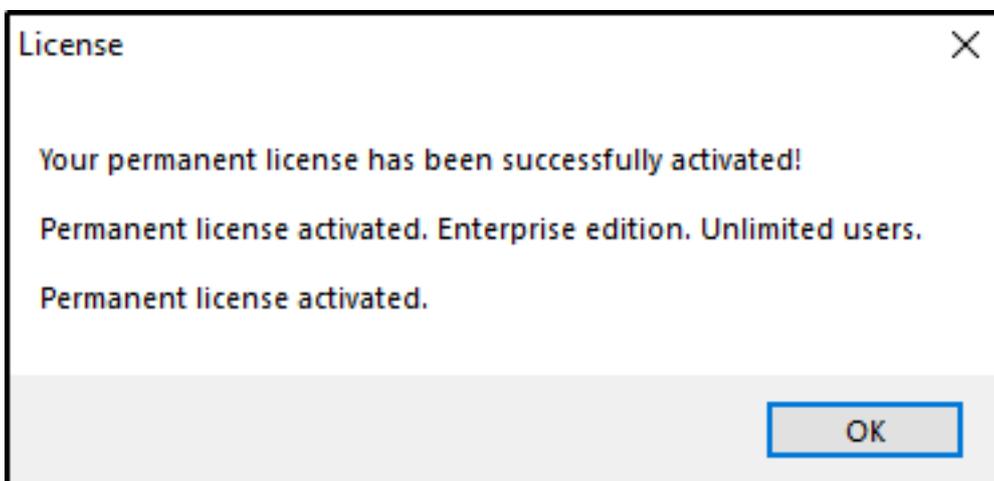
再ホストを確認



ライセンスの再ホスティングが完了しました。

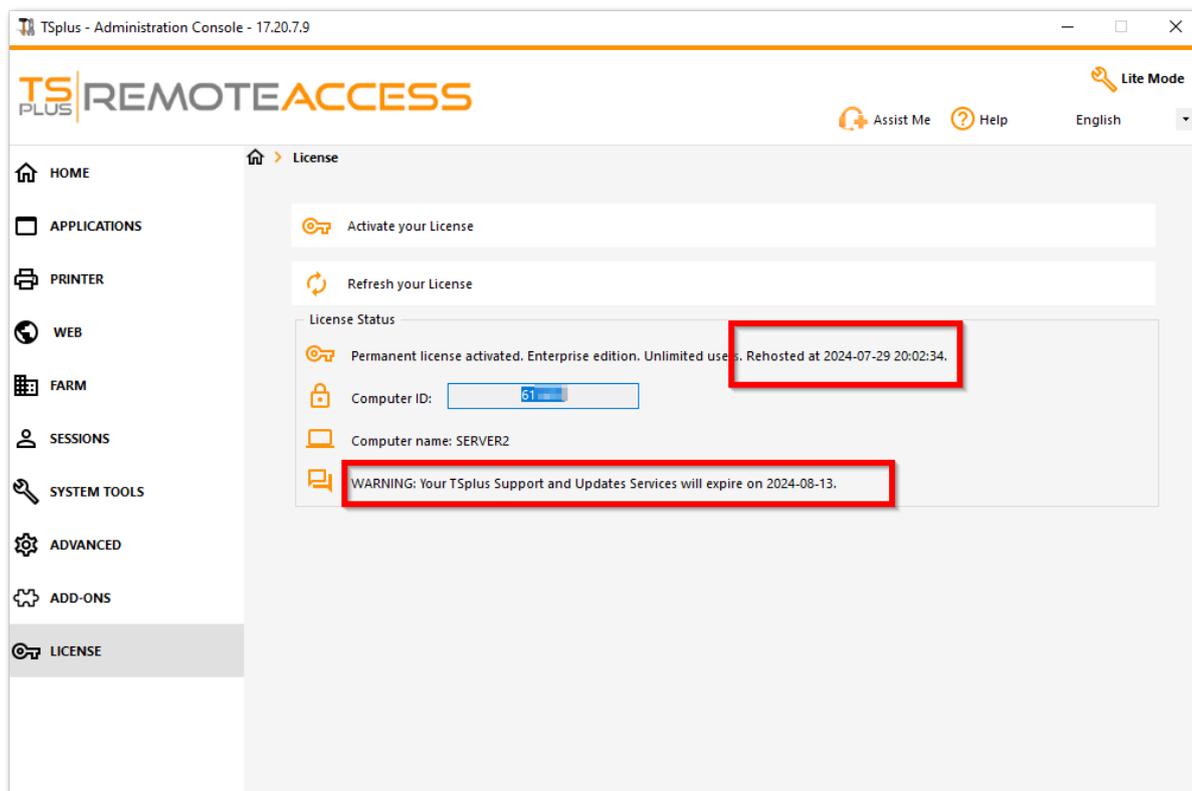


管理ツールが同期するまで、ウィンドウが表示されるまでしばらくお待ちください。



ライセンスが正常にアクティブ化されたことをおめでとうございます！

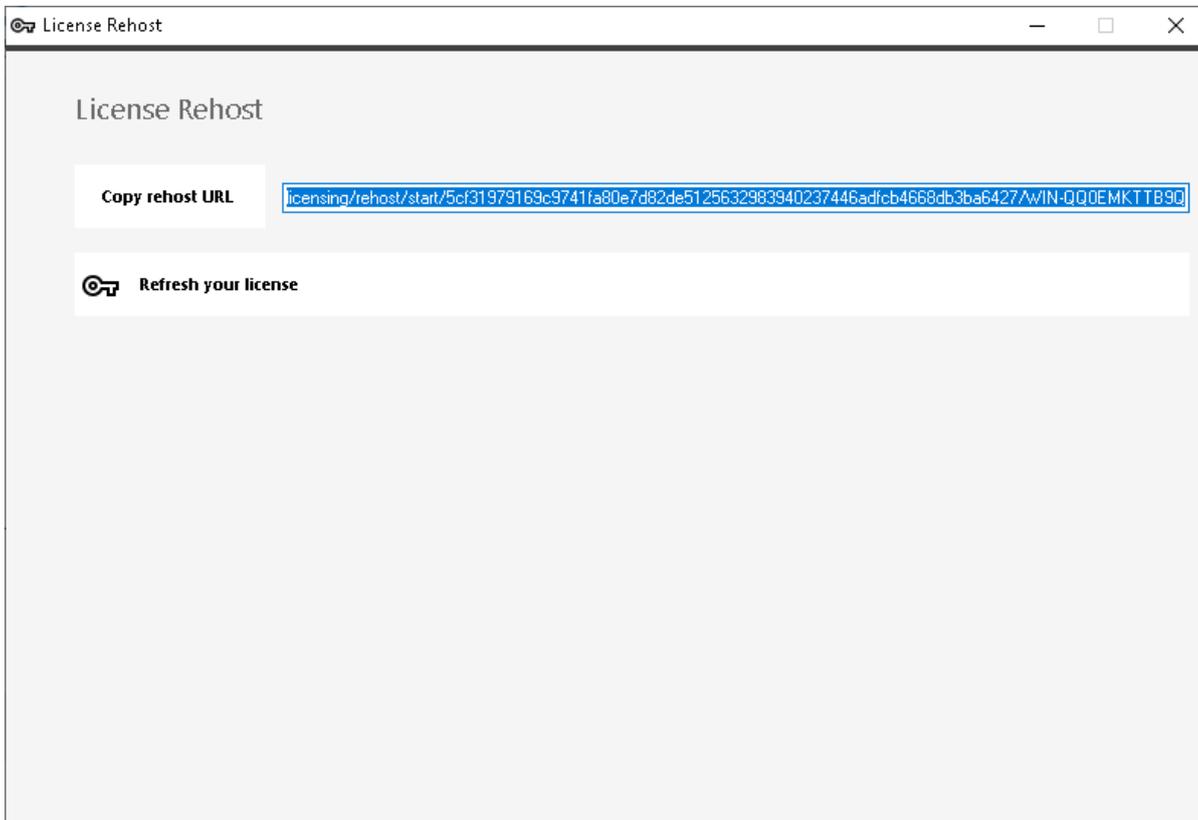
注意: 古いサーバーには、再ホスト日と使用終了日が表示されます。  
再ホスト後、古いサーバーはまだ機能します。 15日 移行を手助けするために。



## オフライン再ホスティング

オフラインアクティベーションは、リホスティングライセンスにも適用できます。

サーバーがインターネットに接続されていない場合、「既存のライセンスを再ホストする」ボタンはオフライン再ホストページを表示します。



プロセスはオフラインアクティベーションと同じです。

# iPhone / iPad / Androidデバイスからのリモート接続

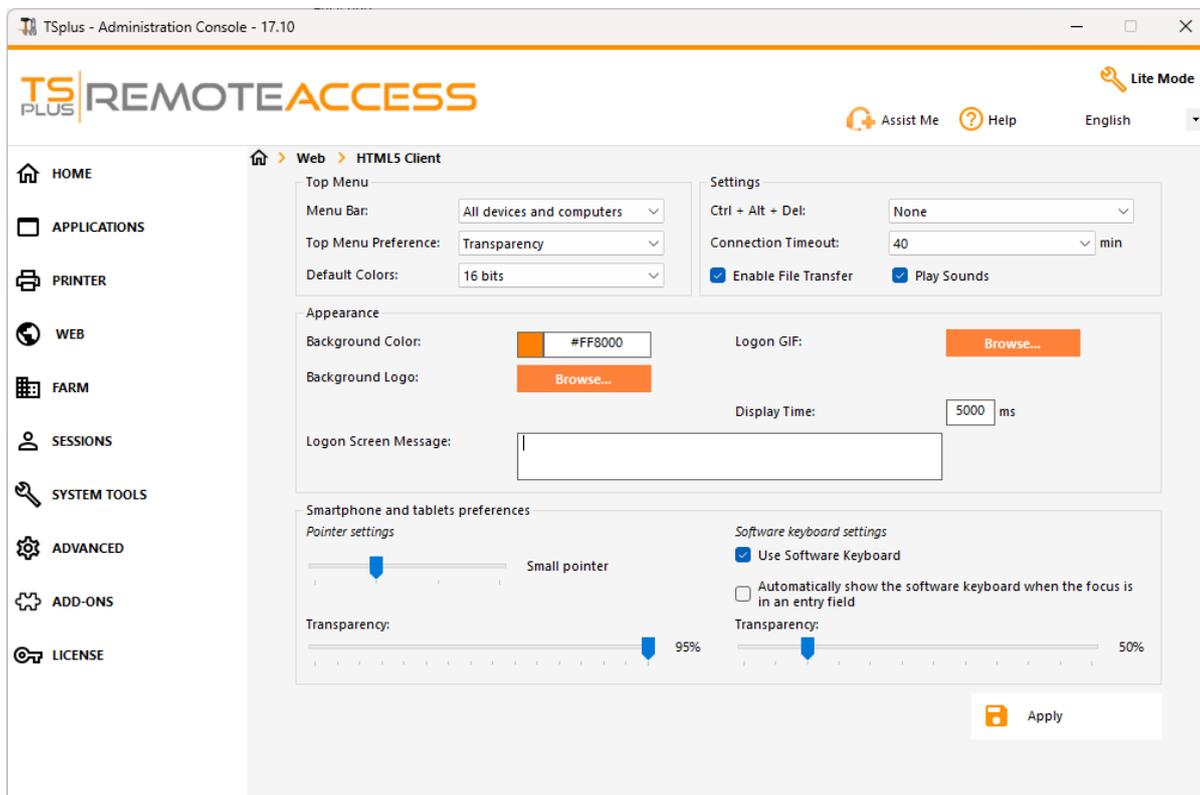
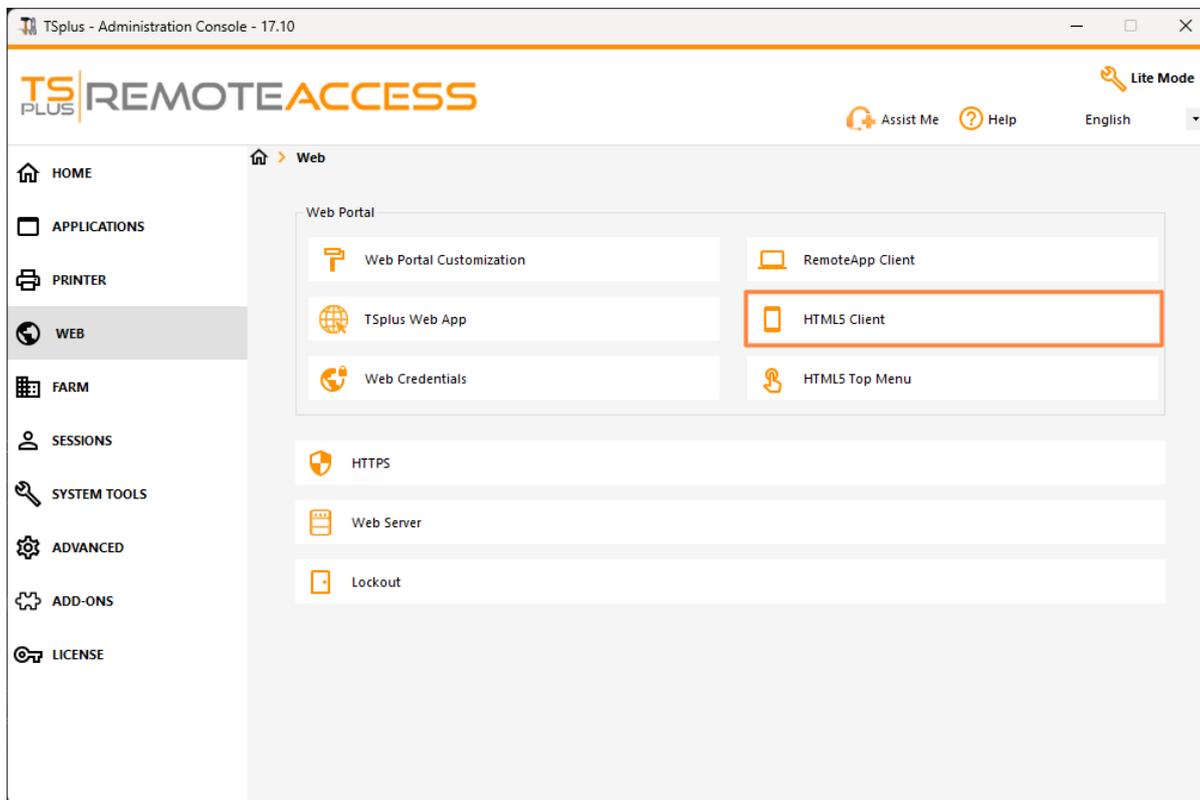
任意のHTML5技術をサポートするモバイルデバイスの任意のブラウザから、Terminal Service Plusサーバーに接続できます。

- iPhone
- iPad
- Androidスマートフォン
- Androidタブレット

## モバイルデバイスの設定を編集する

11.20リリース以降、TSplus HTML5クライアントは大幅に強化され、スマートフォンやタブレットからでも可能な限り最高のユーザーエクスペリエンスを提供します。キーボードは、入力フィールドにフォーカスがあると自動的にポップアップするように再設計されました。マウスポインターは、スマートフォンの左端や下端にあるボタンやフィールドの選択を容易にするために再設計されました。

モバイルデバイスやコンピュータ用のさまざまなHTML5設定をWebタブのHTML5クライアントで設定できます。



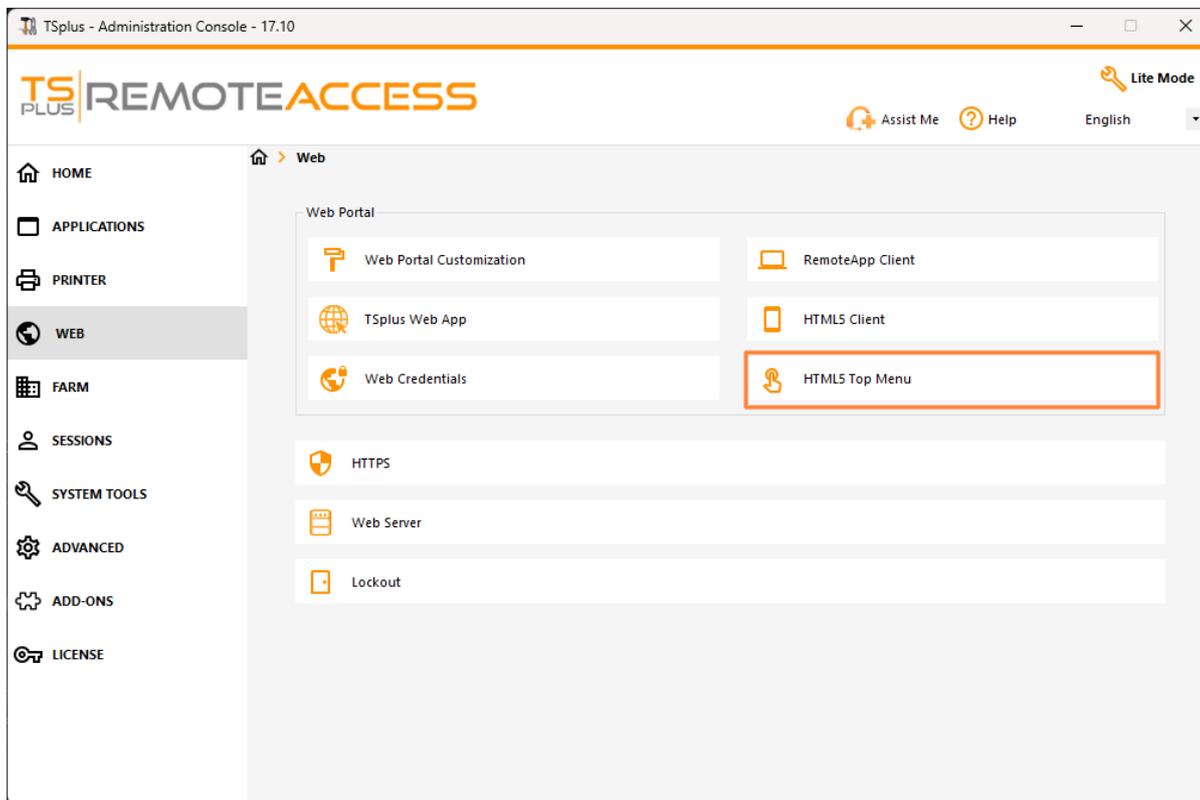
- すべてのデバイスとコンピュータ、またはモバイルデバイスのみのメニューバーを表示します。
- ファイル転送を有効または無効にします。
- 特定の種類のデバイスでCtrl + Alt + Delショートカットを許可します。
- 透明と不透明の間でお気に入りのトップメニュー表示を選択してください。

- グラフィックカラー ビットの数。
- 接続タイムアウトは、クライアントが再接続するのを待っている間、セッションがアクティブなままの最大の間 ( 秒単位 ) です。タイムアウトを無効にするには0を指定します。
- 警告メッセージを表示または非表示にします。
- 音を有効または無効にします。
- お気に入りの背景色を選択してください。
- 背景にロゴを追加します。
- ログオン画面のメッセージとアニメーションGIF、およびその表示時間をミリ秒単位で変更します。

#### スマートフォンとタブレットの設定 :

- 管理者がソフトウェアキーボードを使用している場合、入力フィールドが隠れていると、アプリケーションが上に移動し、ユーザーは自分が入力している内容を引き続き見ることができます。
- 管理者は、マウスポインタのサイズを小、中、大のいずれかに選択するか、まったくマウスポインタを表示しないことができます。これにより、ユーザーはアプリケーション内を直感的にナビゲートできます。
- 彼はマウスとキーボードの透明度のレベルを選択することもできます。

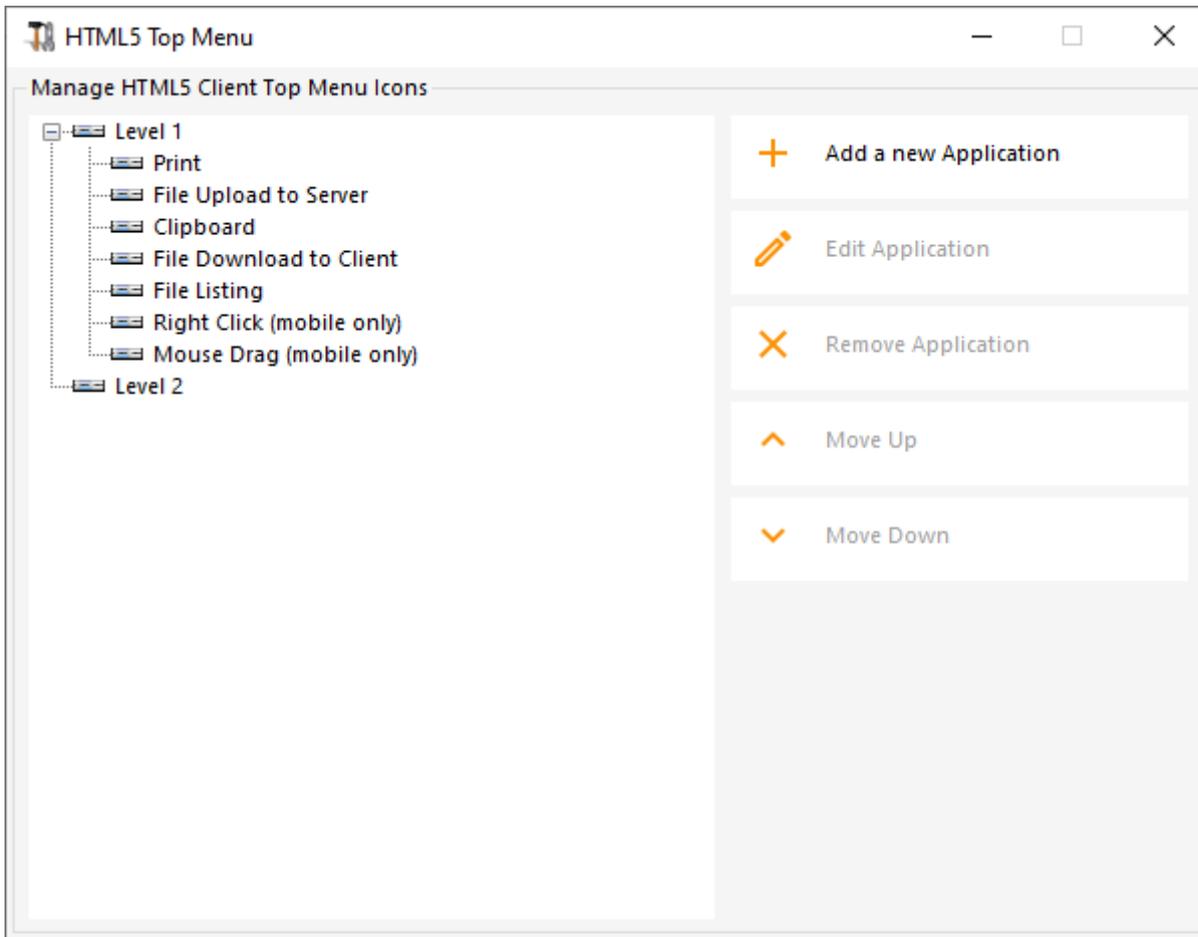
HTML5のトップメニュータブでは、HTML5のトップメニューの第一または第二レベルに表示されるアプリケーションを追加できます。



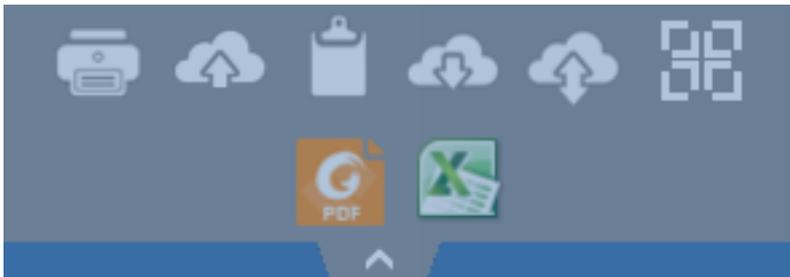
レベル1では、統合されたHTML5機能を見つけることができます：印刷、ファイル転送、クリップボード。（これらの機能に関する詳細情報は、これらのページにアクセスしてください：

[HTML5用ユニバーサルプリンター](#)、[ファイル転送の使用](#) そして [クリップボードを使用しています](#) .)

この例では、FoxitとExcelはレベル2で公開されています。

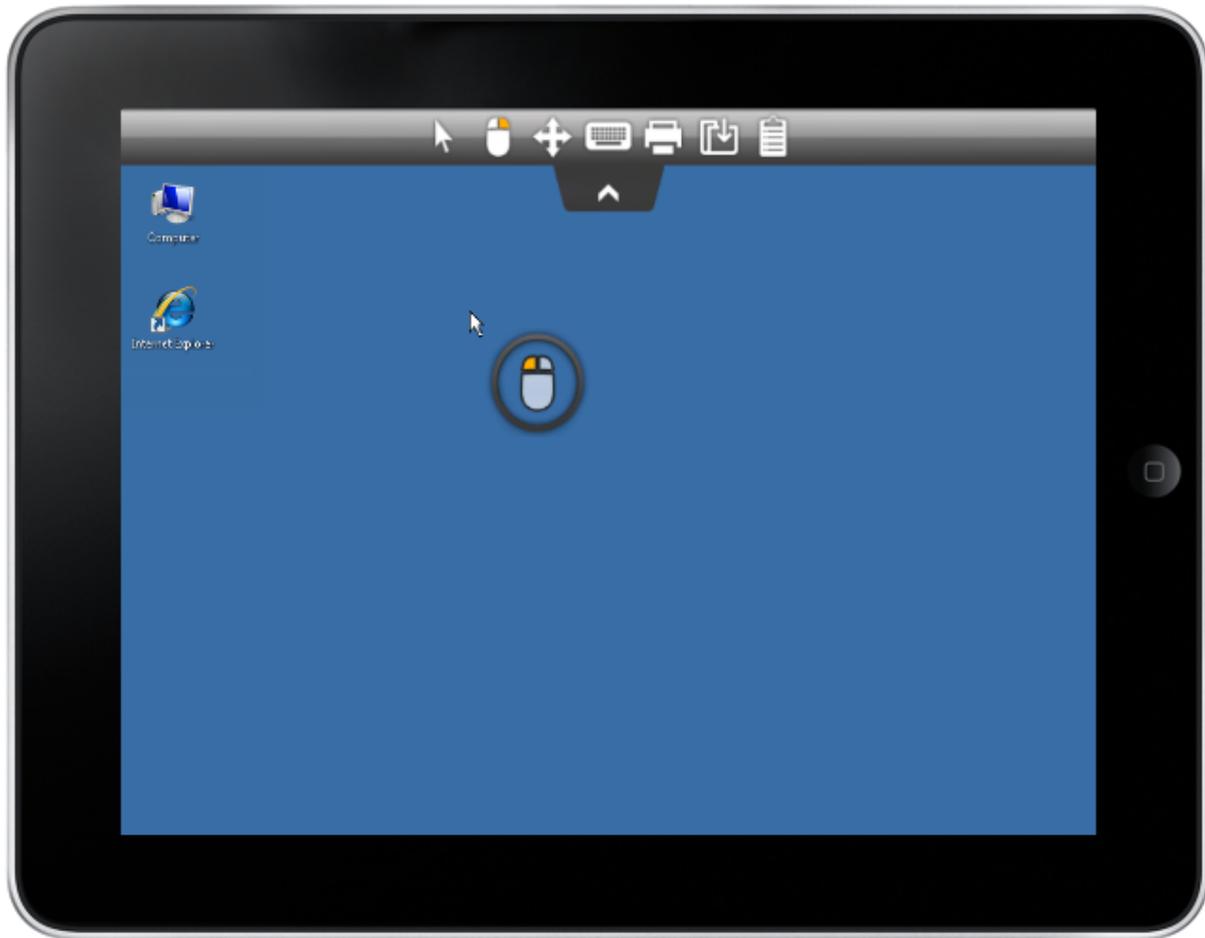


統合機能の下に、HTML5セッションの上部メニューにあります。



さらに、右上のアイコンを使ってセッションを全画面表示に切り替えることができます。

**Terminal Service Plus**に組み込まれたHTML5クライアント ユーザーにタブレットやモバイルデバイス上でまったく新しいメニューを提供します。この新しいメニューにより、ユーザーはモバイルキーボードや右クリック、さらにファイル共有や当社独自のユニバーサルプリント機能に簡単にアクセスできます。



ご参照ください [このドキュメント](#) ミニマウスとキーボードの使い方について。

## 言語選択

言語ボタンを使用して、上部メニューの右側で言語を変更できるようになりました。



このメニューで希望する特定の国の言語を選択できます:

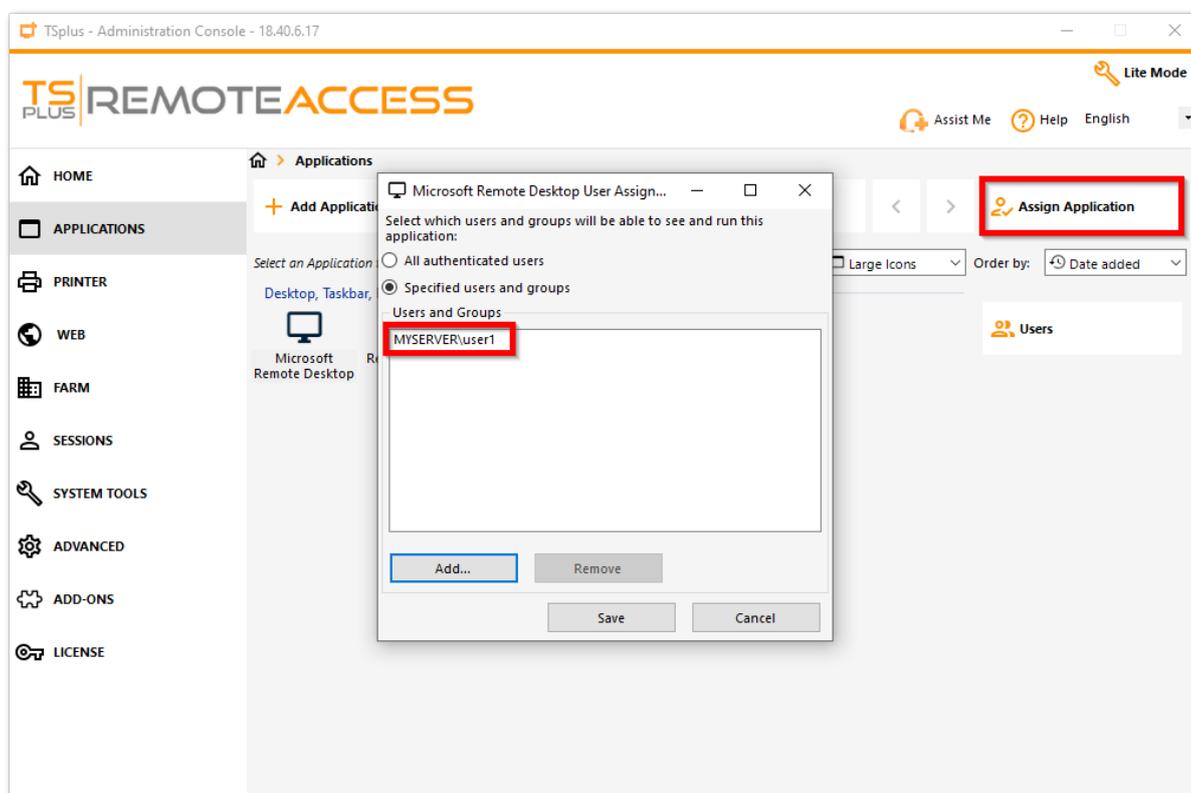
	Language	Locale	Value
<input type="radio"/>	Portal	as_portal	
<input type="radio"/>	Browser	as_browser	
<input type="radio"/>	Gateway	as_gateway	
<input type="radio"/>	Arabic	ar_ar	1025
<input type="radio"/>	Belarusian	be_be	1059
<input type="radio"/>	Bulgarian	bg_bg	1026
<input type="radio"/>	Bengali	bn_bn	1093
<input type="radio"/>	Bosnian (Cyrillic)	bs_cyrl_ba	8218
<input type="radio"/>	Bosnian (Latin)	bs_latn_ba	5146
<input type="radio"/>	Catalan	ca_ca	1027
<input type="radio"/>	Czech	cs_cs	1029
<input type="radio"/>		cs_cz	1029
<input type="radio"/>	Welsh	cy_gb	1106
<input type="radio"/>	Danish	da_da	1030
<input type="radio"/>		da_dk	1030
<input type="radio"/>	German (Swiss)	de_ch	2055
<input type="radio"/>	German	de_de	1031
<input type="radio"/>	Divehi	dv_dv	1125
<input type="radio"/>	Greek	el_el	1032
<input type="radio"/>		el_gr	1032
<input type="radio"/>	English (Canada)	en_ca	4105

# リモートタスクバーとデスクトップテーマ

## サーバー上の管理者ツール

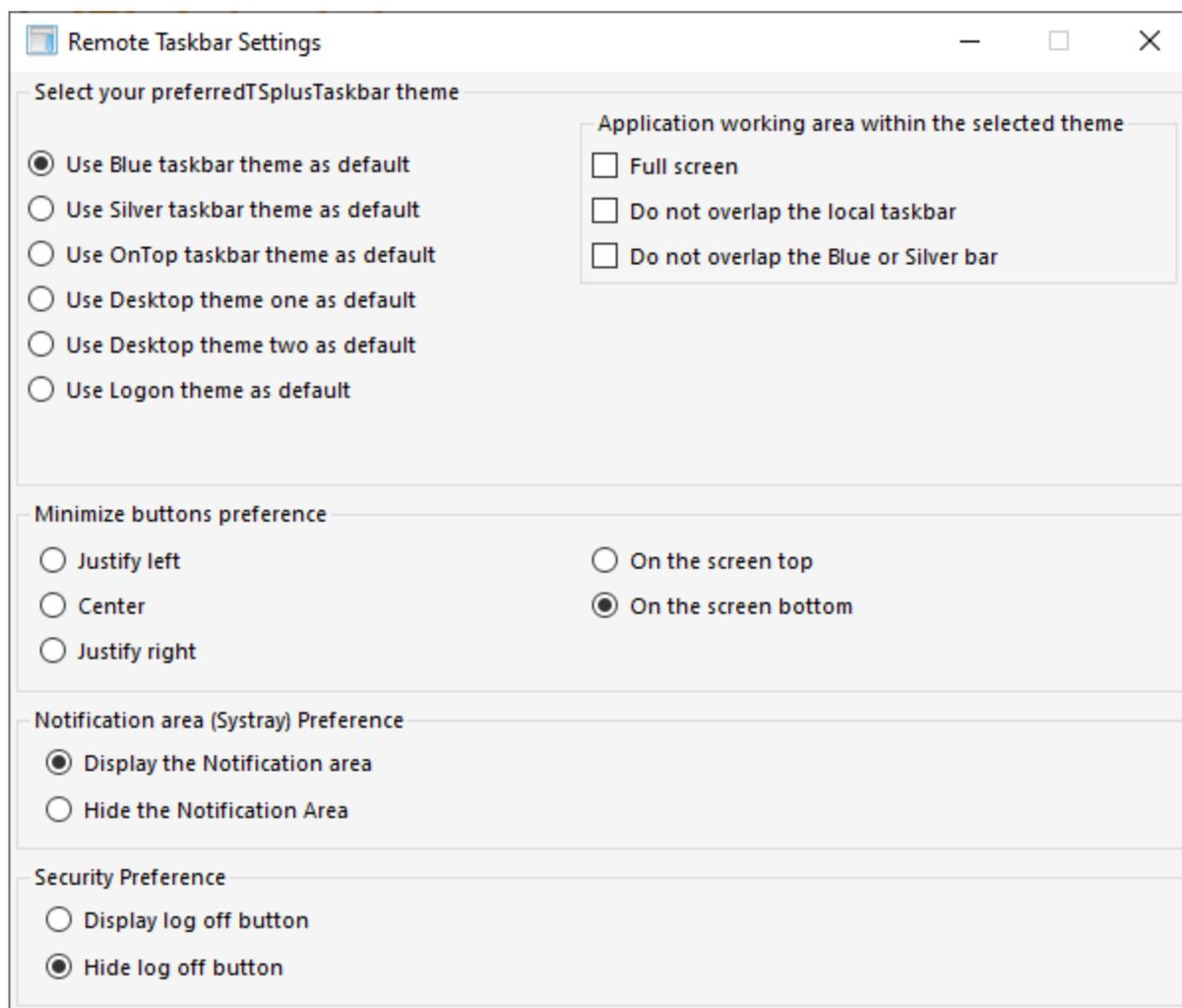
AdminToolを使用すると、管理者はアプリケーションを割り当てる際に4つの表示モードから選択できます。 [マイクロソフトリモートデスクトップ](#)、[リモートタスクバー](#)、[浮動パネル](#) または [アプリケーションパネル](#)。リモートタスクバー、フローティングパネルおよびアプリケーションパネルは、すべての接続方法で利用可能です。

ユーザーにアプリケーションを割り当てると、TSplusリモートタスクバーを有効にできます。ユーザーはTSplusタスクバーを1回クリックすることでリモートアプリケーションを起動でき、ローカルデスクトップも完全に利用可能です。リモートタスクバーをユーザーまたはグループに割り当てるには、それをダブルクリックするか、選択してから「アプリケーションを割り当てる」タイルをクリックします。



管理者は、ユーザーがセッションを開いたときに表示されるデフォルトのリモートデスクトップ

テーマを簡単に決定できます。TSplusリモートタスクバーを選択し、「アプリケーションを編集」をクリックします。

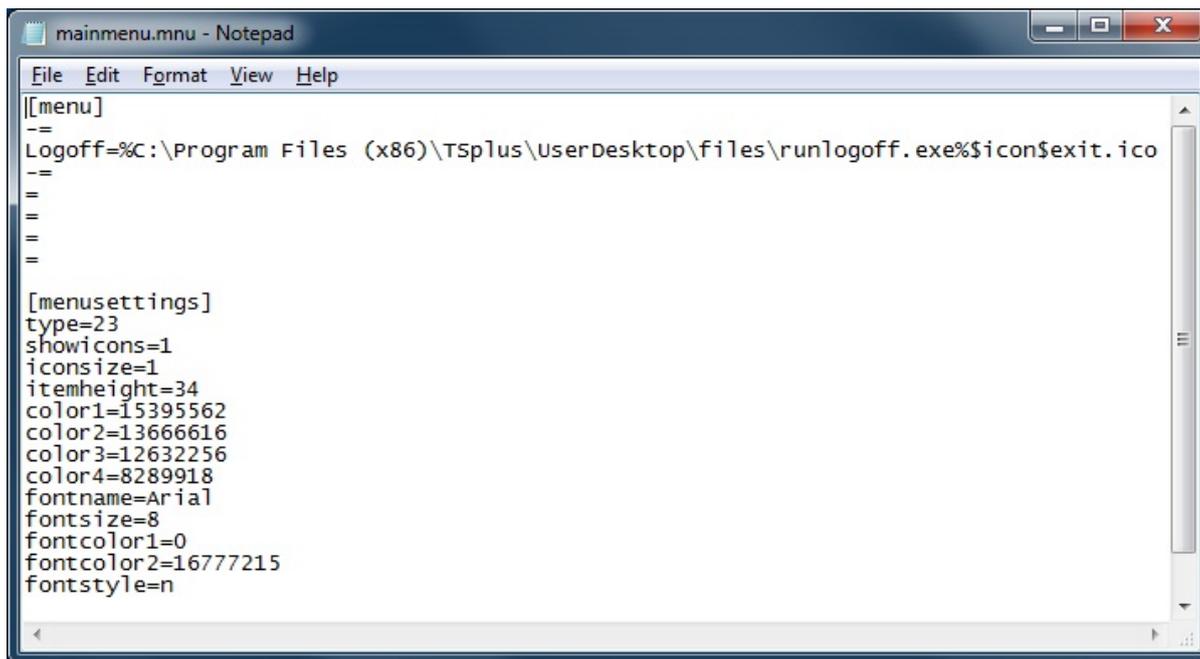


- 管理者のみがユーザーのテーマを選択できます。
  - 彼は、最大化されたアプリケーションを全画面モードで表示するか、TSplusタスクバーやシルバーまたはブルータスクバーと重ならないようにするかを選択できます。
  - タスクバーの最小化されたボタンの位置は変更できます（画面の上部、下部、右側、左側、または中央）。
- 管理者は、デフォルトの下部ではなく、ユーザー画面の上部に表示することを決定することもできます。
- システムトレイのアイコンは、「通知領域を隠す」サークルにチェックを入れることで隠すことができます。

- TSplus 12.60バージョン以降、ログオフボタンを非表示にできるようになりました。

ユーザーメニューを編集することで、管理者はアプリケーションや機能を追加/抑制できます。ユーザーメニューのカスタマイズは簡単です。

ユーザーメニューの内容 ( Program Files/TSplus/UserDesktop/mainmenu.mnuにあります ) は、管理者がメモ帳を使用して変更可能です。



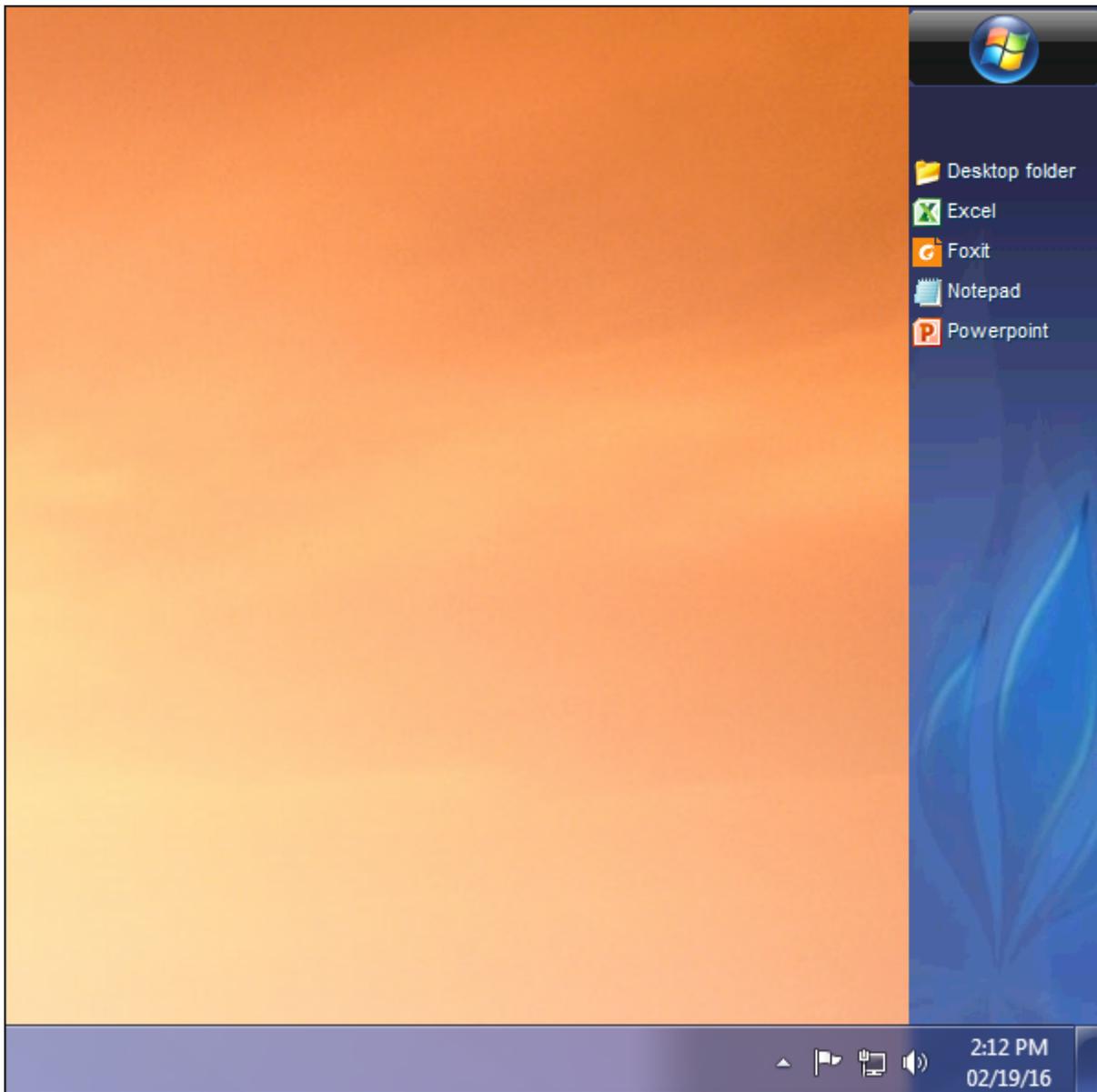
```
mainmenu.mnu - Notepad
File Edit Format View Help
[[menu]
--
Logoff=%C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\runlogoff.exe%$icon$exit.ico
--
=
=
=
=

[menusettings]
type=23
showicons=1
iconsize=1
itemheight=34
color1=15395562
color2=13666616
color3=12632256
color4=8289918
fontname=Arial
fontsize=8
fontcolor1=0
fontcolor2=16777215
fontstyle=n
```

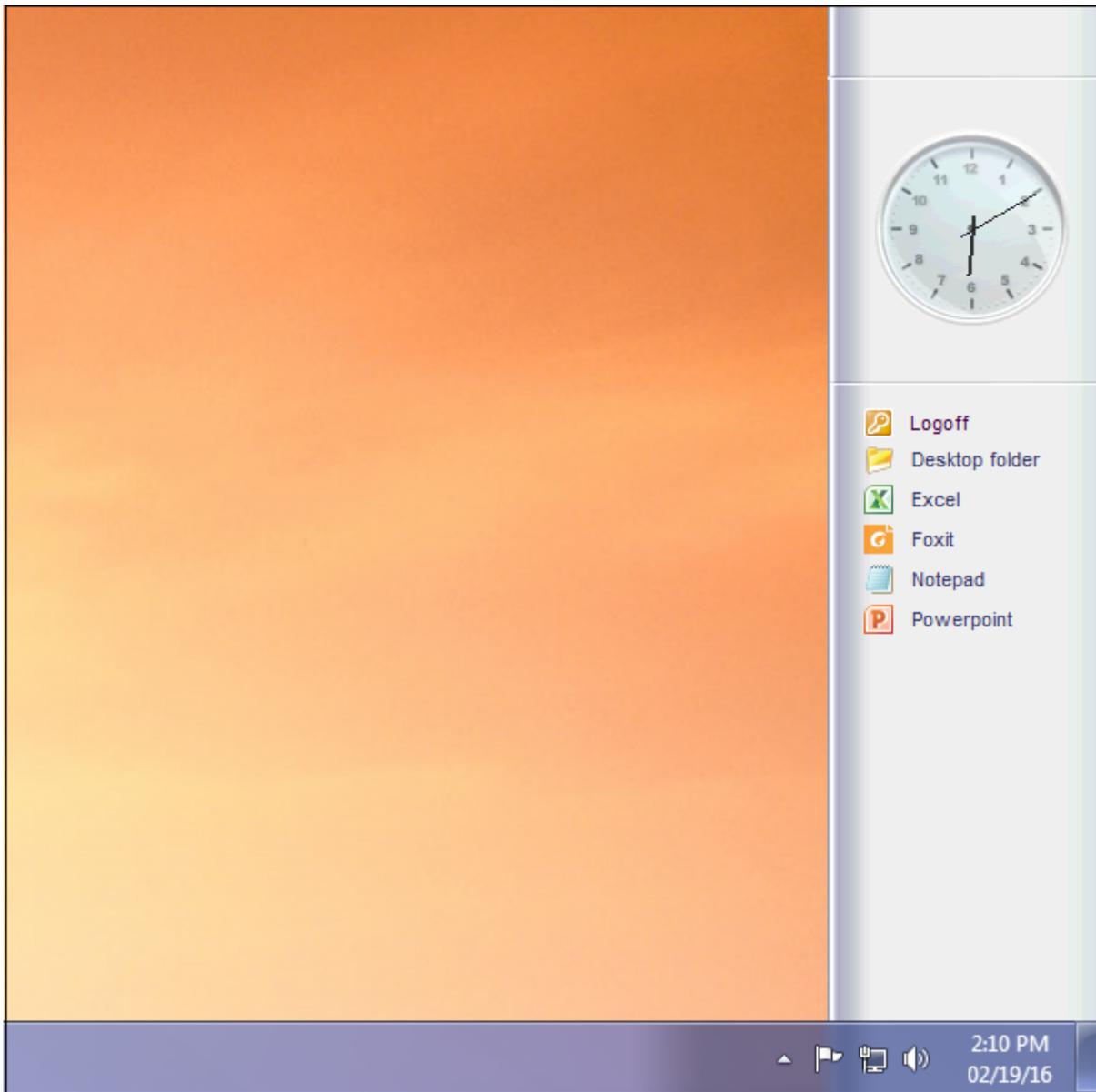
管理ツールのアプリケーションタイトルで、管理者は3つの異なるスタイルのRemote Desktop TSplusタスクバーを選択できます。

ユーザーは、TSplus タスクバーのワンクリックでリモートアプリケーションを起動でき、ローカルデスクトップを完全に利用できます。

右側の青いテーマのタスクバー



右側のシルバーテーマタスクバー



## 上部タスクバー



## [トップに戻る](#)

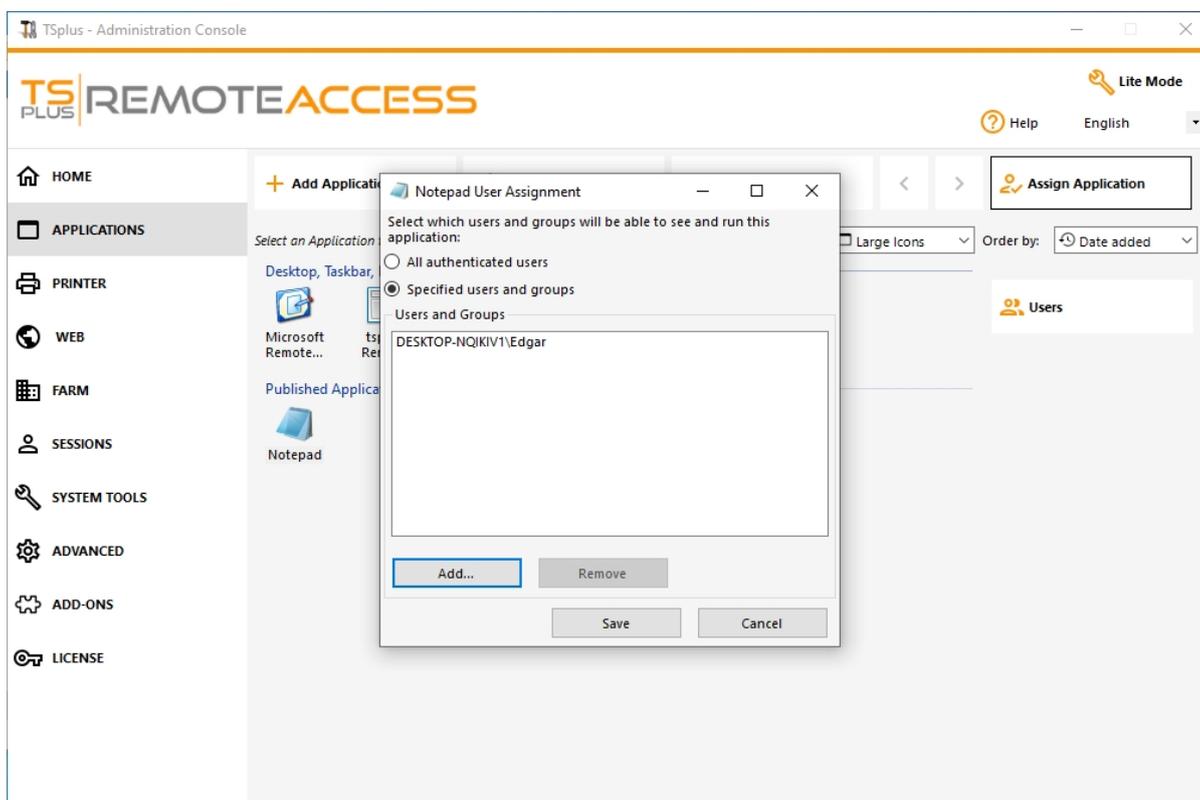
AdminToolを使用すると、管理者はユーザーがセッションを開いたときに表示されるデフォルト

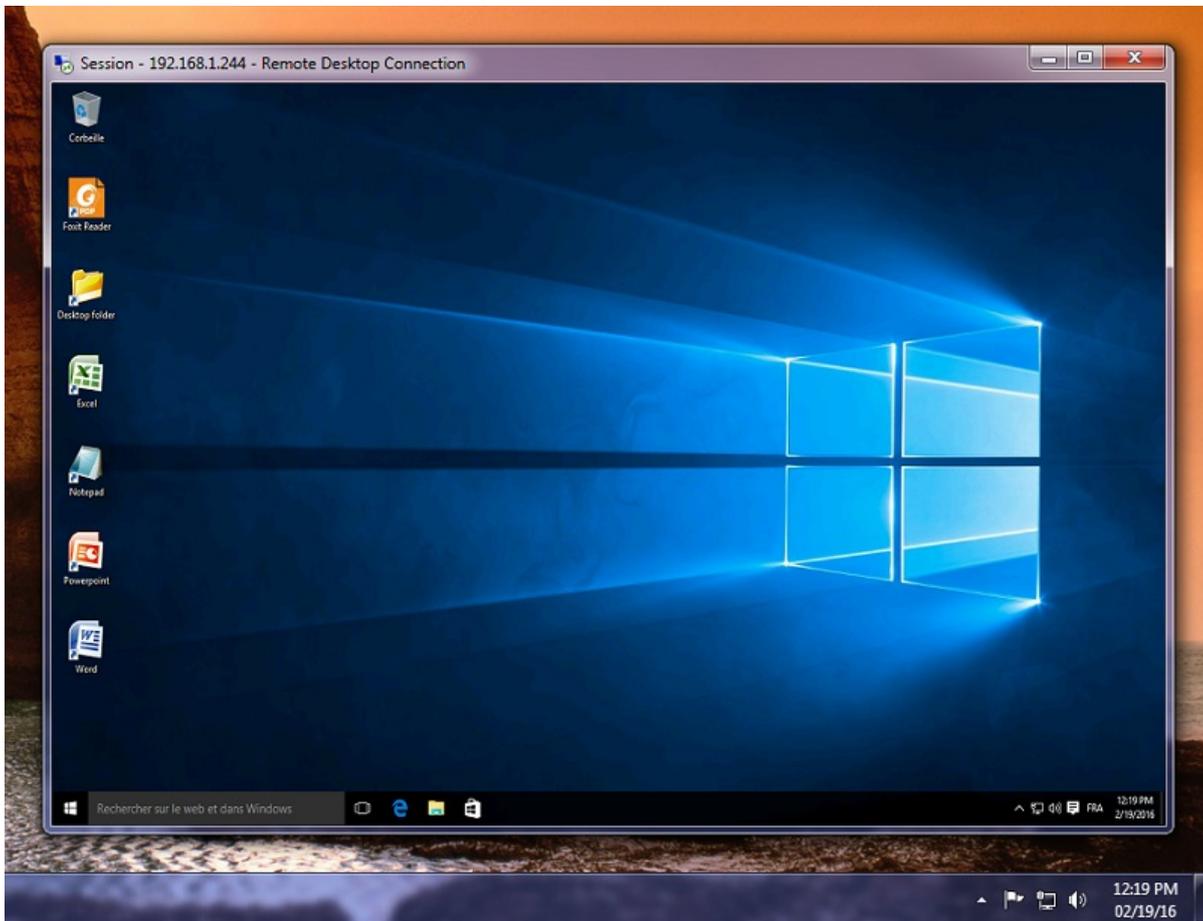
のRemote Desktopテーマを簡単に決定できます。彼はフルスクリーンRemote Desktopの4つの異なるスタイルの中から選択できます。標準のMicrosoft Remote Desktopも好みに応じて使用できます。

これらのTSplusデスクトップはフルスクリーンデスクトップであるため、専用のシンクライアント、RDPベースのクライアント、またはウェブページやTSplus Remote Desktopクライアントからセッションが開かれると、ユーザーのディスプレイは完全に埋め尽くされます。

標準のリモートデスクトップに対する利点があります。サーバーのセキュリティが強化されます(スタートボタンもデスクトップの完全な制御もありません)。

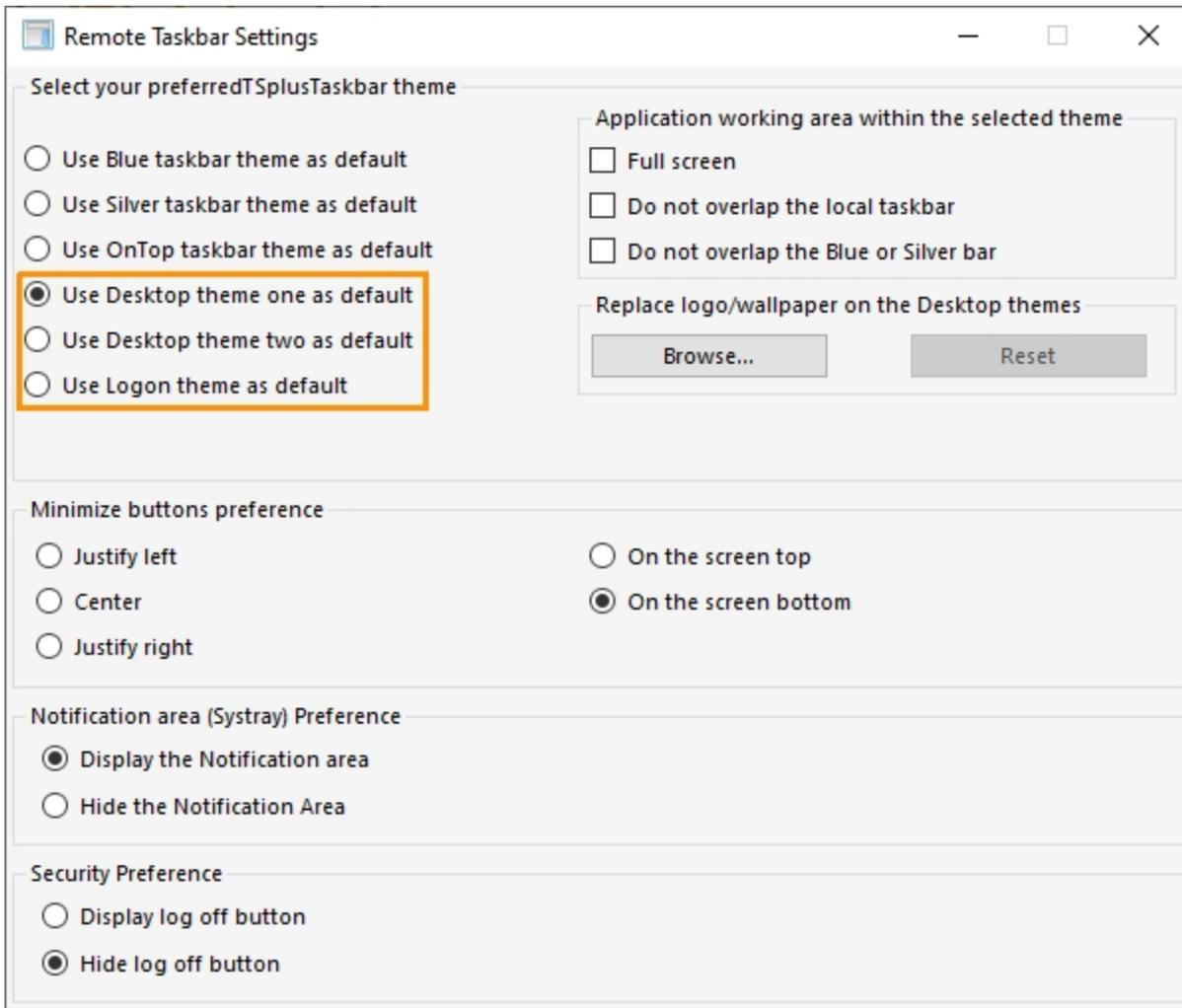
## 標準Microsoftリモートデスクトップ



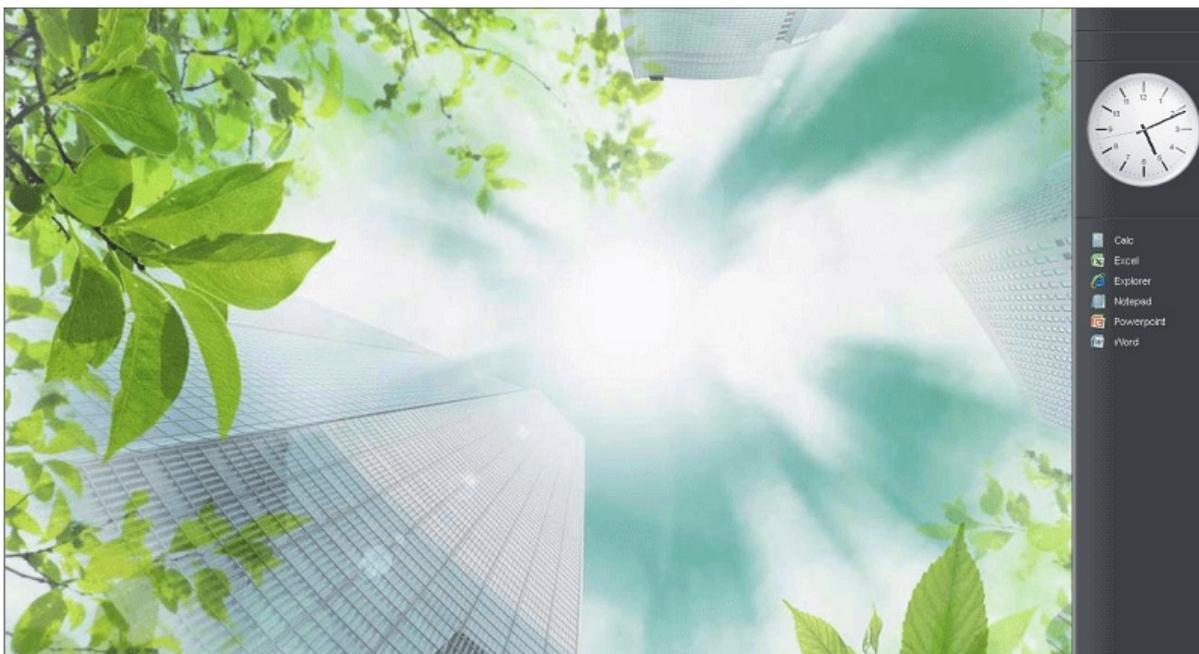


- ユーザーはスタートボタンを含む完全なデスクトップとデスクトップの完全な制御を持っています。
- デスクトップ全体に割り当てるには、Microsoft Remote Desktopアプリケーションを割り当てるだけです。

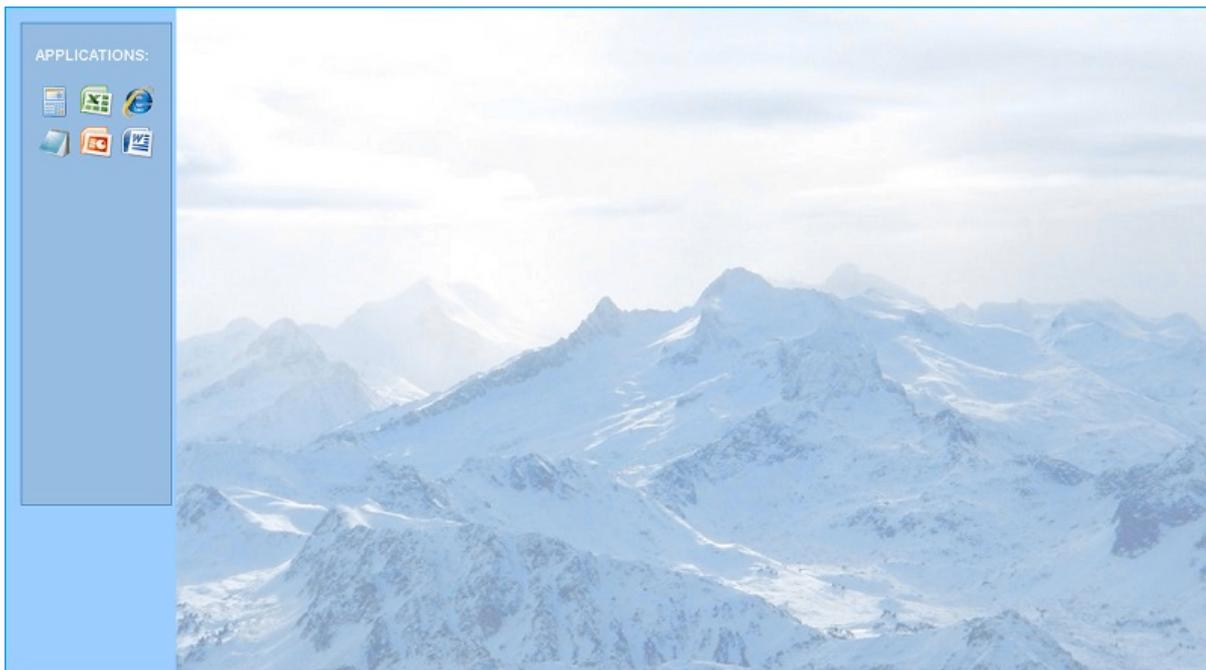
デスクトップテーマを変更するには、TSplus Remote Taskbarを割り当て、提案された3つのテーマの中から選択する必要があります。



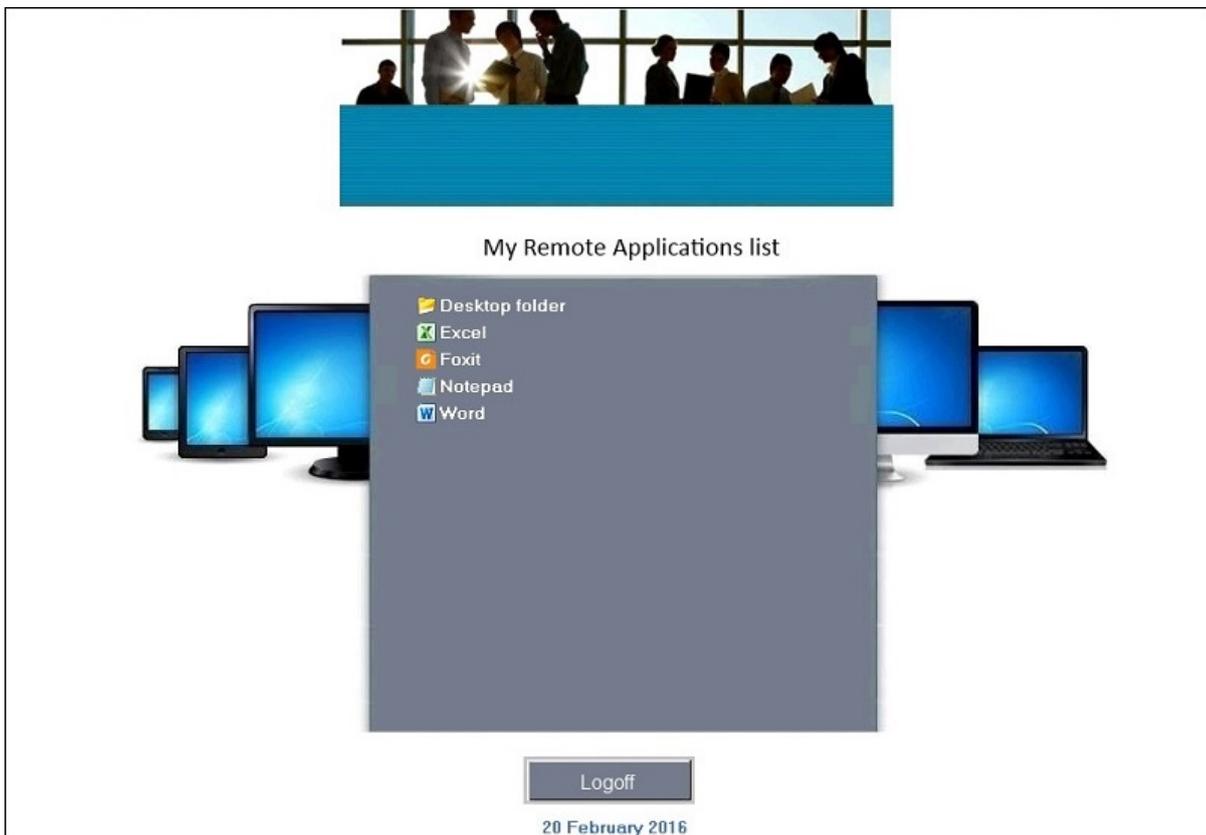
## TSplus デスクトップテーマ1



## TSplus デスクトップテーマ2



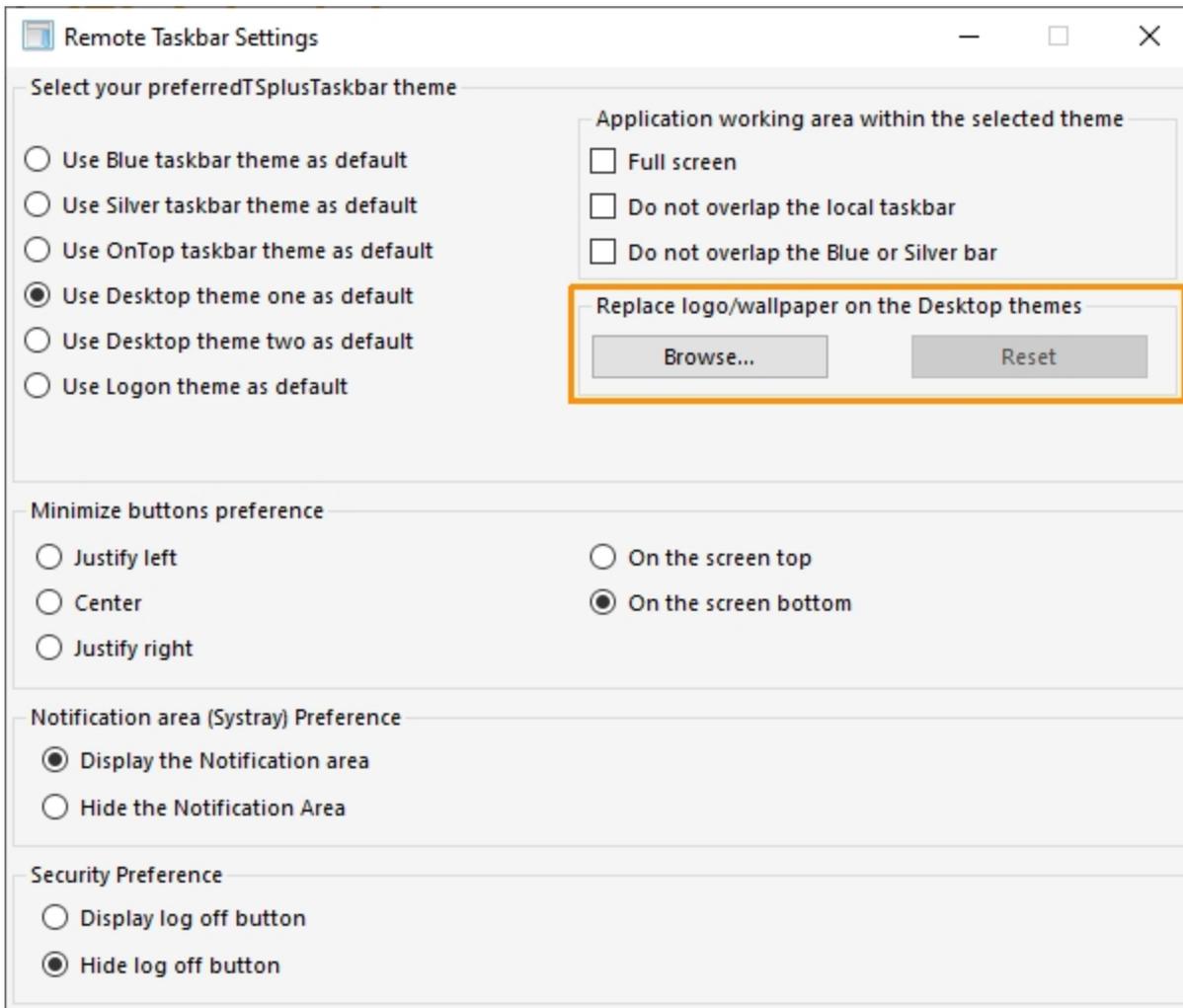
## TSplus ログオンテーマ



## カスタマイズされたテーマ

各テーマについて、管理者はそれをカスタマイズでき、例えば企業のロゴを表示できます。ま

た、デスクトップテーマの1つを選択し、ロゴ/壁紙を置き換えるボタンをクリックして、.jpgファイルを選択することで、自分のデスクトップ壁紙を追加することもできます。



- デスクトップテーマの1つを選択し、置き換えロゴ/壁紙ボタンをクリックして.jpgファイルを選択することで、自分のデスクトップ壁紙を追加できます。



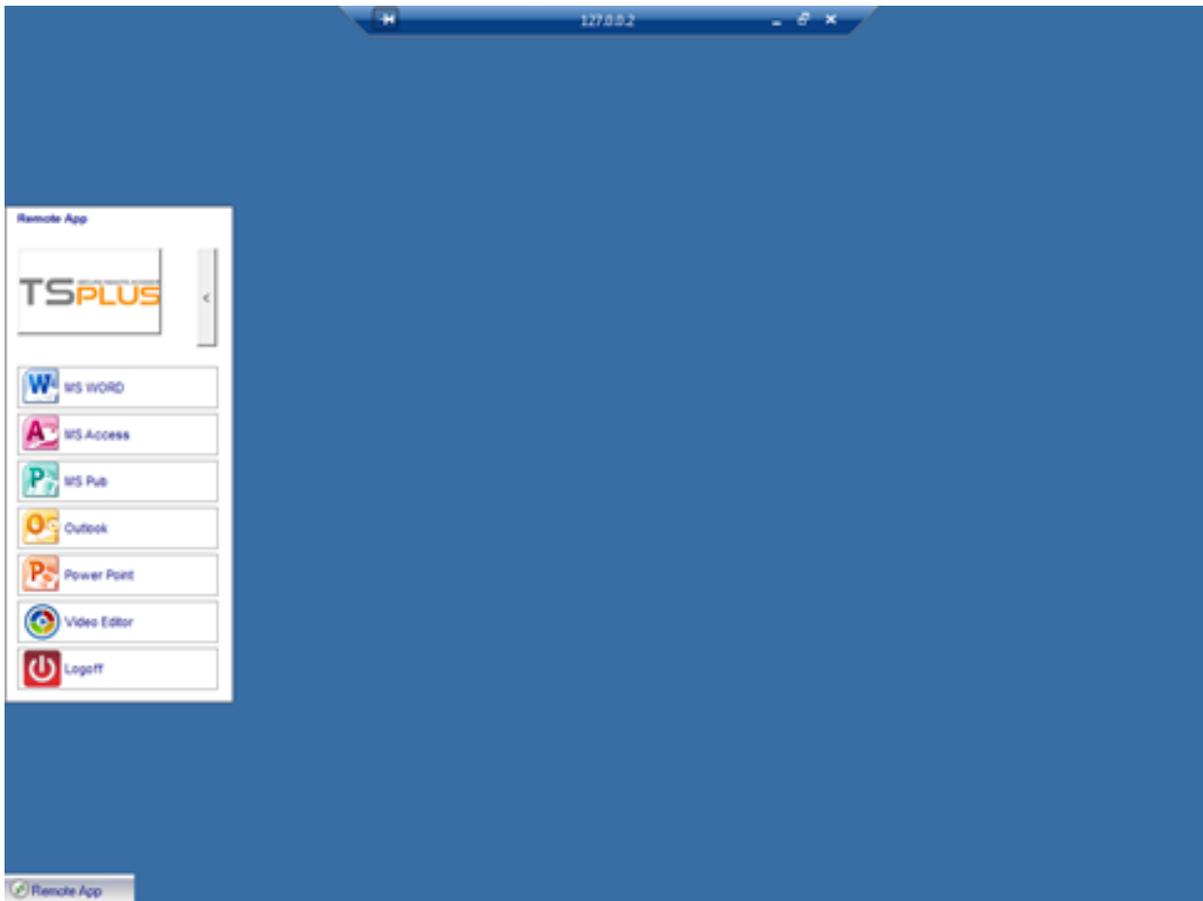
# クライアント機能のRemoteApp

過去には、生成された TSplus Portable クライアントがユーザーがアプリケーションを起動するための一般的な方法でした。10.50 リリースでは、**通知領域のアイコン** 各ユーザーにすべてのリモートアプリケーションのリストを提供します。このアプリケーションリストの中から、ユーザーは起動したいものを選択できます。

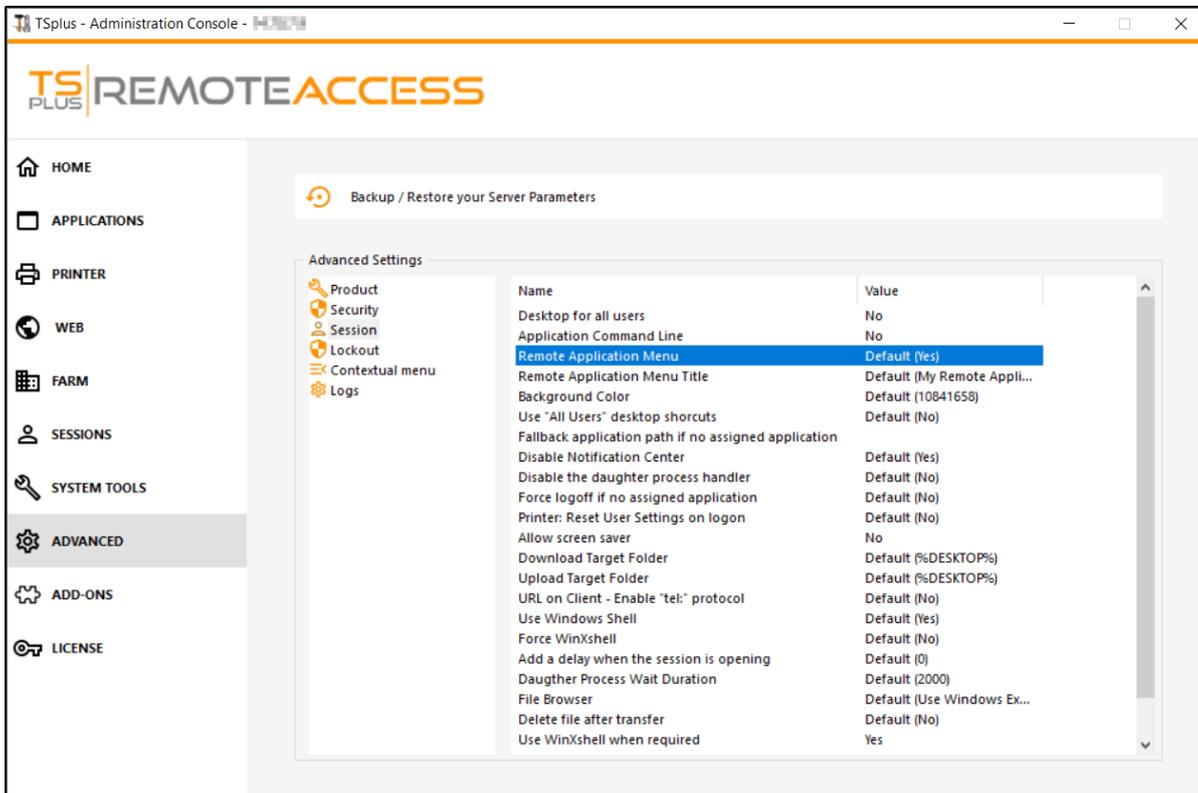
これは、管理者がユーザーにリモートアプリケーション (「RemoteApps」と呼ばれる) を提供するための新しい方法です。具体的には、RemoteApp On Clientは、サーバーに直接インストールされたアプリケーションをユーザーに提供できる簡単な公開プロセスを可能にし、RemoteAppプログラムがローカルプログラムと並行して実行できるようにし、ユーザーがRemoteAppプログラムを見つけて起動するのを簡単にするカスタム「ランチャー」アプリケーションとの統合を提供します。

ユーザーアプリケーションリストも表示されます **スタートメニュー** 下に **すべてのプログラム** フォルダーにある **私のリモートアプリケーション** この新しい素晴らしいTSplus機能を展開するのは簡単です：管理者は新しい接続クライアントを生成し、AdminToolでそれを許可しました。このガイドでは、管理者がこの新しい機能を有効にしたときに何が起こるかをステップバイステップで説明し、ユーザーに新しく生成された接続クライアントを提供します。

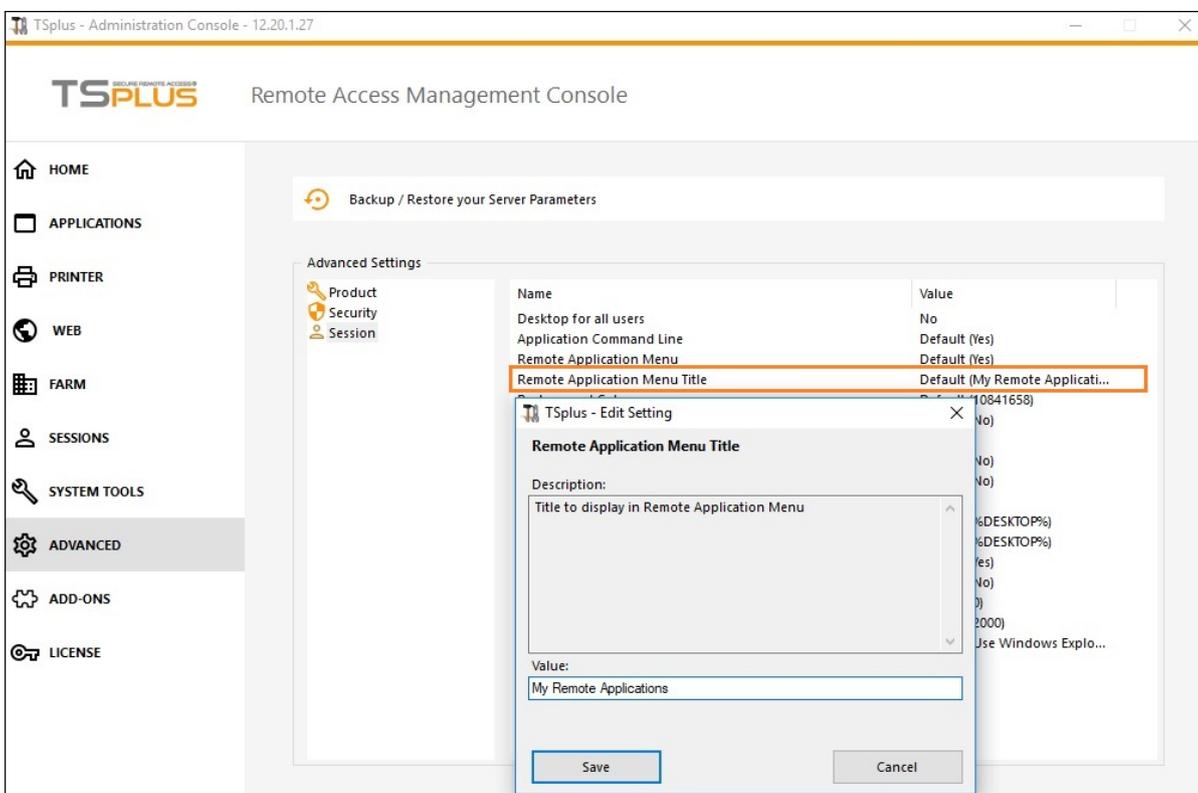
ユーザー「ローラ」は、リモートアプリケーションにアクセスするためにTSplusを使用しています。そのために、生成されたクライアント名を使用しています。 **LauraPortableClient.exe** 彼女が自分のPCでそれを実行すると、次の結果が得られます：



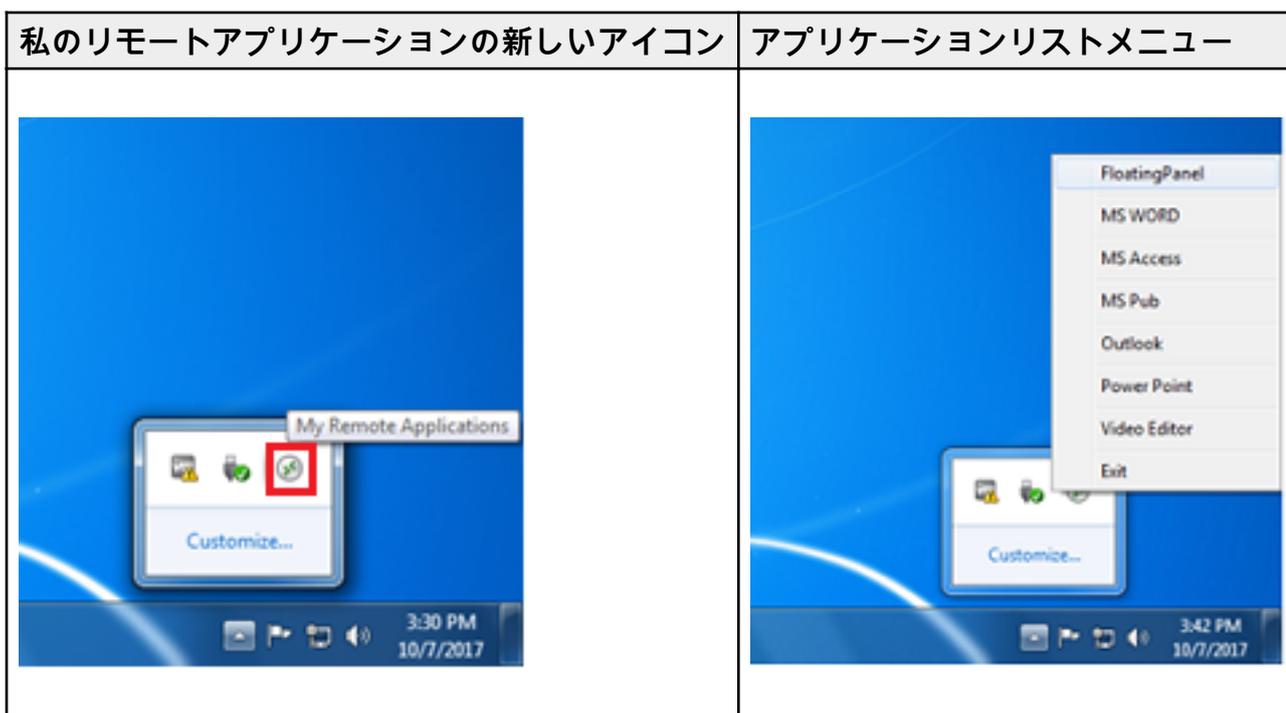
しかし、管理者は彼女に新しいものを提供しました。これはTSplus 10.50リリースで作成されたものです。彼女は新しい機能を利用するために、少なくとも一度はそれを実行する必要があります。クライアントのRemoteApp機能 管理者がユーザーにアプリケーションを追加または削除する際、その変更は次回のログオン時にサーバー側で設定されます。つまり、現在のセッションにはそのような変更が反映されません。AdminToolのAdvancedタブには、このRemoteApp On Client機能を有効または無効にするオプションがあり、デフォルトでは有効になっています。



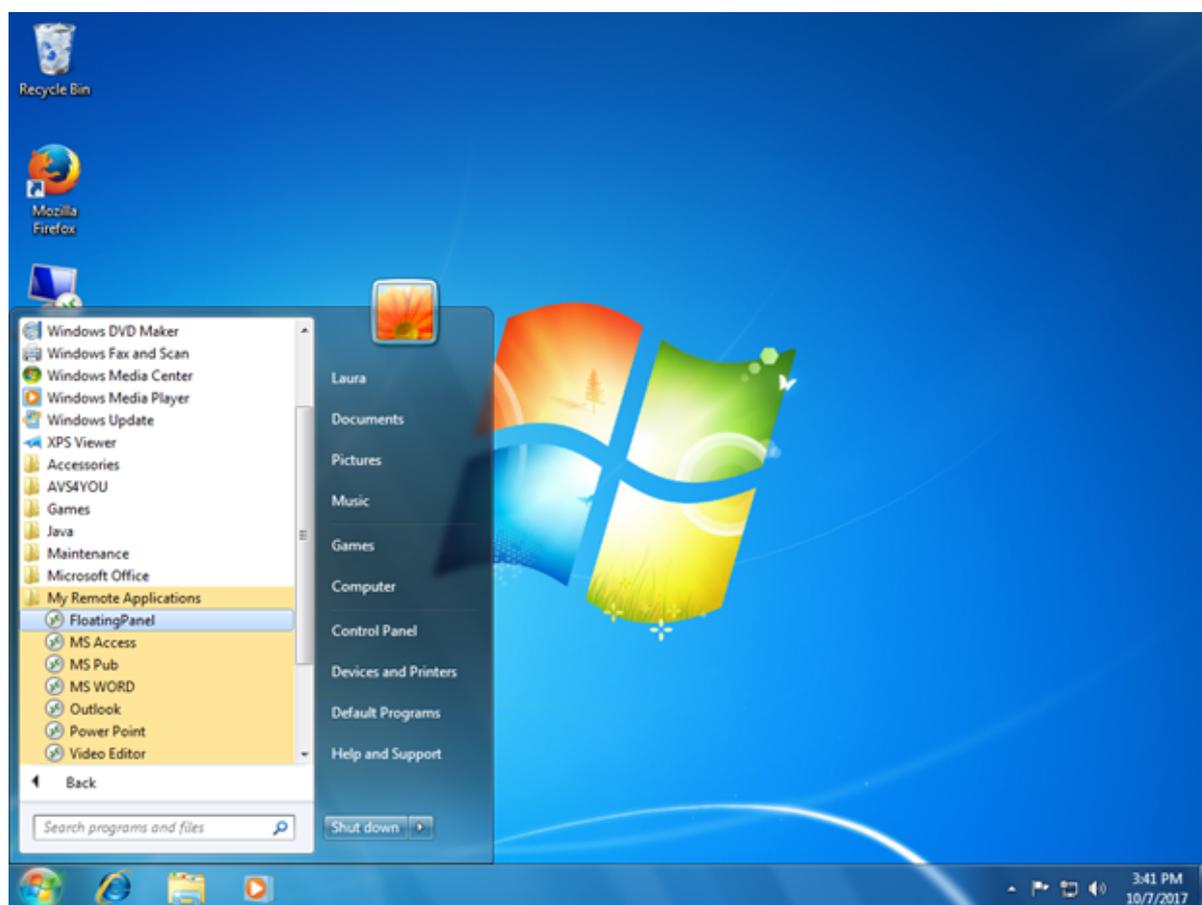
メニュー名は、下のリモートアプリケーションメニュータイトルをクリックし、値ボックスに追加することで自由に変更できます。



彼女が新しく生成されたクライアントを一度実行すると、彼女のPCで何が起こるか：彼女はローカルタスクバーの通知領域に新しいアイコンを見るでしょう。



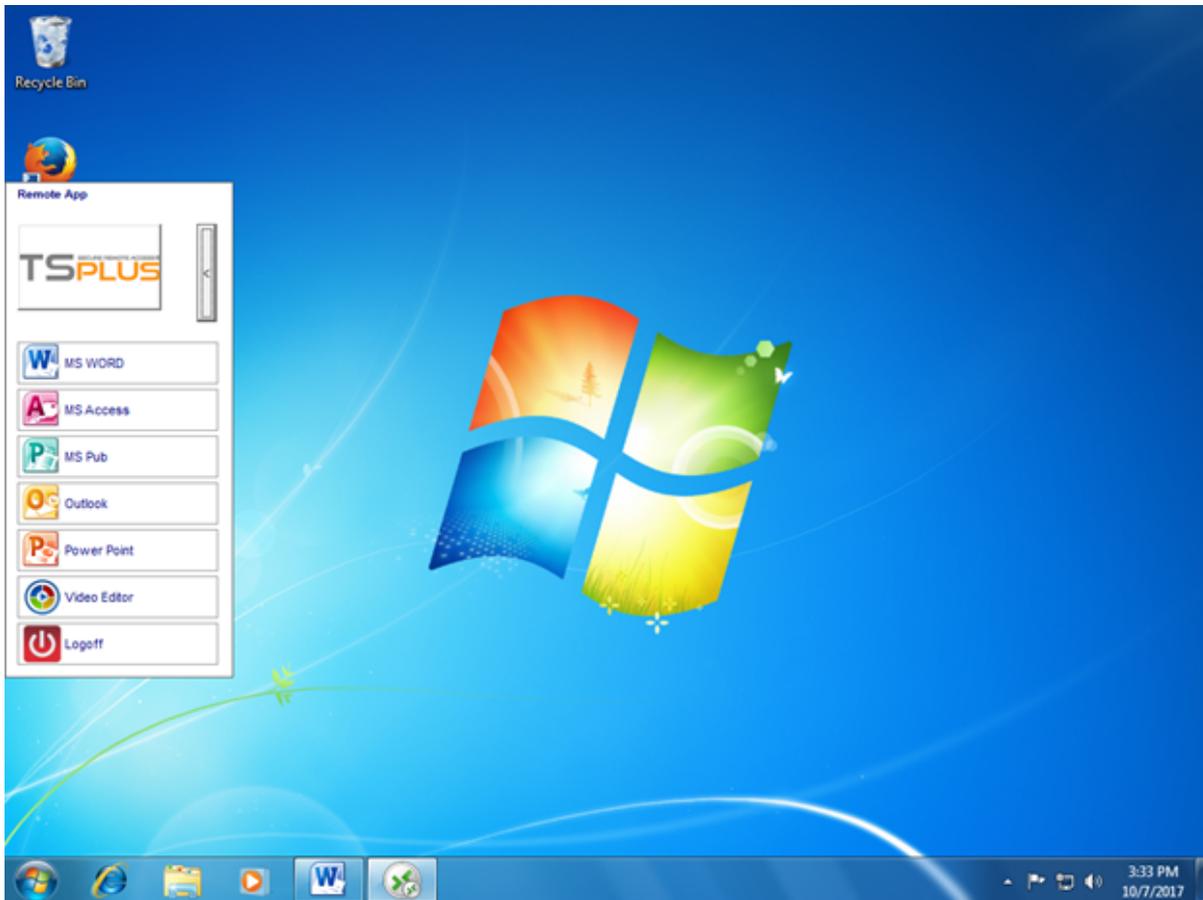
彼女はまた、スタートメニューのプログラムリストに新しいエントリが追加されるのを確認します。 私のリモートアプリケーション：



彼女はこれらのリストにあるアプリケーションのいずれかを選択し、RemoteAppとして起動で

きるようになります。提供されたLauraPortableClient.exeで生成されたクライアントを使用する必要はありません。

例えば、彼女がフローティングパネルを選択すると、彼女はこの結果を得るでしょう。

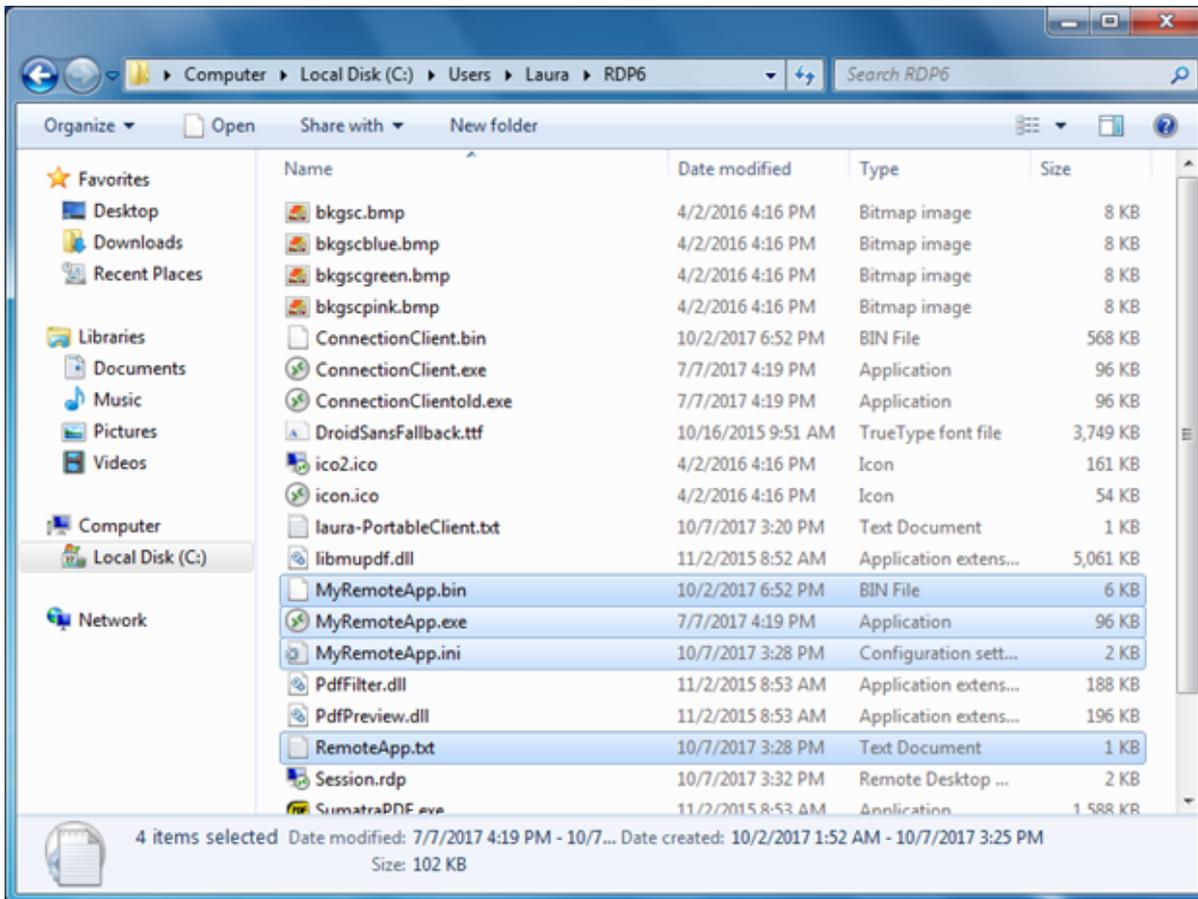


**この新しい技術の背後にある技術的背景。**

10.50リリースの新しい生成クライアントは、ローカルPCのユーザープロファイルのC:\Users%UserName%\RDP6フォルダー内にいくつかのファイルを追加しています。

MyRemoteApp.exe そして MyRemoteApp.bin 新しいアイコンを通知領域に作成し、スタートボタンのすべてのプログラムリストに新しいエントリを追加するために開始されるプログラムコードです。

MyRemoteApp.ini サーバーから受信したファイルです。サーバー側でこのユーザーに割り当てられた各アプリケーションの詳細を提供しています。サーバーへの新しい接続ごとに更新されます。通常、サーバーからこのファイルを受信するのに各ログイン後30秒かかります。RemoteApp.txtは、このPCで最後に生成されたクライアントの名前を提供しています。



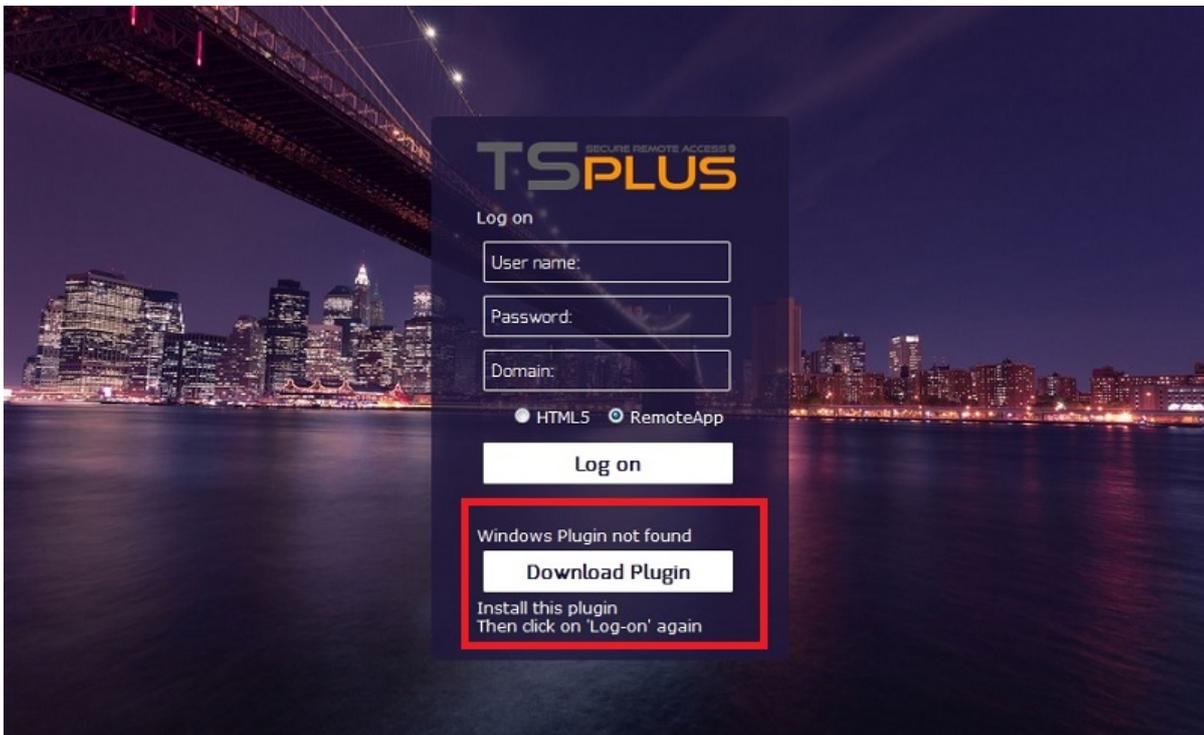
## コメント：

ユーザーが自分のPCで管理者権限を持っている場合、 **MyRemoteApp.exe** 各再起動時に自動的に開始され、スタートボタンも更新されます。それ以外の場合、管理者は新しく生成されたクライアントを「管理者として」一度実行して新機能を有効にする必要があります。そうすることで、HKLMに適切なレジストリエントリが作成されます。ユーザーが1つのサーバーにのみ接続している場合、この新しいシステムは完璧です。しかし、異なるサーバーでセッションを開くために複数の接続クライアントを使用している場合は、そのファイルを考慮する必要があります。 **MyRemoteApp.ini** 最後の接続の値で更新されます。ユーザーにとって混乱を招く可能性があります。そのような展開の場合はこの新機能を使用しないことをお勧めします。

# リモートアプリプラグイン

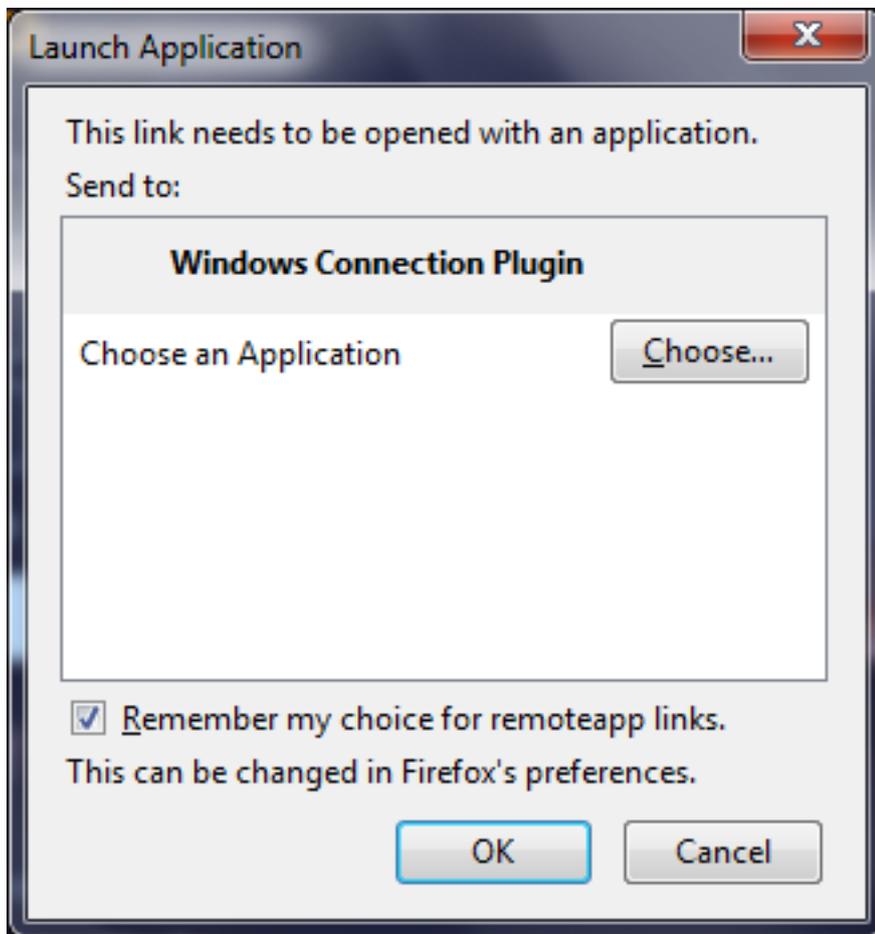
新しい8.40バージョンのTSplusでは、クライアントブラウザにJavaプラグインをインストールする必要がなくなりました。

Windows RemoteAppクライアントにアクセスするには、Webポータルを介して小さなWindowsプラグインをダウンロードしてインストールしてください。この操作は迅速で、クライアントごとに一度だけ必要です。



C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\RemoteAppClientフォルダーにもインストールできます。

Firefoxを使用している場合、このメッセージは最初の接続時に表示されます。「選択を記憶する」オプションを選択すると、今後の接続時に通知が無効になります。



---

注意 TSplus 12.40以降、RemoteAppクライアントのセットアップと [クライアントセットアッププログラム](#) 一つのセットアップで展開できるように統合されているため、RemoteAppクライアントセットアップをダウンロードすれば、接続クライアントのものをダウンロードする必要はありません。

# リモートアプリ接続クライアント

クライアントジェネレーターの一般タブで2つの表示モードから選択できます:

Windows Client Generator

General | Display | Remote Desktop client | Local resources | Program | Security | Load-Balancing

Server

Server address: 192.168.1.254 | Port number: 3389

User

Logon: John | Password: ●●●●

Domain name (without extension): TSplus

Preferred display mode

Remote Desktop client |  RemoteAPP client

Disable background & animations for better performances |  Fast network or Fiber optic

Client location: C:\Users\admin\Desktop | Browse

Client name: John-44.connect | Create Client

## ###RemoteApp接続クライアント

RemoteApp接続クライアントは、透明度の色設定に依存しません。

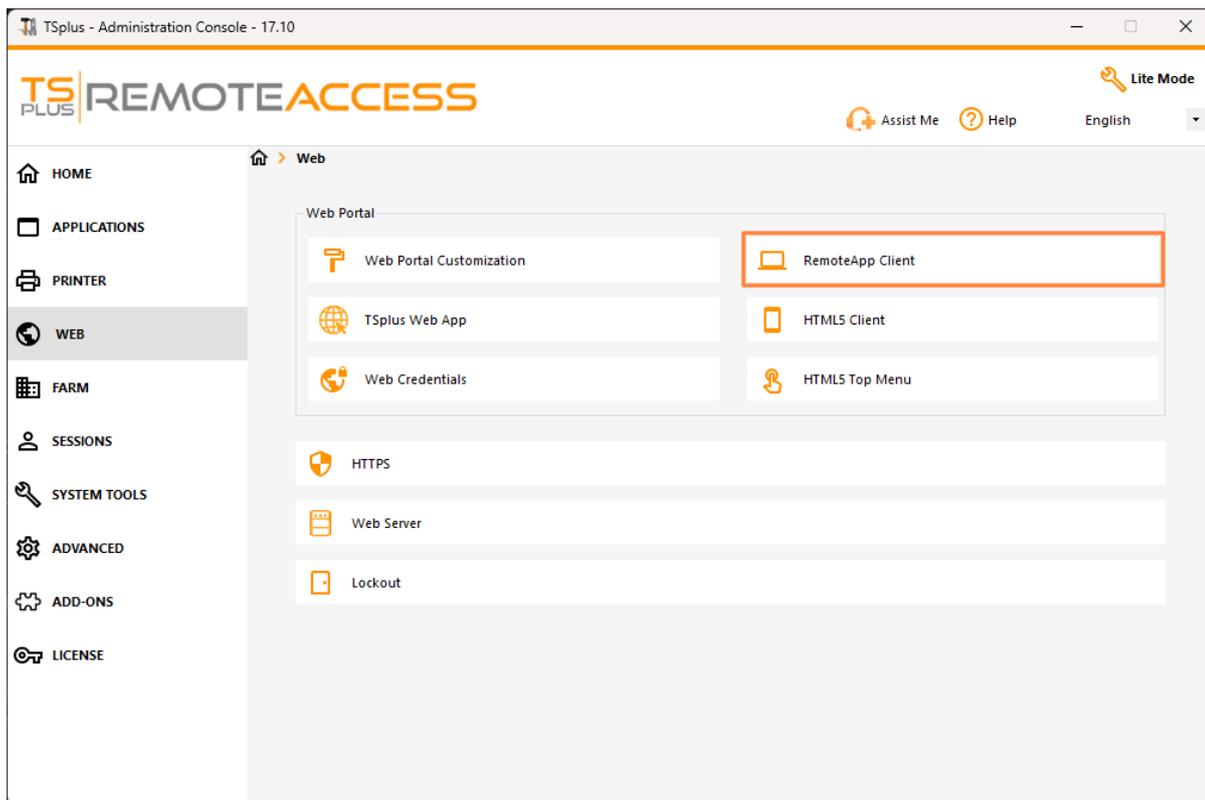
これにより、アプリケーションの表示が完璧になり、ネイティブのWindowsの動作が実現します。

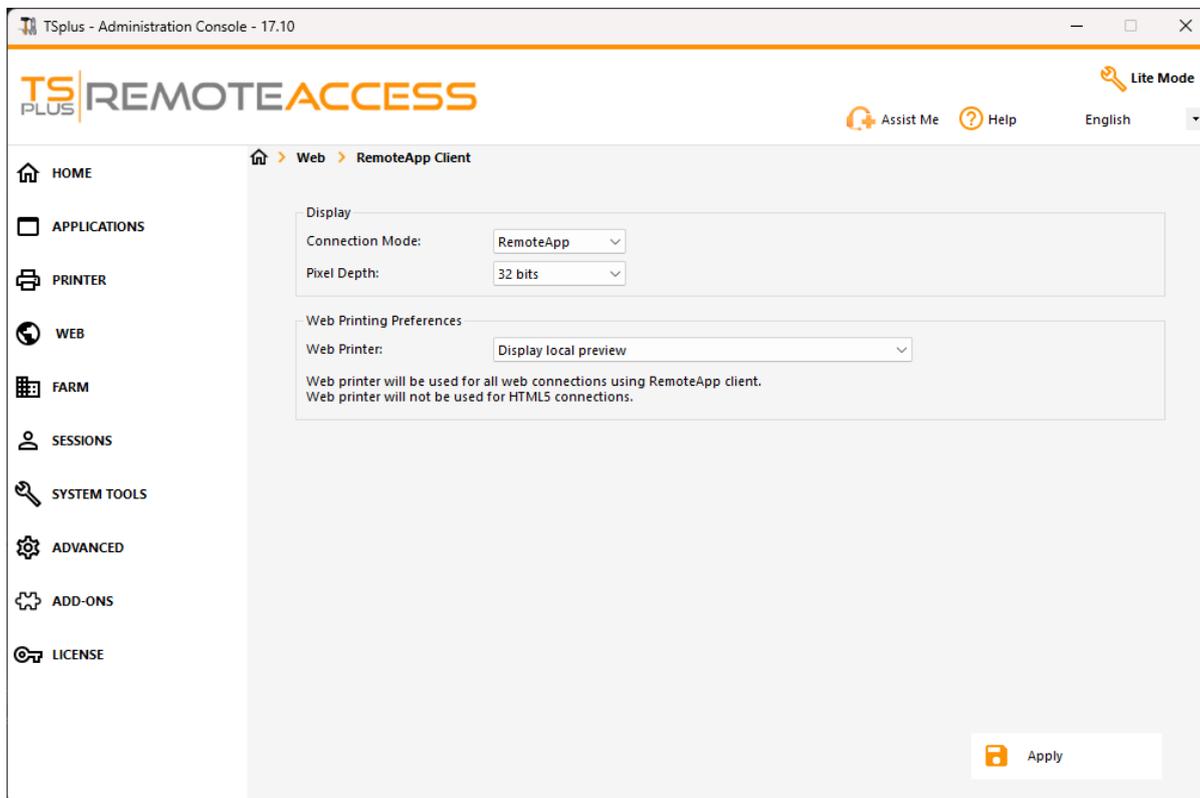
- クライアント側では、RDP6以上のインストールが必要です。

- サーバー側では、TSplusはWindows 7からWindows Server 2019を実行しているマシンにインストールする必要があります。

注意 RemoteAppはWindows 10 1803および1809 Home Windows 2019 Essentials Editionsではサポートされていません。

WebタブのAdmintoolでRemoteAppクライアントの表示と印刷の設定を変更できます。





最小化されたアプリケーションは、ローカルアプリケーションのようにWindowsタスクバー内に直接表示されます。

この例では、FirefoxとPaintがローカルで起動され、Notepad、Word、Foxitがリモートで起動されます。



リモートアプリ接続クライアントでは、ユーザーのログオン時にシームレスに起動される1つのユニークなアプリケーションを公開することを選択できます。アプリケーションを公開することもできます。 [TSplusリモートタスクバー](#) , [フローティングパネルまたはアプリケーションパネル](#) .

# プロキシ環境下でWindowsクライアントを実行する

通常、SSHパッケージはHTTP(S)プロキシをサポートしており、これによりほとんどの既知のプロキシを克服するのに十分です。

しかし、プロキシ環境が適切に認識できず、サードパーティのソフトウェアから隠されている、またはターゲットサーバーがリバースプロキシの背後にある非常に難しいケースが存在します。

そのような難しいケースのために、ソフトウェアには「レスキューモード」と呼ばれる非SSHソリューションが含まれています。

HTML5接続を確立できる場合、このソフトウェアがWebsocket ( FF、Chrome、Opera、IE10など ) またはXHR ( IE6-IE9 ) を通じてネイティブソケット接続を確立するのに役立つことを確信できます。

注意してください、一部のプロキシは許可されています [Websocket/XHR](#) トラフィックはHTTPSレイヤーのみを介して行われるため、httpの代わりにhttpsアドレスを使用してください。

プロキシがプロキシ認証を要求せず、ブラウザを介してページにアクセスできる場合:

1. `http(s)://yourserver.com__/software/html5/jwres/__`を開く
2. 接続が成功するまで待機してください ( 要求された場合はJavaの実行を承認してください )
3. 赤いテキスト「リンクを開く」をクリックして、作業用ウェブアクセスページを開いてください。
4. 通常通りWindowsクライアントアクセスを使用してください

プロキシがプロキシ認証を要求し、ブラウザを介してページにアクセスできる場合:

1. `http(s)://yourserver.com__/software/html5/jwres/__`を開く
2. Javaアプレットの認証を要求する場合は、「キャンセル」を押してください。
3. 「Download LocalWebserver」をクリックし、ダウンロードが成功した後に実行すると、ポート18888でローカルHTTPサーバーが起動します。」
4. 「アプレットの強制読み込みをクリックしてください」 <http://localhost:18888> ”, これにより、ローカルHTTPサーバーからのJARの読み込みでページが再読み込みされます
5. 接続成功を待つ

6. 赤いテキスト「リンクを開く」をクリックして、作業用ウェブアクセスページを開いてください。
7. 通常通りWindowsクライアントアクセスを使用してください

# TSplusサーバーのセキュリティ確保

## 概要

サーバーのセキュリティを確保することは、すべての専門家が別の章を追加できる終わりのない物語です。

TSplusは、企業の既存のセキュリティインフラストラクチャ ( Active Directory、GPO、HTTPSサーバー、SSLまたはSSL通信システム、VPN、IDカードの有無にかかわらずアクセス制御など ) を利用し、互換性があります。

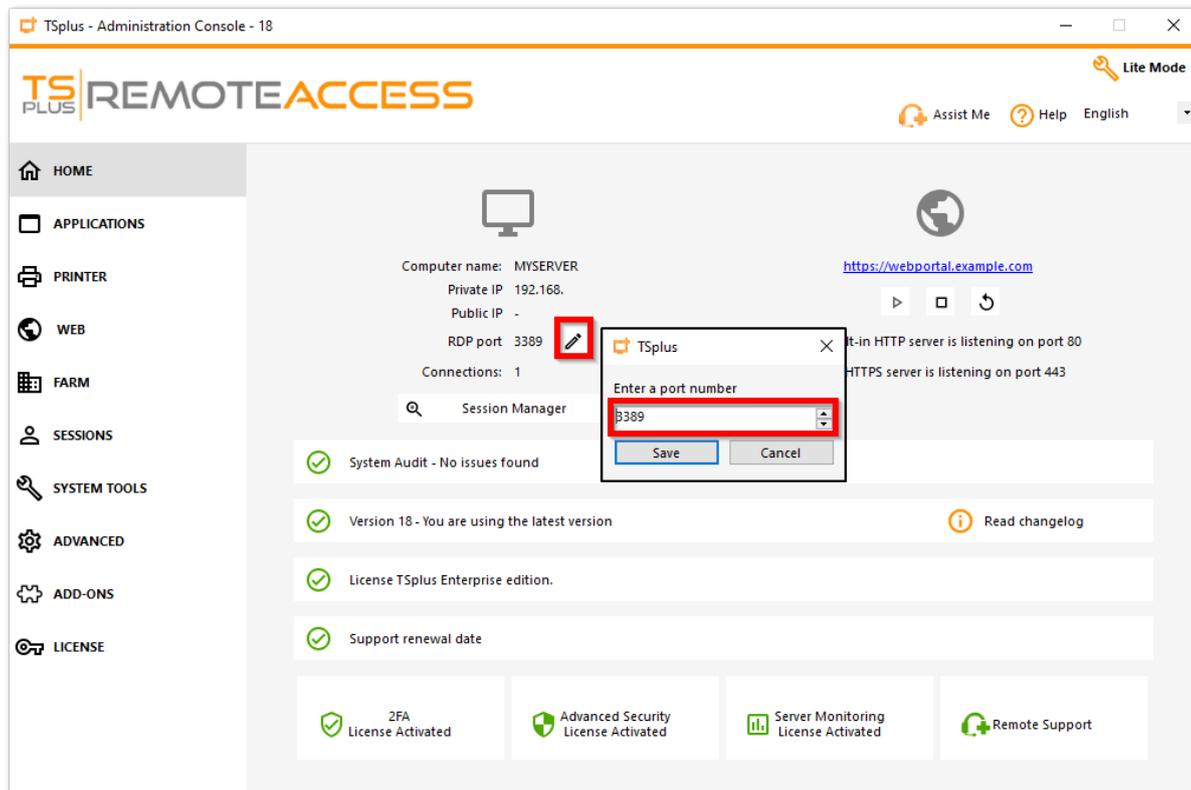
サーバーを簡単に保護したい顧客のために、TSplusは良好なセキュリティレベルを強制するためのシンプルで効果的な方法のセットを提供します。

AdminToolを使用すると、RDPサービスが接続を受け入れるための異なるTCP/IPポート番号を選択できます。デフォルトは3389です。

任意のポートを選択できます。ただし、それがネットワーク上で既に使用されていないことと、ファイアウォールおよび各TSplusユーザーアクセスプログラムで同じポート番号を設定することが前提です。

**TSplusには、ユニークなポートフォワーディングとトンネリング機能が含まれています。設定されたRDPポートに関係なく、RDPはHTTPおよびHTTPSポート番号でも利用可能です！**

ユーザーがネットワーク外からTSplusサーバーにアクセスしたい場合、選択したポートのすべての受信接続がTSplusサーバーに転送されることを確認する必要があります。ホームタブで、「RDPポート」の隣にある鉛筆ボタンをクリックします。



RDPポートを変更して保存します。

## サーバー側のセキュリティオプション

AdminToolは、管理者によって生成されたTSplus接続プログラムを使用していないユーザーのアクセスを拒否することを可能にします。この場合、TSplus以外の任意のRemote Desktopクライアントでセッションを開こうとするユーザー（正しいサーバーアドレス、ポート番号、有効なログオンおよび有効なパスワードを持っていると仮定）は、自動的に切断されます。

管理者は、リモートデスクトップユーザーグループのメンバーのみが決定できる。セッションを開くことが許可されます。

管理者は、セッションを開くためにパスワードが必須であると決定できます。

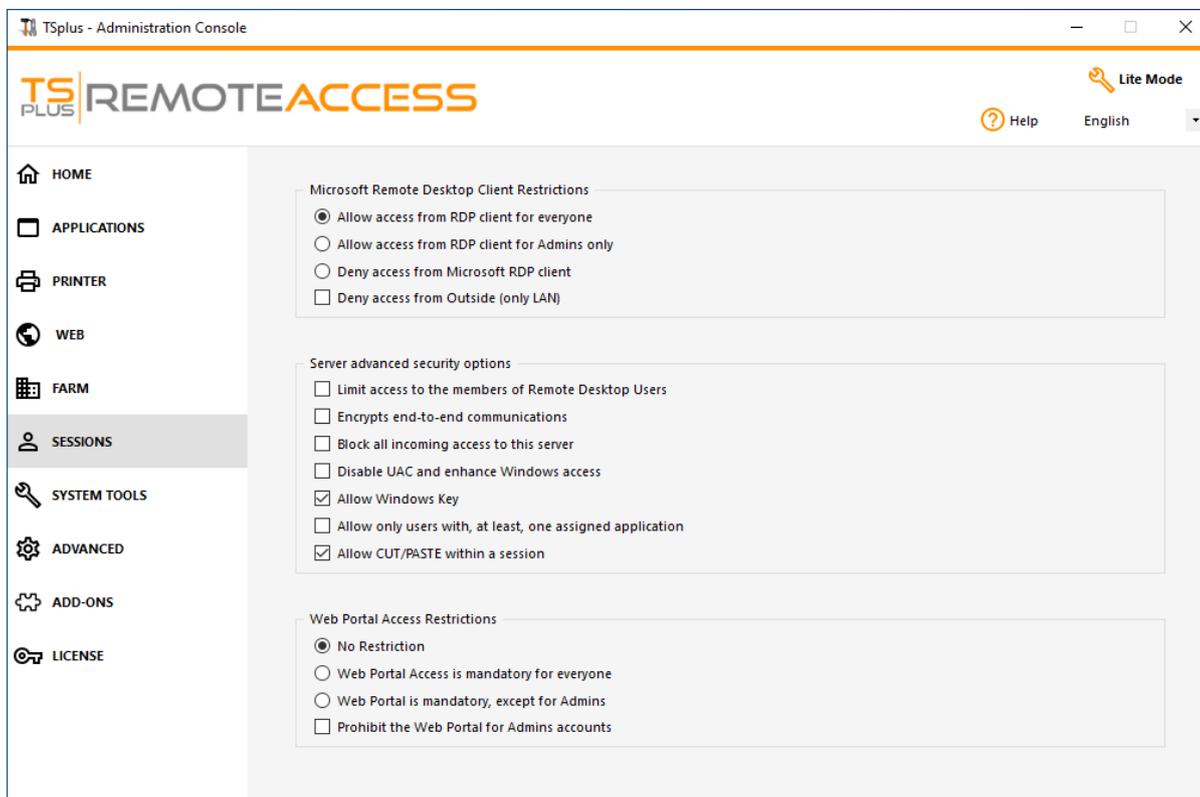
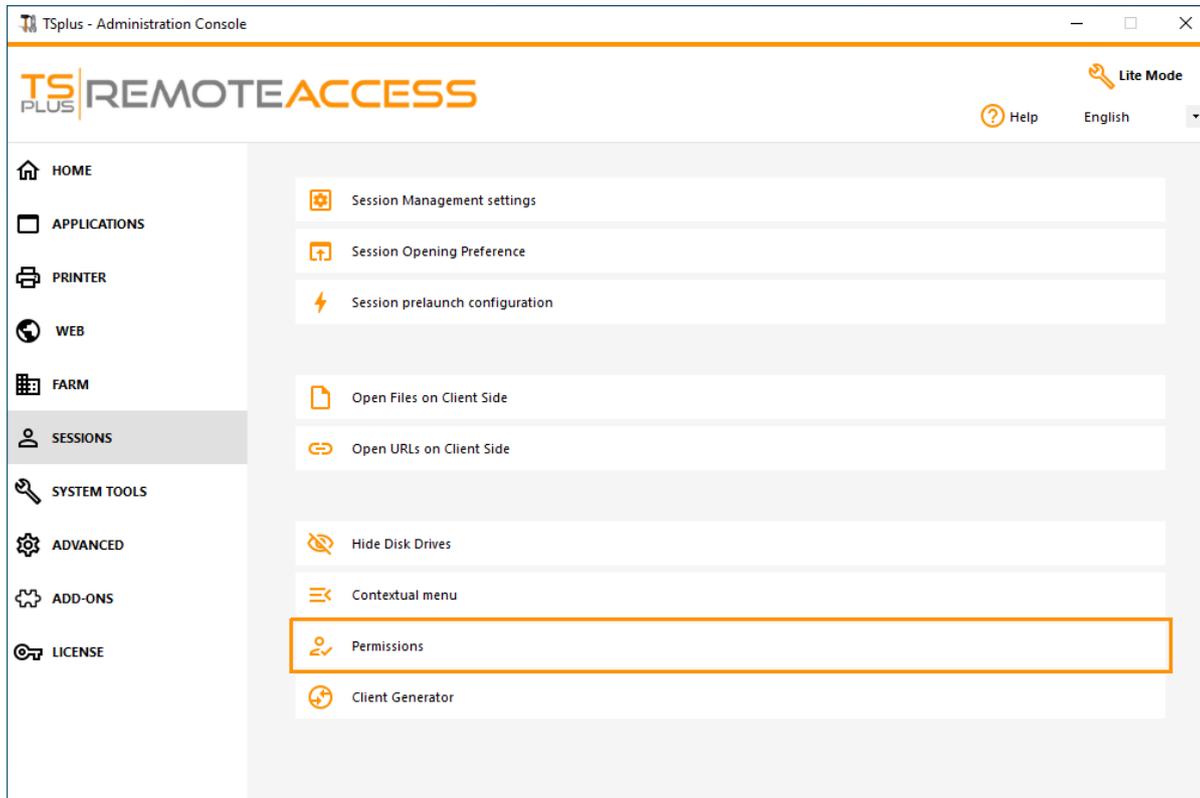
適用可能なローカルグループポリシーを設定することにより、管理者はターミナルサービスセッション中にクライアントとリモートコンピュータ間で送信されるすべてのデータに対して暗号化レベルを強制するかどうかを指定できます。

ステータスが有効に設定されている場合、サーバーへのすべての接続の暗号化は管理者によって決定されたレベルに設定されます。デフォルトでは、暗号化は高に設定されています。

管理者は、TSplus接続クライアントを持つユーザーのみがセッションを開くことができるというルールを設定することもできます。

標準のRDPまたはウェブアクセスによるすべての受信アクセスは自動的に拒否されます。

セッション - 権限タブをクリックすると、複数の高度なセキュリティオプションを見つけることができます。



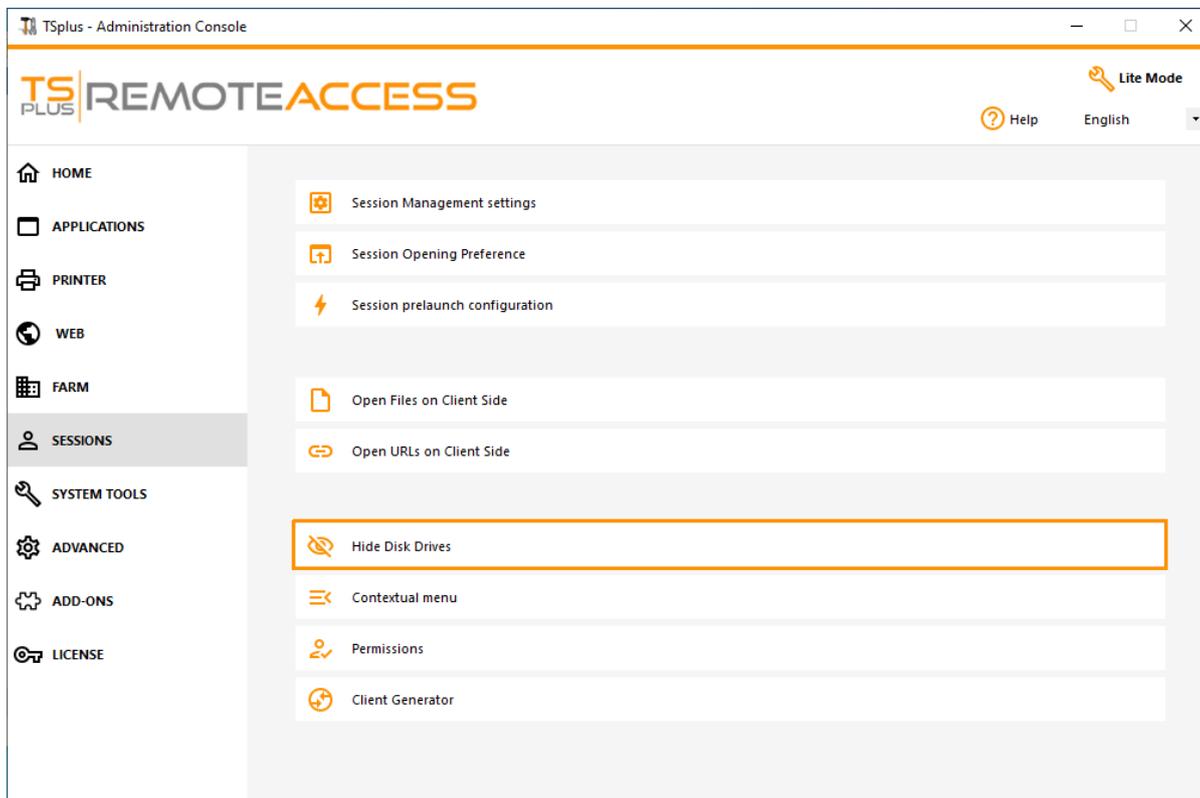
- **Microsoft RDPクライアントから全員にアクセスを許可:** すべてのユーザーがmstsc.exeを使用して接続できるようにします。

- **管理者のみのMicrosoft RDPクライアントからのアクセスを許可:** 管理者のみが mstsc.exe を使用して接続できるようにします。
- **Microsoft RDPクライアントからのアクセスを拒否:** mstsc.exeを使用して接続できないようにします。
- **外部からのアクセスを拒否:** それは、LANからのプライベートIPのみがセッションを開くことができることを意味します。
- **リモートデスクトップユーザーのメンバーにアクセスを制限します。** この制限は、このローカルユーザーグループにのみ適用されます ( クリックすることで確認できます )。 [ユーザーとグループタイトル](#) .
- **エンドツーエンドの通信を暗号化します:** 128ビット暗号化を使用してクライアント/サーバー間の通信を高く暗号化します。 端末サーバーにアクセスするクライアントも128ビット暗号化をサポートしている場合は、このレベルを使用してください。
- **このサーバーへのすべての受信アクセスをブロックします:** すべてのアクティブなセッションは維持され、すべての受信接続の試行はブロックされます。 このボックスをチェックする場合は、サーバーのコンソールに物理的にアクセスできることを確認してください。 このオプションは、サーバーがクラウド環境にホストされている場合は使用しないでください。
- **UACを無効にしてWindowsアクセスを強化する:** ユーザーアカウント制御を無効にし、Windowsから不要なセキュリティポップアップをすべて削除します。 アプリケーションを起動する際のユーザー制限 ( メッセージ ) 。
- **「Windowsキーを許可」ボックス** TPlusセッション内でWindowsキーとその組み合わせの使用を許可します。
- **少なくとも1つの割り当てられたアプリケーションを持つユーザーのみを許可します:** 1つのアプリケーションを持つユーザーは、セッションを開くことが許可されています。
- **セッション内での切り取り/貼り付けを許可:** このボックスのチェックを外すと、CTRL C/CTRL V コマンドが無効になります。

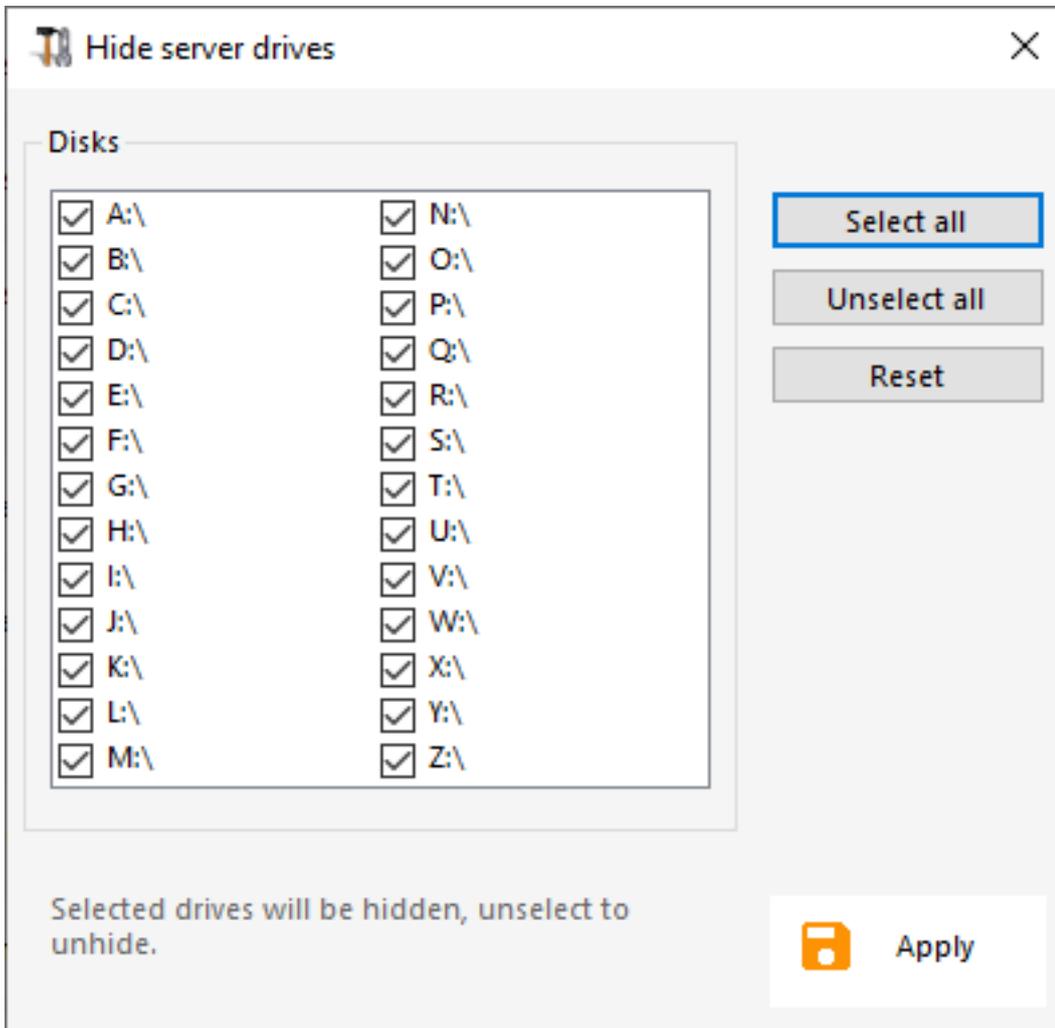
## ウェブポータルアクセス制限

- 制限なし
- Webポータルは全員に必須です : ユーザーはWebポータルを介してのみ接続できます。
- Webポータルは必須です。 管理者を除き、ユーザーはWebポータルを介してのみ接続できません。 管理者を除きます。
- 管理者アカウントのWebポータルを禁止します : 管理者はWebポータルを介して接続できません。

AdminToolには、ユーザーがマイコンピュータや標準のWindowsダイアログボックスを通じてフォルダーにアクセスするのを防ぐために、サーバーディスクドライブを隠すことを可能にするツールが含まれています。 セッションタブで、「ディスクドライブを隠す」をクリックします。



このツールはグローバルに機能します。これは、設定が適用された後、管理者でさえドライブに通常のアクセスができなくなることを意味します。以下の例では、「すべて選択」ボタンで全てのドライバーが選択されており、これによりすべてのドライブに対応するチェックボックスがチェックされ、誰にでも隠されることとなります。



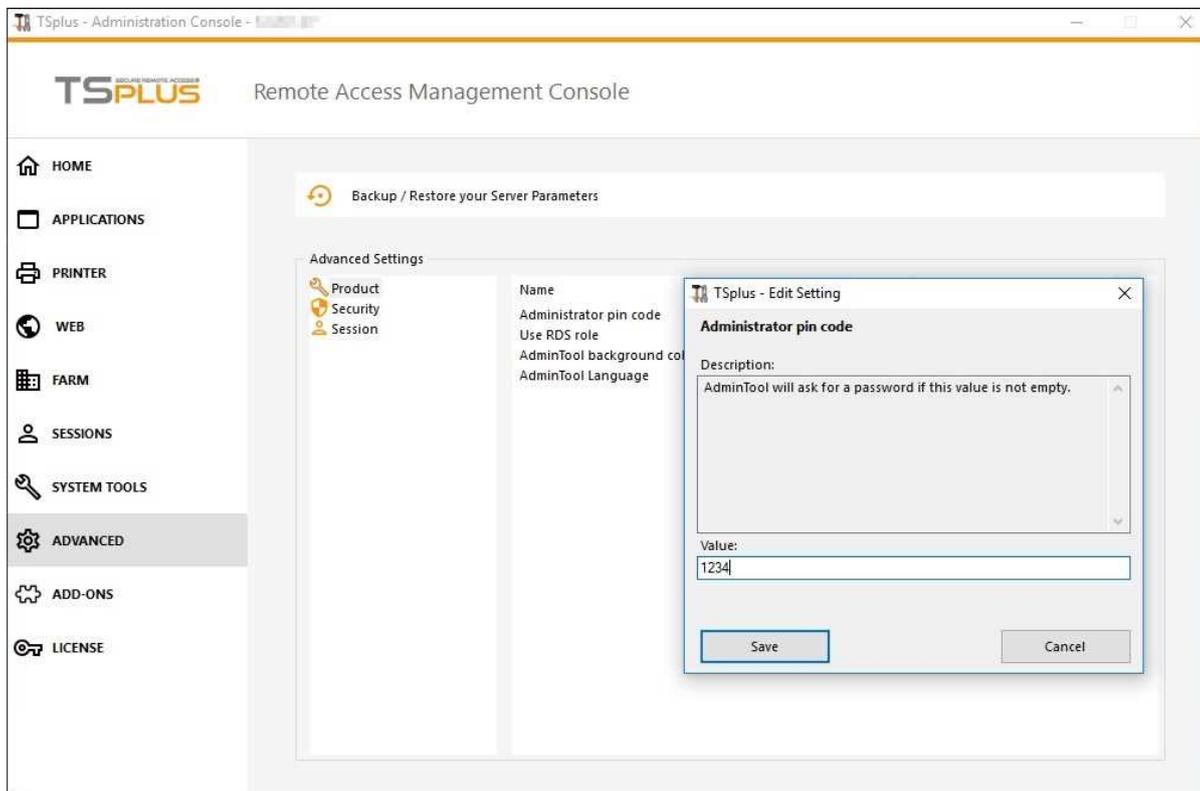
**注意:** この機能は強力で、ディスクドライブへのアクセスを無効にすることはありません。単にユーザーがそれを表示するのを防ぎます。

ツールはディスクドライブを隠しとしてフラグ付けしますが、ドキュメントと設定の全ルートフォルダーおよびユーザーリストにもHIDDENプロパティを追加します。

管理者がこれらのファイルを表示したい場合は、次のことを行う必要があります：

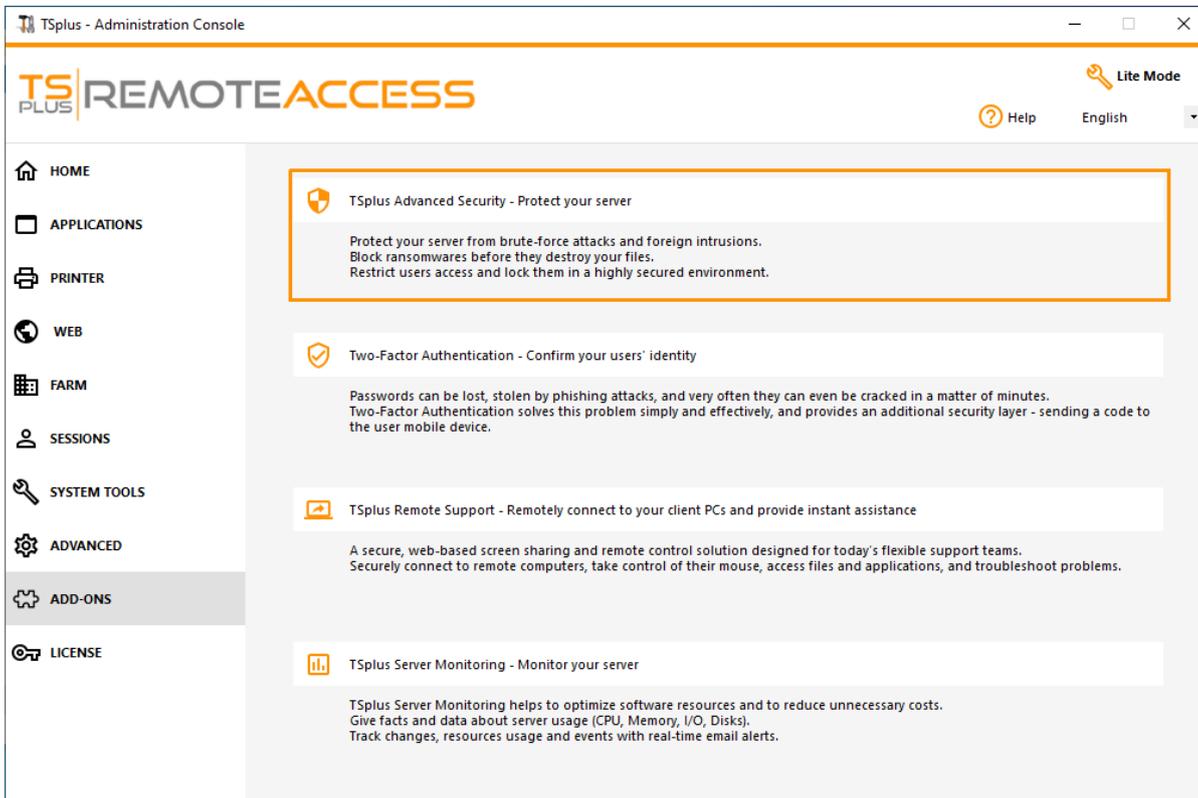
1. ディスクドライブのドライブレターを入力してください。例えば: **D:** D:ドライブに移動します。
2. オンにする **隠しファイルとフォルダーを表示** フォルダーの表示プロパティで。

管理者は、AdminToolのAdvancedタブのProduct Settingsの下で、毎回起動時に要求されるピンコードを設定することで、Administrator Toolへのアクセスを保護できます。

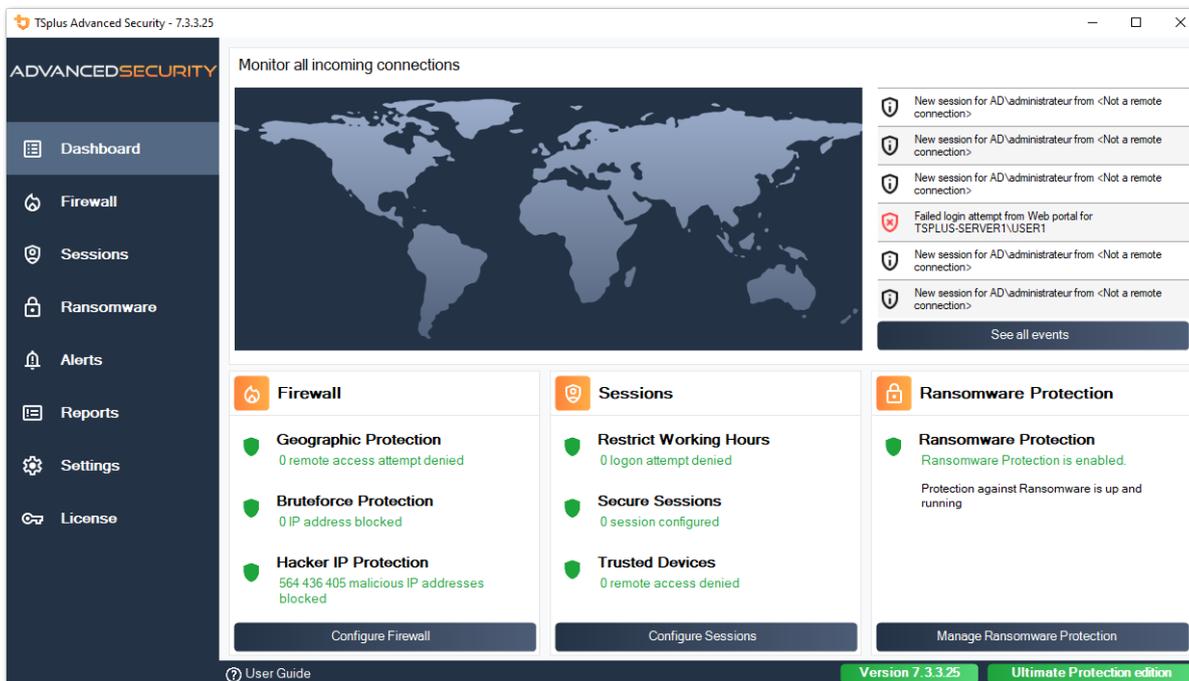


## TSplus Advanced Security Ultimate

TSplus 11.40バージョン以降、Add-Onsタブで起動できるユニークなセキュリティAdd-onツールが見つかります。



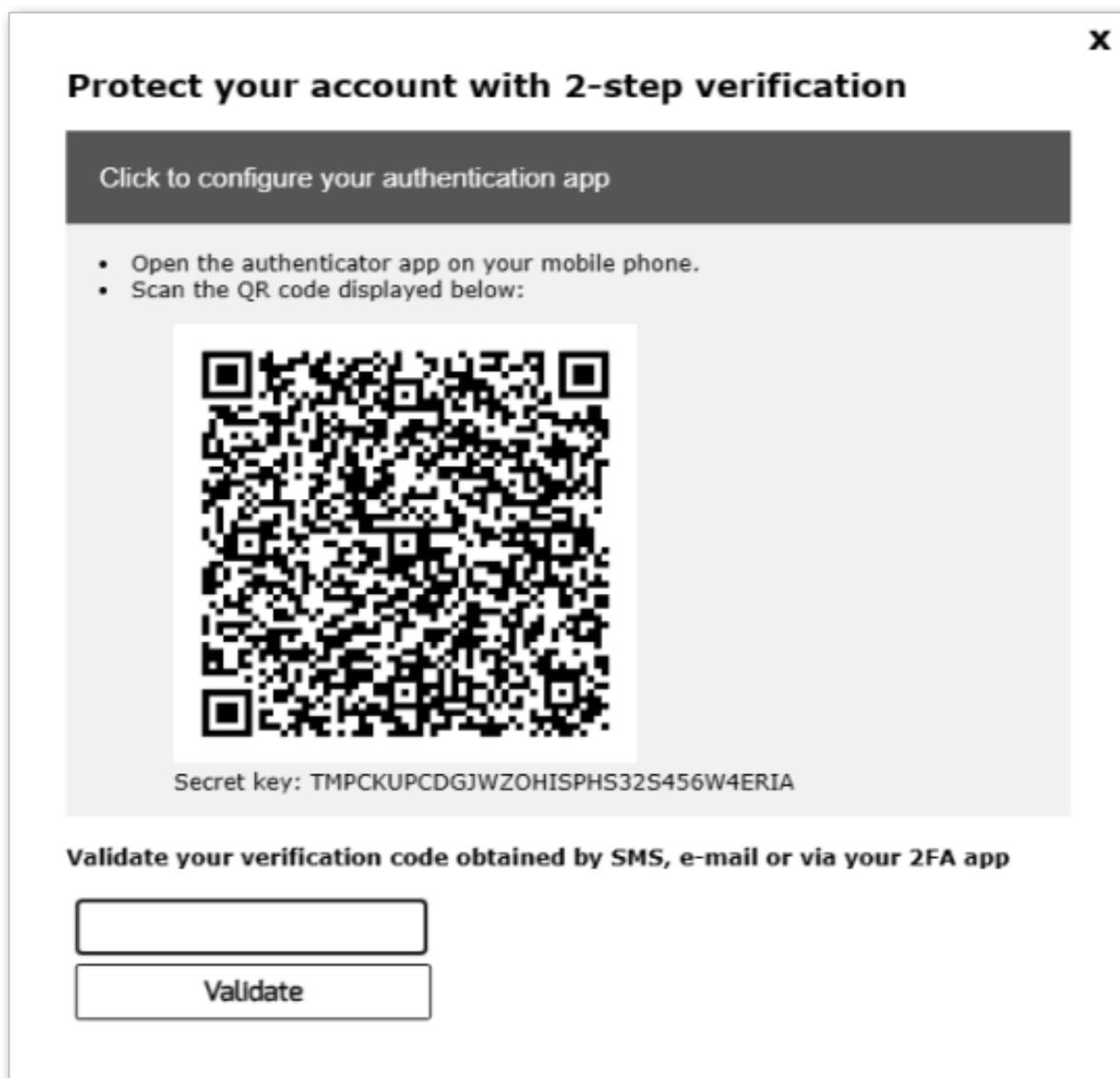
強力な機能をもたらし、文書化されています。 [このページ](#) .



Webポータルブルートフォース保護の役割は次のように説明されています。 [このページ](#) .

## 二要素認証

TSplus 12バージョン以降、TSplus Web Portalのアドオンとして二要素認証を有効にできます。



この素晴らしい新機能に関する詳細情報は次の場所で見つけることができます。 [このページ](#) .

## SSL証明書

SSL証明書のプロセスは、これらのページに詳細が記載されています。

- TSplusは、無料で有効なSSL証明書を生成するための使いやすいツールを提供します。 [無料で簡単にインストールできるSSL証明書](#)
- [HTTPSおよびSSLサードパーティ証明書](#) .
-

あなたの選択 [セキュリティを強化するための暗号スイート](#) .

## TSplus アクセสプログラムのセキュリティオプション:

TSplusクライアントジェネレーターは、セキュリティタブでTSplusクライアントをロックする機能を提供します。

- 特定のPC名です。これは、このプログラムが他のPCから起動できないことを意味します。
- 物理ドライブのシリアル番号 ( PC HDDまたはUSBスティック )。これは、高いレベルのセキュリティを設定するための非常に簡単で強力な方法です。

接続する唯一の方法は特定のクライアントを使用することであり、この特定のクライアントは特定のUSBメモリまたはPCのHDDでのみ起動できます。

私たちの顧客の中には、各ユーザーに指紋読み取りUSBスティックを配布し、生成されたプログラムがデバイスのシリアル番号にロックされるようにしている企業もあります。

この方法により、クライアントのプログラム自体へのアクセスを制限できるだけでなく、USBスティックからコピーされて他の場所で使用されることがないようにすることもできます。

# Windows Client Generator

General Display Remote Desktop client Local resources Program Security Load-Balancing

Advanced client security options

Lock it on PC name  Lock it on serial number

DESKTOP-204950 1961331728

Time limit: Disable this generated client after some days (for exemple 15 days)

No limit Number of days from the first use date of this generated client

Deny user from saving credentials  Enable 2FA

Save username only

Encryption V2

Advanced connection options

Use the targeted server as a Remote Desktop Gateway (RDG) to encrypt data transfer

Please be sure to use the specified server's Domain Name instead of its IP address. Also be sure the server has a valid SSL/TLS certificate installed.

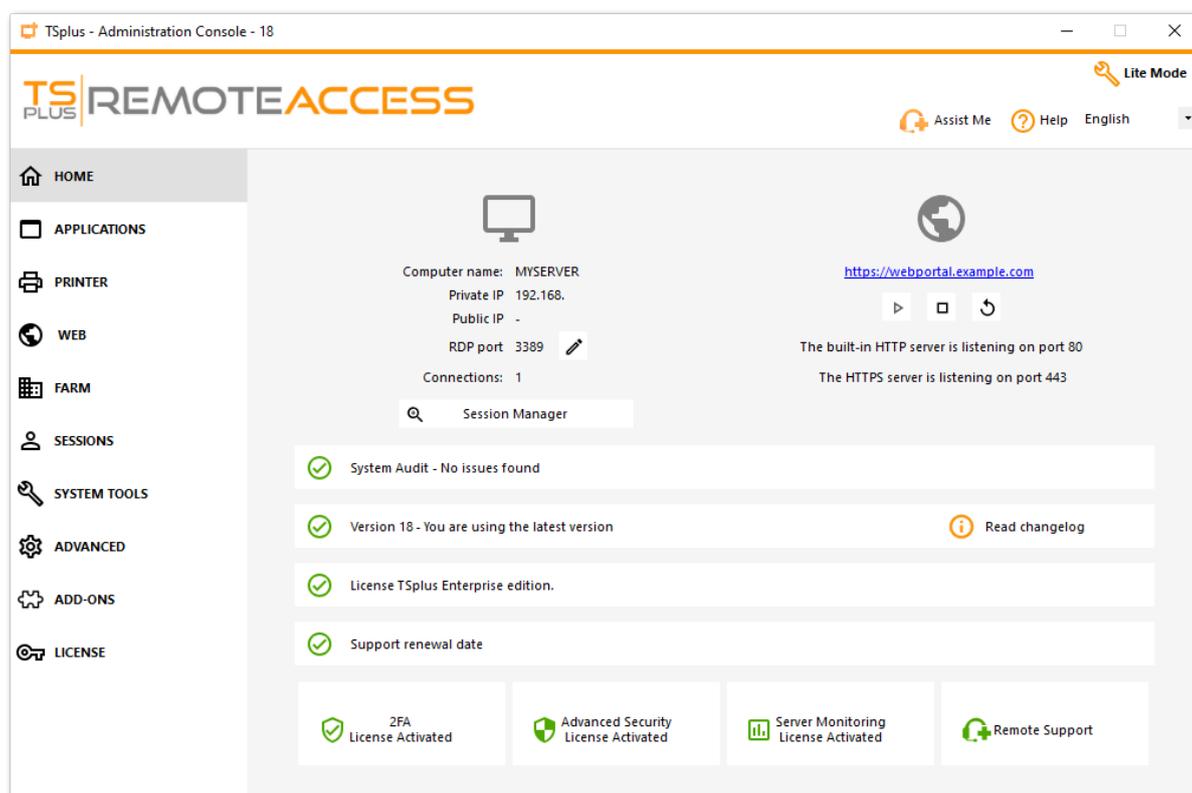
Client location: C:\Users\admin\Desktop Browse

Client name: John-44.connect Create Client

セキュリティ機能の詳細については、確認してください。 [TSplus ポータブルクライアントジェネレーターのドキュメント](#) そして私たちのFAQ。

# サーバー管理

管理ツールのホームタブでは、TSplusサーバーに関する必要な情報をすべて確認できます。

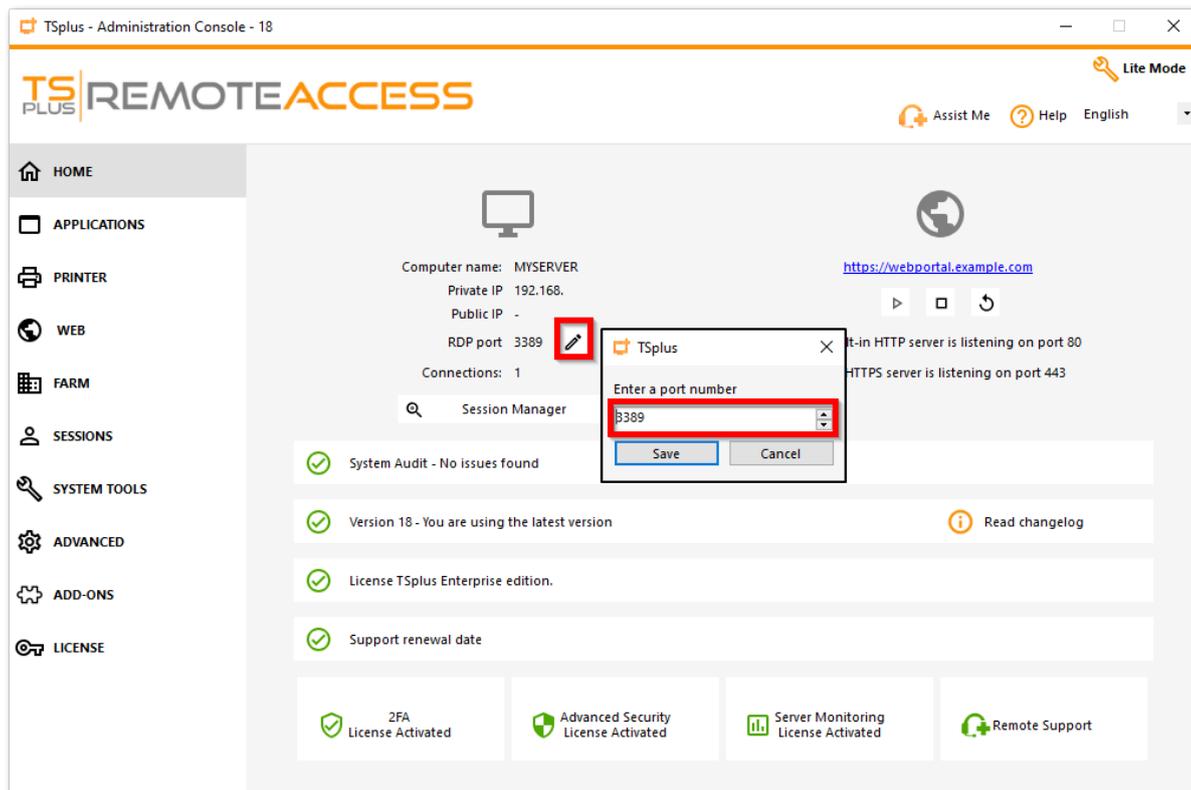


## RDPポート番号の変更とファイアウォールの設定

AdminToolを使用すると、RDPサービスが接続を受け入れるための異なるTCP/IPポート番号を選択できます。デフォルトは3389です。ネットワーク上で既に使用されていない限り、任意のポートを選択でき、ファイアウォールや各TSplusユーザーアクセスプログラムでも同じポート番号を設定する必要があります。

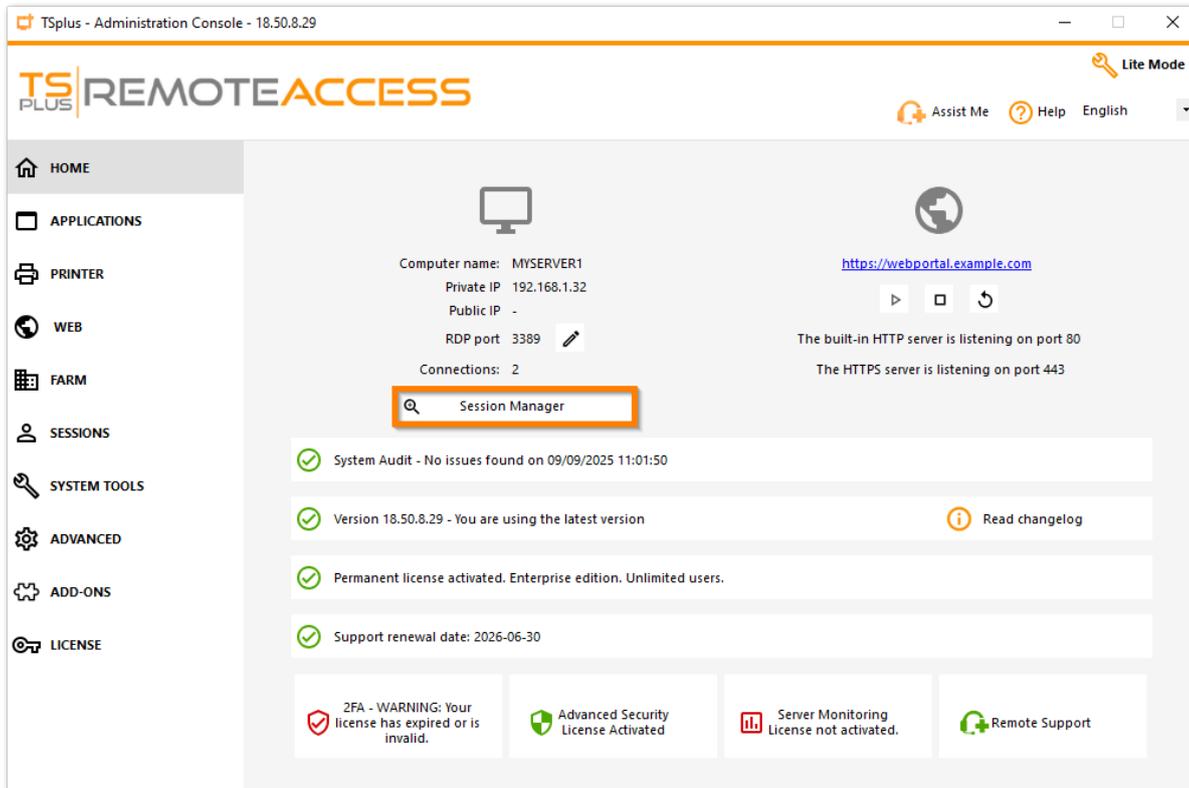
TSplusには、ユニークなポートフォワーディングとトンネリング機能が含まれています。設定されたRDPポートに関係なく、RDPはHTTPおよびHTTPSポート番号でも利用可能です！

ユーザーがネットワーク外からあなたのTSplusサーバーにアクセスしたい場合、選択したポートのすべての受信接続がTSplusサーバーに転送されることを確認する必要があります。

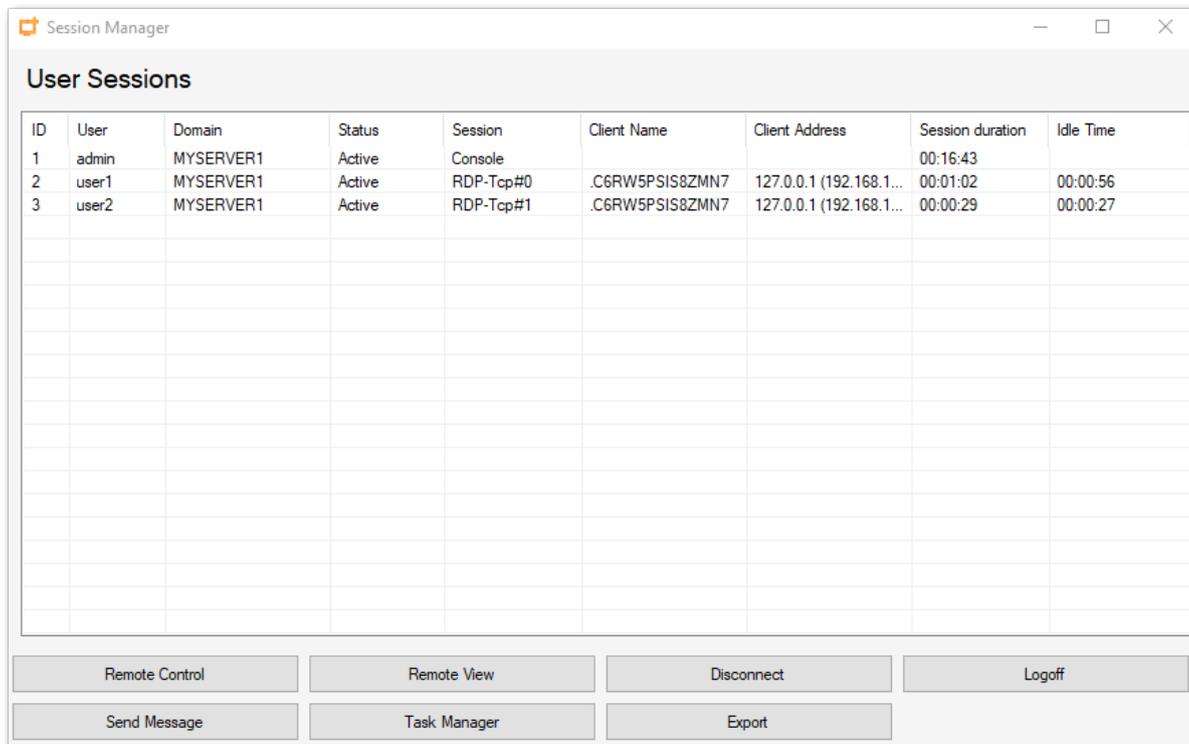


## ユーザーとセッションの管理

セッションマネージャーはRDPポートのすぐ下にあります:



サーバーのタスクマネージャーを表示でき、リモートコントロールを有効にしたり、切断したり、ログオフしたり、ユーザーにメッセージを送信したりすることができます。



リモートセッションを介して管理者アカウントで以下のオペレーティングシステムでリモートコントロールを有効にできます:

- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows 7
- Windows 8.1
- Windows 10 Pro以上

Windows XP、2003、Vista、および2008では、リモートコントロールボタンはありません。

Windows 2012および8では、2012 R2または8.1に更新するように通知するメッセージが表示されます。

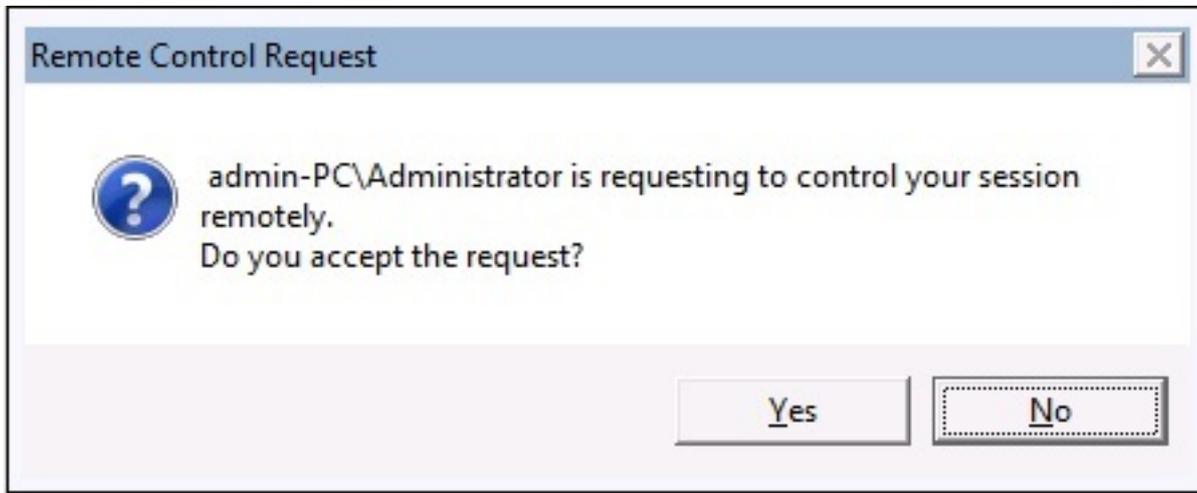
ユーザーのセッションのリモートコントロールを有効にすると、このメッセージが表示され、セッションを終了するためのキーボードショートカットが示されます。

ID	User	Domain	Status	Session	Client Name	Client Address	Session duration	Idle Time
1	admin	MYSERVER1	Active	Console			01:18:14	
2	user1	MYSERVER1	Active	RDP-Tcp#0	.C6RW5PSIS8ZMN7	127.0.0.1 (192.168.1...	01:02:33	00:00:08
3	user2	MYSERVER1	Active	RDP-Tcp#1	.C6RW5PSIS8ZMN7	127.0.0.1 (192.168.1...	01:02:00	00:52:43

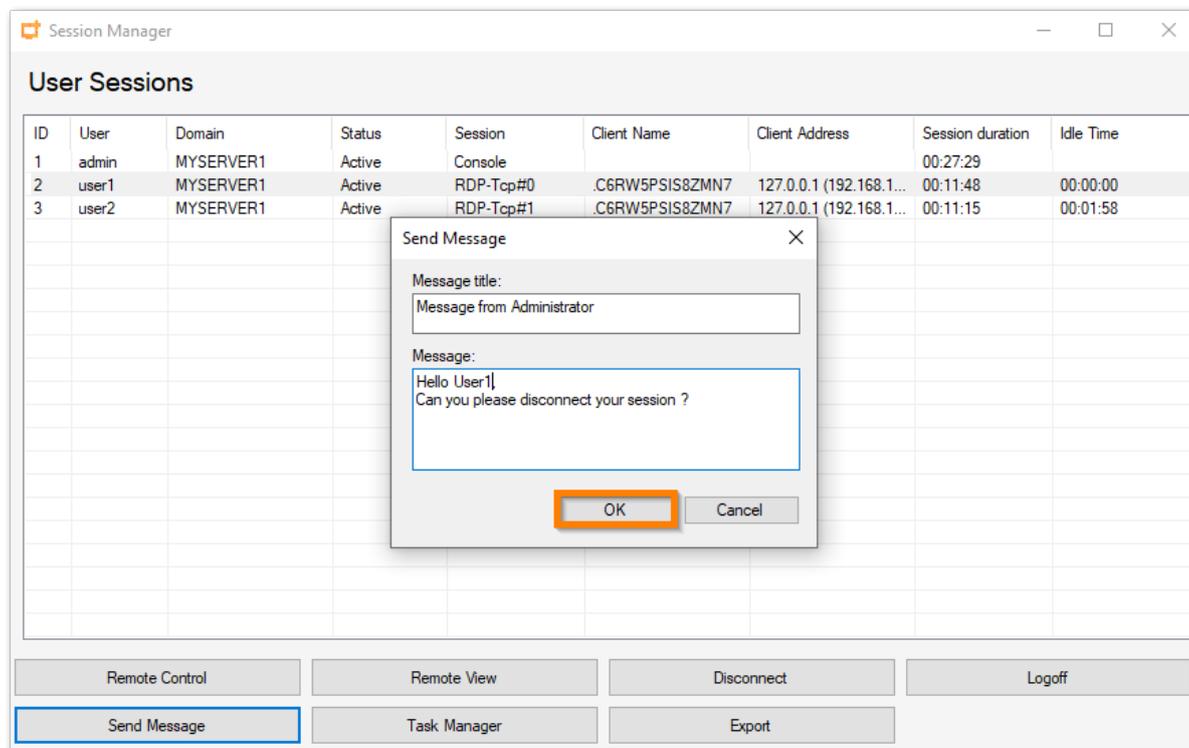
Control Panel Buttons:

- Remote Control (highlighted)
- Remote View
- Disconnect
- Logoff
- Send Message
- Task Manager
- Export

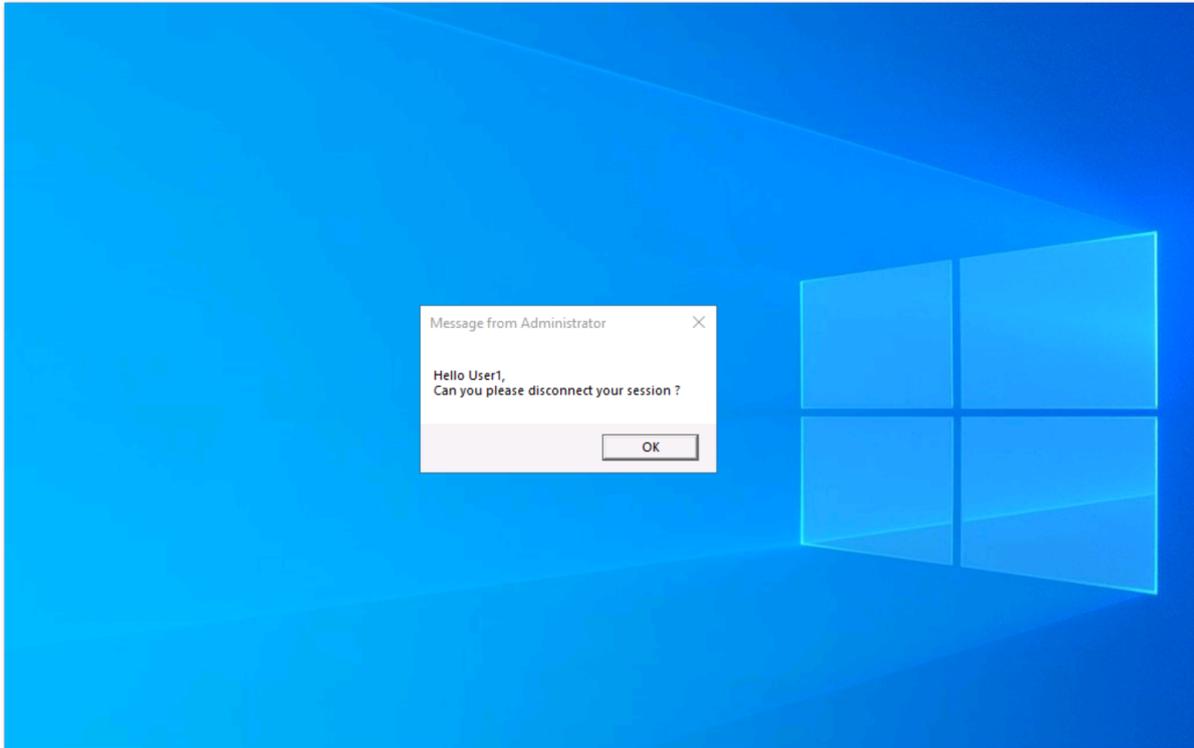
クライアント側では、このメッセージがリモートコントロールを受け入れることを示します。



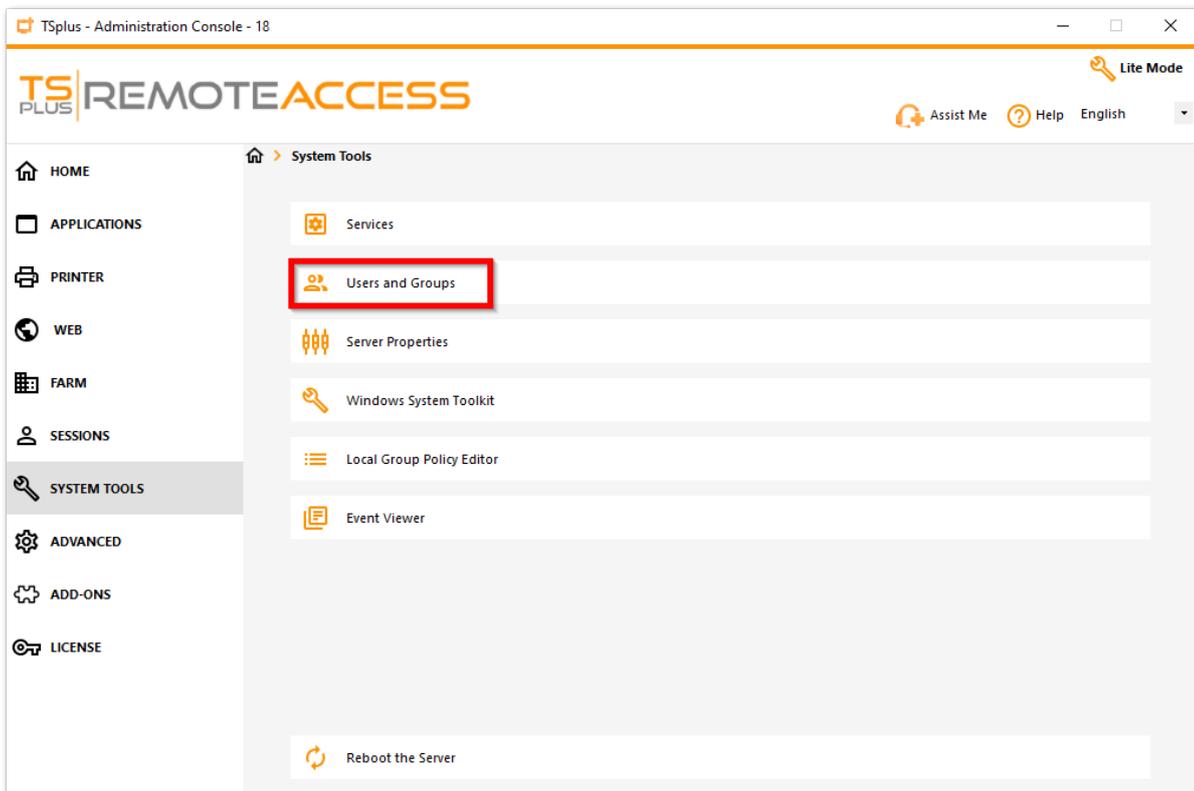
ユーザーにメッセージを送信することもできます:



サーバー側で送信されたメッセージ



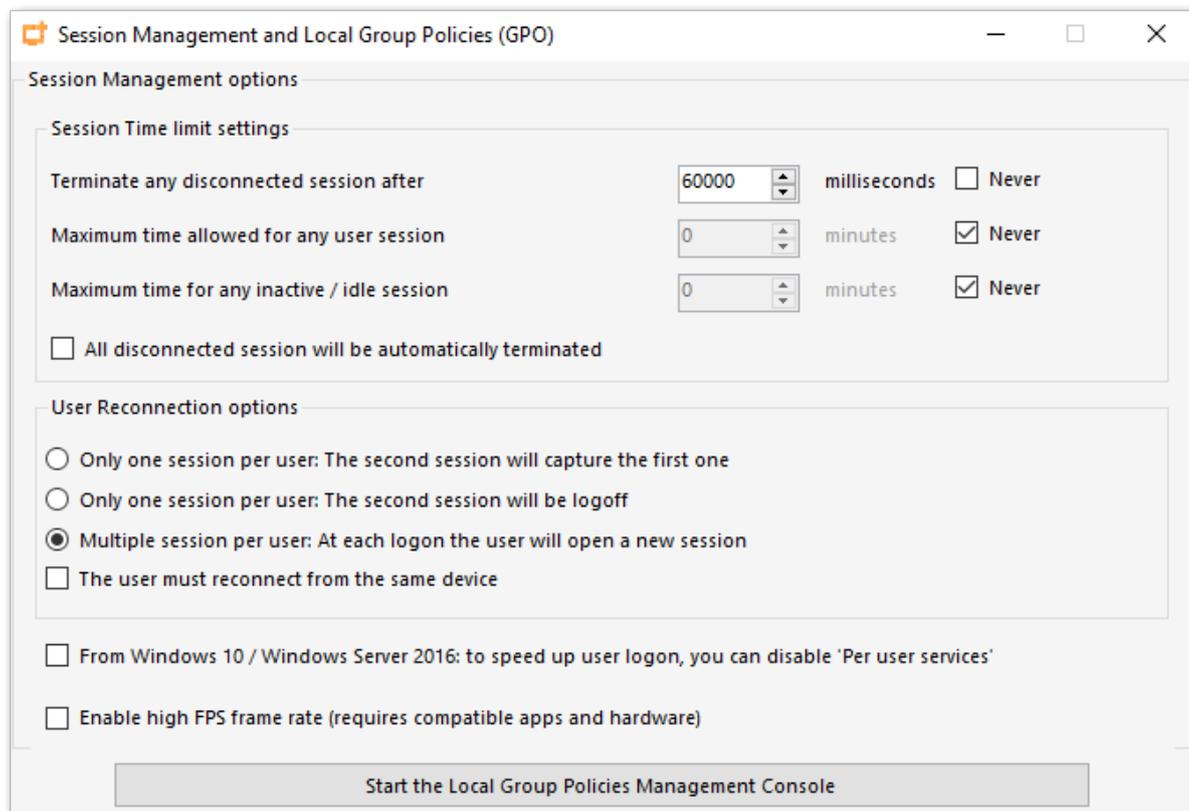
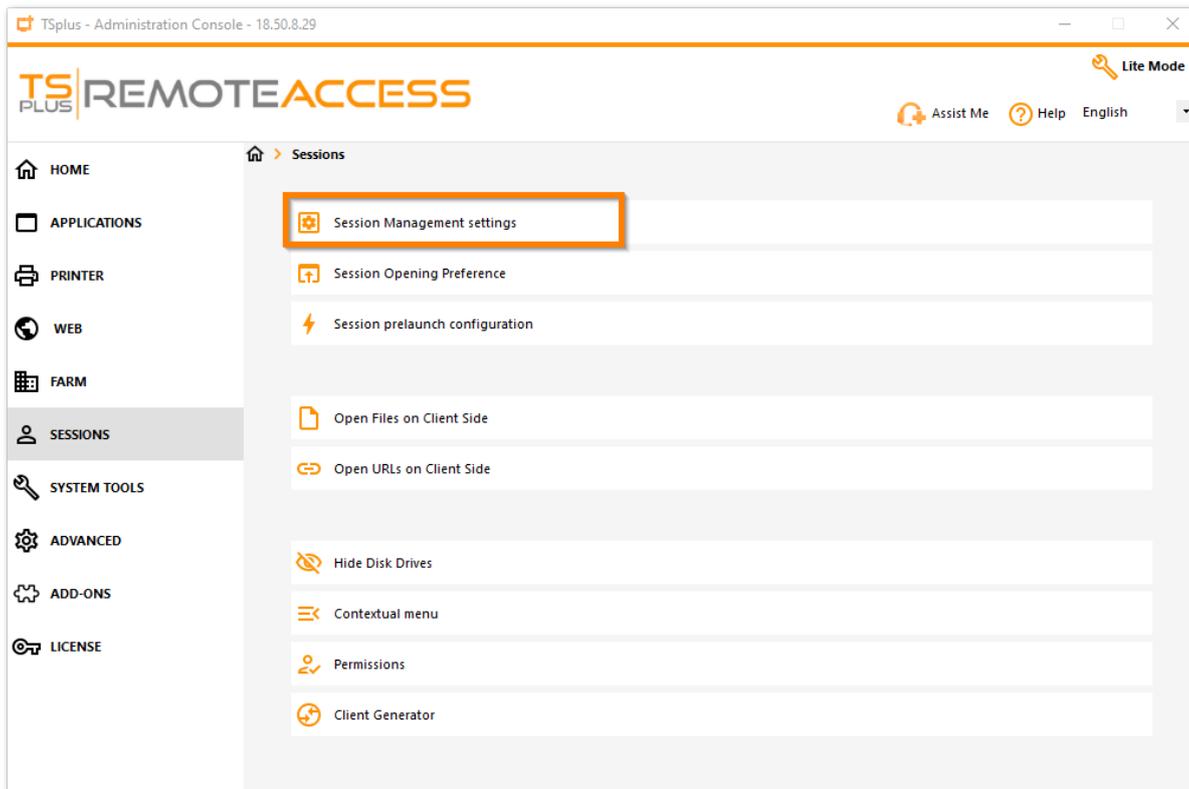
クライアント側に表示されるメッセージ



見る [このドキュメント](#) 詳細については。

- セッション管理設定 (GPO) タブを使用すると、各セッションおよびユーザーのさまざまな接

続設定を設定できます。

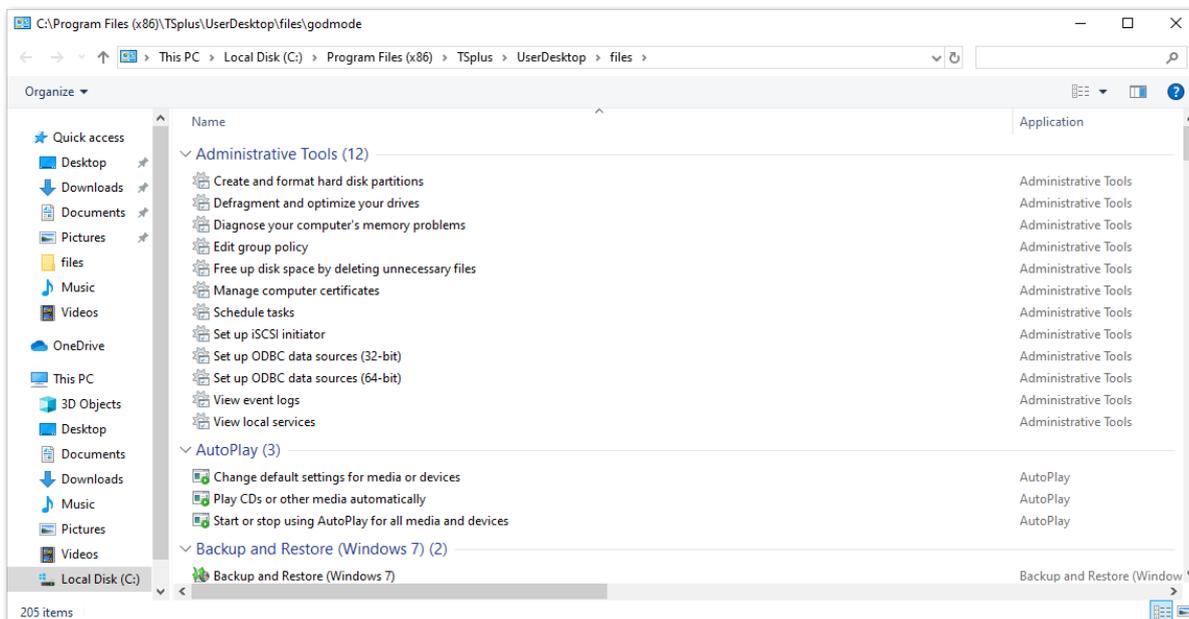
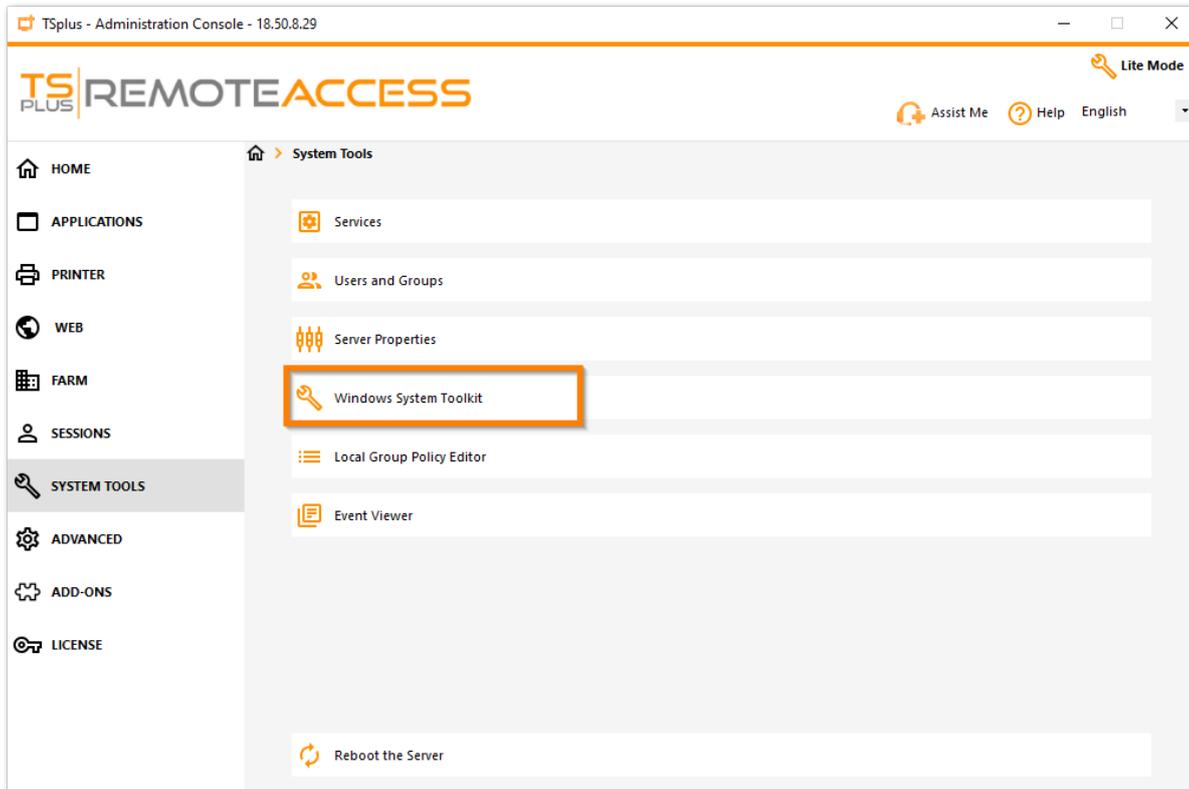


Windows Server 2016では、新しい「ユーザーごとのサービス」が導入され、サービスがユー

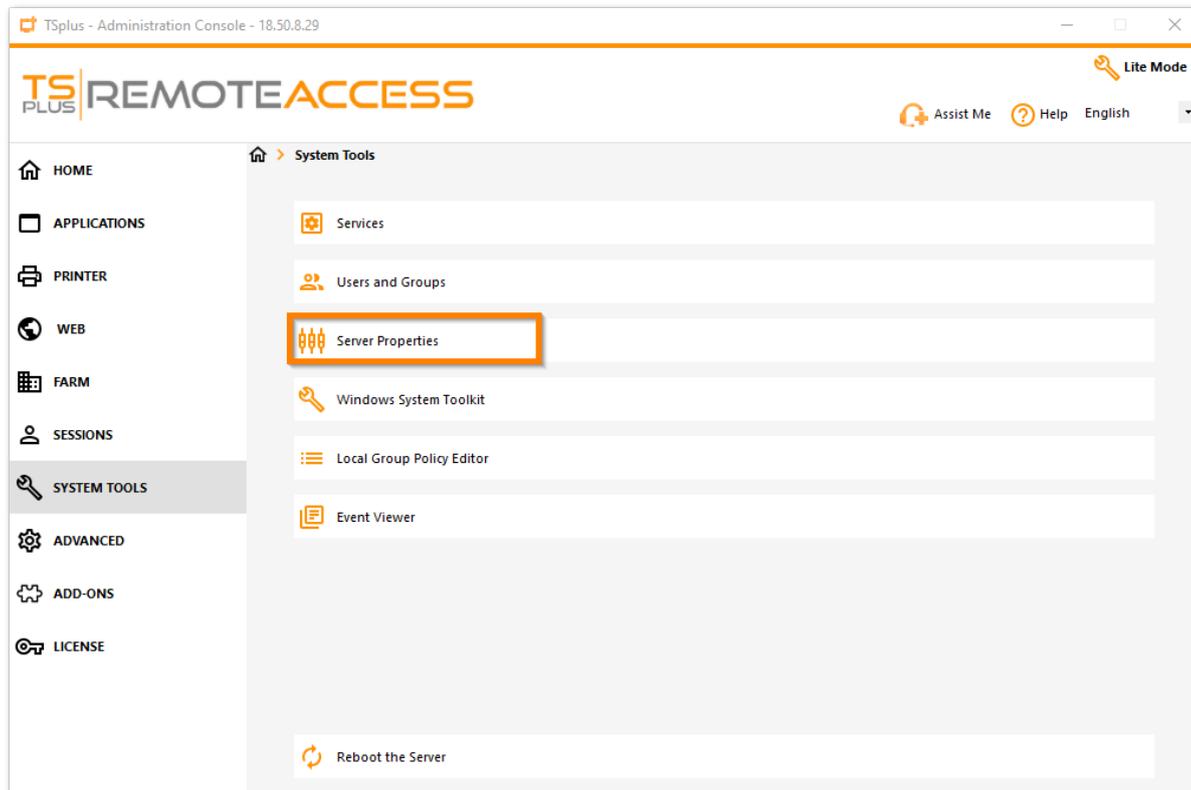
ザーごとにすべてのプロセスを開始するため、ユーザーのログオン時間が遅くなります。

TSplus 11.70のリリース以来、あなたは ユーザーのログオンを速くするために、ユーザーごとのサービスを無効にします。

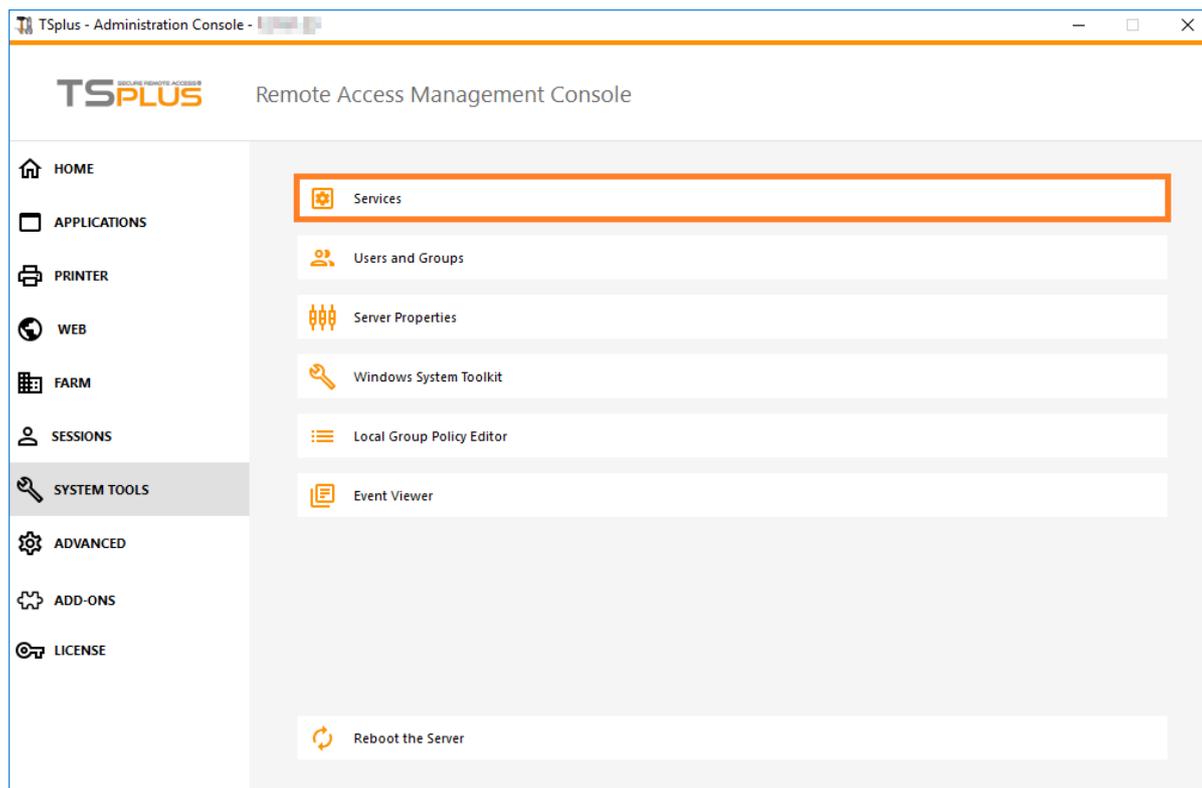
- Windows Toolkitは、すべてのWindows管理ツールを要約した強化されたコントロールパネルです。



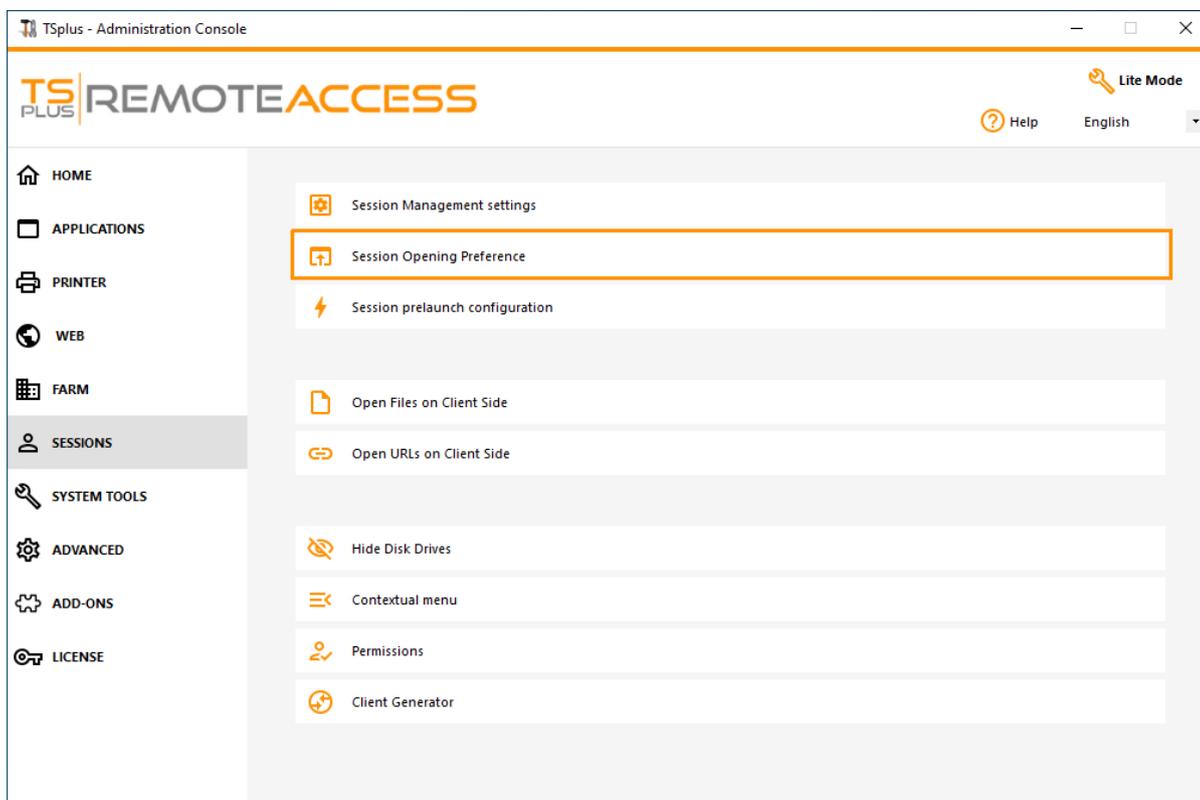
- 「サーバーのプロパティ」タブを起動して、コントロールパネルの概要を確認することもできます。



- サーバー上のすべてのサービスとそのステータスをサービススタイルで確認できます。

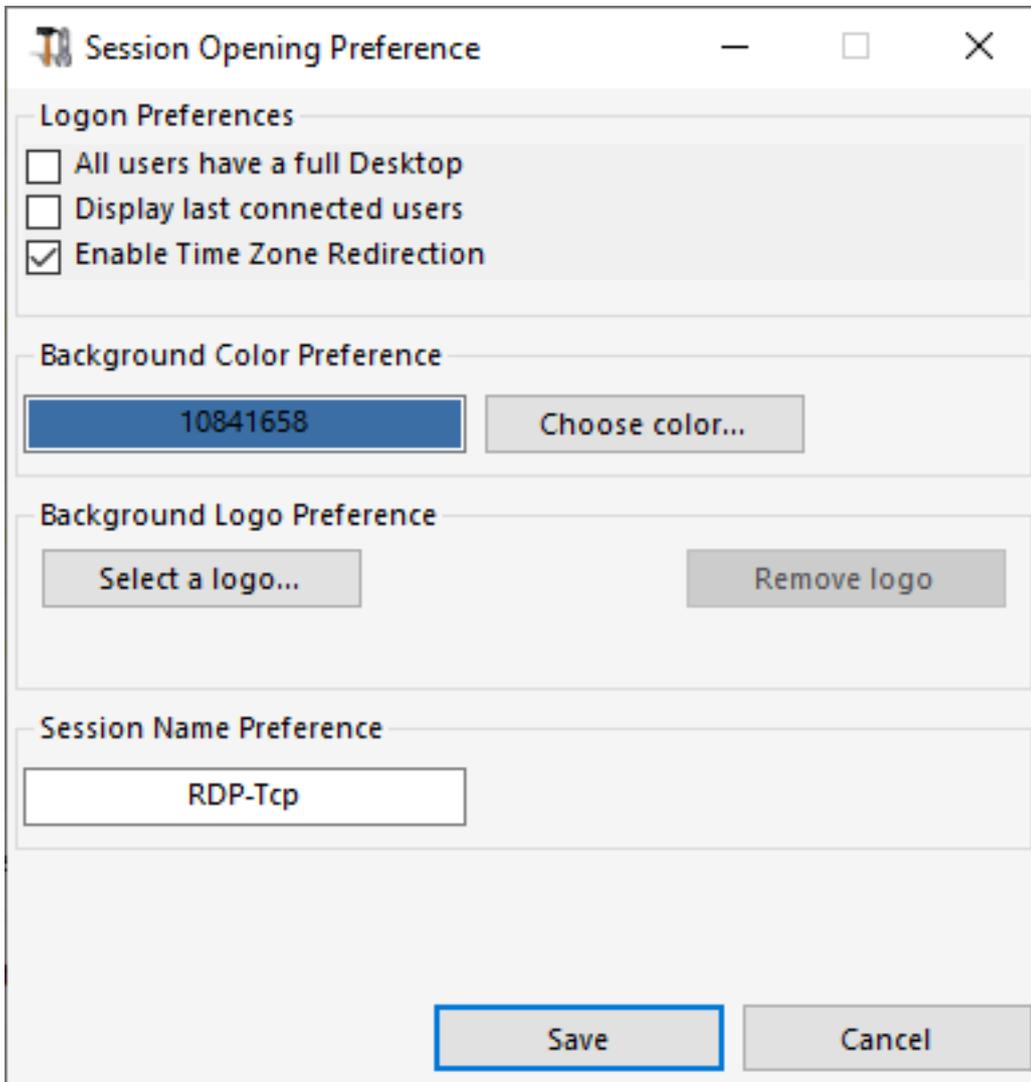


セッションオープニングの設定では、シェルセッションの好み、ログオンの設定、セッションの背景色を選択し、自分のロゴを追加して好みに応じて名前を変更することができます。



デフォルトでは、これらのログオン設定が有効になっています：

- その“ ログオン中に進捗バーを表示 ”。
- “ タイムゾーンリダイレクションを有効にする クライアントコンピュータがそのタイムゾーン設定をリモートデスクトップサービスセッションにリダイレクトできるようにするものです。このポリシー設定を有効にすると、タイムゾーンリダイレクションが可能なクライアントは、そのタイムゾーン情報をサーバーに送信します。



あなたもできます **フルデスクトップを設定する** すべてのユーザーのために **最後に接続したユーザーを表示する** 対応するボックスにチェックを入れることで、あなたは **ユーザーセッションをカスタマイズする** 新しい背景色、別のロゴ、またはなしを追加し、お好みのセッション名を使用します。

- TSplus 11.70のリリース以来、使用できます **TSplus WinXshell** Windowsシェルの代替として。

10月10日のWindowsアップデート後、ユーザーにRemote Desktopを起動させることを許可した管理者は、Windowsシェルに問題があることに気付きました。

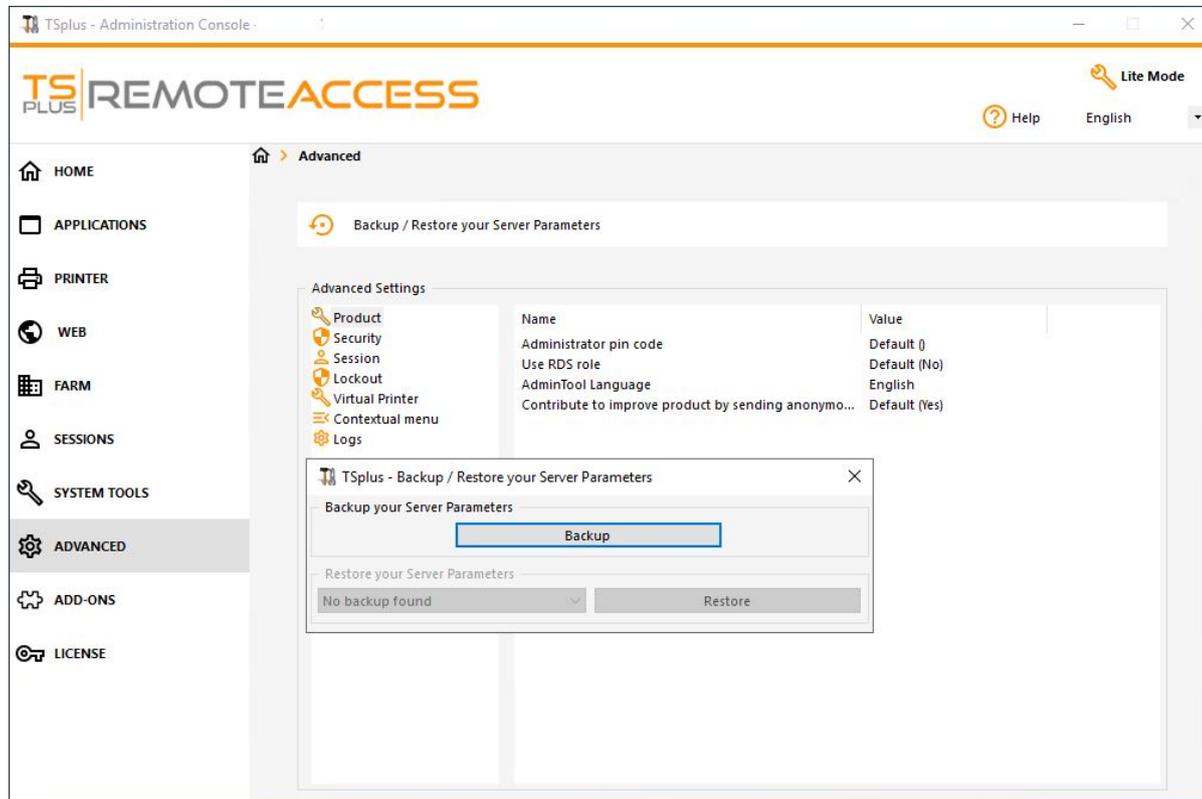
主な問題は、Windows 10およびServer 2016で複数のユーザーに完全なデスクトップが割り当てられたときのセッションのオープン/ブラックスクリーンの問題にあります。

それは、2016年のスタートボタンやタスクバーの表示など、Windows 2016のWindowsシェルに似た機能とグラフィカルな体験を提供します。

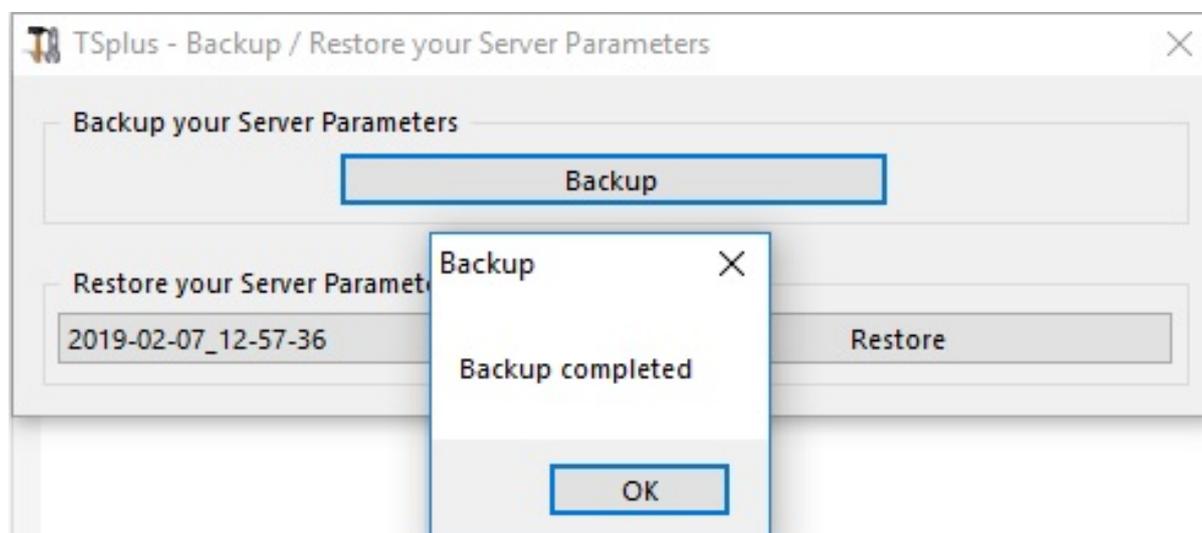
特にあなたにとって役立ちます。 **Windows 10またはWindows 16オペレーティングシステム** を使用してください、**10人以上のユーザーを管理する** そして **フルデスクトップを割り当てたい**。

# バックアップパラメータ

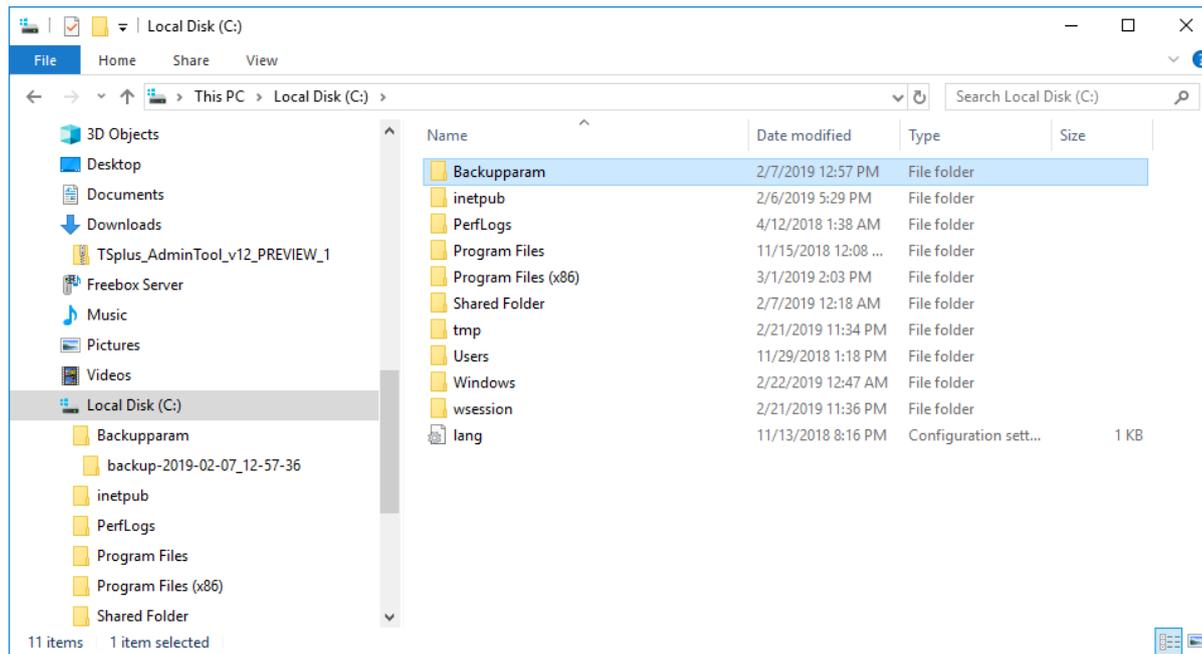
サーバーパラメータをバックアップまたは復元するには、[Advanced]タブの同名のタイルをクリックしてください。



バックアップボタンをクリックしてバックアップを作成してください。バックアップには日付が付けられ、復元ポイントのリストに追加されます。



バックアップファイルはC:\Backupparamフォルダーにあります。



新しいサーバーにTSplus Remote Accessをインストールした後、フォルダーをコピーしてバックアップを復元します。

その後、ライセンスを正式に移行する前に、アカウントとアクセスの機能が正しいかどうかを15日間のトライアルで確認できます。

この件に関する詳細情報 [ドキュメント](#) .

サーバーを再起動してください

サーバーを再起動するタブでは、サーバーを再起動できます。

HOME

APPLICATIONS

PRINTER

WEB

FARM

SESSIONS

SYSTEM TOOLS

ADVANCED

ADD-ONS

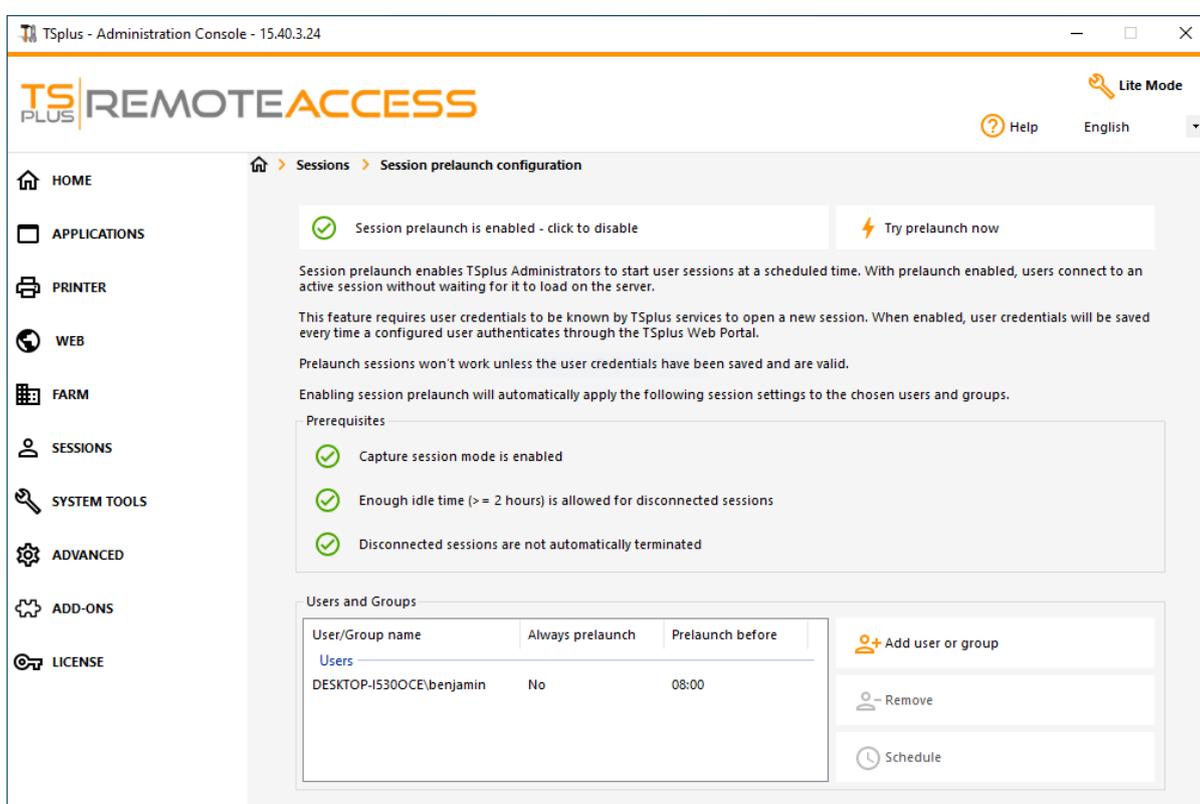
LICENSE

- Services
- Users and Groups
- Server Properties
- Windows System Toolkit
- Local Group Policy Editor
- Event Viewer

Reboot the Server

# セッションプレローンチ

セッション > 設定タブのAdmintoolから「セッションプレローンチ設定」タイルをクリックして、セッションプレローンチ設定メニューにアクセスします。



The screenshot shows the 'Session prelaunch configuration' page in the TSplus Administration Console. The page title is 'Sessions > Session prelaunch configuration'. The main content area includes a status bar at the top indicating 'Session prelaunch is enabled - click to disable' with a green checkmark and a 'Try prelaunch now' button. Below this, there is explanatory text: 'Session prelaunch enables TSplus Administrators to start user sessions at a scheduled time. With prelaunch enabled, users connect to an active session without waiting for it to load on the server. This feature requires user credentials to be known by TSplus services to open a new session. When enabled, user credentials will be saved every time a configured user authenticates through the TSplus Web Portal. Prelaunch sessions won't work unless the user credentials have been saved and are valid. Enabling session prelaunch will automatically apply the following session settings to the chosen users and groups.' A 'Prerequisites' section lists three items, all with green checkmarks: 'Capture session mode is enabled', 'Enough idle time (>= 2 hours) is allowed for disconnected sessions', and 'Disconnected sessions are not automatically terminated'. Below this is a 'Users and Groups' section with a table and three buttons: 'Add user or group', 'Remove', and 'Schedule'.

User/Group name	Always prelaunch	Prelaunch before
Users		
DESKTOP-15300CE\benjamin	No	08:00

## 概要

セッションの事前起動機能により、TSplus Remote Accessの管理者は、ユーザーセッションを予定された時間の前に起動するように設定できます。これは、すべての設定されたユーザーのセッションを事前に準備してロードすることを目的としており、ユーザーが接続すると、特定のセッションを取得できるようになります。これにより、接続待機時間を数分から数秒に短縮できます。

## 前提条件

プレローンチには複数の前提条件を満たす必要があります。

Prerequisites

- ✔ Capture session mode is enabled
- ✔ Enough idle time (>= 2 hours) is allowed for disconnected sessions
- ✔ Disconnection sessions are not automatically terminated

1 - セッションをキャプチャするために、**セッションキャプチャモードを有効にする必要があります**。この意味は、マルチセッション構成がユーザーにとって必須である場合、この機能を利用できないことを意味します。

2 - ユーザーが接続してセッションをキャプチャする際に、事前に準備されたセッションが存在する必要があります ( ログオフされていない )。切断されたセッションのアイドル時間は最低2時間許可されなければなりません。もちろん、切断されたセッションがログオフしないようにセッション設定を行うこともできます。

3 - 準備されたセッションは、全体のリソース使用量を減らすために読み込まれると切断されます。セッション設定は、切断されたセッションを自動的にログオフしないように構成する必要があります。

**重要な注意！**セッションの事前起動機能が有効になった後、各設定されたユーザーは少なくとも一度、TSplus Web Portalを通じて認証する必要があります。これにより、TSplusサービスが設定されたユーザーセッションを開くことができるようになります。

## セッションプレローンチの互換性

セッションの事前起動は、生成されたクライアントまたはmstscを介して開かれたHTML5セッションおよび一般的なRDPセッションと互換性があります。

ただし、特定のプログラムを開くために作成されたRemote App接続やカスタムRDP接続とは互換性がありません。

その結果、TSplus Web Application Portalからの接続はサポートされていません。

## 機能を有効にする

セッションプレローンチ機能を有効にするには、ウィンドウの上部近くにある「セッションプレローンチは無効です - 有効にするにはクリックしてください」と書かれたタイルをクリックす

るだけです。



Session prelaunch is disabled - click to enable

セッションプレランチを有効にする際に、前提条件が満たされていない場合、前提条件を満たすためにセッション設定を自動的に構成し、この機能を使用するかどうかを尋ねられます。セッション設定を変更するには、再起動が必要な場合がありますのでご注意ください。

## セッションの事前起動をテストする

有効にすると、上部の「今すぐプレローンチを試す」ボタンをクリックすることで、機能を迅速にテストできるようになります。



Try prelaunch now

表示されるウィンドウに、TSplusサービスがこの特定のユーザーのセッションを事前に起動できるようにユーザーの資格情報を入力してください。

 Try prelaunch now

Try prelaunching a session for a user.  
Please fill out the user credentials.

User credentials

Domain	<input type="text"/>
Username	<input type="text"/>
Password	<input type="text"/>

 1. Prelaunch

 2. Wait for the session to be loaded

This can take up to 1 minute depending on the user settings and assigned applications.

The session is waiting to be prelaunched.

 3. Connect

「プレローンチ」をクリックして、このユーザーの新しいセッションを開始して読み込んでください。

完全に読み込まれるまで待つから、「接続」をクリックして新しく読み込まれたセッションをキャプチャします。

## 構成されたユーザーとグループを管理する

セッションの事前起動ユーザーとグループを追加するには、「ユーザーまたはグループを追加」をクリックするだけです。

構成されたユーザーを編集または削除するには、構成されたユーザー/グループリストから一致するユーザー/グループを選択し、「スケジュール」をクリックして「プレローンチ前」の時間を変更するか、「削除」ボタンをクリックしてユーザーを削除します。

User/Group name	Always prelaunch	Prelaunch before
Users		
DESKTOP-I530OCE\benjamin	No	08:00

 Add user or group

 Remove

 Schedule

「ユーザーまたはグループの追加」をクリックすると、設定するユーザー/グループ名と、セッションを読み込む必要がある時間（ここでは「プレローンチ前」と呼ばれます）を尋ねられます。

このユーザー/グループが接続時に「常にプリローンチ」オプションで「はい」を選択する代わりに、常にセッションを事前に起動するように設定することもできます。

 Add user or group
— □ ×

 Find user or group in local computer or AD

User/Group name

*Enter a user/group name or click to add a user/group from AD*

Type  User  Group

Always prelaunch  Yes  No

*If you want this user/group to always have a prelaunched session available*

Prelaunch before  

*Enter the hour before which the session needs to be prelaunched everyday*

Save



# ApacheリバースプロキシのWebsocketsサポートの設定方法

1. まず最初に、次の変数を false に変更してください `www\software\html5\settings.js` >  
`W.xhrreverse = false;` ( false に変更しないと、常に websockets の代わりに xhr を試みるため、もうそれは望んでいません )
2. Apacheをproxy\_wstunnelサポートでインストールする ( proxy\_wstunnelのない古いApacheはサポートされていません！ )
3. Apacheの設定 ( httpd.confなど ) で次のモジュールを許可します。 `LoadModule proxy_module modules/mod_proxy.so LoadModule proxy_http_module modules/mod_proxy_http.so LoadModule proxy_wstunnel_module modules/mod_proxy_wstunnel.so`
4. html5メインポータルにサブフォルダ「/html5/」を介してアクセスしたいと仮定しましょう。例として、`http://your_ip_or_domain.net/html5/` とします。そして、Tsplusはサーバー「intranetxyz」のイントラネットにインストールされています。その場合、設定 ( httpd.conf など ) に以下を追加します。  
  
`ProxyPass /html5 http://intranetxyz:80 ProxyPassReverse /html5 http://intranetxyz:80`  
  
`ProxyPass "ws://intranetxyz:80/socket.io/websocket_https"`  
  
`ProxyPass "ws://intranetxyz:80/socket.io/websocket"`  
  
`ProxyPass "ws://intranetxyz:80/socket.io/flashsocket_https"`  
  
`ProxyPass "ws://intranetxyz:80/socket.io/flashsocket"`
5. Apacheを再起動して変更を適用します。



# 二要素認証

二要素認証は追加のセキュリティ層を提供します。ユーザーのセッションへのアクセスを防ぎます、たとえ誰かが彼らのパスワードを知っていても。

2つの異なる要素の組み合わせが、より高いレベルのセキュリティを達成するために使用されます。

1. 彼らが知っている何か、パスワード
2. 彼らが持っている何か、a 認証アプリがインストールされたデバイス - スマートフォンなど。

次の認証アプリのいずれかを使用して進めることができます。これらのアプリは、さまざまなプラットフォームで利用可能です。

- [Authy](#)
- [Google Authenticator](#)
- [マイクロソフト認証システム](#)

ユーザーがリモートセッションにサインインするたびに、パスワードと携帯電話から入手可能な認証コードが必要です。設定が完了すると、認証アプリがログインを許可するための認証コードを表示します。デバイスがオフラインであっても機能します。

または 確認コードを受け取る方法を決定できます。 **SMS** この場合、無料アカウントを作成する必要があります。 [Twilio](#)。

その 2FAコードはTOTPで生成されます (時間ベースのワンタイムパスワード) であり、したがって単一の使用のためのものです。

したがって、すでに使用された2FAコードを再利用することはできません。これにより、ユーザーがコードを入力している間に観察することで2FAコードが盗まれ、その後使用されることを防ぎます。

## 要件

二要素認証はTSplus Remote Accessを必要とします **モバイルウェブ** または **エンタープライズ エディション**。

二要素認証は次のものをサポートしています：

- TSplus Remote Access **ウェブポータル** HTML5およびRemoteapp接続の両方用
- TSplus接続クライアント、バージョン15.30.3.15以降に生成されたクライアント用で、2FAサポートが明示的に有効になっています。ご覧ください [ポータブルクライアントジェネレーターのサポート \(2ファクタ認証用\)](#)
- 2FAはWindowsユーザーに関連しており、Web認証情報には関連していません。

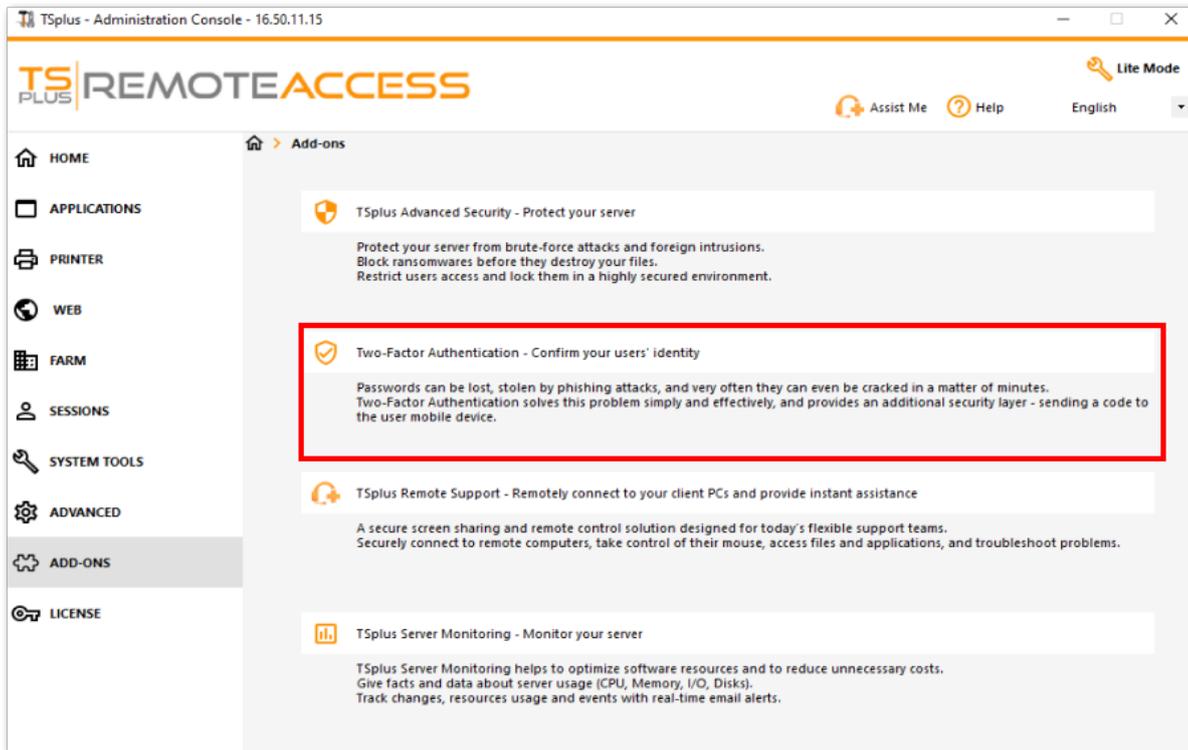
この認証モードは、標準のMicrosoft Remote Desktopクライアント ( mstsc.exe ) を通じたログインをサポートしていません。

より安全なソリューションを提供するために、2FAが有効なユーザーのRDP接続は拒否されません。

前提条件として、TSplusサーバーとデバイスは時間通りでなければなりません。ご覧ください。 [時間同期](#) そして [設定](#) 設定情報の詳細については、セクションをご覧ください。

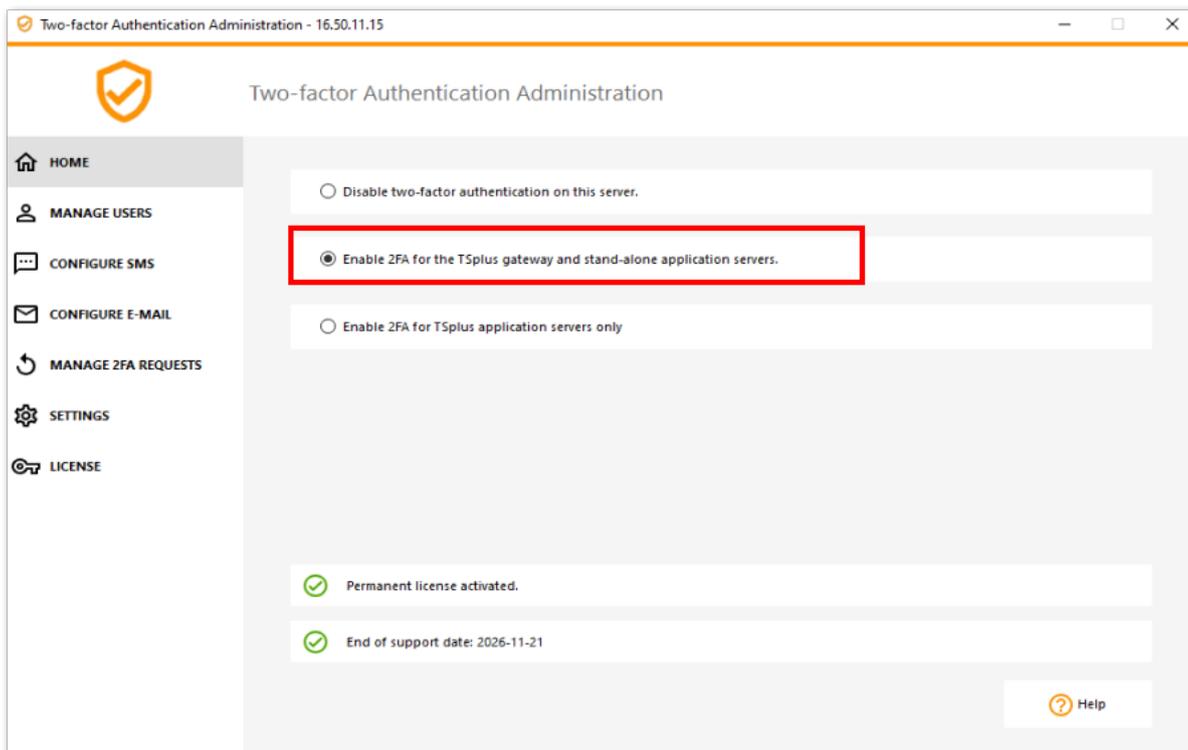
## 二要素認証アドオンライセンスの有効化

Two-Factor Authentication機能はAdminToolのAdd-Onタブにあります。



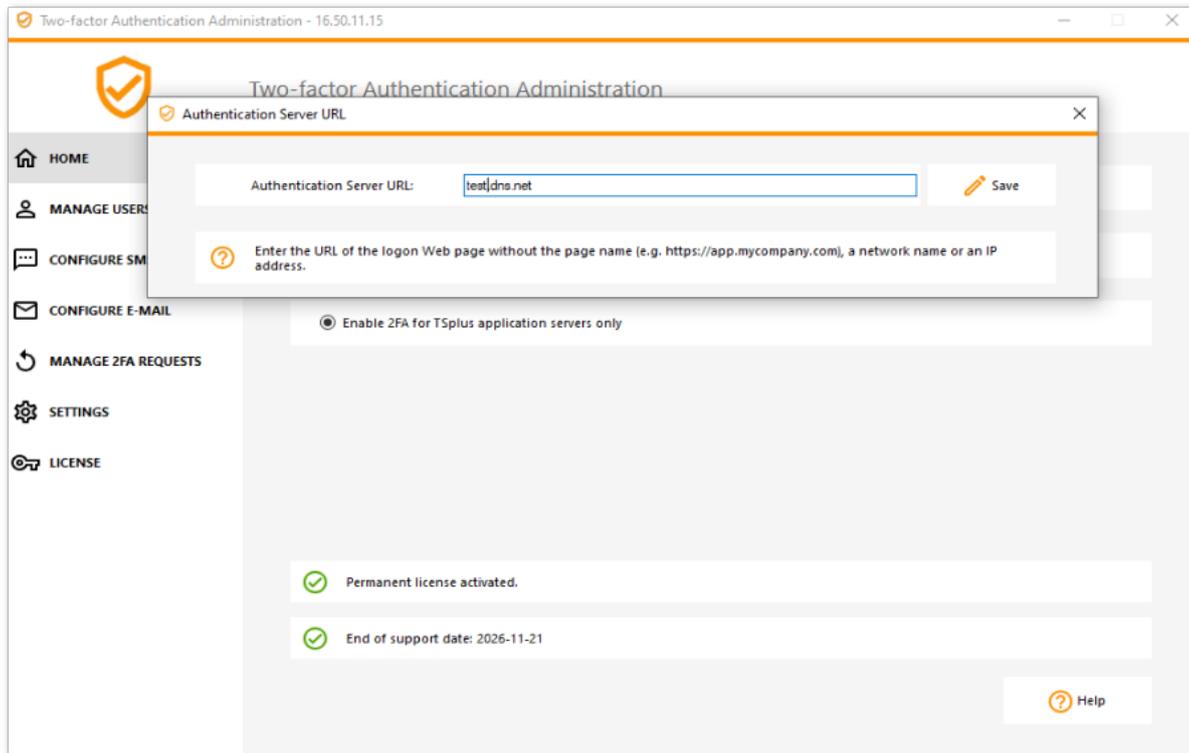
次の手順に従って、TSplusサーバーまたはデプロイメントの二要素認証を有効にします。複数のサーバーを使用するように構成されているTSplusデプロイメントの場合、ユーザーのための単一のエントリーポイントとして公開されているTSplusサーバーまたはリバースプロキシの役割を持つサーバーでこの作業を行ってください。

1. 二要素認証管理アプリケーションを開いてください。二要素認証のステータスとライセンスのステータスが表示されます。

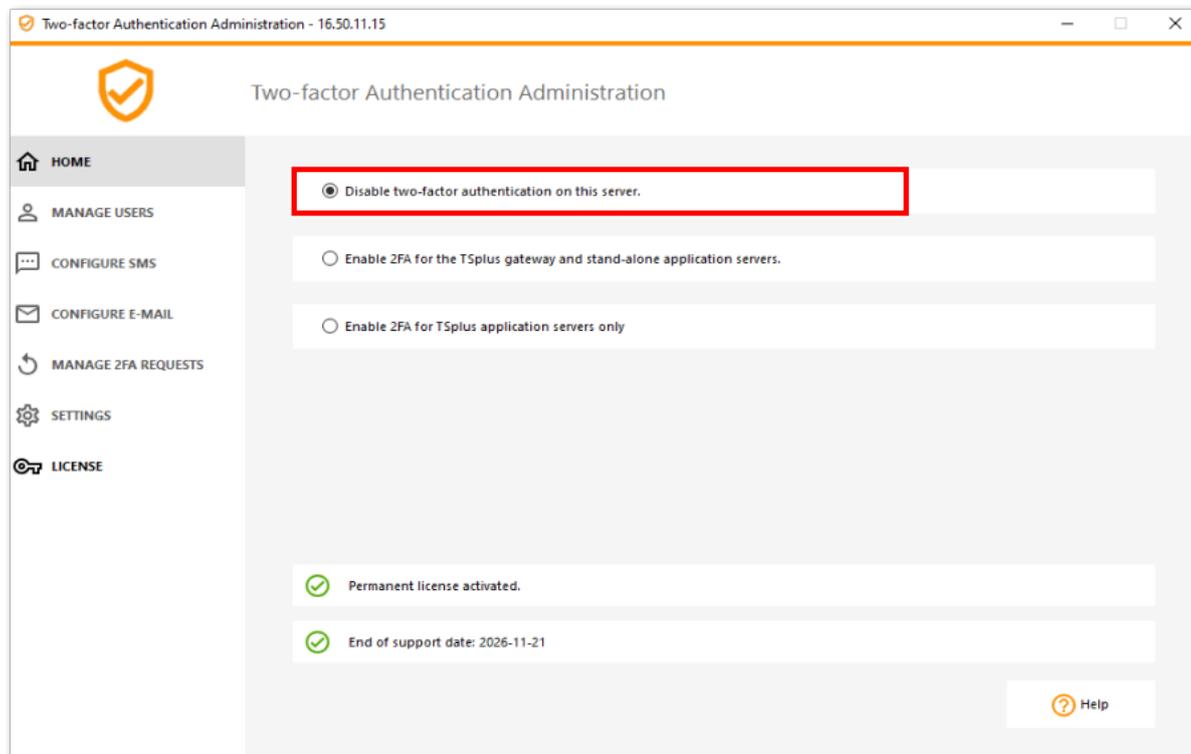


デフォルトでは、2FAはTSplusゲートウェイおよびスタンドアロンアプリケーションサーバーに対して有効になっています。

TSplusアプリケーションサーバーのみで有効にするには、認証サーバーのURLを入力してください:



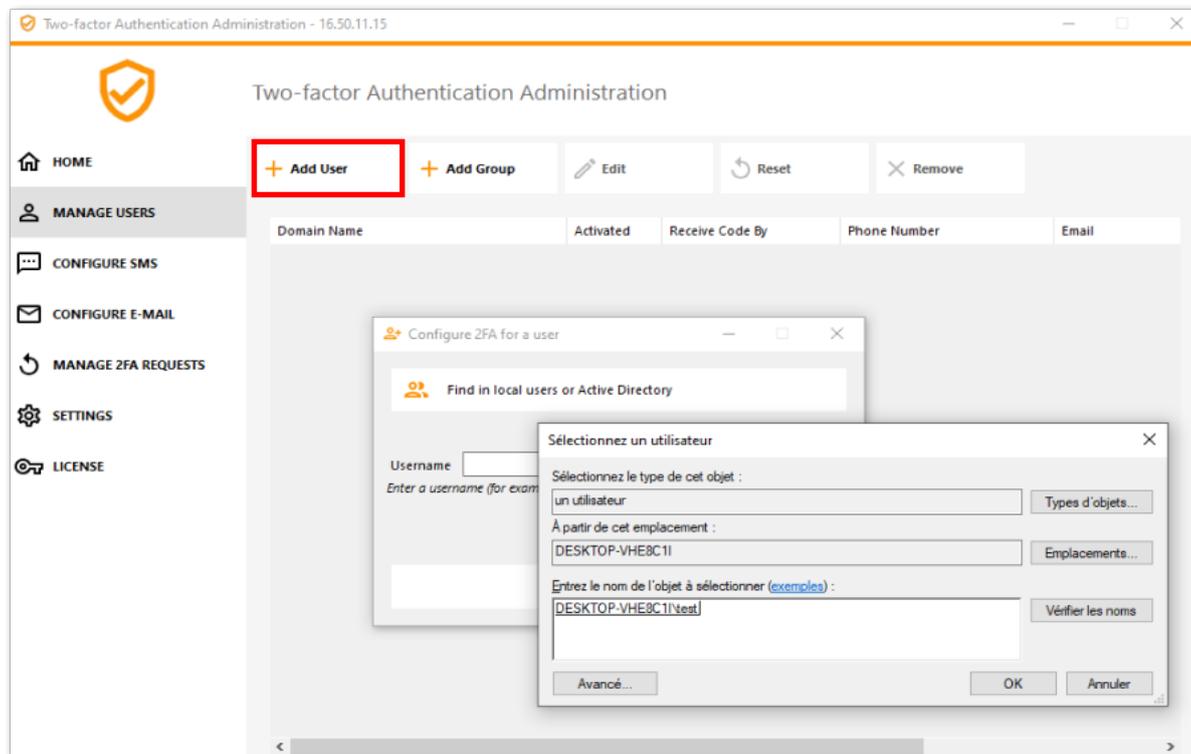
無効にするには:



## ユーザーとグループを追加

二要素認証が有効になると、ユーザーを二要素認証に設定できます。

1. 二要素認証管理アプリケーションから、[クリックしてください] ユーザーを管理する タブ。
2. 次に、クリックしてください 追加 ユーザーおよび/またはユーザーグループを選択するための。 ユーザーまたはグループを選択 ボックスが開きます。



- 必要なだけユーザーとグループを追加し、その後クリックしてください。OK ユーザーとグループがリストに追加され、二要素認証が有効になります。

ユーザー/グループを追加するためのコマンドは次のとおりです。

3種類の可能な引数：

#### ドメイン名のみ

TwoFactor.Admin.exe /addusers domainName1

- デフォルト値でユーザーを追加します (受信方法 = アプリ、メールおよび電話フィールドは入力されていません)。

#### ドメイン名と受信方法

TwoFactor.Admin.exe /addusers domainName1;SMS

- 希望する受信方法でユーザーを追加しますが、アクティブ化しようとはしません。

#### ドメイン名、受信方法、電話番号フィールド (空でも)、メールフィールド (空でも)

\*TwoFactor.Admin.exe /addusers domainName1;SMS;+33606060606; [username1@truc.net](mailto:username1@truc.net) ドメイン名2;メール;; [username2@truc.net](mailto:username2@truc.net) domainName3;SMS;+33606060607;domainName4

- HMIと同様の動作で、ユーザーを追加し、その後正しい情報で編集すると、ユーザーをアクティブにしようとします。

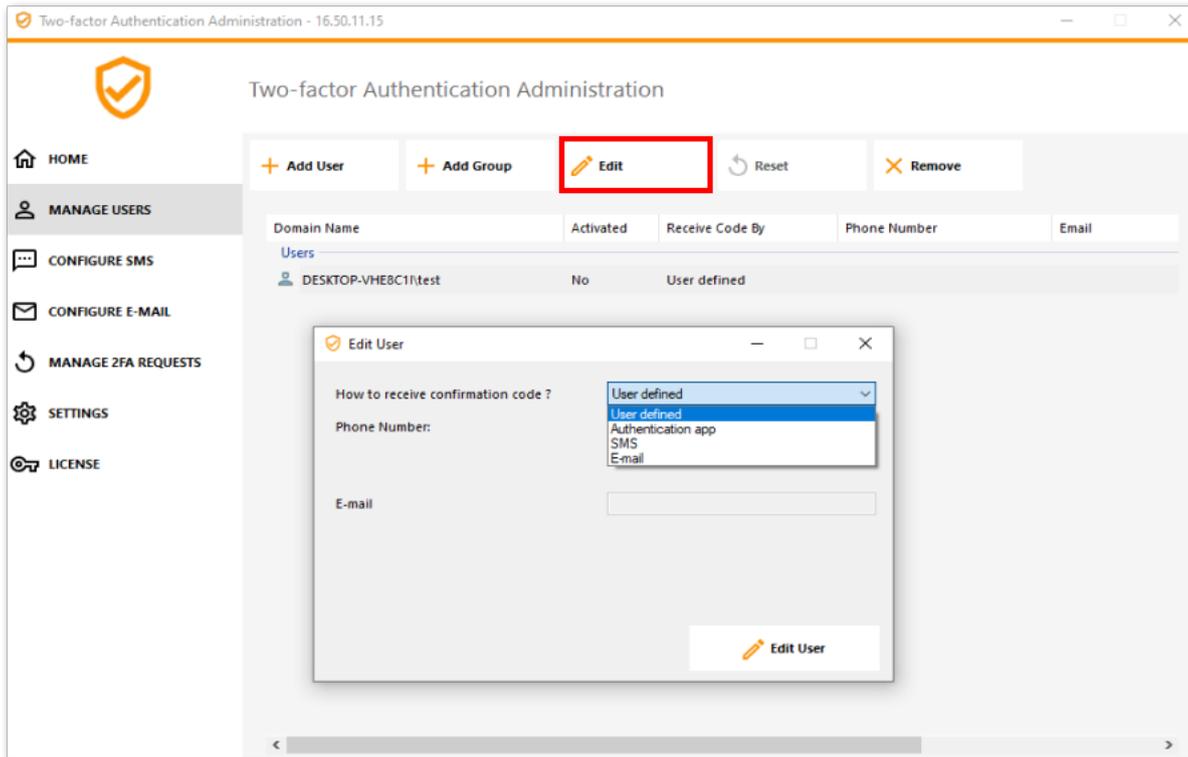
最後の例に示されているように、複数のユーザーを示すことができます (スペースで区切ります)。ユーザーの異なるフィールドはセミコロンで区切られます。

単一グループの場合：

```
TwoFactor.Admin.exe /addgroups group1 group2 group3
```

## ユーザーを編集

同じタイトルで、ユーザーを選択して「編集」ボタンをクリックすることで、ユーザーが検証コードを受け取る方法を編集できます。

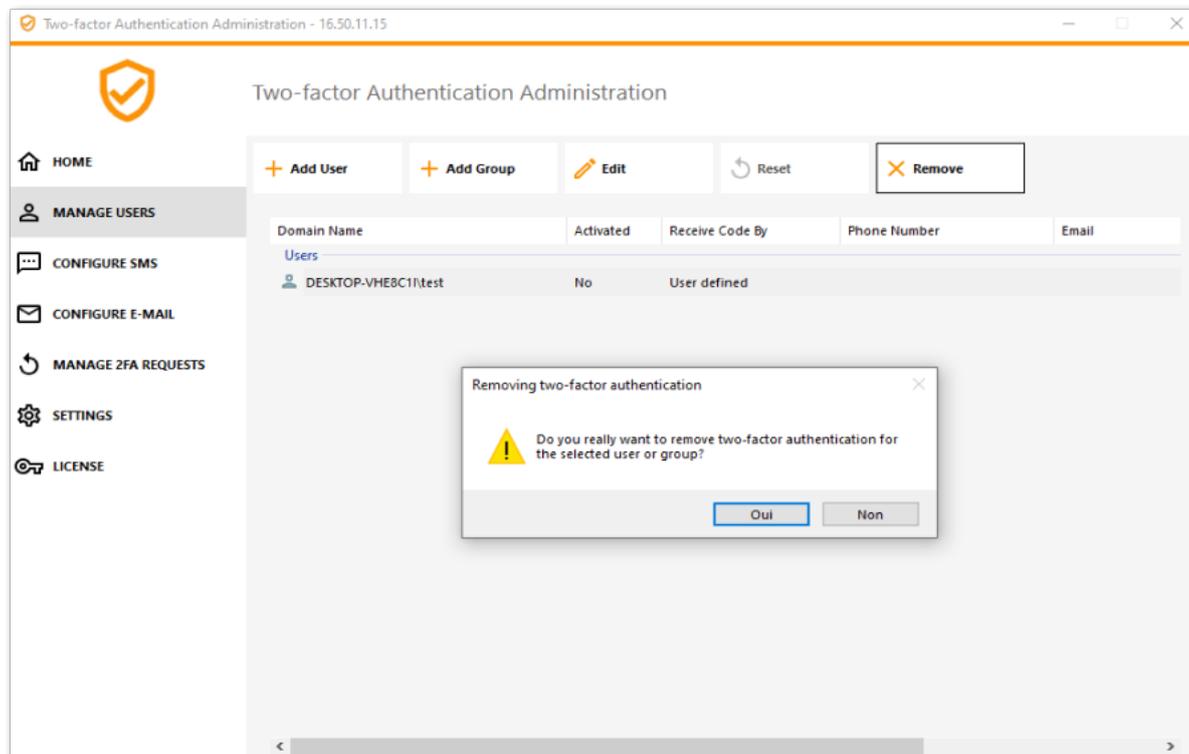


ユーザーはデフォルトで認証アプリに確認コードを受け取ります。オプションを選択することで、SMSまたはEMAILで受け取ることを選ぶことができます。

SMSを選択し、フィールドにユーザーの電話番号を追加するか、EMAILを選択し、ユーザーのメールアドレスを追加しました。

## ユーザーとグループを削除

ユーザーまたはグループを削除するには、ユーザーまたはグループを選択し、次にクリックします。削除確認メッセージが表示されます。

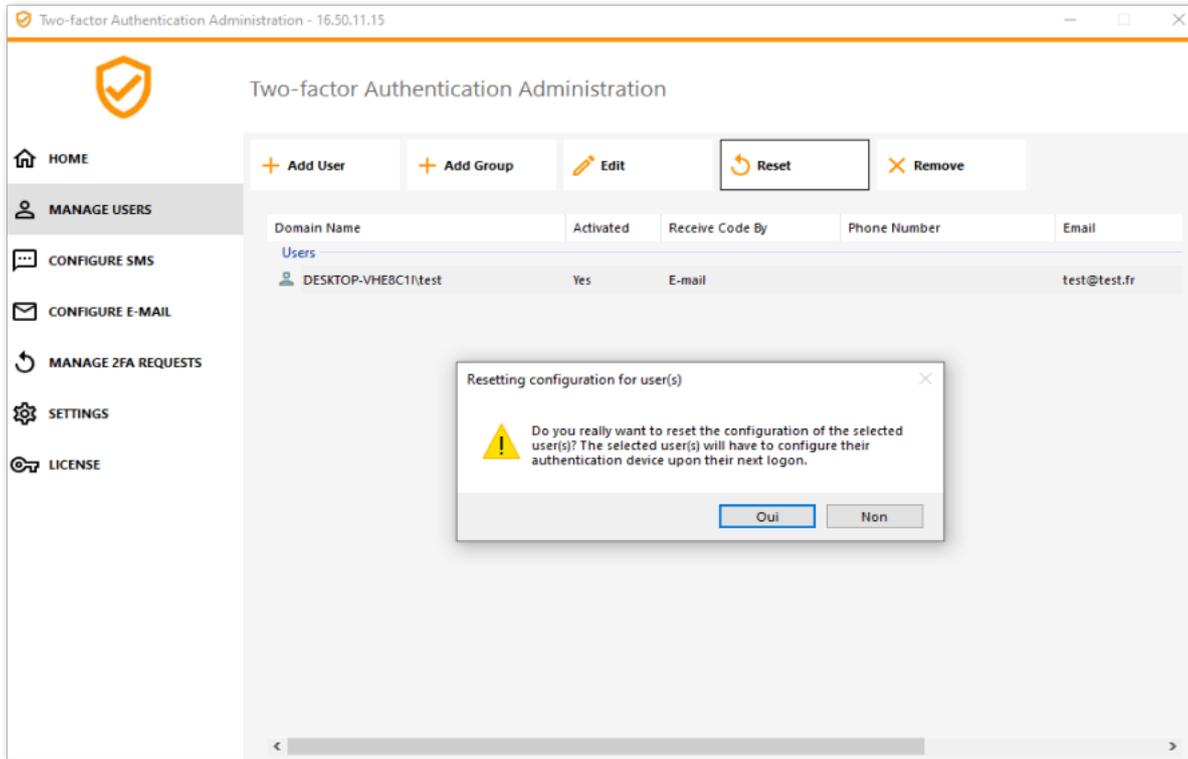


クリック はい ユーザーまたはグループはリストから削除され、二要素認証を使用して接続できなくなります。

## ユーザーの設定をリセット

ユーザーの認証デバイスを紛失した場合、またはユーザーが秘密のQRコードを再表示する必要がある場合は、ユーザーの認証設定をリセットする必要があります。

1. 二要素認証管理アプリケーションから、[クリックしてください] ユーザーを管理する タブ。
2. アクティブなユーザーを1人以上選択し、次にクリックしてください リセット 確認メッセージが表示されます。



3. クリック はい 選択されたユーザーは、次回のログイン時に新しいQRコードが表示され、そのデバイスの認証アプリでスキャンする必要があります。

ユーザーの電話番号を変更することもできるため、新しいデバイスで確認コードを受け取ることができます。

## ユーザーを二要素認証に登録する

ユーザーが二要素認証の使用を有効にすると、次回TSplus Webポータルからの成功したログイン時にアクティベーションメッセージが表示されます。

## Protect your account with 2-step verification

Click to configure your authentication app

- Open the authenticator app on your mobile phone.
- Scan the QR code displayed below:



Secret key: TMPCKUPCDGJWZOHISPHS325456W4ERIA

Validate your verification code obtained by SMS, e-mail or via your 2FA app

Validate

必要な手順を完了するために、2つの選択肢があります：認証アプリを介してコードを生成するか、ユーザーにSMSでコードを受信させるかのいずれかです。

## 認証アプリケーションでコードを受け取る

ユーザーは、スマートフォンなどのポータブルデバイスに認証アプリをインストールする必要があります。

次の認証アプリのいずれかを使用して進めることができます。これらのアプリは、さまざまなプラットフォームで利用可能です。

- [Authy](#)

- [Google Authenticator](#)

## マイクロソフト認証システム

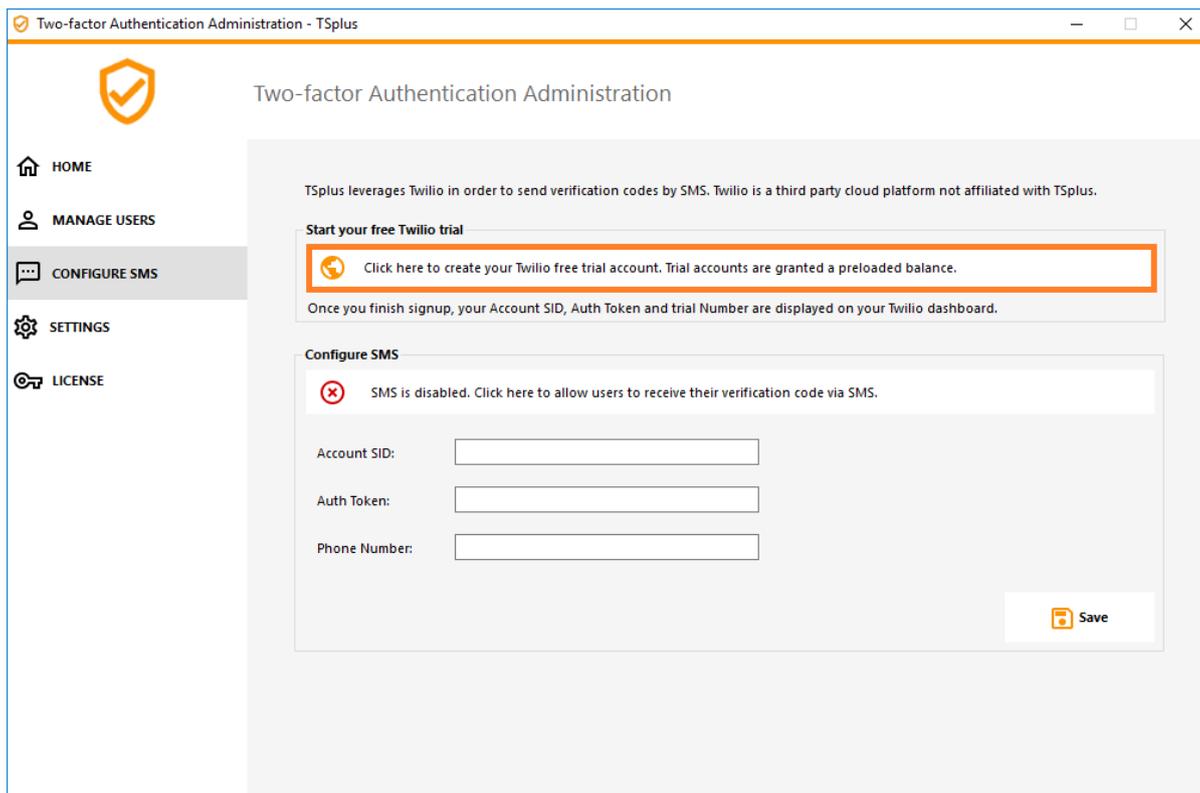
各アプリのドキュメントを使用して、TSplusアカウントを追加する方法の詳細を確認してください。

## SMSを設定する

ユーザーがSMSで確認コードを受け取るには、まずそれを有効にする必要があります。[クリックして] SMSを設定する タブ:

TSplusは、SMSで認証コードを送信するためにTwilioを活用しています。Twilioは、TSplusとは提携していないサードパーティのクラウドプラットフォームです。

1. 無料アカウントを作成してください [Twilio](#) 以下の「Twilioで無料トライアルを開始する」ボタンをクリックしてください。



The screenshot shows the 'Two-factor Authentication Administration - TSplus' interface. The left sidebar contains navigation options: HOME, MANAGE USERS, CONFIGURE SMS (highlighted), SETTINGS, and LICENSE. The main content area is titled 'Two-factor Authentication Administration' and contains the following text and form elements:

TSplus leverages Twilio in order to send verification codes by SMS. Twilio is a third party cloud platform not affiliated with TSplus.

**Start your free Twilio trial**

[Click here to create your Twilio free trial account. Trial accounts are granted a preloaded balance.](#)

Once you finish signup, your Account SID, Auth Token and trial Number are displayed on your Twilio dashboard.

**Configure SMS**

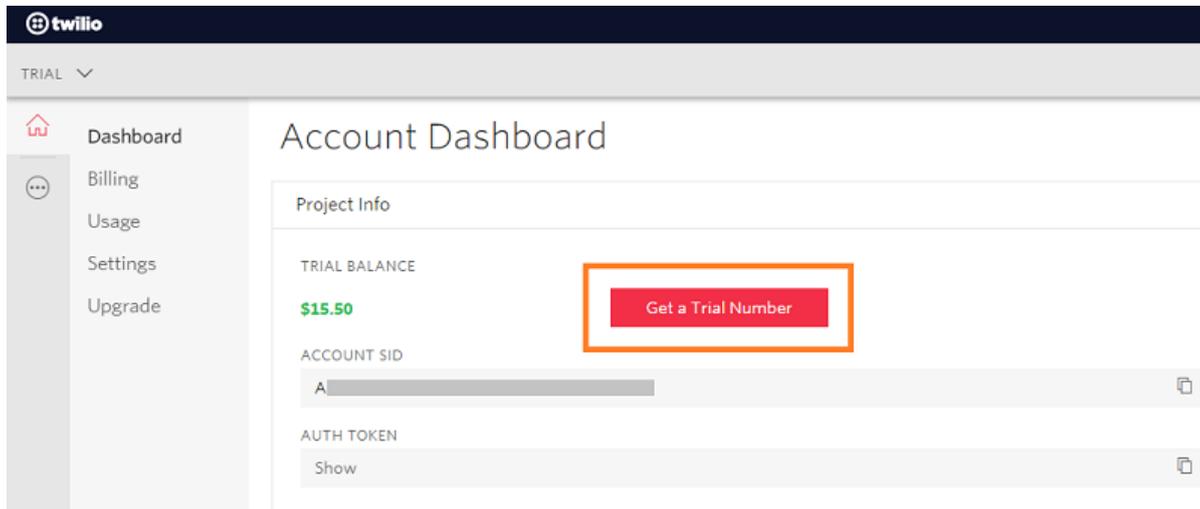
✘ SMS is disabled. [Click here to allow users to receive their verification code via SMS.](#)

Account SID:

Auth Token:

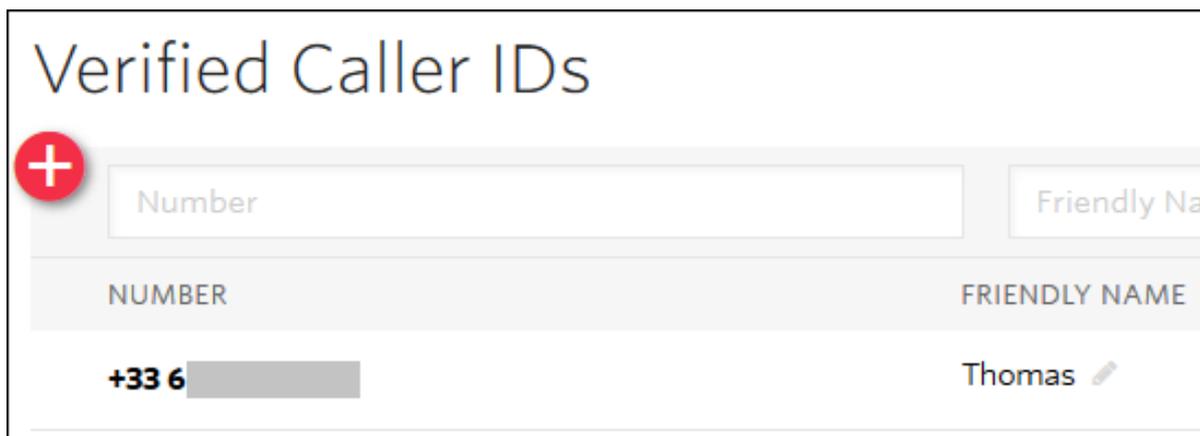
Phone Number:

2. あなたの [Twilioアカウントダッシュボード](#) トライアル番号をアクティブにする必要があります。



3. 次のステップは、トライアル版にのみ必要です。これにより、TwilioはSMSが送信される実際の電話番号を確認できます。

この番号を以下に入力してください [「電話番号」メニュー - 「確認済みの発信者ID」](#) タブ：



4. アカウントSID、認証トークンを入力できるようになります。 **試用番号** 電話番号としてのSMSを設定する **TSplus**のタブ：

# Account Dashboard

Project Info

TRIAL BALANCE **\$13.348**

TRIAL NUMBER **+33** [REDACTED]

[Need more numbers?](#)

ACCOUNT SID  
A [REDACTED] [Copy](#)

AUTH TOKEN  
Hide b [REDACTED] [Copy](#)

Two-factor Authentication Administration - TSplus

## Two-factor Authentication Administration

TSplus leverages Twilio in order to send verification codes by SMS. Twilio is a third party cloud platform not affiliated with TSplus.

**Configure SMS**

SMS is enabled. [Click here to force users to receive their verification code via an authentication app.](#)

Account SID: A [REDACTED]

Auth Token: b [REDACTED]

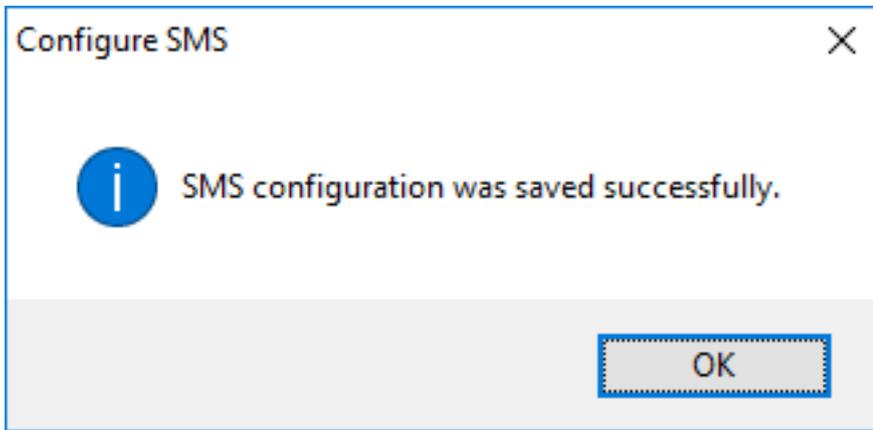
Phone Number: +33 [REDACTED]

[Save](#)

**Manage Twilio Subscription**

[Administration](#) [Service Status](#) [Support Center](#)

次に、保存をクリックします。次のメッセージが表示されます：



Twilioのサブスクリプションは、で管理できます。 Twilioのサブスクリプションを管理する セクション、の下部に SMSを設定する アカウントを管理し、サービスのステータスを確認するか、該当するボタンをクリックするだけでTwilioサポートセンターにアクセスできます。

## メールを設定する

ユーザーがEMAILで確認コードを受け取るには、まずSMTPメールを設定する必要があります。

Two-factor Authentication Administration - 16.50.11.7

Two-factor Authentication Administration

HOME

MANAGE USERS

CONFIGURE SMS

CONFIGURE E-MAIL

MANAGE 2FA REQUESTS

SETTINGS

LICENSE

Email settings

SMTP configuration allows TSplus to send confirmation codes by email, for enabling 2FA

SMTP Hostname: smtp. [redacted]

SMTP Port: 465

Use SSL:

SMTP Username: apikey

SMTP Password: [masked]

Send Email From: admin@[redacted]

Save

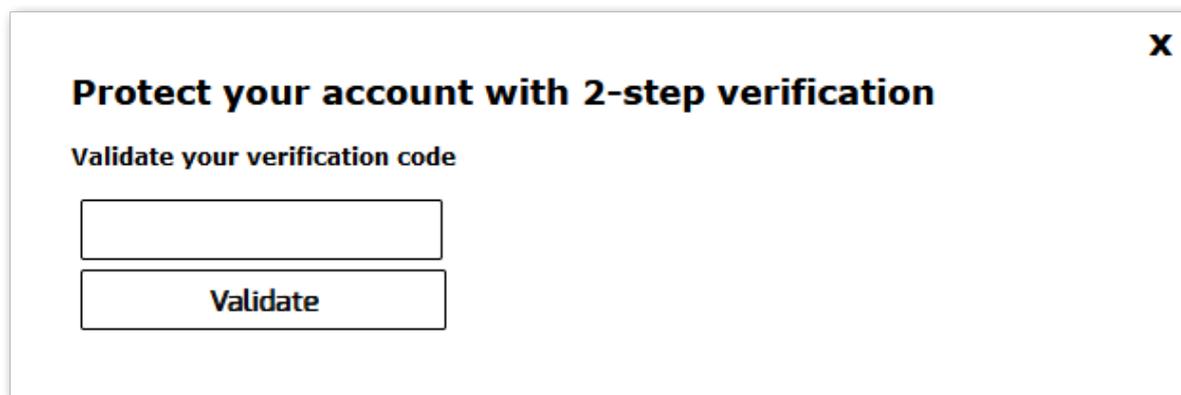
Send test Email To: test@[redacted]

Test

## 二要素認証を使用してログイン

ユーザーが認証アプリでTSplusアカウントを設定すると、パスワードと認証アプリから提供されたコードを使用して、SMSまたはメールで接続できるようになります。

TSplus Remote Access Webポータルから:

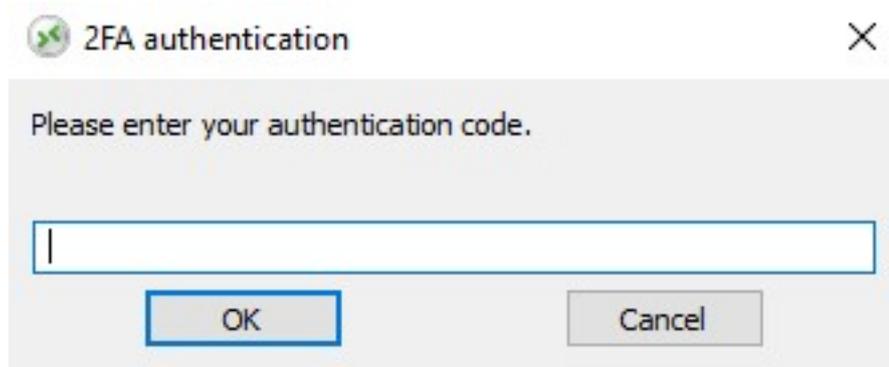


**Protect your account with 2-step verification**

Validate your verification code

Validate

TSplusが生成したクライアントから:



2FA authentication

Please enter your authentication code.

OK Cancel

TSplus アプリケーションサーバーとクライアントデバイスは、同じ時間を共有する必要があります。これは、サーバーの時間と日付がタイムサーバーと同期されている必要があることを意味します。クライアントデバイスも、設定されているタイムゾーンに関係なく、時間の同期が必要です。

デバイスの日時が同期されていない場合、またはサーバーの日時が同期されていない場合、認証リクエストは拒否される可能性があります。

デバイスとサーバー間の情報の検証はUTC時間に関連しています。

中で **設定** セクション、ディスクリペンシーパラメータは、コードの有効期間を30秒の間隔で管理するために使用されます。

認証の検証または有効な認証の例:

- サーバーはタイムサーバーと同期しており、タイムゾーンはUTC + 2で、午後2時30分です。
- デバイスはタイムサーバーと同期しており、タイムゾーンはUTC + 1で、午後1時30分です。
- 不一致パラメータは60に設定されており、すなわちコードの有効期限は30分です。
- UTC時間を参照すると、デバイスの時間とサーバーの時間は同一です。

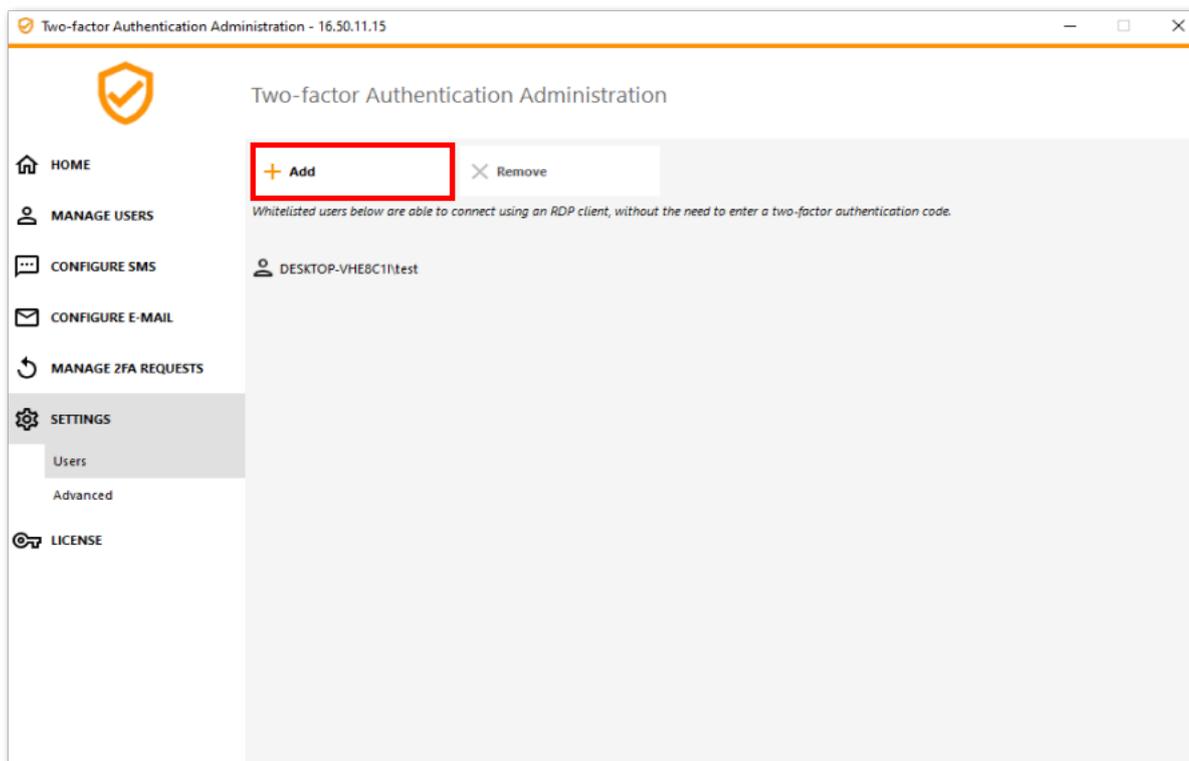
認証の有効または無効の例:

- サーバーはタイムサーバーと同期しており、タイムゾーンはUTC + 2で、午後2時30分です。
- デバイスはタイムサーバーと同期しておらず、タイムゾーンはUTC-1で、時間は手動で午後1時30分に設定されています。
- 不一致パラメータは60に設定されており、すなわちコードの有効期限は30分です。
- サーバー時間はUTC時間の午前12時30分を指します。
- デバイスによって通知された時間は、UTC時間で午後2時30分です。
- 差は120分であるため、検証コードは拒否されます。

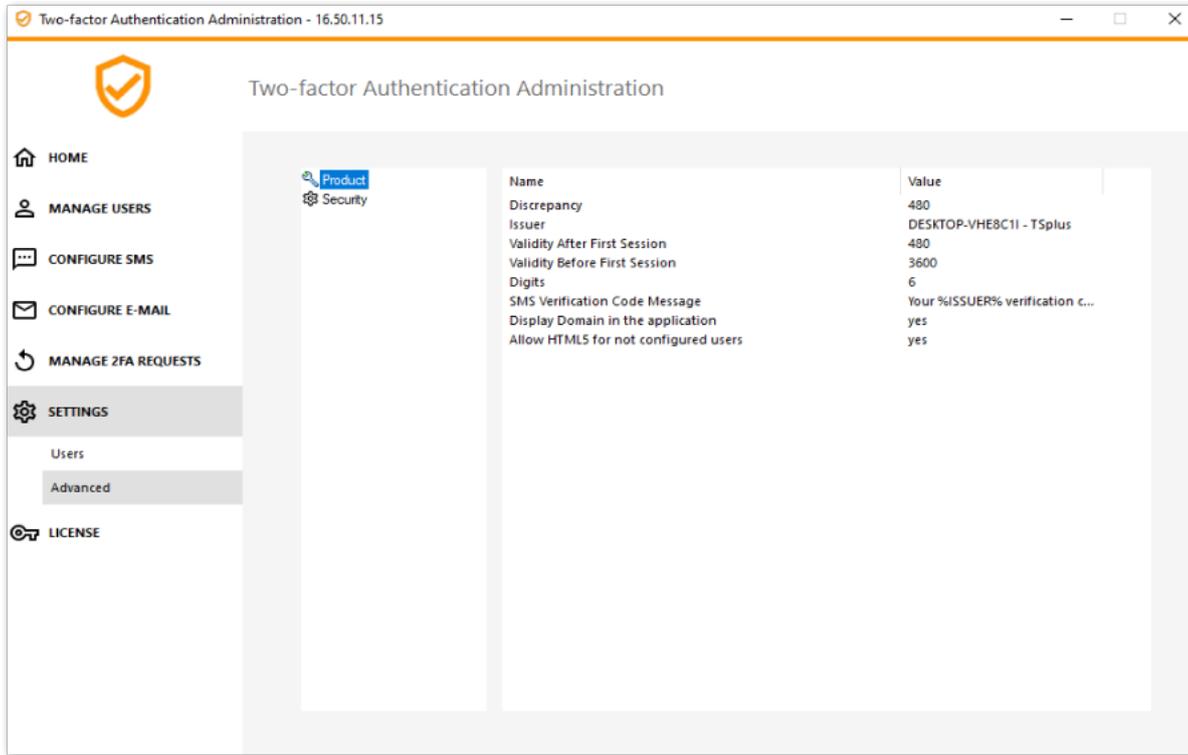
## 設定

設定タブでは、あなたがユーザーをホワイトリストに登録し、RDPクライアントを使用して接続できるようにし、二要素認証コードを入力する必要をなくします。

「ユーザーを追加するには「追加」ボタンをクリックし、ユーザーを選択して「削除」ボタンをクリックすることでユーザーを削除します。」



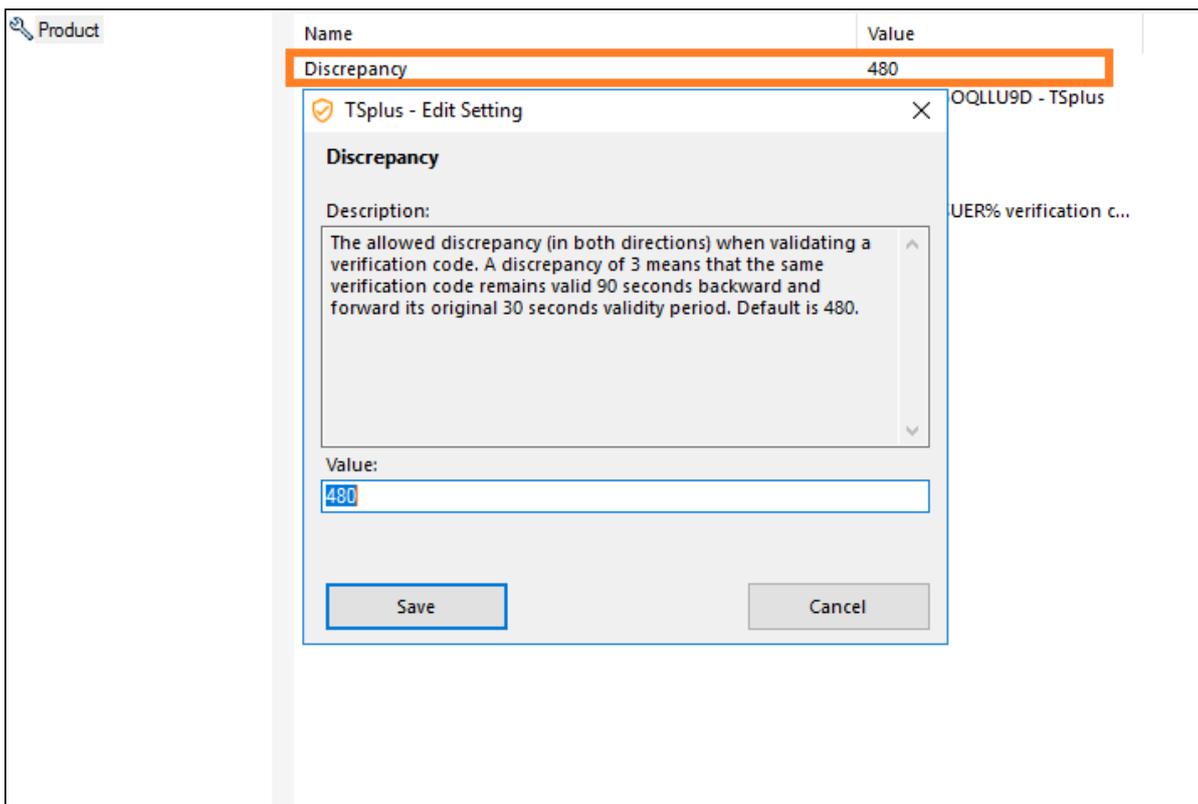
詳細タブでは、二要素認証の詳細設定を構成できます。



## 不一致

不一致値を変更することができ、これにより検証コードの検証時間を設定できます。

3の不一致は、同じ検証コードが元の30秒の有効期限の前後90秒間有効であることを意味します。デフォルトは480で、これは $480 \times 30$ 秒 = 4時間を意味します。



## 発行者

二要素認証サービスの名前を示す文字列。発行者はクライアントのモバイルアプリに表示され、生成された検証コードに関連付けられたサービスを特定します。デフォルトでは、サーバーの名前にTSplusが含まれています。

The screenshot shows a configuration window titled 'Product' with a table of settings. The 'Issuer' row is highlighted with an orange border. Below the table, a modal window titled 'TSplus - Edit Setting' is open, showing the 'Issuer' configuration details. The 'Value' field in the modal contains 'WIN-PJKGOQLLU9D - TSplus'.

Name	Value
Discrepancy	480
Issuer	WIN-PJKGOQLLU9D - TSplus

**TSplus - Edit Setting**

**Issuer**

Description:  
A string indicating the name of the two-factor authentication service. The issuer is displayed on the client mobile app and identifies the service associated with the generated verification code.

Value:  
WIN-PJKGOQLLU9D - TSplus

Save Cancel

## 初回セッション後の有効性

ユーザーが以前の二要素認証コードを再検証することなくセッションを開くことができる期間。この設定により、ユーザーはWebアプリケーションポータルからアプリケーションを連続して開くことができます。デフォルトは480分です。

The screenshot shows a configuration window for 'TSplus - Edit Setting'. In the background, a table lists settings with their values:

Name	Value
Discrepancy	480
Issuer	WIN-PJKGOQLLU9D - TSplus
Validity After First Session	480

The 'Validity After First Session' row is highlighted with an orange border. The foreground dialog box is titled 'Validity After First Session' and contains the following text:

**Validity After First Session**

Description:  
Period during which a user can open a session without having to revalidate a previous two-factor authentication code. This setting allows users to open applications from the Web application portal successively. Default is 480 minutes.

Value:  
480

Buttons: Save, Cancel

## 初回セッション前の有効性

ユーザーがWebポータルまたはモバイルアプリから二要素認証コードを検証した後にセッションを開くことができる期間（秒単位）。デフォルトは3600秒です。

The screenshot shows the same configuration window, but now the 'Validity Before First Session' setting is highlighted in the background table and being edited in the foreground dialog box.

Name	Value
Discrepancy	480
Issuer	WIN-PJKGOQLLU9D - TSplus
Validity After First Session	480
Validity Before First Session	3600

The foreground dialog box is titled 'Validity Before First Session' and contains the following text:

**Validity Before First Session**

Description:  
Period during which a user can open a session after validating a two-factor authentication code from the Web portal or from the mobile app, in seconds. Default is 3600 seconds.

Value:  
3600

Buttons: Save, Cancel

## 数字

ユーザーに表示する桁数。この設定は認証アプリによってサポートされていない場合があります。この数は4以上12以下でなければなりません。デフォルトは6です。

The screenshot shows a configuration table with the following data:

Name	Value
Discrepancy	480
Issuer	WIN-PKGOQLLU9D - TSplus
Validity After First Session	480
Validity Before First Session	3600
Digits	6

The modal dialog box 'TSplus - Edit Setting' contains the following information:

**Digits**

Description:  
The number of digits to display to the user. Please note that this setting may not be supported by authentication apps. This number must be greater than or equal to 4 and lower or equal to 12. Default is 6.

Value:  
6

Buttons: Save, Cancel

## SMS認証コードメッセージ

ユーザーにSMSで受信するように設定されている場合、確認コードを要求するメッセージが送信されます。このメッセージには、実際の確認コードに置き換えられる%CODE%プレースホルダーが含まれている必要があります。デフォルトは次のとおりです: あなたの%ISSUER%確認コードは: %CODE%です。

Name	Value
Discrepancy	480
Issuer	WIN-PKGOQLLU9D - TSplus
Validity After First Session	480
Validity Before First Session	3600
Digits	6
SMS Verification Code Message	Your %ISSUER% verification c...

**TSplus - Edit Setting**

**SMS Verification Code Message**

Description:

Message sent to users requesting a verification code if they are configured to receive it via SMS. This message must contain the %CODE% placeholder which will be replaced by the actual verification code. Default is: Your %ISSUER% verification code is: %CODE%

Value:

Your %ISSUER% verification code is: %CODE%

Save Cancel

## SMSセキュリティ期間

ユーザーがSMSを介して認証コードを要求したときに期間が始まります。この期間中、ユーザーは要求されたSMSの数が閾値（時間単位、デフォルトは24時間）に達するまで、新しい認証コードをSMSで要求することができます。

Two-factor Authentication Administration - 17.20.7.9

**Two-factor Authentication Administration**

- HOME
- MANAGE USERS
- CONFIGURE SMS
- CONFIGURE E-MAIL
- MANAGE 2FA REQUESTS
- SETTINGS
  - Users
  - Advanced
- LICENSE

Product	Name	Value
Security	Period	24
	Threshold	6

**TSplus - Edit Setting**

**Period**

Description:

The Period begins when a user requests an authentication code via SMS. During this Period, the user is able to request new authentication code via SMS until the number of requested SMS reaches the Threshold value (in hours, default is 24 hours).

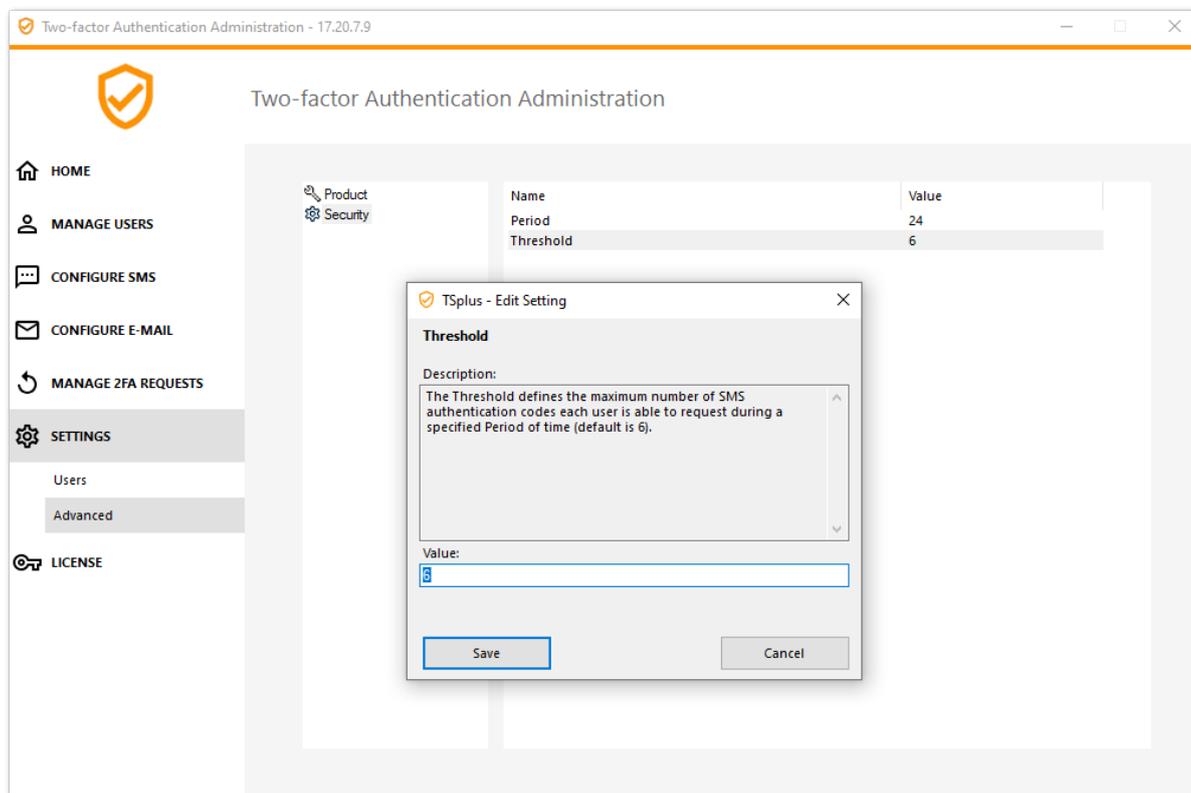
Value:

24

Save Cancel

## SMSセキュリティ 閾値

しきい値は、各ユーザーが指定された期間中に要求できるSMS認証コードの最大数を定義します ( デフォルトは6です )。



The screenshot displays the 'Two-factor Authentication Administration' web interface. The left sidebar contains navigation options: HOME, MANAGE USERS, CONFIGURE SMS, CONFIGURE E-MAIL, MANAGE 2FA REQUESTS, SETTINGS (highlighted), and LICENSE. Under 'SETTINGS', 'Users' and 'Advanced' are listed. The main content area shows a table with settings for 'Product' and 'Security'. The 'Security' section is expanded, showing a table with the following data:

Name	Value
Period	24
Threshold	6

An 'Edit Setting' dialog box is open, titled 'TSplus - Edit Setting'. It contains the following information:

- Threshold**
- Description:** The Threshold defines the maximum number of SMS authentication codes each user is able to request during a specified Period of time (default is 6).
- Value:** A text input field containing the number '6'.
- Buttons: 'Save' and 'Cancel'.

# ユニバーサルプリンター (novaPDF)

TSplusユニバーサルプリンターを使用すると、TSplus Remote Accessによってサポートされている任意のPCまたはモバイルデバイスからドキュメントをプレビューまたは印刷できます。ユニバーサルプリンターは、HTML5セッションからおよび生成されたクライアントを使用して接続されているときに関連します。ユニバーサルプリンターは、標準のRDPクライアント ( mstsc.exe ) を使用している場合には関連しません。プリンターはサーバーとクライアントの間で共有できます。

リモートアクセスバージョン17を開始します。Universal PrinterはnovaPDFを活用しています。<https://www.novapdf.com/> リモートドキュメントから100%業界標準のPDF ( ポータブルドキュメントフォーマット ) ファイルを生成します。生成されたPDFドキュメントは、希望するローカルプリンターに送信されます。ユニバーサルプリンター ( novaPDF ) は、廃止され、リモートアクセスサーバーにインストールできなくなったユニバーサルプリンター ( CustPDF ) およびユニバーサルプリンター ( GhostScript ) に置き換わります。

リモート印刷用に2つのプリンターが利用可能です：ユニバーサルプリンターと仮想プリンター。仮想プリンターは印刷性能が優れていますが、HTML5クライアントと互換性がなく、クライアントアプリケーションのインストールが必要です。したがって、リモートアクセスの設定に従ってユニバーサルプリンターがデフォルトプリンターとして設定されます。ご覧ください。 [TSplus Virtual Printer](#) .

## 要件

NovaPDF11Service サービスは、アクティブなファイアウォールまたはアンチウイルスの除外リストに含まれている必要があります。

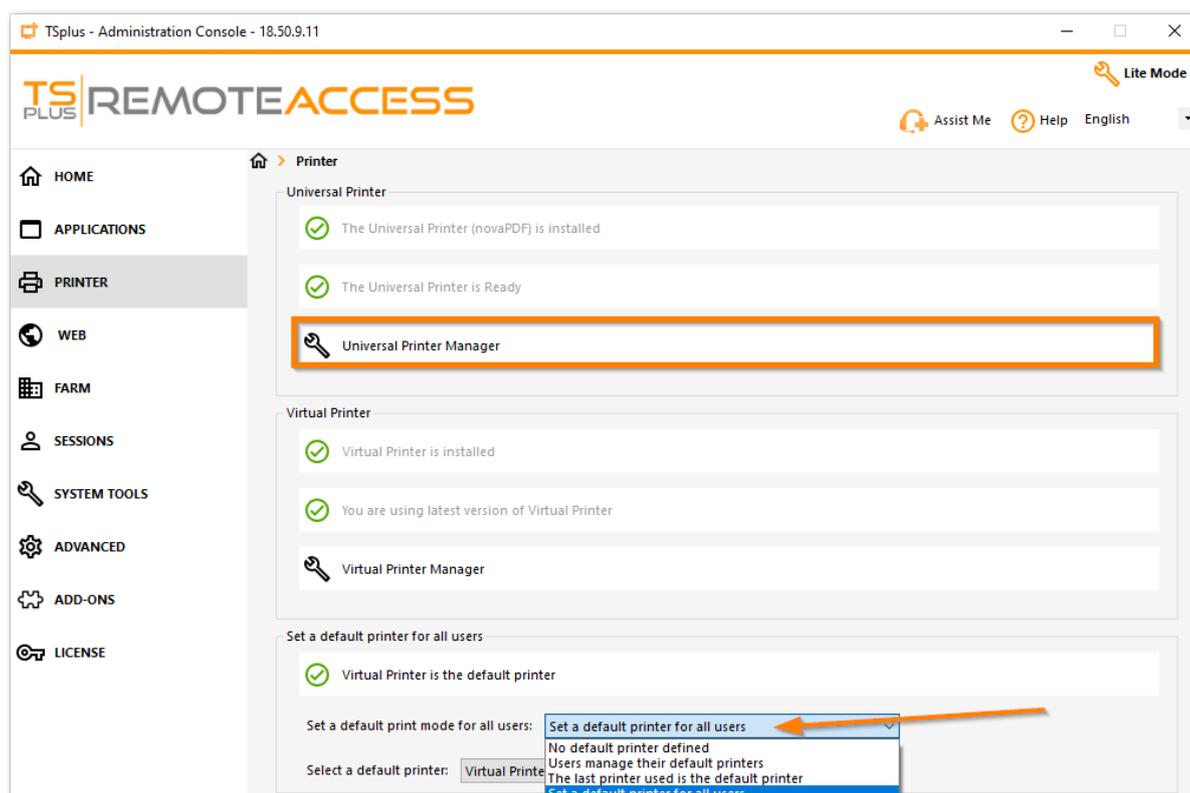
## ユニバーサルプリンターを設定する

ユニバーサルプリンターを設定するには、AdminToolを開いてクリックしてください。プリンター メニュー。

ユニバーサルプリンターコントロールパネルにアクセスするには、AdminToolを通じて移動してください: プリンター > ユニバーサルプリンターマネージャー

すべてのユーザーのデフォルトプリンターを設定する

- デフォルトのプリンターが定義されていません: ユーザーのデフォルトプリンター設定には影響しません。
- ユーザーはデフォルトのプリンターを管理します: 「Windowsにデフォルトのプリンターを管理させる」オプションが無効になっているため、ユーザーがデフォルトのプリンターを選択する必要があります。
- 最後に使用したプリンターはデフォルトプリンターです: 「Windowsにデフォルトプリンターを管理させる」オプションが有効になっています。
- すべてのユーザーのデフォルトプリンターを設定します: 管理者がユーザーのデフォルトプリンターを強制します。



ユニバーサルプリンターセクションには、管理者が次のことを可能にする4つのタイルが表示されます:

- ユニバーサルプリンターのセットアップ状況を確認してください。ユニバーサルプリンターがインストールされていない場合、タイルをクリックするとユニバーサルプリンターがインストールされます。
- ユニバーサルプリンターの印刷状況を確認してください。ユニバーサルプリンターが印刷ジョブを受け取る準備ができていない場合、タイルにはエラーに関する追加の関連情報が表示されることがあります。

ユニバーサルプリンターがデフォルトプリンターとして設定されているか確認してください。ユニバーサルプリンターがデフォルトプリンターとして設定されていない場合、タイルをクリックするとデフォルトプリンターとして設定されます。この動作は、ユーザーが許可されている場合に上書きされる可能性があることに注意してください。

- **タイルの名前 ユニバーサルプリンターマネージャー** 詳細な画面に移動し、ユニバーサルプリンターの削除などの追加のアクションやプロパティを提供します。

## ユニバーサルプリンターマネージャー

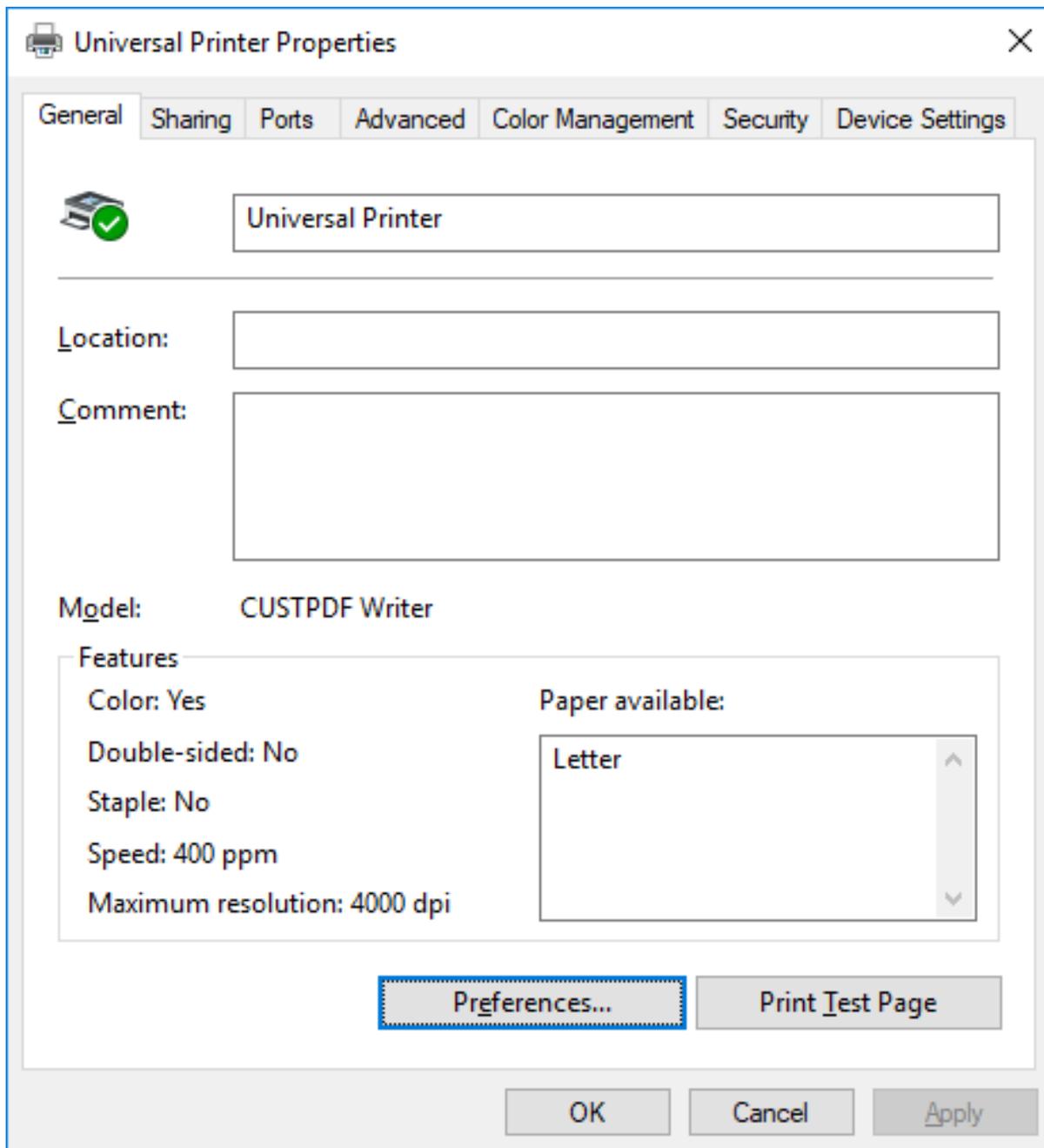
ユニバーサルプリンターマネージャーは、管理者がユニバーサルプリンターのステータスを確認し、ユニバーサルプリンターを削除し、印刷キューおよびプリンターのプロパティにアクセスすることを可能にします。

特に、ページの下部にあるボタンは管理者が次のことを許可します：

- **ユニバーサルプリンターを削除する** ユニバーサルプリンターをアンインストールします。この画面から後で再インストールできます。

- **プリンターを表示** 印刷ドキュメントのステータスを確認し、印刷ジョブを一時停止、再開、またはキャンセルできるウィンドウが開きます。また、印刷の設定やプロパティを設定することもできます。

- **ユニバーサルプリンタのプロパティ** このウィンドウを開き、すべての印刷プロパティを確認できます。一般タブの後には、共有、ポート、高度な設定、カラー管理、セキュリティ、およびデバイス設定のタブがあります。ポップアップウィンドウの下部には、プリンターがあります。 **プロパティ** 管理者が印刷用のページサイズをA4から任意の印刷形式に設定できるようにします。また、印刷の向きをポートレートまたはランドスケープの2つから選択することもできます。



注意：ユニバーサルプリンターはnovaPDFを活用しており、管理者がフォント、グラフィックス、透かし、オーバーレイなどを定義するためのプロファイルを作成できるようにします。プロファイルを管理する ページサイズと印刷の向きセクションの下にあるボタンがプリンタのプロパティポップアップウィンドウにあります。プロファイルがデフォルトで選択されている場合、次に 印刷前に選択プロファイルダイアログを表示 ユーザーが印刷前にプロファイルを選択できるように確認される場合があります。プロファイルに関する詳細については、[novaPDFのドキュメントを参照してください。](#) [プロファイルマネージャー](#) .

## ユニバーサルプリンターでの印刷

このプリンターを使用して印刷する際、印刷キュー内のドキュメントはユニバーサルプリンター ( novaPDF ) によって自動的にPDFファイルに変換されます。



Print

Printer

Name: Universal Printer Properties...

Status: Ready

Type: CUSTPDF Writer

Where: CPWPU997

Comment:  Print to file

Print range

All

Pages from: 1 to: 1

Selection

Copies

Number of copies: 1

Collate

OK Cancel

## for Windows

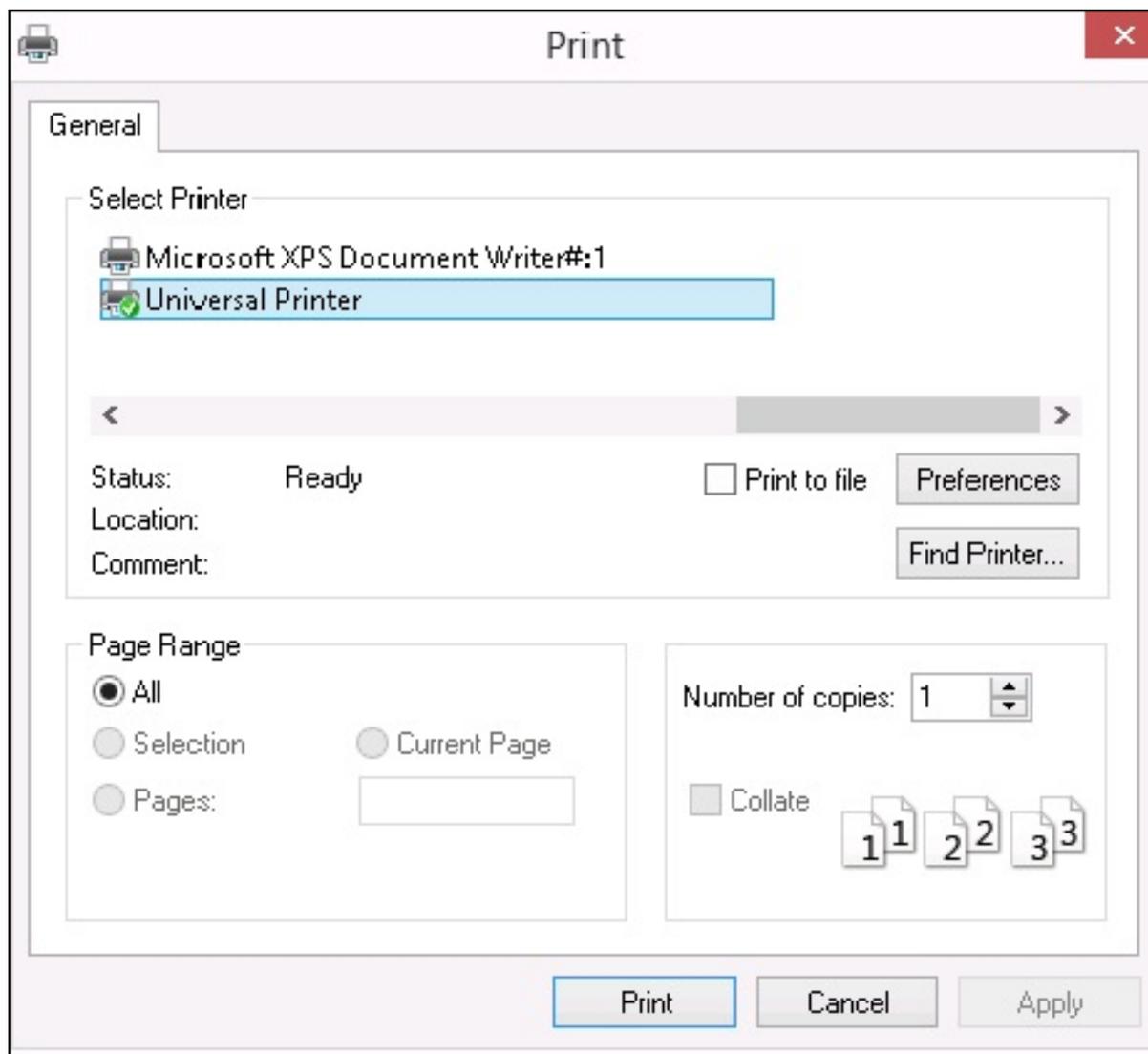
ur Windows applications  
from Internet. Without  
ly make your Windows  
IDP, Smartphone, MAC  
st, simple and affordable  
solution that eliminates the complexity of other alternatives such as RDS  
(Windows Terminal Server) or Citrix Servers.

With **TSplus**, your Windows applications are hosted on a secure central **TSplus** system. Local and remote users running UNIX, Linux, Mac OS X, Windows and any mobile device simply connect using the Web Portal on any web browser. The application then appears on your device just as if it was running locally. And thanks to our high-performance HTML5 client, **TSplus** provides a fast and efficient access.

**TSplus Web Portal**

生成されたPDFファイルは、ユーザーのワークステーションのローカルPDFリーダーにプッシュされます。

各印刷ジョブは、ユーザーのローカルディスクで準備が整い次第、すぐに開かれます。印刷プロセスは、PDFファイルがクライアント側に転送されると開始され、印刷ジョブが遅延なく開始されることが保証されます。



## クライアントジェネレーターを使用した印刷オプションの設定

ローカルリソースタブで3つの印刷オプションから選択できます。 [ポータブルクライアントジェネレーター](#)

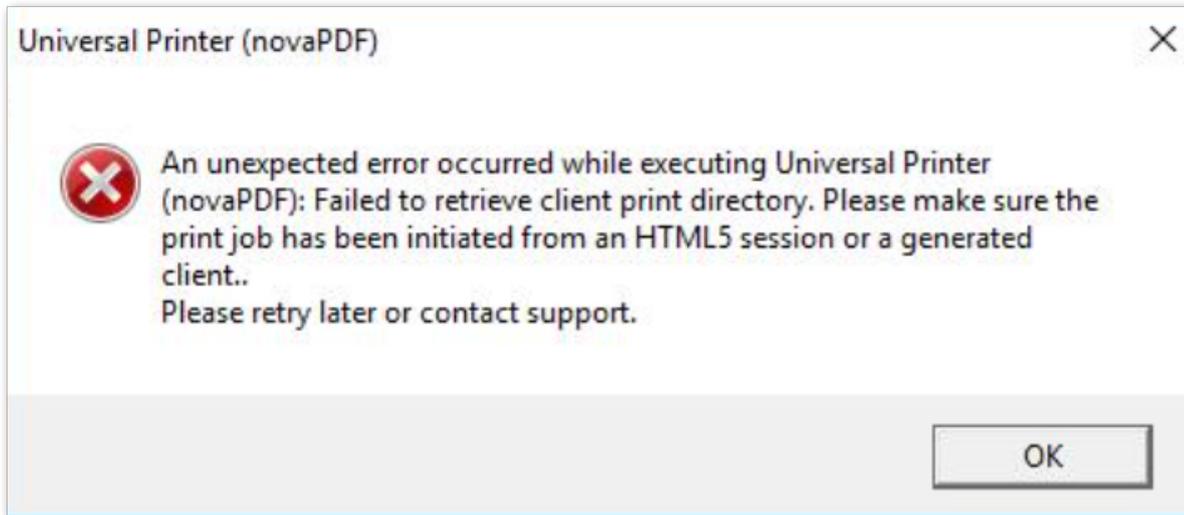
TSplus接続クライアントを使用する際は、少なくとも次のものをマッピングする必要があります。 C: ドライブまたはすべてのディスク

- ローカルPDFリーダーのプレビュー ドキュメントはクライアントのワークステーションにプッシュされ、ローカルのデフォルトPDFリーダーが受信したPDFファイルを開きます。ユーザーはそれを印刷するか、ローカルディスクドライブにコピーを保存できます (この動作はHTML5セッションから印刷する際に期待されます)。
- ユーザーのデフォルトプリンターに印刷する ユーザーのデフォルトプリンターによって文書が自動的に印刷されます (このオプションはTSplus接続クライアントを使用している場合にのみ利用可能です)。このオプションは、日中に多くの印刷ジョブを印刷し、この目的のために同じプリンターを使用するユーザーに推奨されます。
- ローカルプリンターを選択してください ユーザーは自分のローカルプリンターの1つを選択できます (このオプションはTSplus接続クライアントを使用しているときのみ利用可能です)。

PDFファイルを読むために、最近では多くの人が外部アプリケーションを全く使用せずに済んでいます。FirefoxとChromium、GoogleのChromeブラウザのオープンソース版の両方には、ブラウザ内PDFリーダーがバンドルされているため、ほとんどのユーザーにとって外部プラグインはもはや必要ありません。

ご参考までに

C:ドライブがマッピングされていない場合、ユーザーはこのエラーメッセージを受け取ります。



## novaPDFプリンターを設定する

出発地 [プリンタの設定](#) > [ツール](#) > [パスワード](#)、あなたはできます:

- デフォルトのパスワードを編集する
- プロファイルマネージャーインターフェースの言語を変更する
- 印刷ジョブの進行状況をリアルタイムで監視する
- プリンタ履歴を確認する

## 新しいタブで印刷ジョブを開く

デフォルトでは、HTML5セッションからの印刷ジョブは、バージョン17.10以前と同様にポップアップ内に表示されます。

この動作を変更し、次の設定を使用して新しいブラウザのタブで印刷ジョブを開くことが可能です。 [管理ツール](#) > [高度な](#) > [セッション](#) > [新しいタブで印刷ジョブを開く](#)

## プロフィール

プロファイルは、レイアウト、透かし、圧縮レベルなどをカスタマイズすることを可能にします。プロファイルマネージャーを使用すると、プロファイルを管理できます。プロファイルは、ユニバーサルプリンターを使用して印刷する際に利用される設定で構成されています。たとえば、PDFの配布、高品質印刷、レビュー目的、または文書を機密としてマークするなど、特定の出力要件に合わせたさまざまな印刷プロファイルを設定できます。

プロファイルマネージャーを開くには、デバイスとプリンターを開き、ユニバーサルプリンターを右クリックして印刷設定を選択します。次に、クリックします。 プロファイルを管理 ボタン。デフォルトのパスワードは: pass@word1

## デフォルトプロファイルの理解

- デフォルトプロファイル デフォルトプロファイルは、1つまたは複数のドキュメントを同時に印刷するために設計されています。ほとんどのシナリオに適しています。
- 印刷されたドキュメントのプロファイル このプロファイルを使用して、PDFビューワーで開いたときに自動的にドキュメントを印刷します。このプロファイルは、HTML5セッションから印刷する際にクリックを得るのに役立ちます。

HTML5セッションを開くと、現在のユーザーに対して印刷されたドキュメントプロファイルが自動的に選択されます。ただし、同じユーザーのためにRDPモードで別のセッションが現在開かれている場合、HTML5セッションでの自動印刷は無効になります。この場合、デフォルトプロファイルがデフォルトで適用されます。

**注意** UWPアプリケーション ( Windows 11のNotepadなど ) に対して、Print Opened Documents Profileを自動的に選択することはできません。これらのアプリケーションはシステムと完全に隔離されて実行されるように設計されています。ただし、ユーザーが手動で使用するプロファイルを選択し、次の印刷ジョブのデフォルトとして選択することは可能です。現時点では回避策はありません。ただし、2024年第4四半期に予定されている次のnovaPDFのメジャーリリースに向けたnovaPDFプリンターの再設計により、この制限は解除される予定です。

## ユーザーはどのプロファイルを選択できますか？

デフォルトでは、ユーザーは2つのデフォルトプロファイルの中から使用するプロファイルを選択できます。ユーザーは1つのプロファイルをアクティブとして選択でき、次の印刷ジョブのためにプロファイル選択ダイアログボックスを表示しません。管理者はすべてのユーザーに利用可能な1つまたは複数のプロファイルを定義できます。この決定は、ユーザーの選択を上書きします。 <https://www.novapdf.com/printer-manager-profiles-help.html> .

**重要** 既存のプロファイルをコピーして、よりパーソナライズされたプロファイルを作成することをお勧めします。既存のプロファイルには、生成されたPDFドキュメントに埋め込まれたフォントなど、ほとんどのインストールに必要な複数の機能が組み込まれています。

## トラブルシューティング

以下に、Universal Printer (novaPDF) の問題を解決するためのトラブルシューティングのヒントを示します。

## 最新情報を維持する

- 接続クライアントの更新により、クライアント側で発生しているいくつかの問題が修正される可能性があります。
- 変更履歴を確認して、新しいバージョンがあなたの問題を修正しているかどうかを確認してください。 <https://dl-files.com/TSplus-changelog.html>
- 開発チームは最新のコードベースのみをサポートできることを忘れないでください。

## 印刷プロセスのどの部分が失敗したのかを理解する

- 印刷ジョブは印刷キューに作成されましたか？そのステータスは何ですか？

## 印刷エラーのためのログ収集

- セッションオープニングログ 特に、クライアント印刷ディレクトリの取得失敗などの問題に役立ちます。 `C:\wsession\trace` .
- AdminToolアプリケーションログ に位置する `C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files` .
- ユニバーサルプリンターログ クライアント側に印刷ジョブを送信し、位置する `C:\wsession\UniversalPrinter\logs` .
- セッションイベントログ 印刷ユーザーのために、再接続の処理、位置は `%appdata%\UniversalPrinter\logs` .

## プリンタインストールの問題のためのログ収集

- セットアップログ 2024-02-XX #XX.txt は利用可能です `%temp%` ディレクトリ。
- ユニバーサルプリンタ管理 `_XX022024.txt`がある場所 `C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files` .
- すべての .txt ファイルは次の場所にあります `C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\UniversalPrinter` .

## クライアント側の印刷エラーのためのログ収集、接続クライアントを使用しているとき

- `version.dat` ファイル。常にConnection Clientを最新バージョンに更新するようにアドバイスしてください。
- 接続クライアント そして ユニバーサルプリンタクライアント ログ。このログは、レジストリに次のキー値を作成することで有効にできます。  
`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Digital River\ConnectionClient\Debug` = “true” 生成されたログはここにあります。 `C:\Users \RDP6\logs` .



# TSplus Remote Accessの更新

私たちの修正と改善を確認するには、クリックしてください。 [変更履歴](#)

私たちの開発チームは、Microsoftオペレーティングシステムの最新バージョンと最新のアップデートとのTSplusの安定性と互換性を確保するために、日々作業しています。

毎週新しい機能と改善を提供できることを誇りに思います。

これが、サーバーを最新の状態に保つことが推奨される理由です。

「2セッション/サーバー」問題が発生した場合、通常は月の第2火曜日のWindowsアップデート後に、TSplus Remote Access ( またはTSplus LTS 18/17 ) のバージョンを確認してください。

新しいリリースがまもなく公開され、最新のWindowsアップデートとの互換性が回復されます。

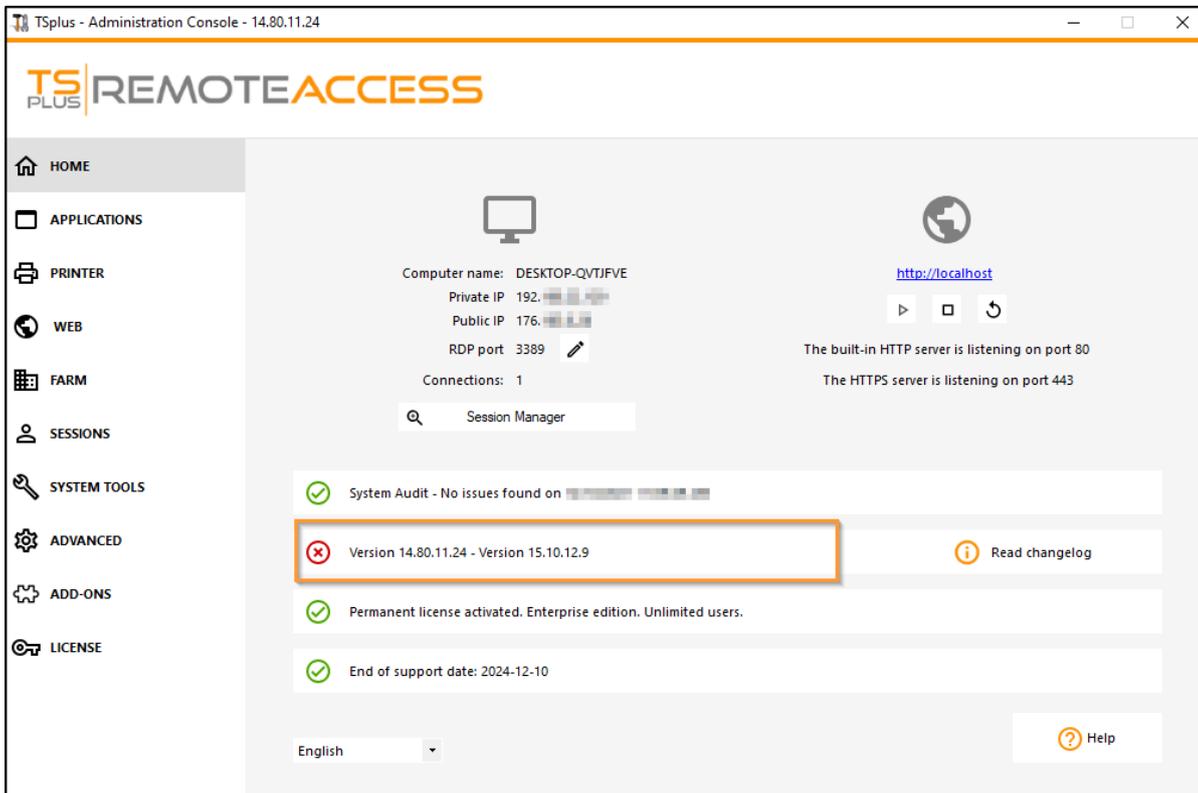
一時的な回避策として、その日のWindowsアップデートをアンインストールし、再起動することができます。

**重要:** TSplus Remote Accessをアンインストールしたり、古いシステムイメージを復元したりしないでください。これらのアクションは、解決がはるかに複雑なライセンスの競合を引き起こす可能性があります。ほとんどの場合、単純な再起動で互換性の修正が自動的に適用されます。

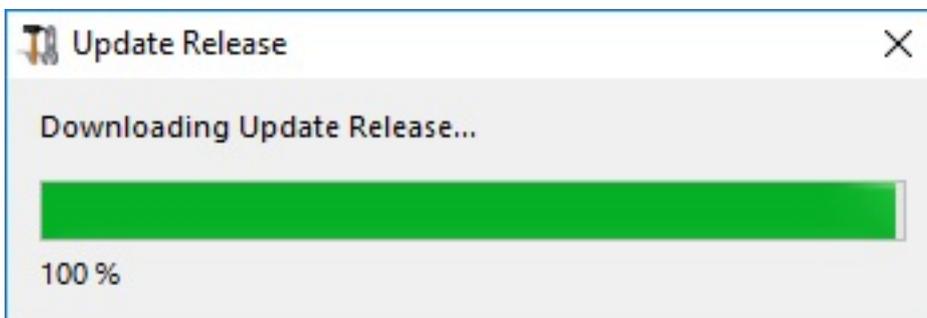
年次サポートおよび更新サービスにご加入いただくことで、最新の更新とバグ修正にアクセスできます。

TSplusのバージョンを確認し、更新するには:

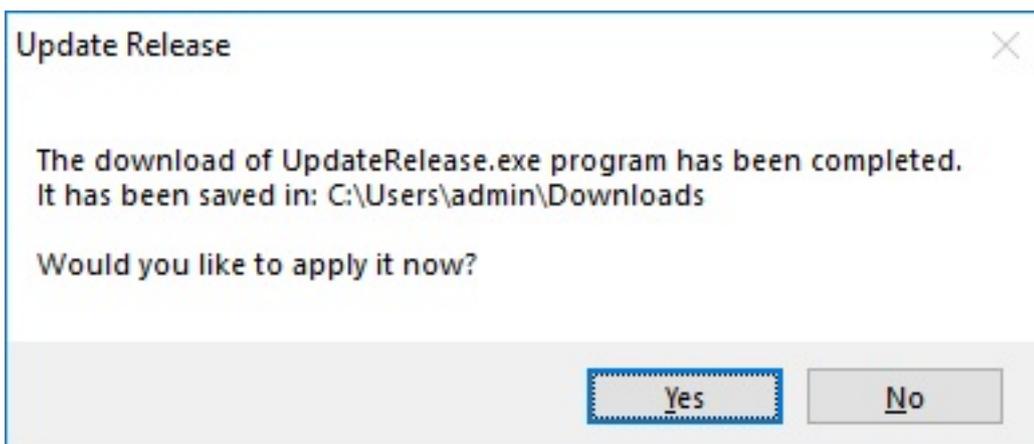
- あなたのAdminToolのホームタブでTSplusリリースのステータスを確認できます:



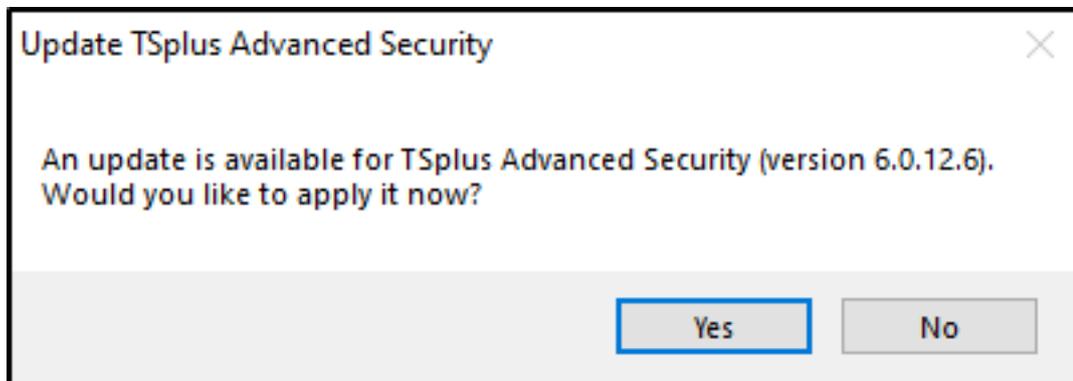
- それをクリックできます。TSplus 11.50バージョン以降、AdminToolは自動的にダウンロードします...



...および要求に応じてアップデートリリースプログラムを適用します。



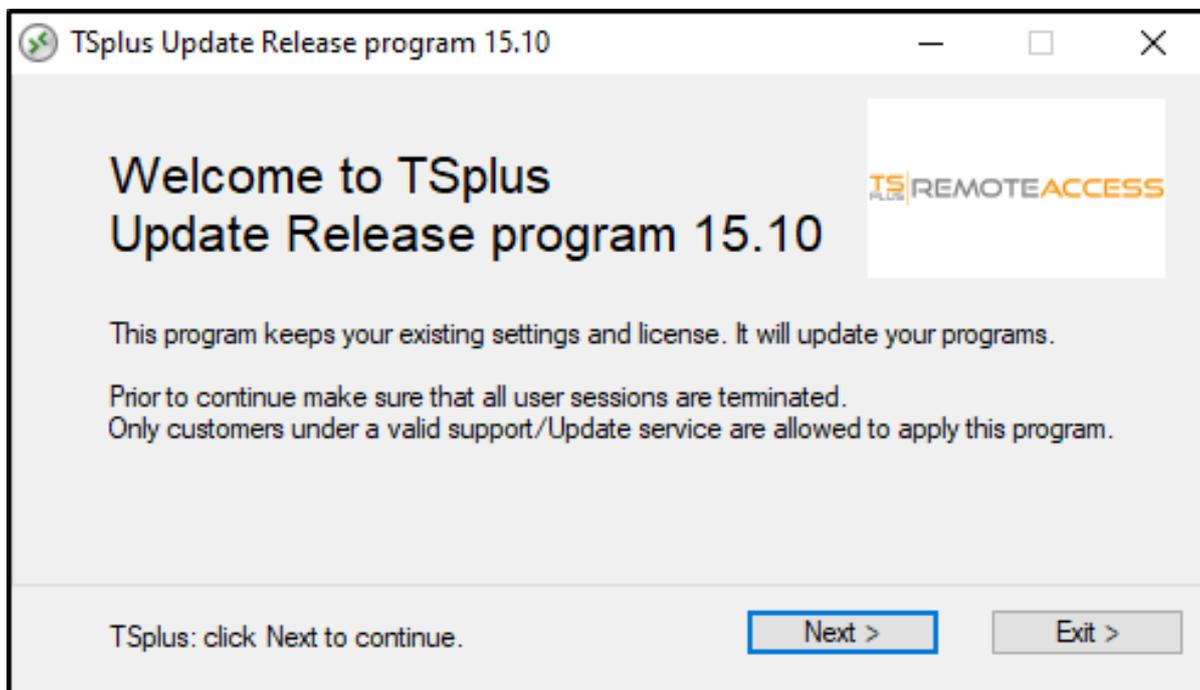
- TSplus 11.40バージョン以降、インストールする選択肢があります [TSplus Advanced Security](#) 私たちの強力なセキュリティアドオン、究極のトライアルバージョン (すべてのセキュリティ機能を2週間無料で使用可能) をあなたのTSplusシステムに:

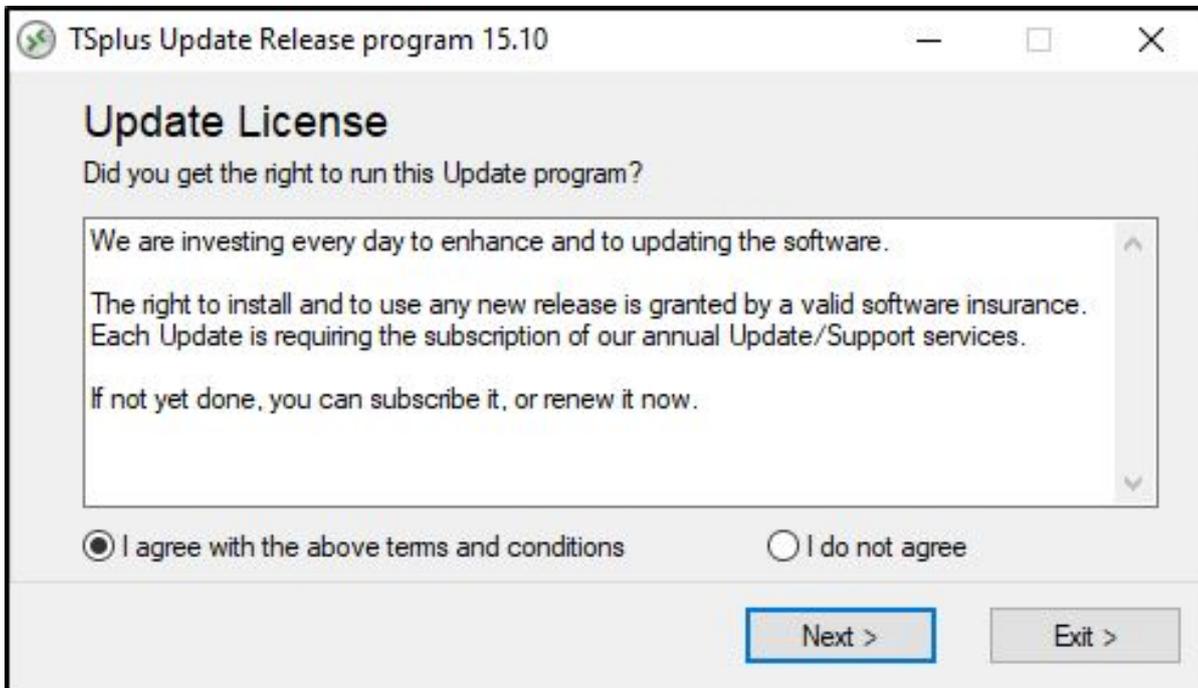


このリンクからまだダウンロードできます: [更新リリース](#) 手動で適用してください。

更新リリースプログラムは、現在のTSplus設定を安全に保つために設計されています。

TSplusのアップデート/サポートサービスにまだ登録していない場合、または登録が期限切れの場合、アップデートリリースプログラムを実行することはできません。

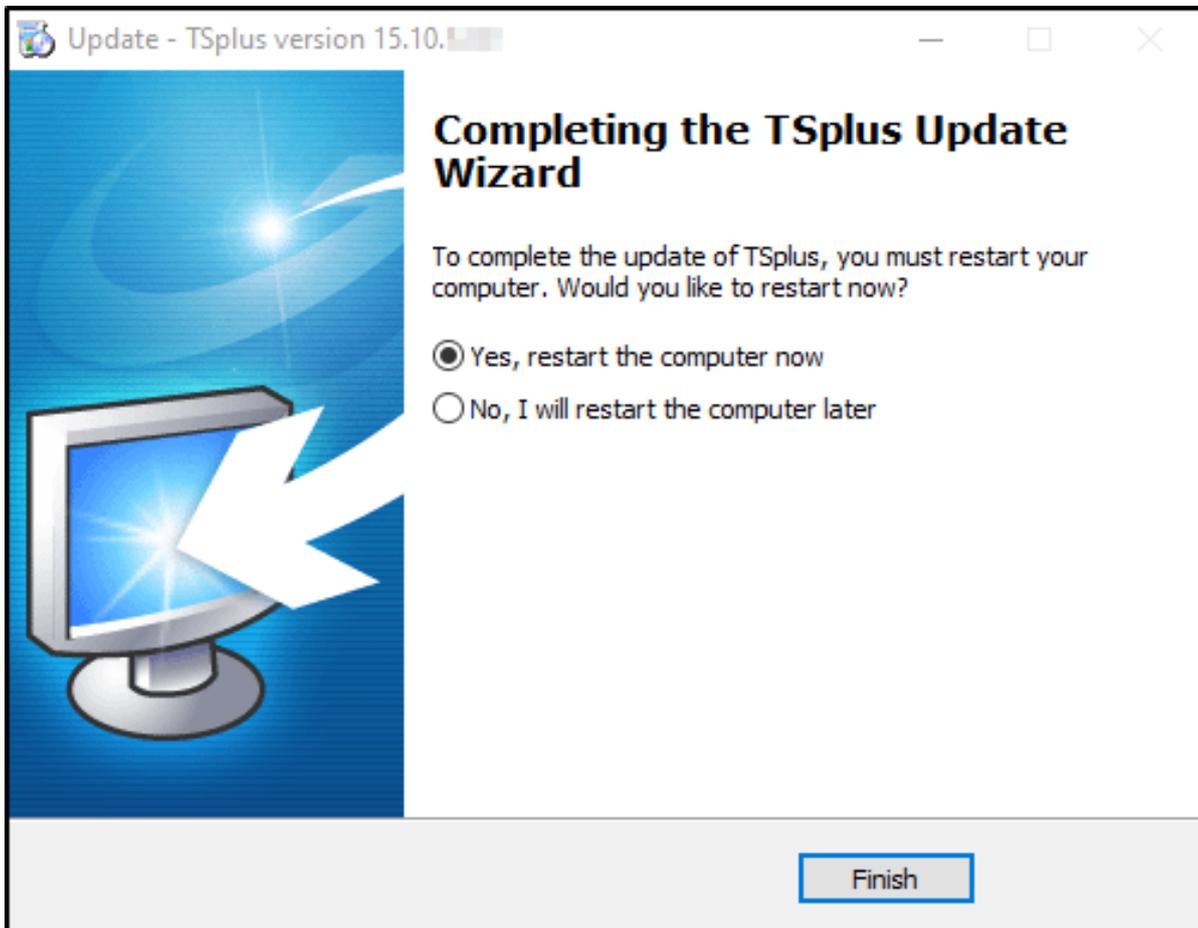




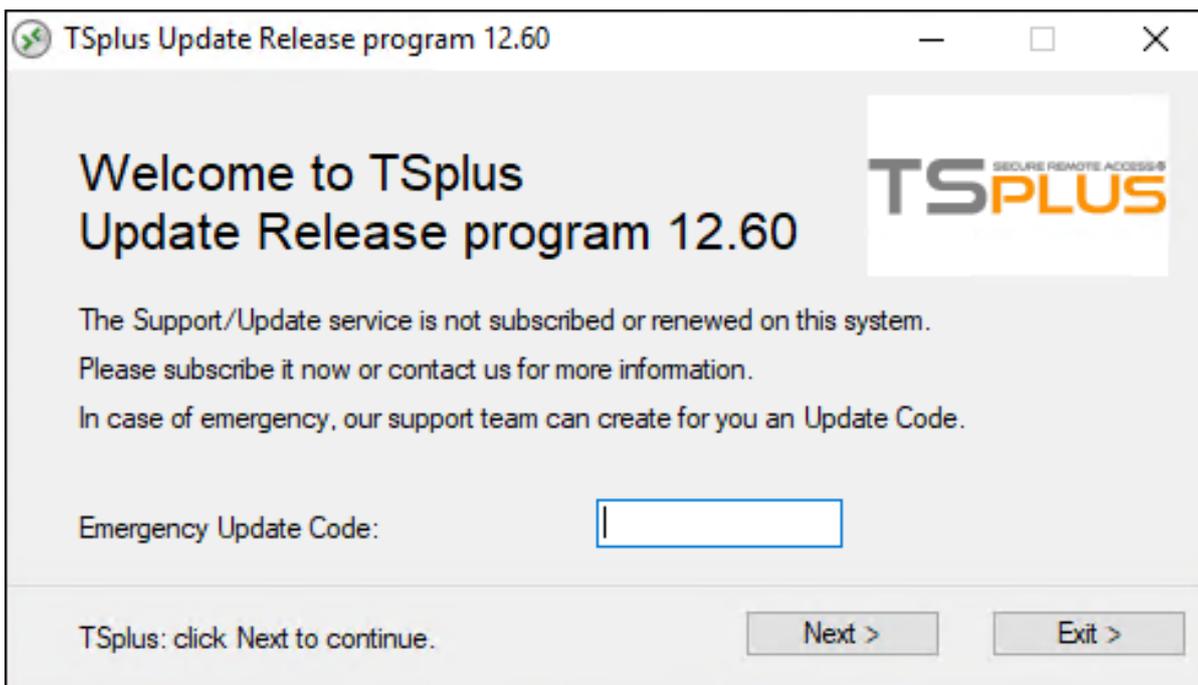
その場合は、当社のストアページでご注文いただくことをお勧めします。

サポート.licファイルをダウンロードするための正しい情報が返されます。更新/サポートサービスを有効にするのは、説明された簡単なプロセスです。 [ここ](#) .

更新が完了したら、再起動が必要です。



v14以前のバージョンについては、特定の要件に応じて、TSplusサポートチームがアップデートリリースプログラムを解除する緊急アップデートコードを提供することができます。



## 更新の問題:

### 欠落しているファイルを確認してください

C:\Program Files (x86)\TSplus\reboot\_required.dat

1. このファイルが存在する場合は、削除してください。
  2. サーバーを再起動してください
  3. このリンクをクリックして、再度アップデートを実行してください。 [更新リリース](#)
-

# TSplusのバージョンをアップグレードする

現在のTSplusのバージョンを更新して、より多くのユーザーや機能を追加したい場合は、あなたの中で登録してください。 [ライセンスポータル](#)。

Licenses	Supports	Purchase Licenses	Renew All Supports		
Product	Date	Order Number	Computer	Support	Comment
TSplus Remote Access Desktop 5 users	2023-11-22	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXX	View	Edit
		Upgrade	Details		
Previous 1 Next					

アップグレードの選択 (ユーザーとバージョン) を選択し、クリックしてください。 購入するストアを続けるには。

**License Detail**

5 users Desktop Edition Update and Support Services: 22/11/2026

Users

10

5 10 25 unlimited

Edition

System

Desktop

Mobile Web

Enterprise

Price includes Update and Support Services for the remaining period.

Buy for \$399.50 Add to Cart Back

購入後、更新は即座に行われ、ライセンスポータルに表示されます。  
あなたのデバイスでも同じ手順に従って、ライセンスにリンクされるようにする必要があります。

サーバー上で、クリックしてください **ライセンスを更新する** AdminToolの[ライセンス]タブのボタン。



# Apacheを使用する方法、Terminal Service PlusのデフォルトWebサーバーの代わりに

## 前提条件

それは良いアイデアかもしれませんが、[ターミナルサービスプラスを更新](#) 最新のTSplusプログラムを確実に入手するために。

## 1. AdminToolを起動し、Webサーバータブに移動します。

ウェブサーバーの管理タイルをクリックし、チェックしてください。異なるHTTPウェブサーバーを使用してください Apacheを使用したいからです。

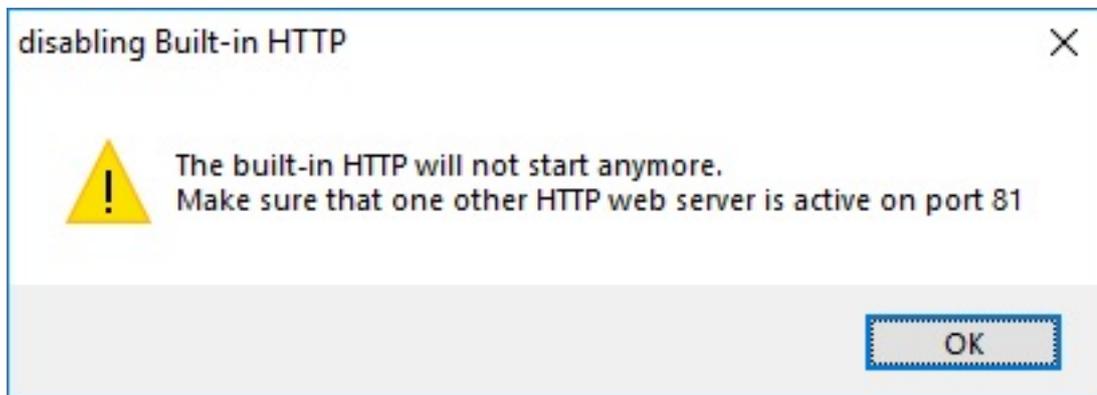
The screenshot shows the 'tsplus - Administration Console' window. The main content area is titled 'WEB' and contains three sections:

- Default HTTP web server:** A built-in HTTP Web Server is provided with tsplus. However, you can use a different one (IIS or Apache for example).
  - Use the built-in HTTP web server
  - Use a different HTTP web server (highlighted with an orange box). When using IIS or Apache, its HTTP port number must be set to 81. (Tunneling forwards this 81 port into the public HTTP port 80)
- Change the Web Server root path:** You can change the Web Server default root path. The current Web Server root path is: C:\Program Files (x86)\tsplus\Clients\www. A button labeled 'Select a new Web Server root path' is present.
- Web servers options:** Change the HTTP/HTTPS port numbers. Will not change IIS or Apache port settings.
  - HTTP: 80
  - HTTPS: 443

At the bottom right, there is a button labeled 'Save and Restart Web Server'.

次に、ボタンを使用してください **新しいWebサーバールートパスを選択してください** TSplus  
に新しいウェブフォルダーのルートがどこになるかを伝えるため。

TSplusは、要求されたファイル/フォルダーをこの新しいルートフォルダーにコピーし、この時点でApacheのTSplus設定はほぼ完了です。ポップアップが表示され、Apache HTTPポートを81に変更することを推奨します。



Apacheの設定を行う時間です。

## 2. Apacheの設定

HTTPを80から81に変更します。

これを行う具体的な方法は、あなたのApacheのバージョンと現在のApacheの設定によります。

Apacheの設定ファイルを変更する前にバックアップを取ることをお勧めします。必要な場合にそれらを復元する方法があるためです。

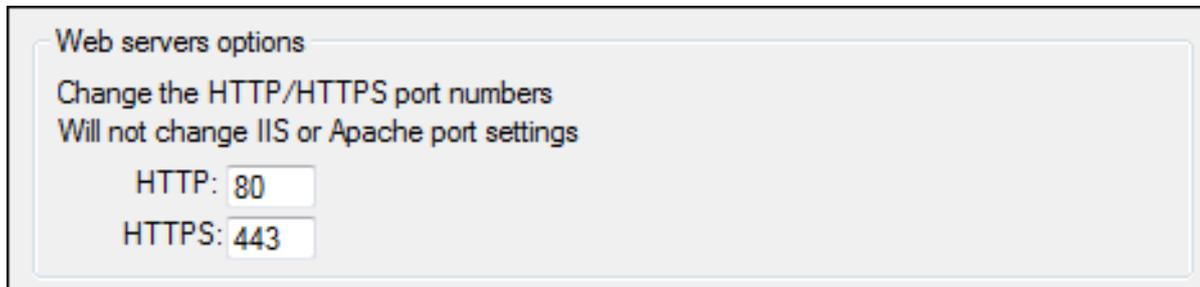
通常、Apacheのリスニングポートは「Apache\conf」ディレクトリにあるhttpd.confファイルを編集することで変更できます。

リスン 81

完了したら、Apacheサービスを再起動します。

## 3. TSplus Webサーバー管理ツールに戻る

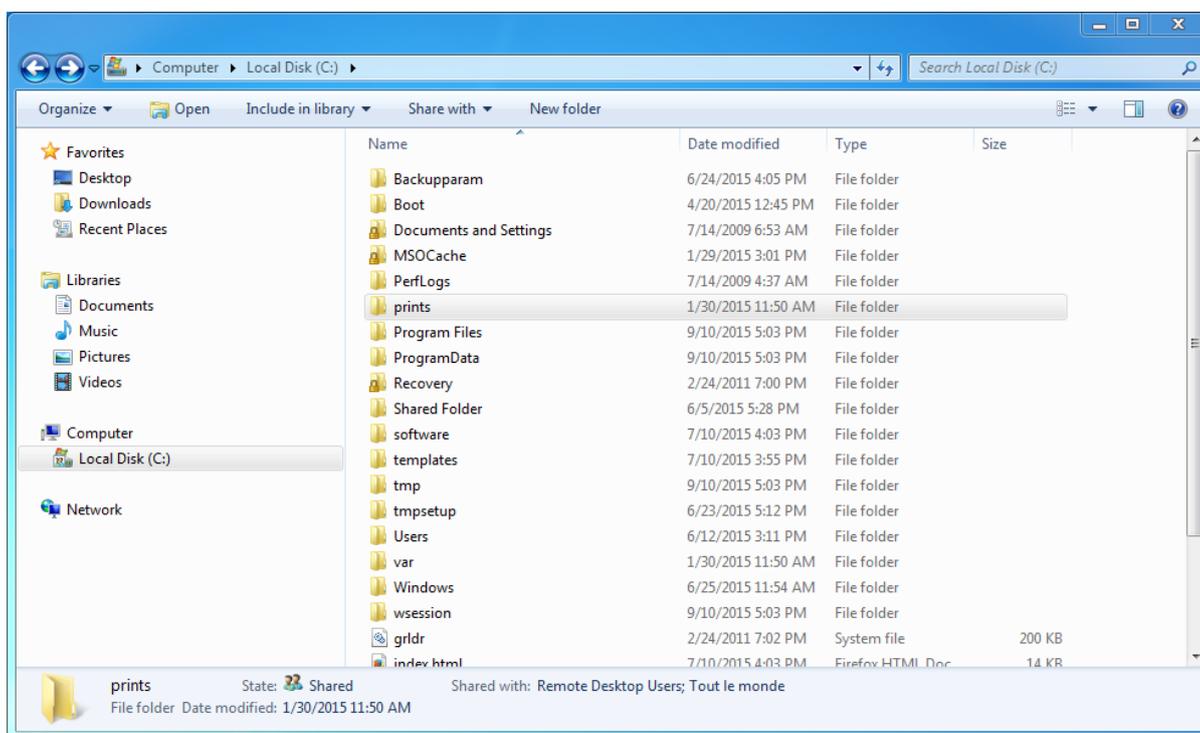
TSplus Web ManagementツールでHTTPおよびHTTPSポートを設定できます。標準ポートの使用を推奨しますが、他のプロセスとの競合を避ける際にこの機能が便利です。

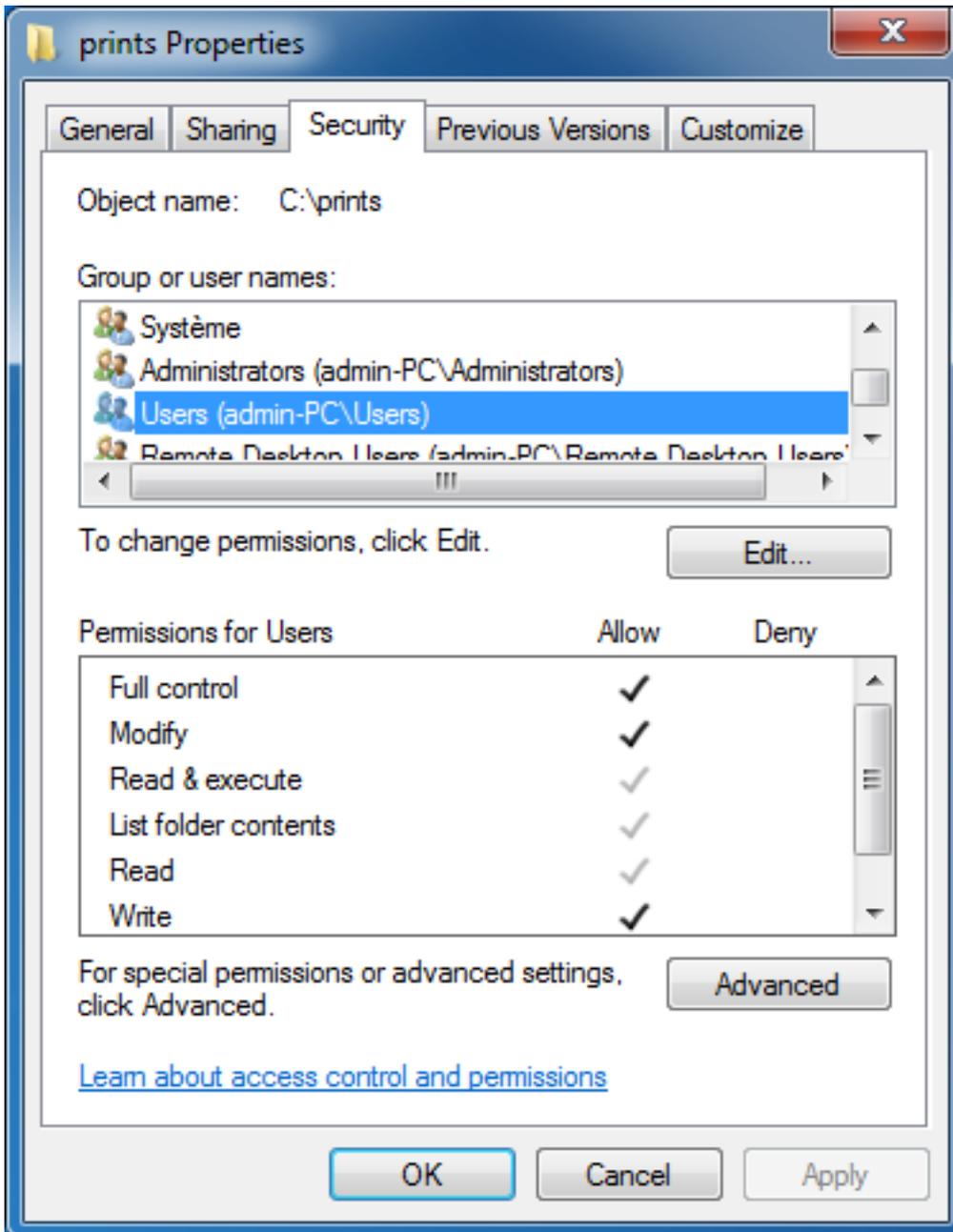


## 4. 最後のステップ

ユニバーサルプリンターのために、PRINTSフォルダーに書き込むことができる必要があります。

すべてのユーザーが.../printsフォルダーに完全な権限を持っていることを確認してください。





次に、Web Accessページとして使用する.htmlファイルを選択します:

C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www

ウェブルートフォルダーにindex.htmlとしてコピーしてください。通常、これは「Apache\htdocs」ディレクトリです。

## 5. TSplus Gateway Portal、負荷分散および/またはHTML5ファイル転送の特定の設定

このApacheベースのシステムをTSplus Gateway Portalとして使用したり、TSplus Gateway Portalの負荷分散機能を使用したり、HTML5ファイル転送機能を使用したりする場合は、ApacheによるTSplus GCIスクリプトの実行を許可する必要があります。

まず、ApacheでCGIモジュールを有効にする必要があります。

ファイル httpd.conf を “Apache\conf” ディレクトリ内で編集し、次のような行を探します:

```
;LoadModule cgi_module modules/mod_cgi.so
```

CGIモジュールを有効にするには「;」を削除してください:

```
LoadModule cgi_module modules/mod_cgi.so
```

次に、次の行を見つけます:

```
AddHandler cgi-script
```

ApacheによってCGIプログラムとして処理されるように.exeファイルを許可するには、.exe拡張子を追加してください。

```
AddHandler cgi-script .exe
```

最後に、ApacheにTSplusの「cgi-bin」フォルダーにCGIプログラムが含まれていることを伝える必要があります。そのためには、「Apache\conf」ディレクトリにあるhttpd.confファイルに次の行を追加する必要があります。

```
ScriptAlias /cgi-bin/ "C:/Program Files (x86)/TSplus/Clients/www/cgi-bin/"
```

完了したら、Apacheサービスを再起動します。

**ApacheサーバーでCGIを設定する際に問題が発生した場合は、次を参照してください。** [公式Apacheドキュメント](#)

設定を確認しています: 設定を確認するには、サーバー上でウェブブラウザを開き、次のURLにアクセスしてください。 <http://localhost/cgi-bin/hb.exe> Apacheエラーページが表示された場合、Apacheの設定に問題があります。テキスト/数字の行が表示された場合、すべては正常です!

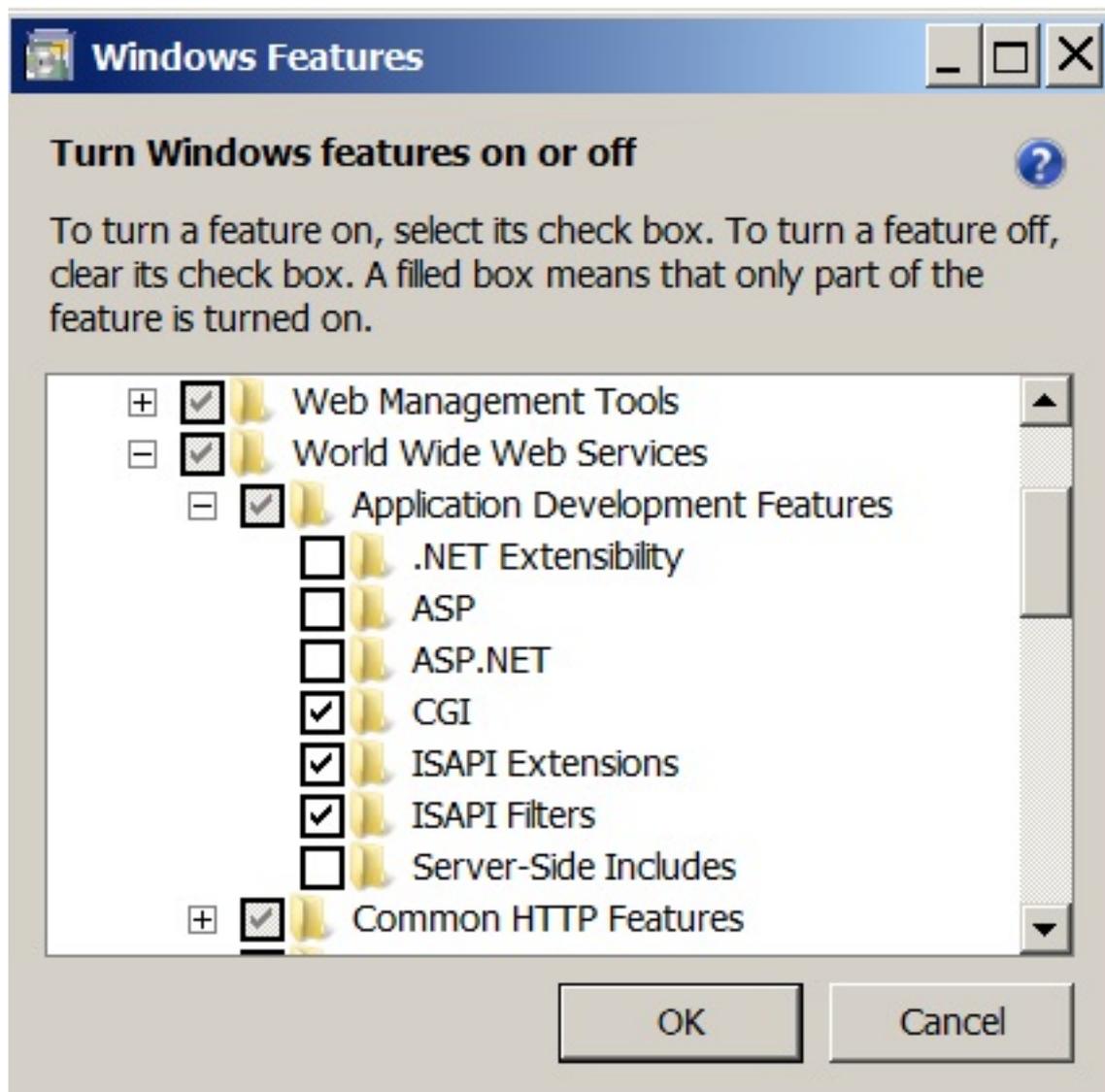
# IISを使用する方法、Terminal Service PlusのデフォルトWebサーバーではなく

## 前提条件

それは良いアイデアかもしれませんが、[ターミナルサービスプラスを更新](#) 最新のTSplusプログラムを確実に入手するために。

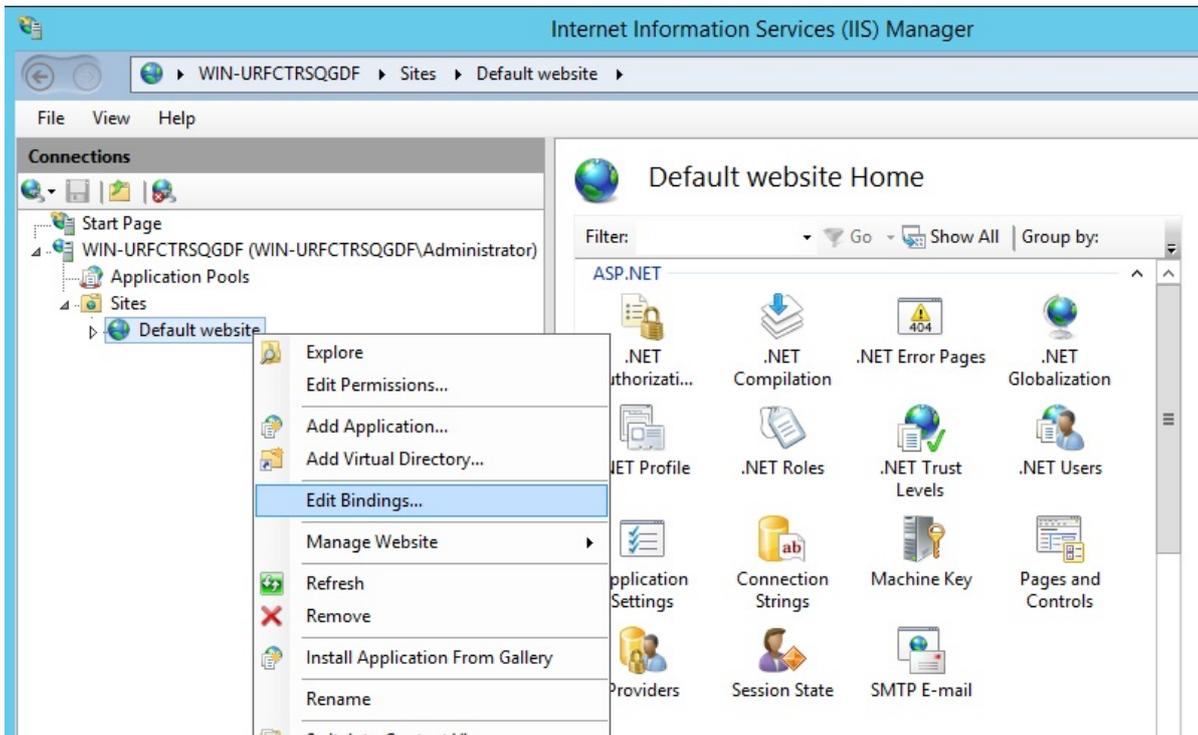
## 1. IISの設定

- IISを次のモジュールでインストールします：CGI、ISAPI拡張、ISAPIフィルター。

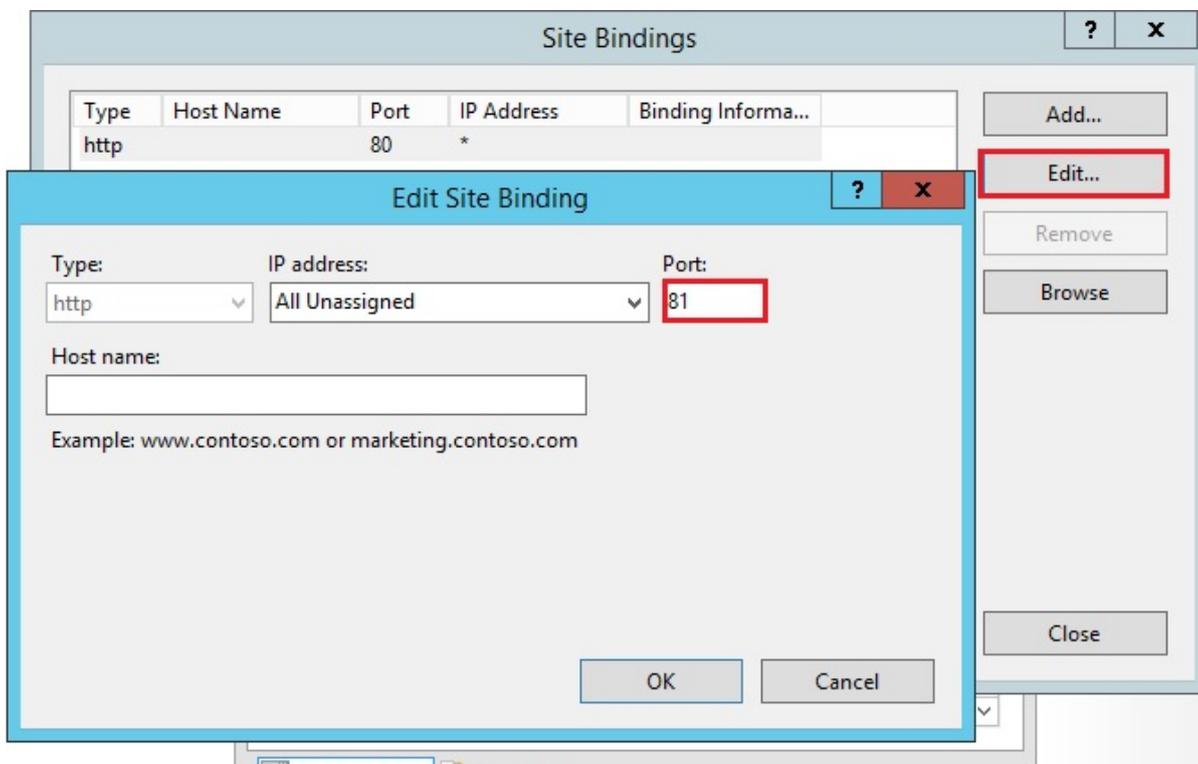


- IISポートの設定:

IIS管理コンソールにアクセスし、サーバー名の下にあるリストを展開し、「サイト」メニューを展開して「デフォルトWebサイト」を右クリックし、「バインディングの編集」をクリックします。



「http」をクリックし、「編集」をクリックします。ポートを81に変更し、「OK」をクリックし、その後「閉じる」をクリックします。



443ポートを無効にするか、このポートを別の空いているポートに変更してください。

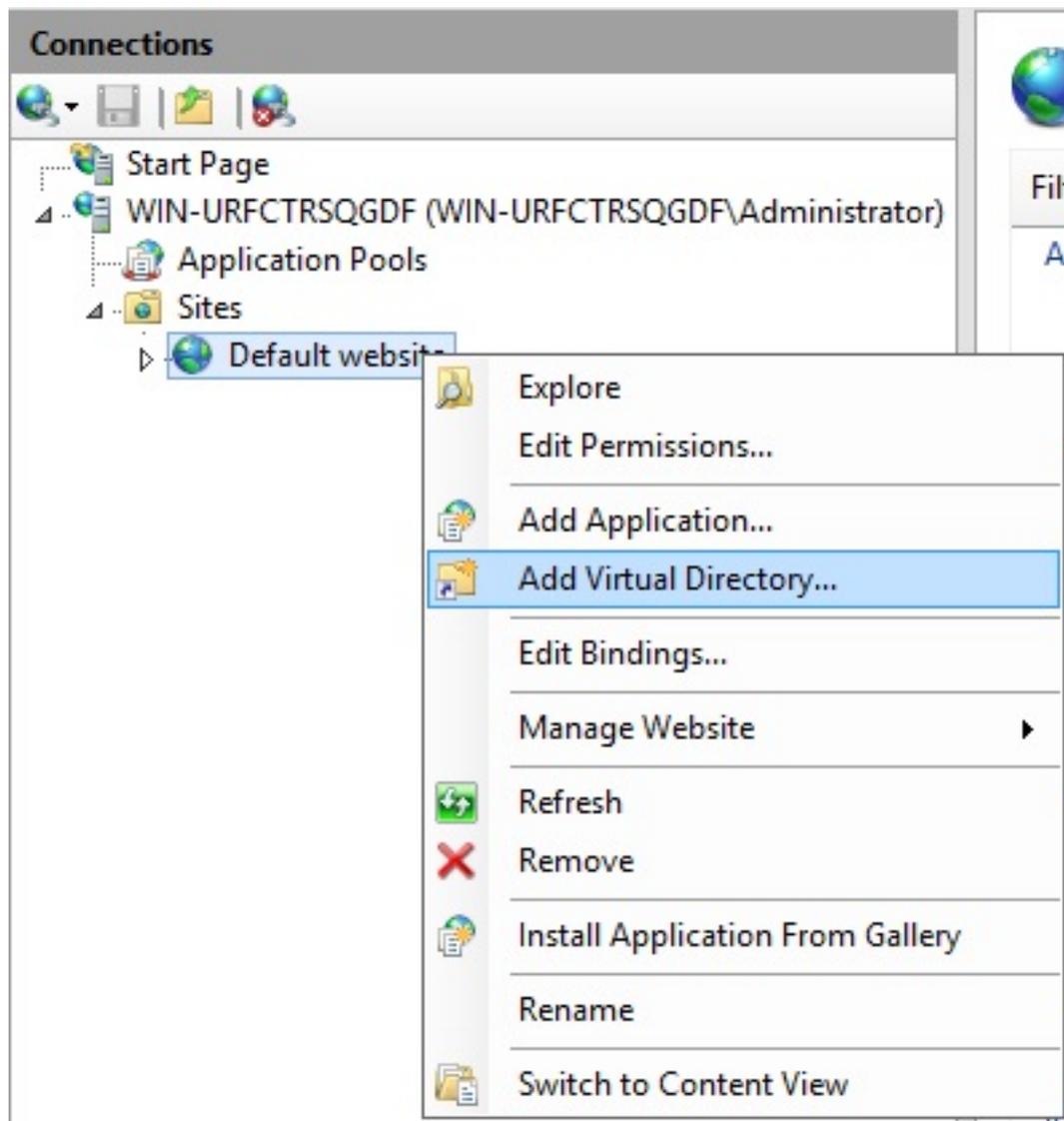
次に、IISマネージャーを再起動します。

## 2. CGI用の仮想ディレクトリを作成する

デフォルトのウェブルート (C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www) からのすべてのファイルは、ウェブルートディレクトリが変更されるとコピーされません。

IISウェブサーバーに移行する際に、それらを手動で確認してコピーする必要があります。

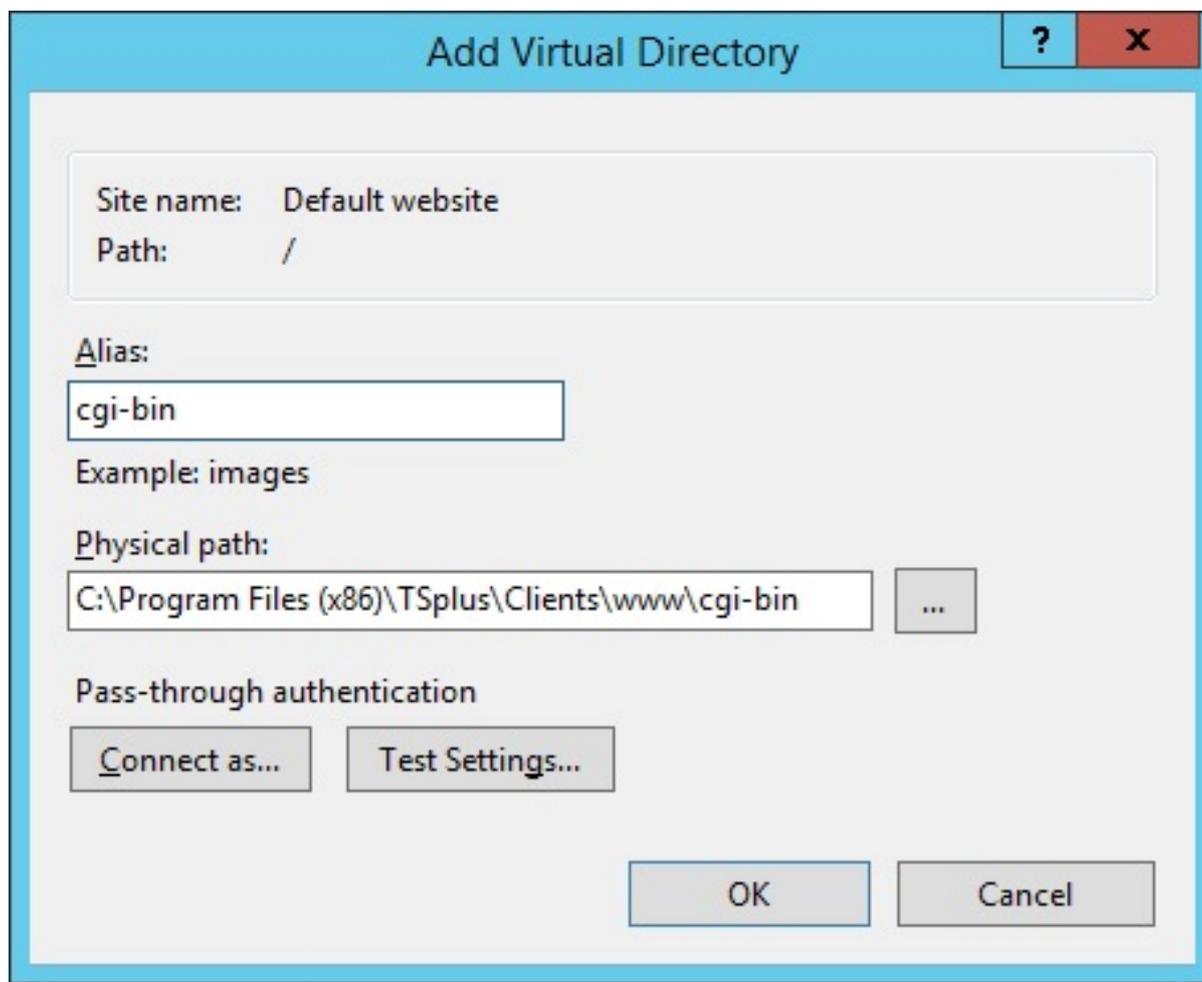
左側のパネルメニューで、サーバーの下にあるメニューを展開し、「サイト」を選択して、サイトを右クリックし、新しい「仮想ディレクトリ」を追加します。下の画像に示されています。



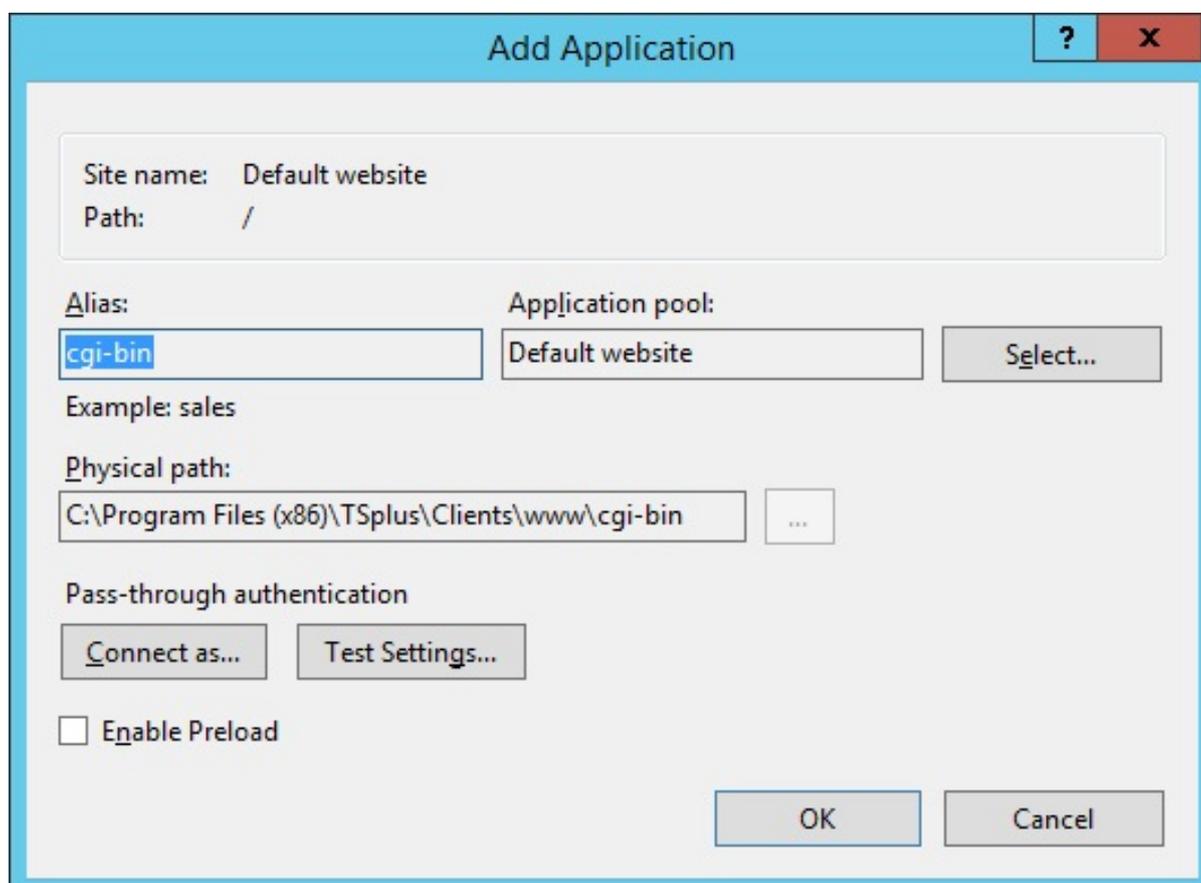
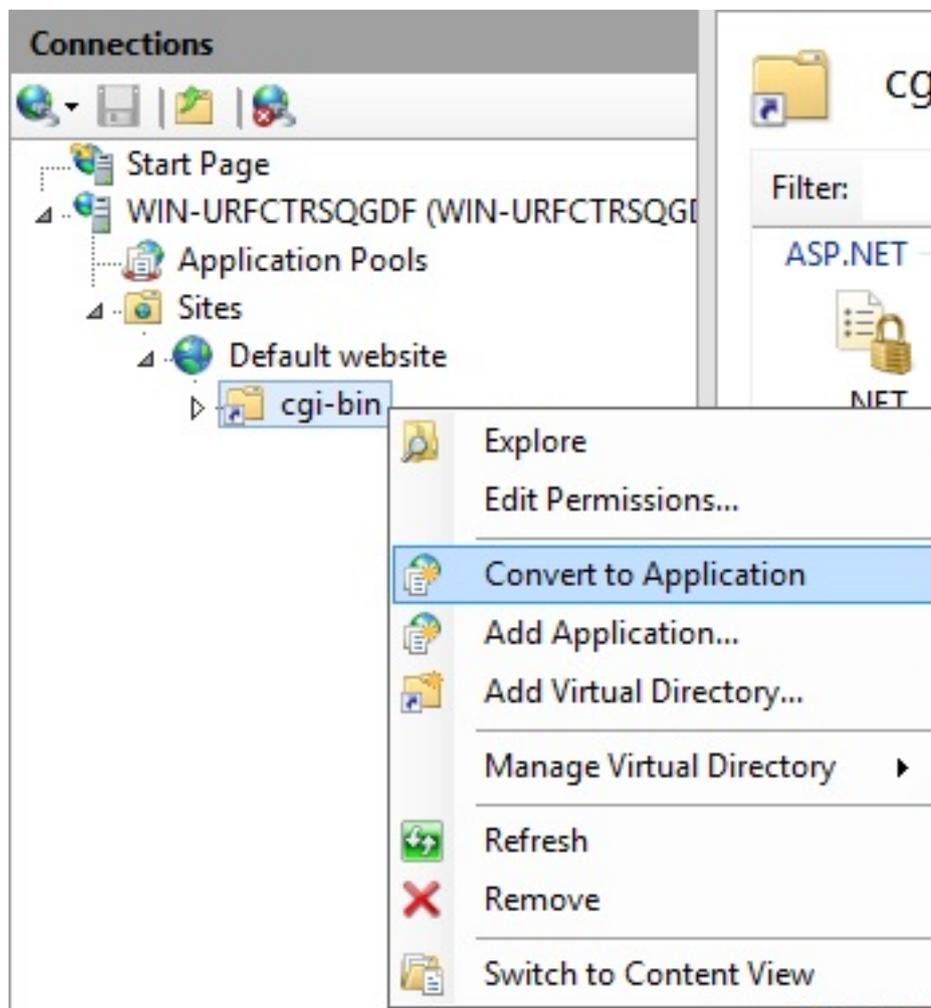
開くウィンドウに次のように入力してください:

エイリアス: cgi-bin

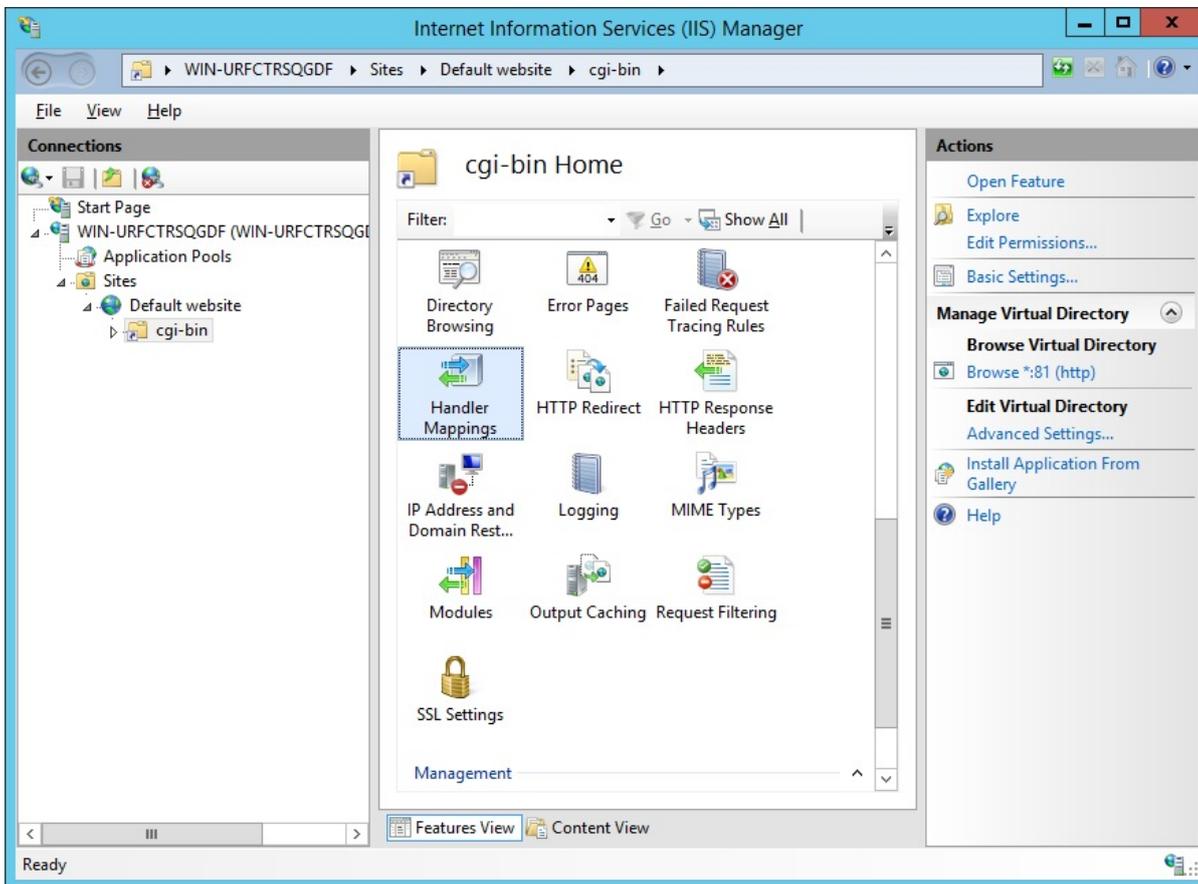
物理パス: C:\Program Files(x86)\TSplus\Clients\www\cgi-bin



次に「OK」をクリックすると、「cgi-bin」仮想ディレクトリがIIS Webサイトに追加されたことがわかります。次に、この「cgi-bin」仮想ディレクトリを右クリックし、「アプリケーションに変換」をクリックします。「OK」をクリックして、デフォルト設定を受け入れます。



次に、マネージャウィンドウの右側にあるこのフォルダーの「ハンドラーマッピング」アイコンを選択します。



Handler Mappingsのリストから、「CGI-exe」をダブルクリックします。

次に、Executableプロパティボックスからhb.exe実行可能ファイルを検索し、OKをクリックします。

**Add Module Mapping**

Request path:  
\*.exe  
Example: \*.bas, wsvc.axd

Module:  
CgiModule

Executable (optional):  
"C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\cgi-bin\hb.exe"

Name:  
CGI

Request Restrictions...

OK Cancel

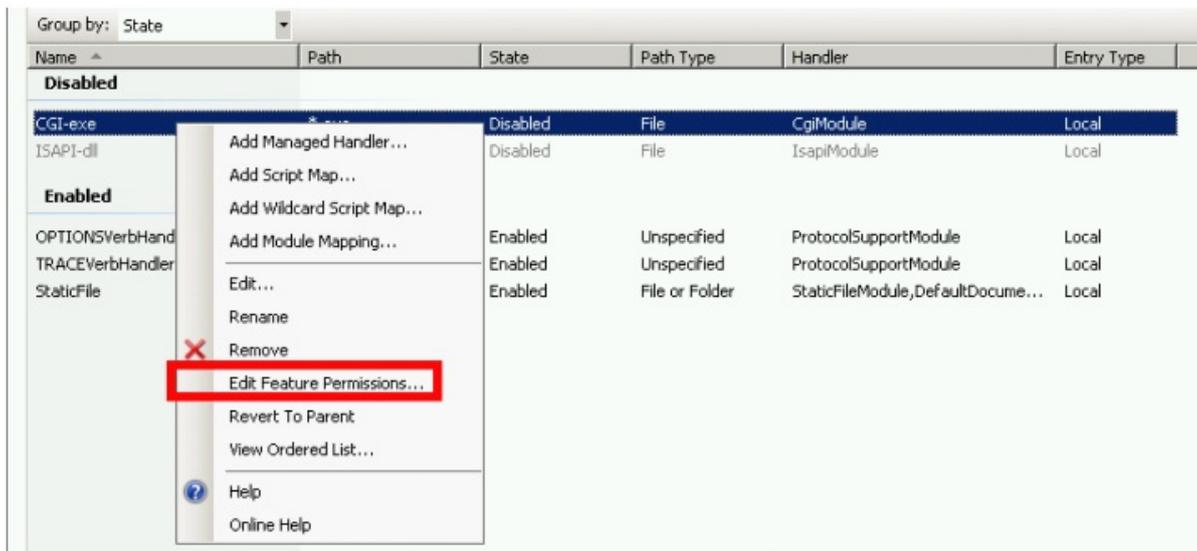
確認のためのプロンプトが表示されます。「OK」をクリックしてこのISAPI拡張を許可してください。

**Add Module Mapping**

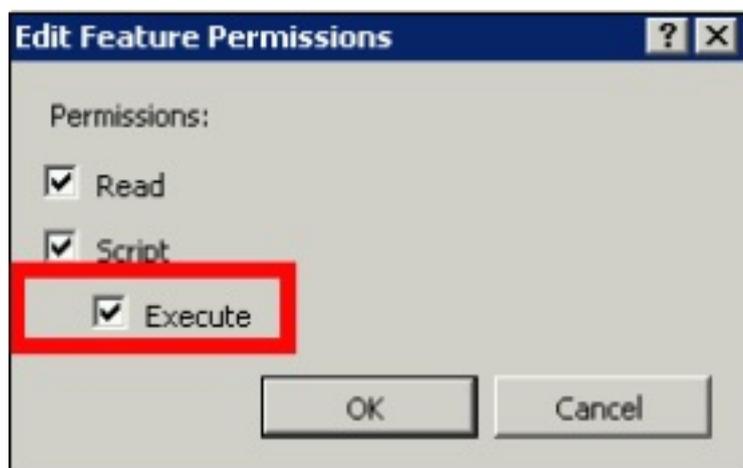
**i** Do you want to allow this ISAPI extension? Click "Yes" to add the extension with an "Allowed" entry to the ISAPI and CGI Restrictions list or to update an existing extension entry to "Allowed" in the ISAPI and CGI Restrictions list.

Yes No Cancel

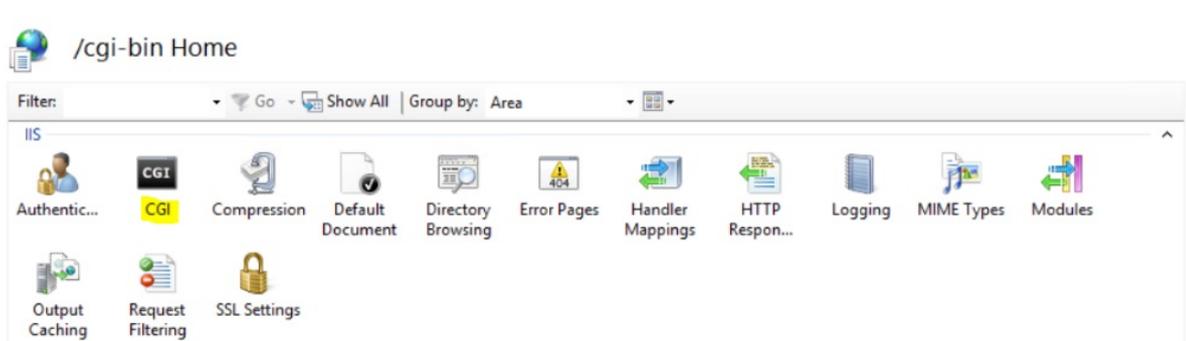
今すぐ「機能の権限を編集」をクリックしてください:



「実行」チェックボックスをオンにして、OKをクリックしてください。



「CGI-bin」ホームに戻るには、「CGI」をクリックしてCGIプロパティを開きます:



“各呼び出しに新しいコンソールを使用する”の値を“True”に変更します。次に、“適用”をクリックして変更を保存します。



### 3. CGI拡張の権限を設定する

今、最後のステップは、サーバーでCGI拡張を実行できるようにすることです。「ISAPIおよびCGI制限」アイコンをクリックします。これは、ウィンドウの左側のメニューでマシン名をクリックすることで見つけることができます。



「ISAPIおよびCGI制限」ページで、ウィンドウの右側にある「追加...」をクリックします。次に、TSplusフォルダーにホストされている「hb.exe」ファイルへの完全なパスを指定します。「拡張パスの実行を許可する」オプションにチェックを入れることを忘れないでください。次の画像を示します。



## ISAPI and CGI Restrictions

Use this feature to specify the ISAPI and CGI extensions that can run on the Web server.

Group by: No Grouping

Description	Restriction	Path
-------------	-------------	------

**Add...**

- Edit Feature Settings...
- Help
- Online Help

### Add ISAPI or CGI Restriction

ISAPI or CGI path:

C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\cgi-bin\hb.exe

Description:

CGI

Allow extension path to execute

OK

Cancel

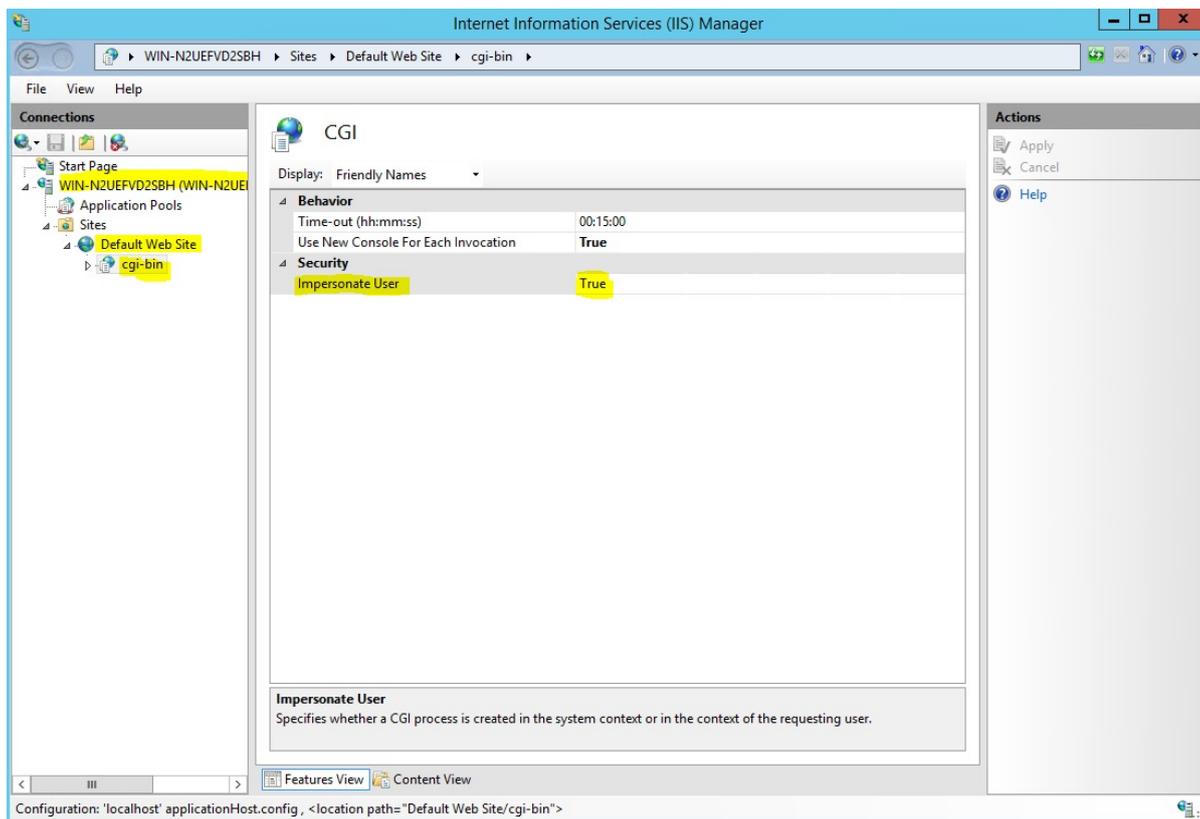


## ISAPI and CGI Restrictions

Use this feature to specify the ISAPI and CGI extensions that can run on the Web server.

Description	Restriction	Path
Active Server P...	Allowed	%windir%\system32\inetsrv\asp.dll
ASP.NET v2.0.5...	Allowed	%windir%\Microsoft.NET\Framework64\v2.0.50727\aspnet_isapi.dll
ASP.NET v2.0.5...	Allowed	%windir%\Microsoft.NET\Framework\v2.0.50727\aspnet_isapi.dll
ASP.NET v4.0.3...	Allowed	%windir%\Microsoft.NET\Framework\v4.0.30319\aspnet_isapi.dll
ASP.NET v4.0.3...	Allowed	%windir%\Microsoft.NET\Framework64\v4.0.30319\aspnet_isapi.dll
CGI	Allowed	C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\cgi-bin\hb.exe

サーバーのCGIセクションで、「Default Web Site」と「cgi-bin」の設定「Impersonate User」が「True」に設定されていることを確認してください。



- ユーザー「IUSR」にディレクトリ内の完全な権限を付与する  
C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\cgi-bin
- IUSRユーザーがディレクトリに対してフルコントロールの設定を行う際には、権限の継承を有効にすることを確認してください。  
C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\cgi-bin

- ユーザー「IUSR」にディレクトリ内の完全な権限を付与する  
C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webserver\twofa

## IISにMimeタイプを追加する

管理者としてコマンドプロンプトを開き、次のコマンドを実行します:

ターミナルウィンドウ

```
%SystemRoot%\system32\inetsrv\appcmd set config /section:staticContent  
/+[fileExtension='.dat',mimeType='text/plain']
```

ターミナルウィンドウ

```
%SystemRoot%\system32\inetsrv\appcmd set config /section:staticContent  
/+[fileExtension='.',mimeType='text/plain']
```

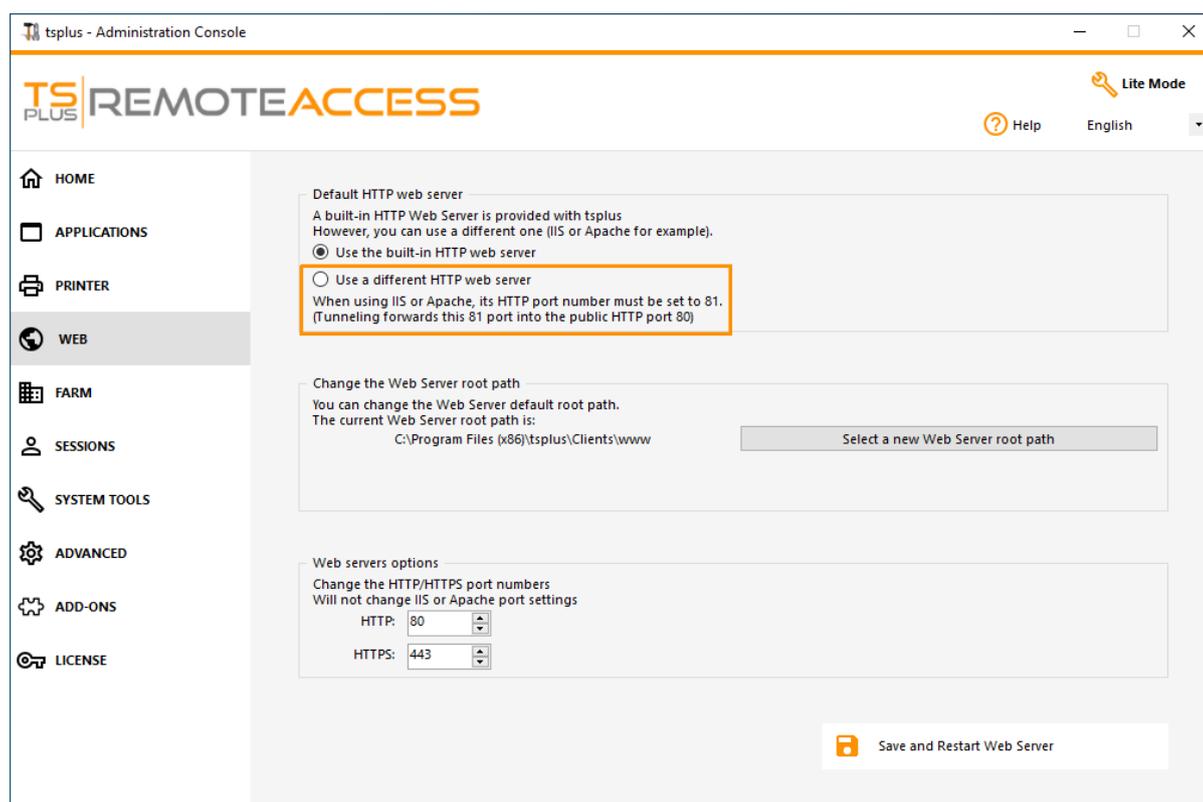
IISを再起動します。

# IISディレクトリの権限を構成する

グループ「Everyone」にディレクトリ「C:\inetpub\wwwroot」で完全な権限を付与します。

## 6. TSplusを設定する

管理ツールのWebサーバタブに移動し、「異なるHTTPサーバーを使用する」オプションを選択します:



次に、同じウィンドウで「新しいWebサーバールートパスを選択」をクリックし、IISディレクトリのパスを入力します。これは「C:\inetpub\wwwroot」のようなものになるはずです。次に「AdminToolを保存して再起動」をクリックします。

tsplus - Administration Console

TS PLUS REMOTE ACCESS

Lite Mode

Help English

- HOME
- APPLICATIONS
- PRINTER
- WEB
- FARM
- SESSIONS
- SYSTEM TOOLS
- ADVANCED
- ADD-ONS
- LICENSE

Default HTTP web server

A built-in HTTP Web Server is provided with tsplus. However, you can use a different one (IIS or Apache for example).

Use the built-in HTTP web server

Use a different HTTP web server

When using IIS or Apache, its HTTP port number must be set to 81. (Tunneling forwards this 81 port into the public HTTP port 80)

Change the Web Server root path

You can change the Web Server default root path. The current Web Server root path is:

C:\Program Files (x86)\tsplus\Clients\www

Select a new Web Server root path

Web servers options

Change the HTTP/HTTPS port numbers. Will not change IIS or Apache port settings

HTTP: 80

HTTPS: 443

Save and Restart Web Server

次のメッセージが表示されます:

disabling Built-in HTTP

 The built-in HTTP will not start anymore. Make sure that one other HTTP web server is active on port 81

OK

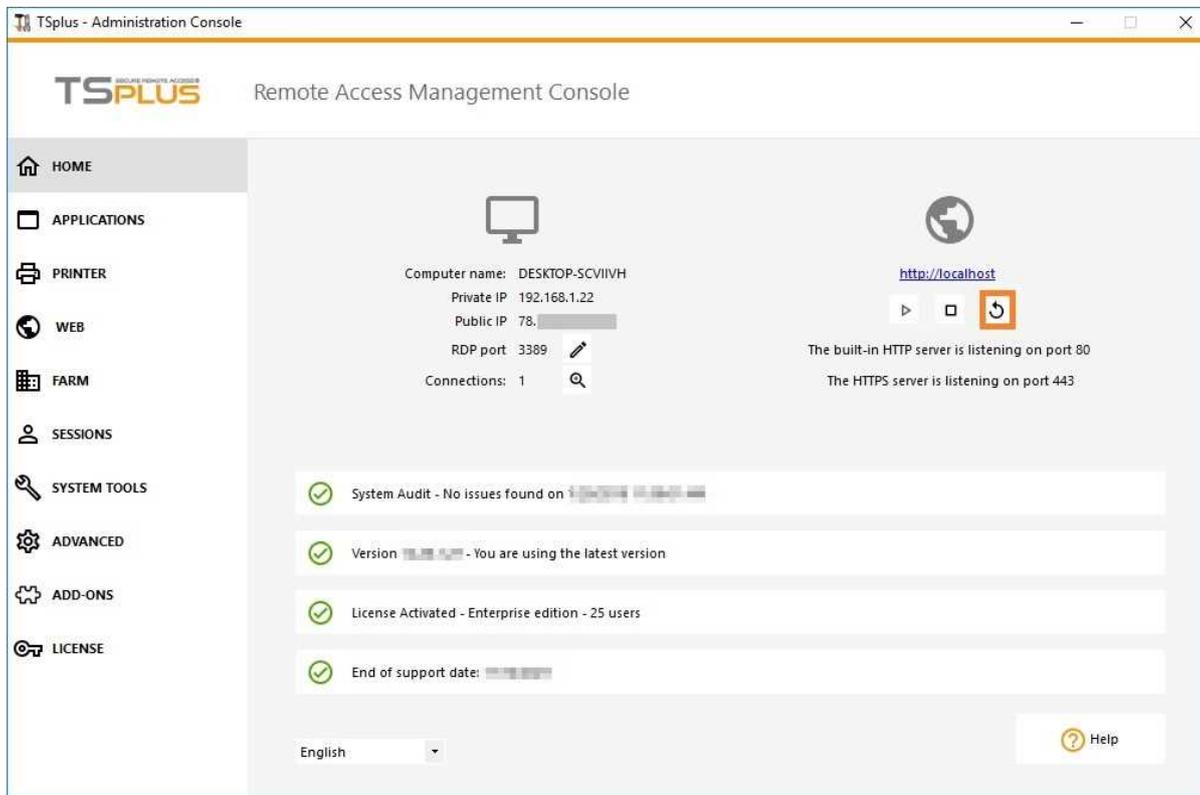
Root Folder Change

 Your web root path is now: C:\inetpub\wwwroot

OK

待ってください。Admintoolは自動的に閉じられます。その後、再度Admintoolを開き、Webタブをクリックしてください。

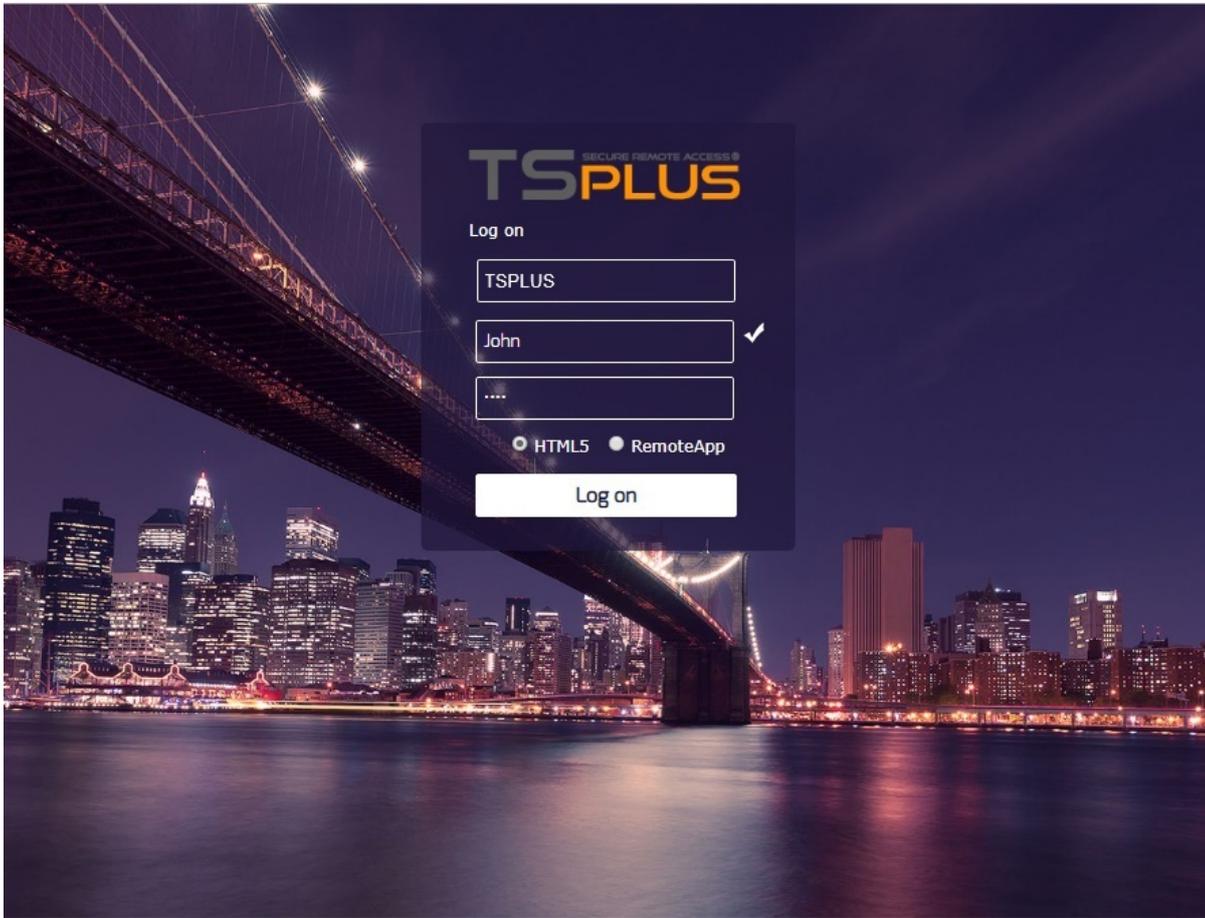
最後に、ウェブサーバーを再起動します：



## 7. ローカルホストでテストする

**警告** 別のユーザーアカウントを使用してください。

現在のユーザーアカウントを使用して自分のRDPセッションからサーバーに接続しようとする  
と、切断され、再接続できなくなります。



## 追加のアクション:

### リモートアプリを構成する

IISウェブルート内の「remoteapp」フォルダー ( c:\inetpub\www\cgi-bin\remoteapp ) には、IUSRユーザーに対して完全な権限が必要です。そうでない場合、RemoteAppを使用しようとすると704エラーが表示されます。

### 2FAを設定する

2FAが有効になったことがない新しいインストールでは、という名前のフォルダーはありません。

C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webserver\twofa、またはtwofactorauth.iniファイル。

必要です :

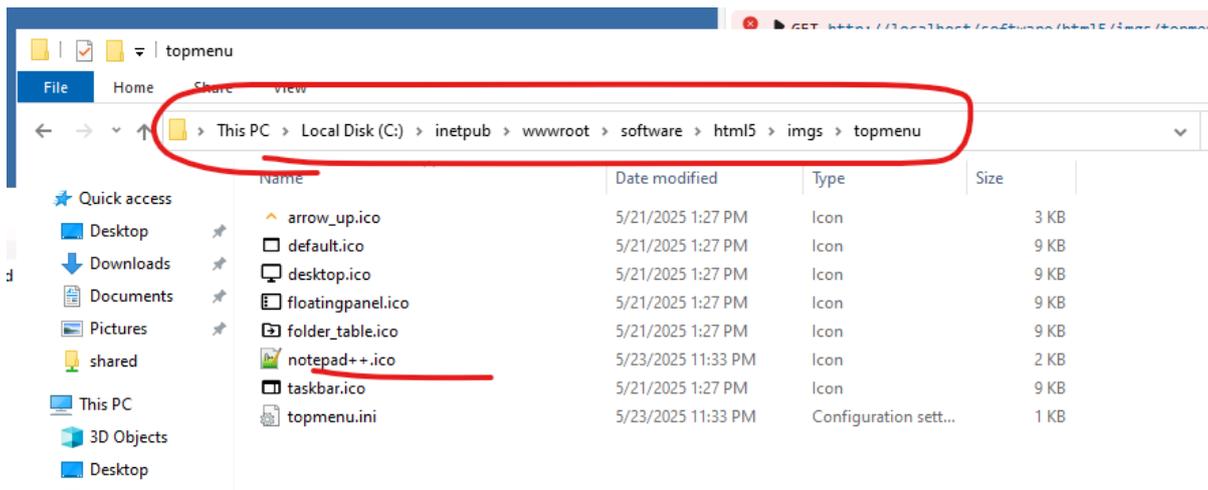
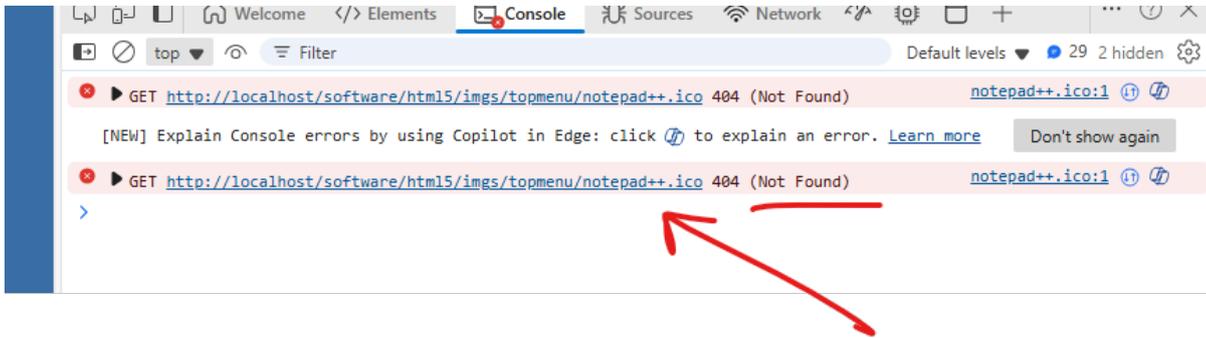
- AdminToolで2FAを有効にして、このフォルダーとこの.iniファイルを作成します。
- その後、2FAを無効にします。
- 新しく作成されたtwofaフォルダーにIUSRユーザー権限を適用します。

このステップを完了しないと ( 2FAを使用するつもりがなくても )、ユーザーは資格情報が無効であるというエラーメッセージが表示されてログインできなくなります。

## 8. ダブルエスケープを許可する

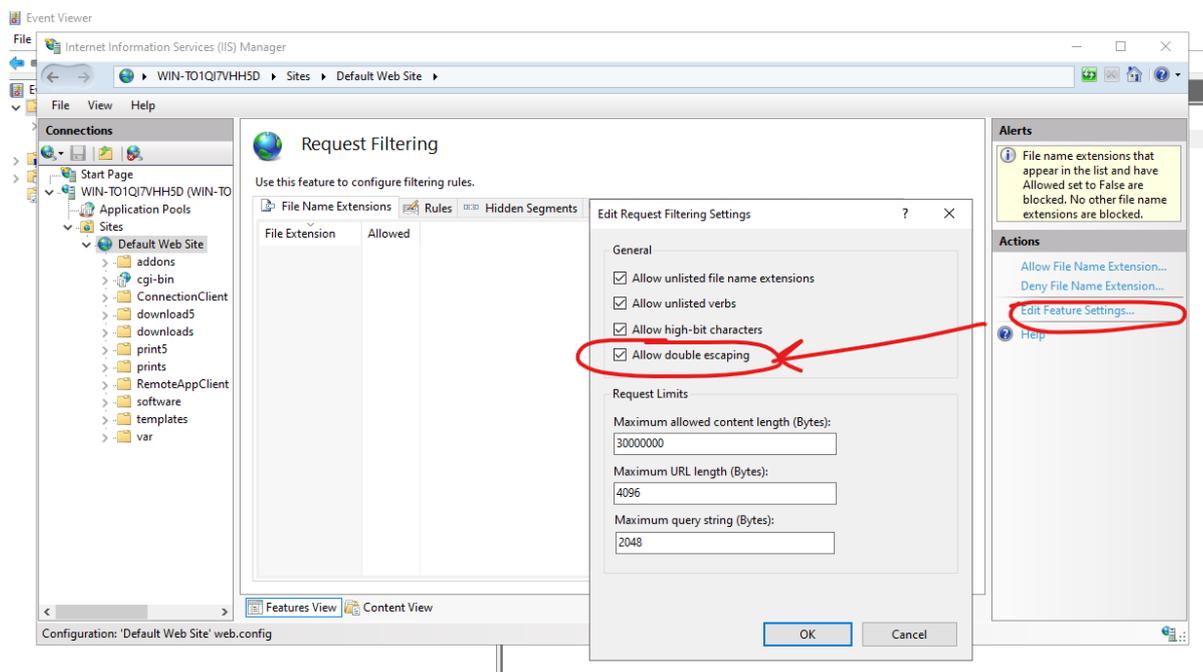
ダウンロードを許可するには、IISのリクエストフィルタリング内で「二重エスケープを許可」を有効にする必要があります。この変更により、IISはファイル名内の「+」のような特殊文字を正しく処理できるようになります。「二重エスケープを許可」をIISで有効にする方法は次のとおりです。

1. IISマネージャーを開く: インターネット情報サービス (IIS) マネージャーを起動します。
2. リクエストフィルタリングに移動します: IISマネージャーで、「+」文字を含むファイルがあるフォルダーまたはウェブサイトを選択します。次に、機能ビューで「リクエストフィルタリング」をダブルクリックします。



3. 機能設定の編集: アクションペインで「機能設定の編集」をクリックします。
4. ダブルエスケープを許可するを有効にする: リクエストフィルタリング設定の編集ダイアログ

で、「ダブルエスケープを許可する」のボックスにチェックを入れます。



5. IISを再起動する（オプション）：IISを再起動することで、変更が適用されることを確認できる場合があります。

# リバースプロキシの背後にあるサーバーを使用しています

リバースプロキシの背後にあるサーバーをxhrポーリングを介して使用することは、いくつかの制限があります。

説明したように WebsocketsはHTTPプロトコルの一部ではありません。最初のHTTPリクエストがHTTPリクエストのように見えても、実際にはそうではありません。そのため、ほとんどの知られているリバースプロキシはWebsocketsをサポートせず、最初のWebSocketリクエストの多くの重要な部分をドロップします。

サーバーがリバースプロキシの背後にあることがわかっている場合は、Clients\www\software\html5\settings.js でこのオプションを設定して Websockets を無効にしてください。

```
disablewebsocket = true;
```

それは使用を強制します XHRポーリング 接続時の遅延を避けてください。

「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\software\html5」フォルダーに「settings.js」という名前のファイルがない場合、あなたのTSplusのバージョンは古く、このドキュメントは適用されません。まずシステムを更新するか、サポートに連絡してください。

XHRポーリングの使用は、その接続の性質により、Webソケットほど安定していないことに注意してください。

Xhrポーリングをリバースプロキシ経由で使用する他の制限は、ファイルアップロードのサポートが不十分であることです。Apacheリバースプロキシを介して直接接続でXHRを使用している場合、Apacheがファイルのアップロードを誤って中断することがあります。

# TSplus Virtual Printer v2

新しいバージョンのVirtual Printerが利用可能になりました！

このバージョンには、Virtual Printerコンポーネントの重要なアップデート ( v1.x -> v2.x ) が含まれています。

**なぜ:** Virtual Printer v2は、Fabulatechの最新のフラッグシップであり、多くの改善をもたらし、顧客から報告された問題を修正しています。

**注意:** Virtual Printer v1.x と v2.x は互換性がありません。クライアントとサーバーの両方で同じメジャーバージョンが必要です。

**パニックにならないでください:** アップデートリリースは新しい仮想プリンタ設定プログラム ( クライアントとサーバー ) だけを提供します。

彼らはに位置しています C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\addons .

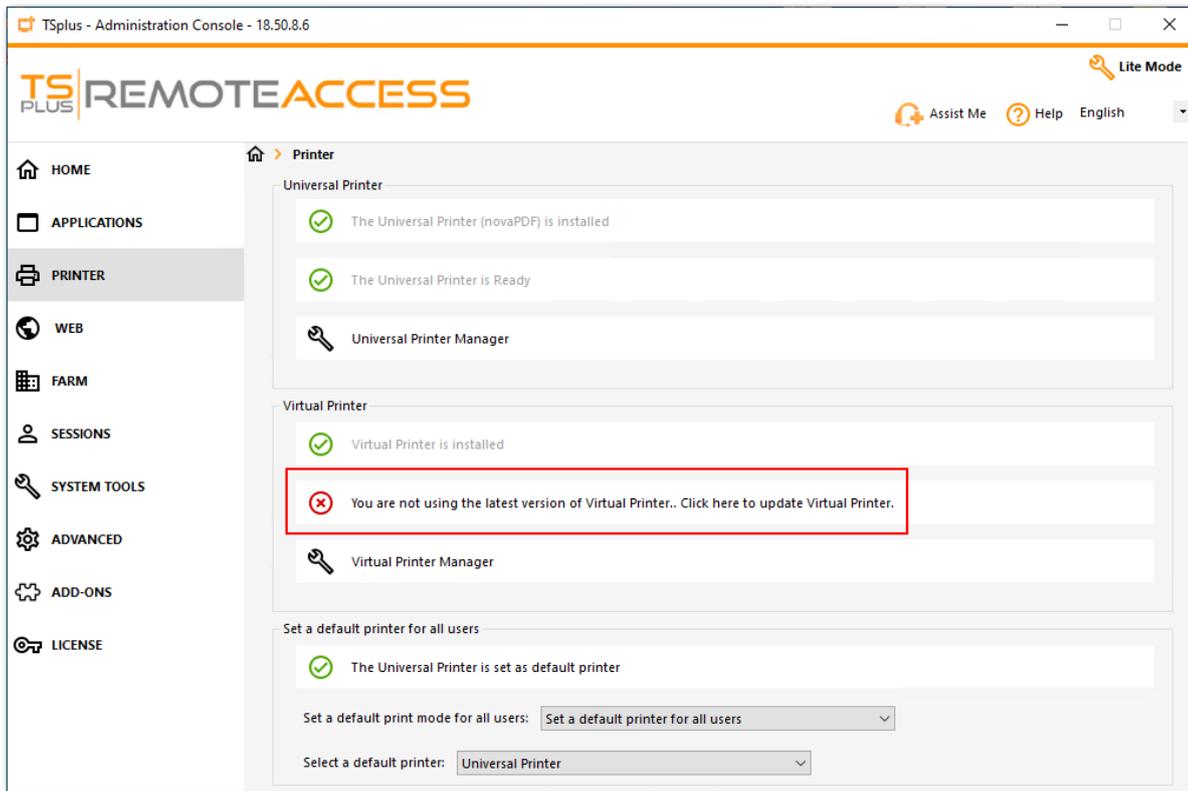
実際の仮想プリンタの更新をAdminToolsから手動でトリガーするのはあなた次第です。

リンク : [TSplus セットアップフル](#) [TSplus アップデートリリース](#) [リブランド更新リリース](#)

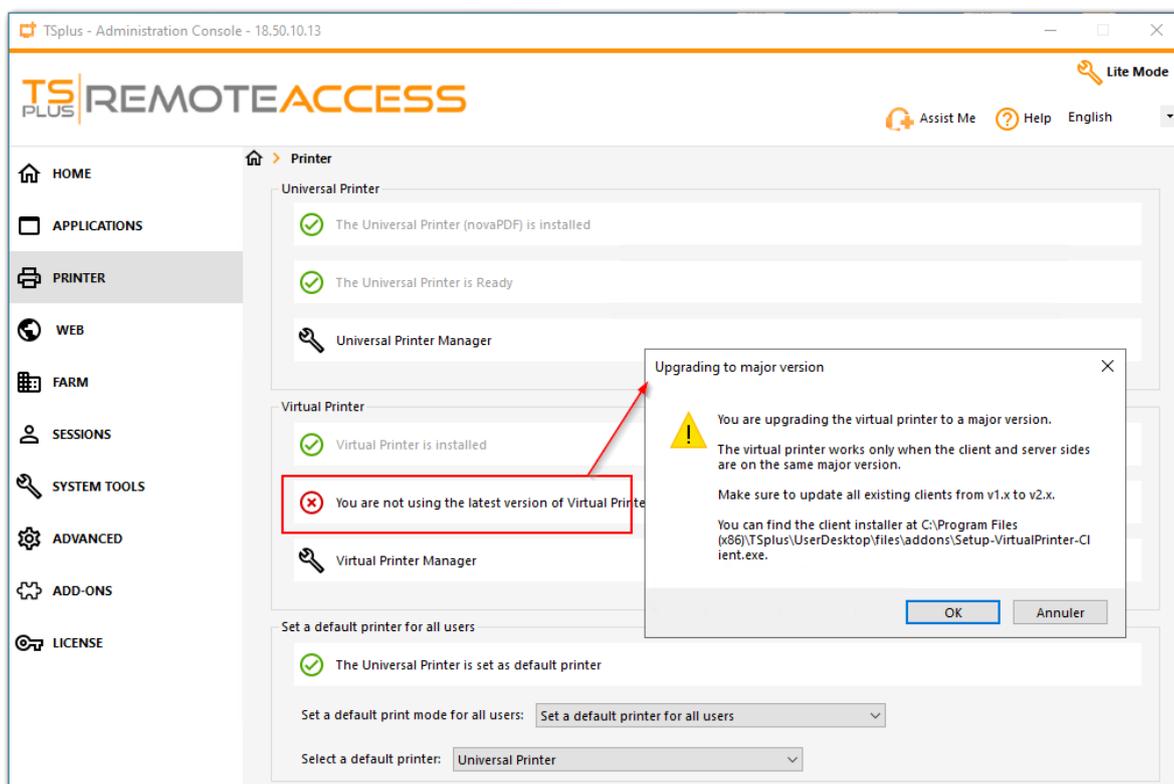
## 更新方法は？

UpdateReleaseをインストールした後、AdminToolsは新しい仮想プリンターバージョンが利用可能であることを検出します。

「通知更新」ボタンをクリックするまで、現在インストールされている仮想プリンタのバージョンは変更されず、すべては以前と同様に動作し続けます。

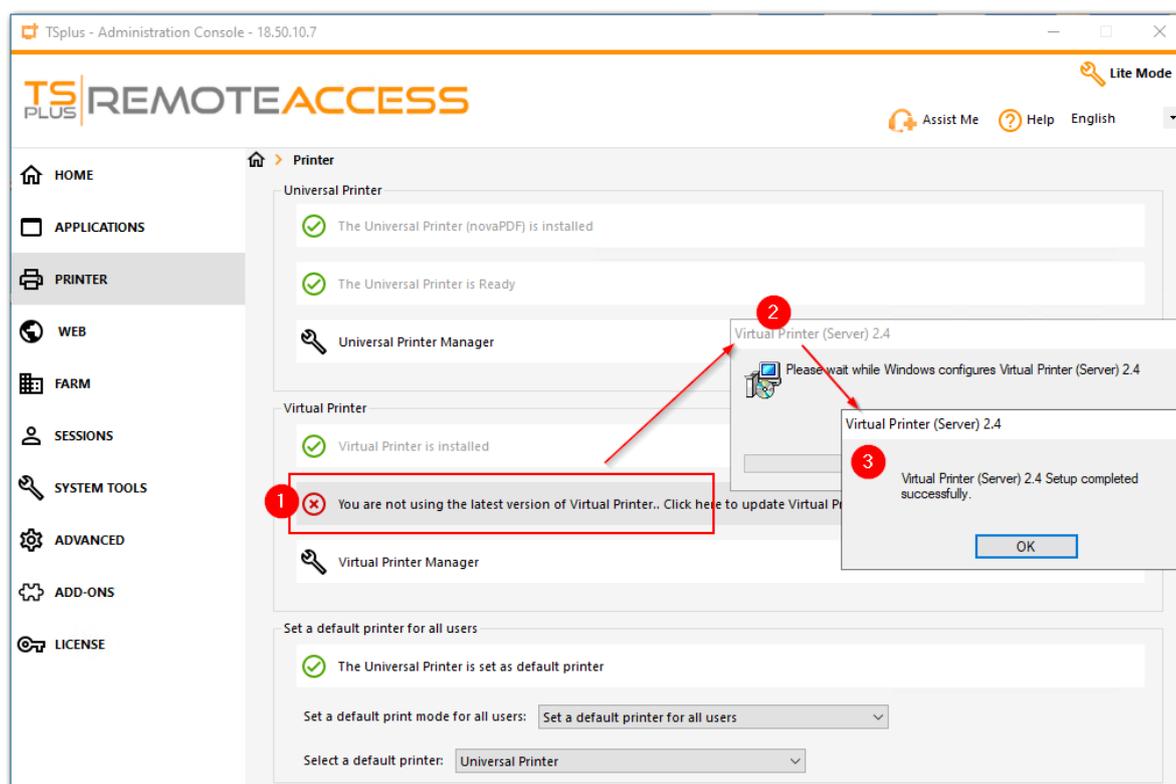


はい、しかし私たちは新しいVPバージョンをインストールするためにここにいるので、「通知更新」ボタンをクリックしましょう。

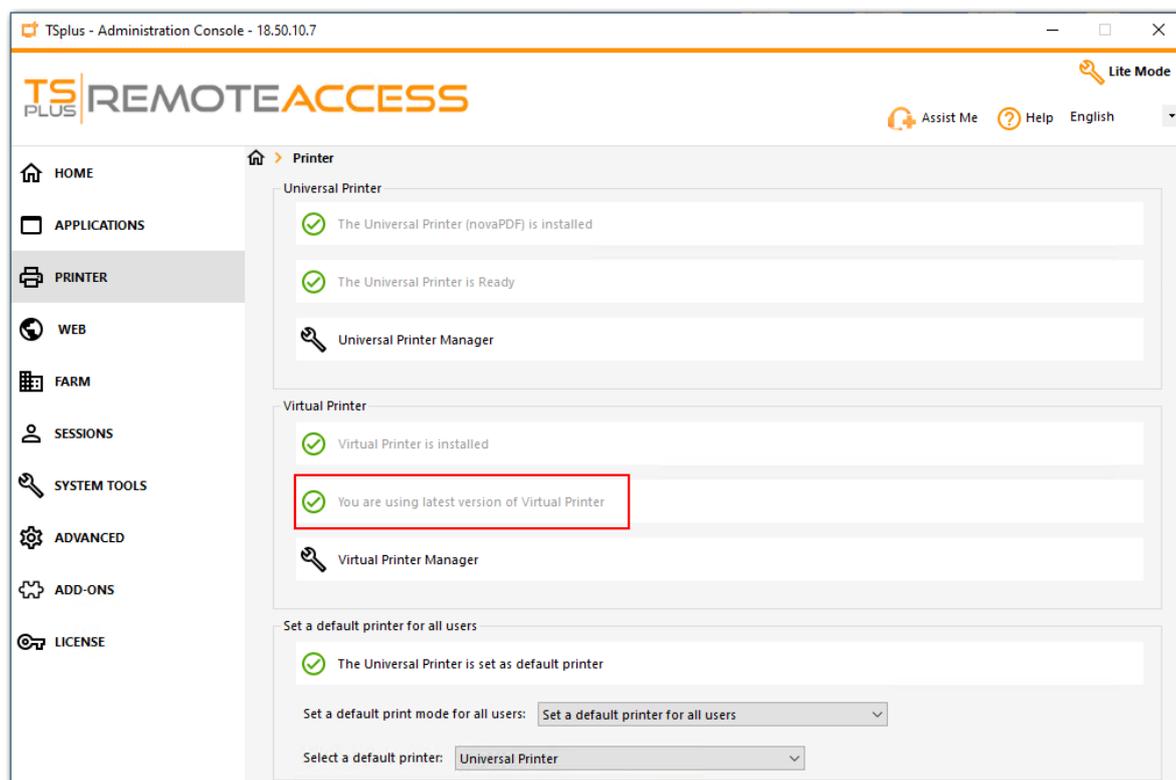


仮想プリンターを次のメジャーバージョンに本当に更新したいかどうか確認するダイアログが

表示されます。「OK」をクリックしてください。



インストールが完了すると、AdminToolsは最新の状態であることを検出します。



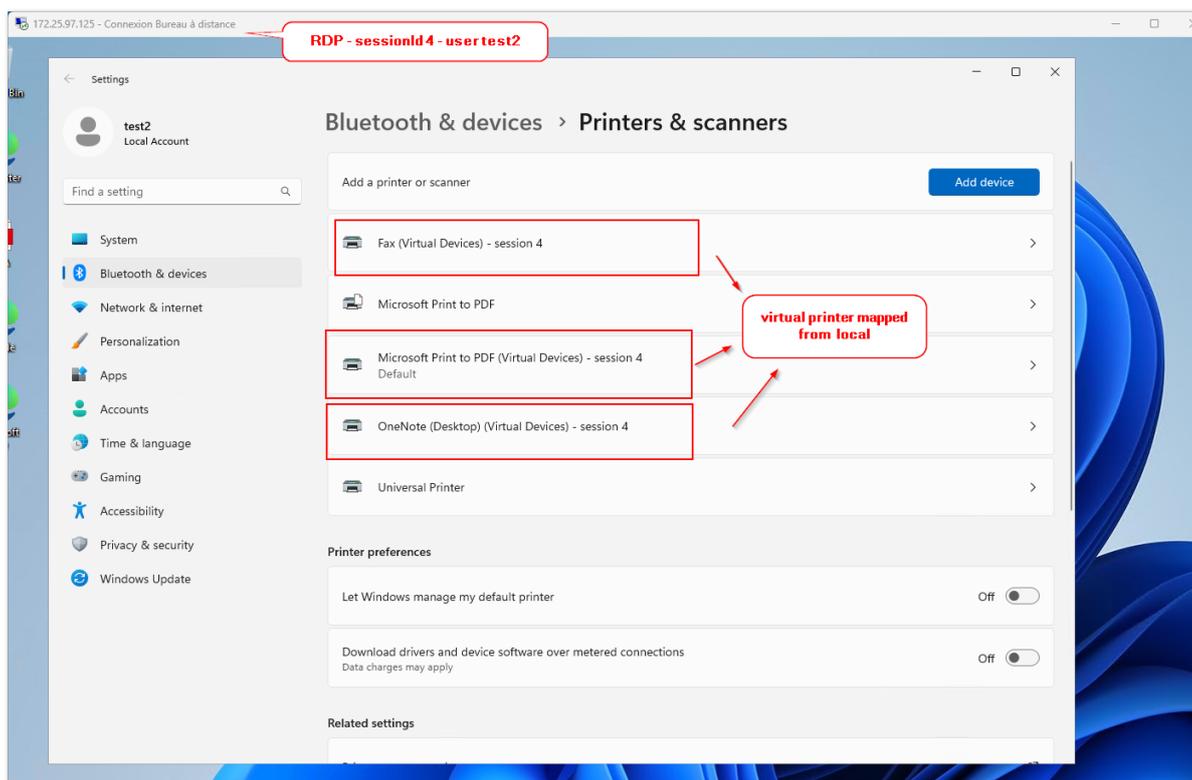
注意： このステップでは、同じメジャーバージョン ( v2.x ) を実行しているクライアントのみが、このサーバー上で仮想プリンターを通じて印刷できます。サーバーとクライアントの両方の更新を調整することを確認してください。クライアントインストーラーは「C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\addons\Setup-VirtualPrinter-Client.exe」にあります。

## 重大な変更！

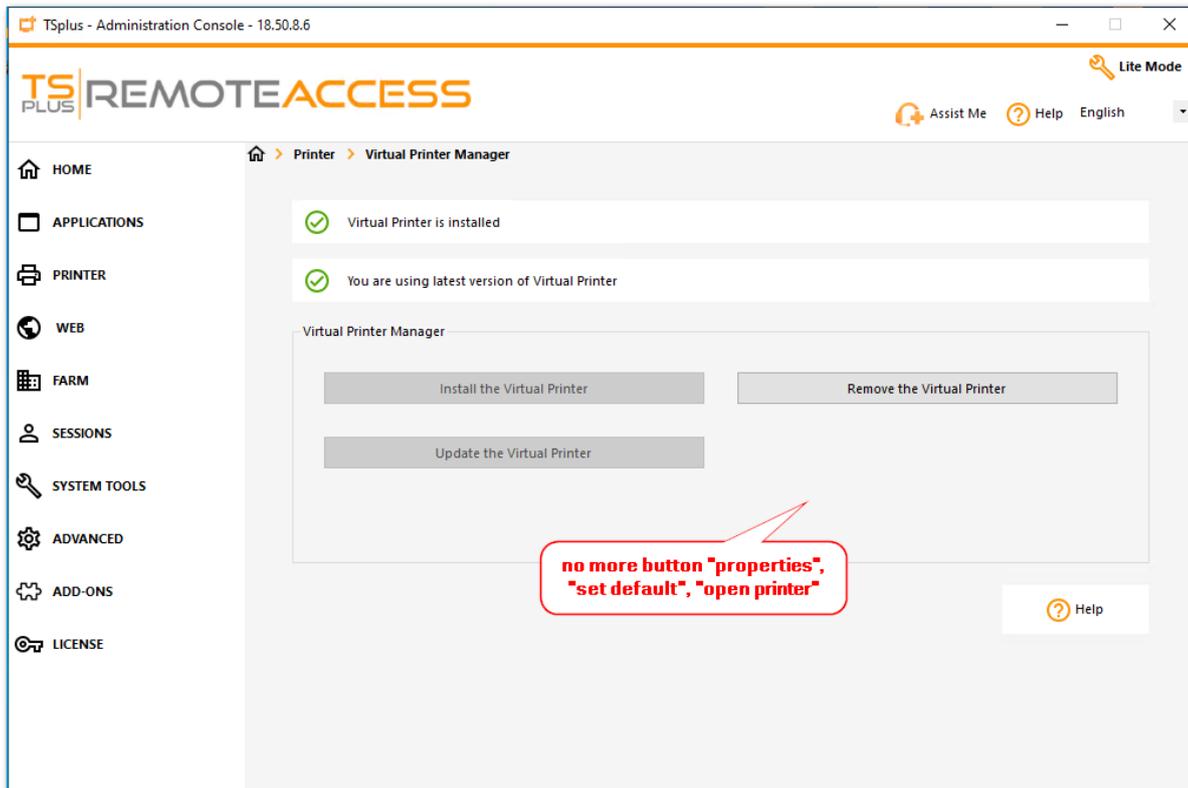
プリンターリストに「Virtual Printer」デバイスもはや存在しません。代わりに、各ローカルプリンターはRDPセッション内の対応する仮想プリンターにマッピングされています。

下のスクリーンショットでは、ユーザー「test2」がRDPセッション#4に接続しています。プリンターパネルを開くと、彼はローカルプリンターを見て使用することができます。各プリンター名はこの形式に従います：“\$printerName (仮想デバイス) - セッション \$sessionId”。

ユーザーが現在、自分のローカルプリンターを個別に見ることができるという事実は、主要なUXの改善であり、それがFabulatechがこの新しいバージョンを推進している理由です。

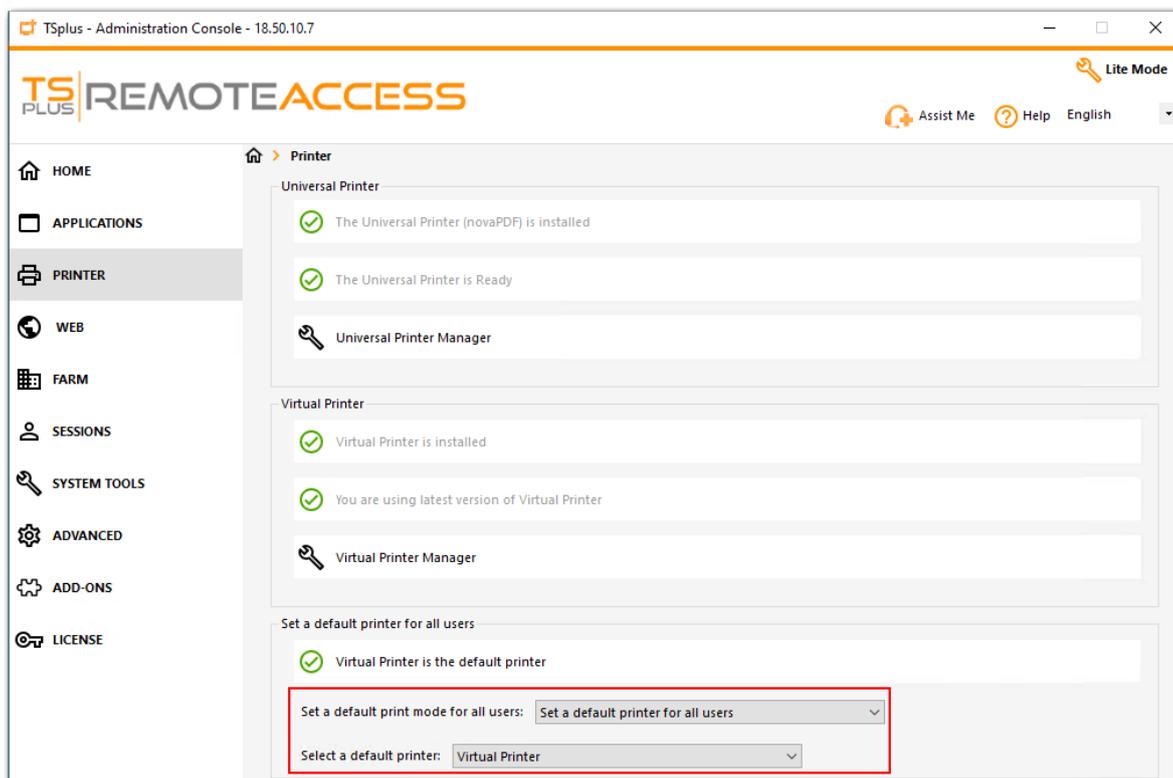


このため、AdminTools UIの一部を調整しました。たとえば、Virtual Printer Managerでは、一部のボタンが削除されました。

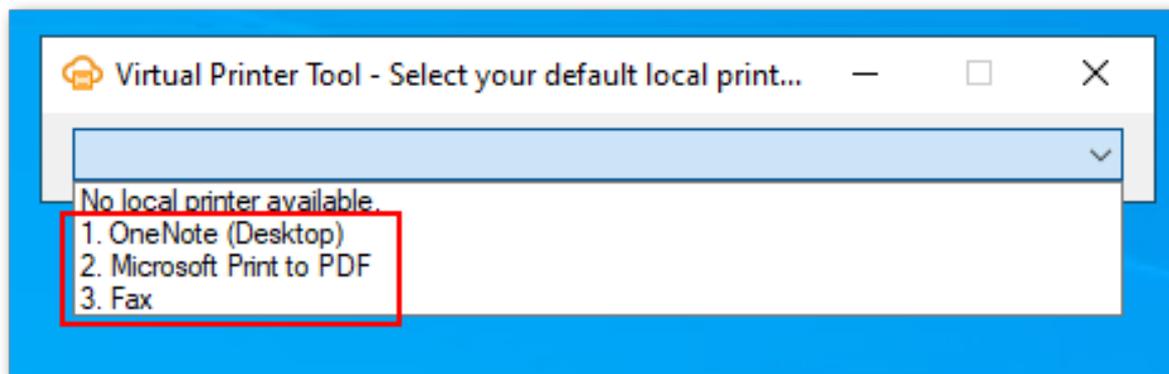


## 設定方法は？

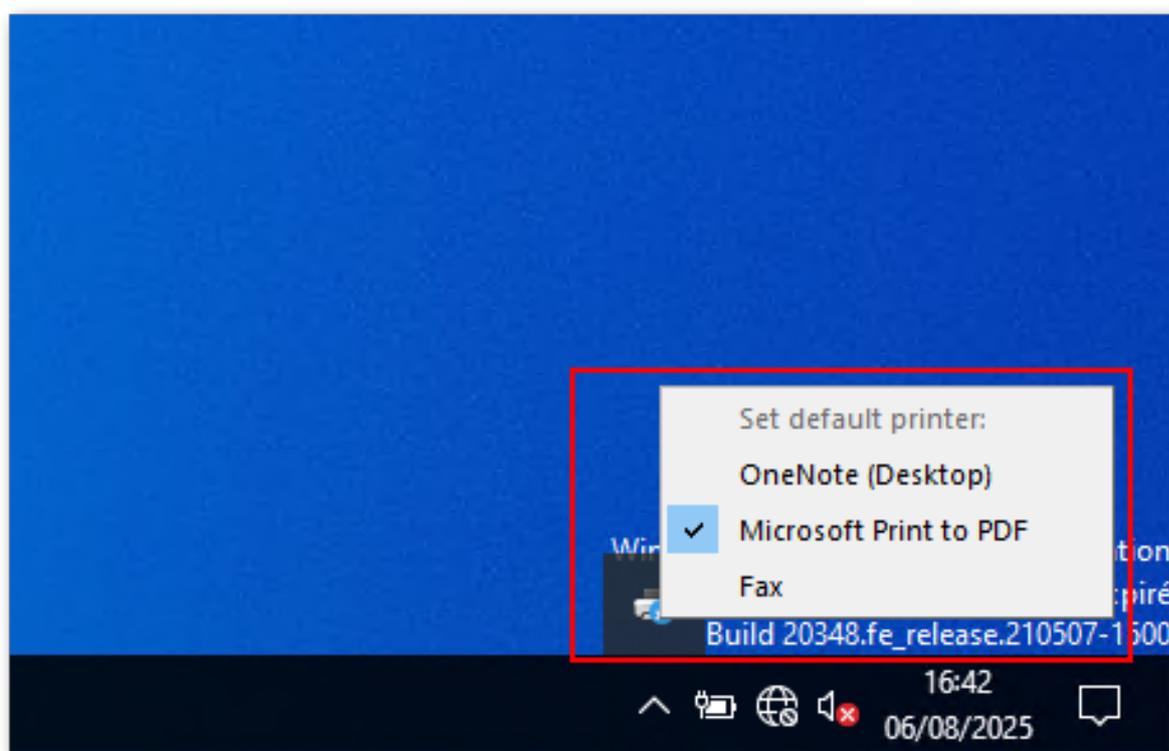
管理ツールの設定は依然として同じであり、以前と同様に機能するはずです。



仮想プリンターツールを使用しても、何も変わらず、以前と同様に機能します。



ツールバーのセレクターを使用しても、何も変わらず、以前と同様に機能します。



## 仮想プリンターにマッピングされたデバイスの名前をカスタマイズする方法は？

サーバー上で、添付の「customize-virtual-printer-name.reg」を実行してください。 [ダウンロード](#)

レジストリに2つのキーが追加されます HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Virtual

## Devices\Virtual Printer (Server)

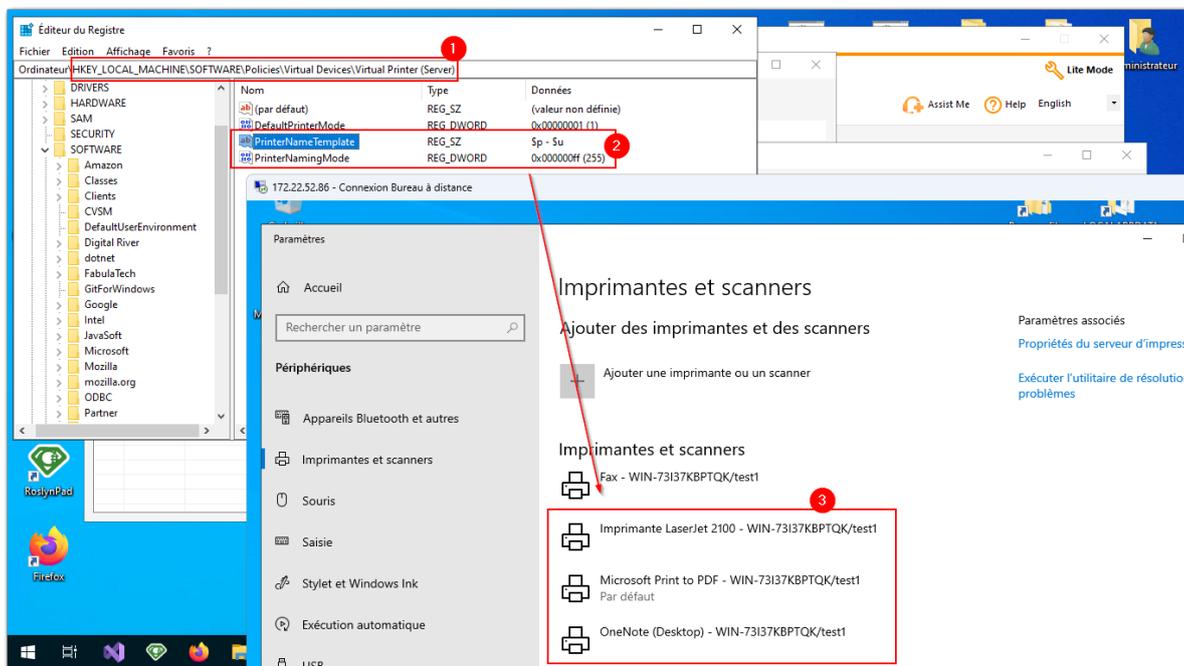
PrinterNameTemplateはテンプレート文字列であり、利用可能な変数は3つあります：

- \$p - プリンタ名
- \$u - フルユーザー名 (ドメイン/ユーザー、またはコンピュータ名/ユーザー)
- \$s - セッション番号

与えられたいくつかのFabuletech制約：**\$p**と**\$u**、または**\$p**と**\$s**を指定することは必須です。

プリンター名は異なるユーザーのためにサーバー上で一意である必要があるため、これは必要です。

例：PrinterNameTemplate = "\$p \$u"、下のRDPセッションのスクリーンショットで結果を見ることができます。



## 高度な設定

Virtual Printer v2の高度な設定は、コンピュータの構成 > 管理用テンプレート > 仮想デバイス > 仮想プリンター (サーバー) にあるグループポリシーまたはローカルポリシーオブジェクトを介してサーバー側で管理できます。

次の設定はRemote Access統合に関連しています：

- デフォルトプリンタ選択モード：ユーザーがリモートセッションにログインするたびに、デフォルトプリンタがどのように割り当てられるかを定義します。
- プリンタ名テンプレート：ユーザーセッションからの仮想プリンタの命名形式を指定します。

- 大判印刷の品質制限：指定されたサイズを超えるページの印刷品質を低下させ、大判印刷を迅速化しながら、小さいページの最大品質を保持します。

完全な設定の詳細については、Virtual Printer GPO ドキュメントを参照してください。 <https://www.fabulatech.com/printer-for-remote-desktop-server-help/gpo.html>

# TSplus Virtual Printer

TSplusの仮想プリンターは、信頼性が低く、ハードウェアに依存し、管理が難しい従来のリモートデスクトップ印刷ソリューションに代わる新しい選択肢です。仮想プリンターの独自の圧縮アルゴリズムは、データ転送を最小限に抑えながら画像品質を維持することで、リモート印刷ジョブの転送速度を向上させます。

注意 TSplus HTML5クライアントはサポートされておらず、必要です [TSplusユニバーサルプリンター](#) .

## 利点

- シングルユーザーおよびマルチユーザー環境のサポート。
- ゼロコンフィギュレーションは必要ありません。
- 任意の仮想マシンで動作します。
- 32ビットと64ビットの混合環境。

## 前提条件

TSplus仮想プリンターOS互換性リスト:

- ウィンドウズ 7
- ウィンドウズ 8/8.1
- ウィンドウズ 10
- ウィンドウズ 11
- ウィンドウズ Server 2008 R2
- ウィンドウズ Server 2012 R2
- ウィンドウズ サーバー 2016
- ウィンドウズ サーバー 2019

- ウィンドウズ サーバー 2022
- ウィンドウズ サーバー 2025

TSplus Virtual Printerは次のものと互換性があります：

- TSplusが生成したクライアント
- TSplus RemoteApp クライアント
- Webポータルを使用する際のTSplus RemoteAppプラグイン
- マイクロソフトリモートデスクトップクライアント

互換性がありません：

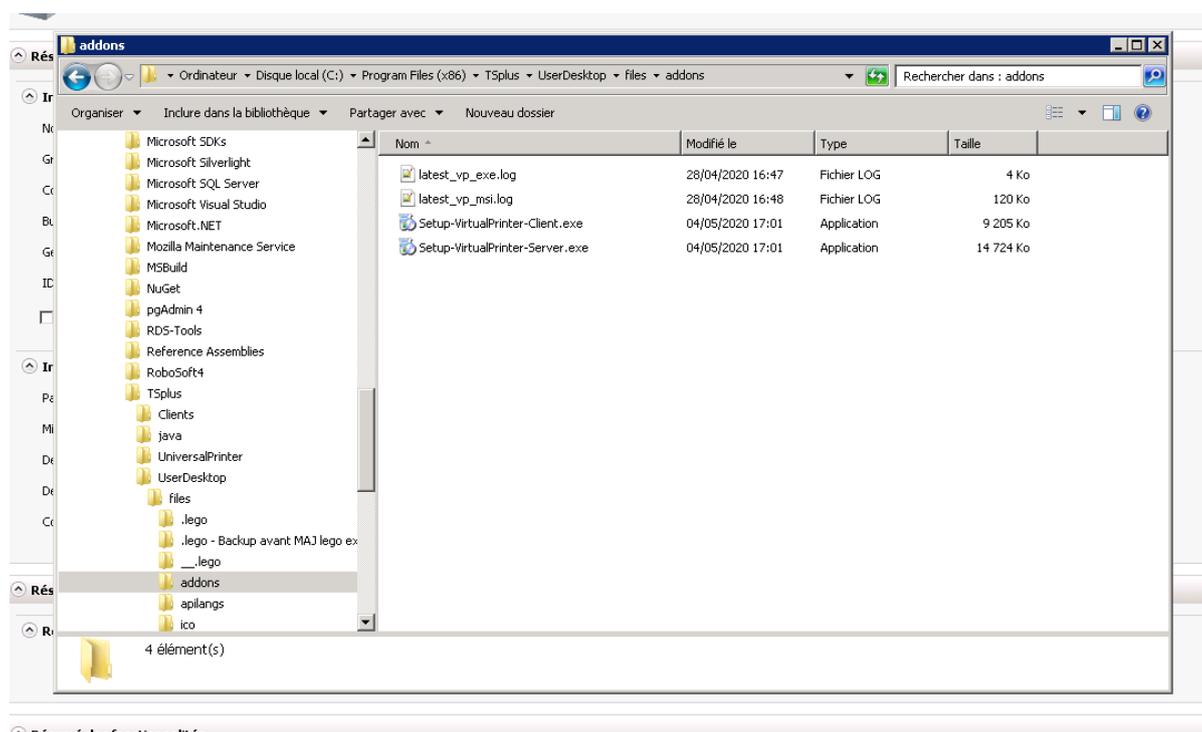
- TSplus HTML5クライアント
- クライアント側のセットアップをインストールできないハードコーディングされたシングルクライアントデバイス。

## 二部

TSplus Virtual Printerは2つのコンポーネントで構成されています。

- TSplus Remote Accessにインストールされるサーバーサイドコンポーネント。
- エンドユーザーのWindowsワークステーションにインストールされるデスクトップコンポーネント。

両方のセットアップは、サーバー側の「C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\addons」フォルダーに直接あり、「Setup-VirtualPrinter-Server.exe」と「Setup-VirtualPrinter-Client.exe」と名付けられています。



クライアントのセットアップは、以下のリンクを使用して、あなたのTSplusウェブサーバーからも利用可能です。

“yourspluserveriporpublicdomain”/addons/Setup-VirtualPrinter-Client.exe

クライアントのサイレントインストールをコマンドライン経由で実行することもでき、次のパラメータを使用してセットアップを実行します:

```
/SUPPRESSMSGBOXES /VERYSILENT /SILENT /no_ui
```

## 始めに

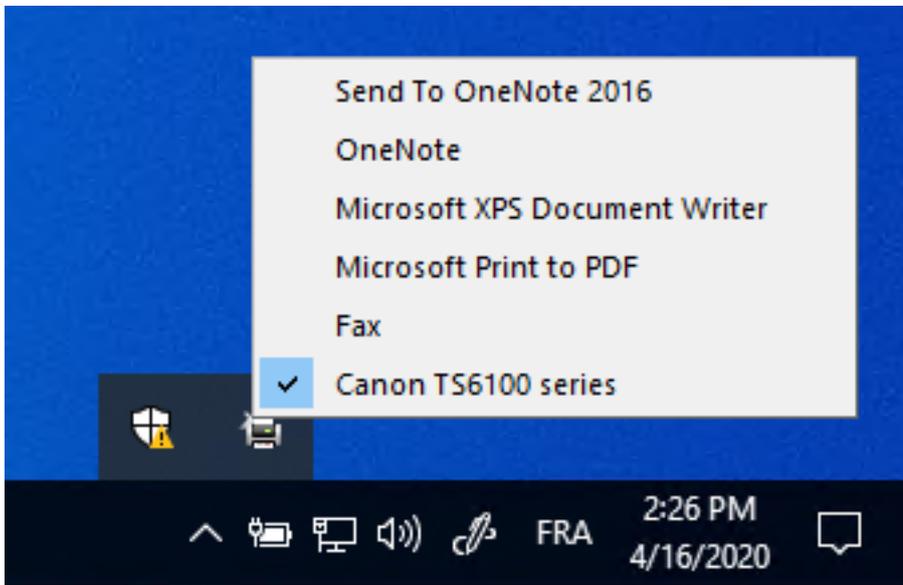
TSplus仮想プリンターは、最初のTSplusインストール中に自動的にインストールされ、試用期間中に直接利用可能です。

TSplusをインストールしたら、ユーザーのコンピュータに「Virtual Printer Client」をインストールする必要があります。

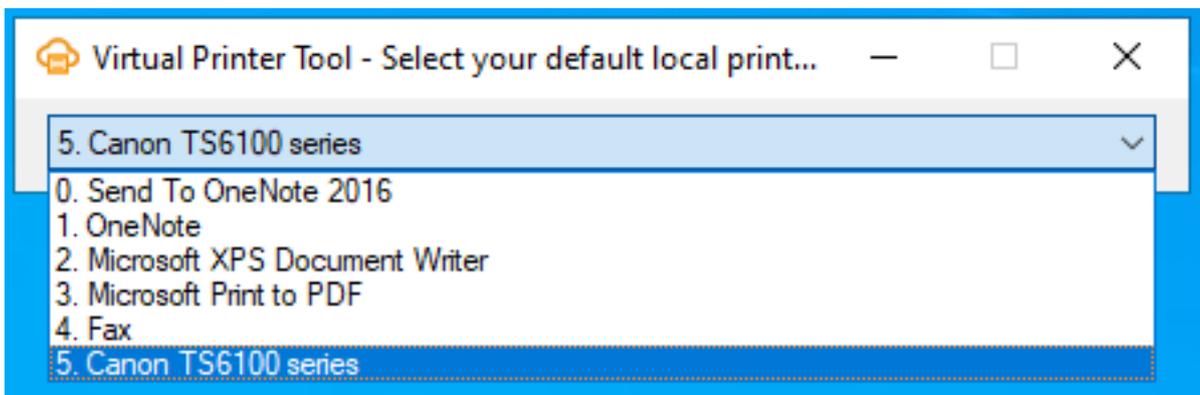
リモートでTSplusサーバーに接続する際に使用するいずれかの **Microsoft RDP** クライアント (mstsc)、**TSplus**が生成したクライアント または **ウェブポータルRemoteApp**プラグイン リモートセッションからローカルプリンターに「Virtual Printer」を使用して印刷できるようになります。デフォルトでは、選択されたローカルプリンターはローカルのデフォルトプリンターです。

状況に応じて「Virtual Printer」プリンターにマッピングされたローカルプリンターを変更する方法は2つあります。

- 1.フルデスクトップを使用している場合は、システムトレイの仮想プリンターアイコンを使用して、使用するローカルプリンターを選択できます。



2.フルデスクトップにアクセスできない場合は、「C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files」にある「VirtualPrinterTool.exe」という名前の「Virtual Printer Tool」を使用する必要があります。注：アプリケーションをユーザーに割り当てるか、Virtual Printerの高度な設定を通じてログオン時に自動的に実行させることができます。



## 設定

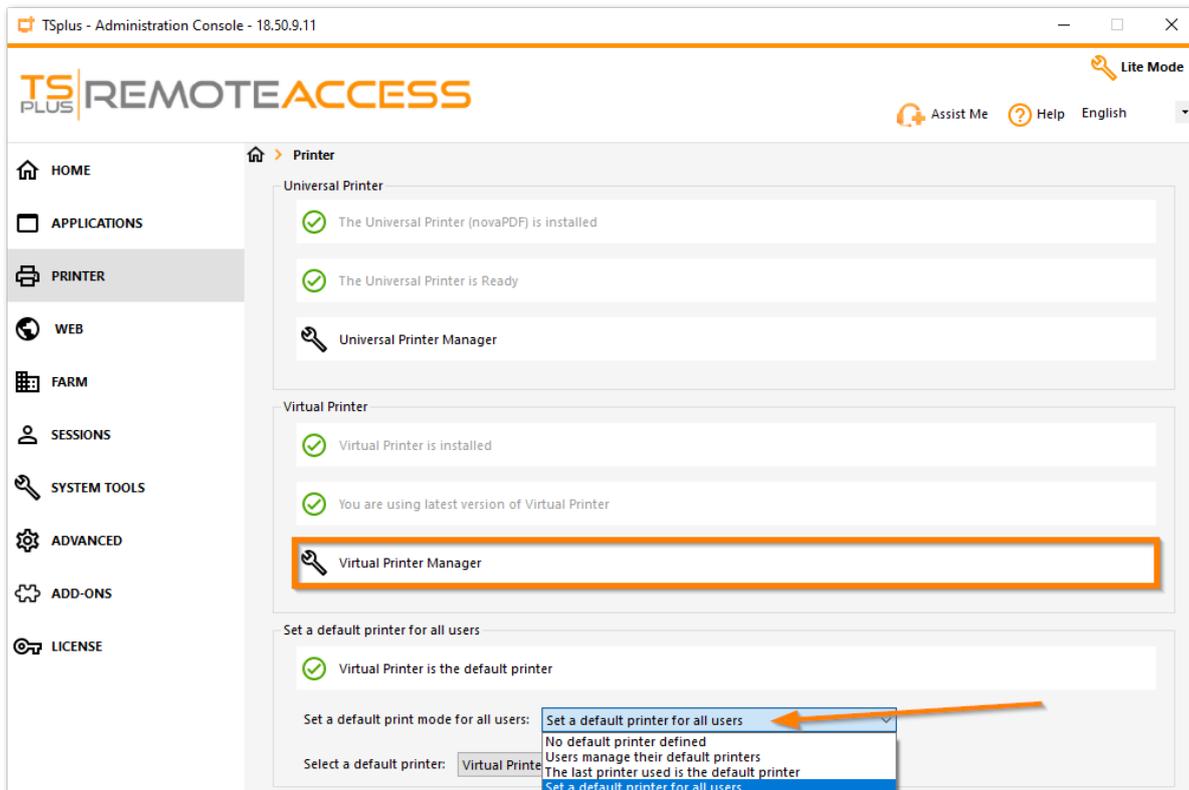
TSplus Virtual Printerのコントロールパネルにアクセスするには、AdminToolを通じて次のように移動してください: プリンター > バーチャルプリンターマネージャー

すべてのユーザーのデフォルトプリンターを設定する

- デフォルトのプリンターが定義されていません: ユーザーのデフォルトプリンター設定には影響しません。
- ユーザーはデフォルトのプリンターを管理します: 「Windowsにデフォルトのプリンターを管理させる」オプションが無効になっているため、ユーザーがデフォルトのプリンターを選択する必要があります。
- 最後に使用したプリンターはデフォルトプリンターです: 「Windowsにデフォルトプリン

ターを管理させる」オプションが有効になっています。

- すべてのユーザーのデフォルトプリンターを設定します：管理者がユーザーのデフォルトプリンターを強制します。



## 仮想プリンターのトラブルシューティング

仮想プリンターが機能していない場合、最も一般的な原因は、クライアント側のソフトウェア「Print Application」がユーザーのローカルコンピュータのタスクマネージャーで実行されていないか、仮想プリンター（サーバー）ソフトウェアがユーザーのローカルコンピュータにインストールされていることです。仮想プリンター（ワークステーション）バージョン（Setup-VirtualPrinter-Client.exe）ではありません。以下は、クライアント側とサーバー側の両方のトラブルシューティング手順の詳細です。

仮想プリンターは当社のHTML5クライアントと互換性がないことにご注意ください。HTML5クライアントを使用している場合は、代わりにユニバーサルプリンターをご利用ください。

[トラブルシューティングガイド](#)



# サーバーからセットアップ後にボリュームライセンスをアクティブにする方法は？

製品をコマンドラインなしでインストールした場合、トライアル版としてインストールされます。

## アクティベート

ボリュームライセンスを有効にするには、次のコマンドラインを昇格した管理者として実行してください。

- **リモートアクセスと二要素認証**

```
C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files>
AdminTool.exe TwoFactor.Admin.exe
/ユーザー 1 (1から50または無制限)
/エディション エンタープライズ (デスクトップ、モバイルウェブ、エンタープライズ)
/サポート年数 1 (1,2,3のみ)
```

例： C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\AdminTool.exe /vl /activate YOUR-VOLUME-LICENSE-KEY /users 30 /edition Enterprise /supportyears 1

例： C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\TwoFactor.Admin.exe /vl /activate YOUR-VOLUME-LICENSE-KEY /supportyears 1

- **Advanced Security**

```
C:\Program Files (x86)\TSplus-Security>
TSplus-Security.exe
/エディション アルティメット (エッセンシャルまたはアルティメット)
/サポート年数 1 (1,2,3のみ)
```

例： C:\Program Files (x86)\TSplus-Security\TSplus-Security.exe /vl /activate YOUR-VOLUME-LICENSE-KEY /edition Ultimate /supportyears 1

- **Server Monitoring**

```
C:\Program Files (x86)\TSplus-ServerMonitoring>
ServerMonitoring.exe
/ユーザー 1 スタートアップ用1、エッセンシャル用5、ビジネス用10
```

/サポート年数 1 スタートアップ用1、エッセンシャル用5、ビジネス用10

例： C:\Program Files (x86)\TSplus-ServerMonitoring\ServerMonitoring.exe /vl /activate YOUR-VOLUME-LICENSE-KEY /users 5 /supportyears 1

- 次の追加パラメータを追加できます:

- あなたのコメント ライセンスポータルにライセンスに添付するコメントを指定してください。
- /verysilent セットアッププログラムを静かに実行します。これにより、このセットアッププログラムを独自の初期化または自動化スクリプトに統合できます。

例： C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\AdminTool.exe /vl /activate YOUR-VOLUME-LICENSE-KEY /users unlimited /edition Enterprise /supportyears 3 /comments "This is a comment"\*

## パラメータ

このコマンドは次のパラメータを取ります:

コマンドラインを使用するのが好きで、他にどのようなコマンドラインが利用可能か気になる場合は、こちらにアクセスしてください。 [特定の文書](#) )

## サポートの更新

更新/サポートサブスクリプションを延長するには、延長時間の操作で1、2、または3を選択してください。

このコマンドを使用してください:

```
AdminTool.exe /vl /renewsupport YOUR-VOLUME-LICENSE-KEY /supportyears 1"
```

## サポートを追加する

このコマンドは、顧客がインストール中にサポートを有効にするのを忘れた場合や、サポート期間の特定の終了日を設定する必要がある場合に特に便利です。

このコマンドを管理者として実行し、詳細を自分のライセンス情報と希望するサポート終了日で置き換えてください。

```
AdminTool.exe /vl /activate-support YOUR-VOLUME-LICENSE-KEY /users [number] /edition [edition] /endofsupport [YYYY-MM-DD]
```

リモートアクセス5ユーザーのプリンターエディションのサポートを2026年7月25日まで有効にするには、入力してください:

AdminTool.exe /vl /activate-support YOUR-VOLUME-LICENSE-KEY /users 5 /edition Printer /  
endofsupport 2026-07-25

この新機能により、サポート期間の管理が容易になり、顧客は常にサポート期間の開始と終了を把握できます。

# ボリュームライセンスキーの残りのライセンスクレジットを表示する方法は？

ボリュームライセンスキーの残りのライセンスクレジットを表示するには、次のコマンドラインを昇格した管理者として実行してください。

```
AdminTool.exe /vl /credits-license VOLU-MELI-CENS-EKEY /login JOHNDOE [/edition Essentials] [/silent]
```

## パラメータ

このコマンドは4つのパラメータを取る場合があります：

- VOLU-MELI-CENS-EKEY：自分のボリュームライセンスキーを使用してください
- /ログイン JOHNDOE：ボリュームライセンスキーに関連付けられたパートナーのログインを提供してください
- エディション Essentials：Advanced Security と Server Monitoring 製品のオプションエディションパラメータを提供します
- /silent：コマンドを静かに実行します

出力はユーザーレベルの環境変数に格納されます。ボリュームライセンスクレジット 値を読み取る必要があるかもしれません。ボリュームライセンスクレジット 異なるプロセスから、コマンドを使用して：エコー %VOLUME\_LICENSE\_CREDITS%

以下は、Advanced SecurityおよびServer Monitoring製品の期待されるエディションです。

- 高度なセキュリティ：“エッセンシャル”、“アルティメット”
- サーバー監視：“エッセンシャル”、“スタートアップ”、“ビジネス”

残りのクレジット数を見つけるには、次の実行可能ファイルを使用する必要があります。

- Remote Access: C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\AdminTool.exe
- Advanced Security: C:\Program Files (x86)\TSplus-Security\TSplus-Security.exe
- サーバー監視: C:\Program Files (x86)\TSplus-ServerMonitoring\ServerMonitoring.exe
- 2FA: C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\TwoFactor.Admin.exe
- RPA: C:\Program Files (x86)\TSplus-RPA\AdminTool.exe
- リモートワーク: C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\AdminTool.exe

---

# タイトル: 「ボリュームライセンスキーの残りのサポートクレジットを表示する方法は？」

ボリュームライセンスキーの残りのサポートクレジットを表示するには、次のコマンドラインを昇格した管理者として実行してください。

```
AdminTool.exe /vl /credits-support VOLU-MELI-CENS-EKEY /login JOHNDOE [/edition Essentials] [/silent]
```

## パラメータ

このコマンドは4つのパラメータを取る場合があります:

- VOLU-MELI-CENS-EKEY : 自分のボリュームライセンスキーを使用してください
- /ログイン JOHNDOE : ボリュームライセンスキーに関連付けられたパートナーのログインを提供してください
- エディション Essentials : Advanced Security と Server Monitoring 製品のオプションエディションパラメータを提供します
- /silent : コマンドを静かに実行します。

出力はユーザーレベルの環境変数に格納されます ボリュームライセンスクレジット 値を読み取る必要があるかもしれませんが ボリュームライセンスクレジット 異なるプロセスから、コマンドを使用して: エコー %VOLUME\_LICENSE\_CREDITS%

以下は、Advanced SecurityおよびServer Monitoring製品の期待されるエディションです。

- 高度なセキュリティ: “エッセンシャル”、 “アルティメット”
- サーバー監視: “エッセンシャル”, “スタートアップ”, “ビジネス”

残りのクレジット数を見つけるには、次の実行可能ファイルを使用する必要があります。

- Remote Access: C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\AdminTool.exe
- Advanced Security: C:\Program Files (x86)\TSplus-Security\TSplus-Security.exe
- サーバー監視: C:\Program Files (x86)\TSplus-ServerMonitoring\ServerMonitoring.exe
- 2FA: C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\TwoFactor.Admin.exe
- RPA: C:\Program Files (x86)\TSplus-RPA\AdminTool.exe
- リモートワーク: C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\AdminTool.exe



# サーバーからライセンスを無効にする方法は？

ボリュームライセンスキーでアクティブ化されたサーバーを無効にするには、次のコマンドラインを昇格した管理者として実行してください。

```
AdminTool.exe /vl /disable VOLU-MELI-CENS-EKEY
```

# サーバーからライセンスを有効にする方法は？

サーバーを有効にするには、最初にボリュームライセンスキーでアクティブ化され、その後無効にされた場合、次のコマンドラインを昇格した管理者として実行してください。

```
AdminTool.exe /vl /enable VOLU-MELI-CENS-EKEY
```

# ライセンスポータルからライセンスを無効にする方法は？

最初にライセンスポータルでライセンスを無効にし、その後、管理アプリケーションまたはコマンドラインからサーバーのステータスを更新して新しいステータスが適用されていることを確認してください。

まず、ライセンスリストとライセンス詳細ページの両方から、選択したライセンスを無効にするために「無効にする」ボタンをクリックできます。

ライセンスは「有効」ステータスから「無効化中...」ステータスに移行し、現在サーバーが自ら無効化されるのを待っていることを意味します。

次に、サーバーはインターネットアクセスがある場合、翌日自動的に無効になります。

管理者として昇格した状態で次のコマンドラインを実行することで、これを手動で行うこともできます。

```
AdminTool.exe /license /refresh
```

すべてのインストールされたソフトウェアに対してリフレッシュコマンドラインを実行する必要はありません。リフレッシュは2020ライセンスシステムに対応したすべての製品でサポートされています。

ライセンスは、サーバーがライセンスポータルに接続し、その無効状態を確認するまで、ライセンス使用状況に計上されます。

# ボリュームライセンスサーバーを1ステップでインストールする方法は？

ボリュームライセンスサーバーを一度でインストールするには、次のものがが必要です：

- 製品セットアッププログラムをダウンロード
- ボリュームライセンスキーを使用してください
- ボリュームライセンスキーをパラメーターとして使用してセットアッププログラムを実行します。

あなたのボリュームライセンスキーは、新しいサーバーの任意のインストールに対して同じものです。思い出せない場合は、ライセンスポータルでアカウントに接続してください。ボリュームライセンスキーは、ホームページ（ライセンス）の上部に表示されています。

ボリュームライセンスをスクリプトからインストールしてアクティブ化するには、次のコマンドラインを昇格した管理者として実行します：

```
C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\AdminTool.exe /vl /activate VOLU-MELI-CENS-EKEY /users unlimited /edition Enterprise /supportyears 3 /comments "This is a comment"
```

2020年のボリュームライセンスを使用したスクリプト化されたアクティベーションは、以下の製品およびそのすべてのリブランド版で利用可能です。

- Remote Access
- 高度なセキュリティ（別名RDS-Knight）
- サーバー監視（旧サーバー天才）
- 二要素認証

## パラメータ

このコマンドは次のパラメータを取ります：

- リモートアクセスと二要素認証  
C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files>  
AdminTool.exe TwoFactor.Admin.exe  
/ユーザー 1（1から50または無制限）

/エディション エンタープライズ (デスクトップ、モバイルウェブ、エンタープライズ)  
/サポート年数 1 (1,2,3のみ)

- **Advanced Security**  
C:\Program Files (x86)\TSplus-Security>  
TSplus-Security.exe  
/エディション アルティメット (エッセンシャルまたはアルティメット)  
/サポート年数 1 (1,2,3のみ)

- **Server Monitoring**  
C:\Program Files (x86)\TSplus-ServerMonitoring>  
ServerMonitoring.exe  
/ユーザー 1 スタートアップ用1、エッセンシャル用5、ビジネス用10  
/サポート年数 1 スタートアップ用1、エッセンシャル用5、ビジネス用10

## スクリプト作成方法

セットアップ-PRODUCT.exeを正しいコマンドラインで開始するには、3つの方法を使用できます。

1. 独自の管理スクリプト方法を使用してください
2. Setup-PRODUCT.exeのショートカットを作成し、プロパティを編集してパスの最後にコマンドラインを追加します。
3. 「Windowsキー」と「R」キーを同時に押して「コマンドライン」を開き、「cmd」と入力して「Enter」キーを押して確認します。このキーボードショートカットを使った方法は、本書執筆時点で存在するすべてのWindowsバージョンで動作します。
4. プロンプトが表示されたら、現在のディレクトリをセットアッププログラムが見つかるディレクトリ (通常はダウンロードフォルダ) に変更します。例えば、次のように入力します:

```
cd C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files
```

最後に、次のパラメータを指定してセットアッププログラムを実行するための完全なコマンドを入力してください。希望する値を提供します。

```
C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files\AdminTool.exe /vl /activate VOLU-MELI-
```

CENS-EKEY /users unlimited /edition Enterprise /supportyears 3 /comments "This is a comment"

# 関連する管理プログラムを見つける

次のプログラムはボリュームライセンスコマンドをサポートしています。  
プログラム名と場所は、製品およびそのセットアップフォルダーに依存します。

## リモートアクセスと二要素認証

```
C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files>  
AdminTool.exe TwoFactor.Admin.exe
```

## Advanced Security

```
C:\Program Files (x86)\TSplus-Security>  
TSplus-Security.exe
```

## Server Monitoring

```
C:\Program Files (x86)\TSplus-ServerMonitoring>  
ServerMonitoring.exe
```

プログラムの実行は静かです。これにより、ライセンスアクティベーションプロセスを独自の初期化または自動化スクリプトに統合することができます。

---

## タイトル: “トラブルシューティング アクティベーター、エンブル、ディスエーブル、およびアップデートコマンド”

問題を調査したり、スクリプトのプロトタイピングを行う際には、成功メッセージやエラーメッセージを確認することで得ることができます。 **VolumeLicensing.log** プログラムのルートにファイルが見つかりました。

---

## プロキシサーバーをインターネットアクセス用に設

# 定する方法

インストール中に定義されたプロキシ設定は記憶され、ライセンスに対する操作を実行するために使用されます。プロキシ設定が定義されていない場合、ボリュームライセンスプログラムはインターネットエクスプローラーのプロキシ設定を使用します（実行中のセッションおよび/またはWindowsサービスで構成されている場合）。

プロキシ設定を手動で構成するには、次のコマンドラインを昇格した管理者として実行します。

```
AdminTool.exe /proxy /set /host proxy.company.org /port 80 /username dummy /password pass@word1
```

## パラメータ

#	Parameter	Description
1	/set	Action to be performed on the proxy settings
2	/host (ie   none   custom)	The destination host can be a predefined value (e.g. "ie" or "none") or a user-defined value (ex. 127.0.0.1 or proxy.company.org). This parameter is mandatory.
3	/port 80	The port number used to connect to the proxy server. Required if the hostname value is a custom user-defined value.
4	/username dummy	The username to connect to the proxy server. This setting is optional.
5	/password pass@word1	The user's password must be supplied if a username has been defined. However, its value can be empty.

コマンドラインを使用するのが好きで、他にどのようなコマンドラインが利用可能か気になる場合は、こちらにアクセスしてください。 [特定の文書](#) )

---

## タイトル：“ボリュームライセンスのサポートを受ける方法”

ボリュームライセンスサポート & サービスチームは、サーバーにボリュームライセンスをインストールおよび実行する際に問題やトラブルが発生した場合、喜んでお手伝いします。

ボリュームライセンスサポート&サービスチームに連絡する最も簡単な方法は、オンラインヘルプデスクでチケットを開くことです。 <https://support.tsplus.net>

# ボリュームライセンスのユーザーをサーバーから更新する方法は？

アクティブなボリュームライセンスに関連付けられたユーザー数を変更するには、次のコマンドラインを昇格した管理者として実行してください。

```
AdminTool.exe /vl /update VOLU-MELI-CENS-EKEY /users 10
```

## パラメータ

このコマンドは2つのパラメータを取ります：

- VOLU-MELI-CENS-EKEY：自分のボリュームライセンスキーを使用してください
- ユーザー無制限：1から50の任意の数または「無制限」を使用してください

ご注意ください：

- このコマンドは、Advanced Securityおよび2FAアドオンには適用されません。
- Server Monitoringは、Server Monitoringの3つの利用可能なエディションに対応する1、5、10の数字のみを受け付けます。
- TSplus Remote Workのみ、50人を超えるユーザー数を受け入れます。

---

## タイトル：“サーバーからボリュームライセンスのエディションを更新する方法？”

アクティブなボリュームライセンスに関連付けられたエディションを変更するには、次のコマンドラインを昇格した管理者として実行してください。

```
AdminTool.exe /vl /update VOLU-MELI-CENS-EKEY /edition エンタープライズ
```

## パラメータ

このコマンドは2つのパラメーターを取ります:

- VOLU-MELI-CENS-EKEY : 自分のボリュームライセンスキーを使用してください
- エンタープライズ

ご注意ください:

- このパラメータは、リモートワーク、リモートサポート、サーバーモニタリング、2FAアドオン、およびServer Geniusには適用されません。
- 可能なエディションは「Desktop」、「MobileWeb」または「Enterprise」です。
- 可能なエディションは、Advanced Securityの「Essentials」または「Ultimate」です。

コマンドラインを使用するのが好きで、他にどのようなコマンドラインが利用可能か気になる場合は、こちらにアクセスしてください。 [特定の文書](#) )

## サポートの更新

更新/サポートサブスクリプションを延長するには、延長時間の操作で1、2、または3を選択してください。

このコマンドを使用してください: "AdminTool.exe /vl /renewsupport VOLU-MELI-CENS-EKEY /supportyears 1"

このコマンドはバージョン15.60.11.8からのみ利用可能です。

# ボリュームライセンス

ボリュームライセンスは、TSplusによって提供されるソリューションのためのスクリプトライセンスソリューションです。以下の製品は、ボリュームライセンス2020を使用したアクティベーションをサポートしています：Remote Access、Remote Work、Advanced Security（別名RDS-Knight）、Remote SupportまたはServer Monitoring（以前はServer Genius）。

ボリュームライセンスアカウントがライセンス管理ポータルで作成されると、ボリュームライセンスチームが提供します：

1. あなたのボリュームライセンスキー（この情報は機密として保持してください）
2. ライセンス管理ポータルに接続するための資格情報
3. このボリュームライセンス2020管理者ガイド

## VIRTUAL PRINTERはもはやライセンスされていません

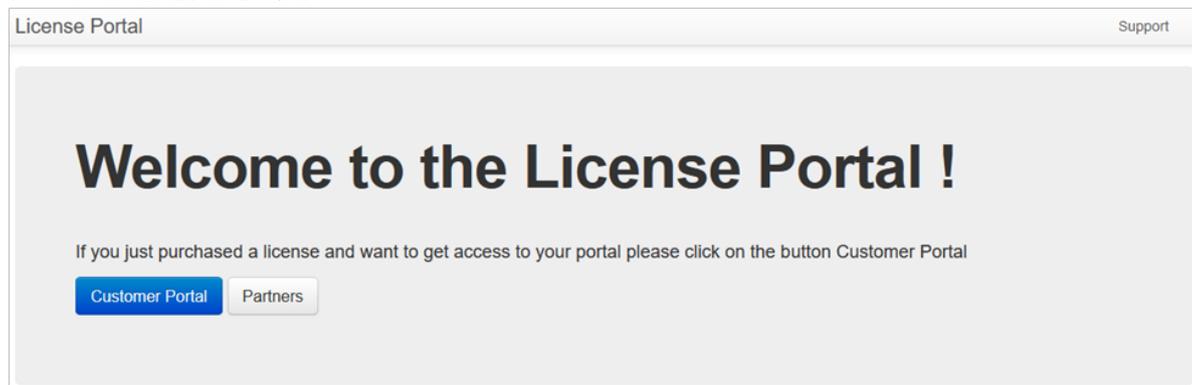
2022年3月15日以降およびバージョン15.40.3.14以降、Virtual Printerはもはやライセンスされておらず、すべてのTSplus Remote Accessエディションに含まれています。

## ボリュームライセンスを管理する方法は？

あなたのボリュームライセンスとクレジット残高は、TSplusライセンスポータルで確認および管理できます。

TSplusライセンスポータルは、以下のURLで利用可能です。 <https://license.tsplus.net>

アカウントに接続してアクセスするには、まずカスタマーポータルをクリックして顧客セクションに移動します。



次に、アカウントにアクセスするための認証情報を入力してください:

# Customer Portal

Manage your Licenses  
Purchase Upgrades of existing licenses  
Renew Update/Support services

## Enter Email

## Enter Order ID

[Find Purchase Order Number](#)

Remember me

Login

ログインすると、すべてのライセンスが一覧表示される以下のテーブルが表示されます。これは、すべてのライセンスを管理できるメインページです。まだボリュームライセンスをアクティブにしていない場合、このページは空になります。

Licensing Management App Licenses Supports Resellers Logout

## Licenses

x@y.com, @y.com, serial number, order ref. Global Search

Generate a new license Open in Excel

Find a Serial Number: P00 000 000

Find an Email: @

Find an Order Number:

Date range: 2018-05-21 - 2018-08-22 Filter

Software	Serial Number	Days	Users	Edition	Email	Order Number	Date	Support?	Actions	Status	Comments
RDS-Knight Ultimate Protection	[QR]	-	1	-	[QR]	-	2018-06-11	✓	Details Upgrade Rehost	Enabled Disable	[QR]
RDS-Knight Ultimate Protection	[QR]	-	1	-	-	-	2018-05-31	X	Details Upgrade Rehost	Enabled Disable	-
RDS-Knight Ultimate Protection	[QR]	-	1	-	-	-	2018-05-31	X	-	-	-
TSplus	[QR]	-	5	Mobile Web	[QR]	-	2018-06-29	X	Details Upgrade	-	[QR]

Available number of users/licenses

TSplus	2 users available
RDS-Knight Ultimate Protection	2 licenses available
RDS-Knight Security Essentials	0 licenses available
ServerGenius Essentials	0 licenses available
ServerGenius Startup	0 licenses available
ServerGenius Business	0 licenses available
RDS-WebAccess	0 users available

Buy 50 more users Buy 100 more users

ライセンスの履歴詳細を確認するには、調べたいライセンスの「詳細」ボタンをクリックしてください。下の画像に示されているライセンス詳細ページが表示されます。

Licensing Management App Licenses Supports Resellers Logout

## License Detail

#	98408
Serial Number	P30 GAS C6F
Type	permanent
Days	-
Software	RDS-Knight Ultimate Protection
Email	brendan.janssen@honeywell.com
Order Number/Reference	-
Date	2018-06-11 02:43:19
Rehosted?	X
Status	Enabled <span>Upgrade</span>
Version	-

Download license file

## Comments

HUG

### Suggested email to customer

Hello,

Please find attached to this email your license file (RDS-Knight Ultimate Protection permanent ).

To activate this license, please save this file to your disk and do not rename it, then start the AdminTool.  
Click on the "License" button, then on the "Activate your License" button.  
Follow the prompts to install the license.

If your trial period was over, you will need to reboot the server.  
If the activation is done during the trial period, you do not have to reboot.  
This license is bound to the computer on which the software is installed.  
In case you acquire a new computer, you must uninstall the software from the previous computer before using the software on the new computer.

Email: brendan.janssen@honeywell.com Email license file to customer

# TSplus Web App

TSplus Web Appは、面倒なソフトウェアのインストールや複雑な接続クライアントなしでシームレスなリモートアクセス体験を提供するために、最新のブラウザAPIを活用したプログレッシブウェブアプリ ( PWA ) です。業界標準のHTML5表示および通信プロトコルを利用するように設計されており、使用するデバイスの種類に関係なく、TSplus Web Appはネイティブ接続ソリューションとして表示されます。

## 利点

新しい TSplus WebApp は、従来のアプリケーションや接続クライアントに対する以下の改善を使用して、パフォーマンスと価値を向上させます。

- ソフトウェアのフットプリントが小さいため、読み込み時間が短縮されます。
- データ使用量の削減 - TSplus Web Appは、データ使用量を最小限に抑えるために一般的なブラウザベースのトラフィック管理を活用します。
- シームレスなユーザーエクスペリエンス - ログイン表示からアプリケーションレンダリングまで、TSplus WebAppはユーザーにネイティブアプリケーションの使用感を提供します。
- ブラウザのタブが増えすぎて、セッションが失われることはもうありません。TSplus Web Appの動作は、他のトップレベルアプリケーションと同じマルチタスクオプションを提供します。

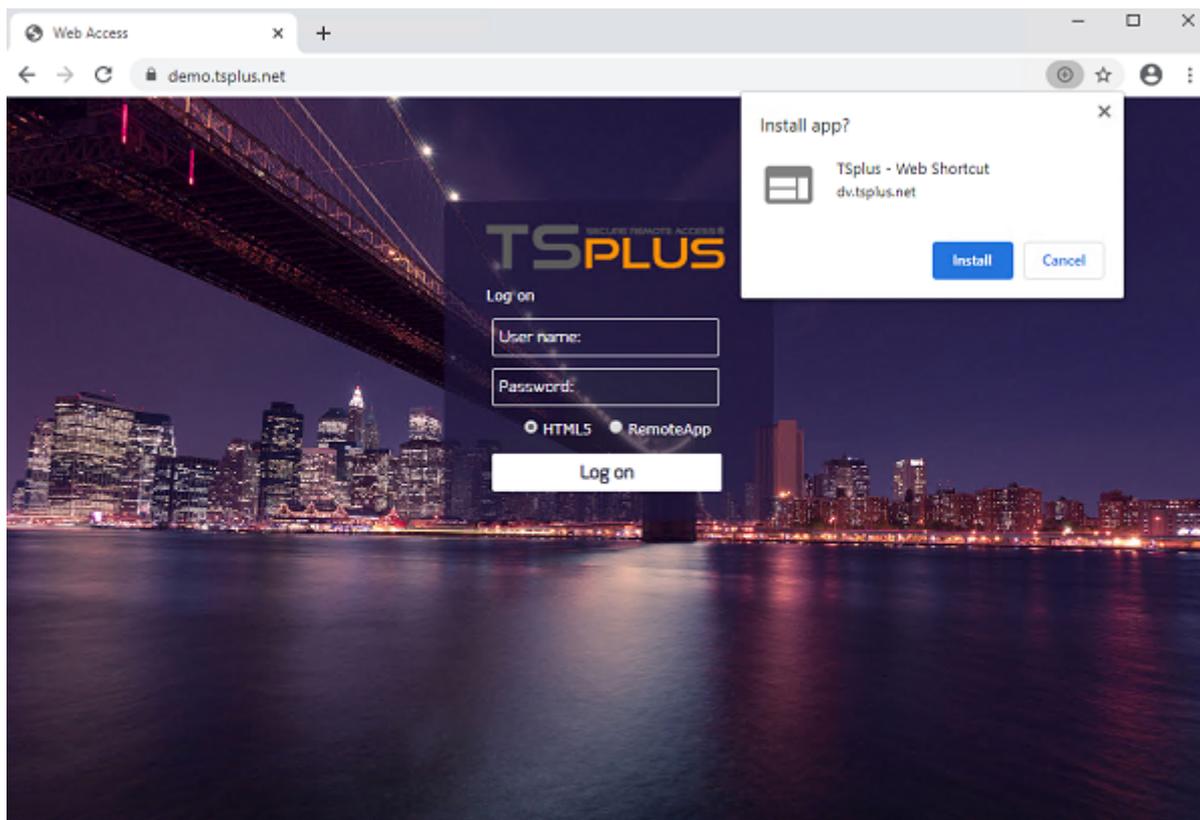
## インストール - PC

お好みの一般的なウェブブラウザを使用して、企業のTSplusウェブポータルに移動してください ( HTTPS構成が必要です ) 。

Firefoxで使用するには、インストールする必要があります。 [PWAS](#) アドオン。

ナビゲーションバーの右側にある + ボタンをクリックします。プロンプトが表示されたら、

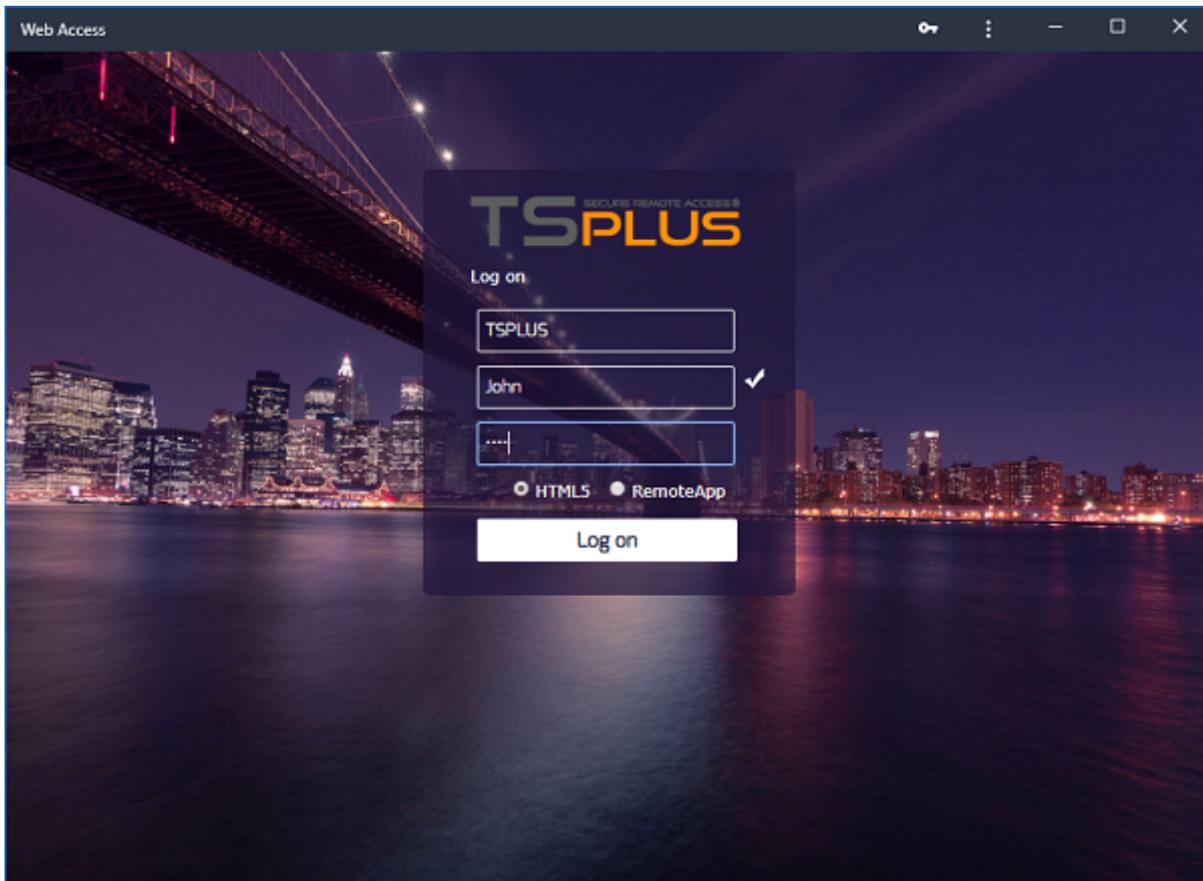
「インストール」をクリックします。



インストールはわずか一秒で完了します。デスクトップにアイコンが作成されます。



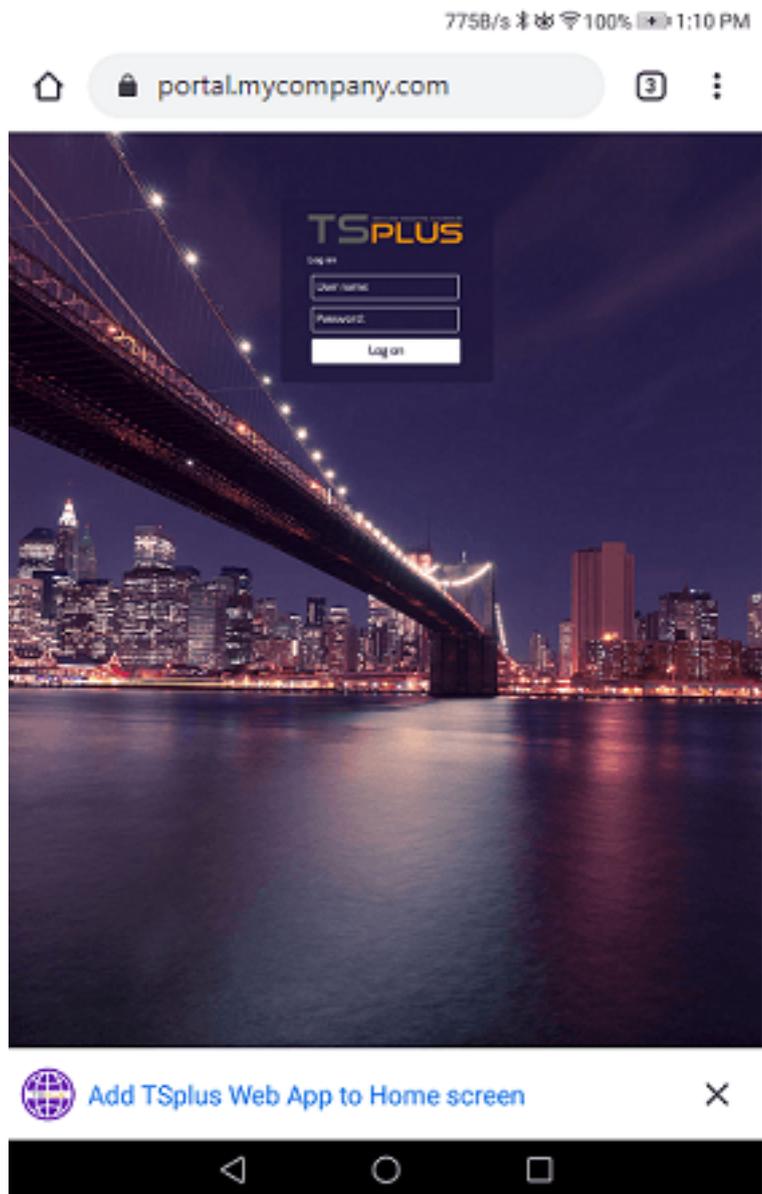
そして、ウェブアプリは完了次第すぐに開きます。



## インストール - Androidモバイルデバイス

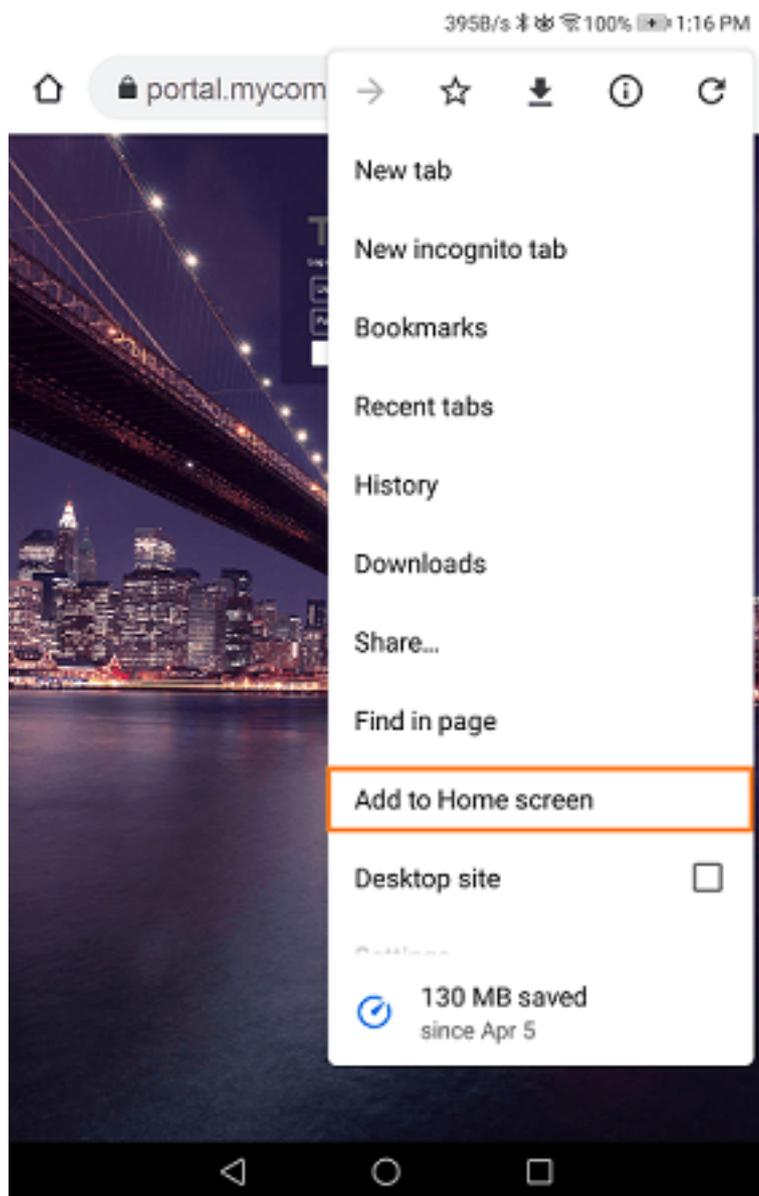
お好みの一般的なモバイルウェブブラウザを使用して、企業のTSplusウェブポータルに移動します。TSplusサーバーではHTTPSプロトコルが必要です。

ウェブポータルでは、ウィンドウの下部にある「TSplus Web Appをホーム画面に追加」メッセージをクリックすることで、TSplus Web Appをホーム画面に追加するオプションが提供されます。

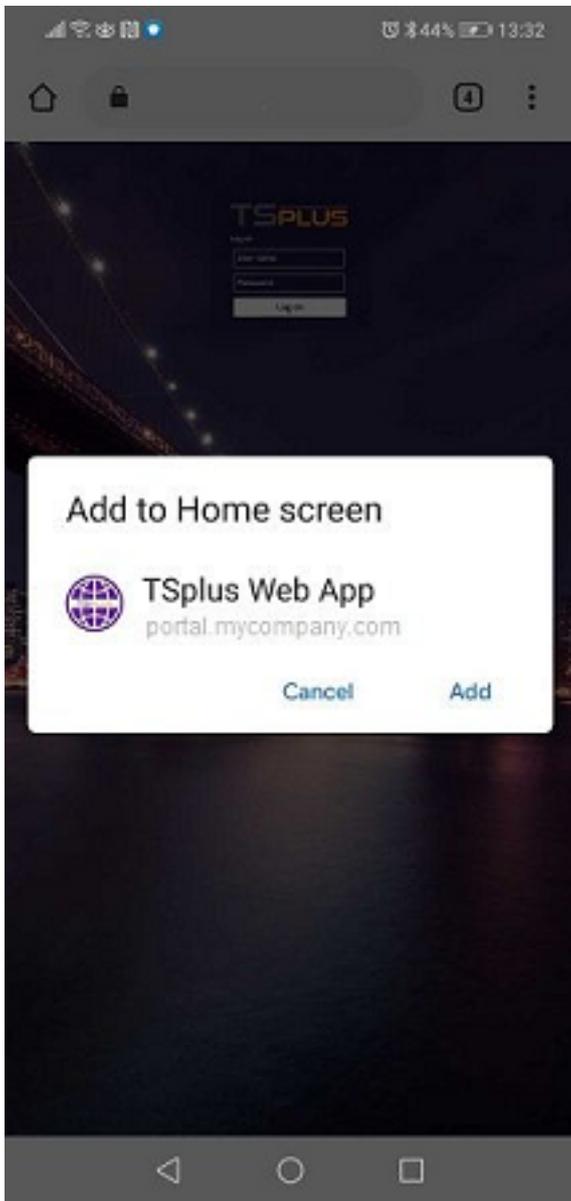


ウィンドウの右上にある3つのドットメニューをクリックし、「追加」をクリックすることでも。

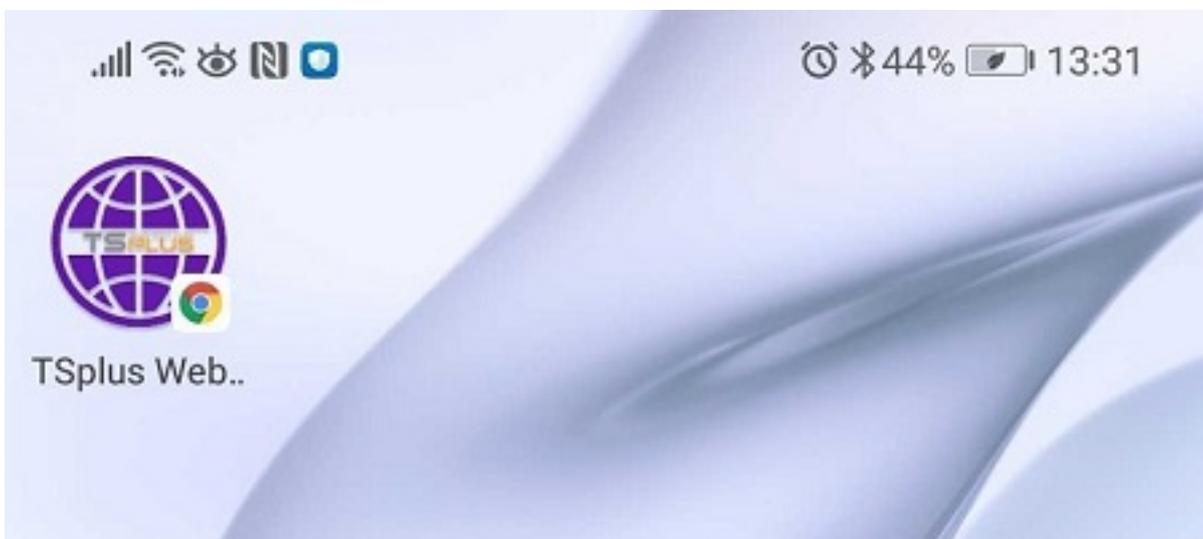
ホーム画面に追加するオプションを受け入れた後、ユーザーは次の画面を表示します:



「追加」ボタンをタップすると、プロセスは完了です。

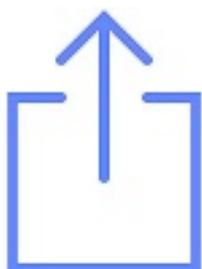


TSplus Web Appは、今後あなたのモバイルデバイスのホーム画面から直接アクセスできるようになります。



# インストール - Apple iOS モバイル

iOSでのWebアプリのインストールプロセスはAndroidのプロセスに似ています。Safariウェブブラウザを使用してTSplus Webポータルに移動してください。共有ボタンをクリックします。

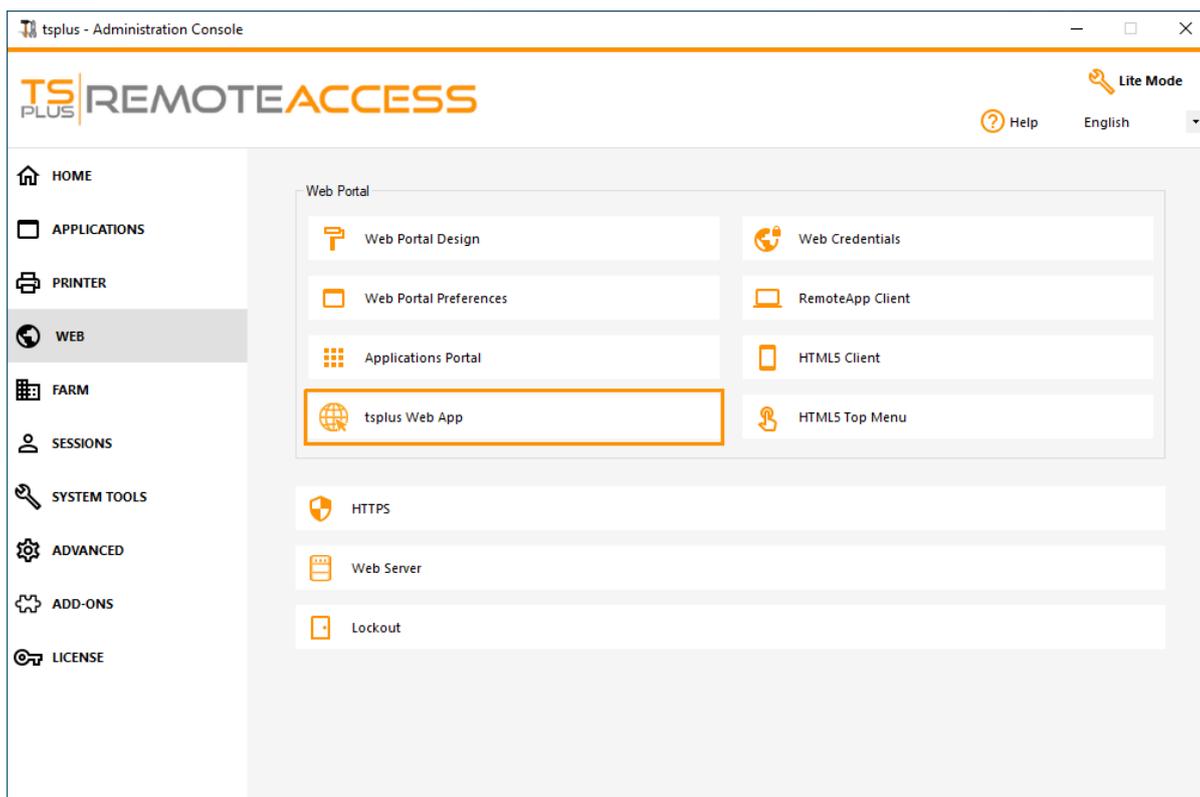


次に「ホーム画面に追加」をクリックします。

注意： ChromeブラウザはiOSでWebアプリ機能をサポートしていません。

## 管理

Webアプリを管理するには、TSplus管理ツールのWebポータルセクションに移動し、TSplus Webアプリタイルをクリックします。



Webアプリはデフォルトで有効になっていますが、無効にすることもできます。ショートカット名、背景およびテーマの色、さらにTSplus Webアプリのアイコンを変更することが可能です。

TSplus Web App Management

Web App is enabled - Click to disable

**This functionality requires your TSplus web server to be accessible from a domain using HTTPS protocol.**

Shortcut name:

Background color:

Theme color:

Icon (format .png/.svg/.webp >= 144x144 pixels):



「保存」をクリックして変更を記録してください。

# ウェブアプリケーションポータル：URLアドレスのパラメータ

Terminal Service Plusの標準ログインWebアクセスページを使用する際にバイパスしたい場合は、[ウェブアプリケーションポータル](#) Webアプリケーションポータルページに直接移動するには、URLアドレスにいくつかのパラメータを指定する必要があります。

- ユーザーログイン
- ユーザーパスワード
- ユーザードメイン
- サーバー
- ポート
- クライアントタイプ ( HTML5またはWindows )

ユーザー「demo」とパスワード「demo」を持つデモサーバー上のHTML5クライアント用の完全なURLアドレスの例は次のとおりです。

[https://demo.tsplus.net/index\\_applications.html?user=demo&pwd=demo&domain=&server=127.0.0.1&port=3389&type=html5](https://demo.tsplus.net/index_applications.html?user=demo&pwd=demo&domain=&server=127.0.0.1&port=3389&type=html5)

ドメイン、サーバー、ポート、およびタイプのパラメーターはオプションであり、次のURLアドレスはまったく同じ動作をします：

[https://demo.tsplus.net/index\\_applications.html?user=demo&pwd=demo](https://demo.tsplus.net/index_applications.html?user=demo&pwd=demo)

Windowsクライアントを使用するには、次のようにしてください：

&type=リモートアクセス

そのパラメータをURLアドレスに使用することで、Webアプリケーションポータルページに直接アクセスできます。

すべてのパラメータを同時に指定する必要はありません。指定されていないパラメータは、デフォルトの設定値が適用されます。

HTML5クライアントを使用して接続する際に、Terminal Service Plusの標準ログインをバイパスしたい場合は、チェックしてください。 [このページ](#)。



# ウェブアプリケーションポータル

Terminal Service Plus Web Application Portalは、アプリケーションとデスクトップの展開およびライフサイクル管理を合理化し、ITコストを削減できる単一の柔軟なソリューションを提供します。オンデマンドアプリケーションを中央管理し、ウェブ配信することで、ITは役割ベースの管理、アプリケーション制御、セキュリティ、ユーザーサポートを提供し、アプリケーション展開の成功率を向上させることができます。

Terminal Service Plus Web Application Portalは、Windowsアプリケーションとデスクトップを安全なオンデマンドサービスに仮想化し、変換します。

**Webアプリケーションポータルを使用すると、Microsoft Windowsアプリケーション ( ビジネスアプリケーション、Officeアプリケーションなど ) をウェブに公開できます。**

Citrixと同様に、ユーザーはポータルのウェブページ内のアプリケーションアイコンをクリックするだけで、インターネットから直接アプリケーションにアクセスできます。

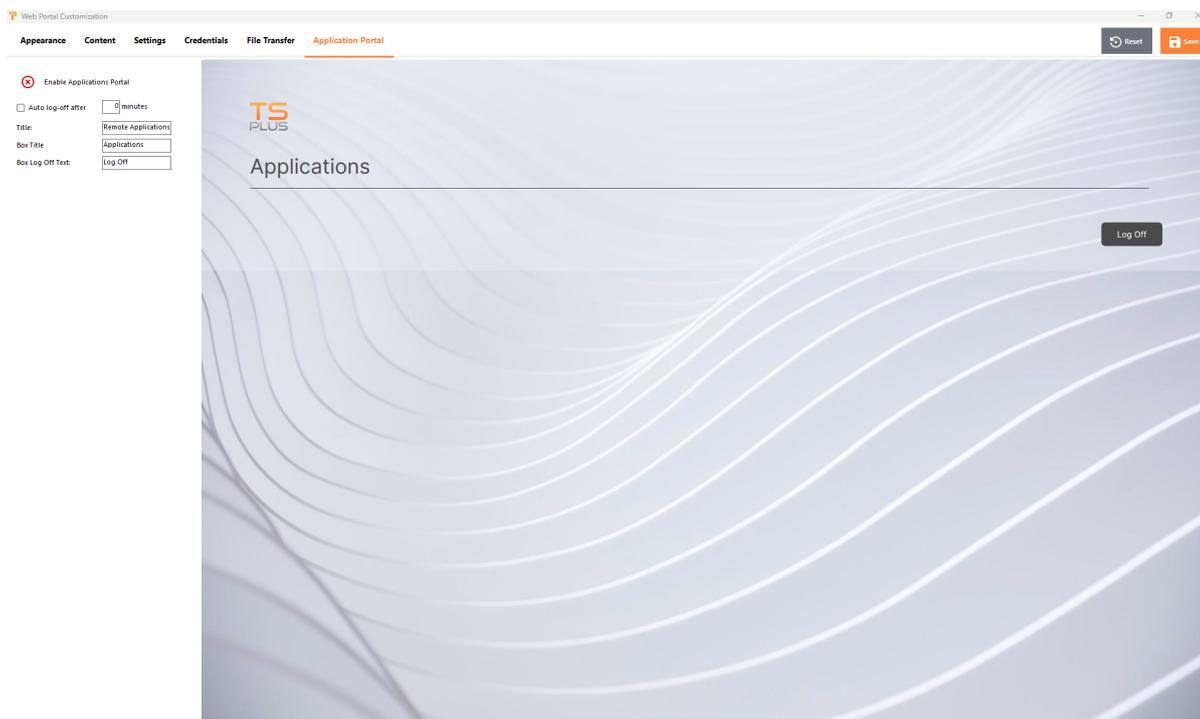
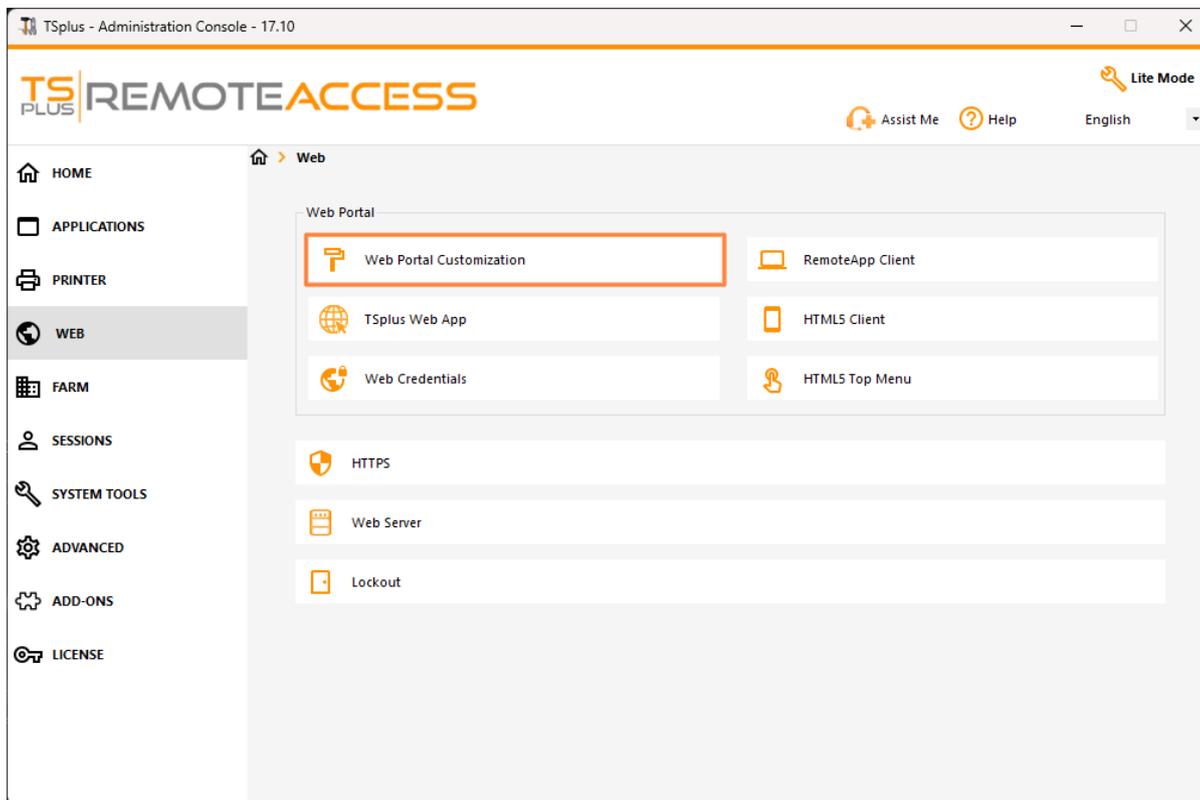
## ウェブアプリケーションの管理

Webアプリケーションポータル機能は **完全統合されたターミナルサービスプラス**で。これは、ターミナルサービスプラスアプリケーションパブリッシング機能によって公開されたすべてのアプリケーションがWebアプリケーションポータルで使用できることを意味します。

この出版プロセスについてもっと知りたい場合は、私たちのドキュメントを自由にお読みください。 [アプリケーション公開](#) そして [ユーザーまたはグループへのアプリケーションの割り当て](#) .

## ウェブアプリケーションポータルの設計

管理ツールで「Web」タブを開き、「Webポータルのカスタマイズ」タイルをクリックし、「アプリケーションポータル」タイルに移動します。



Webアプリケーションポータル機能が有効なウェブアクセスページを生成するには、「アプリケーションポータルを有効にする」チェックボックスを確認してください。あなたの好みに合わせてウェブアクセスページをカスタマイズし、「保存」をクリックしてこの新しいウェブアクセスページを公開できます。

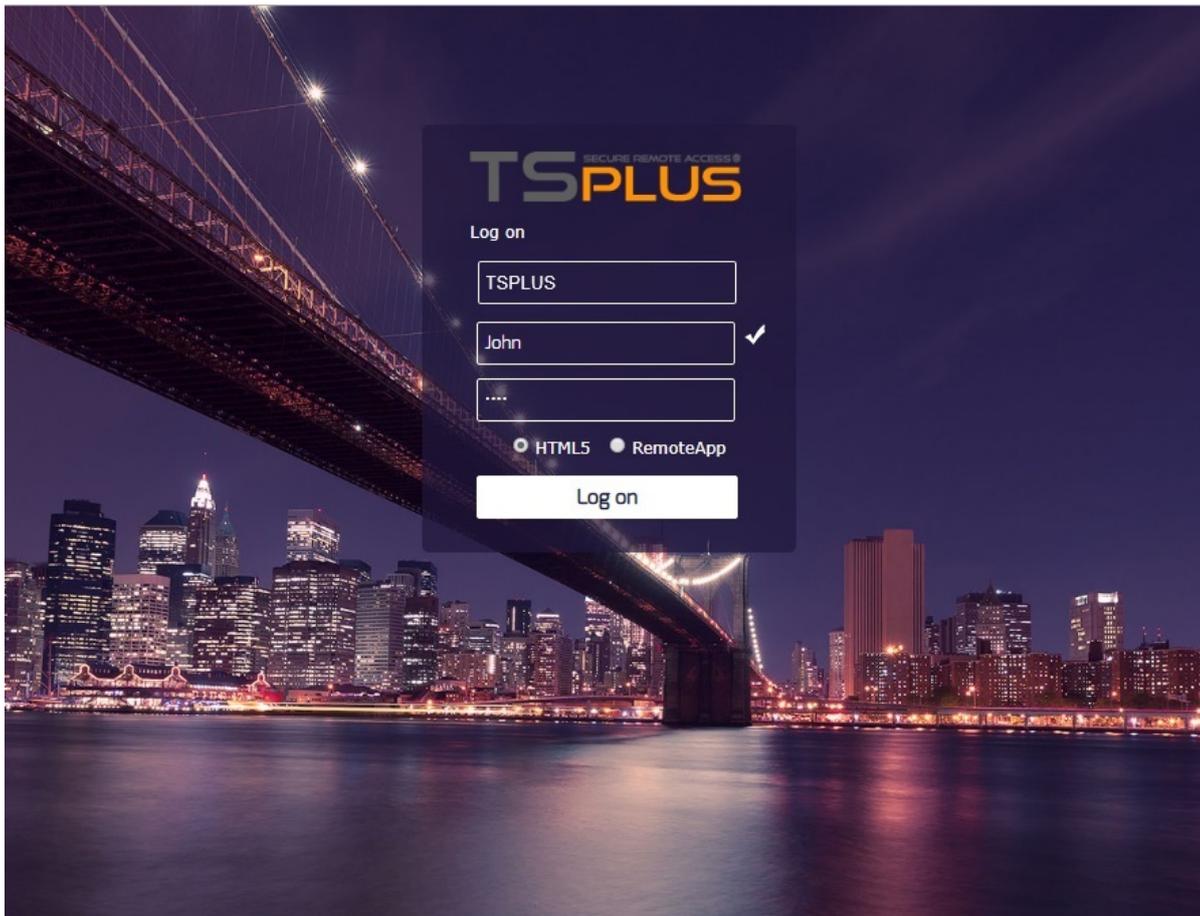
注意: クラシックテーマのボックスとボックスの境界線の色のみ変更できます。 [外観タブ](#) .

# Webアプリケーションポータルの使用

この例では、デフォルト名「index」で新しいウェブアクセスページを公開しました。

アクセスするには、ウェブブラウザを開いて [http://your\\_server\\_name/](http://your_server_name/) に移動します（この例では使用します） <http://localhost> サーバー自体から直接）。

最初に表示されるウェブページは、標準の Terminal Service Plus ウェブログオンページです。

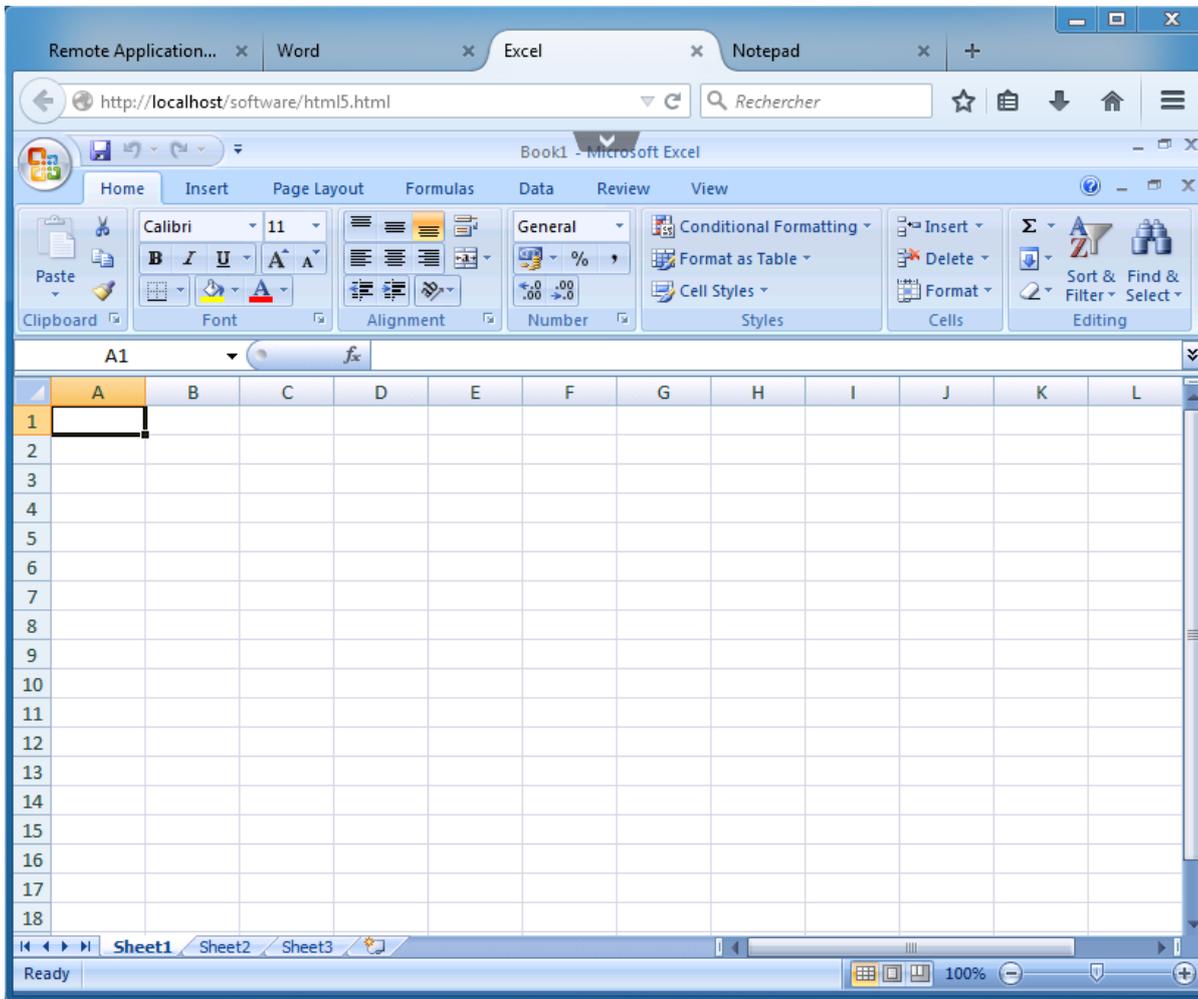


ログインすると、新しいウェブページが表示されます。これがウェブアプリケーションポータルです。

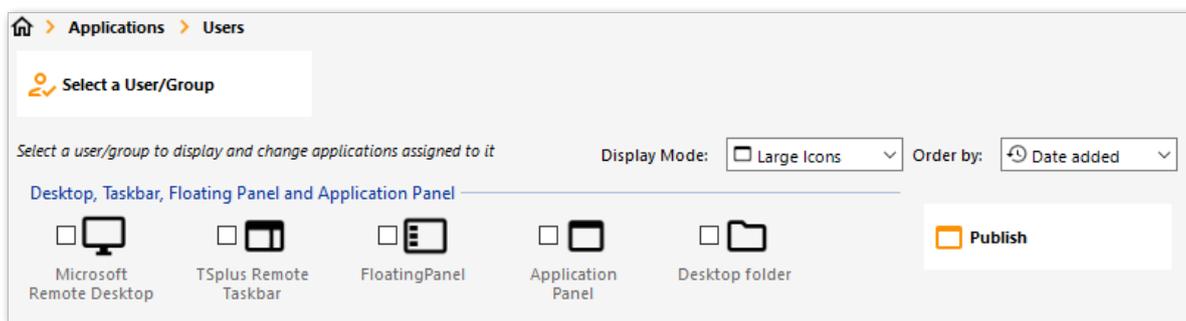


ユーザーは、アクセスできるすべての公開アプリケーションに対してアイコンを取得することができます。

ユーザーは、対応するアプリケーションを新しいタブでリモートで開くために、1つ以上のアイコンをクリックできるようになりました。

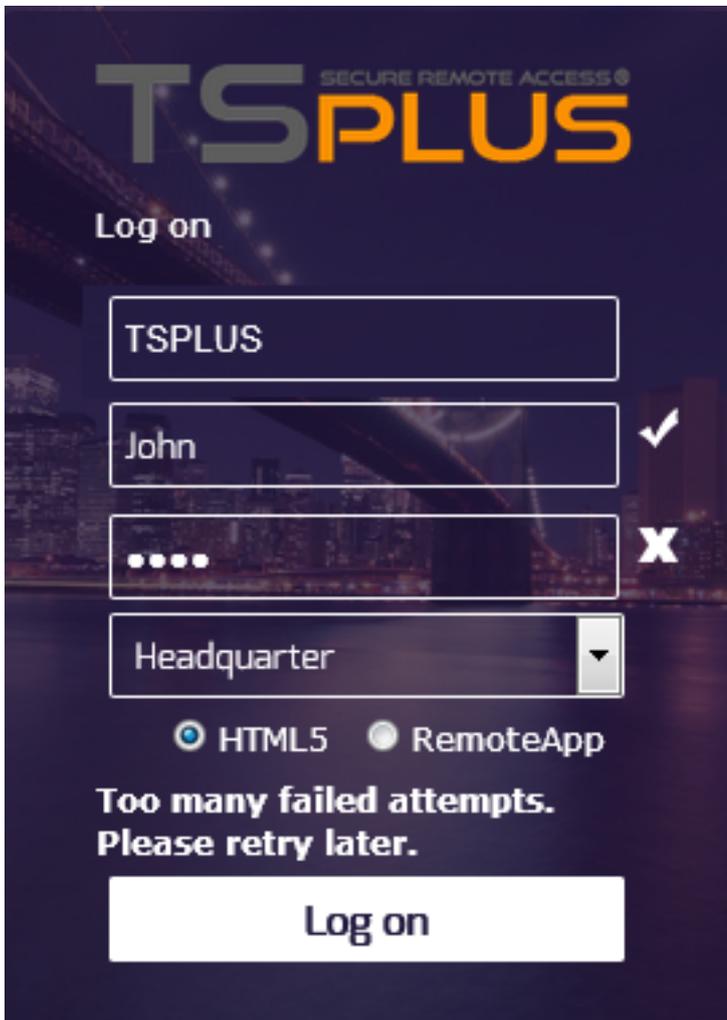


アプリケーションポータルのみを使用し、ウィンドウセッション、リモートタスクバー、フローティングパネルなどを開かない場合は、ユーザープロファイルに関連するすべてのボックスのチェックを外す必要があります。



TSplus 11.40のリリース以降、ユーザーが誤った認証情報を入力した際にWebポータルへのブルートフォース攻撃がブロックされるようになりました。

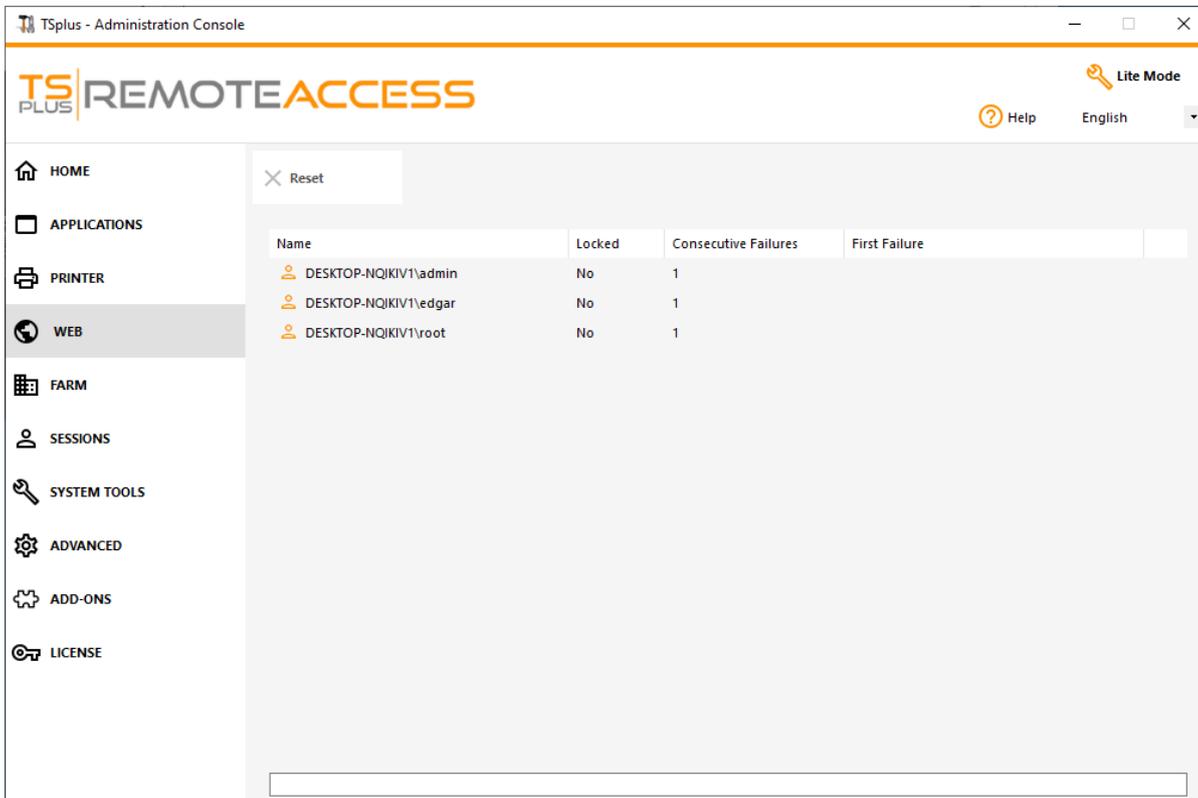
10回の試行後、15分間の期間内に、Webポータルはユーザーのログオンを30分間禁止します (カスタマイズ可能)。 [管理ツールの高度な - ロックアウトタブ](#) ):]



これらは、TSplusフォルダーにあるhb.exe.configファイルでカスタマイズ可能なデフォルト設定です。

TSplus\Clients\www\cgi-bin\hb.exe.config の「appSettings」段落内。

TSplusのロックアウト機能で、すべてのブロックされた接続とユーザーによるログを確認できます。



[この機能](#) 最初のWebポータル接続後に表示され、アクティブになります。

## 重要な注意事項

- Webアプリケーションポータル機能は互換性があります [ファーム / ゲートウェイの構成](#) として、それはまたサポートしています [負荷分散](#) .
- ファーム / ゲートウェイ構成では、アプリケーションはファームのすべてのサーバーに公開され、割り当てられている必要があります。
- ターミナルサービスプラスのライセンスに関して、ユーザーは1人以上としてカウントされることなく、同時にいくつかのアプリケーションを開くことができます。

# ウェブ自動ログオン：ポータルなしでウェブから接続

## 概要

Terminal Service Plus Web Portalは、ユーザーがWindowsの資格情報を使用して、任意のWebブラウザからリモートサーバーに接続できるようにします。

ただし、特定のURLアドレスを起動するときに自動的に接続したい場合があります。この機能はWeb自動ログオンと呼ばれます。

Web Autologonを使用すると、特定のTerminal Service Plusファイルに指定された設定（ログイン、パスワード、ポートなど）を使用して接続します。

## 注意

この機能を使用する際、あなたのユーザー名とパスワードがページを訪れる誰にでも公開される可能性があります。

さらに、すべてのユーザーが同じユーザー名を共有している場合、同じユーザー名を共有する他のユーザーの機密情報を見ることができるようになります。

この機能は特定の使用ケースのみを目的としており、推奨されません。

## HTML5クライアントを使用したWeb自動ログオン

直接ブラウジングして接続できるようになります <http://your-server/software/html5.html>

接続設定は、以下のファイルをメモ帳または任意のテキストエディタ（例：Notepad++ - MS Wordは使用しないでください）で編集することで変更できます。

C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\software\html5\settings.js

Web Autologonを利用するには、少なくともログインとパスワードを指定する必要があります。

このファイルを修正した後、ウェブブラウザでページを更新する必要があるかもしれません。

## リモートアプリWebクライアントを使用したWeb自動ログイン

直接ブラウジングして接続できるようになります <http://your-server/software/remoteapp2.html>

接続設定は、以下のファイルをメモ帳または任意のテキストエディタ（例：Notepad++ - MS Wordは使用しないでください）で編集することで変更できます。

C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\software\remoteapp2.js

Web Autologonを利用するには、少なくともログインとパスワードを指定する必要があります。

このファイルを修正した後、ウェブブラウザでページを更新する必要があるかもしれません。

## 同じ資格情報を使用して複数のユーザーセッションを有効にする

同じ資格情報を使用して複数のユーザーセッションを有効にしたい場合は、この手順に従ってください。

index.htmlファイルは次の場所にコピーできます:

C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www

ユーザー数と同じ回数だけ。名前を変更してから、次のURLでアクセスできます: <http://nameofyourserver.com/renamedindex.html>

ユーザーの資格情報に対応する段落を編集してください。

```
アクセス設定 ----- var user = ""; // リモートサーバーに接続する際に使用するログイン (このページに入力されたログインを使用するには""のままにします) var pass = ""; // リモートサーバーに接続する際に使用するパスワード (このページに入力されたパスワードを使用するには""のままにします) var domain = "";
```

index.htmlファイルを何度でもコピーできます。ユーザー名で名前を変更すると、個人用リンクを提供するのが簡単になります。



# ウェブ認証情報

## 概要

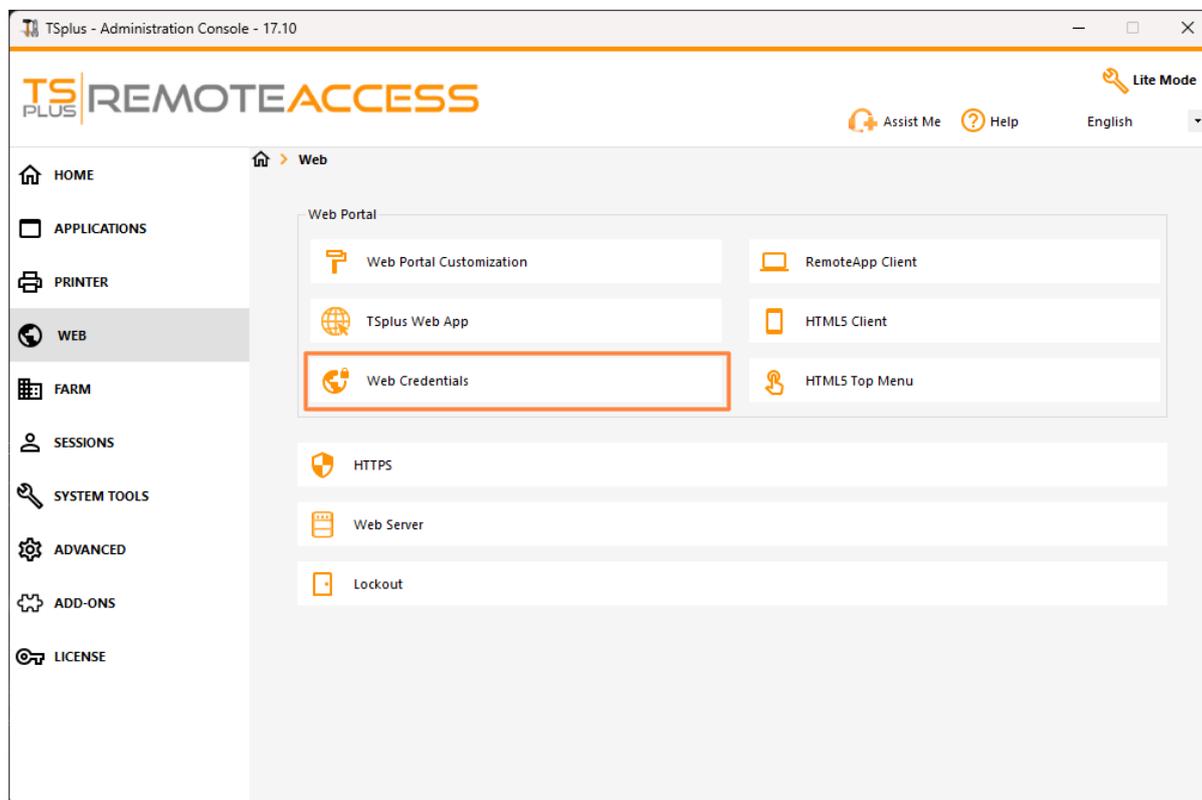
Terminal Service Plus Web Credentialsは、ユーザーがメールアドレスまたはピンコードだけで接続できる最先端のユニークな機能です。

Web認証を使用すると、ユーザーのメールアドレスやビジネスアプリケーションによって生成されたシンプルなピンコードでサーバーへのアクセスを保護できます。この機能の大きな利点の1つは、これらの認証情報（メールまたはピンコード）が純粋なWeb認証であることです：ユーザーは現在使用しているWindowsユーザーアカウントを知る必要がなく、アプリケーションに接続するために実際のWindowsログイン/パスワードを知る必要もありません。

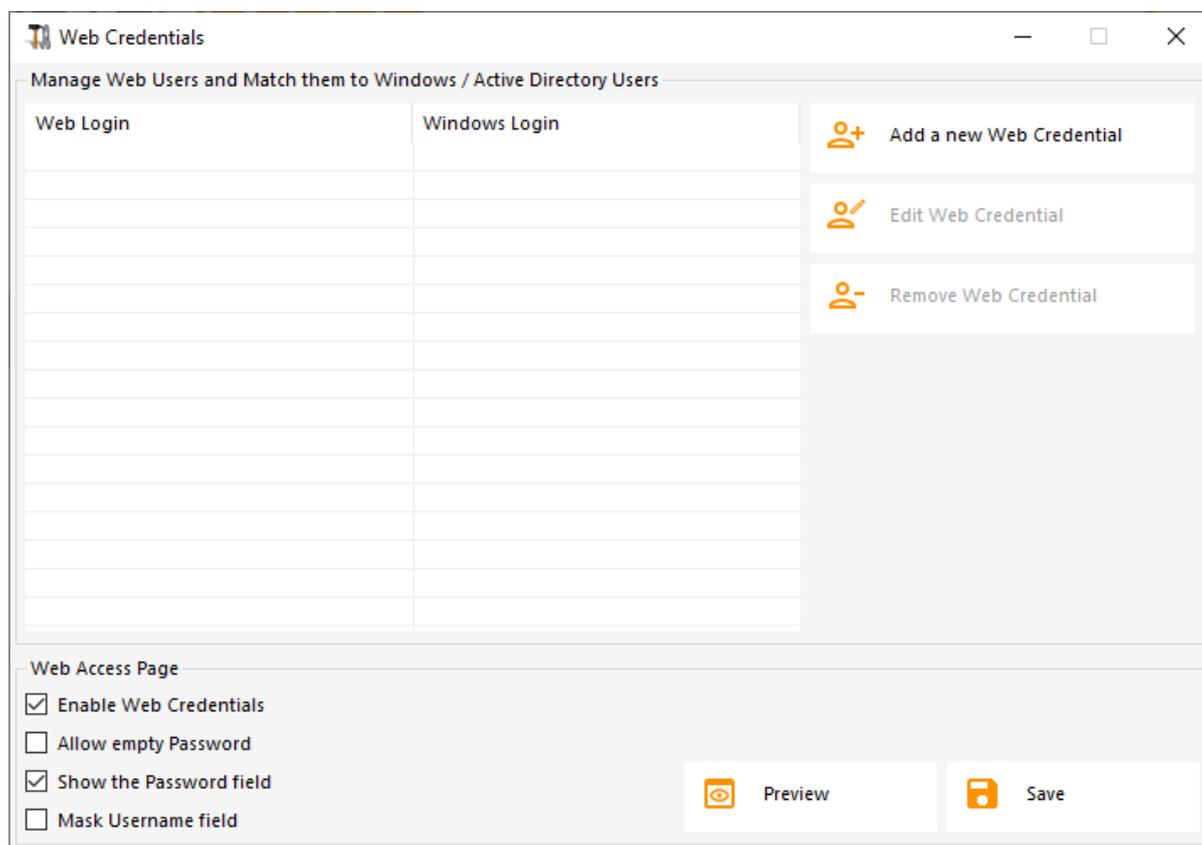
Web資格情報を使用すると、カスタムの純粋なWeb資格情報を定義し、それを既存のWindows / Active Directoryユーザーアカウントに一致させることができます。ユーザーは、その後、Windows / Active Directoryの資格情報の代わりに、これらのカスタム資格情報を使用して接続できるようになります。

## ウェブ認証情報の管理

管理ツールで「Web」タブを開き、「Web資格情報」タイルをクリックします。



Web資格情報マネージャーが開き、このウィンドウを表示します。



新しいWeb資格情報を作成するには、以下に示すように、カスタムログインと（オプションの）パスワードを既存のWindows / Active Directoryユーザーアカウントに一致させることができ

ます。

The screenshot shows a dialog box titled "Add a new Web Credential". It contains the following fields and values:

- Web Login: Edgar
- Web Password (optional): (empty)
- Windows Login: Edgar
- Windows Password: (masked with dots)
- Maximum number of concurrent session: 3 (highlighted with an orange border)

Buttons: Save, Cancel

TSplus 9.50バージョン以降、ユーザーの同時セッションの最大数を決定することもできます。

既存のWeb資格情報を編集および削除することもできるため、設定したカスタム資格情報を変更または無効にすることができます。

代わりに、コマンドラインを介してウェブ認証情報を作成できます:

- Windowsのスタートメニューで、実行フィールドに次のように入力します: 'cmd.exe' (またはプログラム/アクセサリ > 'Windows Power Shell' )
- 次に、正しいフォルダーに移動するために、次のように入力します: cd "C:\Program Files (x86)\TSplus\UserDesktop\files", その後、Enterを押して確認します。
- 新しいWeb資格情報を追加するには、次のように入力します: AdminTool.exe / webcredentials-add your\_web\_login your\_web\_password your\_windows\_login your\_windows\_password maximum\_concurrent\_sessions
- 空の資格情報を追加するには、空のテキストを示すために2つの二重引用符を入力します: ""
- ウェブ認証情報を削除するには、次のように入力します: AdminTool.exe /webcredentials-remove your\_web\_login

コマンドラインを使用するのが好きで、他にどのようなコマンドラインが利用可能か気になる場合は、こちらにアクセスしてください。 [特定の文書](#) )

## 重要な注意事項

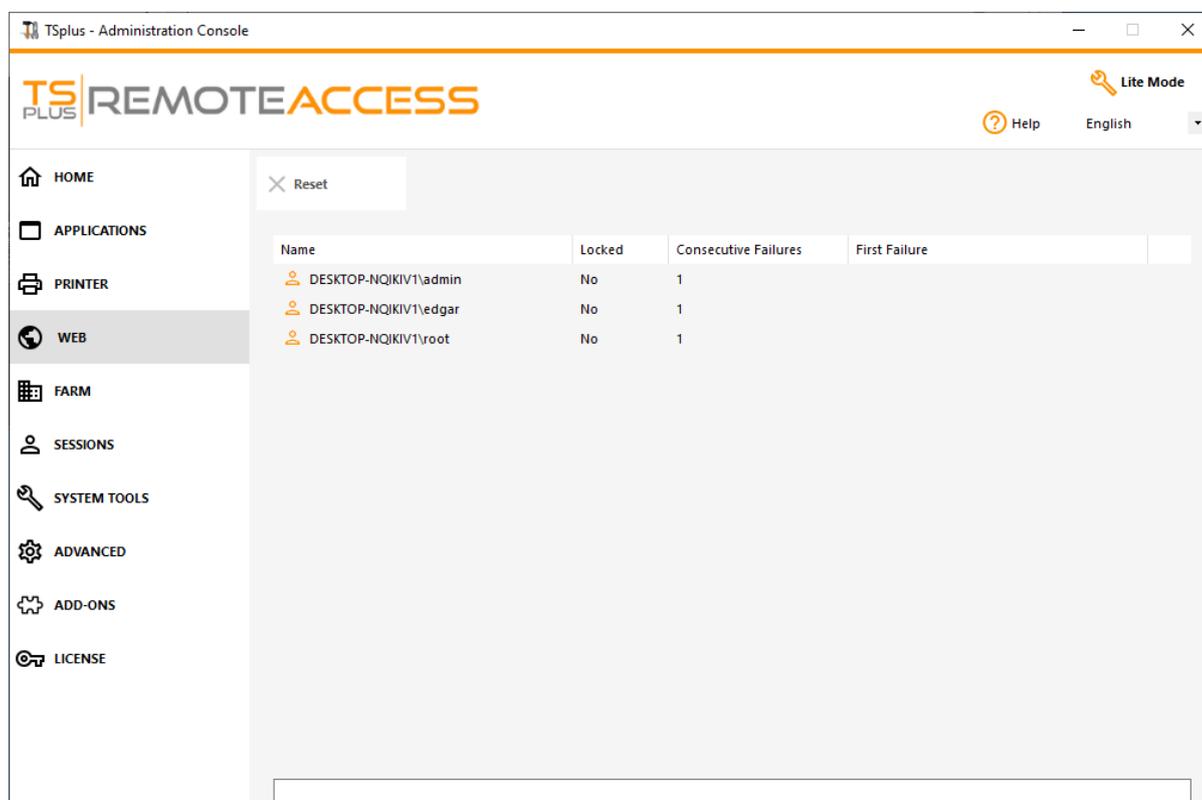
以下の制限事項にご注意ください：

- '[, ]' および '' 文字はパスワードフィールドではサポートされていません。
- 中で [ファーム/ゲートウェイの構成](#) Web Credentialsはのみサポートしています [負荷分散モード](#) ( サーバー割り当てモードでは動作しません。 )
- ファーム/ゲートウェイ構成で負荷分散モードを使用する場合、Web 認証情報はファームのすべてのサーバーで定義する必要があります。
- 2FAはWeb Credentials機能と互換性がありません。

# ウェブロックアウト

TSplus Webロックアウトは、バージョン12.40で導入されたWebポータルロックアウト機能のユーザーインターフェースであり、アカウントのロックを解除し、高度な設定を編集するためのものです。

[HTML5 Webポータルのロックアウト機能の設定方法に関するFAQ](#)



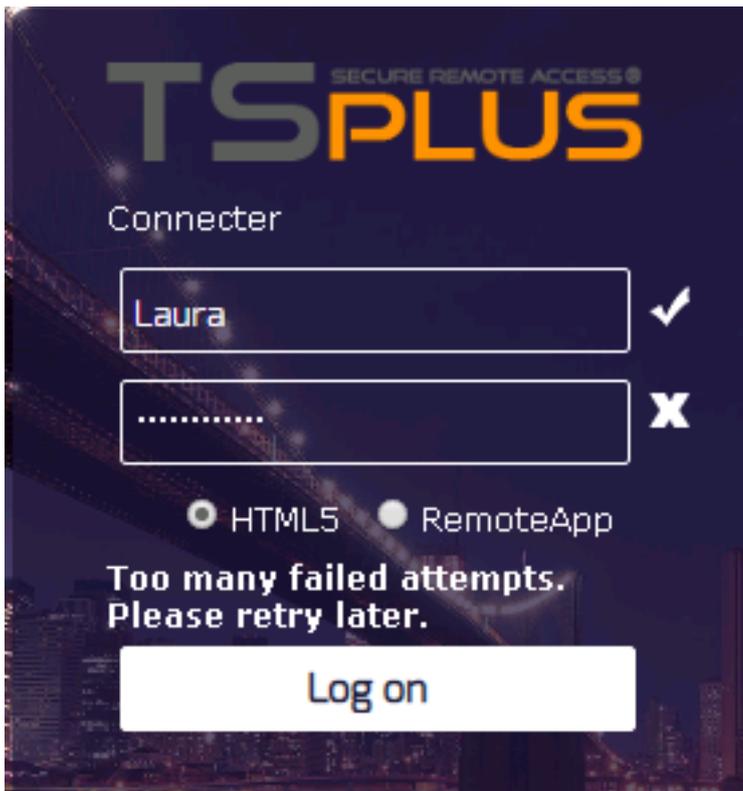
Name	Locked	Consecutive Failures	First Failure
DESKTOP-NQJKIV1\admin	No	1	
DESKTOP-NQJKIV1\edgar	No	1	
DESKTOP-NQJKIV1\root	No	1	

TSplusサーバーでのWebログイン試行のロックアウトモニター。試行を記録し、許可された失敗試行回数に達した後、対応するユーザーを自動的にブロックします。

アドレスが「ロックされた」列の下でロックされているかどうかを簡単に確認できます。

次の列は、各ユーザーの連続失敗回数を示しています。

ウェブポータルでは、ユーザーに対して失敗した試行が多すぎたことを示すメッセージが表示されます。



ユーザーは、AdminToolのWebタブにある使いやすい管理コンソールから、このリストから迅速に削除され、ブロック解除され、ホホワイトリストに追加されることができます。リセットまたはブロック解除したいユーザーをクリックし、「リセット」をクリックするだけです。

TSPplus - Administration Console

TSP PLUS REMOTE ACCESS

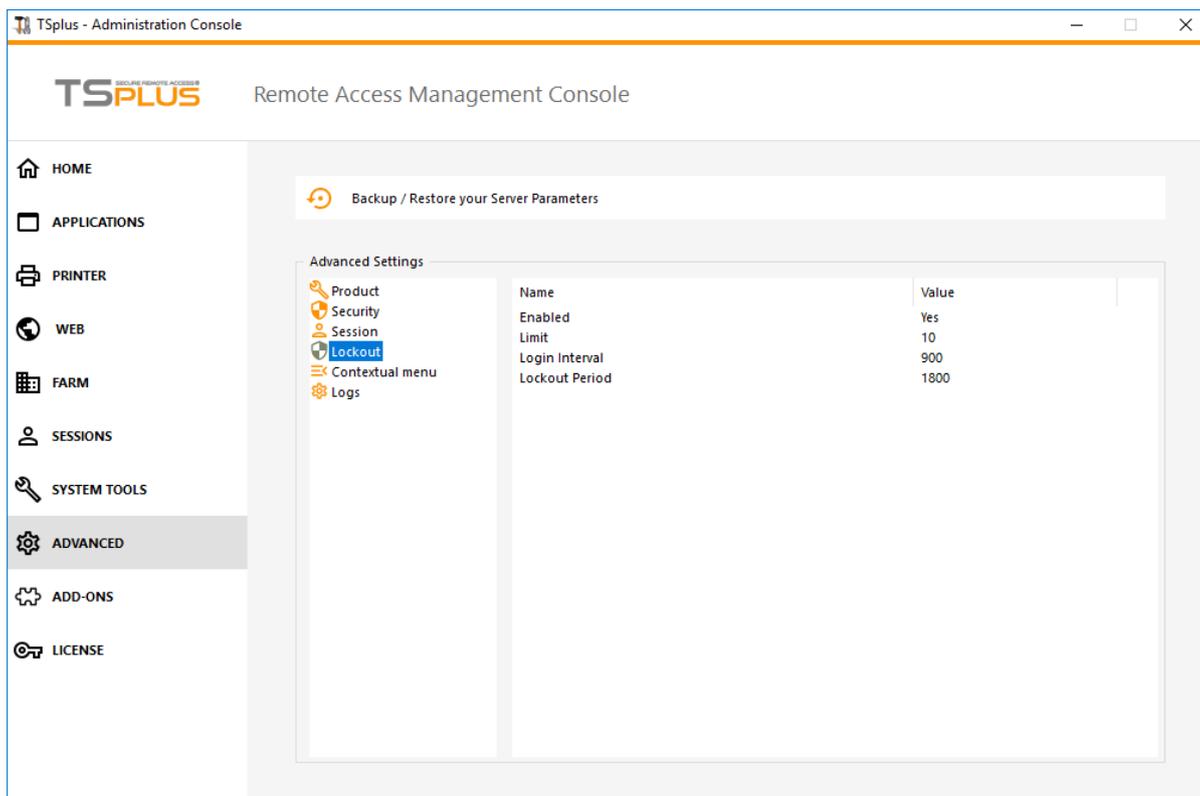
Lite Mode

Help English

Reset

Name	Locked	Consecutive Failures	First Failure
DESKTOP-NQJKIV1\admin	No	2	
DESKTOP-NQJKIV1\edgar	No	1	
DESKTOP-NQJKIV1root	No	1	

ユーザーのブロックの閾値は、AdminToolの高度な設定タブで管理者によって設定できます。



[ロックアウト設定を構成するには、ドキュメントを確認してください。](#)

## TSplus Advanced Securityのロックアウトとの統合

Webポータルでログイン失敗の試行が検出された場合、TSplus Advanced Securityは次のことを示します。「ロックアウトイベント」、セキュリティイベントビューアのユーザー名に対応：



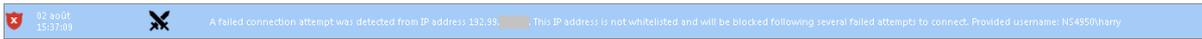
Webポータルからユーザー...に対して失敗したログイン試行が検出されました。このユーザーに対しては...1回の失敗したログイン試行が検出されました。

## TSplus Advanced Security ブルートフォース保護

TSplus Advanced Security ブルートフォース保護 カバーする クライアントI.P.アドレスの側面 したがって、RDP接続にも対応しています。

[失敗したブルートフォース接続試行](#) TSplus Advanced Security イベントログにも表示されます

( プロキシをブロックしないようにプライベートIPアドレスは除外されています ) :



接続試行が失敗したことがIPアドレス...から検出されました。このIPアドレスはホワイトリストに登録されておらず、接続の試行が数回失敗した後にブロックされます。提供されたユーザー名: Harry。

ロックアウトおよびブルートフォース保護に関する詳細情報は、確認してください。 [このドキュメント](#) そして [ブルートフォース保護のドキュメント](#)

# ウェブログインページ：ログインスプラッシュスクリーンの変更方法

## 概要

リモート接続が読み込まれているとき、HTML5クライアントは以下のスクリーンショットのようなデフォルトのスプラッシュスクリーンを表示しています。



このコンテンツは、JavaScript設定ファイルを変更することでカスタマイズできます。

## HTML5クライアント

### カスタマイズされたスプラッシュスクリーンコンテンツの作成

テキストやHTMLの任意の内容をスプラッシュスクリーンに使用できます。

また、シンプルな引用符 ( ' ) またはダブルクォート ( " ) を使用する必要がある場合は、引用符の前にバックスラッシュを記述する必要があります。

最後に、コンテンツは1行のみで記述する必要があることに注意してください。

次の例は、スプラッシュスクリーンの有効なコンテンツです。

# これは私のカスタマイズされたスプラッシュスクリーンです

こんにちは！

タイトル ( 「これは私のカスタマイズされたスプラッシュスクリーンです」 )、テキスト ( 「こんにちはと言ってください！」 )、および標準のTSplusスプラッシュスクリーンと同様のアニメーションリング画像が表示されます。

## スプラッシュスクリーンデータを変更して独自のコンテンツを使用する

「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\software\html5」フォルダーに「settings.js」という名前のファイルがない場合、あなたのTSplusのバージョンは古く、このドキュメントは適用されません。まずシステムを更新するか、サポートに連絡してください。

“C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\software\html5”フォルダーにある「settings.js」ファイルを編集してください。NotepadやNotepad++などのテキストエディタを使用することをお勧めします。 ない Wordを使用してください。

この行を探してください:

```
W.splashscreencontent = "
```

それを次の行で完全に置き換えます:

```
W.splashscreencontent = “ここにカスタマイズされたコンテンツを入力してください”;
```

終了の二重引用符とセミコロンを忘れないでください (”;)。

HTML5のログオンスプラッシュスクリーンの表示時間を延長したい場合は、ミリ秒単位の値を変更することで可能です。

```
W.splashscreentime = 5000; //スプラッシュスクリーンの再生時間。
```

変更されたHTMLページを保存した後は、ブラウザのキャッシュをクリアすることをお勧めします。



# Webログオンページ：ログオン後にログオンフォームを閉じる方法

## 概要

ウェブログオンページで、ユーザーが「ログオン」ボタンをクリックすると、選択したクライアント（HTML5またはWindows）が新しいブラウザタブで開きます。

時々、特にWindowsクライアントを使用しているときに、ユーザーにログオンフォームを隠したい場合があります。たとえば、ユーザーが「ログオン」ボタンを再度クリックするのを避けるためです。

使用するインターネットブラウザによって、このデフォルトの動作を変更する方法は2つの選択肢があります。どちらの解決策も、JavaScriptファイルを修正する必要があります。

## ソリューションA: ログオンタブを閉じる - Internet Explorer専用

このソリューションでは、ユーザーが「ログオン」ボタンをクリックすると、選択したクライアントが新しいブラウザのタブで開き、ログオンタブは自動的に閉じます。インターネットエクスプローラーのバージョンによっては、ユーザーにこのタブを閉じることを確認するよう求める小さなメッセージウィンドウが表示される場合があります。

“C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\software”フォルダーに保存されている「common.js」ファイルを編集してください。NotepadやNotepad++などのテキストエディタを使用することをお勧めします。 ない Wordを使用してください。

これらの行を検索してください:

```
p = 'software/remotapp.html';
window.name = " " + window.opforfalse;
if (cpwin != false) {
  cpwin.name = window.opforfalse;
  cpwin.location.replace(hostGateway + jwtsclickLinkBefore(getside(), p));
} else {
  window.open(hostGateway + jwtsclickLinkBefore(getside(), p), window.opforfalse);
}
```

それらを次の行に置き換えます:

```
p = 'software/remotapp.html';
window.name = " " + window.opforfalse;
if (cpwin != false) {
  cpwin.name = window.opforfalse;
  cpwin.location.replace(hostGateway + jwtsclickLinkBefore(getside(), p));
} else {
  window.open(hostGateway + jwtsclickLinkBefore(getside(), p), window.opforfalse);
}
window.open("", '_parent', "");
window.close();
```

**変更されたJavaScriptファイルを保存した後は、ブラウザのキャッシュをクリアすることをお勧めします。**

# ソリューションB: ログオンタブを別のウェブページにリダイレクト - すべてのブラウザ用

このソリューションでは、ユーザーが「ログオン」ボタンをクリックすると、選択したクライアントが新しいブラウザのタブで開き、ログオンタブが自動的に別のウェブページに移動します。

任意の既存のインターネットアドレス ( URL ) を使用できます。 <http://google.com> `http://your_intranet/your/page.html`、または「thankyou.html」をURLとして使用し、「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www」フォルダーに「thankyou.html」という名前のファイルを作成し、その中にHTMLコンテンツを入れることもできます。

“C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\software”フォルダーに保存されている「common.js」ファイルを編集してください。NotepadやNotepad++などのテキストエディタを使用することをお勧めします。 ない Wordを使用してください。

これらの行を検索してください:

```
p = 'software/remoteapp.html';
window.name = "" + window.opforfalse;
if (cpwin != false) {
    cpwin.name = window.opforfalse;
    cpwin.location.replace(hostGateway + jwtsclickLinkBefore(getside(), p));
} else {
    window.open(hostGateway + jwtsclickLinkBefore(getside(), p), window.opforfalse);
}
```

それらを次の行に置き換えます:

```
p = 'software/remoteapp.html';
window.name = " " + window.opforfalse;
if (cpwin != false) {
  cpwin.name = window.opforfalse;
  cpwin.location.replace(hostGateway + jwtsclickLinkBefore(getside(), p));
} else {
  window.open(hostGateway + jwtsclickLinkBefore(getside(), p), window.opforfalse);
}
window.location.href = "http://google.com";
```

**変更されたJavaScriptファイルを保存した後は、ブラウザのキャッシュをクリアすることをお勧めします。**

# Webログインページ：同じタブでHTML5クライアントを開く方法

## 概要

ウェブログインページで、ユーザーが「ログイン」ボタンをクリックすると、HTML5クライアントが新しいブラウザタブで開きます。

この動作を変更し、HTML5クライアントをWebログインページと同じブラウザタブで開くようにJavaScriptファイルを修正することができます。

## カスタム.jsファイルの変更

“C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www”フォルダーに保存されている“custom.js”ファイルを編集してください。NotepadやNotepad++などのテキストエディタを使用することをお勧めします。ない Wordを使用してください。

この行を追加してください:

```
var openinsamewindow = true;
```

変更されたJavaScriptファイルを保存した後は、ブラウザのキャッシュをクリアすることをお勧めします。

## common\_applications.jsファイルの修正

ターミナルサービスプラスWebアプリケーションポータル機能を使用している場合は、2つ目のファイルを編集する必要があります。「C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www\software」フォルダーに保存されている「common\_applications.js」ファイルを編集してください。NotepadやNotepad++などのテキストエディタを使用することをお勧めします。ない Wordを使用してください。

これらの行を検索してください:

```
if (childurl != "") {  
    window.name = childname;  
    location.href = childurl + '#';  
}
```

それらを次の行に置き換えます:

```
if (childurl != "") {  
    window.name = childname;  
    location.href = childurl + '#';  
}
```

変更されたJavaScriptファイルを保存した後は、ブラウザのキャッシュをクリアすることをお勧めします。



# SSO ( ベータ ) を使用したウェブポータル

## 主要な前提条件と制限事項

Web Portal 2026は、SSO用に設計されています。 クリエイティブ テーマとすべてのカスタマイズはAdminTool > Web > Webポータルカスタマイズから使用されます。 選択したテーマがない場合は クリエイティブ ウェブポータルは表示されません。

ファームで有効にされている場合、すべてのサーバーは実行する必要があります 同じ Remote Access バージョン および有効にする Web Portal 2026 with SSO

この機能は ベータ そしてすべきです ない 本番サーバーに展開される。

## 新しいWebポータルの理由は？

以前のWebポータルと比較して、この実装は負荷の下でより高い信頼性と優れたパフォーマンスを提供します。さらに、次のことが可能です：

- **高度なSSO機能**
  - Windows統合認証 ( ネゴシエート / Kerberos / NTLM )
  - サードパーティのアイデンティティプロバイダー統合 ( 現在SAML )
- **より強力なセキュリティ制御**
  - 組み込みの不正防止対策
  - エンドポイントレート制限
  - モダン認証とクッキー/セッションコントロール

そのアーキテクチャにより、潜在的なセキュリティ監査のフィードバックに簡単に対処できるようになります。

それはまた一つの よりアクセスしやすい製品 推奨事項と改善されたコントラストを通じて。

## Webサーバーの柔軟性 ( デフォルトでKestrel )

アプリケーションは1つのフロントエンドWebサーバーに結び付けられていません。デフォルトでは、次のように実行されます。ケストレル (HTTPポート81)。それは前面に置かれることができます IIS または アパッチ ウェブサーバーの設定を変更することによってリバースプロキシとして。

ApacheリバースプロキシからWebポータルサービスへ

```
# Apache VirtualHost example
ProxyPreserveHost On
ProxyPass      / http://127.0.0.1:81/
ProxyPassReverse / http://127.0.0.1:81/

RequestHeader set X-Forwarded-Proto "https"
RequestHeader set X-Forwarded-For "%{REMOTE_ADDR}s"
```

これにより、Apacheが公開HTTP/HTTPSの露出を処理する間、Webポータルのロジックは変更されません。

興味がある場合は、開発チームにお問い合わせください。このシナリオはまだAdminToolプログラムからアクセスできず、手動で設定する必要があります。

## SSOを使用して2026年のWebポータルを有効にする

1. オープン 管理ツール
2. Web > ウェブサーバー
3. 有効にする : **Webポータル2026とSSO**

HOME

APPLICATIONS

PRINTER

WEB

FARM

SESSIONS

SYSTEM TOOLS

ADVANCED

ADD-ONS

LICENSE

Web > Web Server

Default HTTP web server

A built-in HTTP Web Server is provided with TSplus. However, you can use a different one (IIS or Apache for example).

Use the built-in HTTP web server

Use a different HTTP web server

When using IIS or Apache, its HTTP port number must be set to 81. (Tunneling forwards this 81 port into the public HTTP port 80)

Enable Web Portal 2026 for SSO - Windows Integrated and External Authentication (beta)

Change the Web Server root path

You can change the Web Server default root path. The current Web Server root path is:

C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\www

Select a new Web Server root path

Web servers options

Change the HTTP/HTTPS port numbers. Will not change IIS or Apache port settings.

HTTP: 80

HTTPS: 4443

Save and Restart Web Server

**重要** このオプションはベータ版です。テスト環境でのみ使用してください。

## サポートされているサインインモード

Web Portal 2026はSSOをサポートしています:

- Windows資格情報を使用した従来のログインフォーム
- ウェブ認証情報。参照してください: <https://docs.tsplus.net/tsplus/web-credentials/>
- Windows統合認証 (信頼された/ローカルシナリオで自動)
- 外部アイデンティティプロバイダー経由 **SAML** エントラ ID (以前の Azure AD) または Okta

外部認証のサポートについて **OIDC** 後で計画、リクエストに応じて

## 2FAの動作

2FAは、標準アカウントフローに適用されます。これには以下が含まれます:

- Windows資格情報を使用したログインフォーム
- ウェブ認証情報
- Windows統合認証

外部認証プロバイダーは、独自のMFA / 2FAを強制することがよくあります。そのため、Remote Access 2FAアドオンで設定された2FA構成は、このシナリオには適用されません。

ローカルネットワークバイパスは以下を通じて利用可能です CustomSettings:ローカルネットワークのTwoFaバイパス ファイル内のパラメータ : C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webportal\appsettings.json 、どこ C:\Program Files (x86)\TSplus これはTSplus Remote Accessのセットアップフォルダーです。有効にすると、クライアントとゲートウェイが同じプライベートサブネットにいる場合のみバイパスが発生します。

## Windows認証フローを構成する

Windows認証でサインインするユーザーには、次のいずれかが必要です。

1. TSplusコマンドで資格情報を事前登録します: AdminTool.exe /windowscredential-addorupdate ドキュメントを参照してください。 <https://docs.tsplus.net/tsplus/commands-list/#add-or-update-credentials-to-the-windows-credentials-manager-windowscredential-addorupdate>
2. ユーザーがWindowsの資格情報を使用してWebポータルログインフォームを通じて一度サインインできるようにします。

Windows統合認証を構成するには、次を参照してください : Active DirectoryドメインでWindows統合認証を有効にします。この認証モードは構成が難しいため、顧客は外部アイデンティティプロバイダーの設定を好むことがよくあります。

## 外部認証 (SAML) を設定する

### 外部アプリケーションの必要な設定

外部アプリケーションは次のように構成する必要があります:

- シングルサインオンURL WebポータルSAMLコンシューマサービスエンドポイントに設定する必要があります。例えば、 <https://mywebportal.company.com/Saml/acs>
- オーディエンス URI (SP エンティティ ID) Webポータルのドメイン名またはIPアドレスに設定する必要があります。例 : <https://mywebportal.company.com>
- 名前ID形式 設定する必要があります メールアドレス
- アプリケーションユーザー名 設定する必要があります メール 、左側の部分はWindowsアカウントのユーザー名を識別します。

### 必要な設定は appsettings.json

ファイル appsettings.json にあります C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webportal 、どこ C:\Program Files (x86)\TSplus TSplus Remote Accessのセットアップフォルダーです。

編集する SAML2 セクション :

- IdPメタデータ
- 発行者
- シングルサインオンの宛先 (メタデータが提供されている場合はオプション)
- シングルログアウト先 (メタデータが提供されている場合はオプション)
- 証明書関連フィールド

例えば、サードパーティのアイデンティティプロバイダーoktaを使用する場合 :

```
"Saml2": {  
  "IdPMetadata": "https://mycompany.okta.com/app/abcdefgh12345678/sso/saml/metadata",  
  "Issuer": "https://portal.mycompany.com",  
  "SingleSignOnDestination": "https://mycompany.okta.com/app/mycompany_portalsaml_1/  
abcdefgh12345678/sso/saml",  
  "SingleLogoutDestination": "https://mycompany.okta.com",  
  "SignatureAlgorithm": "http://www.w3.org/2001/04/xmldsig-more#rsa-sha256",  
  "SigningCertificateFile": "",  
  "SigningCertificatePassword": "",  
  "SignatureValidationCertificateFile": "okta.identity.saml2.portal.cert",  
  "CertificateValidationMode": "ChainTrust",  
  "RevocationMode": "Offline",  
  "XmlCanonicalizationMethod": "http://www.w3.org/2001/10/xml-exc-c14n#" }  
}
```

発行者設定は、外部アイデンティティプロバイダー側で定義されたオーディエンスURIを設定します。

もしも 署名検証証明書ファイル 設定は他の値に設定されています なし その後、証明書がアプリケーションサーバーで有効と見なされることを確認してください。これには、証明書を信頼された証明書のリストにマシン全体で追加する必要がある場合があります。

## セッション開始のためのWindowsパスワードの利用可能性

外部SAML認証の場合、セッションを開始するには依然として使用可能なWindows資格情報が必要です。次のいずれかを使用してください：

1. Windowsの資格情報をコマンドで登録します：AdminTool.exe /windowscredential-addorupdate ドキュメントを参照してください。 <https://docs.tsplus.net/tsplus/commands-list/#add-or-update-credentials-to-the-windows-credentials-manager-windowscredential-addorupdate>
2. IdPクレームからパスワードを転送するには設定します カスタム設定：Samlパスワードクレームを使用する Windowsパスワードを含む請求タイプに対して。

通常、Webポータルはユーザーのメールアドレスの'@'の前の部分をWindowsアカウントのユーザー名として使用します。

現在、外部認証はローカルユーザーと連携していますのでご注意ください。

パスワードがクレームまたは資格情報ストアから利用できない場合、ユーザーの検証は失敗します。

## appsettings.jsonの完全な設定ファイルリファレンス

ファイル appsettings.json にあります C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webportal 、どこ C:\Program Files (x86)\TSplus TSplus Remote Accessのセットアップフォルダーです。

### ログ記録

パラメータ	目的	可能な値	デフォルト
ログ:ログレベル:デフォルト	グローバル最小ログレベル。	トレース , デバッグ , 情報 , 警告 , エラー , 重要 , なし	情報
ログ:ログレベル:Microsoft.AspNetCore	ASP.NET Coreフレームワークのログレベル。	上記と同じ	警告
ログ:ログレベル:Microsoft.AspNetCore.Authentication	認証サブシステムのログレベル。	上記と同じ	警告

### グローバルホスト設定

パラメータ	目的	可能な値	デフォルト
-------	----	------	-------

許可されたホスト	ASP.NET Coreホスト保護のためのホストヘッダーのフィルタリング。	* (すべて) またはセミコロン区切りのホストリスト	*
----------	---------------------------------------	----------------------------	---

## IPレート制限

パラメータ	目的	可能な値	デフォルト
IpRateLimiting:エンドポイントレート制限を有効にする	エンドポイント固有のスロットリングルールを有効にします。	真実 / 偽	真実
IpRateLimiting:StackBlockedRequests	もし 真実 リクエストがブロックされると、カウンターが増加し続けます。	真実 / 偽	偽
IpRateLimiting:HttpStatusCode	リクエストがブロックされたときに返されるHTTPステータス。	整数HTTPコード ( 通常 429 )	429
IpRateLimiting:ReallpHeader	プロキシの背後にあるクライアントIPを解決するために使用されるヘッダー。	ヘッダー名	X-Forwarded-For
IpRateLimiting:ClientIdHeader	カスタムレート制限のためのオプションのクライアントIDヘッダー。	ヘッダー名	X-ClientId

## IpRateLimiting:一般ルール

各ルールオブジェクトには次のものがあります :

パラメータ	目的	可能な値	出荷ファイルのデフォルト
エンドポイント	ルート/メソッドパターンを保護する。	フォーマット VERB:/path	複数のデフォルト ( 下記参照 )
期間	レートウィンドウ。	例えば 1秒 , 1分 , 5分 , 1時間 , 1日	5分 すべてのデフォルトルールについて
制限	期間内の最大リクエスト数。	正の整数	5 すべてのデフォルトルールについて

## Saml2

パラメータ	目的	可能な値	デフォルト
Saml2:IdPメタデータ	SAMLプロバイダー設定をロードするために使用されるIdPメタデータURL。	有効なHTTPS URL	""
Saml2:発行者	SPエンティティID (このWebポータルID)。	URI文字列	""
Saml2:SingleSignOnDestination	IdP SSO エンドポイントURL (メタデータから自動解決可能)。	HTTPS URL	""
Saml2:SingleLogoutDestination	IdP SLO エンドポイントURL (メタデータから自動解決可能)。	HTTPS URL	""
Saml2:署名アルゴリズム	XML署名アルゴリズム。	SAMLライブラリによって受け入れられるURI値	http://www.w3.org/2001/04/xmldsig-more#rsa-sha256
Saml2:SigningCertificateFile	アプリケーションのベースパスに対する相対的なローカルSP署名証明書ファイル。	ファイル名/パス	""
Saml2:SigningCertificatePassword	署名証明書ファイルのパスワード。	文字列	""
Saml2:署名検証証明書ファイル	IdP証明書ファイルは、署名を検証するために使用されます (メタデータが証明書を提供する場合はオプション)。	ファイル名/パス	""
Saml2:証明書検証モード	証明書チェーン検証モード。	なし, ピアトラスト, チェーントラ	チェントラスト

		スト, ピア またはチェー ントラスト, カスタムルー ト信頼	
Saml2:取り消しモード	証明書失効の動 作。	ノーチェッ ク, オンラ イン, オフ ライン	オフライン
Saml2:XmlCanonicalizationMethod	XML正規化アル ゴリズムURI。	XML-DSig 正 規化 URI	http:// www.w3.org/2001/10/ xml-exc-c14n#

## カスタム設定

中に appsettings.json これらの値は文字列として保存されます ( 真実 / 偽 ) と .NET 構成バインディングによってブール値にマッピングされます。

パラメータ	目的	可能な値	デフォルト
カスタム設定 : アプリケーションのフルパスを使用	アサインされたアプリをリスト表示または起動する際に、アプリケーションのフルパスが使用されるかどうかを制御します。	真実 / 偽	偽
CustomSettings:ローカルホストでの自動Windows認証を有効にする	ローカルホスト/ループバックシナリオでの自動Windows認証を許可します。	真実 / 偽	偽
カスタム設定:パスワード暗号化を有効にする	HTML5の起動接続文字列でRSAパラメータを使用してドメイン/ユーザー名/パスワードを暗号化します。	真実 / 偽	真実
CustomSettings:ローカルネットワークのTwoFaバイパス	クライアントがサーバーと同じプライベートサブネットにいる場合、Webポータル2FAをバイパスします。	真実 / 偽	偽
カスタム設定 : Samlパスワードクレームを使用する	SAMLクレームタイプは、セッション起動のために転送されたWindowsパスワードとして使用されます。	請求タイプ URI/名前または空の文字列	""

## トラブルシューティング

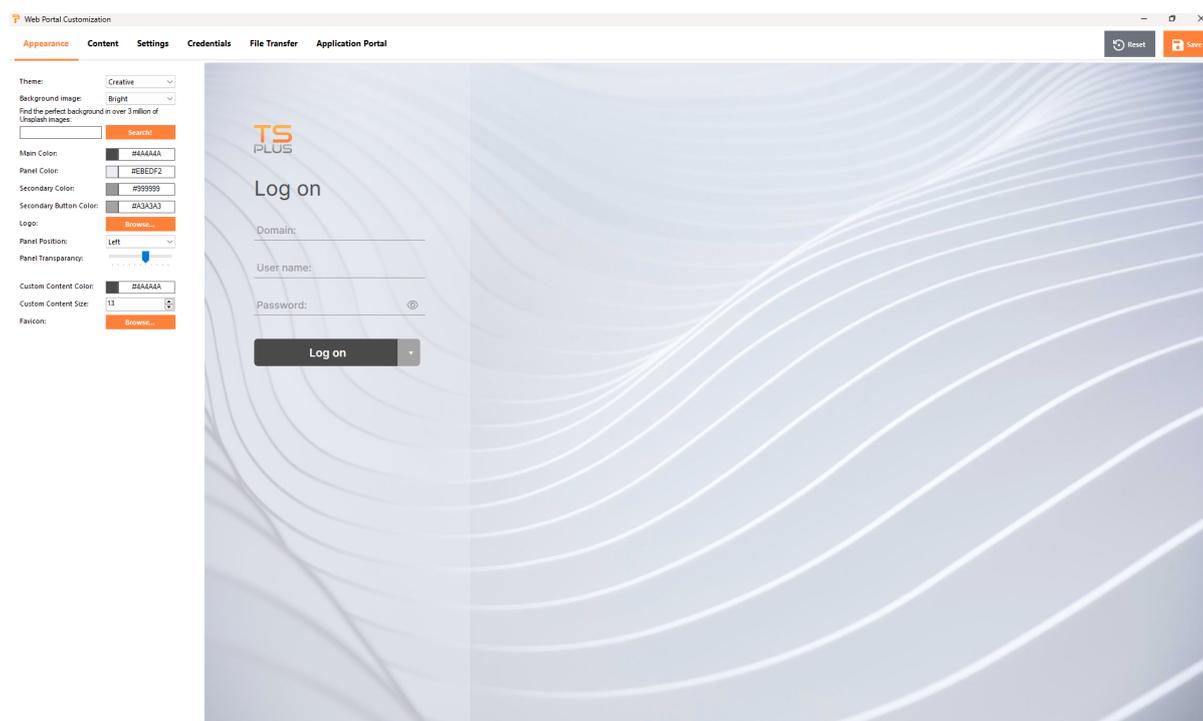
Web Portal 2026のSSOログは、AdminTool > Advanced > Logs > Web Portal logから有効にできます。

結果として WebPortal.log ログファイルはにあります C:\Program Files (x86)\TSplus\Clients\webportal 、どこ C:\Program Files (x86)\TSplus TSplus Remote Access のセットアップフォルダーです。

# Webポータルのカスタマイズを使用してHTMLウェブアクセスページを作成およびカスタマイズする

Webポータルのカスタマイズを使用すると、独自のカスタマイズされたHTML Webアクセスページを作成でき、そこにはウェブ開発者である必要はありません！

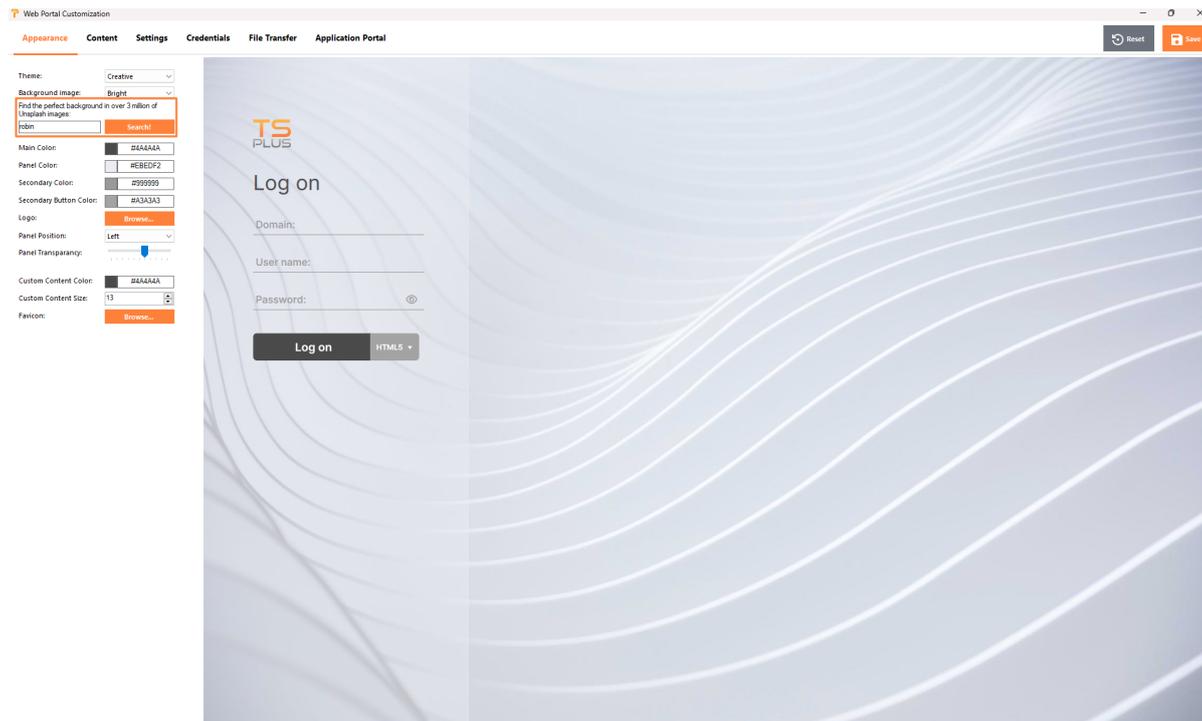
## ウェブポータルのカスタマイズ - 外観



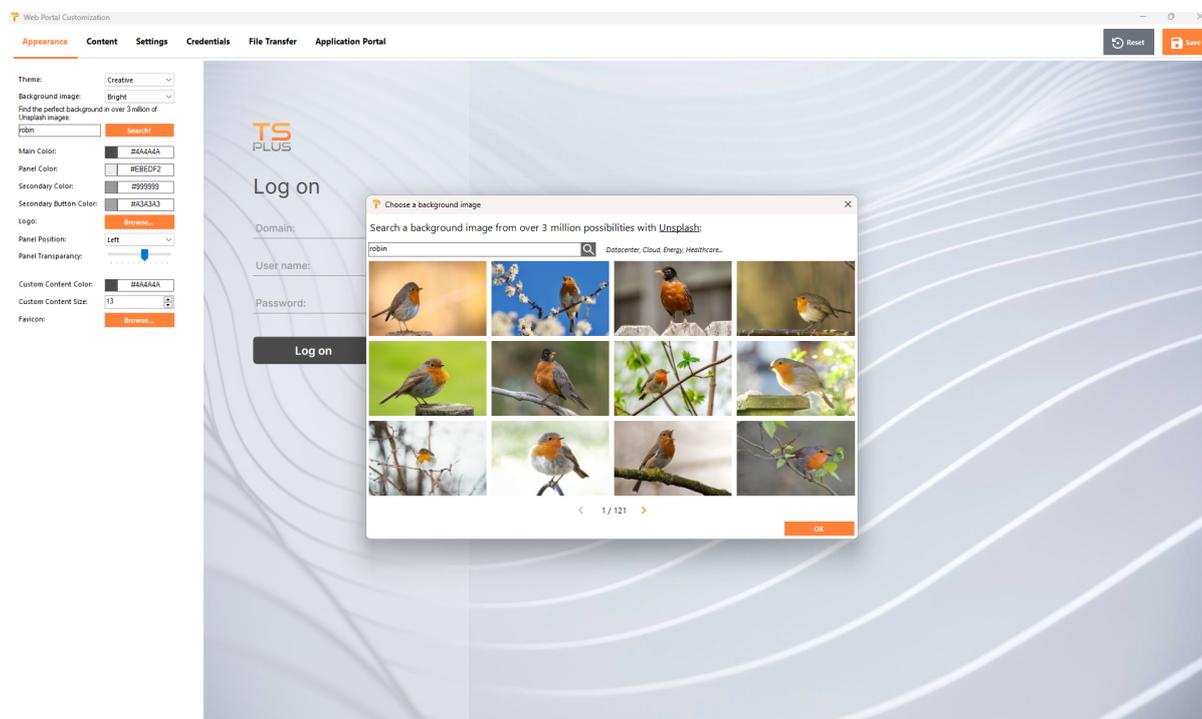
外観タブを使用すると、すべてのグラフィック設定をカスタマイズし、自分のロゴを追加することができます。

写真のコレクションから選ぶことも、自分の写真を追加することもできます。また、好きな背景色で任意のカラーテーマを設定することも、クラシックテーマのいずれかを使用することもできます。

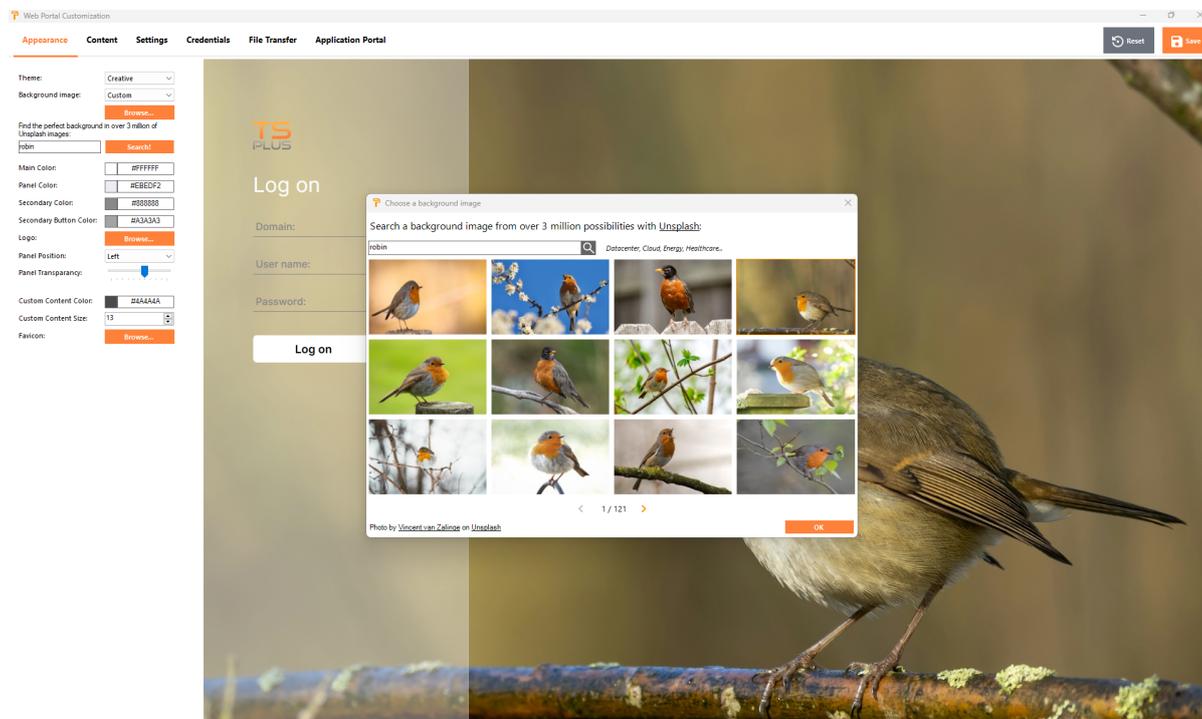
Unsplashライブラリから背景画像を検索するためのキーワードを入力することもできます。



画像のコレクションを表示して選択できるようにします。

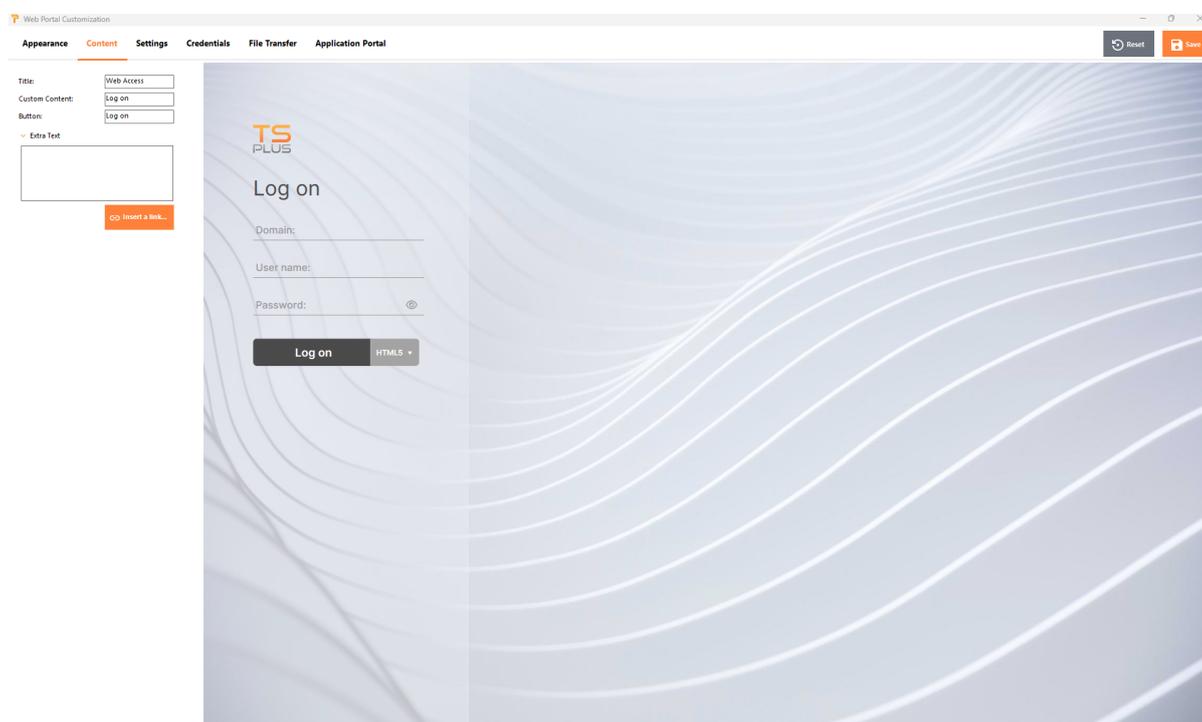


お気に入りの画像を選択して、ウェブポータルで結果を確認してください。

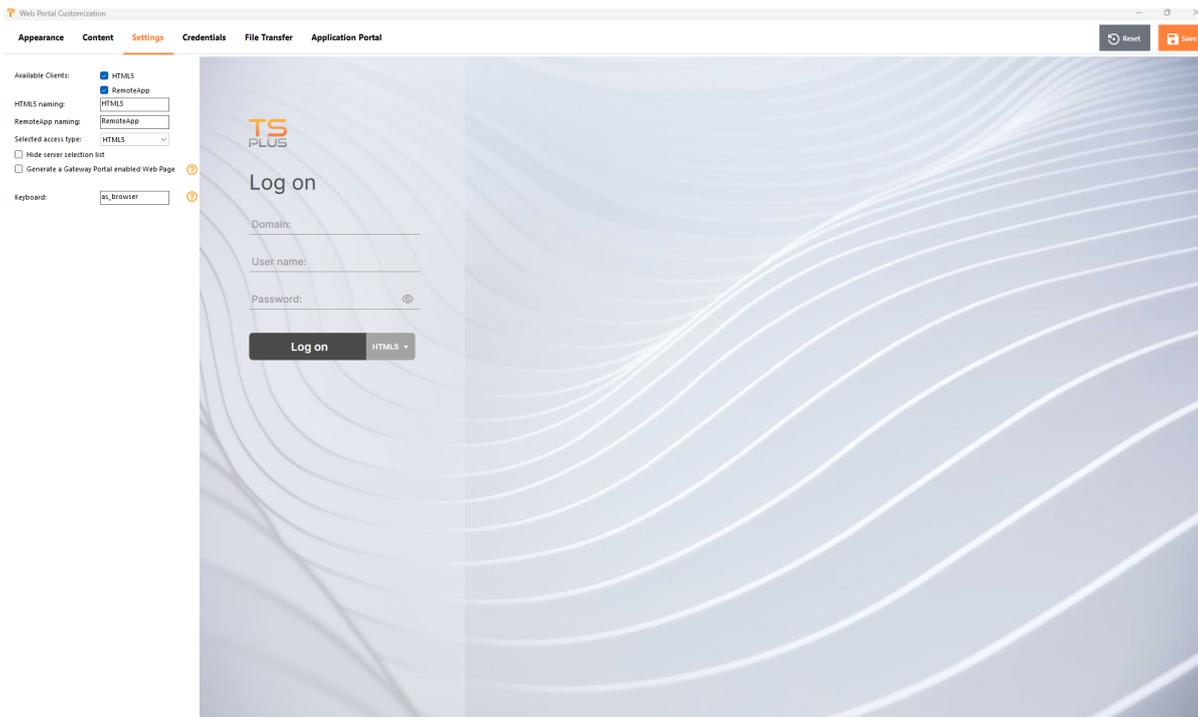


テーマの色は、選択を「OK」ボタンで確認すると、自動的に選択した画像に適応します。もちろん、希望に応じて色をパーソナライズすることもできます。

## ウェブポータルのカスタマイズ - コンテンツ

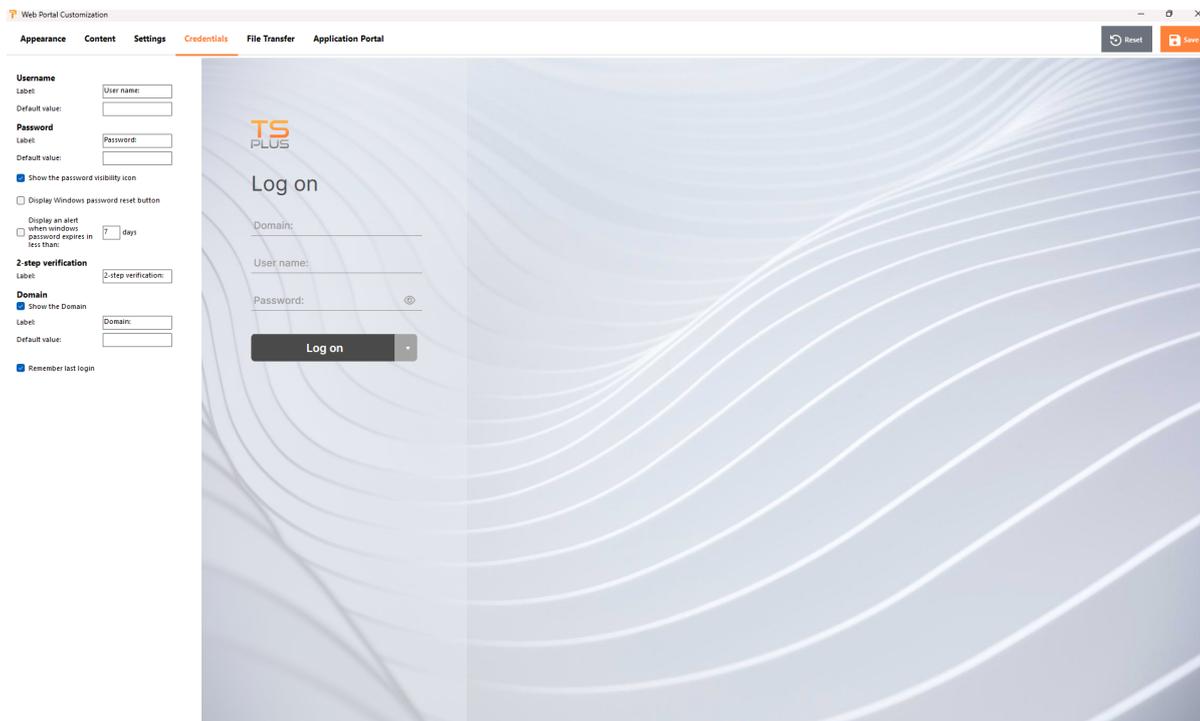


## ウェブポータルのカスタマイズ - 設定

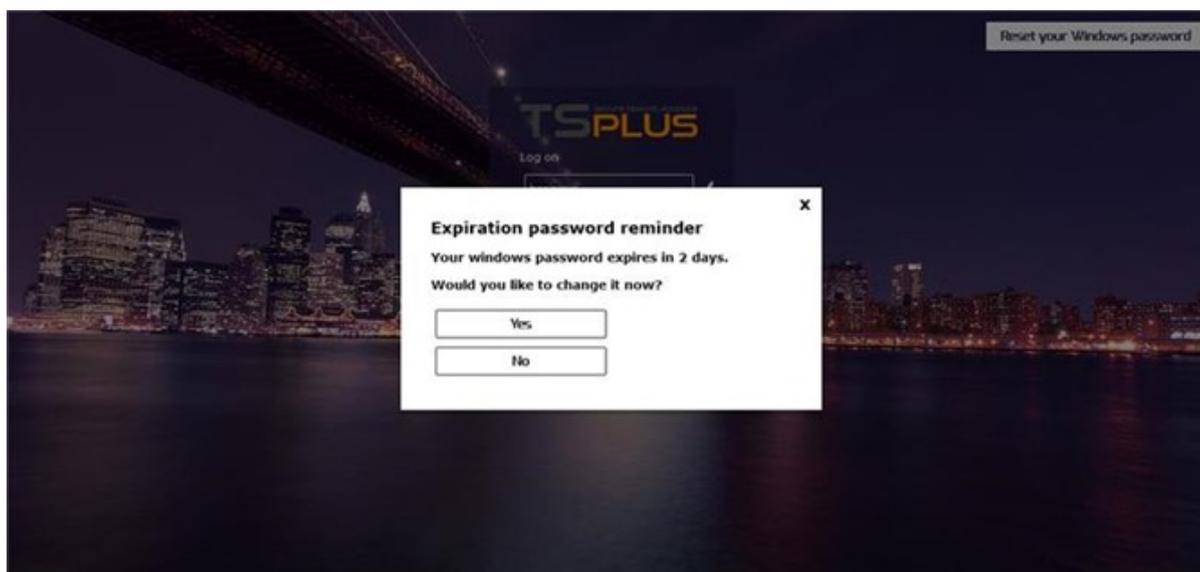


- “ 利用可能なクライアント 2種類のウェブ接続クライアントの中から選択してください。両方がチェックされている場合、ユーザーは選択できません。これらのオプションに使用される名前は、Webポータルで変更できます。また、両方のオプションが利用可能な場合、デフォルトで選択されるオプションを選択することもできます。
- “ ゲートウェイポータル ゲートウェイポータルが有効なページをアクティブにするには、これをチェックしてください。この機能は、サーバーをユーザーまたはグループに割り当てる際に追加の認証ステップを追加します。
- “ キーボード 高度なキーボード要件を持つ特別な管理者のみ対象です。

## ウェブポータルのカスタマイズ - 認証情報

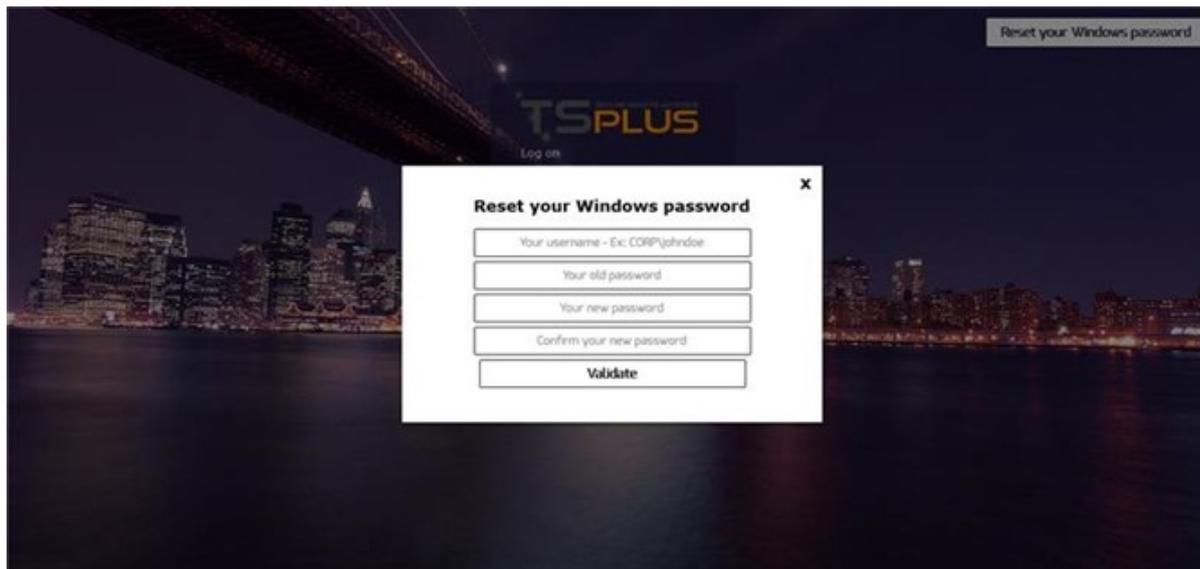


- “ラベル ユーザー名、パスワードなどを指定するために使用されるテキストを変更できます。”
- “デフォルト値 デフォルトのログイン、パスワード、およびドメインを指定して、ログインフィールドに自動的に入力されるようにすることができます。ここにあるすべての設定は、index.htmlファイルに保存されており、好みに応じてコピーして名前を変更できます。”
- “ドメインフィールドを表示 ドメインフィールドがログイン情報リクエストに含まれる場合は、チェックを入れてください。”
- “パスワード 接続中にウェブポータルを通じて表示されるアラートメッセージを追加して、ユーザーにパスワードの有効期限を通知できます。たとえば、ユーザーのWindowsパスワードが3日未満で期限切れになる場合、次のポップアップが表示されます。”

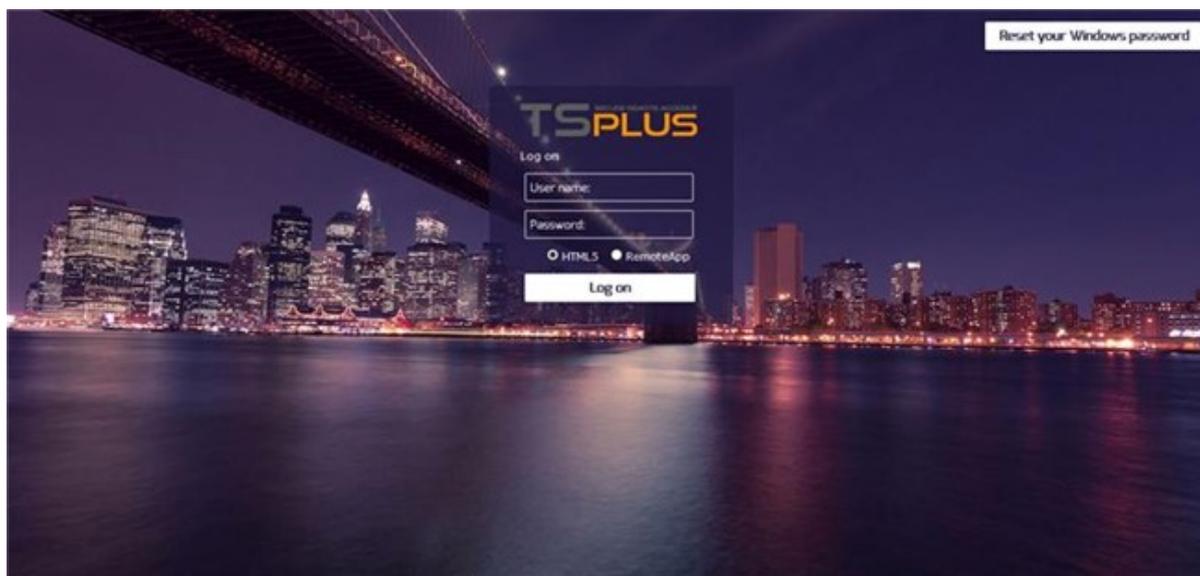


言及したように、彼は下に表示されたポップアップを使用してWebポータルから直接変更する

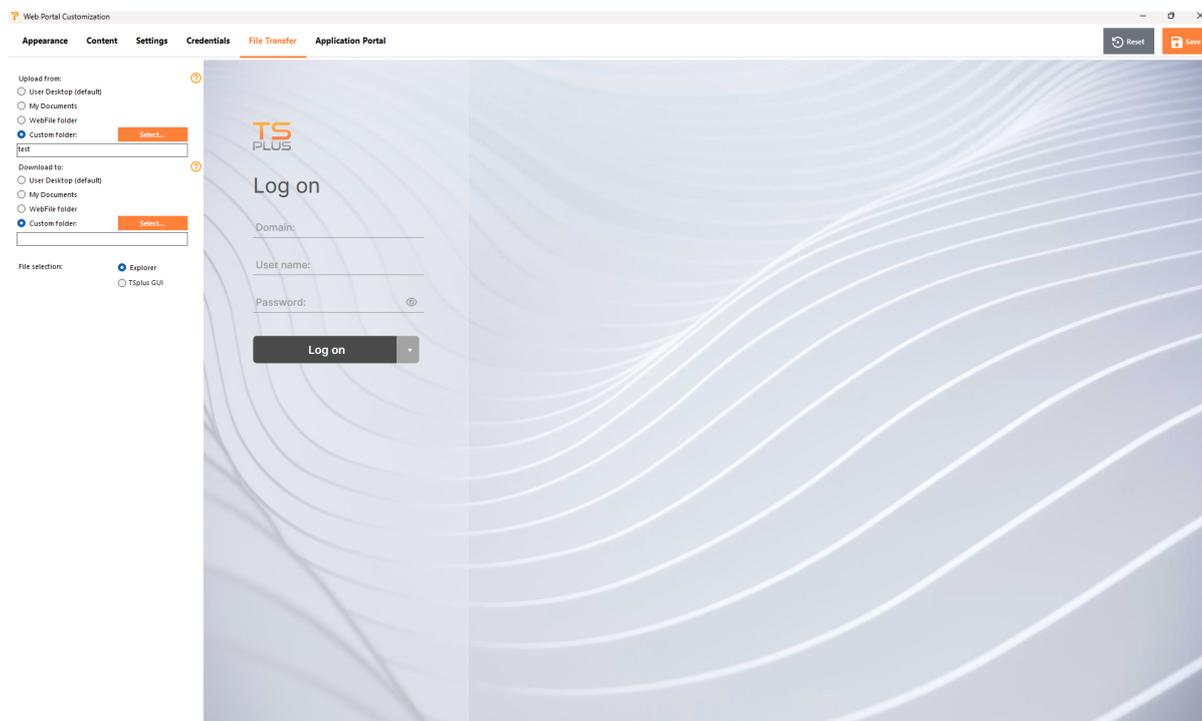
可能性を持っています。



ユーザーが「ウィンドウのパスワードリセットボタンを表示する」オプションをチェックすることで、いつでも直接ウィンドウを変更できるようにすることもできます。

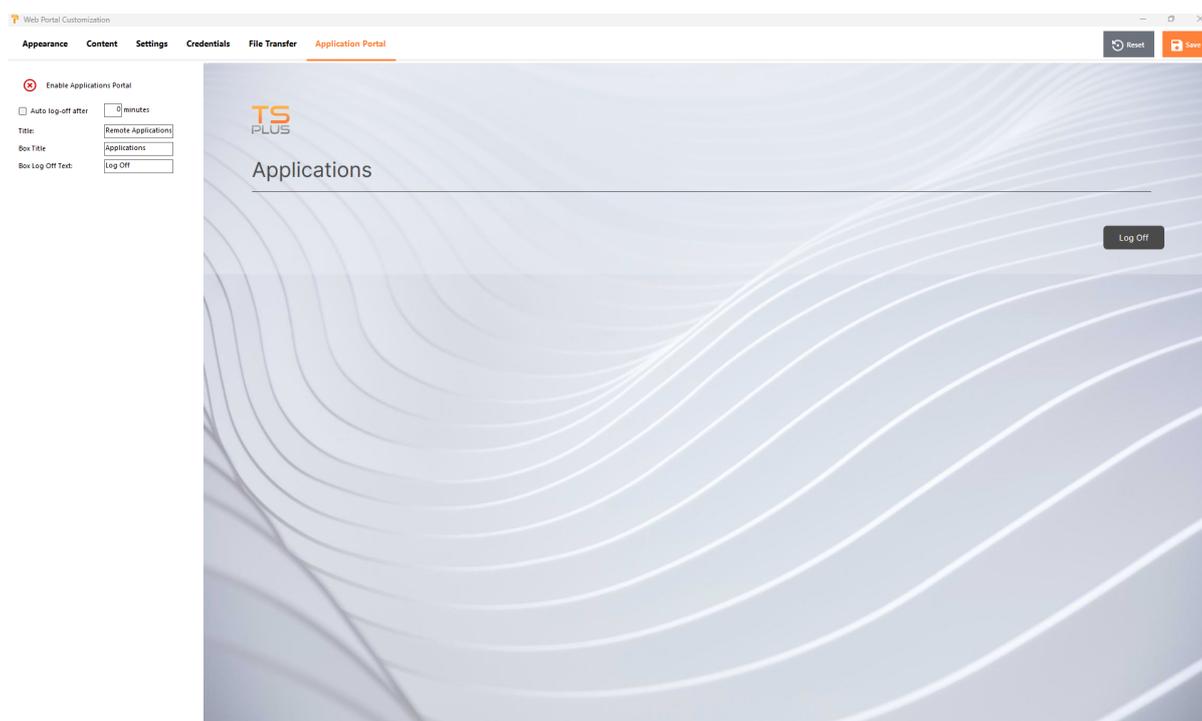


## ウェブポータルのカスタマイズ - ファイル転送



- “アップロード - ダウンロード” ソースと宛先のパスを選択してファイルのアップロードとダウンロードを行います。

## ウェブポータルのカスタマイズ - アプリケーションパネル



アプリケーションポータルに関する詳細情報は見つかります [ここ](#) .

# 入力した値を保存し、デフォルトの値にリセットする

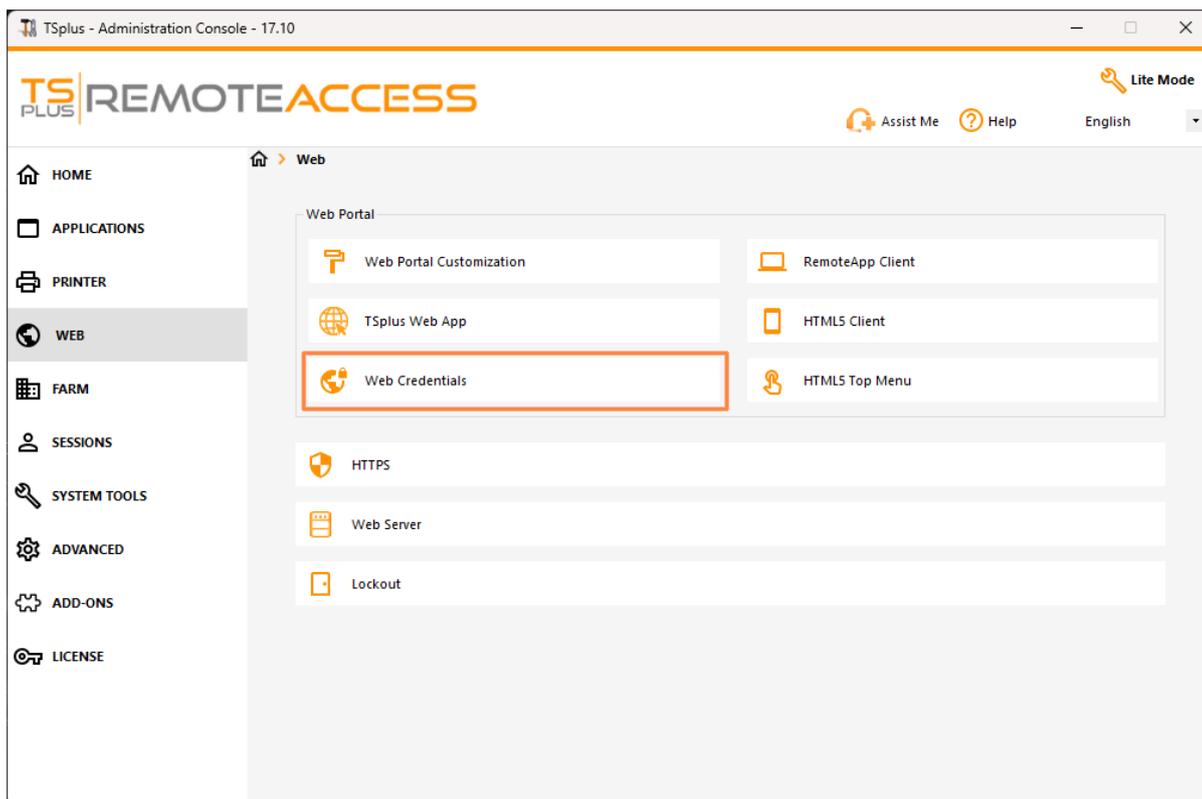
変更をすべて保存するために「保存」ボタンをクリックするのを忘れないでください。

元の値にリセットしたい場合は、「リセット」ボタンをクリックしてください。

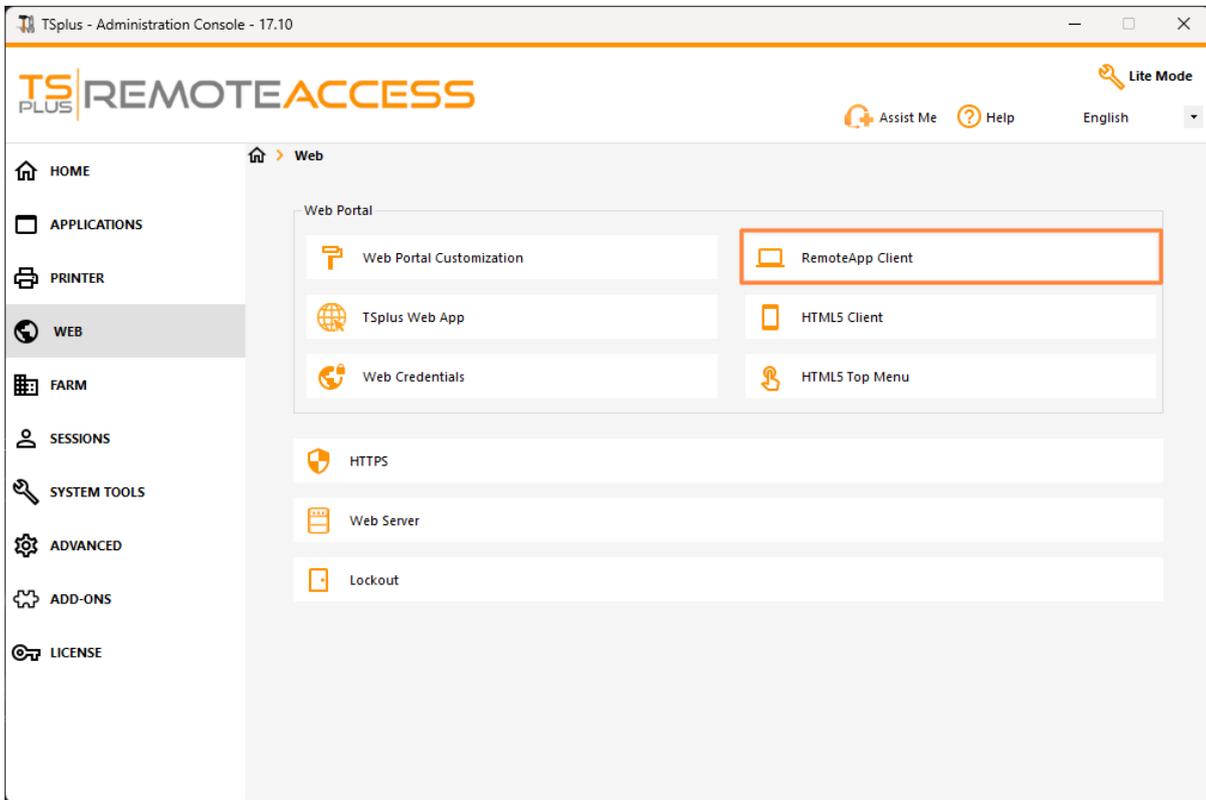
## ウェブ認証情報

「Web 認証情報」セクションでは、[有効化（または無効化）することができます] [ウェブ認証情報](#) 機能。

Web Credentialsを使用する際、空のパスワードを許可することを検討するかもしれません。空のパスワードのみのWeb Credentialsがある場合は、ウェブログインページをさらに簡素化するために「パスワードフィールドを表示」オプションのチェックを外すことをお勧めします。

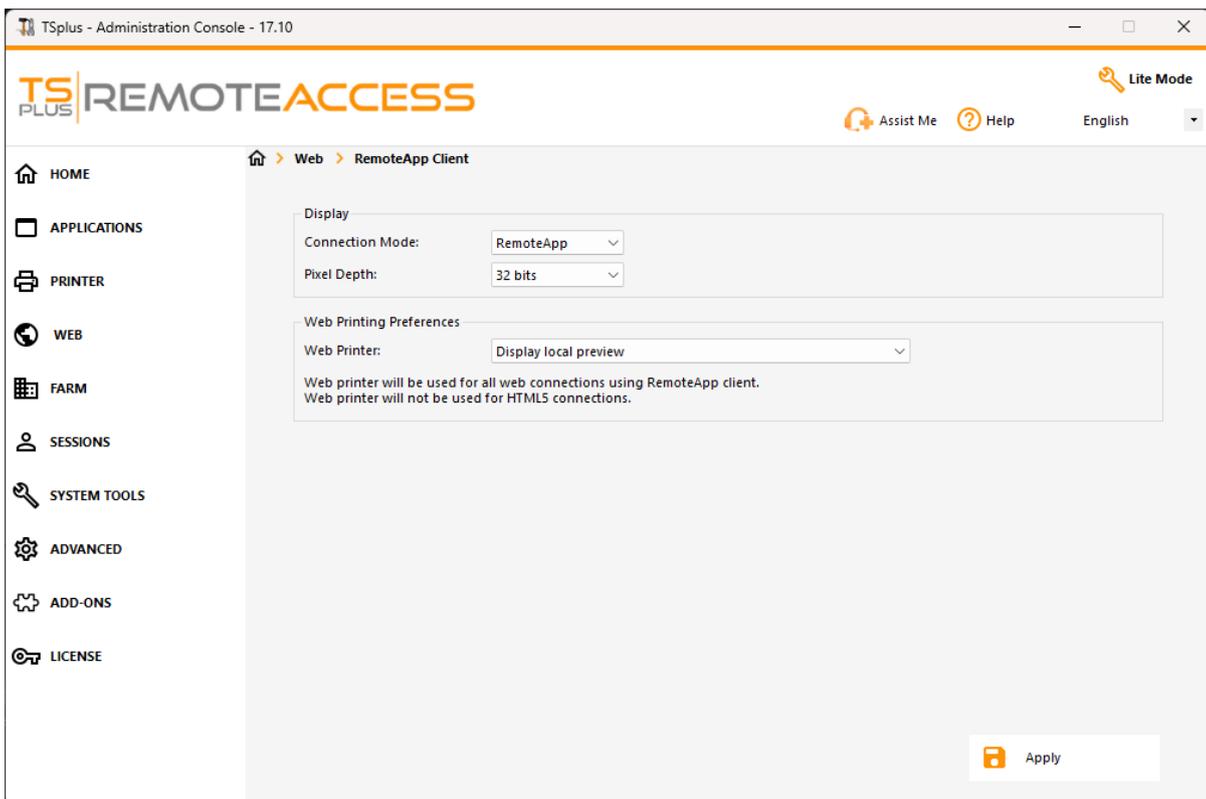


## リモートアプリタイトル

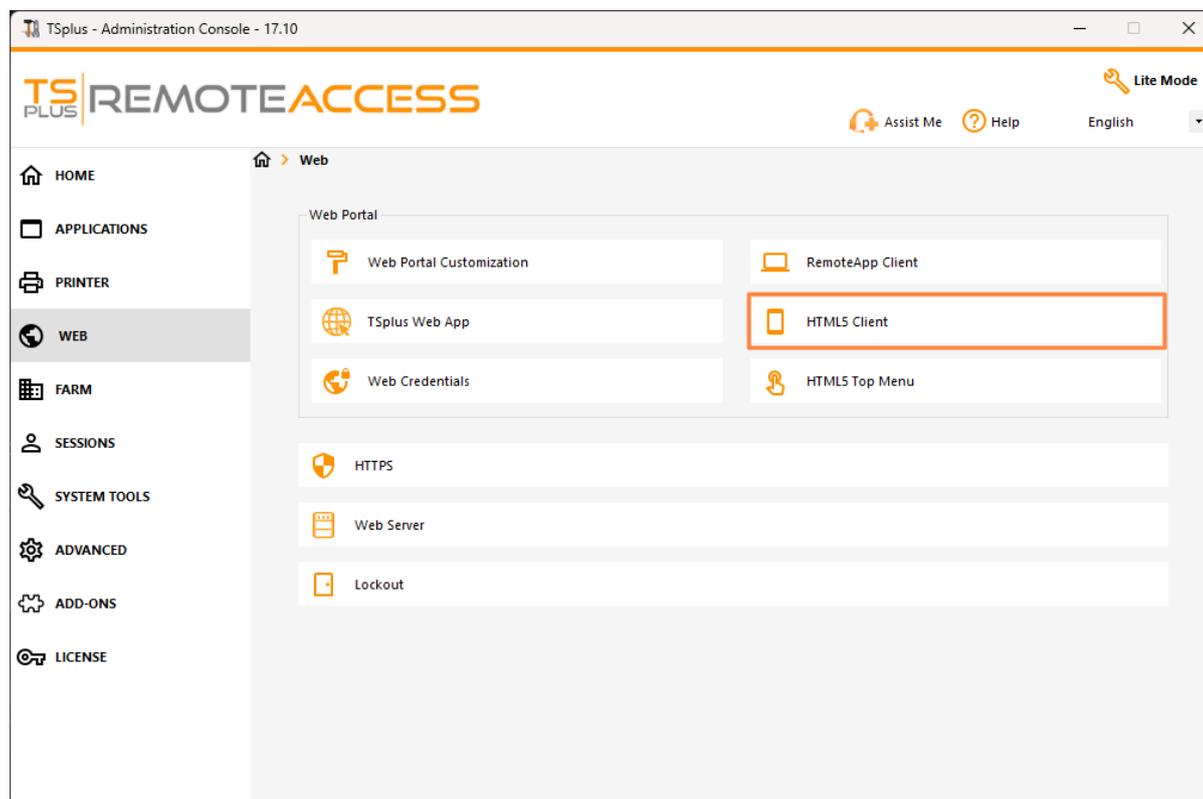


このタイルはWindowsクライアント専用の設定です。

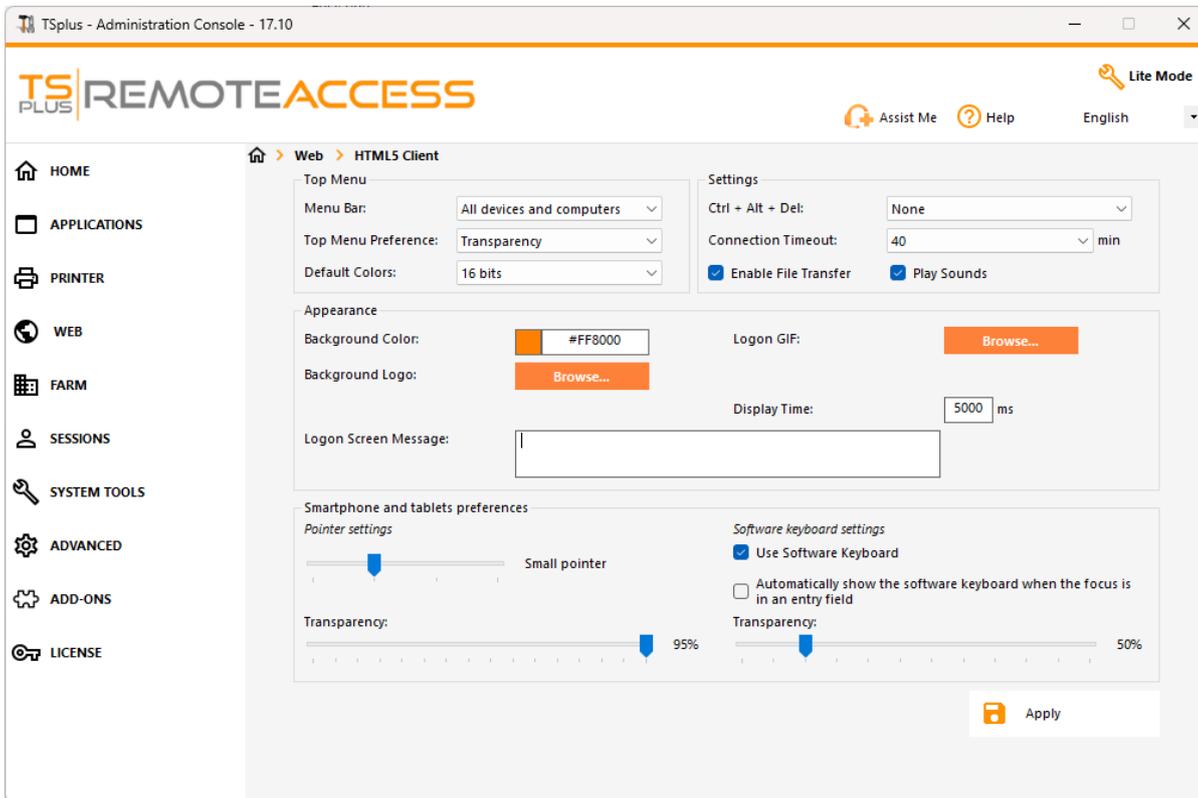
リモートデスクトップなしのリモート接続であるRemoteAppまたは標準RDPの間で表示を選択できます。また、ドキュメントをユーザーのデフォルトプリンターで印刷するか、ローカルプレビューを表示するか、ローカルプリンターの選択をするかを決定することもできます。



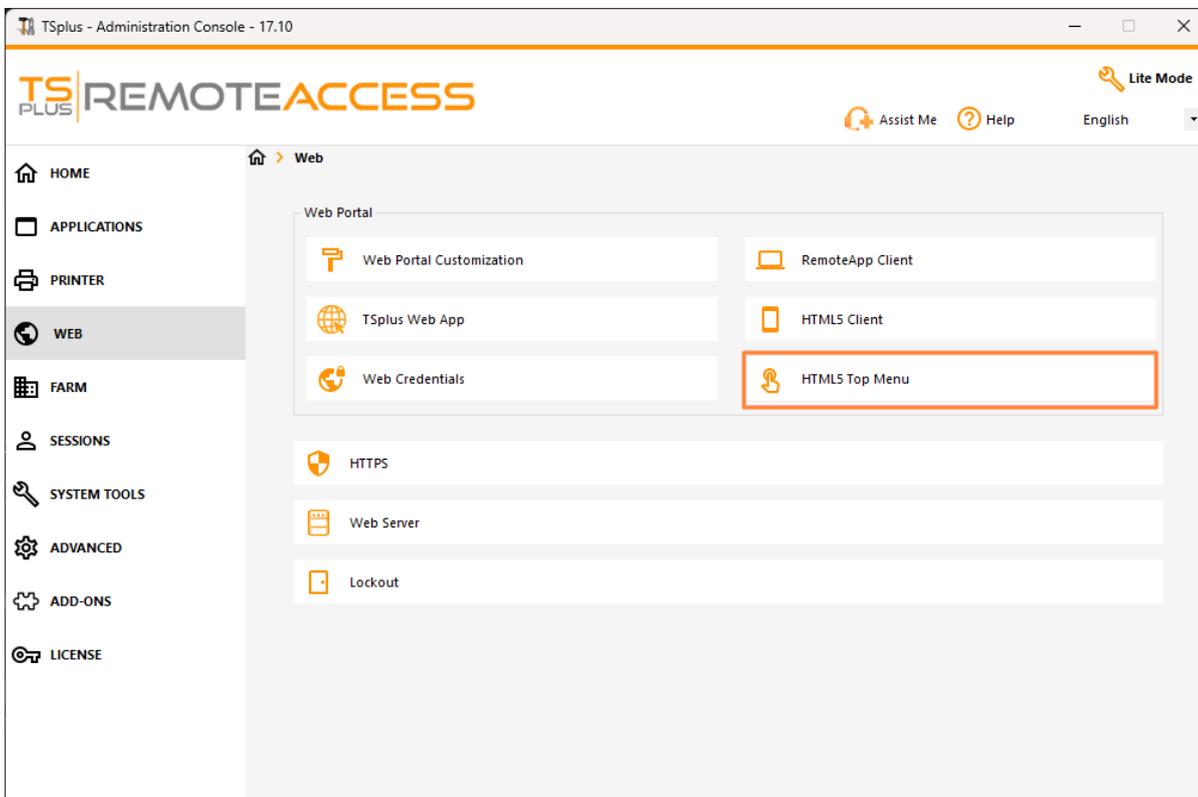
# HTML5クライアントタイトル



このタイトルでは、HTML5クライアントのウェブ表示のパラメータを編集できます。詳細については [このページ](#) .



## HTML5トップメニュータイトル



このタイトルでは、生成されたリモートウェブセッションのトップメニューのレベル1または2に表示するアプリケーションを選択できます。また、特定のクライアントタイプ ( pc、mobile、

iosなど ) に表示されるように、これらのアプリケーションを編集することもできます。

